

B地点2次調査区西、グリッドK-20<21に位置する。北で312号住居跡を削平し、北西で310号住居跡と重複し、東で10号溝が削平するが溝の方が浅く攪乱もほとんどされておらず遺構の残存状態はよかった。

炉は奥の柱穴の間中央に、108×84cmの掘形に73×48cmの焼土がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに67・57・54・63cm、柱間は奥242・右212・前264・左210cm。主軸上前から72cmに深さ23cmの外傾する出入口ピット。右に50×46cm、深さ22cmと、32×48cm、深さ24cmの2つの貯蔵穴が縦に並ぶ。壁溝は前壁中央で128cm途切れる以外全周している。

出土遺物（第118図）13点の土器を図示した。1・2は小形の鉢の破片。3は碗で下半欠損。4～7は鉢で、上部に縄文を施し施文部以外面を赤彩している。胎土、色調等よく似ているが縄文の段数や赤彩の範囲がそれぞれ異なり別の個体として実測した。8は甕の底部。9は壺の底部で、外面を赤彩している。10は三角形のすかしがある台付鉢の破片。11は台付鉢の接合部で、脚内を除き赤彩している。12は高杯脚部。13は壺の胴部破片である。12の高杯脚部は本遺構に伴わない。

(285) 312号住居跡 第117図 図版41-4・5

主軸3.77m、直交3.6m以上、深さ0.43mの小判形で、主軸方位は西に40度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドKL-21に位置する。北東で313号住居跡を削平し、南で311号住居跡が削平する。遺構の南西が311号住居跡に大きく削平されている。

炉は奥壁から50cmに102×82cmの掘形に88×56cmの焼土がある。前壁から50cmに深さ15cmの外傾する出入口ピット。右に32×35cm、深さ9cmの貯蔵穴がある。壁溝は右壁で160cm確認した。

出土遺物（第118図）3点の土器を図示した。1は底部を欠損するがほぼ完形の鉢で、折り返した口縁に縄文を施し、下を内外ともに赤彩している。2は甕で下部を欠損する。3は底部。1は貯蔵穴の北で出土している。

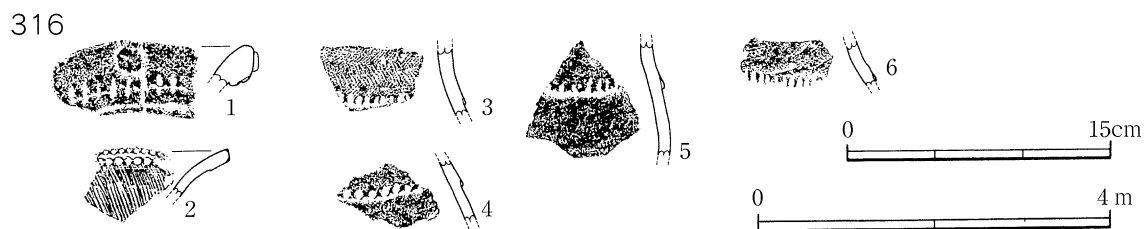
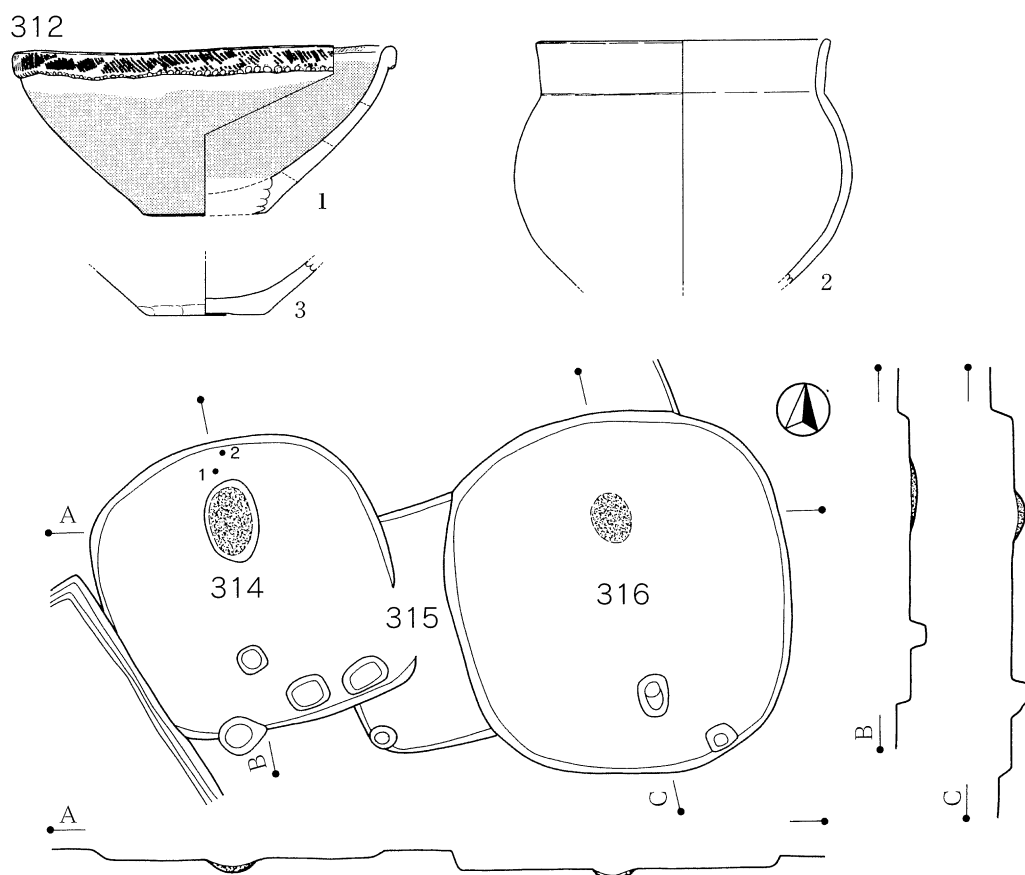
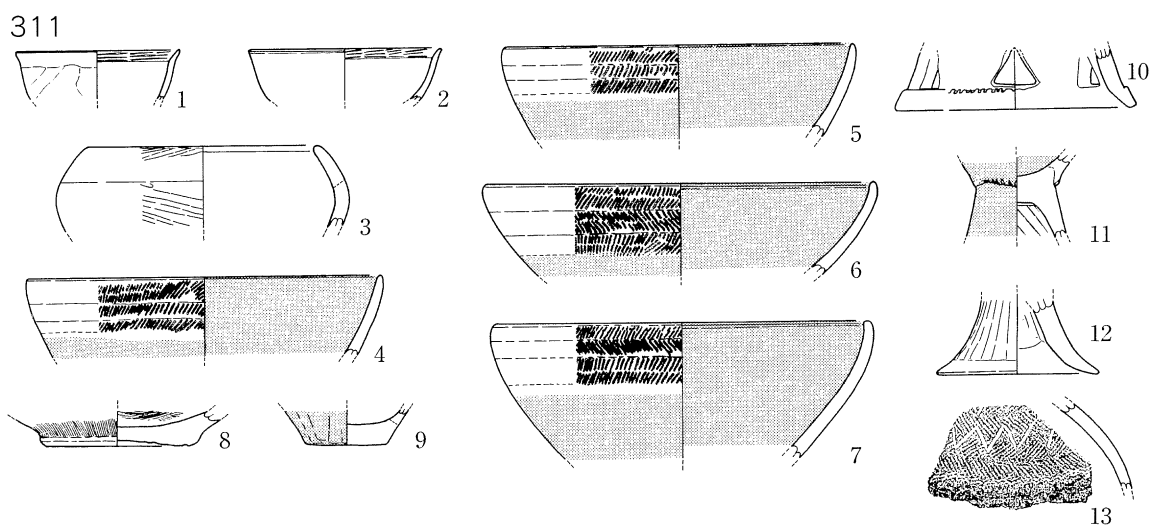
(286) 313号住居跡 第117図 図版41-5・6

主軸6.32m、直交5.58m、深さ0.35mの縦長の小判形で、主軸方位は西に30度を測る。

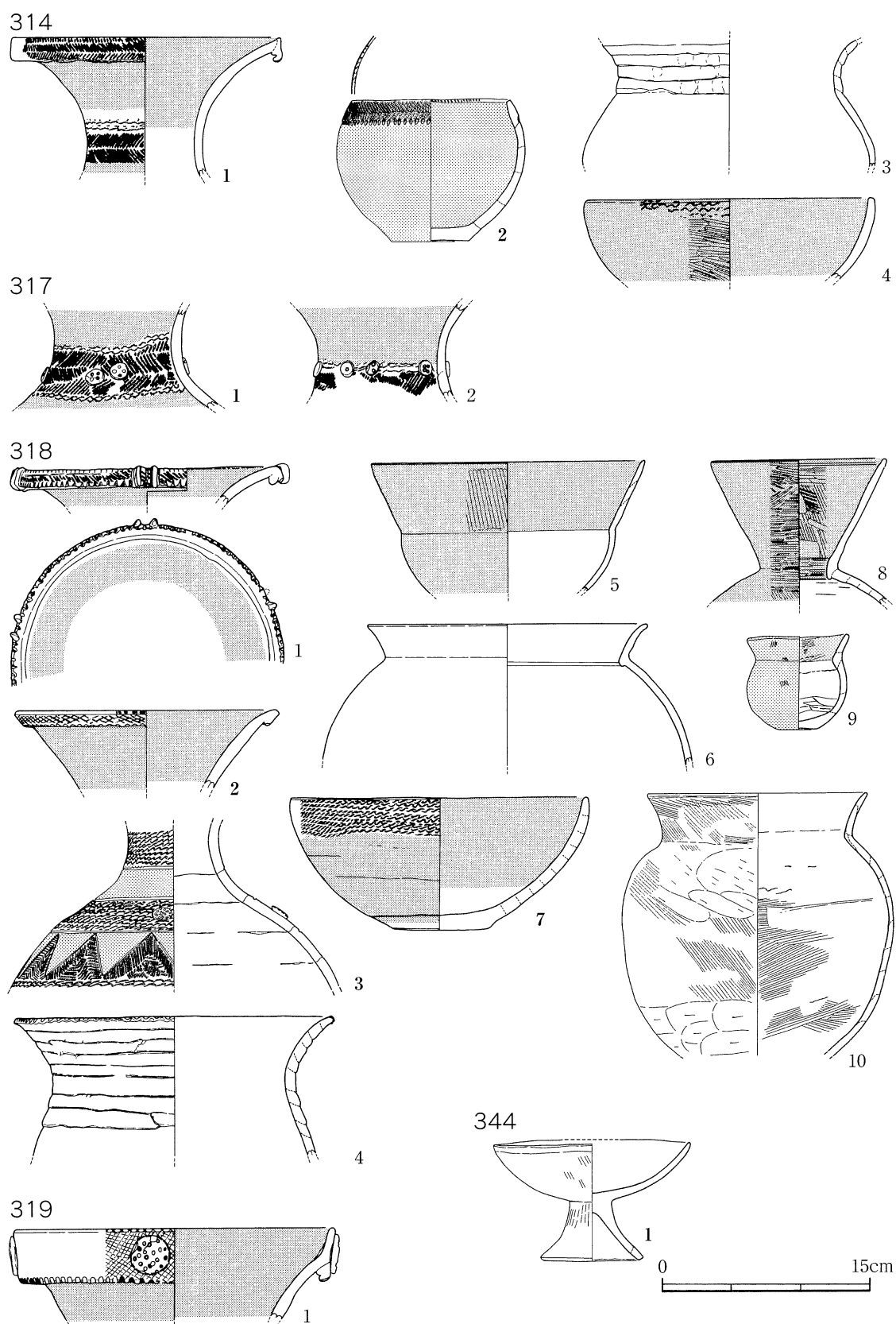
B地点2次調査区北、グリッドL-21に位置する。南西で312号住居跡が削平し、北東で322号住居跡が貼床し、南で10号溝、北で11号溝が削平する。攪乱溝や他の遺構との重複で床面や壁に一部不明な部分があるが遺構の全容はよく残っている。柱穴は全て建て替えられている。

炉は奥の柱穴の間中央に、110×82cm以上の掘形に74×52cm以上の焼土がある。柱穴は四本柱全てを検出した。横長の長方形に並ぶ、深さのそろったものが拡張前で、深さは左奥から右回りに54・60・62・48cm、柱間は奥305・右285・前304・左288cm。外に広げた拡張後が深さ30・23・27・38cm、柱間は奥340・右266・前334・左285cm。主軸上前壁から65cmに深さ26cmの外傾する出入口ピット、右に45×36cm、深さ19cmの貯蔵穴がある。壁溝その他の施設はない。

出土遺物（第117図）2点の土器を図示した。いずれも小片の拓本で遺物の量は少ない。1は口縁部破片。2は壺胴部破片である。



第118図 314~316号住居跡と311・312・316号住居跡出土土器



第119図 314・317~319・344号住居跡出土土器

(287) 314号住居跡 第118図 図版41-7

主軸3.46m、直交3.33m、深さ0.12mの小判形で、主軸方位は西に12度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドL-19>20に位置する。北東で315号住居跡と重複する。南西の壁を301号住居跡に削平される。

炉は主軸上奥壁から40cmに、96×63cmの掘形に77×52cmの焼土がある。柱穴はない。主軸上前から65cmに深さ18cmの出入口ピット、右に36×48cm、深さ11cm、34×54cm、深さ10cmの2基の貯蔵穴が横に並ぶ。壁溝その他の施設はない。前壁左寄り壁上に44×60cm、深さ25cmのピットがあるが遺構には伴わない。

出土遺物（第119図）4点の土器を図示した。1は折り返し口縁の壺で口縁を縄文、頸部を結節と縄文で施文し外面は施文部以外、内面は頸部から上を赤彩している。2は完形の深鉢で、口唇と口縁下に縄文を施し施文部以外の内外を赤彩している。3は甕で、上下欠損。4は鉢で下部欠損、口縁下に結節を施文後全体に横にヘラで磨いている。内外を赤彩している。炉の奥で1・2の土器が床面から出土している。

(288) 315号住居跡 第118図 図版41-8

主軸2.80m、直交1.6m以上、深さ0.09mの隅円方形で、主軸方位は西に20度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドLM-19>20に位置する。南西で314号住居跡、北東で316号住居跡と重複する。

東西を他の遺構に削平され、遺構中央のみの確認だったが炉・柱穴は確認できなかった。南西コーナーにある30×26cm、深さ21cmのピットが貯蔵穴の可能性がある。

(289) 316号住居跡 第118図 図版41-8

主軸4.26m、直交3.88m、深さ0.15mの縦長の楕円形で、主軸方位は西に17度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドM-19>20に位置する。南西で315号住居跡と重複する。他の遺構との重複はあるものの攪乱ではなく遺構の全容はよく残っている。

主軸上奥壁から90cmに57×47cmの炉がある。主軸上前壁から55cmに外傾する深さ27cmの出入口ピット。右に30×32cm、深さ22cmの貯蔵穴がある。壁溝その他の施設はなかった。

出土遺物（第118図）6点の土器を図示した。いずれも小片の拓本である。1は壺の口縁部で、ボタン状貼付がある。2は甕口縁部で肥厚した口唇に細かい刺突がある。3は壺の胴部で縄文と刻みがある。4～6は甕の胴部破片で頸部下の段に刻みがある。

(290) 317A号住居跡 第120図 図版42-2

主軸4.89m、直交3.90m、深さ0.27mの縦長の小判形で、主軸方位は西に29度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドL-20に位置する。北東で317B住居跡と重複する。南側の柱穴が建て替えられている。

炉は奥の柱穴の間に96×64cmの掘形に72×47cmの焼土がある。柱穴は四本柱全てを検出した。南東側は外に拡張されている。拡張前、深さは左奥から右回りに75・58・54・45cm。柱間は奥220・右

160・前184・左176cm。拡張後、右前35・左前38cm、柱間は右180・前208・左193cm。主軸上南壁から70cmに深さ20cmの出入口ピット。右に36×37cm、深さ15cmの貯蔵穴がある。壁溝はない。

出土遺物（第119図）2点の土器を図示した。1・2とも壺の頸部で、上下を結節で区画し、中を羽状縄文で埋め、2個一組のボタン状貼付をする。外は施文部以外を赤彩している。1は北西壁近くの床面から出土している。

(291) 317B号住居跡 第120図 図版42-2

主軸3m以上、直交2.7m以上、深さ0.18mの隅円方形で、主軸方位は西に87度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドL-20に位置する。317A号住居跡、北西の318号住居跡の上に造られているが貼床は軟弱で不明瞭だった。

317A号住居跡の炉の上に重なるように45×40cmの楕円形の炉がある。東壁際に32×48cm、深さ18cmの貯蔵穴がある。壁溝その他の施設は存在しない。

(292) 318号住居跡 第120図 図版42-3

主軸6.50m、直交5.86m、深さ0.20mの縦長の小判形で、主軸方位は西に23度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドLM-20<21に位置する。南西で317号住居跡新、南東で319・320号住居跡、北東で321号住居跡新と重複する。遺構の北西にはまりこむように344号住居跡がある。

炉は138×74cmの掘形に84×42cmの焼土がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに48・54・52・52cm、柱間は奥322・右306・前312・左302cm。壁溝その他の施設は存在しない。

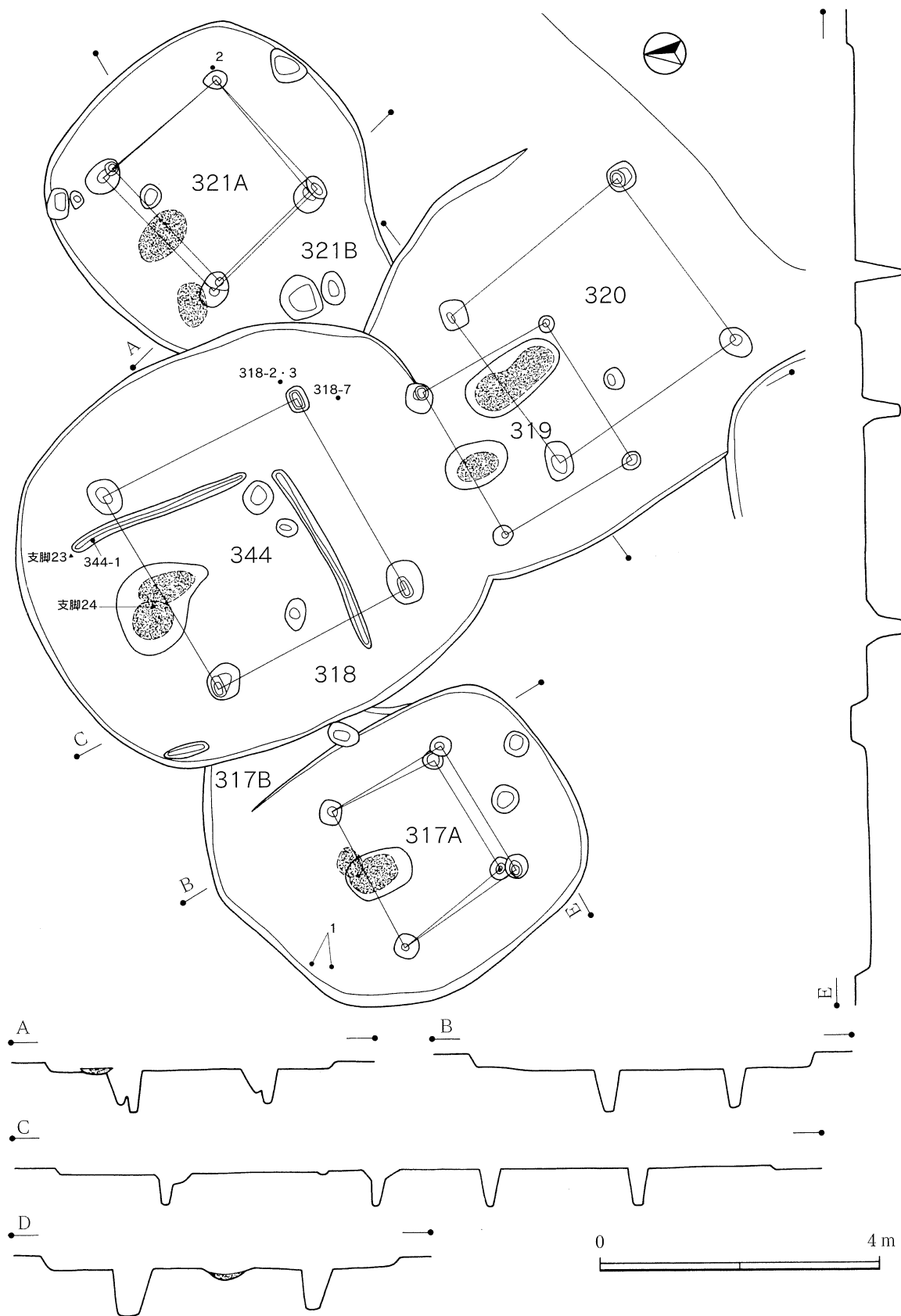
出土遺物（第119図）10点の土器を図示した。1は折り返し口縁の壺口縁部で、口縁に縄文と2本一組の棒状貼付が現状で3単位残っている。施文部以外は内外を赤彩している。2は折り返し口縁の壺口縁部で、口縁に撚り糸を施文している。施文部以外は内外を赤彩している。3は壺で上下を欠損している。頸部と胴上部を沈線で区画した中を結節で埋め、ボタン状貼付がある。下に鋸歯状の区画の中に結節がある。外面は施文部を除き赤彩している。4は甕で下半欠損。口縁に細かい刻みを付け、輪積み痕を8段残す。5は底部欠損の埴で、胴内を除き赤彩。6は甕で下半欠損。7は完形の鉢で、口縁下に結節を施し、内面底部近くを除き内外を赤彩。8は埴の上半で、胴内を除き赤彩。9は完形の小型壺で、胴内を除き赤彩。10は甕で底部欠損。これらの土器のうち本遺構に伴うのは1～4、7の5点で他は重複する344号住居跡の遺物である。右前の柱穴の東脇で2・3の壺が出土している。出土状況から同一個体の可能性もあるが間が離れ接合しない。同じ柱穴の南で7の鉢が出土している。

(293) 319号住居跡 第120図 図版42-4

主軸3.2m以上、直交3.3m以上、深さ0.20mの小判形で、主軸方位は西に26度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドM-20に位置する。東で320号住居跡、西で318号住居跡と重複する。重複のため遺構の輪郭は、南西壁以外不明である。

炉は94×64の掘形に62×38cmの焼土がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに53・52・52・53cm、柱間は奥238・右204・前232・左210cm。炉から170cmに深さ19cmの出入口



第120図 317A・B～321A・B・344号住居跡

ピットがある。貯蔵穴・壁溝等は存在しない。

出土遺物（第119図）折り返し口縁の壺で、口縁を撚り糸で施文し、上下に刻みを付ける。さらにボタン状貼付をする。施文後貼付をしたためボタンが取れた跡に撚り糸が残り、窪んでいる。施文部以外は内外を赤彩している。

(294) 320号住居跡 第120図 図版42-4

主軸5m以上、直交5.40m、深さ0.17mの小判形で、主軸方位は西に33度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドM-20に位置する。西で318・319号住居跡と重複する。南東側は土取による削平で確認できない。319号住居跡との重複のため現状の遺構の壁が必ずしも本遺構の輪郭とは限らない。

炉は148×75cmの掘形に130×52cmの焼土がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに70・62・61・63cm、柱間は奥264・右310・前286・左310cm。貯蔵穴・壁溝等は存在しない。

(295) 321A号住居跡 第120図 図版42-5

主軸4.45m、直交3.6m以上、深さ0.09mの小判形で、主軸方位は西に38度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドM-20>21に位置する。柱穴を外に拡張して建て替えている。南西側は321B号住居跡によって輪郭等が不明になっている。

炉は84×53cmの楕円形。奥の柱穴の間わずかに左に寄っている。柱穴は四本柱全てを検出した。建て替え前、深さは左奥から右回りに61・67・65・51cm、柱間は奥224・右192・前212・左180cm。建て替え後、深さ51・54・65・35cm、柱間は奥230・右212・前218・左208cm。前壁右寄りに42×58cm、深さ17cmの貯蔵穴がある。壁溝その他の施設はない。

出土遺物（第121図）3点の土器を図示した。1は深鉢で下半欠損、口縁下に縄文と刻みを施す。施文部以外は内外を赤彩している。2は甕で小波状の口縁は1段肥厚し、胴上部も厚くなり押圧がある。3は壺の下半である。右前の柱穴脇で2の甕が出土している。

(296) 321B号住居跡 第120図 図版42-5

321A号住居跡の左奥の柱穴脇に炉があり318・320号住居跡近くに床があることから住居跡とする。

主軸方位は西に117度を測る。B地点2次調査区北、グリッドM-20>21に位置する。

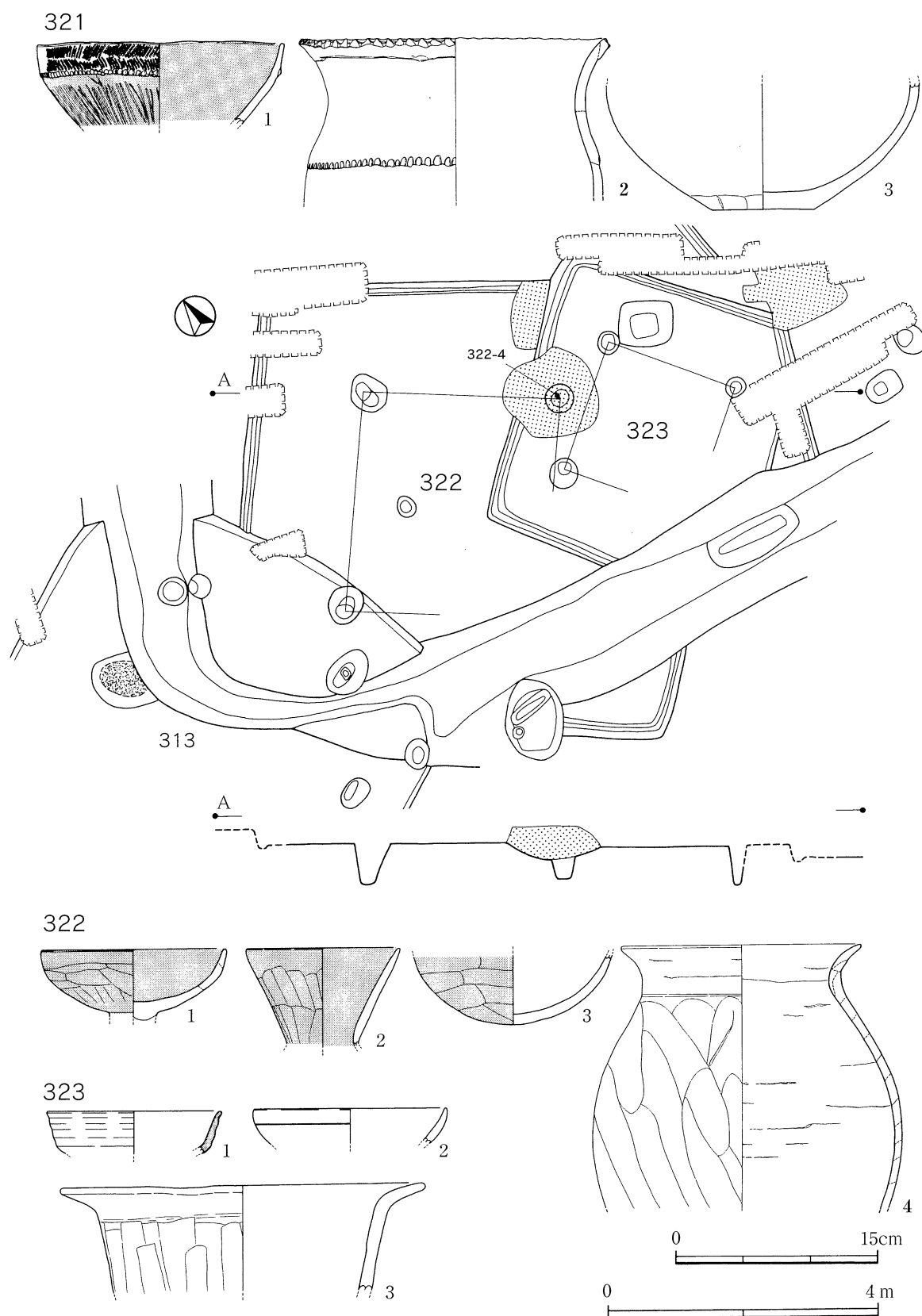
炉と南側の床面、321A号住居跡に含まれない柱穴から復元した。炉は62×40cmの楕円形で、炉の東の321A号住居跡北コーナーにある3基のピットは出入口ピット、貯蔵穴と考えられる。主軸方位は出入口ピットと炉から計測した。

(297) 344号住居跡 第120図 図版42-3

主軸3.76m、直交3.58m、深さ0.30mの隅円方形で、主軸方位は西に19度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドLM-20>21に位置する。318号住居跡内に造られ床面のレベルもほぼ同一だが318号住居跡の床は荒らされていない。

炉は100×85cm以上の掘形に75×52cmの焼土がある。南西寄りに深さ21cmのピット。南東コーナ



第121図 322・323号住居跡と321～323号住居跡出土土器

一に30×32cm、深さ24cm、46×42cm、深さ36cmの貯蔵穴が並列している。壁溝は、部分的に確認できなかったが、本来は全周していたと思われる。

出土遺物（第119図）高杯が本遺構の遺物として取り上げられているが、318号住居跡5・6・8～10も本遺構に伴う遺物である。北東の壁溝上で1の高杯が出土している。

土器以外の遺物として第143図23・24の土製支脚が出土している。23は北東コーナーと考えられる部分で、24は炉上で検出され同一個体だが接合しない。

(298) 322号住居跡 第121図 図版43-2

主軸6.75m、直交6.72m、深さ0.25mの方形で、主軸方位は東に39度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドLM-21に位置する。南西で313号住居跡に貼床し、東を323号住居跡、南を11号溝が削平する。

カマド（第141図）は北東壁右寄りに造られ323号住居跡に半分削平される。柱穴は四本柱の3本を検出した。右奥は323号住居跡カマド下で検出。右前は11号溝に削平される。深さは左奥から右回りに60・55・63cm、柱間は奥292・左336cm。322号住居跡内で右奥コーナーに当たる位置に68×82cm、深さ73cmの隅円方形の貯蔵穴がある。壁溝は壁確認部分で全周する。

出土遺物（第121図）4点の土器を図示した。1は高杯杯部で、内外を赤彩。2は埴の口縁部で、内外を赤彩。3は埴の丸底の底部で、外を赤彩している。4の甕は右奥柱穴内部から出土しているが、土層断面（第141図2）から重複する323号住居跡カマド構築の際に入れたものの可能性が高い。

(299) 323号住居跡 第121図 図版43-3

主軸3.86m、直交4.33m、深さ0.32mの方形で、主軸方位は西に34度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドLM-21に位置する。北西で322号住居跡を削平し、南東を324号住居跡、南西を11号溝が削平する。攪乱溝の影響はあまり受けていないが11号溝により南コーナーは柱穴も含めて削平されている。

カマド（第141図）は北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱の3本を検出した。深さは左奥から右回りに60・47・58cm、柱間は奥200・右198cm。貯蔵穴等はなかった。壁溝は攪乱が多く残りの悪い南東壁を除き全周で確認した。

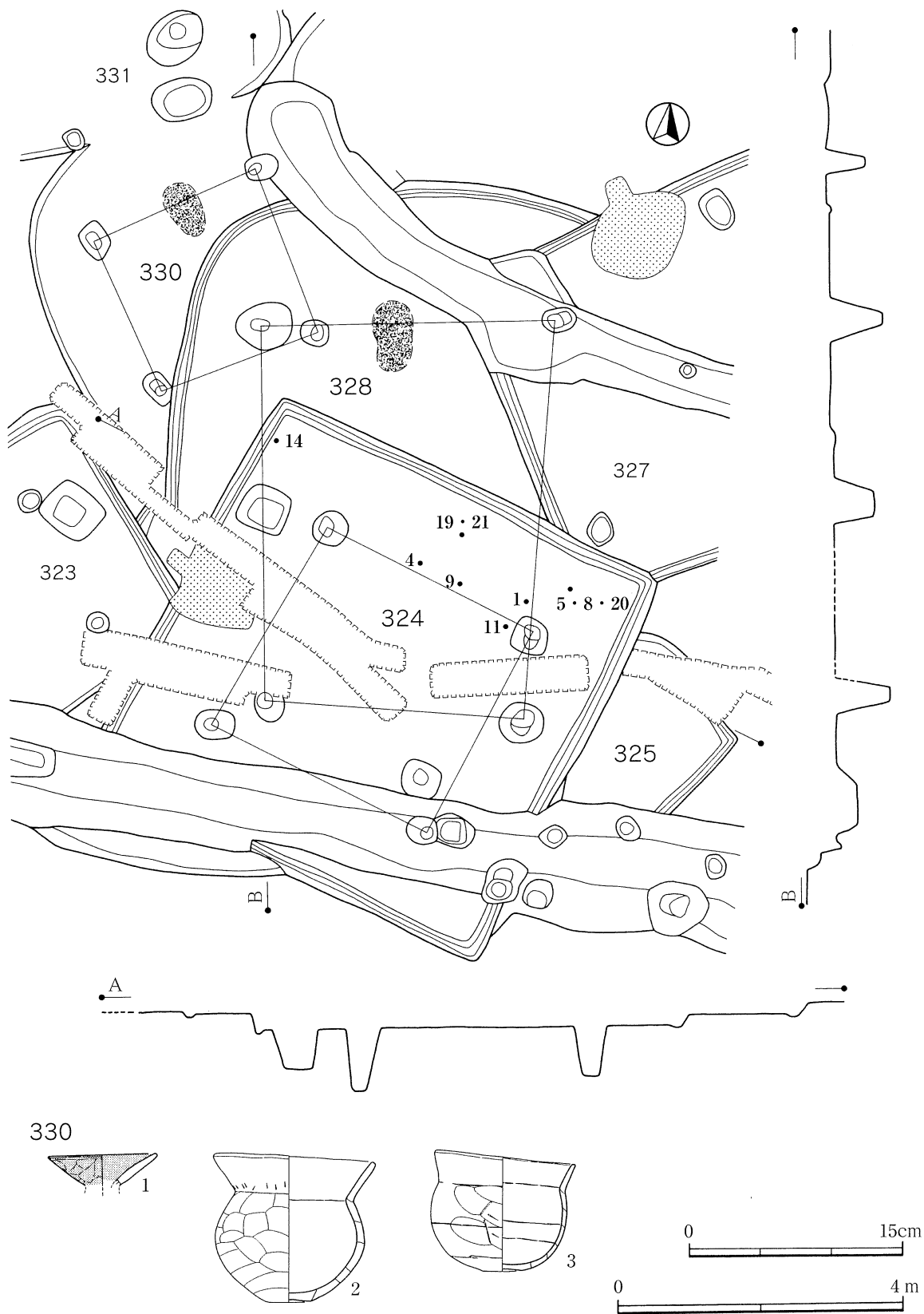
322号住居跡の右奥柱穴内部から甕が出土しているが、第141図に見られるように土器の入っている部分は柱穴と輪郭が異なり、本遺構のカマド構築の際に入れたものの可能性が高い。

出土遺物（第121図）3点の土器を図示した。1は須恵坏底部欠損。2は高杯杯部破片。3は甕で下部を欠損する。

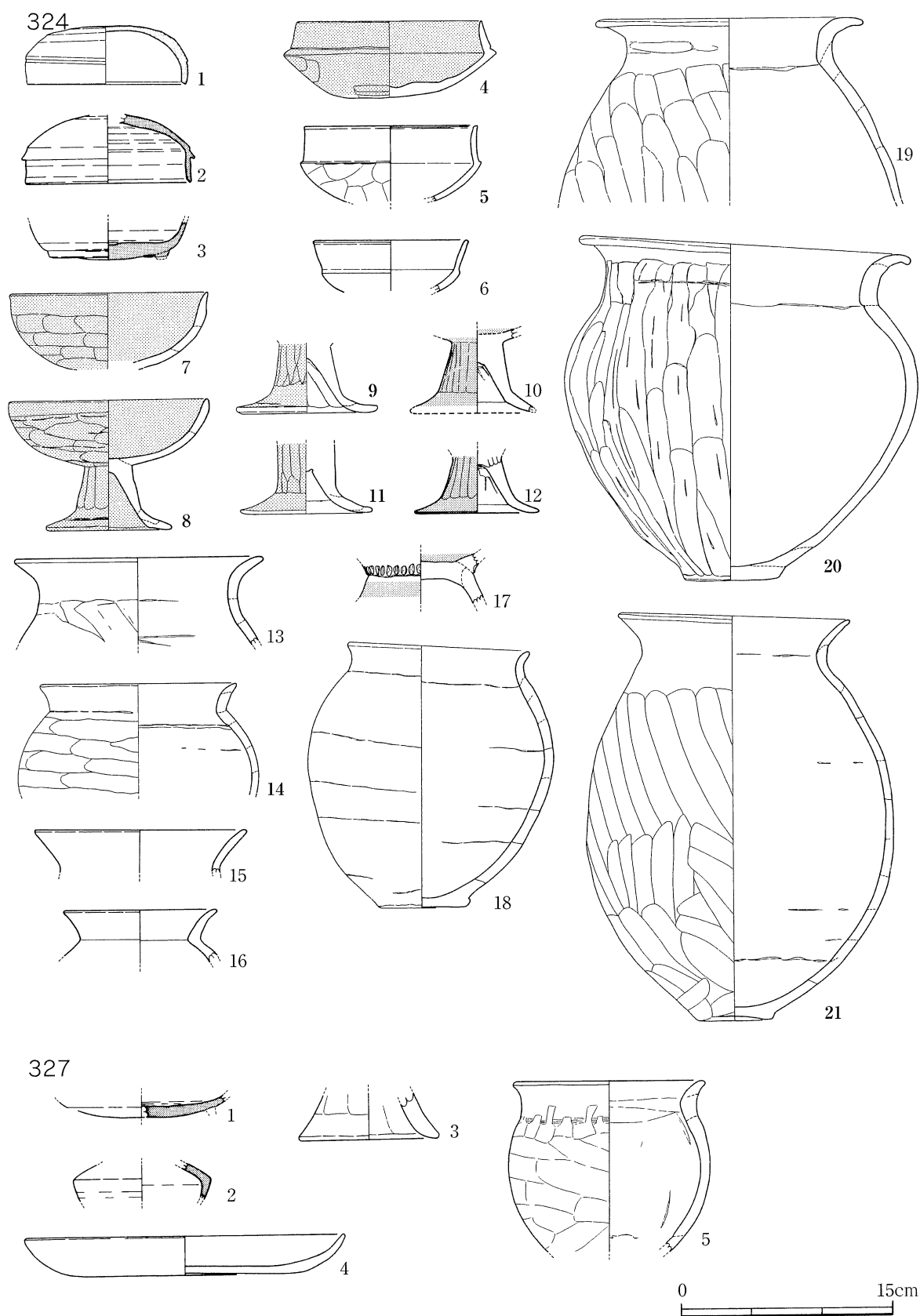
(300) 324号住居跡 第122図 図版43-4

主軸6.18m、直交6.07m、深さ0.50mの方形で、主軸方位は西に68度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドM-21に位置する。北で328号住居跡、西で323号住居跡を削平し、北で327号住居跡と重複する。南を11号溝が削平する。11号溝、攪乱溝によって各所を削平されている。



第122図 324・325・328・330号住居跡と330号住居跡出土土器



第123図 324・327号住居跡出土土器

カマド（第141図）は北西壁中央に造られ右袖は攪乱され残らない。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに88・88・69・99cm、柱間は奥322・右328・前317・左330cm。カマド右脇に70×60cm、深さ56cmの隅円方形の貯蔵穴がある。壁溝は壁残存部分で全周を確認した。

出土遺物（第123図）21点の土器を図示した。1は完形の須恵蓋坏。2は須恵蓋坏。3は須恵高台付坏の底部。4は完形の模倣坏で、内外を赤彩。5・6は模倣坏の破片。7は高杯杯部で、内外を赤彩。8は完形の高杯で、脚内を除き赤彩。9～12は高杯脚部で、外を赤彩。13～16・19は甕で下部欠損。17は台付鉢接合部で、内外を赤彩。18・20・21は完形の甕である。17は重複する328号住居跡の遺物の可能性が高い。

貯蔵穴右で14、右側柱穴中間で4・9・19・21、右前柱穴周辺で1・5・8・11・20が検出された。土器以外の遺物として第156図24の軽石が出土している。

(301) 325号住居跡 122図 図版43－4

1.5m以上×1.5m以上、深さ0.15mの方形

B地点2次調査区北、グリッドMN-21に位置する。西を324号住居跡、南を11号溝に削平される。他の遺構の削平を受けてコーナーの一部を検出したにとどまり、詳細は不明である。炉またはカマドは324号住居跡に削平され不明。柱穴等は確認できない。壁溝は南東壁下で確認した。

(302) 328号住居跡 第122図 図版43－5

主軸9.5m以上、直交5.7m以上、深さ0.25mの小判形で、主軸方位は西に5度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドM-21>22に位置する。西で330号住居跡と重複し、東を327号住居跡、南を324号住居跡、北を13号溝に削平される。他の遺構の削平を受け、攪乱も多く床面・壁は北西側の一部しか検出できなかった。

炉は100×58cmの楕円形で奥の柱穴の間左寄りにある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに75・73・58・63cm、柱間は奥410・右562・前356・左530cm。324号住居跡左前柱穴の北に52×58cm、深さ60cm、東に44×62cm、深さ108cmの2基の貯蔵穴がある。壁溝は壁の残るところで全周する。その他の施設は確認できない。

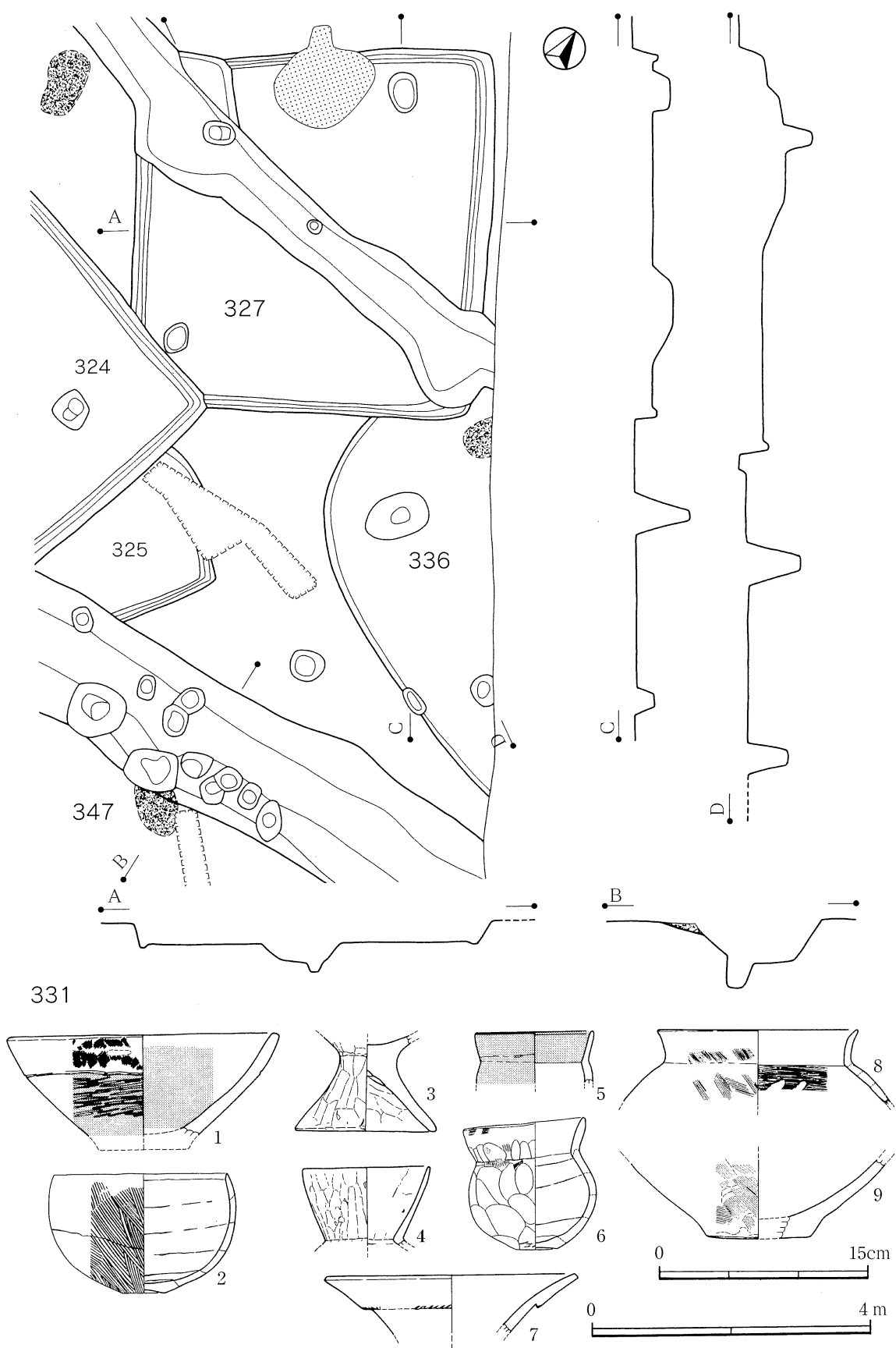
(303) 330号住居跡 第122図 図版43－4

主軸3.8m以上、直交3.9m以上、深さ0.22mの小判形で、主軸方位は西に26度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドM-21>22に位置する。南東で328号住居跡と重複、北西で331号住居跡、北東で13号溝に削平される。重複が激しく西壁の一部と炉・柱穴のみを確認した。

炉は85×48cmの楕円形。奥の柱穴の間わずかに右寄りにある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに60・75・61・53cm、柱間は奥250・右248・前238・左234cm。貯蔵穴、壁溝などの施設は確認できない。

出土遺物（第122図）3点の土器を図示した。1は器台器受部で、内外を赤彩している。2・3は完形の小型壺である。



第124図 327・336・347号住居跡と331号住居跡出土土器

(304) 327号住居跡 第124図 図版43-5・6

主軸5.33m、直交5.16m、深さ0.30mの方形で、主軸方位は西に26度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドMN-21<22に位置する。西で328号住居跡、東で336号住居跡を削平し、南を324号住居跡、中央を左奥から右前に斜めに13号溝が削平する。

カマド（第141図）は北西壁右寄りに造られる。遺構中央に深さ41cmの柱穴がある。類例をあまり知らないが一本のみの柱穴が考えられる。カマド右に58×40cm、深さ25cmの貯蔵穴がある。壁溝は全周する。南西コーナー近くに深さ30cmのピットがあるが性格は不明である。

出土遺物（第123図）5点の土器を図示した。1は須恵高台付坏の底部破片で、高台は剥離して失われている。2は須恵壺胴部破片。3は高杯脚部。4は完形の盤。5は小形甕で底部を欠損する。

土器以外の遺物として第152図27の砥石が出土している。

(305) 336号住居跡 第124図 図版43-6

主軸5.8m以上、直交3m以上、深さ0.12mの小判形で、主軸方位は西に55度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドN-21に位置する。北西を327号住居跡、北を13号溝が削平する。炉の一部を含め北東側半分以上が調査区域外にある。

炉は54×30cm以上で横長の楕円形になる。奥の柱穴の間より奥壁に寄っている。柱穴は左側の2本を検出した。深さ左奥76cm、左前59cm、柱間は278cm。南壁に小ピットがある。

(306) 347号住居跡 第124図 図版52-6

324号住居跡の東で11号溝に北側を削平された80cm以上×60cmの炉が検出された。床面などは確認できなかったが炉の形態から上部を削平された弥生時代の住居跡と判断した。

B地点2次調査区北、グリッドN-21に位置する。11号溝と重複する。

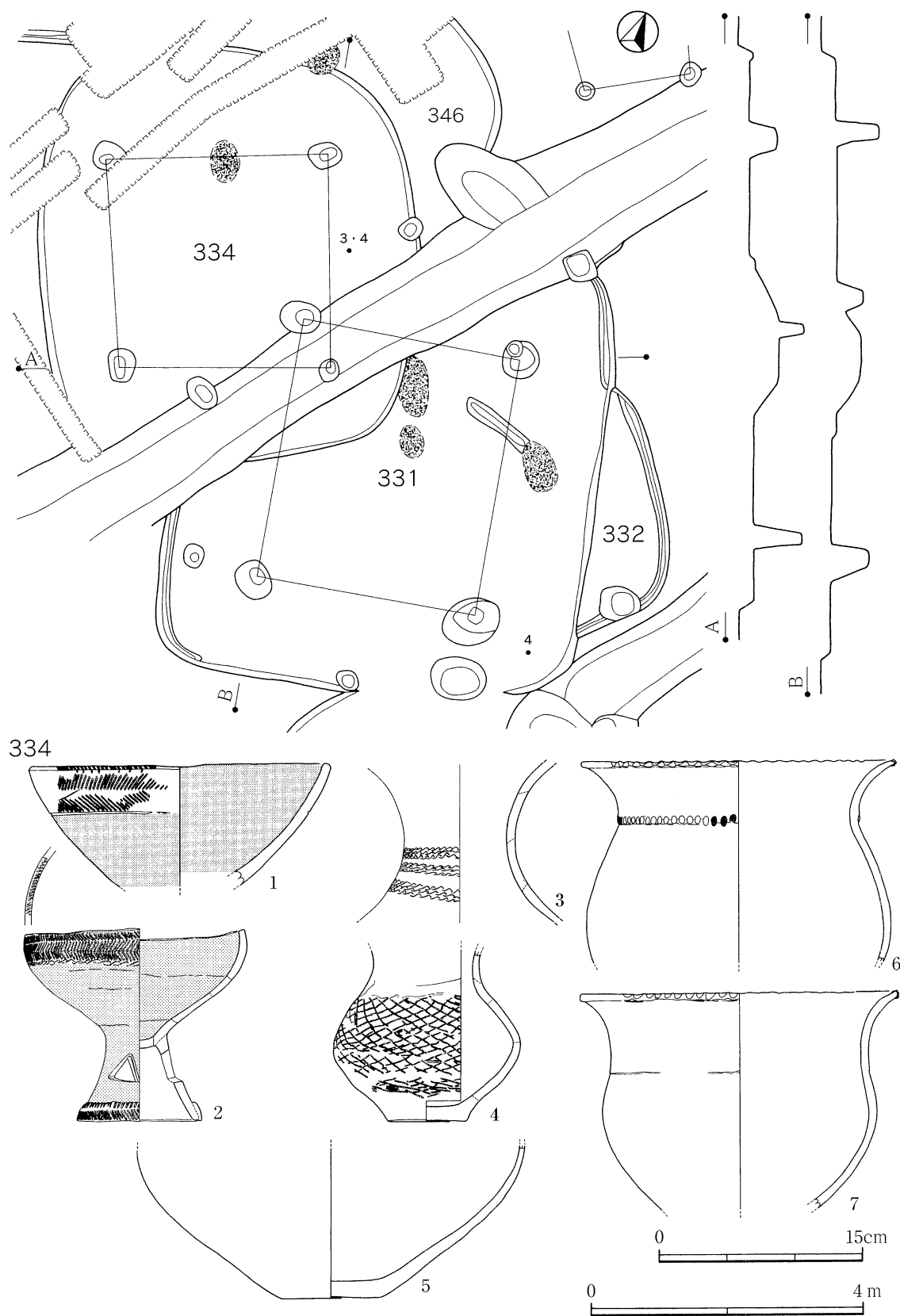
(307) 331号住居跡 第125図 図版44-2・3

主軸6.6m以上、直交6.28m、深さ0.15mの隅円方形で、主軸方位は西に17度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドLM-22に位置する。東で332号住居跡を削平し、14号溝が削平する。削平のため炉から北西側は確認できなかった。

炉は93×48cm、50×36cmのものが奥柱穴間やや右前に縦に2基並ぶ。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに46・39・69・55cm、柱間は奥314・右400・前324・左385cm。主軸上前壁に接して深さ28cmの出入口ピット。右に66×82cm、深さ20cmの貯蔵穴がある。壁溝は右壁奥、左壁から左前コーナーにかけての2カ所で確認した。重複する334号住居跡の方が遺構の形態、出土遺物から古いものになるが貼床は確認できなかった。

出土遺物（第124図）9点の土器を図示した。1は鉢で底部欠損、口縁下を沈線で区画して縄文を施す。施文部以外は内外を赤彩している。口縁近くは内外とも摩耗して赤彩が無くなっている。2は完形の碗。3は高杯脚部。4は埴の口縁部で南東コーナーで検出された。5は埴で下部を欠損し、胴内を除き赤彩している。6は完形の小形甕。7は折り返し口縁の壺口縁部。8は甕で下半欠損。9は甕底部。1・7は重複する332号住居跡の遺物であろう。



第125図 331・332・334号住居跡と334号住居跡出土土器

(308) 332号住居跡 第125図 図版44-2・3

主軸3.45m以上、直交1.9m以上、深さ0.10mの小判形で、主軸方位は西に42度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドM-22に位置する。南西を331号住居跡に削平される。

78×46cmの炉が前壁から200cm離れて331号住居跡床面で検出された。南東に50×60cm、深さ15cmの貯蔵穴がある。壁溝は検出部分北西端で遺構内で途切れていることから奥壁下にはなかった可能性もある。炉の奥から西に110cm壁溝状の溝がある。331号住居跡、332号住居跡のいずれに所属するかは不明瞭だが、炉の部分から発生することから本遺構に伴うものとする。

(309) 334号住居跡 第125図 図版44-4

主軸6.16m、直交5.57m、深さ0.21mの縦長の小判形で、主軸方位は西に29度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドL-22に位置する。東で331号住居跡・北で346号住居跡と重複し、西を341号住居跡、東を14号溝が削平する。北西部は攪乱溝が多い。

炉は64×43cmの楕円形で、奥2本の柱穴の間わずかに右に寄っている。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに63・64・73・72cm、柱間は奥324・右314・前314・左306cm。主軸から左にややずれて前壁から80cmに深さ66cmの出入口ピットがある。貯蔵穴・壁溝は確認されなかった。

出土遺物(第125・126図)9点の土器を図示した。1は口縁下を沈線で区画して縄文を施した鉢で、施文部以外は内外を赤彩する。2は完形の台付鉢で、口縁下に縄文と結節、脚端の折り返した部分に縄文と刻みを施す。脚内を除き内外を赤彩している。脚部に三角形のすかしが3カ所はある。3は壺の頸部で、3本一組の結節を3段に施す。4は壺で頸部以上欠損。撚り糸で3段に分けて施文している。5は壺底部。6～8は甕底部欠損。9は完形の甕。6は小波状の口縁と頸部の段に布による押圧がある。7は小波状の口縁と頸部はわずかに段が残る。8は小波状の口縁と頸部以上に輪積み痕を6段残す。9は小波状の口縁と頸部に段を残す。右側柱穴中間で、3・4が床面から検出されている。

(310) 337号住居跡 第126図 図版44-6・7

主軸5.25m、直交2.5m以上、深さ0.32mの隅円方形で、主軸方位は西に40度を測る。

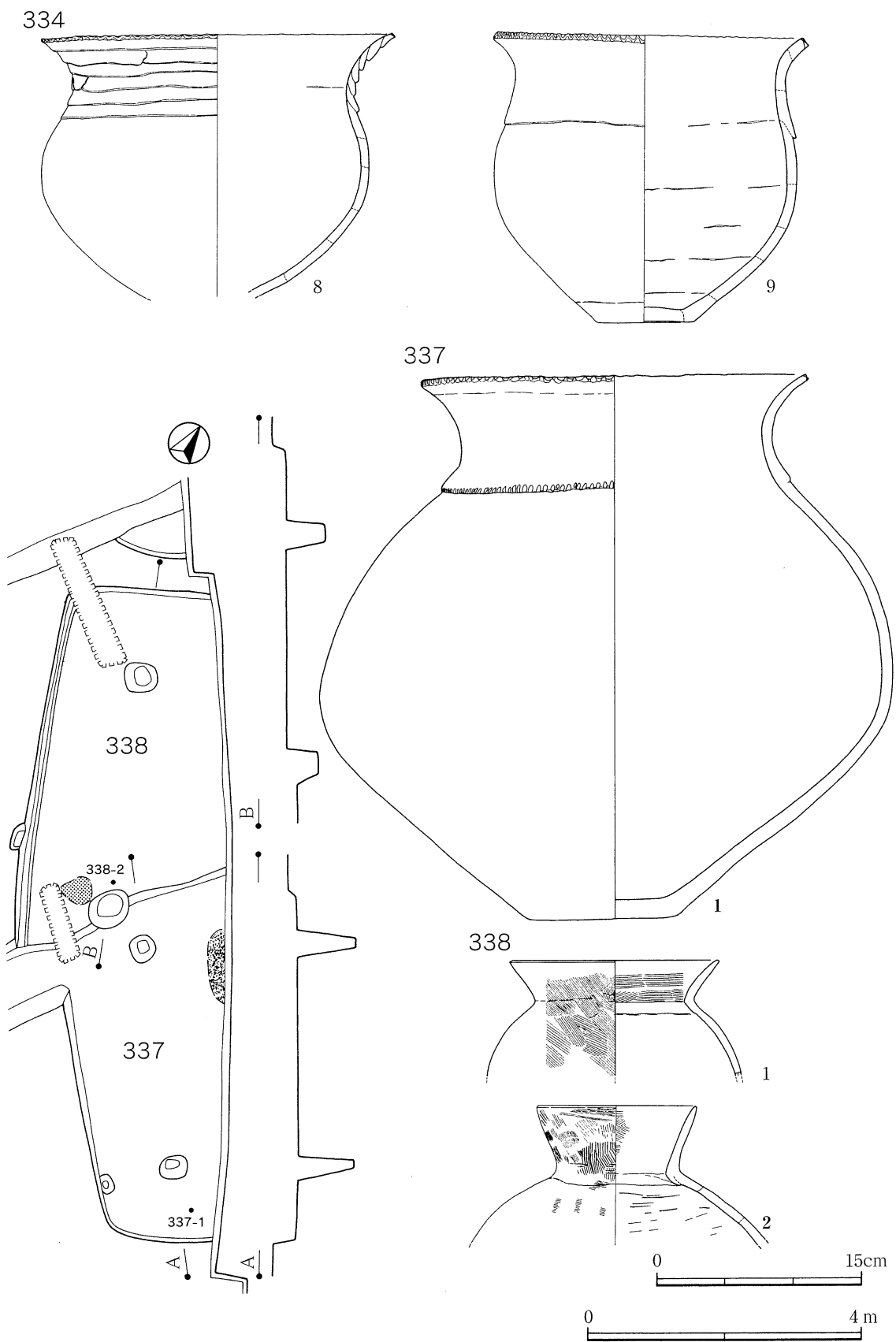
B地点2次調査区北、グリッドM-22に位置する。北西を338号住居跡、13号溝が削平する。遺構の北西半分が調査区域外にある。

炉は110×25cm以上、奥の柱穴間より手前に寄っている。大部分は調査範囲外に出る。柱穴は左側の2本を検出した。深さは左奥83cm、左前80cm、柱間は左320cm。貯蔵穴等は区域外で確認できなかった。壁溝は存在しない。

出土遺物(第126図)左前の柱穴と壁の間に大形の甕が一個体潰れた状態で検出された(図版44-7)。小波状の口縁と頸部に刻みがある。全高約40cm、最大径約44cmとB地点で検出された土器としては最大の大きさである。

(311) 338号住居跡 第126図 図版44-6

主軸5.4m以上、直交3.2m以上、深さ0.20mの隅円方形で、主軸方位は西に25度を測る。



第126図 337・338号住居跡と334・337・338号住居跡出土土器

B地点2次調査区北、グリッドM-22>23に位置する。南東で337号住居跡と重複し、13号溝に削平される。炉を含めて北東側の半分以上が調査区域外にある。

柱穴は左側の2本を検出した。深さは左奥57cm、左前46cm、柱間は左340cm。貯蔵穴等は区域外で確認できなかった。壁溝は左壁下で確認した。南西コーナーに40×45cmの焼土がある。

出土遺物（第126図）2点の土器を図示した。1は甕下半欠損。2は壺下半欠損。南コーナーで2の壺上半部が潰れた状態で検出された。

(312) 340号住居跡 第127図 図版44-8

主軸3m以上、直交2.5m以上、深さ0.06mの隅円方形で、主軸方位は西に28度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドK-22<23に位置する。北西で130号住居跡と重複し、北東を341号住居跡が削平する。1・2次調査にわたって検出したため遺構確認までの掘り下げ方の差で実測図の精度に差があり詳細がわかりにくい。

炉は80×48cmの楕円形である。遺構内に深さ17cm、40cmのピット2基がある。柱穴かは不明である。

出土遺物（第127図）埴の胴部で、外面を赤彩している。

(313) 341号住居跡 第127図 図版44-8

主軸3.72m、直交3.89m、深さ0.17mの方形で、主軸方位は西に27度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドKL-22>23に位置する。北西で130号住居跡、東で345号住居跡、南東で334号住居跡を削平する。遺構内に数本の大きな攪乱溝があり南東部は不明瞭になっている。

カマド（第141図）は北西壁中央に造られる。柱穴は柱穴は四本柱の内3本検出した。右前は攪乱溝で検出できなかった。深さは左奥から右回りに29・46・36cm、柱間は奥148・左182cm貯蔵穴は存在せず、壁溝は攪乱部以外全周で確認した。

出土遺物（第127図）甗の上半の破片である。

(314) 343号住居跡 第127図 図版44-4

B地点2次調査区北、グリッドL-23に位置する。南西で345号住居跡、南東で346号住居跡と重複する。

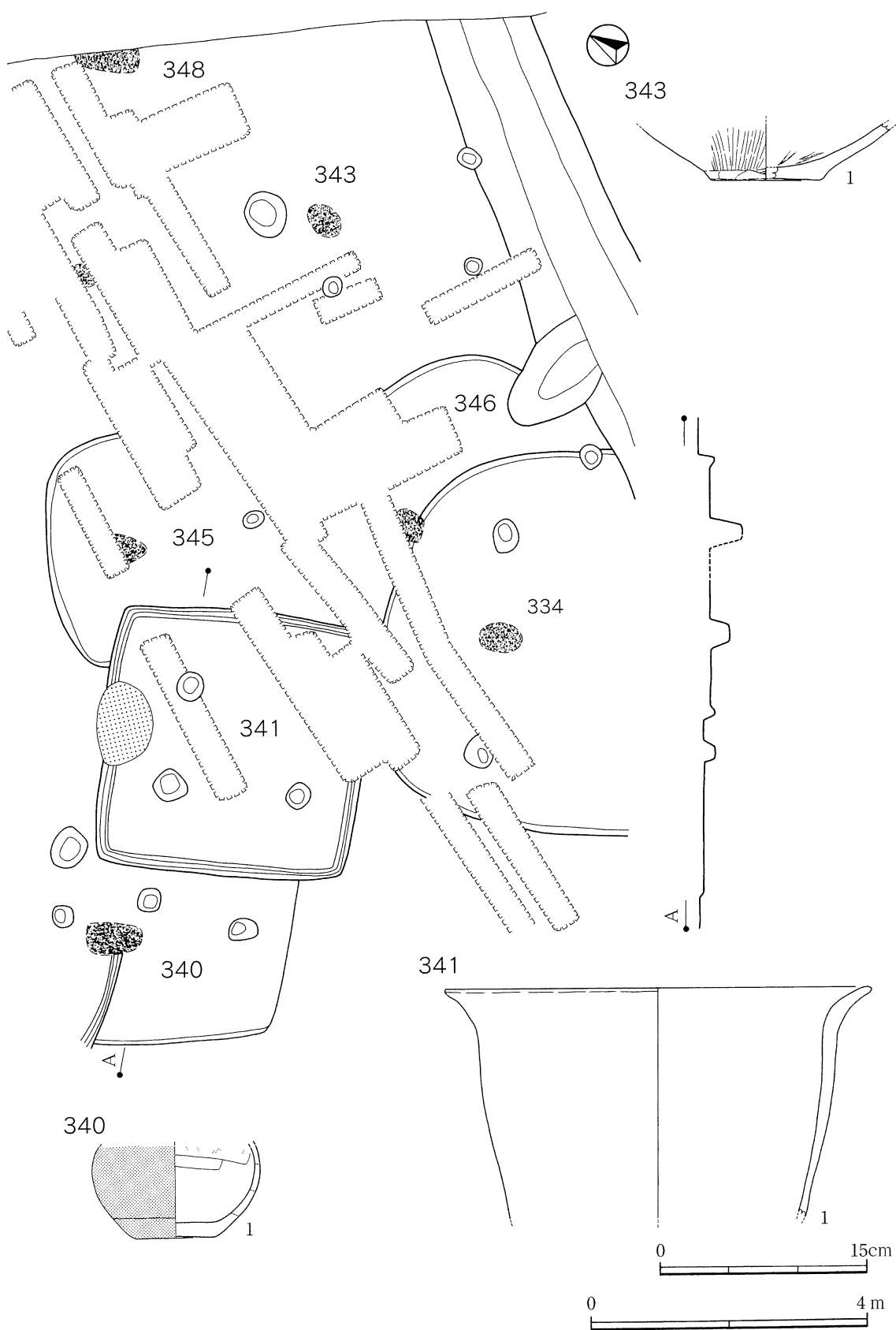
攪乱溝の集中している部分と14号溝に挟まれたところで炉とそれを取り囲むピットを検出した。全体に削平されており柱穴・炉のみの検出で規模は不明だが炉の形態と柱穴の配置からは弥生時代後期の遺構と考えられる。

炉は56×52cmの楕円形。3本の柱穴を検出した。右奥の柱穴は確認できなかった。深さは左奥から右回りに48・74・56cm、柱間は前156・左206cmを測る。

出土遺物（第127図）甕の底部破片である。

(315) 345号住居跡 第127図 図版44-8

主軸3.7m以上、直交3.4m以上、深さ0.20mの小判形で、主軸方位は西に38度を測る。



第127図 340・341・343・345・346・348号住居跡と340・341・343号住居跡出土土器

B地点2次調査区北、グリッドL-23に位置する。北東で343号住居跡と重複し、南を341号住居跡に削平される。奥壁と炉、ピット1基、床の一部を確認したが南東側は攪乱溝が多くその他の施設は確認できなかった。

炉は50cm以上×40cmの楕円形。奥を攪乱溝が削平する。炉から150cmに深さ28cmの出入口ピットがある。壁溝は存在しない。

(316) 346号住居跡 第127図 図版44-4

直径3.00m、深さ0.08mの円形。主軸方位は西に52度を測る。

B地点2次調査区北、グリッドL-22<23に位置する。北西で343号住居跡と重複し、南を334号住居跡、東を14号溝に削平される。

334号住居跡の北壁に炉があり北東側にわずかに壁が確認できた。多くの攪乱溝と住居跡・溝に挟まれた状態で詳細は不明瞭である。20cm以上×40cmの炉と334号住居跡北東壁にある貯蔵穴と考えられるピットを確認した。壁溝は存在しない。

(317) 348号住居跡 第127図 図版44-4

B地点2次調査区北、グリッドL-23に位置する。

他の遺構との重複はない。調査区の北側に95cm以上×45cm以上の炉が検出された。北東部は調査区域外で確認できなかった。周囲は攪乱溝が多く、削平が激しいために床の硬化面や柱穴などは検出されていないが、炉の形態から上部を削平された弥生時代の住居跡と判断した。

2 カマド

古墳時代中期後葉から古墳時代後期のカマドが附設されていると思われる住居跡114軒のうち92軒で91図92基を実測した。実測は縦横に十文字の断面図を作成し掘り上がりの平面図を作成するのを原則とし一部に一方向の断面しか実測しなかったもの、横方向を一本追加しているものがある。袖を取り除いた後については一部で平面を実測しているが大部分は図化していない。

ここでカマドの実測図を掲載し、構造、状態の説明を行う。カマドが調査区域外で未調査だったり、重複で完全に削平された、攪乱・重複でほとんど失われた、中央部を攪乱されたために土層の観察ができなかったなど、実測していないカマドについても分かる限りでの記述をしている。実測図にあった土層説明は紙面の都合で掲載しておらず、袖、天井、焼土、支脚にスクリーントーンを貼り区別し炭化物などの特徴的なものは文中で説明している。また法量、詳細な状態などは巻末に一括で表を掲載している。

(1) 001号住居跡カマド 第128図

東壁右寄りに造られる。右脇に貯蔵穴がある。カマド本体は奥行き130cm、幅105cm、高さ26cm。煙道は幅15cm、壁外に出ない。両袖中央部での間隔は36cm。カマド設置のための掘り込みは特にならず、奥壁に向けて斜めに土を盛り基礎にしている。右袖の壁から75cmの部分に甕を逆さに入れて補強材にしている。両袖内側は奥まで焼けている。天井の崩落より奥に焼土が厚く堆積し下には軟質の炭化物がある。天井の粘土はやや前に落ち、粘土の下は焼けている。カマド実測前に手前を掘りすぎしており、天井の粘土はわずかに残るのみだった。

(2) 002号住居跡カマド 第128図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き80cm、幅88cm、高さ46cm。煙道は幅30cmのU字形に壁外に30cm出る。両袖中央部での間隔は34cm。カマドの範囲から前に瓢箪形に掘り込み、カマド構築の基礎にしている。奥の窪みの前端に土製支脚を造り付けている。天井の崩落した粘土より奥に焼土が厚く堆積し下には軟質の炭化物がある。煙道奥には粘土を貼り付けている。左袖と天井の間に焼土がある。袖の内側はあまり焼けていない。天井は左袖で離れるが袖と一体になった状態を残して厚く粘土が残っている。下は焼けている。カマド実測前にカマドの形に掘り上げられており、土製支脚から手前の土層を観察することができなかった。

(3) 004号住居跡カマド 第128図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き60cm、幅103cm、高さ48cm。壁外に35cm張り出して造られる。煙道は幅30cmの台形に壁外に26cm出る。両袖中央部での間隔は40cm。壁外に出る部分も含め壁溝と一体に掘り込み浅く埋め戻し基礎にしている。カマド部分ほぼ全面に焼土が厚く堆積している。天井下に炭化物層がある。袖は張り出し部分から一体に造っている。左袖内側は全体によく焼け、右袖は先端部内側が焼けている。天井は中央部に厚く残るが、袖との間は粘土が残っていない。カマド内で坏が2点出土している。カマド実測前に手前を掘りすぎているため手前の土層は残されておらず、焼土の範囲や右袖はさらに前に延びていた可能性がある。

(4) 006号住居跡カマド (実測せず)

007号住居跡によって右が削平され左袖の一部が残っているだけだった。他の部分も残りが悪い。奥行き75cm、幅100cmの範囲で粘土混じりの土が広がり、煙道は壁外に出る。

(5) 007号住居跡カマド 第128図

北西壁わずかに右寄りに造られる。カマド本体は奥行き48cm、幅93cm、高さ20cm。煙道は幅40cmの三角形に壁外に20cm以上出る。先端は攪乱される。両袖中央部での間隔は47cm。壁溝と一体に掘り込み埋め戻し基礎にしている。埋め戻しの上面に炭化物層を挟み焼土が堆積している。煙道奥に粘土が敷いてある。天井はカマド内ほぼ全面に粘土が残っている。

(6) 009号住居跡カマド 第128図

北西壁中央に造られる。左袖は直線的で右袖は外にくの字に曲がる。カマド本体は奥行き110cm、幅93cm、高さ20cm。煙道は幅42cmの台形に20cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は52cm。壁溝がカマド下で90cm途切れ、左袖の付け根部分のロームを台形に掘り残している。楕円形に掘り込みほぼ平坦になるまで埋め戻し基礎にしている。煙道奥に粘土が敷いてありその上に焼土が厚く堆積している。袖から天井はカマド内ほぼ全面に粘土が残っている。煙道近くで下がよく焼けている。

(7) 010号住居跡カマド 第128図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き65cm、幅80cm、高さ16cm。煙道は幅24cmのU字形に25cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は40cm。壁溝を65cm掘り残し、袖取り付けのため右袖付け根部分を三角にロームを掘り残す。楕円形に掘り込み平坦に埋め戻し基礎にしている。掘り込み手前から10cmほどに横転して土製支脚が出土している。中央下層の炭化物上に焼土が堆積している。煙道奥まで粘土が敷いてある。土製支脚付近に坏が2点出土している。

(8) 011号住居跡カマド (実測せず)

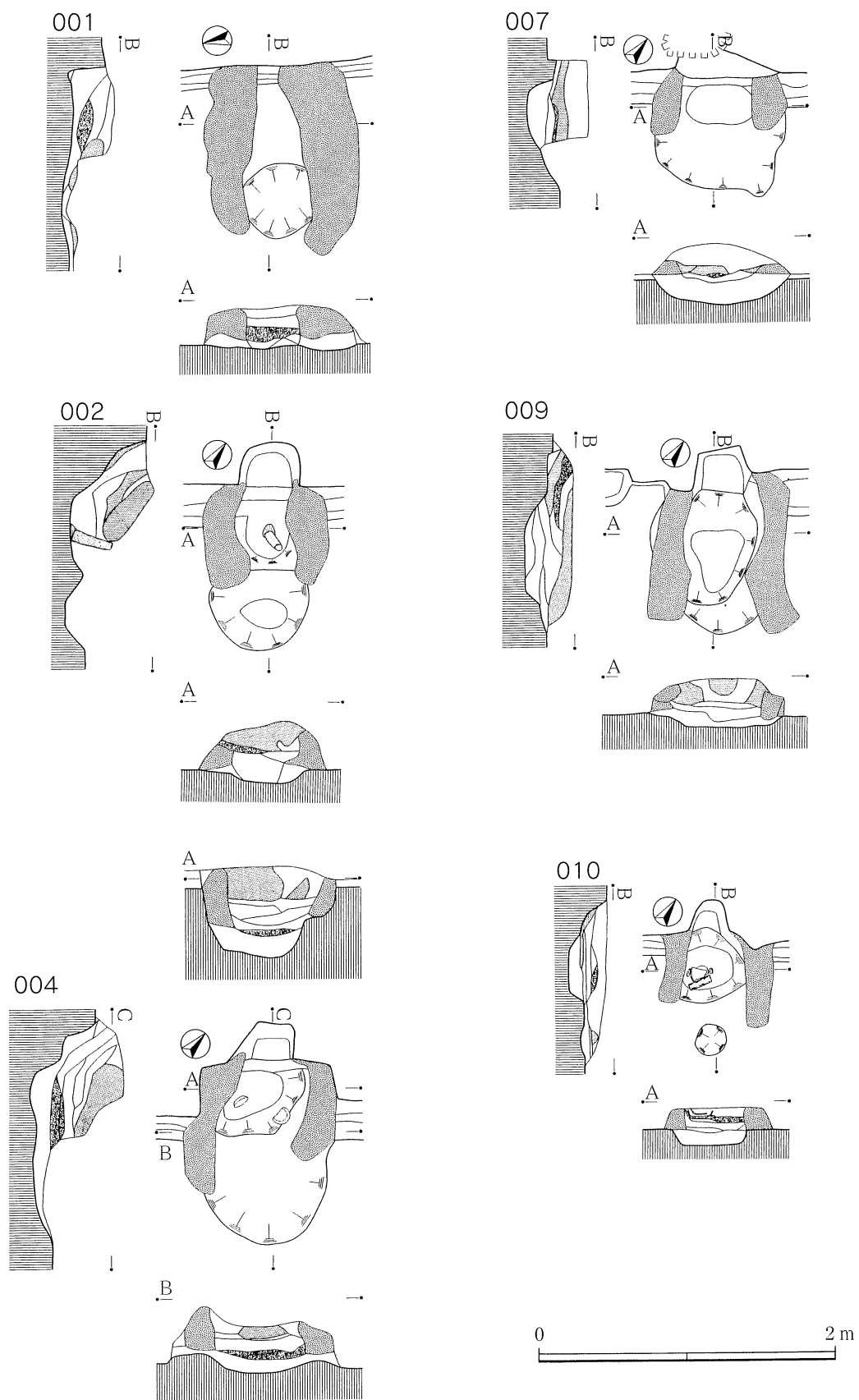
北西壁中央に造られる。奥行き145cm、右袖の手前を残し1号墳に大部分を破壊されている。

(9) 012号住居跡カマド 第129図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き35cm、幅87cm、高さ31cm。奥は壁外に10cm斜めに張り出して造られる。煙道は幅20cmの台形に20cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は48cm。両袖の付け根部分は壁を若干掘り込んで造られており、袖の粘土が壁外まで出ている。壁溝はカマドを挟んで110cm途切れる。この間を掘り込み埋め戻し基礎にしている。掘り込みの中央に炭化物層を挟み焼土が堆積している。煙道奥に粘土が敷いてある。左右袖の内側は焼けている。

(10) 015号住居跡カマド 第129図

北西壁中央に造られる。右袖の付け根付近に攪乱溝があり全体は残っていない。右袖が35cm長く壁に対して斜めになっている。カマド本体は奥行き78cm、幅65cm以上、高さ13cm。右側は攪乱さ



第128図 001・002・004・007・009・010号住居跡カマド

れる。煙道は幅26cmのU字形に20cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は32cm。カマド基礎は壁溝と一体に掘り込み埋め戻すが、前半分は実測前に掘りすぎている。カマド内に焼土はほとんど残っていない。右袖から続いて天井の粘土が残る。

(11) 016号住居跡カマド 第129図

北西壁わずかに右寄りに造られる。カマド本体は奥行き70cm、幅65cm、高さ24cm。煙道は幅32cmのU字形に25cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は42cm。カマドの幅で壁溝を65cm掘り残し、煙道も含め楕円形に掘り込み埋め戻し基礎にしている。カマド内はあまり焼けていない。煙道上部に焼土が残っている。煙道奥に粘土が敷いてある。遺構の規模に比べて貧弱なカマドで、両袖ともに幅が狭く造られている。

(12) 017号住居跡カマド (実測せず)

北西壁中央の攪乱溝周辺に粘土・焼土が散乱しており、床面も焼けていることからカマドとした。

(13) 018号住居跡カマド 第129図 4

西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き65cm、幅105cm、高さ9cm。煙道は幅36cmの三角形に30cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は40cm。煙道先端にピットがあり下を粘土で埋めている。カマド内に特に焼けた部分は残っていない。カマド奥から煙道上部に厚く焼土が残り、手前に灰が残る。袖の壁への取り付け部分は粘土がない。縦断面手前にさらに掘り込みがあり上から粘土・焼土・灰が堆積している。建て替え前のカマドの名残である。

(14) 019号住居跡カマド (実測せず)

北西壁左寄りに造られる。南側を1号墳が削平し、奥は020号住居跡覆土中に造られる。

(15) 021号住居跡カマド (実測せず)

遺構が浅く、1号方形周溝墓上に掛かって造られており、残りが悪く詳細は不明瞭である。

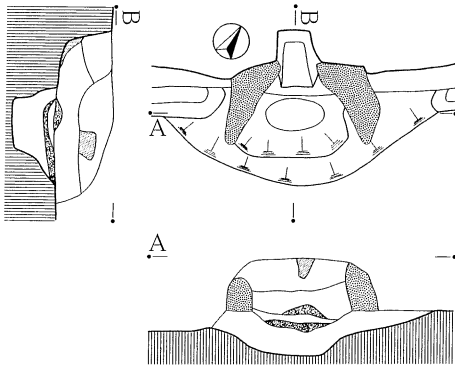
(16) 022号住居跡カマド 第129図

北西壁右寄りに造られる。カマド本体は奥行き65cm、幅84cm、高さ28cm。奥は壁外に左で15cm、右で5cm張り出して造られる。煙道は幅35cmの溝状に80cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は43cm。壁溝から一体に掘り込み埋め戻し基礎にしている。左袖先端に甕(第22図3)を補強として入れている。左袖に寄って火床の奥に支脚として高杯(第22図1・2)が伏せて据えられていた。カマド奥半分の掘り込みを埋め戻した直上に煉瓦状に焼けた焼土が残っている。崩落した天井の粘土が上に堆積している。右袖の内側は焼けている。天井は中央部に落ちてわずかに残っている。

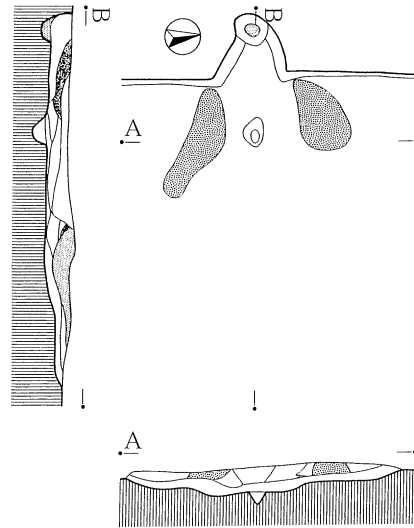
(17) 025号住居跡カマド 第129図

北東壁右寄りに造られる。右に貯蔵穴がある。カマド本体は奥行き95cm、幅95cm、高さ21cm。

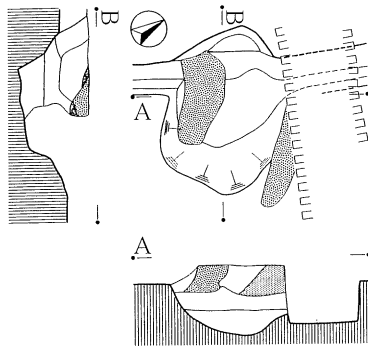
012



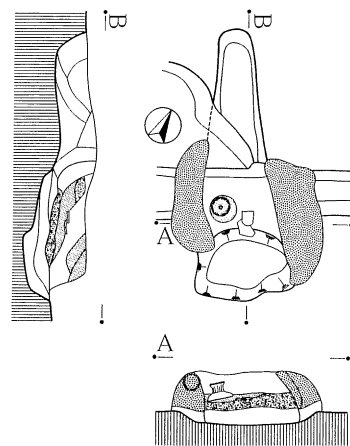
018



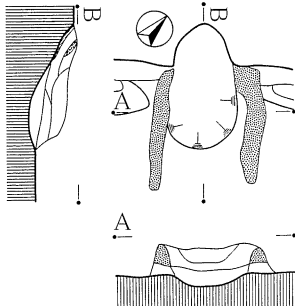
015



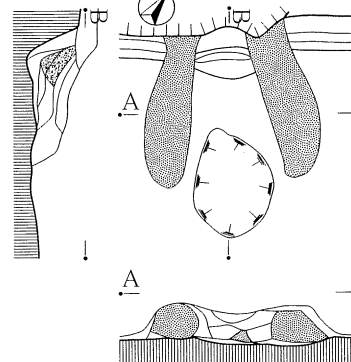
022



016



025



0 2 m

第129図 012・015・016・018・022・025号住居跡カマド

奥は攪乱があり壁外の様子は分からない。煙道幅22cm、両袖中央部での間隔52cm。壁溝はカマド下で変形している。カマド中央の断面図にかかる部分に粘土塊が置いてある。土製支脚の名残である。壁から50cm離れて楕円形に掘り込み、カマド範囲に薄く土を硬め基礎にしている。煙道部に焼土が厚く堆積して前に炭化物層がある。袖の壁への取り付け部分は炭化物混じりの土を使っている。

(18) 026号住居跡カマド 第130図

北東壁やや右寄りに造られる。カマド本体は奥行き55cm、幅70cm、高さ26cm。煙道は幅34cmで半円形に15cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は40cm。天井の粘土下に奥まで焼土が厚く堆積し下に炭化物層が同様に堆積する。煙道上下に粘土が敷いてある。左右袖の内側は焼けている。天井は粘土が厚く残りやや下に落ちた状態である。カマド内で割れた状態で甕が出土している。

(19) 027号住居跡カマド (実測せず)

カマドは北東壁やや左寄りに造られる。粘土混じりの焼土がカマドの痕跡である。

(20) 028号住居跡カマド (実測せず)

カマドは北東壁左寄りに造られている。カマド本体は奥行き90cm、幅97cm、高さ22cm。奥半分は2号溝に削平されている。

(21) 030号住居跡カマド 第130図

北東壁右に造られる。壁外に突出する煙道の半分から左袖を039号住居跡覆土中に造っている。カマドの右にコーナーを囲むように高さ5cmほどの土手状の施設が巡っている。カマド本体は奥行き70cm、幅98cm、高さ38cm。煙道は幅32cmで半円形に20cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は44cm。掘り残しの右で壁溝が途切れ、右袖付け根部分は袖の取り付けのためにローンを台形に掘り残している。楕円形に掘り込み埋め戻し基礎にしている。カマド内奥1/3ほどに焼土が厚く堆積している。煙道奥に粘土が敷いてある。袖は純度の高い粘土で造っている。左右袖の内側は焼けている。天井は右袖側半分ほどが残っている。

(22) 031号住居跡カマド (残存せず)

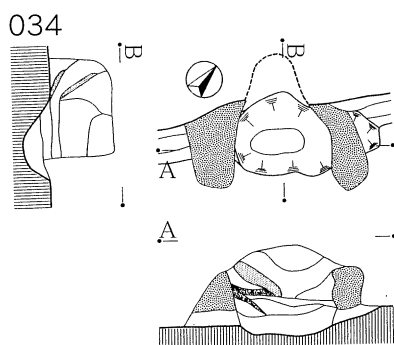
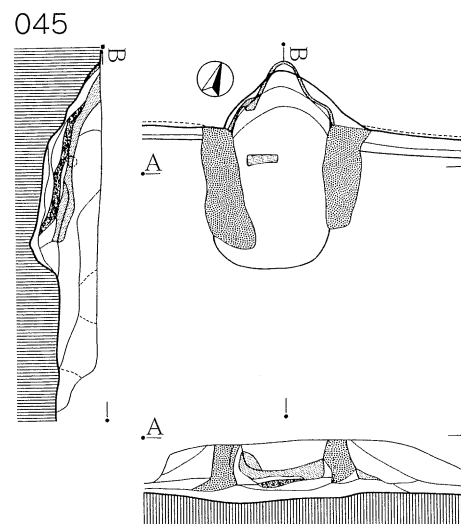
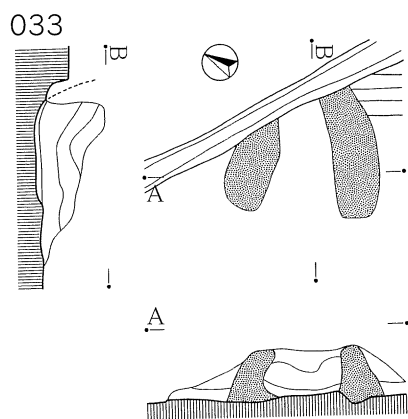
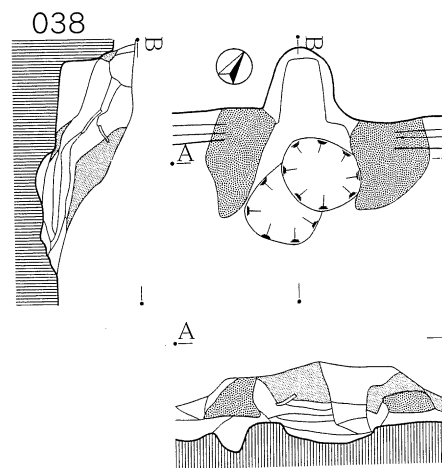
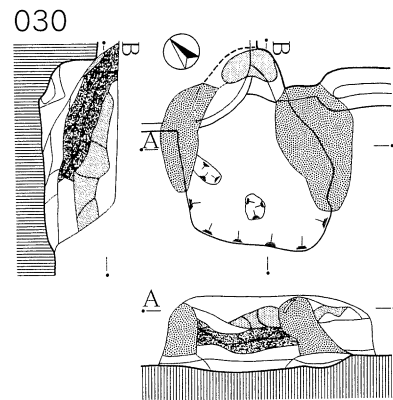
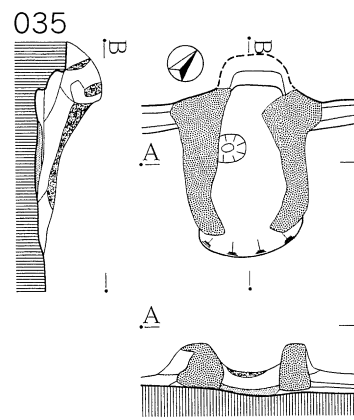
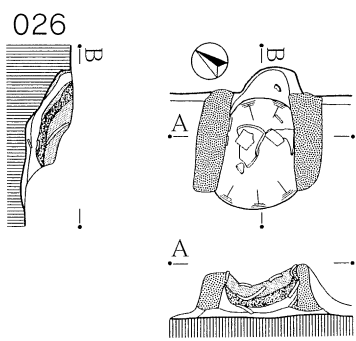
カマドは北東壁に造られ、030号住居跡に削平されたものと考えられる。

(23) 033号住居跡カマド 第130図

北東壁わずかに右寄りに造られる。カマド本体は奥行き80cm、幅88cm、高さ34cm。両袖中央部での間隔は34cm。煙道部と左袖奥は034号住居跡に削平されている。そのため奥の詳細は不明である。カマド内はほとんど粘土、焼土が残っていない。

(24) 034号住居跡カマド 第130図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き45cm、幅102cm、高さ33cm。奥は壁外に8cm斜めに



0 2 m

第130図 026・030・033・034・035・038・045号住居跡カマド

張り出して造られる。煙道は幅32cmでU字形に30cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は52cm。楕円形に掘り込み埋め戻し基礎になっている。左袖際に間に炭化物層を挟み焼土が2層堆積している。煙道奥上下に粘土が敷いてある。右袖の内側は焼けている。天井は左袖近くに残る。下は焼けている。

(25) 035号住居跡カマド 第130図

北西壁中央に造られる。煙道部は036号住居跡の覆土中に造られており、粘土、焼土でその範囲を捉えた。カマド本体は奥行き75cm、幅83cm、高さ33cm。奥は壁外に7cm斜めに張り出して造られる。煙道は幅26cmで台形に20cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は40cm。煙道部を含め壁溝と一体に掘り込み埋め戻し基礎になっている。天井のあった部分に焼土が厚く堆積する。手前に炭化物層。煙道上下に焼土が円筒状に残る。左右袖の内側は焼けている。

(26) 038号住居跡カマド 第130図

北西壁わずかに右寄りに造られる。カマド本体は奥行き60cm、幅128cm、高さ45cm。煙道は幅32cmでU字形に35cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は50cm。カマド下で壁溝を70cm掘り残し、壁から離れて楕円形が2つ重なるように掘り込みわずかに埋め戻し基礎になっている。炭化物層・灰層は残るが焼土は残っていない。煙道手前と奥に粘土が敷いてある。天井は右寄りの攪乱溝部分を除き厚く残っている。

(27) 042号住居跡カマド (調査区域外)

調査範囲の境界に粘土が残り、多量の土器とともに貯蔵穴を検出した。カマドは北東壁に造られているが調査できなかった。

(28) 043号住居跡カマド (調査区域外)

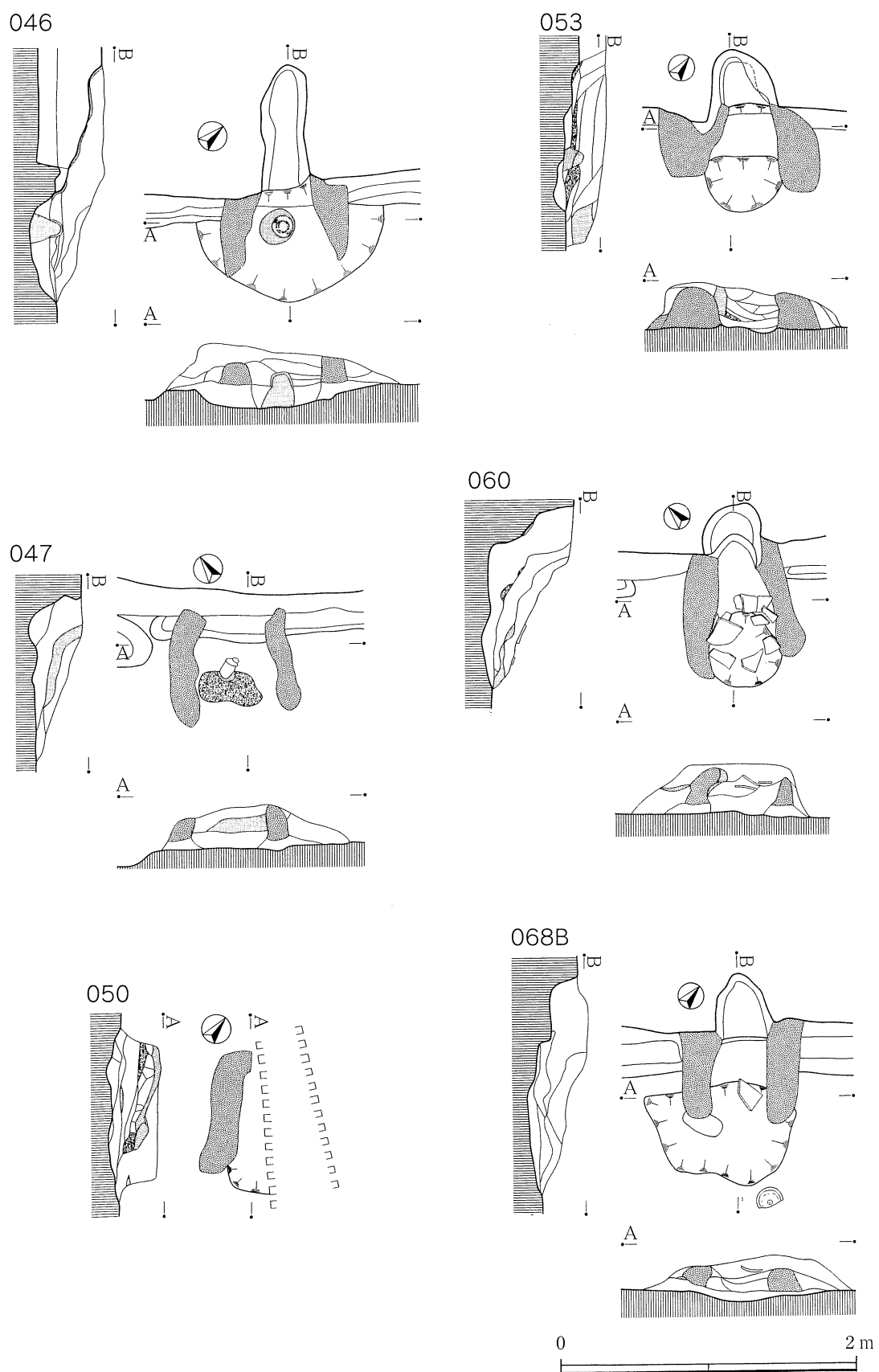
042号住居跡を削平する住居跡で、カマドは調査区域外にあると考えられ、どの壁に造られているかははっきりしないが北西壁中央だとすると袖の粘土の一部は調査範囲に出てくるのではないかと思われ、北東壁の可能性が強い。

(29) 045号住居跡カマド 第130図

北西壁わずかに右寄りに造られる。右に貯蔵穴がある。カマド本体は奥行き64cm、幅92cm、高さ27cm。奥は壁外に15cm斜めに張り出して造られる。煙道は幅34cmのU字形に20cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は44cm。大部分が049号住居跡覆土中に造られている。煙道を含め楕円形に掘り込み埋め戻し基礎になっている。土製支脚が落下した天井の粘土の中から出土している。埋め戻し上に炭化物層を挟み焼土が堆積している。カマド奥の輪郭のままに煙道の縁に焼粘土が残る。左右袖の内側は焼けている。天井は煙道から焼土の上まで薄い全体に残っている。

(30) 046号住居跡カマド 第131図

北西壁右寄りに造られる。壁外に突出する煙道は199号住居跡覆土中に造られる。カマド本体は奥



第131図 046・047・050・053・060・068B号住居跡カマド

行き70cm、幅88cm、高さ32cm。奥は壁外に5cm斜めに張り出して造られる。煙道は幅32cmで溝状に85cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は48cm。壁溝と一体に楕円形に掘り込み埋め戻し基礎にしている。埋め戻し前に盛った粘土に、小型の甕（第32図12）を載せて支脚を造っている。埋め戻し上に炭化物層が厚く堆積している。煙道の下全面に粘土が残る。

(31) 047号住居跡カマド 第131図

北東壁右寄りに造られる。カマド本体は奥行き95cm、幅90cm、高さ31cm。幅40cmの煙道は壁外に出ない。両袖中央部での間隔は52cm。カマド設置のための掘り込みはしていない。壁から40cmに奥行き20cm、幅43cmで床面が焼けた火床がある。その奥左袖寄りに粘土を盛り高杯脚部を載せた土製支脚がある。火床から奥全体に灰・焼土の多く混じる炭化物が厚く堆積している。上に天井の粘土が残る。

(32) 050号住居跡カマド 第131図

北西壁中央に造られる。カマド中央から右袖を全て攪乱溝で削平されている。また奥を051号住居跡覆土中の造っているため詳細は不明である。カマド本体は奥行き85cm、幅45cm以上、高さ28cm。煙道は攪乱され不明。10cmほど掘り窪め埋め戻し基礎にしている。カマド内奥に寄って埋め戻しの上に粘土を貼っている。天井の粘土はよく残っている。その下に炭化物と焼土が数カ所に堆積している。

(33) 053号住居跡カマド 第131図

北西壁右寄りに造られる。カマド本体は奥行き48cm、幅108cm、高さ30cm。煙道は幅26cmでU字形に40cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は44cm。左袖付け根を袖取り付けのために三角に掘り残している。壁から30cmに38×50cmの窪みがあり埋め戻されている。この縁に粘土を置いた支脚がある。左袖に沿って支脚前から煙道手前まで焼土がある。煙道下には粘土が貼ってある。

(34) 057号住居跡カマド（調査区域外）

カマドは北東壁に造られているものと考えられる。

(35) 060号住居跡カマド 第131図

北東壁左寄りに造られる。カマド本体は奥行き86cm、幅84cm、高さ57cm。煙道は幅20cmのU字形で34cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は42cm。壁溝はカマド左から右袖下で97cm途切れ、壁取り付け部は斜めに整形している。左袖は天井に続く部分まで残り内側が焼けている。焼土・粘土の堆積は少ない。煙道奥に粘土を貼っている。

(36) 066号住居跡カマド（調査区域外）

カマドは北東壁に造られる。調査区域外にあり断面に粘土が見えている。

(37) 068A号住居跡カマド (実測せず)

北東壁やや左寄りにカマドの痕跡がある。煙道は奥行き41cmの三角形、床面に火床の焼土が残る。カマドを囲むように両側に間仕切り溝がある。

(38) 068B号住居跡カマド 第131図

遺構内の他の施設などは変更せずにカマドだけを北西壁に造り替えている。北西壁やや左寄りに造られる。カマド本体は奥行き74cm、幅87cm、高さ25cm。煙道は幅40cmの半円形で45cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は40cm。煙道下で壁溝部分を掘り広げその前を70×105cm楕円形に掘り下げ埋め戻し基礎にしている。左袖設置用に壁溝にロームを入れて固めている。天井の粘土はほとんど残っていない。埋め戻し手前に炭化物が堆積している。

(39) 072A号住居跡カマド (残存せず)

カマドは北西壁中央に造られる。新しいカマドが同じ位置に造られており残っていない。カマド左脇にピットがある。カマド下に壁溝が残っている。

(40) 072B号住居跡カマド 第132図

北西壁中央に造られる。古いカマドとほぼ同位置に造られている。カマド本体は奥行き103cm、幅117cm、高さ45cm。煙道は幅52cmの三角形で38cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は52cm。右袖に攪乱溝が掛かっている。壁溝は左袖下から右袖外にかけて112cm途切れ、袖取り付け部は15cm斜めに整形している。10cmほど掘り窪めた後埋め戻しその上にカマドを造っている。カマド内に支脚は残らないが、カマド左外に1点出土している。天井の粘土は奥にわずかと前に流れて検出されたが少ない。煙道下には粘土が貼ってある。

(41) 073号住居跡カマド 第132図

北西壁やや右に造られる。カマド本体は奥行き51cm、幅74cm、高さ11cm。煙道は幅20cmのU字形に15cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は36cm。カマドの幅で壁溝を62cm掘り残して間を楕円形に掘り込み埋め戻してカマドを造っている。焼土・粘土・灰などはほとんど残っていない。

(42) 074号住居跡カマド (実測せず)

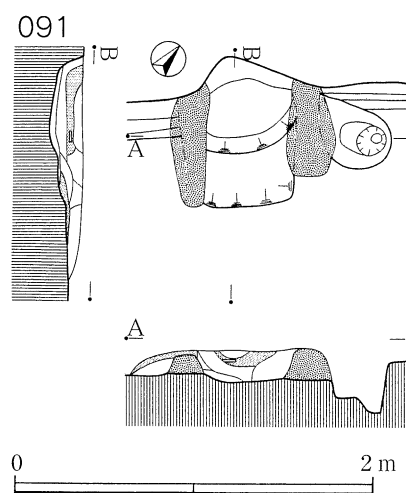
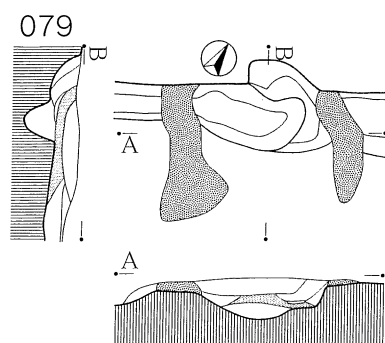
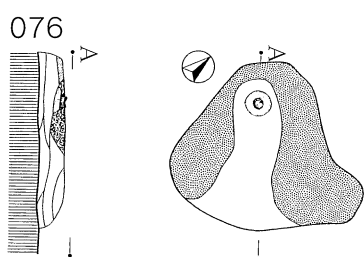
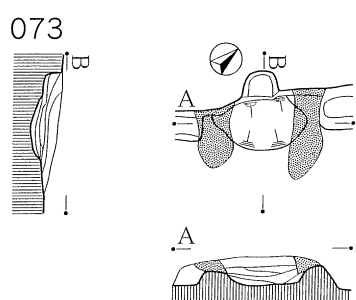
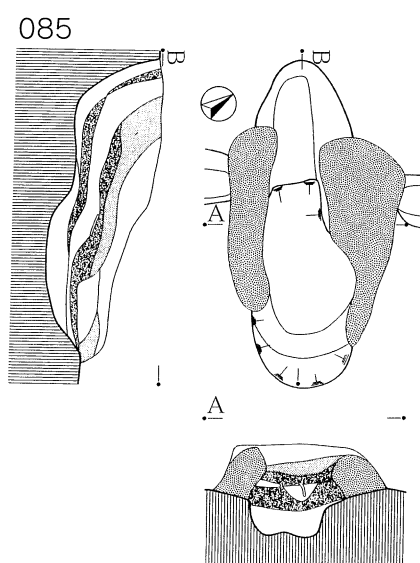
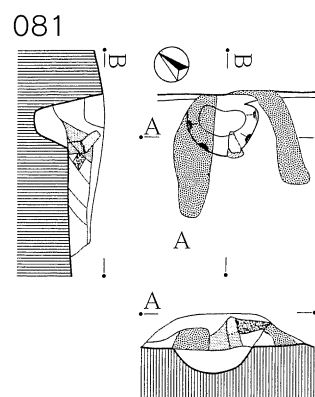
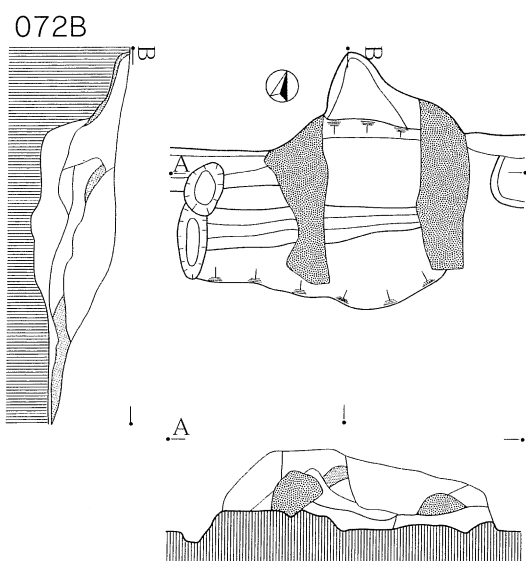
カマドは北西壁中央に造られる。中央に大きな攪乱があるため内部の土層観察ができなかった。

(43) 075号住居跡カマド (実測せず)

カマドは北西壁中央に造られる。カマド実測前にほとんど掘ってしまい土層観察ができなかった。

(44) 076号住居跡カマド 第132図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き92cm、幅108cm、高さ15cm。両袖と支脚のみで床面への掘り込みは認められない。両袖中央部での間隔は28cm。奥は077号住居跡覆土中で詳細は不明。



第132図 072B・073・076・079・081・085・091号住居跡カマド

奥に高杯脚部（第47図3）が支脚として置かれている。周囲に焼土、奥に粘土が残る。カマド内には炭化物が多く残っている。

(45) 079号住居跡カマド 第132図

北西壁左寄りに造られる。煙道は右に寄って壁外に突出する。カマド本体は奥行き60cm、幅116cm、高さ8cm。煙道は幅40cmの半円形に16cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は70cm。壁溝から続けて楕円形に掘り下げ中央の深い部分を埋め戻し基礎にしている。天井の粘土が埋め戻しの上まで落ちており、煙道には炭化物と灰が堆積している。

(46) 081号住居跡カマド 第132図

北東壁中央に造られる。右に円形のピットがあるが、皿状でごく浅いため貯蔵穴かは不明である。カマド本体は奥行き74cm、幅77cm、高さ19cm。煙道は幅20cmで壁外に出ない。両袖中央部での間隔は35cm。壁に沿って33×48cmのピットを掘り埋め戻してカマドを造っている。壁から30cmに左袖寄りに下を粘土で固定した土製支脚が元位置で検出された。支脚より奥左袖に寄って粘土、袖の右側に焼土が堆積している。

(47) 085号住居跡カマド 第132図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き105cm、幅98cm、高さ38cm。両袖基部は壁外に15cm延びる。煙道は幅24cmのU字形に40cm壁外に出る。両袖中央部での間隔33cm。壁溝は両袖下で90cm途切れる。20cmほど掘り込みほぼ平坦に埋め戻し基礎にしている。左袖に寄って土製支脚がある。天井は下に若干落ちているがカマド上全体に残る。煙道下に炭化物、掘り込み中央から奥に焼土、炭化物、焼土の順に堆積している。左袖寄りに上下の焼土の間に土製支脚が浮いた状態で検出されている。袖、天井に焼けた痕跡はあまり無い。

(48) 091号住居跡カマド 第132図

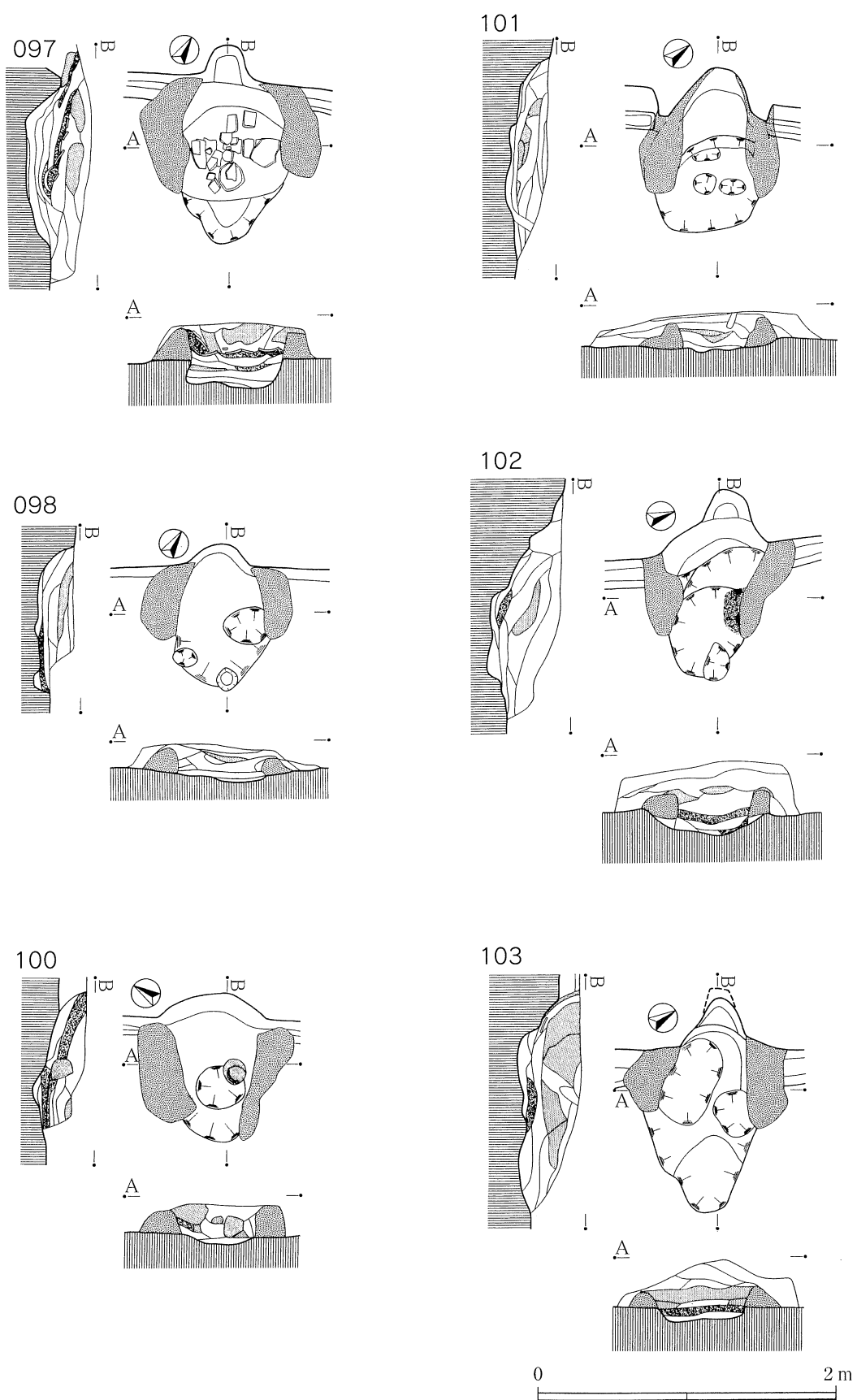
北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き70cm、幅93cm、高さ10cm。煙道は幅46cmの弧状に20cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は46cm。壁溝を煙道とともに10cm掘り込み5cmほど埋め戻し基礎にしている。手前の掘り込みから床面にかけて粘土で貼床をしている。天井の粘土は中央部に2カ所に分かれて残る。焼土・炭化物は残っていない。右袖外にあるピットは新しく遺構に伴わない。

(49) 095号住居跡カマド（実測せず）

北東壁にあるハの字状の粘土の広がりがかマドの痕跡である。

(50) 097号住居跡カマド 第133図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き82cm、幅118cm、高さ25cm。煙道は幅30cmの台形に25cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は66cm。壁溝とともに楕円形に20cm掘り下げ埋め戻した上に袖を造っている。煙道は7号方形周構墓上にある。煙道底に粘土を貼る。カマド使用中に堆積した



第133図 097・098・100・101・102・103号住居跡カマド

灰・焼土の混合土を固め上に粘土を貼って補修している。天井は右袖側が特によく残っている。カマド内は炭化物・焼土・灰・焼土と堆積しその上に甕（第51図8）一個体が底部を元位置につぶれた状態で出土している。

(51) 098号住居跡カマド 第133図

北東壁やや左に造られる。カマド本体は奥行き52cm、幅105cm、高さ16cm。煙道は幅42cmの半径18cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は47cm。煙道とともに楕円形に10cm掘り下げ半分埋め戻し基礎にしている。掘り込み手前に焼土、上に炭化物層がある。天井は中央部に残る。

(52) 100号住居跡カマド 第133図

北東壁右寄りに造られる。右に貯蔵穴がある。カマド本体は奥行き83cm、幅106cm、高さ27cm。煙道は幅74cmの弧状に18cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は47cm。壁溝から煙道とともに楕円形に掘り下げ、中央の窪みを埋め煙道にかけて6cmほど土を積んでカマドを造っている。袖の付け根は粘土を使っていない。窪みの手前が煉瓦状によく焼けた火床である。奥に基部を粘土で固定した土製支脚がある。上部に土器片が残っていることから甕底部を被せていたものと考えられる。煙道奥に粘土を貼る。カマドから煙道にかけて焼土層が厚く堆積している。天井は前の方と左袖寄りに残っている。袖は手前で狭まる逆ハの字状で袖基部は黒色土で造られている。両袖とも内側がよく焼けている。

(53) 101号住居跡カマド 第133図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き100cm、幅95cm、高さ28cm。煙道は幅38cmのU字形に18cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は43cm。壁溝が両袖外で75cm途切れ両袖付け根はロームを15～20cm掘り残している。壁から離れて楕円形に掘り下げ埋め戻し基礎にしている。煙道底に粘土を貼っている。煙道上周囲にも粘土を貼っている。カマド内に下層に炭化物が堆積しその上に大部分が焼けた天井が崩落している。煙道には灰が堆積している。

(54) 102号住居跡カマド 第133図

北西壁中央に造られている。奥壁に対し75度斜めに向く。カマド本体は奥行き65cm、幅105cm、高さ39cm。煙道は幅70cmの弧状に20cm、さらに幅30cmのU字形に20cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は38cm。壁溝が両袖下で75cm途切れ煙道の弧状の部分を含めて楕円形に掘り下げ手前を埋め戻し基礎にしている。中央部に焼土が堆積しその前後に炭化物がある。天井は左袖側に焼けて部分的に残っている。

(55) 103号住居跡カマド 第133図

北西壁右寄りに造られる。右袖が10cm長い。カマド本体は奥行き65cm、幅113cm、高さ32cm。煙道は幅40cmの弧状に15cm、さらに30cmの台形に25cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は54cm。両袖下で壁溝は85cm途切れる。煙道の弧状の部分を含め楕円形に掘り下げ奥を10cmほど埋め戻し基礎

にしている。煙道奥に粘土を貼る。埋め戻し上に焼土層、さらに上に灰・炭化物の順で堆積し天井の粘土が厚く載っている。

(56) 104号住居跡カマド 第134図

北西壁に造られる。カマド本体は奥行き35cm、幅74cm、高さ9cm。遺構の掘り込みが浅く、方形周構墓上に造られているため詳細は不明で壁との関係が分かる図ではない。煙道は44cmの溝状になる。両袖中央部での間隔は24cm。窪みの中央部に焼土層、その上に炭化物、粘土がある。

(57) 106号住居跡カマド 第134図

北東壁右寄りに造られる。右に貯蔵穴がある。カマド本体は奥行き69cm、幅75cm、高さ28cm。煙道は幅28cmで壁外に出ない。両袖中央部での間隔は30cm。カマド設置部分を楕円形に掘り下げ5cmほど埋め戻し基礎にしている。壁から35cm左袖寄りが28×20cm楕円形に焼け火床となる。火床奥に粘土があり支脚の基部と思われる。奥にも粘土が貼ってある。天井は一部が前に落ちるが右袖寄りによく残っている。支脚前に炭化物、その上に灰が堆積している。灰と天井の粘土との間に焼土が厚く堆積している。

(58) 107号住居跡カマド 第134図

北西壁に造られる。カマド本体は奥行き39cm、幅75cm、高さ16cm。煙道は幅24cmのU字形に20cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は42cm。左袖から左は調査区域外。壁溝は70cm途切れ、袖の付け根は斜めに整形される。楕円形に掘り下げられた部分は埋め戻し基礎にしている。奥に粘土があり炭化物は堆積しているが焼土層はない。

(59) 110号住居跡カマド 第134図

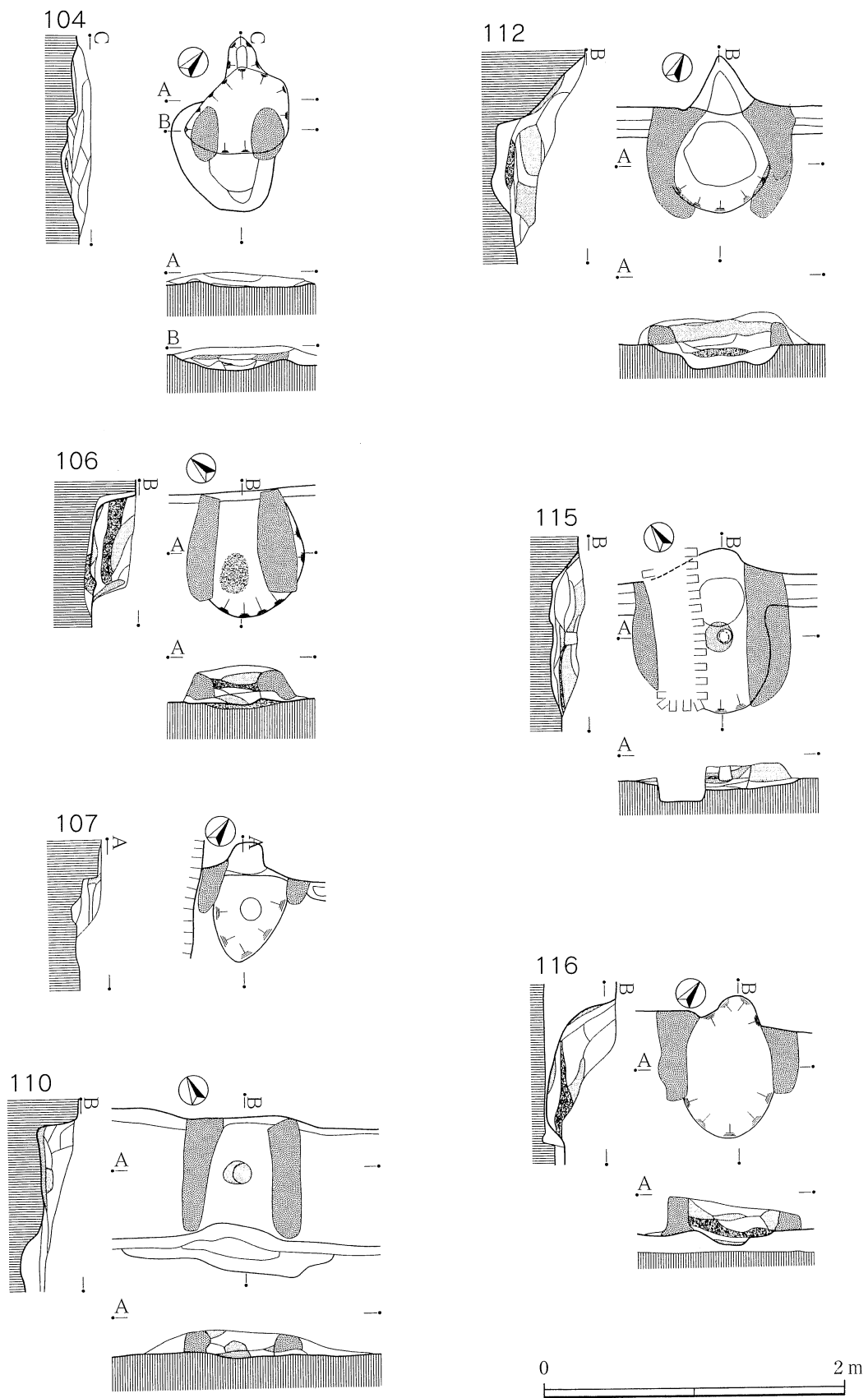
北東壁右寄りに造られる。右に貯蔵穴がある。カマド本体は奥行き82cm、幅82cm、高さ23cm。煙道は幅28cmで壁外に出ない。両袖中央部での間隔は40cm。カマドを設置するための掘り込みはない。奥壁から25cm左袖寄りに粘土で基部を固めた土製支脚がある。両袖の残りはいいが、天井は左袖際にわずかに残るだけで焼土層はなかった。粘土は前に流れ226号住居跡上まで貼床状に続く。

(60) 112号住居跡カマド 第134図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き75cm、幅101cm、高さ49cm。煙道は幅22cmの三角形に35cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は62cm。壁溝とともに楕円形に15cm掘り下げ、10cm埋め戻し基礎にしている。両袖は掘り込みを囲むように弧状に造られ壁との付け根は斜めに整形される。煙道の下は粘土が貼られている。埋め戻し上に焼土層、その奥に灰層がある。天井はやや落ちているが厚く残っている。

(61) 115号住居跡カマド 第134図

北東壁右寄りに造られる。右に貯蔵穴がある。土製支脚の左から左袖の大部分を攪乱溝で削平され



第134図 104・106・107・110・112・115・116号住居跡カマド

る。カマド本体は奥行き98cm、幅107cm、高さ16cm。煙道は幅30cmで半円形に10cm壁外に出る。楕円形に8cm掘り下げ4cmほど埋め戻し基礎にしている。粘土の多い土を中央に貼りその上に基部を粘土で固めた土製支脚がある。煙道奥に粘土を貼る。土製支脚の前には、下に炭化物その上に焼土層がある。天井は土製支脚を埋めるように落ち、ほぼ全面に粘土がある。

(62) 116号住居跡カマド 第134図

北西壁に造られる。全体が117号住居跡覆土中に造られる。カマド本体は奥行き62cm、幅96cm、高さ37cm。煙道は幅30cmの弧状に20cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は56cm。10cmほど掘り下げ基礎にしている。カマド中央部と煙道奥に粘土を貼る。焼土・炭化物・灰は少ない。天井は中央部に粘土が残る。

(63) 122号住居跡カマド 第135図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き95cm、幅84cm、高さ46cm。煙道は幅30cmの半円形に30cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は42cm。煙道から一体に楕円形に床を下げ基礎とし埋め戻さない。袖付け根は地山を斜めに整形する。煙道下に粘土を貼る。掘り込みの中央に30×18cmの火床がある。火床上に灰層、その奥に炭化物層、さらに煙道にかけて焼土層がある。天井は甕とともに下に落ちた状態で検出された。下は焼けている。天井の粘土と混ざるように甕の破片が散乱している。カマドに掛けられていたものである。

(64) 123号住居跡カマド 第135図

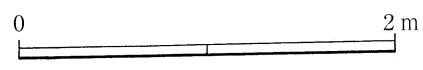
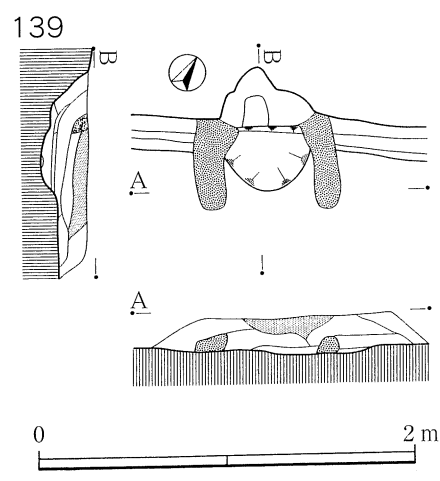
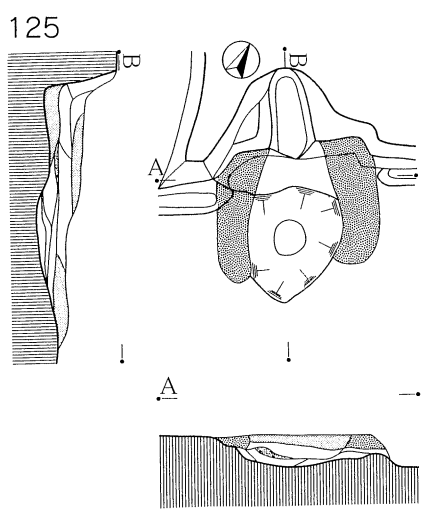
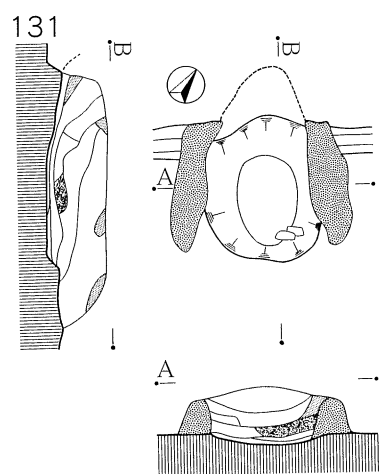
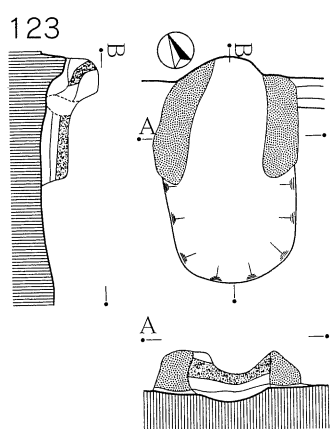
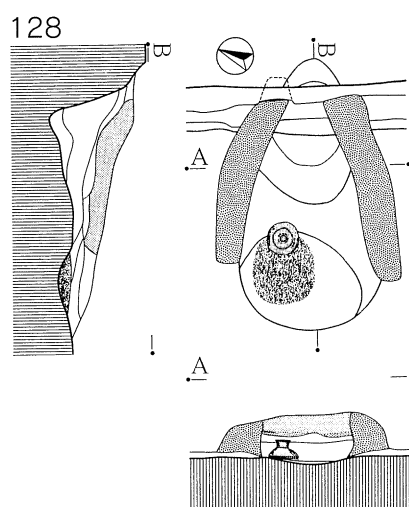
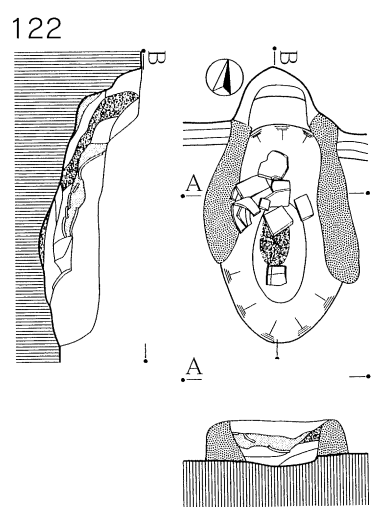
北西壁に造られる。124号住居跡覆土中に造られており、煙道部は不明瞭である。カマド本体は奥行き55cm、幅79cm、高さ25cm。煙道は幅26cmの半円形に14cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は40cm。煙道を含め8cm楕円形に掘り下げ5cm埋め戻し基礎にしている。右袖内側は焼けている。天井の粘土は残っていない。カマド内全面に灰層とその上に焼土層が堆積している。

(65) 125号住居跡カマド 第135図

北西壁右寄りに造られる。カマド本体は奥行き73cm、幅95cm、高さ36cm。壁外に13cm突出して造られる。煙道は幅24cmの溝状に50cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は46cm。カマド下で壁溝が80cm途切れ、カマドを納める張り出しを造るなど事前の企画性が高い。煙道底に粘土を厚く敷く。煙道手前に焼土、その前に炭化物・灰層がある。天井の粘土は大部分は両袖の間に残る。

(66) 128号住居跡カマド 第135図

北東壁右寄りに造られる。右に貯蔵穴がある。カマド本体は奥行き110cm、幅104cm、高さ42cm。煙道は床から30cmほど上がったところから幅18cmの半円形に斜めに15cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は62cm。煙道に繋がるように斜めに土を積みカマドの基礎にする。基礎の手前左袖寄りに楕円形に浅いピットがあり内部に焼土が堆積した火床がある。焼土の奥に高杯（第66図1）を伏せて置き支脚として使用している。火床の奥に炭化物が堆積する。左袖内側が焼けている。天井は若干落



第135図 122・123・125・128・131・139号住居跡カマド

ちているがカマド内全面に残っている。火床近くは下が焼けている。

(67) 131号住居跡カマド 第135図

北西壁中央に造られる。袖から奥は132号住居跡覆土中に造られる。カマド本体は奥行き70cm、幅97cm、高さ26cm。袖付け根は壁外にわずかに出る。煙道は幅44cmのU字形に30cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は54cm。煙道奥に粘土を貼る。掘り込みの手前に炭化物が堆積する。焼土は右袖寄りに厚く堆積する。天井は右袖寄りなど数カ所に粘土が残る。

(68) 139号住居跡カマド 第135図

北西壁に造られる。カマド本体は奥行き50cm、幅86cm、高さ17cm。煙道は幅32cmの凸字形に33cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は46cm。壁溝を含め半円形に掘り窪め、煙道底まで埋め戻し基礎にしている。その上に炭化物、天井奥に焼土が残る。両袖は高さ10cmほどしか残らず、天井の粘土は袖から上に離れ厚く残っている。

(69) 140号住居跡カマド 第136図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き54cm、幅95cm、高さ46cm。煙道は幅25cmの方形に30cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は52cm。天井粘土の上で土製支脚が検出された。天井の落下に伴って動いたものである。両袖下で壁溝が60cm途切れる。下はほとんど平坦な床面のままでそこに厚く炭化物が堆積している。両袖・天井の残りはよくほぼ元位置を保っている。天井は手前と煙道部で下が焼けている。右袖側で天井の直下に焼土層がある。

(70) 144号住居跡カマド 第136図

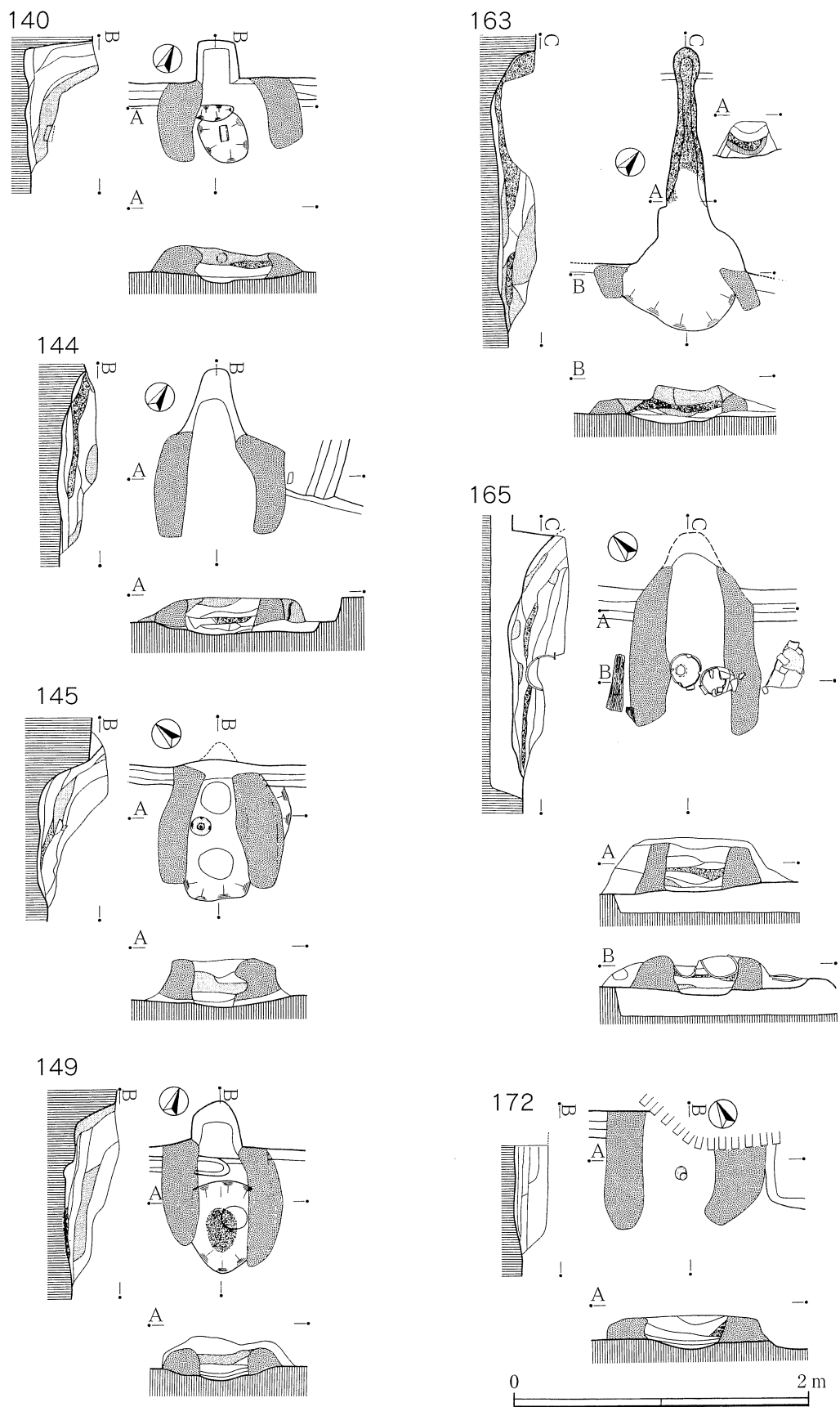
北西壁右寄りに造られる。カマド本体は奥行き70cm、幅90cm、高さ26cm。壁外に30cm突出して造られる。147号住居跡覆土中のためこの部分の構造は不明瞭である。煙道は幅30cmのU字形に50cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は48cm。図示した以上に煙道上部、カマド上から周囲にかけて粘土が広がっていた。袖の両側は補強するかのように硬く粘土が貼られていた。煙道奥は上下に粘土が貼られる。住居外に突出した部分に炭化物層がありその上に煙道まで厚く焼土層がある。

(71) 145号住居跡カマド 第136図

北東壁右寄りに造られる。右に貯蔵穴がある。カマド本体は奥行き85cm、幅85cm、高さ35cm。煙道は壁上部で幅26cmの半円形に10cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は34cm。左袖に接するように高杯（第77図1）を伏せた支脚がある。壁溝が40cm途切れ楕円形に8cm掘り下げ半分ほど埋め戻し基礎にしている。埋め戻しの上に炭化物、その手前に焼土層がある。天井はその上に落ちて厚く堆積している。煙道先端上に粘土がある。

(72) 149号住居跡カマド 第136図

北西壁やや右寄りに造られる。カマド本体は奥行き83cm、幅83cm、高さ28cm。煙道は幅26cmの



第136図 140・144・145・149・163・165・172号住居跡カマド

U字形に30cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は34cm。右袖下で壁溝が一部途切れる。壁溝に接するように楕円形に9cm掘り下げ袖を造ってから内部を埋め戻し基礎にしている。掘り込みの中央に32×21cmの火床がある。煙道奥に厚く粘土を貼る。火床奥から煙道にかけて炭化物層がある。天井は下がっているが粘土が厚く残る。焼土はほとんど残っていない。

(73) 158号住居跡カマド (実測せず)

カマドは北東壁南寄りに造られる。大部分を112号住居跡に削平され左側の袖の粘土が一部残るだけだった。右側に貯蔵穴がある。

(74) 163号住居跡カマド 第136図

北西壁中央に造られる。大部分が162号住居跡覆土中に造られ、煙道先端は162号住居跡壁外にまで延びている。カマド本体は奥行き60cm、幅120cm、高さ20cm。壁外に25cm出るのが袖は遺構内のみで確認された。煙道は幅26cmの溝状に130cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は68cm。大部分が162号住居跡覆土中に造られ、煙道上部は掘りすぎている。カマド内下層に炭化物が堆積した後粘土を貼っている。煙道基部、奥にも粘土がある。カマド内は煙道の先端までほとんどが焼土で埋められている。天井は左袖際を除き粘土が厚く残っている。

(75) 165号住居跡カマド 第136図

北東壁右寄りに造られる。右に貯蔵穴がある。カマド本体は奥行き100cm、幅90cm、高さ32cm。袖の基部は壁外に斜めに15cm出る。煙道は幅30cmのU字形に30cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は38cm。カマドの右側に高さ6cmの土手状の部分がある。貯蔵穴を取り囲むものと思われるが平面図には残っていない。全体に8cmほど掘り下げ、煙道も含め3cmほど埋め戻し基礎にしている。煙道底に粘土を貼る。下層に炭化物があり、その上に木炭が多く入る層がある。焼土層がその上に堆積する。天井は粘土が少なく下の層は焼けている。右袖の下に炭化材が残っていた。カマドに掛かった状態で甕(第81図12・15)が2個体並んで検出された。右袖外に甕(第81図16)が倒れているが内部に砂利が詰まっていた。その奥壁際に坏など(第81図1～4)4点がまとまっていた。これらの遺物は住居が使用されていた時のまま残されたものである。

(76) 172号住居跡カマド 第136図

北東壁やや右寄りに造られる。右に貯蔵穴がある。カマド本体は奥行き84cm、幅113cm、高さ19cm。煙道は壁外に出ない。両袖中央部での間隔は50cm。右袖奥から中央部にかけて攪乱されている。カマドのほぼ中央で土製支脚が使用時のまま検出された。カマド内はほとんど平坦で、右袖際に焼土がまとまってあるだけで、焼土・灰・粘土が割合を変えて混じった層がみられるだけだった。

(77) 177号住居跡カマド (削平される)

カマドは北東壁中央に造られる。北東壁中央に攪乱溝があり、遺構図では壁だけの攪乱のようだが実際は床面まで届いており、周囲に焼土と粘土が散っていた。

(78) 182号住居跡カマド 第137図

北東壁右寄りに造られる。右に貯蔵穴がある。カマド本体は奥行き83cm、幅76cm、高さ35cm。煙道は幅18cmの弧状に10cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は40cm。カマド下に壁溝が残る。煙道は181号住居跡覆土中にある。中央に土製支脚が元位置で残る。支脚から10cm離れて径35cmの火床がある。天井崩落の粘土中から高杯が検出されている。全体に炭化物が堆積している。焼土層はなかった。天井は、土製支脚部分を除き厚く残ることから、ほぼ当初のままの姿と思われる。支脚上に高杯が出土している。

(79) 184号住居跡カマド 第137図

北東壁右寄りに造られる。右に貯蔵穴がある。カマド本体は奥行き75cm、幅79cm、高さ15cm。煙道は幅32cmで壁外に出ない。両袖中央部での間隔は42cm。カマド内に壁溝を残し基礎を造っている。袖付け根は基礎の土のままで粘土はない。左袖に寄って下部を粘土で固めた土製支脚が元位置で検出されている。支脚から右前に33×28cmの火床がある。土製支脚の脇に灰の堆積はあるが、焼土・粘土は少なく、天井は流出したものと思われる。

(80) 186号住居跡カマド 第137図

北東壁右寄りに造られる。右に貯蔵穴がある。カマド本体は奥行き86cm、幅90cm、高さ28cm。煙道は幅18cmのU字形に18cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は38cm。カマド下で壁溝が途切れる。煙道は床から20cmほどから斜めに掘る。奥を煙道下まで斜めに埋めて基礎にしている。両袖の付け根は壁に横穴を掘ってそこに粘土を詰めている。奥から25cm左袖寄りに土製支脚がある。支脚の前の浅いピットが火床で灰の多量に混じった焼土がある。土製支脚の奥は煙道手前まで炭化物が堆積している。天井は奥に粘土が残るが手前は掘りすぎている。

(81) 189号住居跡カマド 第137図

北西壁右寄りに造られる。奥の半分以上を方形周溝墓の溝状に造っているために壁の確認が難しかったが、煙道の際まで袖の粘土が広がり円筒状の煙道の形が確認できた。カマド本体は奥行き90cm、幅120cm、高さ31cm。煙道は幅14cmの半円形に10cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は50cm。煙道上部が径14cmの円形に造られている様子がよく残っている。カマド下は全体に浅く楕円形に、奥を深く隅円方形に20cm掘り下げ、深い部分を軟質の粘土で、全体を硬質の土で埋め戻している。煙道下に粘土を貼っている。カマド内全体に炭化物が堆積し、その上は粘土や焼土が混じった土になる。天井の粘土はほぼ残っていた。

(82) 190号住居跡カマド 第137図

北東壁に造られる。煙道先端部を189号住居跡に削平されている。カマド本体は奥行き70cm、幅・102cm、高さ34cm。煙道は幅38cmの三角形に45cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は42cm。壁溝が110cm途切れ煙道から楕円形を4個つなげるように掘り下げ手前を埋め戻し基礎にしている。基部を粘土で固めた土製支脚が2基並列して残っている。袖は断面長方形に切り取った粘土を壁に横に取

り付けそれに縦の部分をつけている。天井も同様の粘土で造られている。煙道は下に粘土を敷いた部分の上に円形に焼けた粘土と焼土が検出されここが煙道の出口である。煙道下層の焼土が当初使用していたもので、残っている煙道出口に造り直している。手前の窪みの中の焼土は造り直した後の火床である。カマド両脇に浅いピットがあり上を粘土主体の貼床で覆っている。

(83) 192号住居跡カマド 第137図

北西壁中央に造られている。カマド本体は奥行き60cm以上、幅117cm、高さ41cm。煙道は幅36cmの台形に12cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は50cm。図の上部に袖の残っている部分が192号住居跡のカマドである。大部分は193号住居跡カマド構築時の煙道掘形によって袖も低くなっており破壊されている。

(84) 193号住居跡カマド 第137図

北西壁中央に造られている。カマド本体は奥行き88cm、幅100cm、高さ41cm。煙道は造り直されている。古い煙道は、幅26cmの溝状に60cm、新しい煙道は、半円状に30cm外に出る。両袖中央部での間隔は42cm。煙道は断面図上に見るように新旧ともに粘土で筒状に造っており内部の幅は15cmほどである。床を10cmほど楕円形に掘り下げ基礎にしているが埋め戻していない。炭化物が煙道まで厚く堆積し上に木炭が混じる層があり天井の粘土の下に焼土が堆積している。

(85) 194号住居跡カマド 第137図

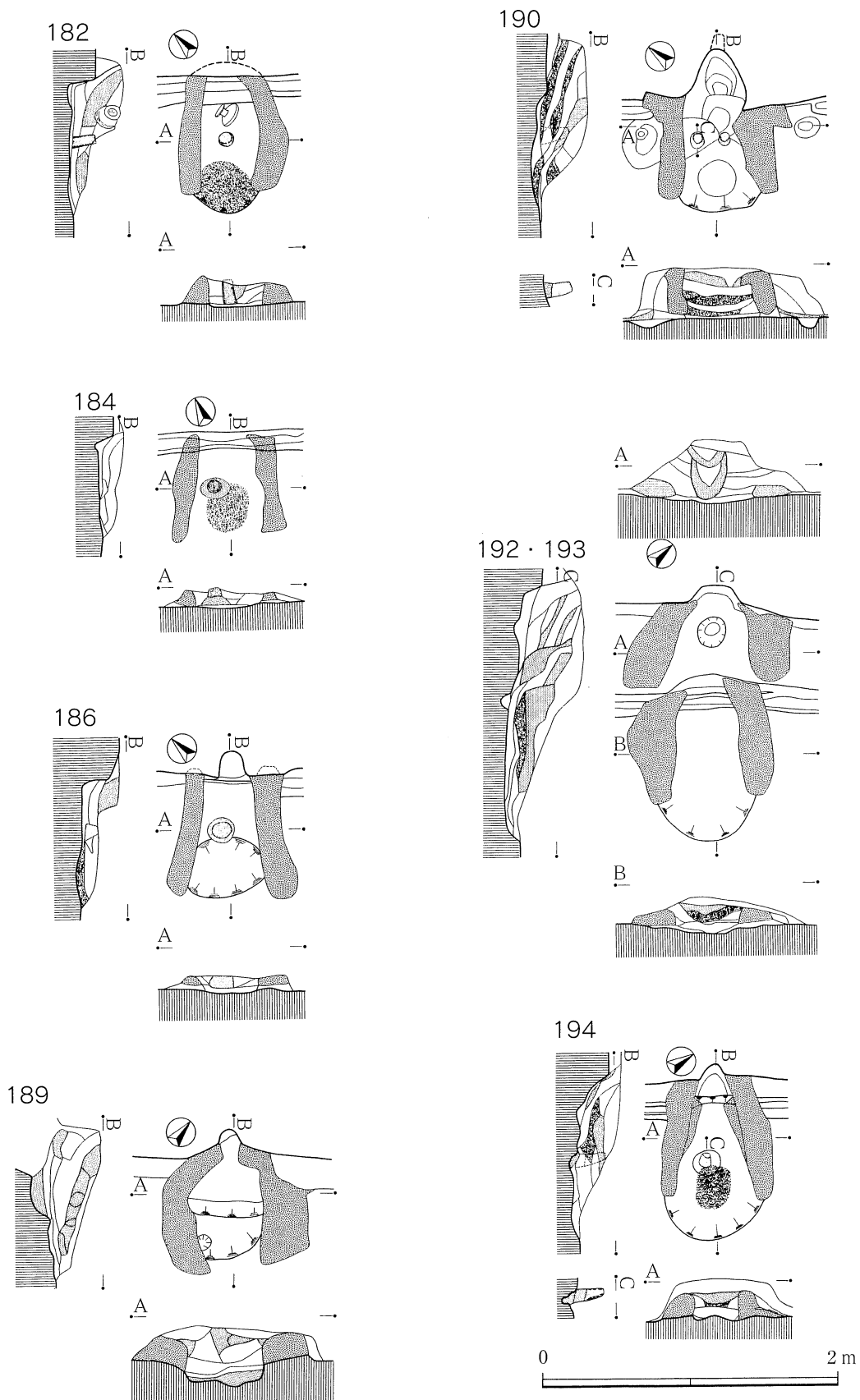
北西壁やや右寄りに造られている。カマド本体は奥行き88cm、幅78cm、高さ29cm。煙道は幅16cmの三角形に10cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は40cm。煙道から楕円形に掘り下げ、壁溝を埋めて基礎としている。煙道底には粘土が敷かれている。やや左袖に寄ってピットを掘り中に粘土を埋め込んだ土製支脚がある。支脚の右前に30×25cmの火床がある。火床の上に炭化物層がある。上に残った天井の粘土下に焼土がある。

(86) 195号住居跡カマド 第138図

北東壁に造られている。カマド本体は奥行き40cm、幅100cm、高さ14cm。煙道は幅26cmの半円形に15cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は50cm。2段に浅く掘り込んだ奥の深い部分が火床で焼土があり、手前に炭化物がある。粘土のある最上層が天井と煙道の名残で間に灰が堆積している。

(87) 196号住居跡カマド 第138図

東壁に造られる。右は調査区域外で貯蔵穴の有無は不明である。カマド本体は奥行き127cm、幅98cm、高さ22cm。煙道は幅12cmで壁外に出ない。両袖中央部での間隔は42cm。楕円形に7cm掘り下げほぼ平坦に埋め戻し基礎にしている。左袖に接するように粘土を置き土器底部を被せ支脚にしている。中層に堆積している焼土はブロック状になり硬いことから粘土の少ない天井材の可能性もある。



第137図 182・184・186・189・190・192・193・194号住居跡カマド

(88) 216号住居跡カマド 第138図

北東壁右に造られる。奥を217号住居跡覆土中に造っているために煙道は不明瞭である。カマド本体は奥行き67cm、幅93cm、高さ27cm。煙道は幅18cmの弧状に6cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は37cm。217号住居跡上に特に掘り込みなどを設けず造っている。中央に円錐状に粘土を置いている。やや奥に離れて出土した高杯脚部（第99図8）を載せて支脚にしていたものと考えられる。支脚の粘土を埋めるようにカマド内全体に炭化物が広がる。焼土・灰の混合土を挟み天井の粘土が残る。天井は袖とは離れているがほぼ原形をとどめている。

(89) 218号住居跡カマド 第138図

北東壁中央に造られる。右に貯蔵穴がある。カマド本体は奥行き89cm、幅89cm、高さ33cm。煙道は幅38cmで壁外に出ない。両袖中央部での間隔は46cm。壁溝は左袖下から右袖外まで75cm途切れる。貼床を削る程度に窪めて基礎にしている。カマド中央で甕が2点並列して出土している。左の甕は、下に粘土を固めて置いた支脚の上に載っており、左も横転しているだけでほぼ元位置での出土である。下層が炭化物層、中層が混合土、上層が粘土の多い天井の名残の層である。

(90) 236A号住居跡カマド 第138図

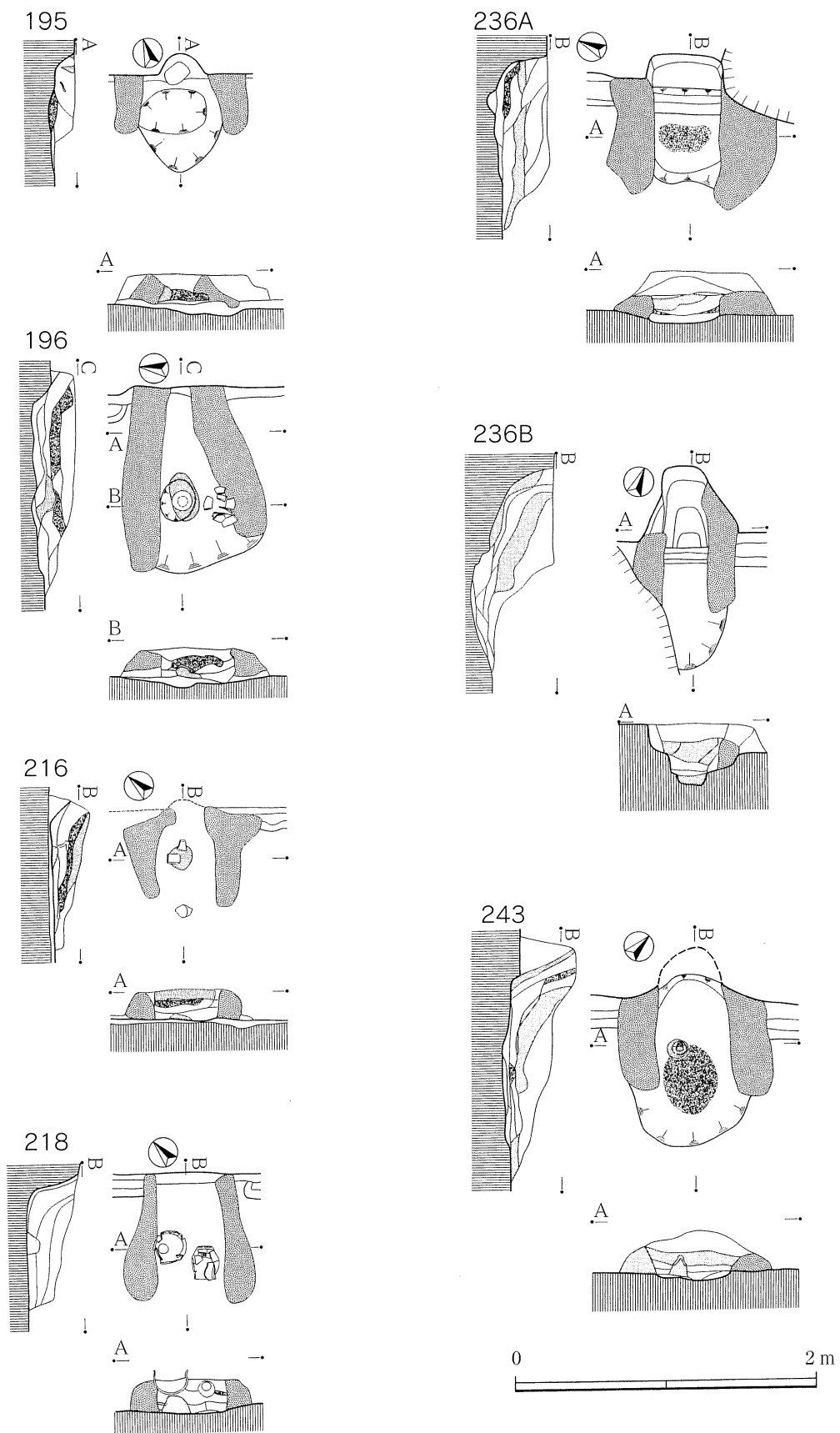
北東壁中央に造られる。右袖の奥を攪乱溝で破壊されている。カマド本体は奥行き90cm、幅115cm、高さ31cm。煙道は幅43cmの台形に22cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は42cm。壁溝を残して煙道と一体に隅円長方形に掘り下げ床と同レベルまで埋め戻し基礎にしている。壁から20cmほどに火床があり中央が特に焼けている。火床の奥から煙道奥まで焼土が堆積している。カマド内ほぼ全体に天井の粘土が落下し広がっている。カマド内からは検出されていないが、カマド左脇の壁際に土製支脚が4点並んで出土している。236B号住居跡と重複するがこの土製支脚はいずれも本遺構に伴うものである。

(91) 236B号住居跡カマド 第138図

北西壁に造られる。左袖先端を2号地下式壙の天井崩落のため失っている。カマド本体は奥行き43cm、幅70cm、高さ41cm。煙道は幅20cmの2段に掘り込まれた台形で45cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は28cm。カマド下で壁溝が途切れ壁下から楕円形に16cm掘り込み手前を若干埋め戻し基礎にしている。袖は煙道部左右の段まで粘土が続く。煙道は天井から続くように筒状に粘土を貼る。掘り込みの手前と煙道内に炭化物が堆積する。

(92) 243号住居跡カマド 第138図

北西壁やや右寄りに造られる。煙道を244号住居跡覆土中に造っている。カマド本体は奥行き70cm、幅105cm、高さ45cm。煙道は幅42cmの半円形に25cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は48cm。楕円形に5cm掘り込み平坦に埋め戻し基礎にしている。左袖寄りに円筒状の粘土を置き上に高杯脚部（第102図2）を被せ支脚にしている。支脚右前の掘り込み中央部に48×37cmの火床がある。斜めに地山を削り袖の基部を取り付ける。煙道奥に斜めに粘土を貼る。火床上と煙道に炭化物が堆積する。



第138図 195・196・216・218・236A・236B・243号住居跡カマド

焼土は支脚横と煙道先端にわずかに残る。天井の粘土は支脚を半ば埋めるところまで落下して厚く残る。下は部分的に粘土が焼けている。

(93) 246号住居跡カマド (削平される)

カマドは北西壁右寄りにある。上を247号住居跡が削平している。

(94) 247号住居跡カマド 第139図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き63cm、幅110cm、高さ21cm。煙道は幅38cmの半円形に20cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は46cm。壁溝を埋め戻し楕円形に掘り下げ手前はさらに一段掘り下げている。手前は古い火床で右袖際に甕下部を逆さに置いた支脚の前に25×26cmの火床がある。支脚をほぼ埋めるように焼土が厚く堆積しその上は灰の多い土になる。天井は中央部に薄く粘土が残るだけだった。

(95) 248号住居跡カマド 第139図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き65cm、幅90cm、高さ20cm。煙道は幅42cmの半円形に25cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は47cm。煙道を含め楕円形に10cm掘り下げ埋め戻し基礎にしている。煙道底とカマド中央部に粘土を貼る。天井の粘土はカマド部分全体に広がり手前は床面まで流れている。天井の下に部分的に炭化物・焼土がある。

(96) 255号住居跡カマド 第139図

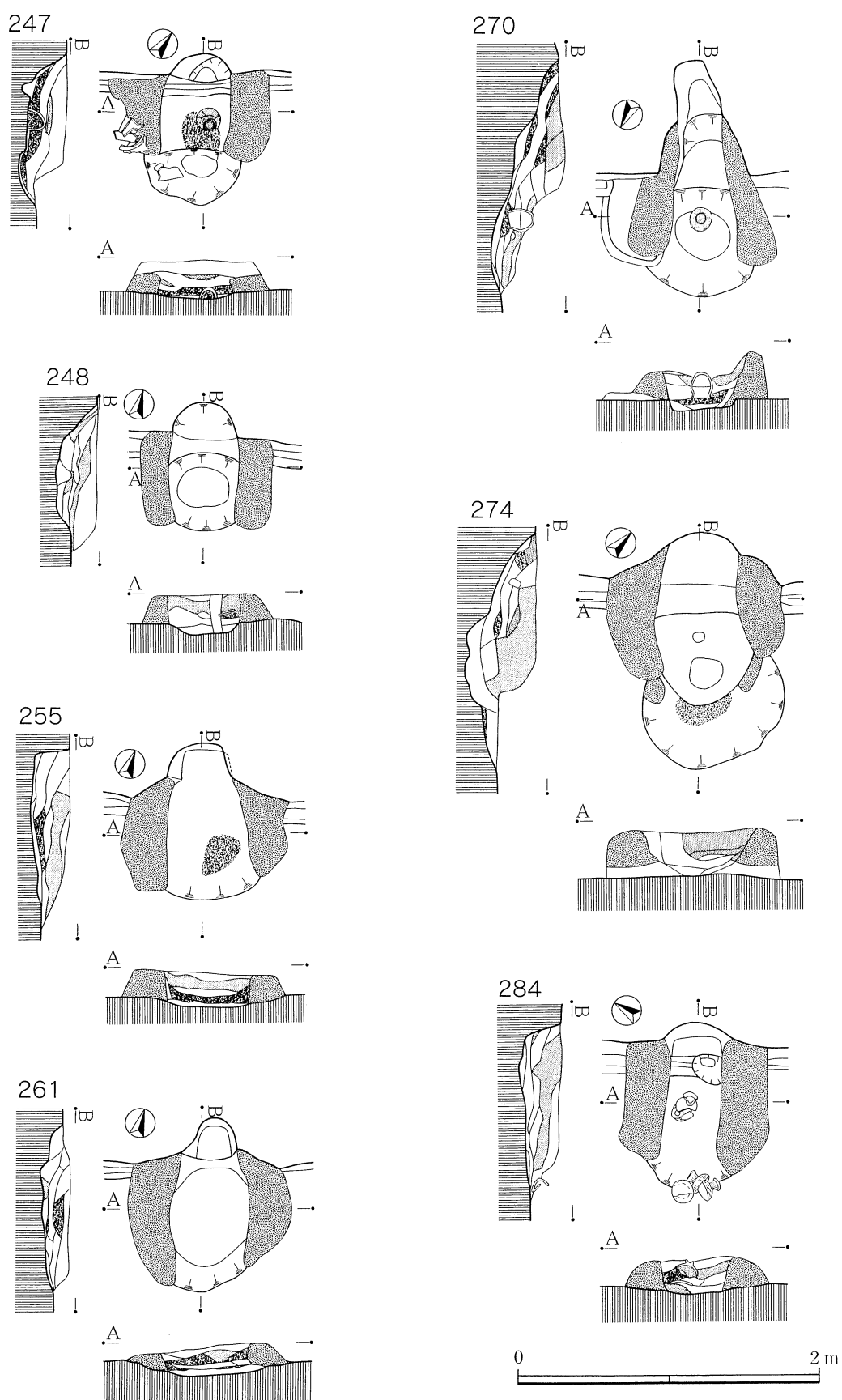
北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き80cm、幅112cm、高さ18cm。袖基部は地山を斜めに整形して壁外に15cm出る。煙道は幅36cmの台形に22cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は53cm。カマド下で壁溝が93cm途切れ煙道から一体に円形に9cm掘り下げる。右袖寄りに34×22cmの火床がある。最下層は煙道奥まで炭化物、カマド内でその上に焼土が堆積している。天井はカマド前面に粘土が残っている。

(97) 261号住居跡カマド 第139図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き90cm、幅110cm、高さ14cm。煙道は幅30cmのU字形に30cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は52cm。カマド下で壁溝が途切れ右側にはない。円形の掘り込みの縁に袖を造っている。最上層は粘土が多く、下の粘土ブロックとともに天井の名残である。天井の下は焼土・灰層・焼土の順で下は奥に粘土ブロック、手前に炭化物がある。

(98) 270号住居跡カマド 第139図

南東壁右端に造られる。煙道の右側は9号溝に削平されている。カマド本体は奥行き53cm、幅101cm、高さ45cm。煙道は幅30cmの溝状に76cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は42cm。左袖下に、ロームの多い土で造った60×40cmの範囲で床面より5cm高い段状の施設があり、ここで壁溝は途切れ右側には続かない。煙道を含め楕円形に8cm掘り下げ4cmほど埋め戻し基礎にしている。中



第139図 247・248・255・261・270・274・284号住居跡カマド

央に逆さに置いた甕（第106図6）の下部を焼土で埋めた支脚がある。甕の中は焼土の混じった灰が半分ほど入っていた。右袖は、内側に掘り込みの底まで粘土を貼って補強している。天井はカマド部と煙道部に分かれて粘土が残っている。煙道部は厚くほぼ元位置だが、カマド部は左袖側に粘土が無く支脚の半ばまで落ちている。支脚のある掘り込みの底面が焼け火床となっているが焼土は残っていない。煙道は上下に焼土層がある。

(99) 274号住居跡カマド 第139図

北西壁やや右寄りに造られる。カマド本体は奥行き85cm、幅120cm、高さ25cm、袖は煙道途中まで斜めに20cm出る。煙道は幅45cmの弧状に35cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は54cm。壁溝はカマド下で途切れるが煙道と一体の掘り込みによって失われたとも考えられる。掘り込みは22cmで10cmほど埋め戻される。天井は左側が失われているがカマド部分に厚く残っている。手前は掘り込みの中まで落ち込んでいる。中央部は粘土の下が焼けている。手前の貼床下に奥行き85×幅96cmの掘り込みがあり、両袖先端部の粘土が残り、断面に火床の焼土があった。建て替え前のカマドの名残りである。

(100) 276号住居跡カマド（調査区域外）

カマドは北東壁に造られる。調査区域外にあり、カマドから流れた粘土が断面で観察できる。

(101) 284号住居跡カマド 第139図

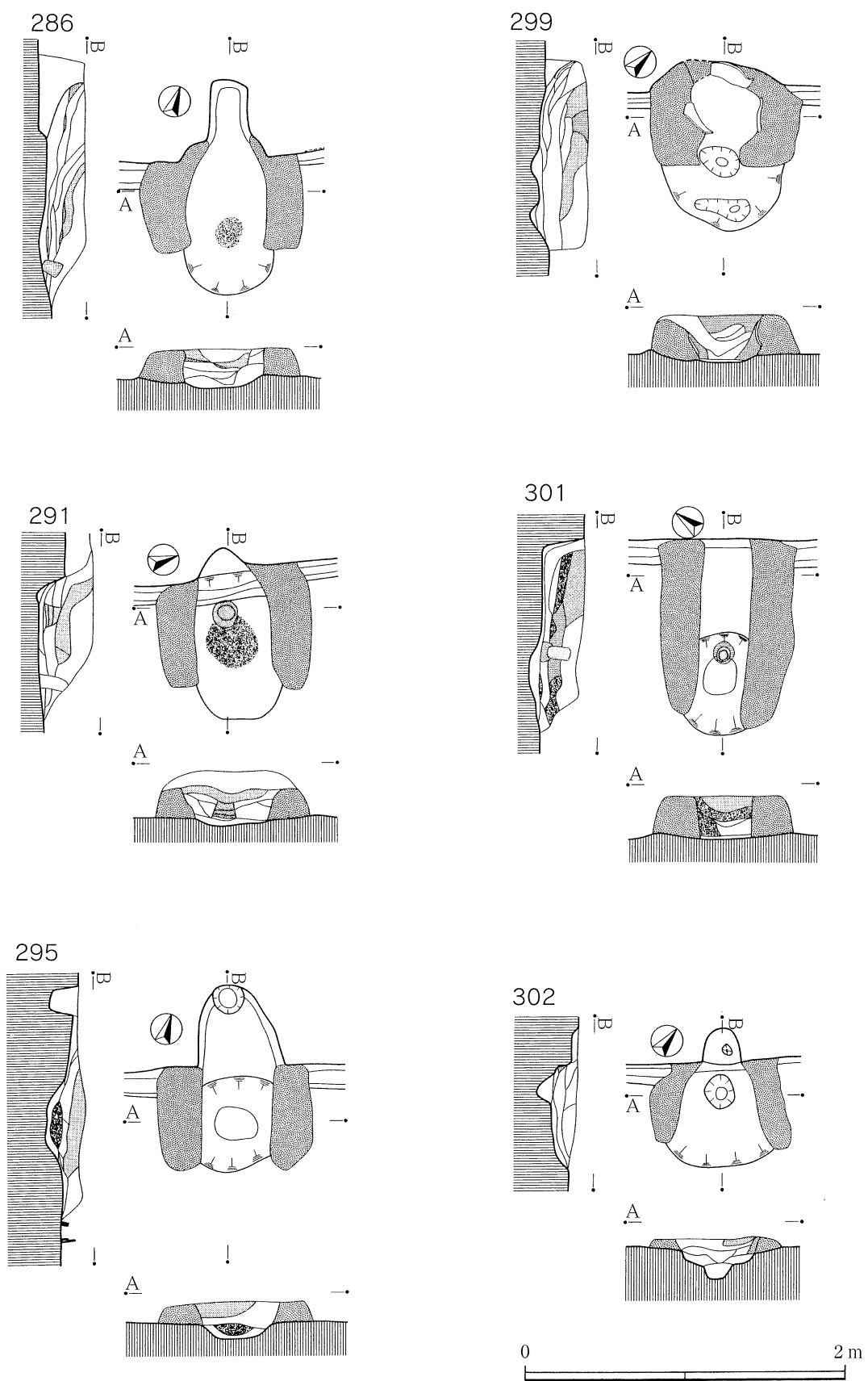
北東壁右寄りに造られている。右に貯蔵穴がある。カマド本体は奥行き90cm、幅100cm、高さ23cm。煙道は幅32cmの弧状に15cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は36cm。基礎は全体に浅く掘り込み、その縁に袖を造っている。煙道奥に粘土が貼ってあり、それから下の土はカマド基礎の埋め土である。左袖際に粘土があり、上に高杯（第110図12・13）を載せて支脚としている。高杯は2点あり1点はカマド前に3点並ぶ土器と同様に器として使用していたものである。支脚周囲のみ焼土があり、それ以外は炭化物層である。天井は左袖近くでは検出できず一段下がっているが煙道を除きほぼ全体に粘土が残っている。粘土の下は支脚付近で焼けている。

(102) 285号住居跡カマド（削平される）

カマドは北東壁に造られていた。286号住居跡によって削平され、貼床されている。

(103) 286号住居跡カマド 第140図

北西壁中央に造られている。煙道は290号住居跡覆土中に造られている。カマド本体は奥行き62cm、幅105cm、高さ23cm。煙道は幅26cmの長方形に50cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は50cm。壁溝がカマド下で58cm途切れる。袖基部は広がった煙道部に取り付けられ、粘土が20cmほど延びている。煙道と一体に床を楕円形に8cmほど掘り下げ、ほぼ埋め戻し基礎にしている。中央に27×18cmの火床がある。煙道底に薄く粘土が敷かれる。火床上に炭化物層が若干あるが焼土層はない。天井は両袖をつなぐ形で下に落ちながらも残っている。火床付近では粘土の下が焼けている。



第140図 286・291・295・299・301・302号住居跡カマド

(104) 291号住居跡カマド 第140図

西壁右寄りに造られる。煙道は292号住居跡覆土中に造られている。カマド本体は奥行き80cm、幅98cm、高さ30cm。煙道は幅30cmの半円形に17cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は46cm。楕円形に浅く掘り込み壁溝とともに埋め戻し基礎にしている。奥から15cmに粘土を積み上げた土製支脚がある。粘土は3層に分かれ下は焼けておらず、上に行くほどよく焼けている。支脚の前35×30cmに火床がある。天井は支脚の上まで落ちた状態で粘土が残る。煙道部と火床近くで焼けている。

(105) 295号住居跡カマド 第140図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き70cm、幅90cm、高さ15cm。煙道は幅44cmのU字形に52cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は44cm。カマド下で壁溝が80cm途切れる。床を楕円形に11cm掘り下げ半分埋め戻し基礎にしている。中央が火床で厚く焼土が堆積している。焼土の手前と煙道部に若干炭化物が残る。天井は左袖寄りに粘土が厚く残る。煙道先端に小ピットがあるが後世のものである。

(106) 299号住居跡カマド 第140図

北西壁やや右寄りに造られる。煙道は298号住居跡覆土中に造られている。カマド本体は奥行き50cm、幅96cm、高さ25cm。煙道は幅45cmの弧状に20cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は42cm。煙道は298号住居跡覆土中のため幅は不明、壁外に20cm以上出る。甕の破片を両袖・煙道奥に貼り付け補強している。カマド内に焼土はあまり残らず、煙道部に炭化物層が若干残るだけだった。両袖脇に天井が崩落した軟質の粘土が堆積している。天井は右袖寄りに粘土が残る。

(107) 301号住居跡カマド 第140図

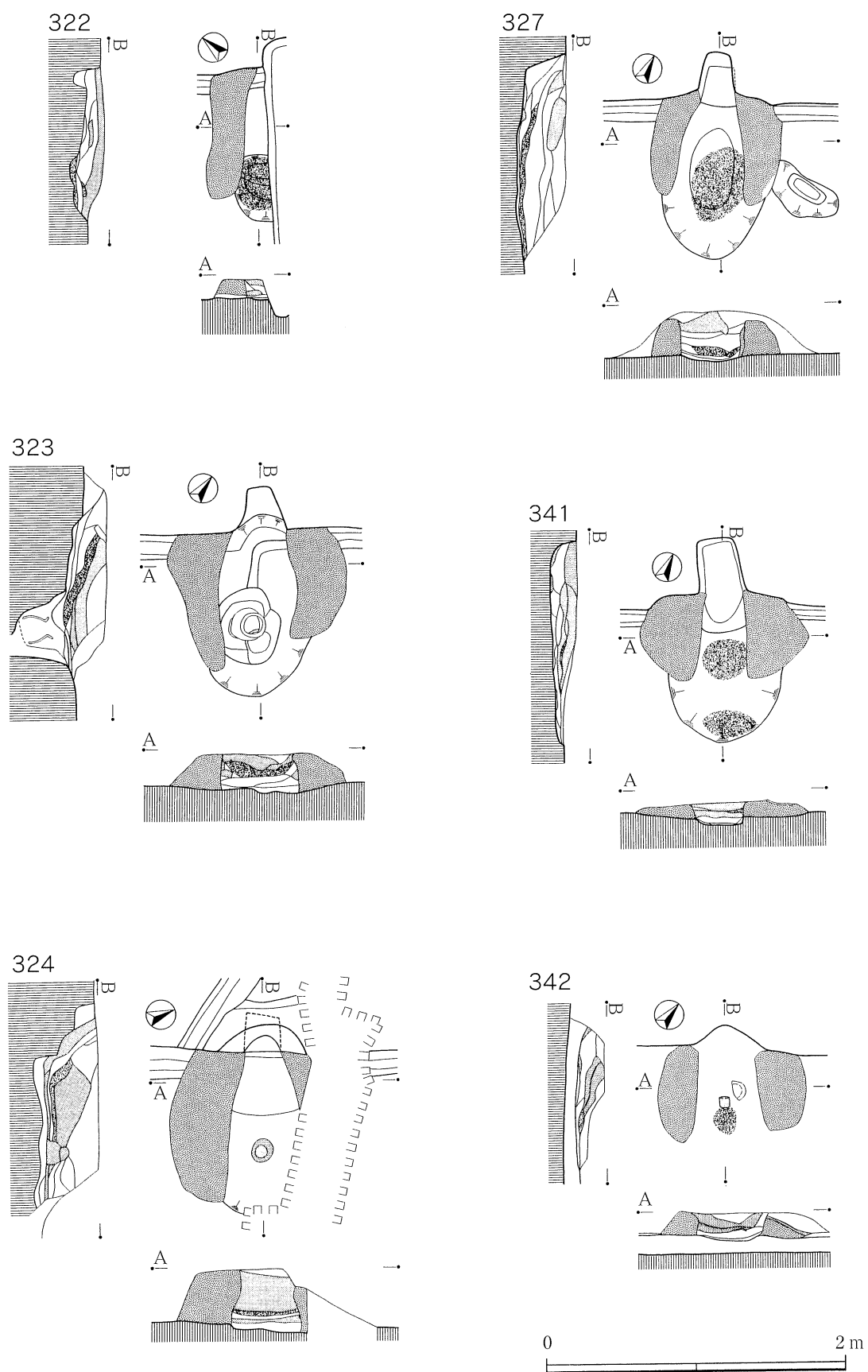
北東壁やや右寄りに造られる。カマド本体は奥行き125cm、幅90cm、高さ27cm。煙道は幅28cmで壁外に出ない。両袖中央部での間隔は30cm。奥から60cmに基部を粘土で固定した土製支脚がある。下層は支脚の前から煙道にかけて灰が堆積している。その上に焼土があり、天井は奥ではほぼ元位置、前は支脚の付近まで落ちて粘土が検出された。

(108) 302号住居跡カマド 第140図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き58cm、幅89cm、高さ6cm。煙道は幅22cmのU字形に23cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は44cm。カマド下で壁溝が途切れカマド右には壁溝がない。天井は右袖際に粘土が若干残るのみで、焼土・粘土などはほとんど残っていない。

(109) 322号住居跡カマド 第141図

北東壁右寄りに造られる。右に貯蔵穴がある。右半分は324号住居跡に削平される。カマド本体は奥行き90cm、幅41cm以上、高さ12cm。煙道は壁外に出ない。奥から55cmに楕円形の窪みがあり焼土が堆積する火床となる。天井の粘土は下に落ちて検出された。



第141図 322・323・324・327・341・342号住居跡カマド

(110) 323号住居跡カマド 第141図

北西壁に造られる。カマド本体は奥行き95cm、幅123cm、高さ21cm。煙道は幅34cmの台形に30cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は42cm。煙道は322号住居跡覆土中に造られる。煙道と一体に楕円形に掘り込んで基礎にしている。下に322号住居跡の柱穴がある。柱穴とは別にピットを掘り底部欠損の甕（第121図4）を置いている。このピットと甕はカマドの基礎に伴うものと思われる。天井の粘土は右袖際以外カマド内に残る。天井の下に焼土が堆積している。

(111) 324号住居跡カマド 第141図

北西壁中央に造られる。右脇に貯蔵穴がある。右袖の大部分を攪乱溝が破壊している。カマド本体は奥行き104cm、幅95cm以上、高さ37cm。煙道は幅24cmの方形に25cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は50cm。壁溝から一体に掘り窪め埋め戻し基礎にしている。煙道を含め底には粘土を敷いている。奥から60cmに粘土で基部を固定した土製支脚がある。支脚から奥に下に炭化物層、上に焼土層が煙道まで続いている。天井は支脚を埋めるように落ち、厚く粘土が残っている。

(112) 327号住居跡カマド 第141図

北西壁右寄りに造られる。カマド本体は奥行き68cm、幅80cm、高さ30cm。煙道は幅22cmの台形に30cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は42cm。基礎は浅く掘り窪めているが特に埋め戻してはいない。掘り込みの中央右袖寄りに51×38cmの火床がある。火床の奥に炭化物層があり、カマド内ほぼ全面に焼土層が広がる。天井は煙道手前に粘土が残るほか、焼土までの層は粘土が多く含まれ天井が徐々に崩落したものである。

(113) 341号住居跡カマド 第141図

北西壁中央に造られる。カマド本体は奥行き60cm、幅118cm、高さ10cm、壁外に10cm突出する。煙道は幅24cmの長方形に50cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は30cm。カマド下で87cm壁溝が途切れ、袖基部を壁外に10cm出すなど企画性が認められる。中央部に径30cmの火床があり、手前にも楕円形に焼けた部分がある。火床上に炭化物層、その上に天井が焼け落ちた焼粘土層があり最上層に天井の粘土がある。

(114) 342号住居跡カマド 第141図

北西壁に造られる。カマド本体は奥行き69cm、幅100cm、高さ18cm。煙道は幅38cmの弧状に20cm壁外に出る。両袖中央部での間隔は40cm。135・136号住居跡覆土中に造られるため煙道部などは不明瞭な部分がある。中央に径20cmほどの火床がありその奥に土製支脚が倒れて出土している。煙道に粘土を貼る。火床付近に炭化物層が広がりその上に焼土がある。天井は下層が焼けた粘土がカマド内に広がる。右袖上から右側に貼床状に硬化粘土が続いている。

3 土器以外の住居跡出土遺物

a 土製支脚

弥生時代終末から古墳時代の前期、中期前半の炉および中期後半から後期にかけてのカマドに付随して出土する土製支脚が台遺跡B地点でも検出されている。カマド一覧表中に土製支脚の有無、形状等は記述しており、本項では現物が遺存していた土製支脚について述べる。支脚として単体で作ったものを土製支脚、粘土の上に土器を置いて支脚としたものを転用支脚としている。土製支脚は22軒27点、転用支脚は5軒5点と計27軒32点が出土している。

他に002・081・190・301号住居跡で元位置で、010・045・286・342号住居跡で横転した状態で土製支脚が出土しているが崩壊しており遺存していない。第143図13・17のような円錐形だった。

047・196・274号住居跡では上に高杯や土器底部が載せられていた粘土塊があるがこれも崩壊あるいは現物が遺存せず図示できなかった。

この他にも100・110・184・186・218・324号住居跡で基部がカマド内に固定された状態でカマド実測図中に示されているが遺存していない。

022号住居跡出土転用支脚

第21図1・2の高杯を伏せて支脚に転用している。1の杯部を伏せて固定しており、2は離れている。同一個体だが間が欠けており接合しない。

039号住居跡出土土製支脚 第29図2

住居跡北西寄りに炉を持つ住居跡で、炉器台で高さ124、口径104、脚端径136mmの完形で、炉の中央に横たわった状態で出土している（図版7－8）。

046号住居跡出土土製支脚

カマド構築の際の基礎となる掘り込みの中央に粘土を積み、その上に第32図12の甕を伏せて置き支脚としている。甕の口縁部近くまで掘り込みを埋め戻し火床にしている。

057号住居跡出土土製支脚 第142図6

北東壁にカマドを造る住居だが、カマドを含む北東部は区域外にあり、調査していない。土製支脚は、高さ72、幅44cmの円柱状の小片で他の土器片とともに出土している。

062号住居跡出土土製支脚 第142図8

弥生期の住居跡で、高さ62、幅66mmが残る烏帽子形支脚の三角形状の頂部破片で344号住居跡出土例などに近い形となり、重複する188号住居跡の遺物である。

072号住居跡出土土製支脚 第142図9・10 表9－2

072号住居跡は北東壁にカマドを造る住居だが、カマドを含め建て替えられている。

9は、他の土器片とともに出土しており新しいカマドに伴うものだろう。円筒状の頂部で、高さ

103、径64mmが³残存する。表9－2は、9の支脚の下部の破片と付着していた土である。

10は、新しいカマドの左袖脇の壁際から出土しており、造り替える前のカマドで使用していたもの
のようだ。裁頭円錐形で基部は欠損し、高さ158、径80mmが³残存する。

076号住居跡出土転用支脚

077号住居跡覆土中に造られているために、詳細が不明瞭なカマドの中央に第47図2の高杯を伏せて置き支脚としている。焼土の上に置かれ、周囲は天井の落下した粘土で覆われている。

083号住居跡出土土製支脚 第142図1

遺構北西寄りに炉を持つ住居跡で、残存状態から炉周辺の出土と思われるが、出土状況は記録されていない。高さ110、幅90、奥行84mmの烏帽子形支脚で、くの字状に屈曲する背面は、火の当たり
りが悪く完全には土器化しておらず欠損している。前面には制作時の凹凸が³残る。

085号住居跡出土土製支脚 第142図7

北西壁のカマドを造る住居跡で、左袖寄りで出土している。高さ84、幅58mmが³残存する角柱状の
頂部破片である。

125号住居跡出土土製支脚 第142図11

北西壁にカマドを造る住居跡で、土製支脚はカマド外から出土している。上下の径があまり変わらない円筒状で、基部まで残っている。高さ198、最大径64mmを測る。

128号住居跡出土代用支脚

北東壁にカマドを造る住居跡で、左袖寄りに第66図1の高杯を伏せて置き支脚にしている。火を受けて器表が剥離している部分があり、脚端は欠けている。

131号住居跡出土土製支脚 第142図12 表12－2

北西壁にカマドを造る住居跡で、カマドの外で出土している。裁頭円錐状の頂部破片で高さ105、
最大径62mmが³残存する。表12－2は、12の下部の破片と付着していた土である。

140号住居跡出土土製支脚 第143図13

北西壁にカマドを造る住居跡で、カマド中央の落下した天井の粘土の間から出土している。中央を
欠損し、2片に分かれ接合しない。カマド実測図に入っているのは、基部で残りがよい。円筒状で高
さは、2片合計で188、最大径78mmを測る。

145号住居跡出土転用支脚

北東壁にカマドを造る住居跡で、左袖に接するように、第77図1の高杯を伏せて支脚としている。
支脚から前に焼土が広がり、全体に落下した天井の粘土に覆われている。

161号住居跡出土土製支脚 第142図2～4

炉上に烏帽子形の支脚3点がほぼ使用状態のまま出土している（図版25－5）。脇に第74図2の高杯が出土している。支脚上に載せられていた可能性がある。図版93に配置を復元した写真を載せた。

2は、高さ140、幅100、奥行き110mmで、くの字状に屈曲し背面に指先で粘土を寄せ集め取っ手状に加工したものが顕著に残る。3は、高さ138、幅102、奥行き109mmで、2と同様の形態で背面の取っ手状の部分がやや小さい。2・3ともに、胎土に径10mm以上の小石が多く含まれている。4は、高さ129、幅100、奥行き110mmで、やや高さが低いが他の2点と形状は同様である。

172号住居跡出土土製支脚 第143図14 表14－2

北東壁にカマドを造る住居跡で、カマド中央に据え付けられた状態で検出された。高さ160、径100mmの円筒状で上部は削平されている。表14－2は接合できなかった破片である。

182号住居跡出土土製支脚 表25

北東壁にカマドを造る住居跡で、カマド中央に粘土製の支脚がある。さらに奥に第90図4の高杯があり上部に載っていたと考えられる、支脚は遺物取り上げ後乾燥し細片となって実測できなかった。

194号住居跡出土土製支脚 第143図15

北西壁にカマドを造る住居跡で、カマド中央の浅いピットに粘土を埋め、その上に円筒状に粘土を積みカマド内で焼成して支脚を造っている。そのため、基部の火の当たりの弱いところはほとんど粘土のままで、頂部のみが土器状に焼けて残っていた。高さ75、径54mmほどが残存する。

228号住居跡出土土製支脚 第142図5

周りを他の住居跡に削平され北西壁と炉だけが残った住居跡で、炉の北側の壁際で検出された。161号住居跡出土例と類似した烏帽子形の支脚だが、高さ110、幅72、奥行き72mmと小振りである。背面の取っ手状の部分は高い位置にあり、あまり屈曲しないなどの差が見られる。

236A号住居跡出土土製支脚 第143図16～19 表18－2

北東壁にカマドを造る住居跡で、カマドの左側の壁に沿って並んで出土した。236B号住居跡に遺構の中央を削平される住居跡だがその範囲外で、カマド内の出土ではないが本遺構に伴う遺物である。

16は、裁頭四角柱の頂部破片で、高さ75、幅49mmが残存する。

17は、裁頭円錐状で2片に割れるが接合された。高さ248、径82mmが残り基部は残っていない。

18は、裁頭円錐状で高さ189、径78mmが残っており下部は欠損している。

19は、基部の破片で高さ46、幅86、奥行き66mmが残っている。18・19は、胎土。焼成から同一個体と考えられる。表18－2は、両者の中間部の破片である。

243号住居跡出土土製支脚 第143図20

北西壁にカマドを造る住居跡で、左袖寄りに粘土を積み上に第102図2の高杯を載せている。下部

は焼けておらず残らないが高杯の直下がカマド内の高熱で土器状になり高杯に焼き付いていた。現状で高杯も含め高さ116、幅104mmが残る。

248号住居跡出土土製支脚第143図21

北西壁にカマドを造る住居跡の、南東コーナー近くから検出された。高さ73、径72mmの円筒状の中間部の破片である。

270号住居跡出土転用支脚

南東壁にカマドを造る住居跡で、カマド中央に下を焼土で固定して、第106図6の甕が伏せて置かれていた。甕の内部は下1/3ほどに固定のための焼土が入っているが、上は空洞のままだった。

291号住居跡出土土製支脚 第143図22

西壁にカマドを造る住居跡で、カマド内に粘土を積み上げて支脚を造っている。下は全くの粘土のままで現存部の上部でわずかに焼けている。図示した支脚は、現存部のさらに上の部分の硬く土器状に焼けた頂部で、天井の落下などでカマド内に散乱したものである。

292号住居跡出土土製支脚 表26

北西寄りに炉を持つ住居跡で、炉の北西から2カ所に分かれて検出された。合わせて1.5kgほどだが、原形を留めず崩れている。

323号住居跡出土土製支脚 表27

北西壁にカマドを造る住居跡で、小片でさらに細かく割れており実測できなかった。

344号住居跡出土土製支脚 第143図23・24、表23-2

北西寄りに炉を持つ住居跡で、北東コーナー近くから23の基部、炉上から24の頂部が検出されている。同一個体ですぐ上に載るものと思われるが接点がない。重ねておき当時の様子を復元した写真を図版93に載せている。表23-2は接合しない中間部の破片である。

弥生時代終末から古墳時代前期の土製支脚には、039号住居跡出土例のように器台状に焼成した炉器台、161号住居跡出土例のように丁寧に形づくり事前に焼成した烏帽子形支脚。344号住居跡出土例のように同形の粘土塊を炉上に置きそのまま使用したものの3つのパターンが見られたが、遺構数に比べ出土数は少なかった。支脚を伴うとしても、最後の例のように炉に粘土を置くだけことが多いのか遺構内に粘土が残るものについては支脚の使用を考慮した方がよいかもしれない。

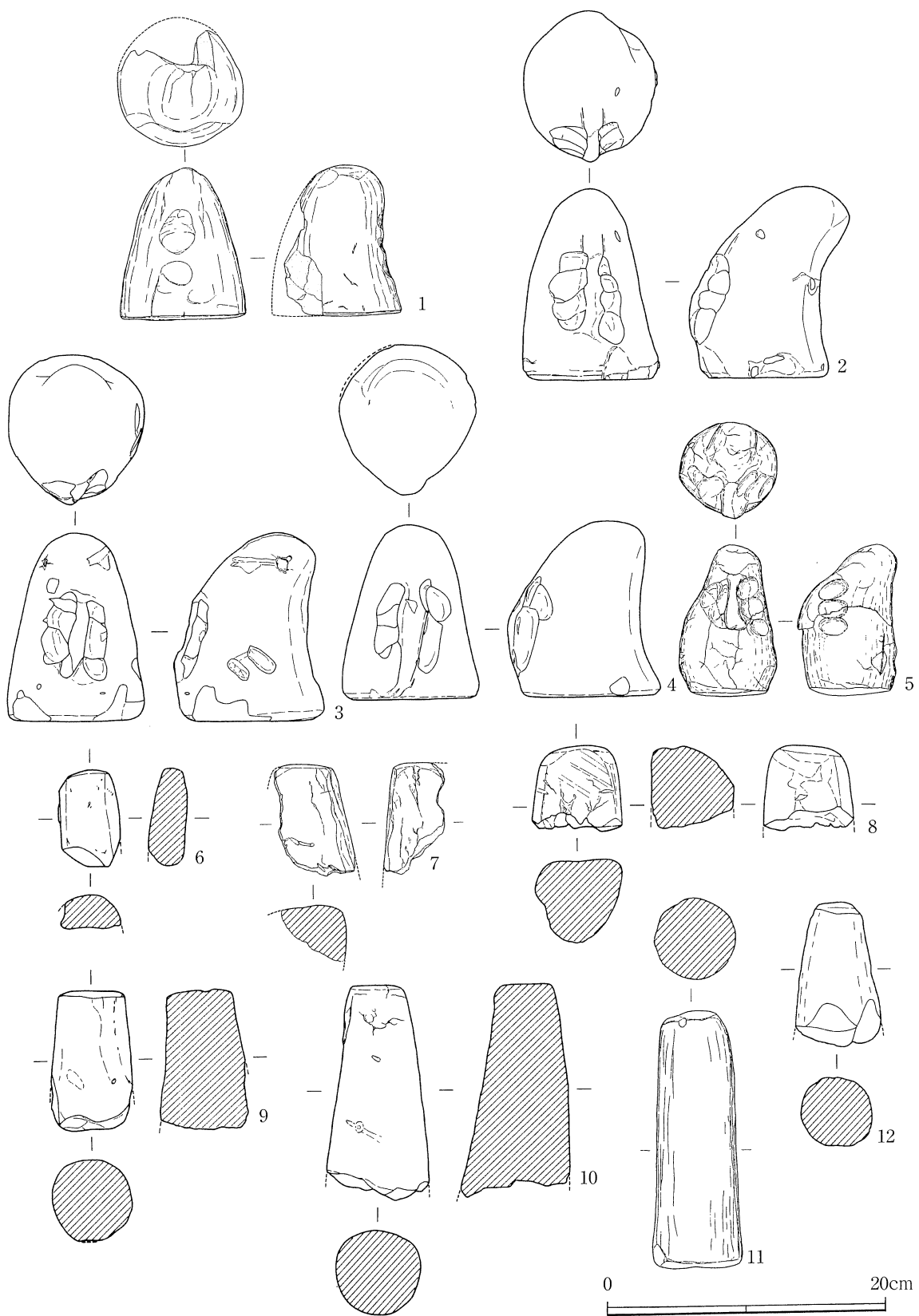
古墳時代中期後葉以降のカマドは、粘土塊を置くだけのものを含めカマド実測時に支脚ありとされたものと、カマド内では支脚が検出されなかったが遺構内から出土した例を合わせて45例が確認された。しかし実測できたもの16個体、取り上げたものの崩れていて実測できなかったもの3点と半分以下しか取り上げることができなかった。

002・047・190・194号住居跡のようにカマド実測図中に全形が残った状態で記録されていながら現物の残らない土製支脚が多い。特に190号住居跡例は、土製支脚がカマド内に2基並列して設置され、土器を掛ける方法を知る手がかりになる好例である。B地点では、土器が並列してカマドに掛けられたことが分かる例は、この例を除き165・218号住居跡の2例のみである。

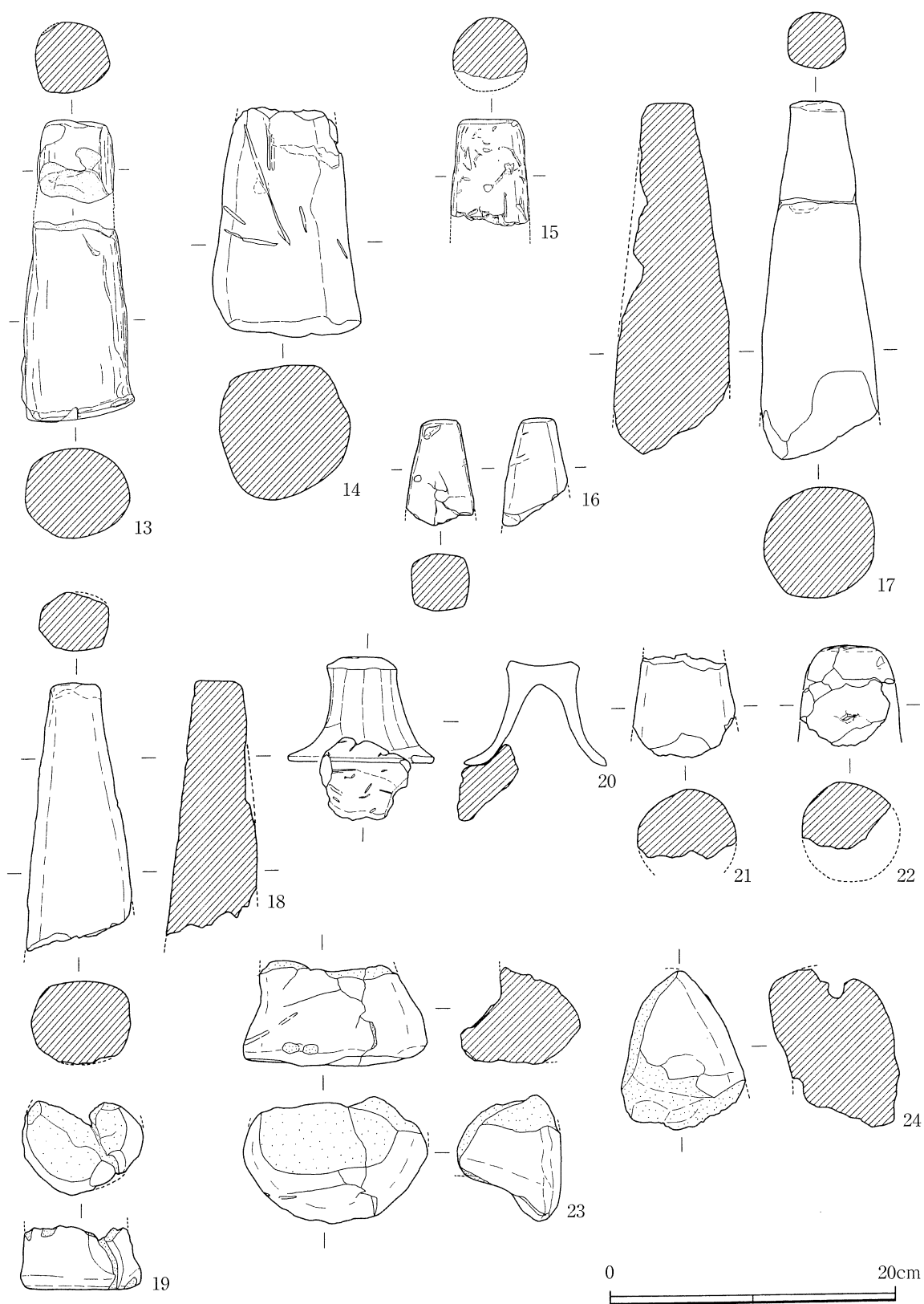
カマド実測が遺構実測、写真撮影等の作業が終わってから行われ、乾燥によるヒビや崩壊が始まっていたために取り上げられなかったこともあるが、支脚の制作方法にも理由がある。125・140号住居跡例など保存状態のいい支脚は基部から頂部まで同じように焼成されているが、194・243号住居跡例のように頂部のカマド内で火のよく当たる部分だけが硬く土器状に焼け、中間部から基部にかけては表面が焼けているだけの状態ですぐに崩壊が始まってしまう。カマド制作の企画性の高いものほど、カマド構築当初から袖や支脚の位置を決め粘土を積み上げており、全体が一連の作業だったようである。

表3 土製支脚一覧表

挿図	番号	出土遺構	時 期	形状・状態	高さ	幅	奥行	重量
142	1	083号住居跡	古墳時代前期	背面欠	110	90	84	500
142	2	161号住居跡	古墳時代前期	完形、支脚2～4は3点一組で出土	140	100	110	880
142	3	161号住居跡	古墳時代前期	完形	138	102	109	950
142	4	161号住居跡	古墳時代前期	完形	129	100	110	820
142	5	228号住居跡	古墳時代前期	完形	110	72	72	400
142	6	057号住居跡	古墳時代中期後葉	円柱状破片	72	44	26	70
142	7	085号住居跡	古墳時代後期	角柱状頂部破片	84	58	45	114
142	8	062号住居跡	古墳時代前期	三角形状頂部破片	62	66	60	192
142	9	072号住居跡	古墳時代後期	円柱状上部	103	62	64	370
	9-2	072号住居跡	古墳時代後期	支脚9の破片と付着した土				200
142	10	072号住居跡	古墳時代後期	円柱状基部欠損	158	76	80	660
142	11	125号住居跡	古墳時代後期	円柱状基部欠損	198	64	58	620
142	12	131号住居跡	古墳時代後期	円柱状上部破片	105	62	58	220
	12-2	131号住居跡	古墳時代後期	支脚12の基部破片と付着した土				432
143	13	140号住居跡	古墳時代後期	円柱状中間欠損、2片接合せず	188	78	67	740
143	14	172号住居跡	古墳時代中期後葉	円柱状上下欠損	160	100	103	1000
	14-2	172号住居跡	古墳時代中期後葉	支脚14の破片				68
143	15	194号住居跡	古墳時代後期	円柱状頂部破片	75	54	44	152
143	16	236号住居跡	古墳時代中期後葉	角柱状頂部破片	75	49	48	104
143	17	236号住居跡	古墳時代中期後葉	円柱状基部欠損、2片接合	248	82	80	1310
143	18	236号住居跡	古墳時代中期後葉	円柱状基部欠損	189	78	66	460
	18-2	236号住居跡	古墳時代中期後葉	支脚18・19の間の破片				850
143	19	236号住居跡	古墳時代中期後葉	円柱状上欠損、支脚18の基部	46	86	66	312
143	20	243号住居跡	古墳時代後期	頂部破片、高杯脚部を頂部に取り付ける	116	104	100	52
143	21	243号住居跡	古墳時代後期	円柱状中央部破片	73	72	50	198
143	22	291号住居跡	古墳時代後期	円柱状頂部破片	70	66	49	140
143	23	344号住居跡	古墳時代前期	基部	39	64	43	450
	23-2	344号住居跡	古墳時代前期	支脚23・24の接合しない破片				1550
143	24	344号住居跡	古墳時代前期	頂部、欠損多い	57	44	43	450
	25	182号住居跡	古墳時代中期後葉	細片となり実測せず				850
	26	292号住居跡	古墳時代前期	原型とどめず崩れる				1500
	27	323号住居跡	古墳時代前期	崩れて実測せず				124



第142図 土製支脚 (1)



第143図 土製支脚 (2)

b 管状土錘（第144・145図）

粘土を筒状に整形し焼成した管状土錘が17点出土している。漁網の錘などに使用されたものとされている。出土遺構は弥生時代後期 2 軒 3 点、古墳時代前期 1 軒 1 点、古墳時代中期後葉以降 4 軒 11 点、不明 2 点と古墳時代中期後葉以降が比較的多くなっている。

形態は 1 に代表される円筒形で両端の丸みがあるもの、5 に代表される両端が徐々に細くなる紡錘状のもの、11 のように端部の丸みが弱く径に比べて長さの短いものに分かれる。重量は、全体の点数が少ない上に完形品といっても傷が多く、はっきりした数字を出すことは難しいが、100g 以下・100～150g・150～250g・250g 以上の 4 段階に分けられるようである。

250g 以上は、1・12 の 2 点で円筒形で両端に丸みのある形をしている。15 も破片で 100g を超えていることからこのグループである。

200g 前後のものとして 7・8・14 の 3 点がある。13 もその径からこのグループである。7・8 は、円筒形で両端に丸みのあるもの、13 は 14 両端が細くなる紡錘状の形をしている。

100～150g の範囲に入るものは、5・17 で紡錘状の形態である。同様の形態で径も近い 2・4 もこのグループである。

100g 以下は、完形では 16 しかないが、欠損品のなかで細身の 3・6 もこのグループである。いずれも紡錘状の形態である。

10・11 の 2 点は、円筒形で長さが短く別のグループになる。

管状土錘の孔口の一端または両端が欠ける例が多い。10・11 のグループ以外の遺物では全てに観察される。漁網に取り付けて使用しているときに欠けたものだとすると、10・11 に付いては別の使用方法を考えた方がいいのかもしれない。

漁網の錘は、対象魚によって重量が決まっているようで、台遺跡下の養老川や東京湾でどのような魚の捕獲をしていたかを解明する手がかりになるだろう。

c 土玉（第146・147図）

粘土を球形に整形して焼成した、中央に小孔のある製品に土玉がある。網、ムシロ等の編み物の錘に使用されたのではないかと考えられている。出土遺構は弥生時代後期 1 軒 1 点、古墳時代前期 2 軒 3 点、古墳時代中期後葉以降 8 軒 12 点、中世 1 点、不明 4 点と古墳時代以降が比較的多い。

高さは 26～40mm、径は 27～40mm、重量は 19～54.1g の範囲に収まる。重量については 23.7g と 28.3g の間、34.6g と 38.1g の間で途切れる。この重量で、3・5・8・11・21 の大形のもの、9・10・12・13・14・15・17 の中形のもの、1・2・4・6・7・16・18・19・20 の小形のものの 3 グループに分けて説明をする。

大形のグループには、まず 3・11・21 の高さ 37～38mm、径 35～38mm のほぼ正球形のものがある。重量も 40g 台でそろっている。径が高さより 2～3mm 大きくわずかに扁平なものには 5 の高さ 37mm、径 39～40mm で重量 54.1g と今回紹介する中で最大である。8 は、高さ 40mm と最大だが径が 33.4mm で縦長になる。

中形のグループでは、12～15 の高さと同じくらいで高さ 32～34mm、径 32～34mm のものがある。重量は 31.5～38.1g と大きさが揃う割には重量にばらつきがあるのは使用している粘土の差であ

ろう。これに対し 9・10・17は、高さが36～38mmで径が32～35mmと縦長になる。

小形のグループでは、1・4・19・20の高さ27～31mm、径29～31mmの範囲のほぼ正球形で、重量22.3～23.7gのものと、高さ26mm、径28～33mmで重量18～20.3gの扁平なものに分かれる。

いずれも、細い棒に粘土を巻き付けヘラで整形した後で、ヘラミガキを行っている。棒を抜いたときの粘土が持ち上がった跡が、13・17などに見られる。また棒を抜いた後、孔の周囲をヘラで面取りしているのが7・15などに残っている。

背面から下にかけてを欠損するもの4点、破損して破片になったもの1点、分離はしていないものの大きなヒビが入ったもの3点と、4割近い土玉に内部までの傷が入っている。使用中に何かに叩き付けられることが多かったことを表している。

d 紡錘車（第147図1～7）

7点の紡錘車が出土している。1～4が石製で、石材の鑑定は受けていないが、いわゆる滑石製と呼ばれる軟質の石材である。形態は、下部を面取りした裁頭円錐形で、断面が台形になるのが基調だが、3は、上半に丸みを持ち、4は、肩がはっきりしない。鉄製の刀子で整形されたもので、2には縦方向に削った跡が残る。4点ともに表面に細かい擦痕がある。4には細い条痕があるが、特に模様とか図形を意識したものではない。

5～7は、土製紡錘車で、形態、加工法に若干の差がある。5は、周囲を縦ヘラケズリした後、表裏を横方向にヘラ整形し両面がふくらむ太鼓状になる。孔の部分を若干残した1/3ほどの出土である。6は、裏面を平坦に、表に丸みを持たせて周囲を整形して円盤状に整えている。これも1/3ほどの出土である。7は、二つに割れているが接合して完形となった。両面を平坦に仕上げ周囲を整形しているが、孔が、全ての整形を終わってから棒を引き抜いたように、粘土が一部上に持ち上がっている。

1が023号住居跡、2が122号住居跡、3が125号住居跡、4が出土遺構不明、5が011号住居跡、6が187号住居跡、7が172号住居跡からの出土となっており、1・6が古墳時代前期、他が古墳時代中期後葉～後期の遺構である。ただ、それぞれの遺構が全て他の時期の遺構と重複しており、注記通りの時期かは確かではない。

e 棒状土製品（第147図8）

194号住居跡と2号墳が重複する部分のグリッド下層から出土している。断面円形の棒状の粘土紐を、1回転ひねって焼成している。埴輪や土偶の手などの部分や縄文式土器の装飾部などが考えられるが用途は不明である。

この付近は2号墳のため縄文時代の包含層も残されていることから、この遺物の所属する時期も縄文時代以後のどこになるかは不明である。

f 磨製石鏃（第147図9）

196号住居跡から出土している。黒色の粘板岩と思われる素材で、長さ70、幅36mmで基部が若干欠ける。基部両端に矢柄への固定のための糸掛けの窪みが一對刻まれている。全体に擦痕が多く、特

に刃部で顕著である。

B地点では、このような石製品の出土はこの1例のみで、出土状況が分からず、196号住居跡に所属する遺物かは不明である。

g 滑石製模造品（第147図10～15）

10・11は、勾玉形石製模造品、12～15は双孔円盤形石製模造品である。12・15は円形だが、13・14は方形に近くなる。いずれも出土遺構が不明でB地点にこの時期の遺物があったということが分かるのみである。

h 石製管玉（第147図16）

濃緑色を呈する管玉で、長さ46mm、外径9.3mm、下からの穿孔が主の両方向からの穿孔で、孔径は4mmを測る。弥生時代後期の156号住居跡からの出土となっている。

i 石製小玉（第147図17～20）

17～19は、古墳時代前期の167号住居跡、20は、弥生時代後期の136号住居跡出土となっている。いずれも完形で、20は周囲の面取りの跡が残る。

j 鉄製品（第147図1～148図）

古墳時代中期後葉から後期にかけての住居跡から鉄製品が出土している。注記のラベルが小さなもので、鉄製品に密着していたため、錆で黒化し碎けており所属遺構が判明したのは半分以下だった。また第148図20と図版93-20を比較して分かるように20年を超える時間とともに劣化して碎けて欠けている。そのためB地点の鉄製品の傾向を伝えるにとどまる。

1～5は、鎌と考えられる遺物である。1・2は小形の製品、3～5は大形のものでいずれも完形品ではない。4は、基部を欠損するが他は比較的残りがいい。最大幅30mm、長さ102mmが残る。5は、基部の破片で剥離が激しく破片のかなりな量が接合できなかった。柄の取り付け部が残っているが、裏面は器表のほとんどが剥離している。幅28mm、長さ62mmが残る。

6・7は三角形の矢尻を持つ鉄鏃、8～14は矢尻の小さい鉄鏃と思われる製品だが、13は、上部に飾り状の刻みがある。

15～22は、棒状の形で残っているものだが、15・20が角棒を直角やU字形に曲げたもの、19が丸棒の断片で、他は板状のものの断片である。

23～26は板状のもので、23は六角形の板の左側に菊花状の飾りを付けた飾り金具。24・25は平たい鉄板の破片、27は薄い鉄板を3つに折り曲げたものである。

27は、針金の両側に別の針金を取り付け、上にコイル状に細い針金を巻き付けてある。径10cmほどの容器の取っ手であろう。針金の断面が丸いことから新しいものの可能性がある。

28は、両端に一对の孔がある完形の製品で、飾り金具と思われる。

29は鉄滓、30は鉄銭である。

出土遺構が分かっているのは、002・006・045・072・106・107・193号住居跡の7軒で、106号住居

表4 管状土鐘観察表

挿図	番号	出土遺構	時期	形状・状態	高さ	幅	奥行	孔径	重量
144	1	035号住居跡	古墳時代後期	完形、器表一部欠、縦に亀裂、上下丸みを帯びる	113	47	52	12	268.9
144	2	059号住居跡	古墳時代前期	1/4破片、紡錘状、黄褐色、脆い	95	35	16	12	遺物無し
144	3	101号住居跡	古墳時代後期	上端のみ、上丸みを帯びる、明褐色、軟質。2片接合	78	36	36	14	61.8
144	4	190号住居跡	古墳時代中期後葉	上端のみ、上丸みを帯びる、明褐色、軟質。破損後周囲摩耗	48	47	43	11	64
144	5	050号住居跡	古墳時代後期	完形、紡錘状、茶褐色、黒斑、ヘラケズリ、砂粒目立つ	88	42	42	15	120.5
144	6	101号住居跡	古墳時代後期	下端欠、紡錘状、暗赤橙色	80	34	37	12	81.4
144	7	101号住居跡	古墳時代後期	完形、紡錘状、茶褐色、ヘラミガキ。砂粒多い、やや軟質	112	44	45	13	191.7
144	8	101号住居跡	古墳時代後期	上わずかに欠、円筒状、胴中央円形の窪み	106	48	46	12	208.3
145	9	190号住居跡	古墳時代中期後葉	破片、円筒状、明褐色、孔不明	70	30	46		遺物無し
145	10	193号住居跡	古墳時代後期	1/2破片、円筒状、明褐色、生成されるかやや軟質	58	36	40	11	40
145	11	211号住居跡	弥生時代後期	完形、円筒状、赤橙色、器表軟質	45	36	37	11	57.9
145	12	301号住居跡	古墳時代中期後葉	一部欠、上下丸みを帯びる、表面凹凸激しい。淡褐色から黒褐色、砂粒少ない、脆い	135	54	56	17	367.6
145	13	247号住居跡	古墳時代後期	3片接合、紡錘状、赤みのある黄褐色、脆い	100	46	16	15	77.3
145	14	275号住居跡	弥生時代後期	一部欠、上下丸みを帯びる、裏面剥落多い、淡褐色	115	52	45	15	200.9
145	15	275号住居跡	弥生時代後期	中央部破片、円筒状、外赤褐色、内暗褐色	46	51	47	11	106.5
145	16	不明	不明	完形、紡錘状、器表傷多い	82	36	38	10	90
145	17	不明	不明	完形、紡錘状	102	44	42	15	136.8

表5 土玉観察表

挿図	番号	出土遺構	時期	形状・状態	高	幅	奥行	孔径	重量
146	1	047号住居跡	古墳時代中期後葉	下部わずかにひび割れる	29	31	32	5	遺物無し
146	2	037号住居跡	古墳時代前期	破片	26	27	18	7	遺物無し
146	3	046号住居跡	古墳時代後期	完形、淡赤褐色、ヘラミガキ。砂粒目立たない、重い	38	36	37	6	47
146	4	047号住居跡	古墳時代中期後葉	下部欠、ひびあり。暗赤褐色、ヘラケズリ後ヘラミガキ。下半亀裂多く脆い	30	31	32	5	23.7
146	5	110号住居跡	古墳時代中期後葉	完形、表面傷あり。淡褐色、黒斑、ヘラミガキ。砂粒混、やや軟質	37	39	40	7	54.1
146	6	111号住居跡	古墳時代前期	裏ひび割れる。褐色、黒斑。亀裂多く脆い	26	32	31	6	18
146	7	111号住居跡	古墳時代前期	やや筒状になる、褐色、黒斑、ヘラミガキ、砂粒多い亀裂多く脆い	25	32	33	7	18.3
146	8	115号住居跡	古墳時代中期後葉	完形	40	34	33	6	遺物無し
146	9	115号住居跡	古墳時代中期後葉	完形、器表傷あり。明褐色	36	33	34	5	28.3
146	10	115号住居跡	古墳時代中期後葉	やや筒状になる、完形、器表傷あり。明褐色、ヘラミガキ。砂粒多い、軟質	38	33	33	7	34.5
146	11	122号住居跡	古墳時代後期	やや筒状になる、裏欠、暗褐色、黒斑、ヘラケズリ、砂粒・小石多い	37	36	24	6	26.2
146	12	140号住居跡	古墳時代後期	完形、器表傷あり	33	32	32	6	31.5
146	13	190号住居跡	古墳時代中期後葉	完形、赤褐色、半分黒色	34	34	33	5	34.5
146	14	190号住居跡	古墳時代中期後葉	完形	34	32	33	5	遺物無し
146	15	194号住居跡	古墳時代後期	完形、上孔周囲面取り	32	34	36	4	38.1
146	16	3号台地整形区画	中世	完形、小型、扁平、孔周囲面取り	26	30	29	5	20.3
146	17	289号住居跡	古墳時代前期	完形、器表傷あり、縦長	38	32	35	7	34.6
146	18	不明	不明	完形、器表傷あり	26	28	28	5	19
146	19	不明	不明	完形	31	31	29	5	23.3
146	20	不明	不明	完形、ひびあり	29	29	30	6	22.3
147	21	不明	不明	完形、ひびあり	37	38	35	4	43.2

表6 紡錘車観察表

挿図	番号	出土遺構	時期	形状・状態	縦	横	高さ	孔径	重量
147	1	023号住居跡	古墳時代前期	石製、完形	37	39	18	7	遺物無し
147	2	122号住居跡	古墳時代後期	石製、完形	39	42	23	8	遺物無し
147	3	125号住居跡	古墳時代後期	石製、完形	46	46	20	6	遺物無し
147	4	不明	不明	石製、一部欠	44	44	22	8	遺物無し
147	5	011号住居跡	古墳時代後期	土製、1/3残存	23	43	28	8	21.3
147	7	172号住居跡	古墳時代中期後葉	土製、2片接合完形、明褐色、ヘラミガキ	41	33	16	6	48.5
147	6	187号住居跡	古墳時代前期	土製、1/3残存、淡褐色、ヘラケズリ	50	50	19	7	18.7

表7 石製品・土製品観察表

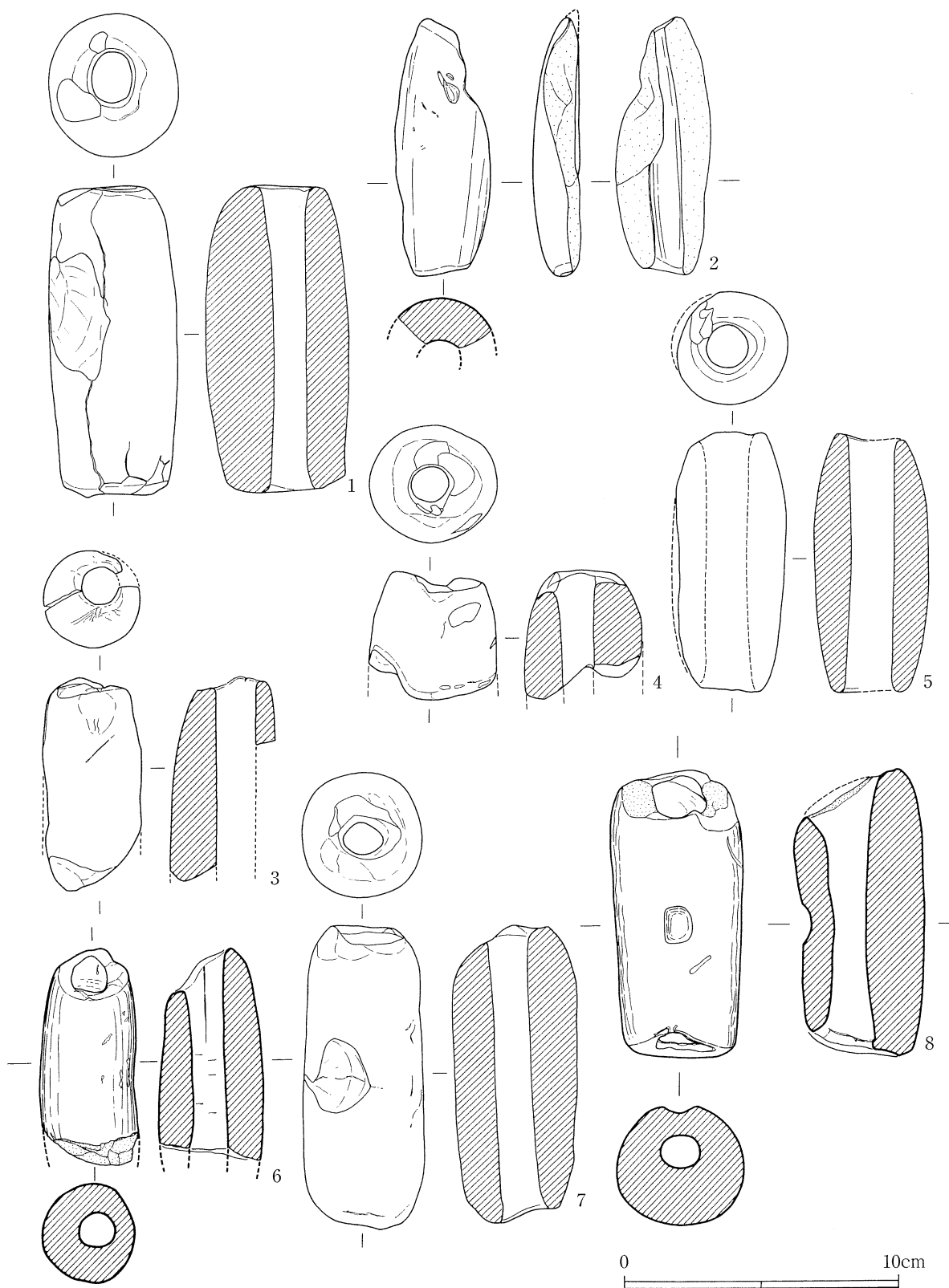
挿図	番号	出土遺構	時期	形状・状態	縦	横	高さ	重量
147	8	196号住居跡	古墳時代中期後葉	磨製石鏃、下欠	72	37	4	遺物無し
147	9	128号住居跡	古墳時代中期後葉	勾玉形石製模造品、完形	39	20	6	遺物無し
147	10	不明	不明	勾玉形石製模造品、下欠	24	20	4	3.5
147	11	不明	不明	有孔円板形石製模造品、完形	37	38	6	遺物無し
147	12	不明	不明	有孔円板形石製模造品、下欠	23	38	5	7.3
147	13	不明	不明	有孔円板形石製模造品、完形	24	46	6	9.4
147	14	不明	不明	有孔円板形石製模造品、完形	29	30	3	5.8
147	15	グリッド4	不明	不明土製品、194号住居跡付近	49	18	11	遺物無し

表8 玉類観察表

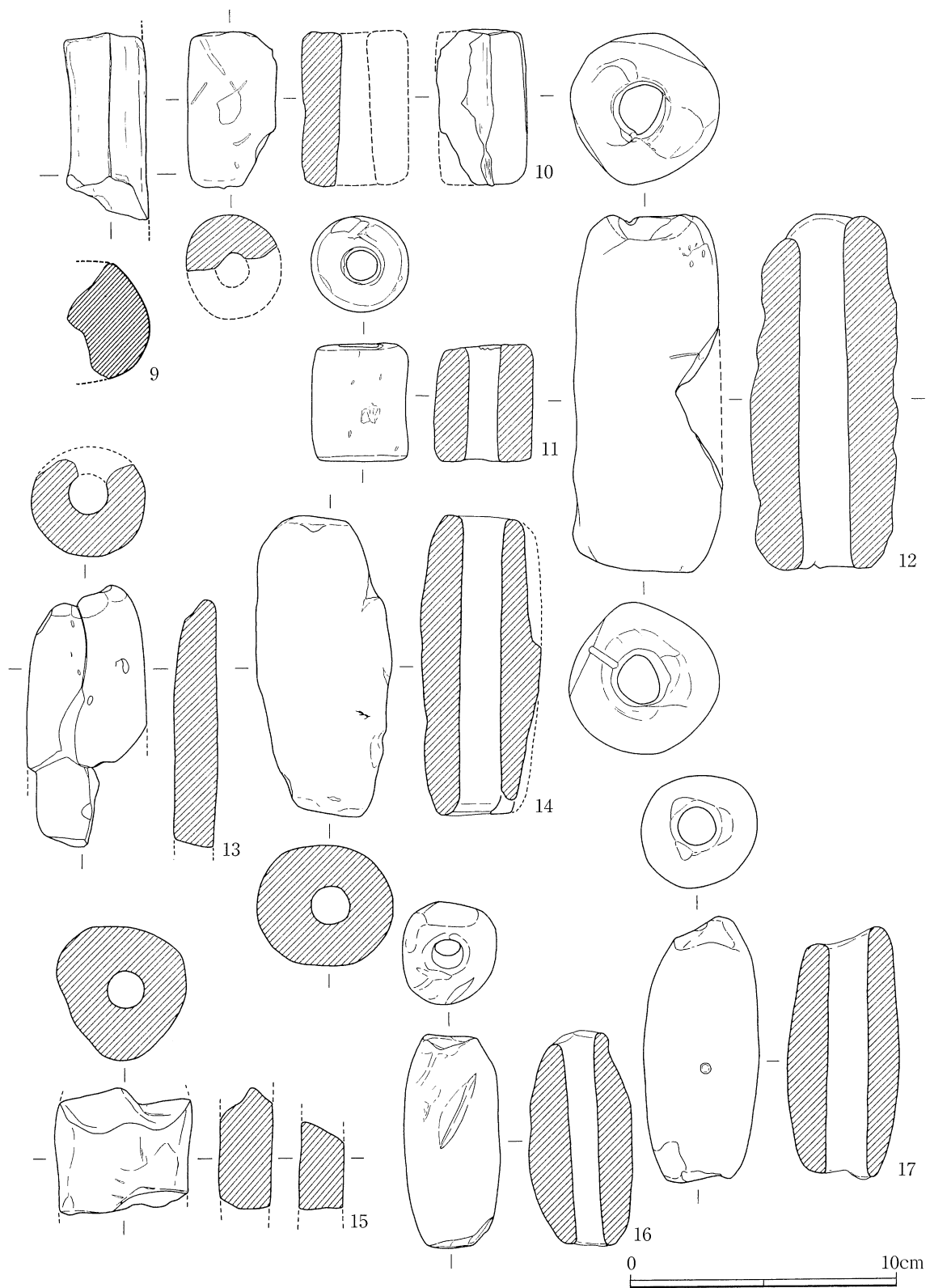
挿図	番号	出土遺構	時期	形状・状態	高さ	短径	長径	孔径	重量
147	16	156号住居跡	弥生時代後期	石製管玉、完形	37	10	11	4	遺物無し
147	17	167号住居跡	古墳時代前期	石製小玉、完形	12	11	13	3	0.3
147	18	167号住居跡	古墳時代前期	石製小玉、完形	12	16	17	2	0.4
147	19	167号住居跡	古墳時代前期	石製小玉、完形	13	15	16	2	0.4
147	20	136号住居跡	弥生時代後期	石製小玉、完形	11	14	16	2	0.3

表9 鉄製品観察表

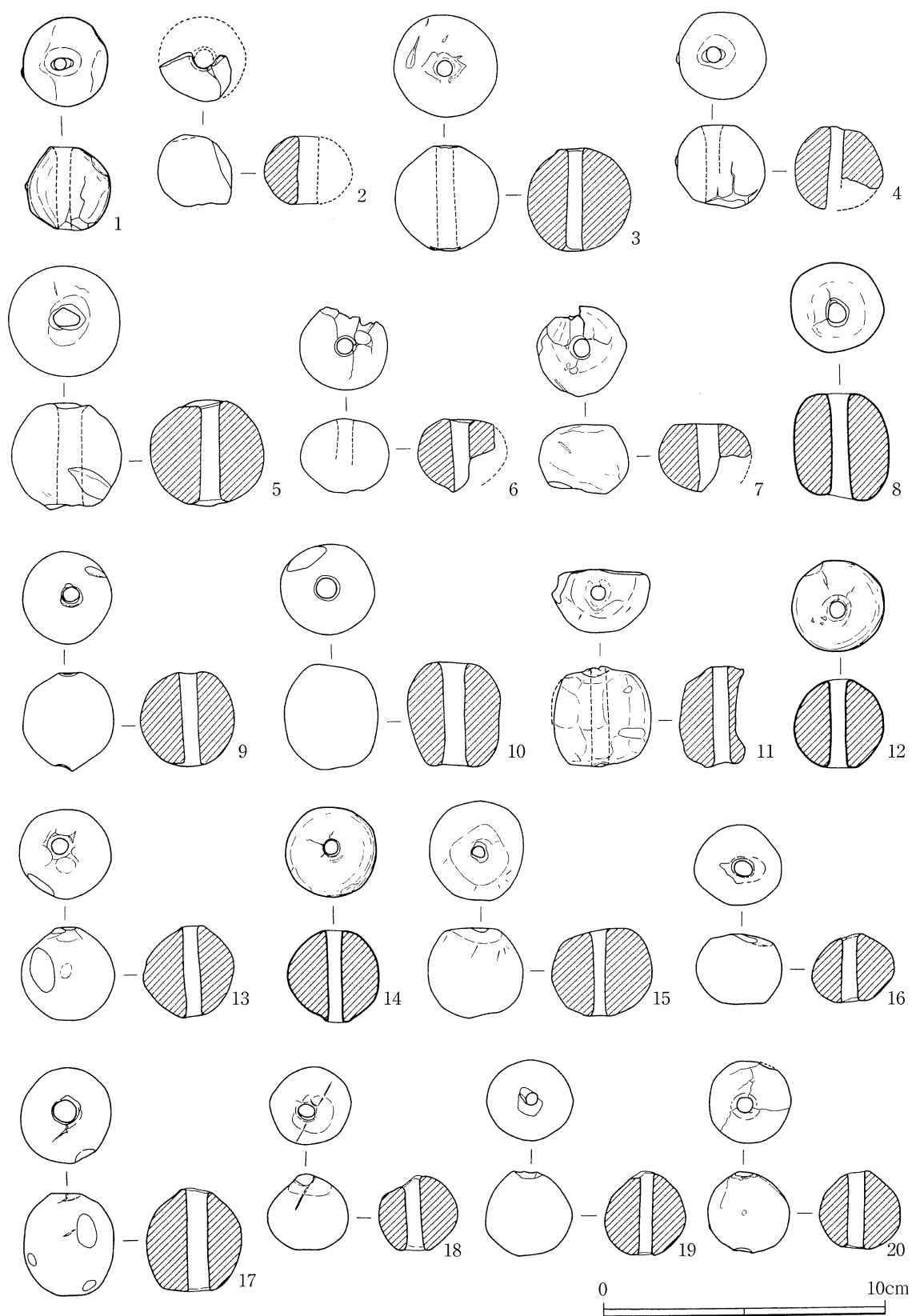
挿図	番号	遺構番号	形状・状態	縦	横	厚さ	重量
147	1	不明	鎌、基部欠	30	101	4	23.1
147	2	不明	小形鎌？、両端欠	20	50	5	7.9
147	3	106号住居跡	鎌？、両端欠	16	52	4	7.4
147	4	不明	鎌？、裏面は栗、上のみ残る	33	54	5	9.6
148	5	107号住居跡	鎌、柄取り付け部残る	29	66	4	12.2
148	6	不明	鉄鏃、柄下欠	53	34	6	6.1
148	7	不明	鉄鏃、完形	90	39	6	11.4
148	8	002号住居跡	鉄鏃	74	7	7	3.7
148	9	不明	鉄鏃	86	6	7	5.7
148	10	不明	棒状	69	6	7	5.1
148	11	不明	棒状	28	6	5	1.9
148	12	不明	棒状	32	10	7	2.4
148	13	045号住居跡	棒状	47	8	5	3.8
148	14	006号住居跡	棒状	86	8	6	7.5
148	15	不明	棒状	42	26	6	5
148	16	不明	棒状	32	6	5	1.6
148	17	不明	棒状	32	6	7	2.2
148	18	072号住居跡	棒状	22	21	6	3.3
148	19	不明	棒状	14	8	6	1.2
148	20	006号住居跡	棒状	38	20	5	6.6
148	21	不明	棒状	15	9	5	1
148	22	072号住居跡	棒状	27	9	7	2.4
148	23	006号住居跡	飾り金具	41	51	12	3.4
148	24	不明	板状	13	34	4	3.5
148	25	002号住居跡	飾り金具	13	12	5	22.7
148	26	006号住居跡	板状	15	24	3	0.8
148	27	不明	取っ手状	45	130	12	10.6
148	28	002号住居跡	留め金具	17	80	3	8.3
148	29	193号住居跡	鉄滓	82	47	45	245.9
148	30	不明	銭貨	24	24	3	3.4



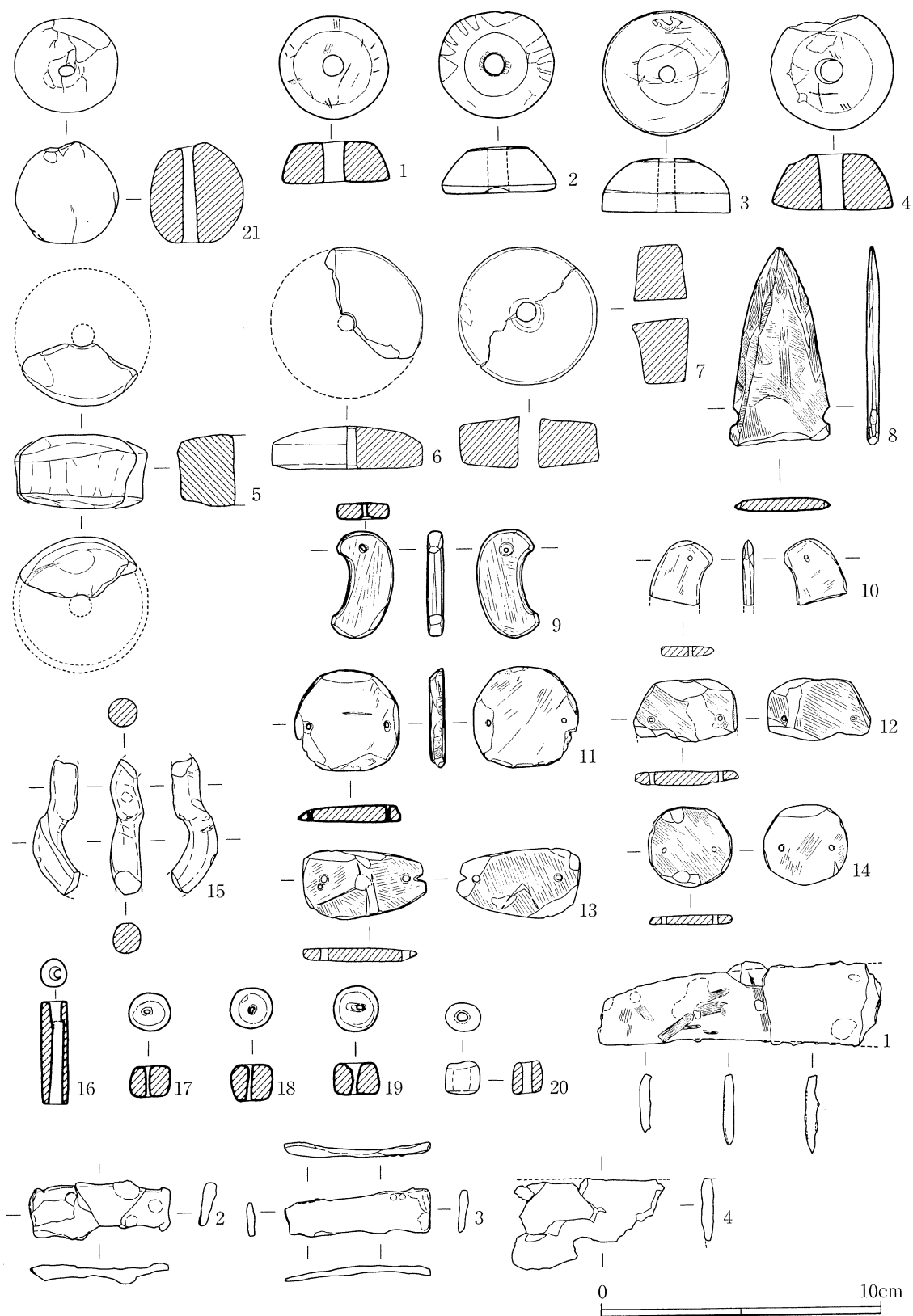
第144図 管状土錘 (1)



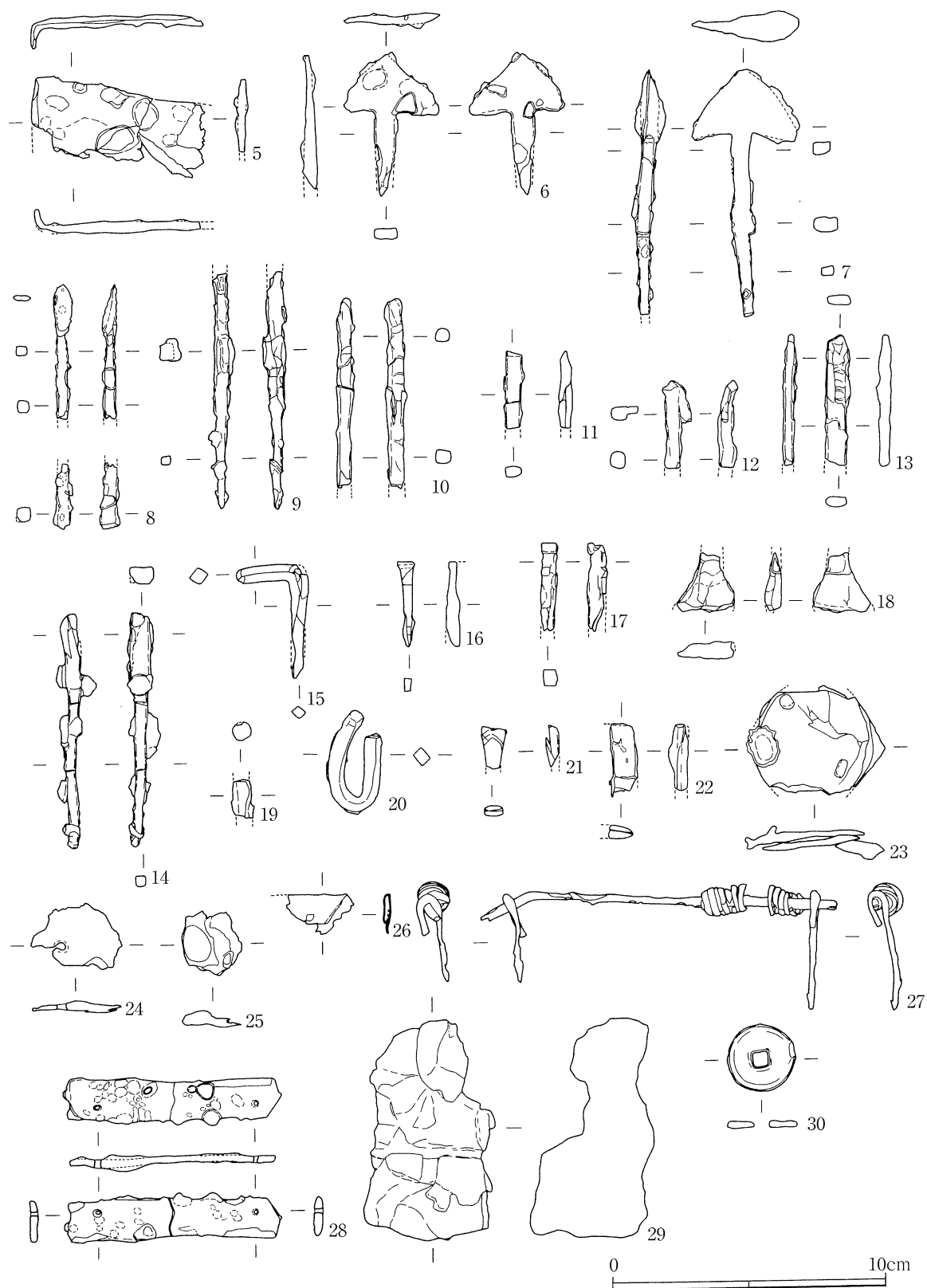
第145図 管状土錘 (2)



第146図 土玉 (1)



第147図 土玉 (2)、石製紡錘車、土製紡錘車、石製品、土製品、玉類、鉄製品 (1)



第148図 鉄製品 (2)

跡が古墳時代中期後葉なのを除き他は古墳時代後期である。

k 砥石（第149～154図）

砥石として取り上げたものは43点である。この中には砥石ではないもの、他の時期の石器を転用して砥石として使用しているものなども混じっている。石材は、凝灰岩、砂岩が多く一部に礫岩や火山岩といった砥石としての使用に向かないものもある。刃先を調整するためや他の材質のものを研磨する用途も考えられる。調査担当者の意向を考え広い意味での砥石としておく。石材の鑑定等を行っていない。

大部分は住居跡からの出土で27点を数え、表採、出土遺構不明が10点、中世の台地整形区画が4点、古代の溝が1点となっている。この内出土遺構不明はB地点調査開始直後のものが多いようで住居跡の遺物の可能性が高い。

出土住居跡の時期は、弥生時代後期6点、古墳時代前期2点、古墳時代中期後葉～後期19点で各時期の遺構数から考えると古墳時代中期後葉～古墳時代後期が特に多いといえる。ただ、中に質感が異なり合成砥石の可能性のあるものがある。中世遺構や攪乱の多い住居跡では近年のものが混入している場合もある。

002号住居跡出土砥石（1）は、扁平で上下を欠損し、左側面はごく一部しか残っていない。表裏を砥面としている。側面も平坦だが制作時のままのようである。

007号住居跡出土砥石（2）は、極めて軟質な石材で、破片となっている。表面に擦痕と刃先による条痕が残るが、他の面は表面が風化し不明瞭である。

019号住居跡出土砥石（3）は、断面五角形に近い不整形な石を使用している。表の2面に擦痕、右側面に条痕が残る。

（5）は、周囲を割り取るように雑に整形しており、正面のみを砥面とし、斜めの刃先痕とそれに直交する擦痕が残っている。

047号住居跡出土砥石（4）は、角などに欠ける部分が若干あるが完形である。手前が広く、厚くなる直方体で、比較的粒子の荒い石材を使用している。置いて使う中砥か荒砥であろう。

057号住居跡出土砥石（42）は、黒色の粘板岩製で、本来は縄文時代の打製石斧である。砥石として再利用されており、表裏に擦痕が残る。特に正面は顕著である。

074号住居跡出土砥石（7）は、粒子の荒い硬質の石質で、正面、左右側面などに窪みがあることから縄文時代の凹石であろう。ただ、表面に擦痕が残ることと住居跡内での出土のため、砥石として再利用していた可能性もある。

075号住居跡出土砥石（6）は、極めて軟質な石材の小破片である。表裏に若干擦痕が残るほか、正面に貫通しない円形の孔がえぐられている。

080号住居跡出土砥石（8）は、扁平に割れた石の周囲を若干調整し、表裏を砥面として使用しており擦痕が残る。裏面には刃先による条痕がある。

097号住居跡出土砥石（9）は、砂岩の自然礫の周囲を若干調整したような不整形な砥石である。各面を使用した痕跡はあるが、火を受けて変色、剥離をしている。正面に残る砥面は擦痕、条痕が顕著で、周囲に浅い摺り鉢状の孔がある。右側面、裏面に刃物で切り込んだ跡がある。置いて使う中砥であろう。

（11）は、凝灰岩質の比較的硬い素材で、黄灰色に縞状に明褐色の筋が入る。断面五角形で、各面ともよく使用されている。特に正面右側は擦痕が顕著である。手持ちで使う仕上げ砥である。

（43）は、400×316mmの大形品で本来は縄文時代の石皿を転用した可能性がある。住居跡のカマド右側のコーナーに据え置かれており（図版16-1・2）、正面に溝状痕が多数残されている。石質も硬い火山岩で、刃物を研ぐという意味ではなく、何かを擦って加工するということで砥石とした。

117号住居跡出土砥石（13）は、砂岩製の直方体の砥石で、各面ともに使用のため大きくえぐれている、上面に樋状の溝がある。手持ちで使う荒砥で、鎌砥であろう。

122号住居跡出土砥石（14）は、3片に割れているが各面ともに使用している。全体に風化しており軟質となっている。手持ちで使う荒砥で、鎌砥であろう。

123号住居跡出土砥石（10）は、大形のものが破損したのか、形態は不整形である。正面と残された側面には擦痕、条痕が多く残っている。

133号住居跡出土砥石（12）は、凝灰岩質の硬い素材で、本来黄灰色が火を受けて黒変する。断面七角形で各面ともによく使用され、特に正面に擦痕が多い。手持ちの仕上げ砥である。

138号住居跡出土砥石（40）は、大形品で全面を擦っており、各所に敲打による欠損が残る。砥石というよりは作業台としての台石であろう。

141号住居跡出土砥石（38）は、安山岩製で通常の砥石とは考えにくい。正面に溝状痕、裏面に刃先調整のためかと思われる条痕があり、何かを擦っていたことは間違いない。

146号住居跡出土砥石（15）は、凝灰岩の円礫の周囲を若干調整し、正面だけに砥面を作っている。全体に火を受け黒変している。正面はよく使い込まれ窪んでいる。右側面上部に刃先の条痕の多い平坦面があり、その他の側面、裏面にも条痕が残る。手持ちの仕上げ砥である。

149号住居跡出土砥石（17）は、硬質の小破片で各所に新しい傷がある。表裏を使用しており、擦痕が若干残る。

170号住居跡出土砥石（41）は、直方体の大形の砥石で各所に敲打による欠損がある。正面手前は、斜めに研ぎ減らされ条痕が多く残る。正面、左右側面はよく使用されて内弯している。

174号住居跡出土砥石（20）は、正面に擦痕、条痕が残るが、風化しており破片なのかこれで完形なのかは分からない。

186号住居跡出土砥石（19）は、全長15cmを超える大形品で、裏面は制作時の加工のままで使用されていない。正面手前は斜めに研ぎ減らされている。正面、左右側面はよく使用されている。置いて使う仕上げ砥である。

286号住居跡出土砥石（26）は、破損が多いが本来は直方体の砥石で、各面に擦痕などの使用痕が残る。正面は研ぎ減らされて内弯している。

327号住居跡出土砥石（27）は、硬質で砥石には向かないと思われる素材で、形も自然礫のまま使用している。正面、右側面に刃先による条痕があり、砥石というより刃先の調整のための道具かもしれない。

2号台地整形区画出土砥石（21）は、正面と右側面が残る破片で、正面に鋭い条痕と、擦痕がある。

（22）は、表裏を使用しているが、正面はよく研ぎ減らされて内弯し上で折損している。

（23）は、小形の完形品で、角に部分的に欠けているところがある。表裏、左右の4面を使用しており、斜めの擦痕が多い。手持ちの仕上げ砥である。

（24）扁平で上を欠損する。表裏ともに擦痕が多く、裏面下は斜めに研がれている。

2号台地整形区画は、中世の遺構で近世以後も窪地として残りそこに耕作の際に各種異物が混入しており、この4点もその可能性が強い。特に24については、材質に気泡状の空間があり小石状になった素材から人造砥石の可能性がある。

1号溝出土砥石（25）は、横断面三角形の小形砥石で、正面、下面に擦痕とともに耕作による新しい傷が多く残る。

出土遺構不明の砥石（28）は、下部を欠損する円礫の正面のみを砥面としている。斜めに擦痕が残る。右側面は平坦面が造られ一部欠けている。

（29）は、角に若干の欠損があるが完形の小型品で、全面を使用している。特に右側面と裏面に擦痕が目立つ。手持ちの仕上げ砥である。

(30) は、小形の完形品で、上部に穿孔があり提げ砥として使用されていたものである。穿孔は、一度失敗し作り直されている。現在の提げ砥は鎌などの農具の刃先を直すのに使うが、これは仕上げ砥で刀子などの小形の刃物に使用したものであろう。

(31) は、小形の直方体の各面を使用している。

(32) は、31と同様の砥石を研ぎ減らして不整形になったもので、側面、裏面に条痕が目立つ。

(33) は、32の究極の形といえるほど研ぎ減らされており、条痕が非常に目立つ。

(34) は、多角形の扁平な石を使用したもので半分に欠けている。表裏を使用しているが側面に研磨の顕著な、手持ちの仕上げ砥である。

も若干加工痕が残る。

(37) は、砥石として取り上げられているが上部、正面に敲打痕があり縄文時代の敲石である。

表10 砥石一覧表

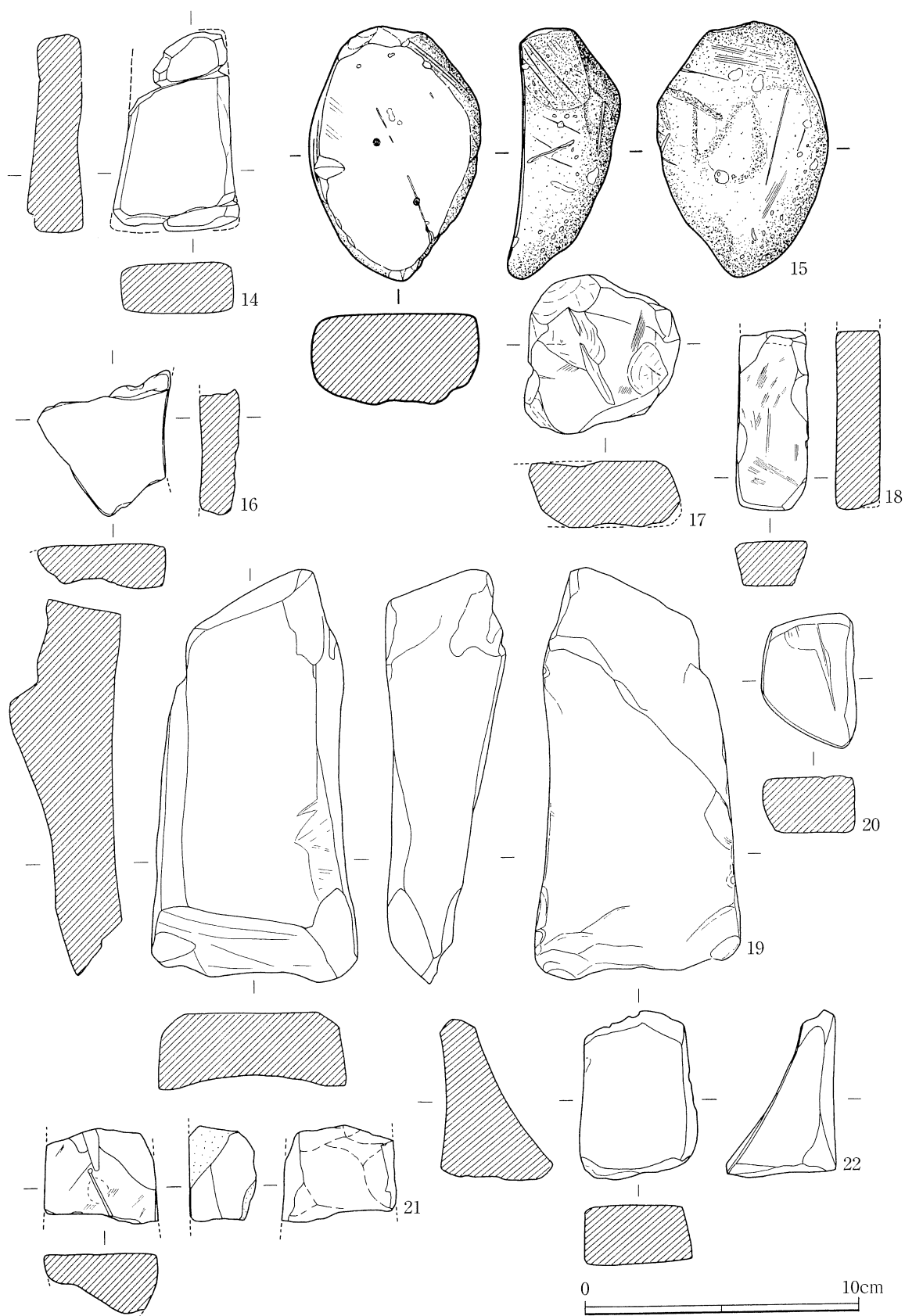
挿図	番号	出土遺構	時 期	形状・状態	縦	横	厚さ	重量
149	1	002号住居跡	古墳時代後期	扁平、上下欠、表裏・左右研磨。凝灰岩	60	80	15	78
149	2	007号住居跡	古墳時代後期	軟質破片、上・表・右研磨	51	40	38	58
149	3	019号住居跡	古墳時代後期	上下欠、表・右側面のみ使用。凝灰岩	73	50	38	110
149	4	047号住居跡	古墳時代中期後葉	完形、4面研磨、上下制作時のまま、やや軟質。凝灰岩	117	74	50	550
149	5	019号住居跡	古墳時代後期	完形、各面研磨、脆い。凝灰岩	80	41	46	200
149	6	075号住居跡	古墳時代後期	破片、軟質の素材で擦痕は不明	34	21	29	12
149	7	074号住居跡	古墳時代後期	縄文の凹石・敲石、擦痕があるので転用か	77	48	46	230
149	8	080号住居跡	古墳時代中期後葉	表面、周囲研磨。裏破断面調整せず。凝灰岩	76	80	12	80
150	9	097号住居跡	古墳時代後期	表研磨擦痕目立つ、横・裏に刃物痕、表面二次火熱で器表剥落。軟質砂岩	130	83	53	550
150	10	123号住居跡	古墳時代後期	左・下・裏欠、擦痕目立つ	66	74	52	314
150	11	097号住居跡	古墳時代後期	断面五角形、上下欠損、擦痕目立つ。硬質凝灰岩	82	52	57	270
150	12	133号住居跡	弥生時代後期	断面七角形、上下欠、二次加熱を受け黒変。硬質凝灰岩	84	36	31	120
150	13	117号住居跡	古墳時代前期	完形、6面研磨、上溝、やや軟質。砂岩	72	56	34	128
151	14	122号住居跡	古墳時代後期	上下割れる、軟質、6面研磨、表面摩耗、軟弱。凝灰質砂岩	76	48	18	80
151	15	146号住居跡	古墳時代前期	完形、表研磨、横・裏刃物痕	94	64	37	214
151	16	196号住居跡	古墳時代中期後葉	上下・裏・左欠	50	46	16	40
151	17	149号住居跡	古墳時代後期	破片、表裏・右研磨	58	55	25	66
151	18	2号台地整形区画	中世	棒状、上欠	66	26	17	48
151	19	186号住居跡	古墳時代中期後葉	完形、裏をのぞき研磨。凝灰岩(房総産)	152	74	43	450
151	20	174号住居跡	弥生時代後期	破片、表裏・右研磨。軟砂岩	48	33	21	40
151	21	2号台地整形区画	中世	破片、表、右研磨。凝灰岩	34	40	22	38
151	22	2号台地整形区画	中世	上欠、表裏・左右研磨	62	44	40	91
152	23	2号台地整形区画	中世	完形、6面研磨	44	33	24	50
152	24	2号台地整形区画	中世	上欠、表裏・左右研磨	56	26	9	32
152	25	1号溝	古代	下欠、4面研磨	38	30	33	44
152	26	286号住居跡	古墳時代後期	上欠、5面研磨	63	43	22	58
152	27	327号住居跡	古墳時代後期	砥石の研磨は目立たず、刃先痕目立つ	76	40	38	120
152	28	不明		下欠、円礫の表だけ使用	104	66	61	?
152	29	不明		小形完形、6面研磨	41	26	18	?
152	30	不明		小形完形、6面研磨、吊り下げ用孔有り	39	23	24	?
152	31	不明		小形完形、6面研磨	43	34	21	?
152	32	不明		上欠、他の面研磨	56	32	30	?
153	33	不明		小形完形、全面研磨、表擦痕多い	39	38	23	?
153	34	不明		扁平、破片、両面研磨	66	24	9	?
153	35	不明		完形、軟質で研磨痕不明	44	44	19	?
153	36	不明		小形完形、6面研磨	34	17	16	?
153	37	不明		図に砥石と記述しているが縄文の敲石	91	43	24	?
153	38	141号住居跡	古墳時代前期	溝状の擦痕がある。火山岩質	93	72	38	164
153	39	009号住居跡	古墳時代後期	上下・裏欠。砥石ではない	136	168	88	3600
153	40	138号住居跡	弥生時代後期	砥石ではない	236	156	72	3650
154	41	170号住居跡	古墳時代前期	器表部分的に剥離、完形、全面研磨。凝灰質砂岩	236	88	60	1650
154	42	057号住居跡	古墳時代中期後葉	打製石斧、砥石に転用、表擦痕顕著。粘板岩	176	76	14	268
154	43	097号住居跡	古墳時代後期	完形、刃先の痕跡が溝多数、凹石転用	400	316	138	13100



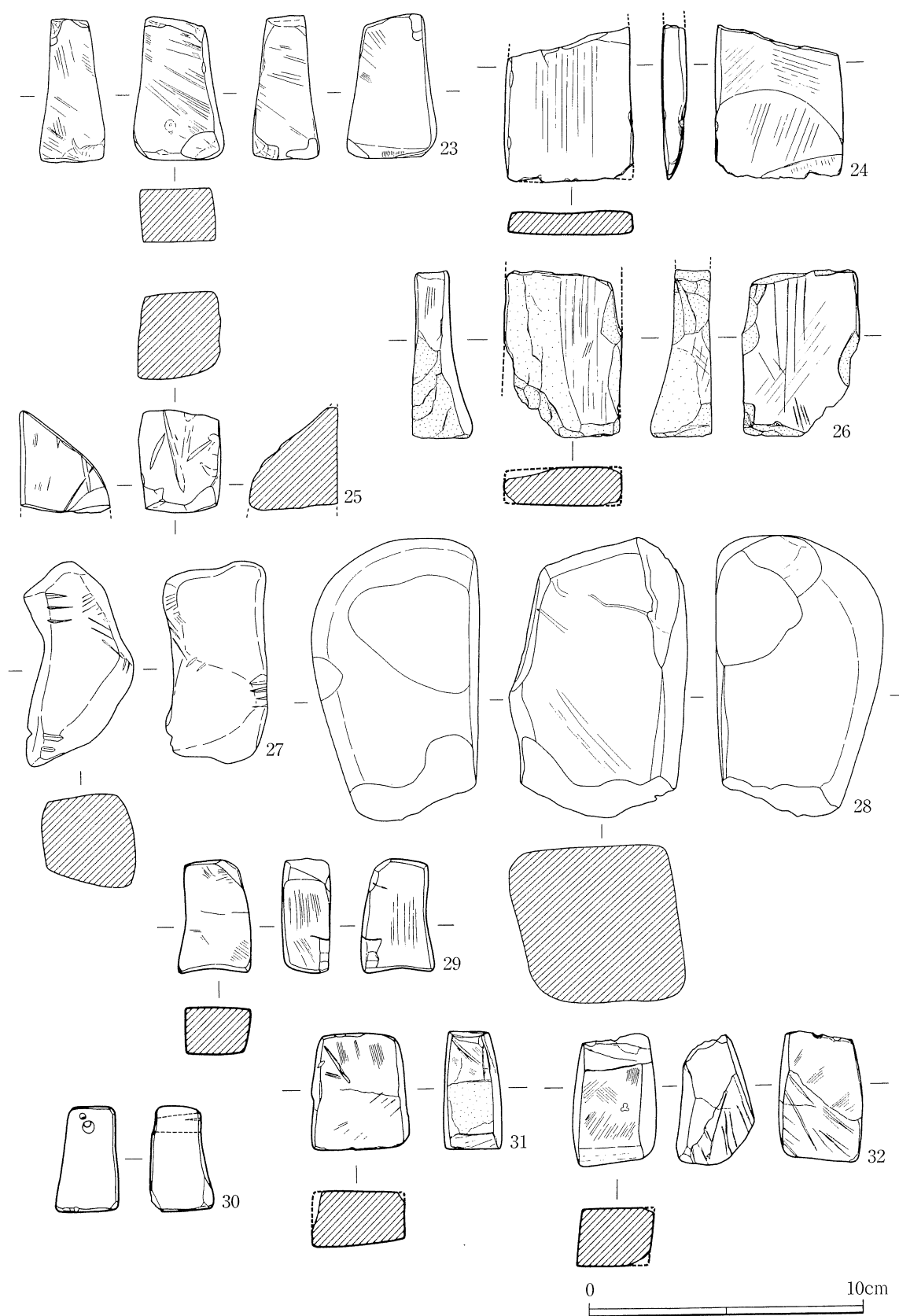
第149図 砥石 (1)



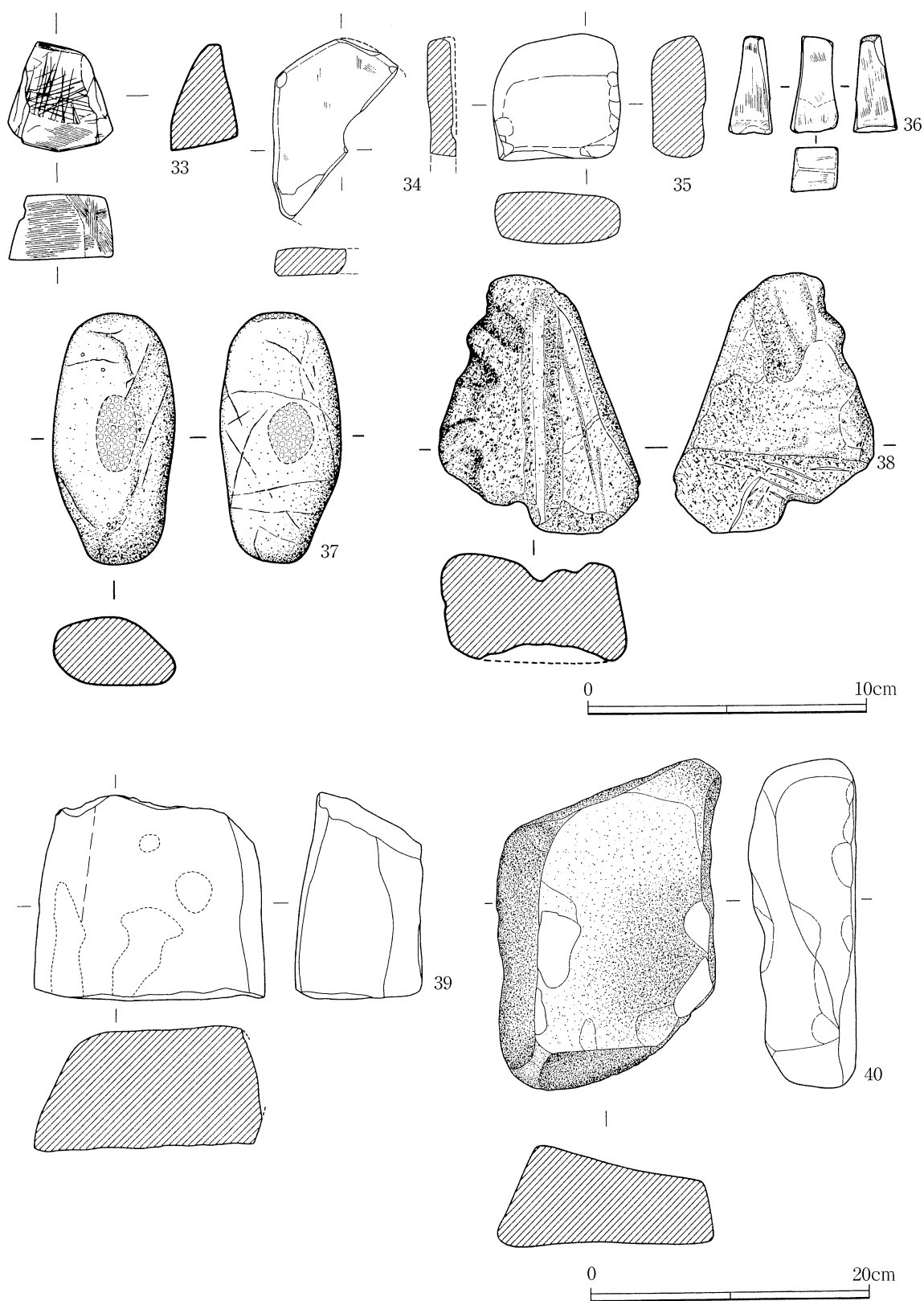
第150図 砥石 (2)



第151図 砥石 (3)



第152図 砥石 (4)



第153图 砥石 (5)



第154図 砥石 (6)

1 軽石（第155図・156図）

遺構内から軽石が出土している。ここで報告するのは29点で、土器以外の遺物では多い方である。出土住居跡の時期は、弥生時代後期が7点、古墳時代中期後葉～後期が15点（2号地下式墳出土とされているものは重複する236B号住居跡の遺物である。）、出土遺構不明4点となっている。

大きさは2cmほどの小さなものから長径15cm、重量も2gから120gとばらつきが大きい。

1・3・5・10・12～14・16・17・19・26～28は、重量10g以下と小さくて大きな加工の痕跡のないもので、円礫の状態の軽石そのままか破損したものの破片などである。

擦痕が一部に見られることから、ものを擦る作業に用いられることはあったようだ。

4・6・7・9・11・15・20～24・29は、10～60gの範囲にある。

4・11・15は、やや扁平な球形か半球形で、丸い部分に擦痕があるもの。

6・7は、やや棒状になるもので、6は、一端に擦痕が集中する。7は、棒状のもので擦った溝状痕がある。

9・18・20～24はやや大きくて不整形なもので擦痕のあるものが多い。

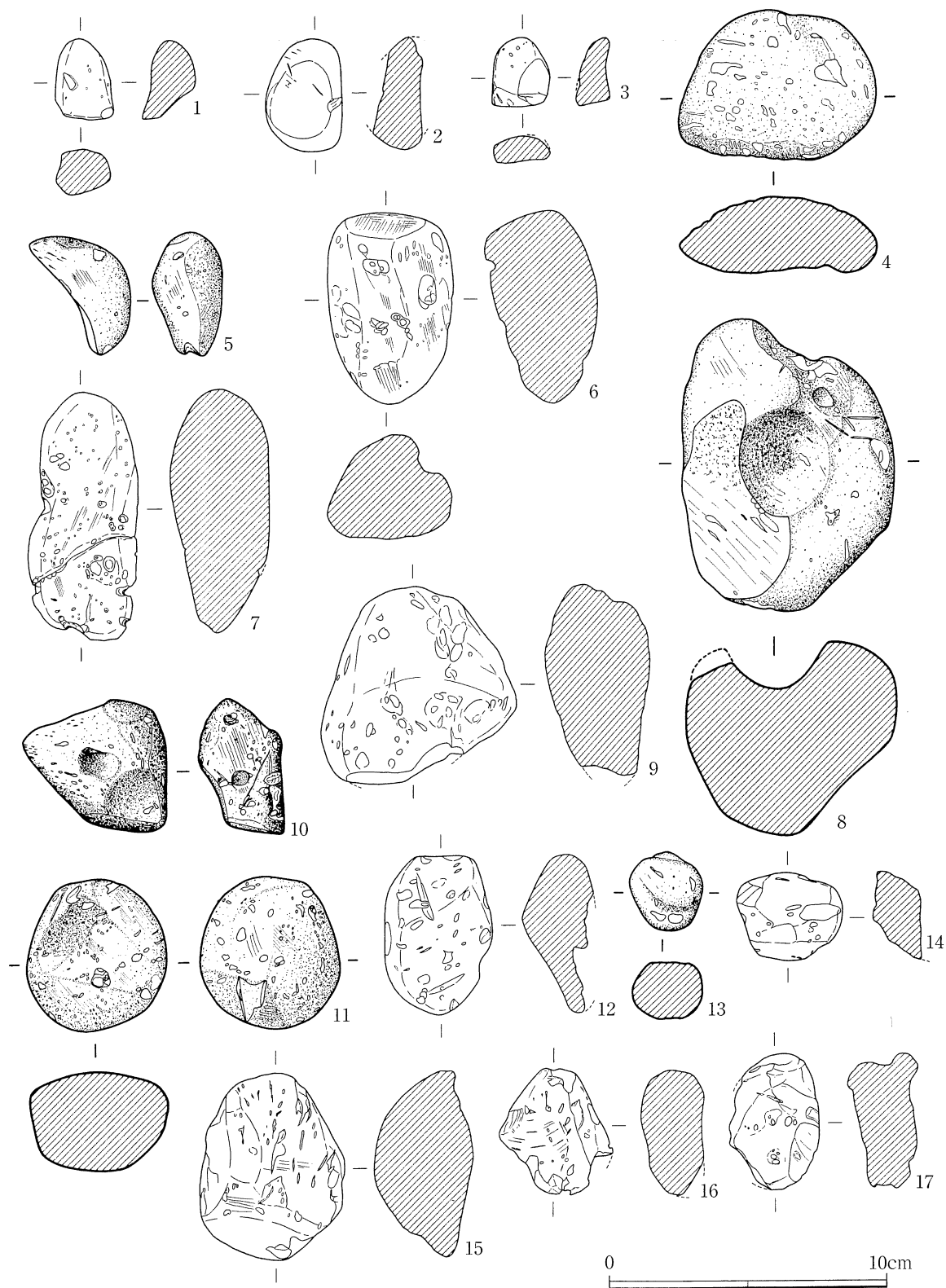
29は、直方体に加工されたものが使用により石蝕形になったもので、周囲は丸みが付くまで擦っている。裏面に数カ所円形の貫通しない孔が開けられている。周囲も4カ所棒状のもので擦ってできた溝状痕がある。

8は、長径10cmを超える大形品で、球状のものの中央に径4cm深さ1.2cmの半球状の窪みがある。各所に擦痕、条痕が残る。

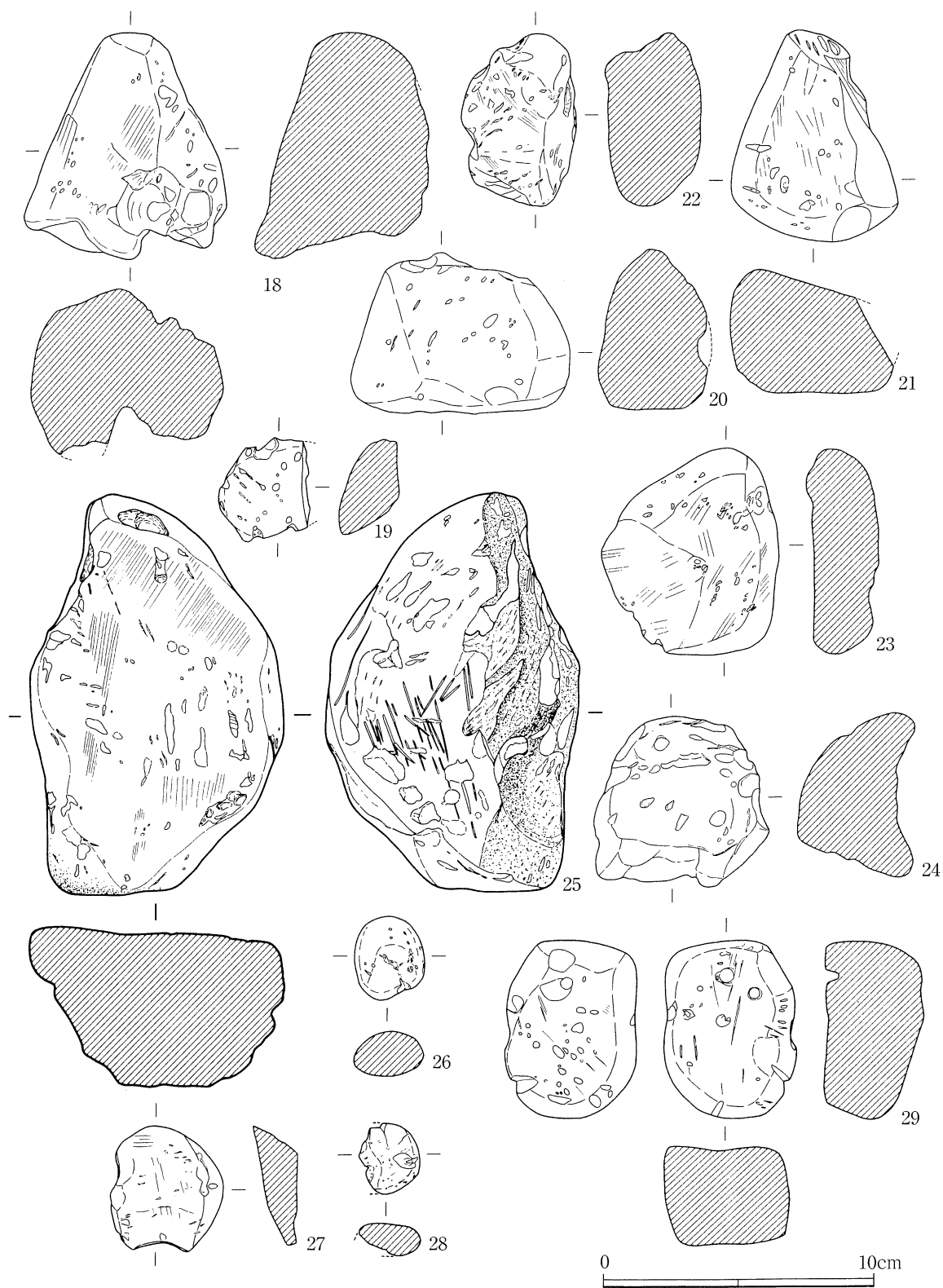
25は、長径15cm、厚さ6cmほどの半円形で、左側は使用中に割れた可能性が強い。表裏に擦痕が多く、裏面はさらに刃物により条痕が多い。

表11 軽石一覧表

挿図	番号	出土遺構	時期	縦	横	厚さ	重量	挿図	番号	出土遺構	時期	縦	横	厚さ	重量
155	1	001号住居跡	古墳時代中期後葉	30	22	20	3.2	155	16	274号住居跡	古墳時代後期	46	40	20	4.9
155	2	006号住居跡	古墳時代後期	45	28	18	12.7	155	17	274号住居跡	古墳時代後期	50	32	25	9.4
155	3	068号住居跡	古墳時代後期	26	20	12	1.9	155	18	277号住居跡	弥生時代後期	84	76	62	68.6
155	4	060号住居跡	古墳時代中期後葉	54	72	28	25.9	156	19	300号住居跡	弥生時代後期	38	32	22	5
155	5	123号住居跡	古墳時代後期	48	21	26	3.6	156	20	301号住居跡	古墳時代後期	60	82	40	58.1
155	6	136号住居跡	弥生時代後期	69	46	38	16.2	156	21	309号住居跡	古墳時代前期	79	60	46	28.7
155	7	136号住居跡	弥生時代後期	90	39	36	22.8	156	22	322号住居跡	古墳時代中期後葉	64	44	34	30.6
155	8	160号住居跡	古墳時代前期	108	76	72	60.5	156	23	322号住居跡	古墳時代中期後葉	78	36	24	30.1
155	9	165号住居跡	古墳時代中期後葉	72	72	38	42.3	156	24	324号住居跡	古墳時代後期	64	66	42	40.4
155	10	174号住居跡	弥生時代後期	47	52	30	9.4	156	25	表採	不明	150	96	58	119.5
155	11	177号住居跡	古墳時代中期後葉	55	51	37	16	156	26	表採	不明	32	26	17	3.3
155	12	219号住居跡	弥生時代後期	58	39	26	6.9	156	27	335号住居跡	弥生時代後期	46	42	14	5.8
155	13	2号地下式墳	中世	29	26	20	4.4	156	28	不明	不明	27	22	11	2.1
155	14	270号住居跡	古墳時代中期後葉	31	38	16	3.3	156	29	表採	不明	66	49	36	24.9
155	15	244号住居跡	弥生時代中期	68	53	36	34.9								



第155図 軽石製品 (1)



第156図 軽石製品 (2)

第2章 住居跡以外の遺構と遺物

1 墳墓

遺跡内で検出された遺構は、住居跡以外に方形周溝墓、方墳等の墳墓がある。

方形周溝墓は調査範囲の端にあり1溝のみの検出で方形周溝墓と推定したものも含めて21基を調査した。また墳丘が残らず主体部も検出されていないが上部の削平された方墳と思われる遺構を3基調査した。大部分の遺構は、遺構内のレベルを計測していないため、溝の深さなどは、写真から判断するのみである。方形周溝墓の中央にあるピットはこの報告では主体部としているが土層断面図などではなく単なるピットである可能性もある。

(318) 1号方形周溝墓 第157図 図版45-1・4

グリッドIJK-11~13に位置する。南西溝内側に073号住居跡がある。南東溝で104号住居跡、北東溝で019・021号住居跡・1号墳、南西溝で074号住居跡と重複する。いずれの遺構より古い。溝は四隅で途切れる。北東・南東・北西溝は両端まで確認できたが、南西溝は074号住居跡に削平され一端は確認できなかった。攪乱溝が遺構中央を横断している。南東溝の輪郭が途切れる部分に104号住居跡があるがポイントを残しておらず図を合成できなかった。

北西溝が大きく造られ南西溝が短く南コーナーが大きく開く。

北東から南西に外周で16.0m×15.8m、内側で13.5m×13.4mのほぼ正方形となる。

北東溝は西に56度を向き、長さ10.6m、幅0.9mで底は平坦で、019・021号住居跡に貼床されている。重複する遺構の影響で溝内側の輪郭がやや波状になる。

南東溝は東に29度を向き、長さ9.4m、幅1.4mで北端に段が付く。南側でやや幅が広くなり南西で104号住居跡に削平されている。

南西溝は西に50度を向き、長さ6.4m以上、幅1.3mで底は平坦で、北西端を074号住居跡が削平している。

北西溝は東に26度を向き、長さ10.9m、幅1.5mで北端に段が付く。中央部を攪乱溝に削平されている。

主体部は検出されていない。

出土遺物（第164図）4点の土器が1号方形周溝墓出土遺物として注記されている。遺物の時期は弥生時代中期と考えられる遺構とは一致せず、重複する1号墳に所属するものである。1は須恵蓋坏、2・3は高杯の杯部で、4は甕の口縁部で頸部と胴の境に焼成前の穿孔がある。

(319) 9号方形周溝墓 第157図 図版45-1

グリッドKL-12~14に位置する。北溝で003・009・010・014号住居跡、東溝で003号住居跡・1号溝、南溝で1号墳、西溝で010・018号住居跡・2号溝と重複する。いずれの遺構より古い。溝は四隅で途切れる。南・西溝は両端まで確認できたが、他の2溝は一端が確認できなかった。

北西溝が短く南西コーナーがやや開く。

北東から南西に外周で15.6m×15.4m、内側で12.2m×12.2m。南に広がる台形となる。

北東溝は西に78度を向き、長さ9.5m以上、幅1.7mで西寄りが1段下がる。003号住居跡との間に段がありここから南東は掘りすぎの可能性がある。

南東溝は東に5度を向き、長さ7.8m以上、幅1.5mで底は平坦である。南は1号溝で末端が不明である。北は溝先端のカーブが始まるまで検出している。

南西溝は西に77度を向き、長さ11.0m、幅1.6mで東端に段が付く。西側で土坑または攪乱と重複して広がっている。東はほぼ末端まで検出している。

北西溝は東15度を向き、長さ9.0m、幅1.5mで底は平坦で、他の3溝より小規模に造られており、南東溝との間が広く空く。

住居跡、溝があるためか主体部は検出されていない。

出土遺物（第165図）1は南西溝東端から出土した壺で、口縁部を欠損するほか、胴部も半分ほど欠けている。結節文を3段に施している。2は壺の胴部以下で、ハケで表面を調整している。

(320) 1号墳 第157図 図版45-1～3・5

グリッドJK-12>13に位置する。北東部で010・018・019号住居跡、9号方形周溝墓。西で1号方形周溝墓と重複する。いずれの遺構より新しい。

北東から南西に外周で13.0m×12.8m、内側で10.6m×10.6m。北東から南西に潰れた菱形に造られている。

東溝は西12度を向き、長さ13.0m、幅1.1mで、南東コーナー近くに0.8mの一段掘り残したブリッジがある。

南溝は東86度を向き、長さ12.8m、幅1.2m。

西溝は西10度を向き、長さ13.0m、幅1.1m。

北溝は東85度を向き、長さ12.2m、幅1.2mで3溝ともに底は平坦である。

主体部は残っていない。

出土遺物（第165図）1の甕、2の坏の他1号方形周溝墓とした164図の4点の土器も本遺構に伴うものと思われる。

(321) 2号方形周溝墓 第158図 図版45-6～46-1

グリッドIJK-15>16に位置する。南東溝北東側を025号住居跡が削平する。

溝は四隅で途切れるが、南西溝は木の根の攪乱等があり確かな輪郭をとらえられず掘りすぎている。長さを確認できたのは北側の2溝だけとなる。

北西から南東に外周で12.4m、内側で10m。直交方向については不明である。

北東溝は西23度を向き、長さ7.5m、幅1.4m、北端に段が付く。幅広く底は平坦である。

南東溝は東65度を向き、長さ2.55m以上、幅1.5mの北東の大部分を025号住居跡に削平され、南西端の部分が検出された。

南西溝は暗褐色部分を広げていく内に、木の根などの黒色土とまぎれてしまい不明である。

北西溝は東70度を向き、長さ7.7m、幅0.9m、2溝ともに底は平坦である。他の2溝に比べやや幅

が狭く直線的である。

遺構中央に2.4×2.0mの隅円方形の主体部がある。掘形もしっかりしており形態からも主体部であることは間違いない。主体部内からの遺物出土はなかった。

出土遺物（第164図） 1の壺底部破片のみの出土である。

(322) 3号方形周溝墓 第158図 図版46-2・3

グリッドGH-14<15に位置する。北溝の中央と東溝の北端で2号溝に削平される。

南北に外周で13.0m×10.9m、内側で10.0m×8.7m。南北に長い長方形である。

北溝は西88度を向き、長さ5.4m、幅1.6mで中央を2号溝が削平している。

東溝は東3度を向き、長さ6.8m、幅1.2m、中央部が1段下がる。

南溝は西89度を向き、長さ3.9m、幅1.3m、東で幅が狭くなり東西に小ピットが2基並ぶ。

西溝は東5度を向き、長さ7.3m、幅1.2m、南寄りに段が付く。

東西の溝に比べ南北の溝が小規模で北西、南東の両コーナーが広く空く。

やや南寄りに直径1.3mの2段に掘り込んだ円形の主体部がある。内部の埋土がやや軟質で底もしっかりしていないことから主体部ではない可能性もある。

出土遺物（第164図） 1の甕と2の壺が出土している。2は東溝中央から出土している。

(323) 12号方形周溝墓 第158図 図版46-2・4

グリッドHI-14>15に位置する。西溝北を2号溝に削平される。2号方形周溝墓南西に北溝、3号方形周溝墓東溝と平行して西溝を検出した。他の2溝は確認されていない。内側に027・028号住居跡があり主体部は確認できなかった。また027号住居跡北東壁から022号住居跡カマド付近、022号住居跡と2号溝が重複する部分の西で遺構の輪郭が不明瞭である。

北東溝は西に68度を向き、長さ4.3m、幅1.0m。北西溝は東に9度を向き、長さ5.0+ α m、幅0.8mで北端を2号溝が削平する。溝底はいずれも平坦である。

2号方形周溝墓の南、038号住居跡に西に他の方形周溝墓の溝と類似した溝がある。南端を2号溝に削平され他の溝は検出されていないが、この付近に攪乱として掘っていない黒色の落ち込みがあり022号住居跡北、023号住居跡東、024号住居跡西などこの溝が組になり方形周溝墓となる可能性は残る。

(324) 4号方形周溝墓 第159図 図版46-5・6

グリッドFG-14に位置する。北西溝・南西溝を2号墳に削平される。北西溝が5号方形周溝墓の北西溝と直線上に並び、北西で溝を接するように造られていることから同じグループの後続する方形周溝墓である。

北東から南西に外周で9.3m×9.0m、内側で7.1m×6.9m

北東溝は西54度を向き、長さ6.0m、幅1.2mで底は平坦、直線的である。

南東溝は東33度を向き、長さ5.7m、幅0.9mで中央で1段下がり、中央部がやや外に屈曲する。

南西溝 西58度を向き、長さ5.5m、幅0.9mで東端に段が付く。西は2号墳で削平される。

北西溝は東36度を向き 長さ4 m以上、幅1.2m 南を2号墳が削平し、溝の東側しか残らない。
主体部はない。遺物も特に検出されていない。

(325) 5号方形周溝墓 第159図 図版46-5・47-2

グリッドEF-14<15に位置する。北西溝を除き3溝で2号墳と重複、南東溝で194号住居跡、南西溝で190号住居跡、北西溝で189号住居跡と重複する。

北東から南西に外周で14.1m×13.2m、内側で11.1m×9.6mで、南西がやや狭くなる台形となる。いずれの溝も中央部が一段深くなり、他の方形周溝墓に比べ深く造られている。レベルを計測していないので数値をあげられないが、2号墳の溝の倍近い深さがあり最深部では1 m程の深さと考えられる。

北東溝は西57度を向き、長さ10.5m、幅1.8mで南東端に段が付く、東を2号墳が削平する。

南東溝は東43度を向き、長さ8.5m、幅1.6mで南に段が付く、北で2号墳が削平する。

南西溝は西54度を向き、長さ8.6m、幅1.8mで中央が1段深く下がる、南東端を2号墳が削平し、北西端は190号住居跡と重複する。

北西溝は東35度を向き、長さ8.6m、幅1.6mで南端1段下がる、南で189号住居跡が貼床する。

2号墳と重複するためか、主体部は残されていない。

出土遺物（第164図）1壺、頸部から上を欠損するほか、胴部も図のように欠ける部分がある。文様は頸部と胴部の沈線で区画した中に縄文を施し、間にへの字状に4単位を入れる予定が一つが大きすぎ4つ目が入らず斜め1本にしている。施文部以外はよく磨き、赤彩している。2・3は波状口縁の甕口縁部破片。4・5は口唇に刺突を施すもの。6・7は胴部の破片である。

(326) 2号墳 第159図 図版46-5～47-4

グリッドEF-14<15に位置する。4・5号方形周溝墓と重複する。周溝の内側に194号住居跡がある。

北東から南西に外周で11.0m×11.2m、内側で8.5m×8.7m、北東から南西が潰れた菱形になる。

北東溝は西72度を向き、長さ10.7m、幅1.5m。

南東溝は東13度を向き、長さ11.2m、幅1.1m。

南西溝は西69度を向き、長さ11.3m、幅1.1m。

北西溝は東28度を向き、長さ10.8m、幅1.2m。

いずれの溝も外側が直線的で、内側がわずかに弧状になる。コーナーも外側が鋭角で、内側に丸みが付く。溝底はいずれも平坦である。南西溝東で土坑状の重複があるが、新旧関係や、これが遺構なのかは不明である。

内側に194号住居跡があるために主体部は確認できなかった。

出土遺物（第165図）1は、長頸壺である。胴部は残らないが図示部分は全周する。

(327) 3号墳 第159図 図版51-3

グリッドBC-13>14に位置する。重複する遺構はない。北東側は調査区域外に続く。

外周で東西8.6m、内側で6.6mで約半分は調査区域外にある。

東溝はコーナーのみで大部分が調査区域外。南溝は西85度を向き、長さ8.3m、幅1.0m。全長を検出した。西溝は東5度を向き、長さ5.4m以上、幅1.0m。北側で一段下がる。北溝は調査区域外となる。3基の方墳の中ではもっとも小規模な遺構である。

(328) 6号方形周溝墓 第160図 図版47-5～48-5

グリッドFG-11>12に位置する。北東溝・北西溝を091号住居跡が貼床する。南西溝中央に攪乱溝がある。南側は調査区域外に続く。

北東から南西に外周で10.5m×11.0m、内側で8.5m×9.1m。

北東溝は西に56度を向き、長さ5.6m、幅1.0m。北西端は091号住居跡床下により全てを検出した。

南東溝は東に31度を向き、長さ4.8m以上、幅0.9m。南西端は調査区域外になる。

南西溝は西に62度を向き、長さ2.8m以上、幅0.9m。南東端は調査区域外になる。

北西溝 東に34度を向き、長さ6.9m、幅1.1m。北東端は091号住居跡床下により、南西で幅が広くなる。

中央より北に寄って1.3×0.9mの隅円方形の主体部がある。

出土遺物（第164図）北東溝東端から壺が出土している。口縁部を欠損するが図示した部分はほぼ完全に残っている。4本一組の工具で横と波状の沈線で文様を施している。トーンを貼ると文様がわかりにくくなることから貼っていないが、各文様帯の間は一部が文様に掛かるまで赤彩している。

(329) 7号方形周溝墓 第160図 図版47-5・48-5

グリッドEF-12<13に位置する。北・東溝を097号住居跡、南溝を098号住居跡、西溝を099号が削平する。

北から南に外周で8.3m×9.1m、内側で6.4m×7.8m。

北溝は西に1度を向き、長さ4.9m以上、幅1.0m。両端を攪乱と097号住居跡に削平されている。

東溝は東に86度を向き、長さ1m以上、幅0.5mと南西端のみを検出した。他は091号住居跡に削平されている。

南溝は西に7度を向き、長さ6.2m、幅0.9m。南東で098号住居跡と重複するものの両端は確認された。

西溝は東に87度を向き、長さ4m以上、幅0.8m。南西端は097号住居跡に削平されている。

主体部はない。

出土遺物（第164図）1南溝東端の098号住居跡との重複部分から出土。頸部から上を欠損する壺で、頸部に2本一組の工具で刺突し、同じ工具で胴部上半から上に波状の文様を施している。

(330) 8号方形周溝墓 第160図 図版47-5・48-5

グリッドEF-11<12に位置する。北東溝を099号住居跡、北西溝を100号住居跡が削平する。

北東から南西に外周で7.2m×8.0m、内側で5.8m×6.5mの横長の長方形である。

北東溝は西に62度を向き、長さ5.2m、幅0.7m。北西で097号住居跡する。

南東溝は東に24度を向き、長さ3.6m、幅0.7m。北東側が狭くなる。

南西溝は西に63度を向き、長さ4.6m、幅0.8m。他の遺構との重複はない。

北西溝は東に25度を向き、長さ3.9m、幅0.8m。中央を100号住居跡が削平するが両端は残る。

中央部やや南東寄りに1.1×1.3mの不整形な主体部がある。底にピットが1列に並ぶ。

(331) 10号方形周溝墓 第160図

グリッドDE-12<13に位置する。11号方形周溝墓南東溝を削平し、099・101・191・193号住居跡と重複する。当初通常の方形周溝墓と考え遺構番号を付け調査を行っていたが、南東溝中央が幅広く一段深い土坑状になっており、さらに溝で区画された内部に向けて横穴があいていることが分かった。当時調査担当者に古代の方形区画墓という概念がなかったためそのまま方形周溝墓としていた。横穴部分については調査補助員のこういう芋穴があるとの言葉で攪乱と思い掘り上げることをしなかった。西側の周溝を確認しておらず、二重の周溝も解明できていない。

(332) 11号方形周溝墓 第160図 図版47-4

グリッドDE-13>14に位置する。主体部を193号住居跡、南西溝を10号方形周溝墓に削平される。北東から南西に外周で8.2m×7.6m、内側で6.6m×6.0mを測るが、南東溝については193号住居跡南東コーナーで1m程確認との記述のみで図化されていない。

北東溝は西に58度を向き、長さ5.8m、幅1.0m。5号方形周溝墓南西溝と1.1mの間隔で並行する。

南東溝は長さ1m以上、幅0.6mの記述のみである。

南西溝は西に60度を向き、長さ4.4m、幅0.6m。他の溝に比べ極端に狭く短い。

北西溝は東に32度を向き、長さ5.7m、幅1.0m。中央で一段下がる。

193号住居跡北東壁と重複して1.3×1m以上の楕円形の主体部がある。住居跡下の部分は調査していない。

(333) 13号方形周溝墓 第161図 図版49-1～3

グリッドFG-20<21に位置する。北西溝南端を3号溝にわずかに削平される。南西側は調査区域外に続く。

北東から南西に外周で14.4m以上×17.0m、内側で12.0m以上×12.9m。南西は道路で調査していない。

北東溝は西に34度を向き、長さ10.6m、幅3.1m。他の方形周溝墓に比べ溝幅が広い。

南東溝は東に51度を向き、長さ5.6m以上、幅2.3m。3m程南西に延びると思われる。

北西溝は東に56度を向き、長さ8.6m、幅1.9mで3溝の中では一番規模が小さい。

主体部は確認されていない。

出土遺物（第165図）1壺胴部破片。2壺下半の2点。北東溝の北西端と、北西溝の南西端で出土しているが、どれがどちらかは記録が残っていない。また南東溝北東端から完形の深鉢が出していたという記録もある。壺を深鉢形に整形したものと深鉢を溝の端部底面に置いてあり、葬送儀礼を窺わせる出土状況である。休業中に盗難にあったとのことで、惜しまれる。

(334) 14号方形周溝墓 第161図

グリッドHI-21>22に位置する。北東溝を184号住居跡に、南東溝を184・185号住居跡に削平されている。

182号住居跡南、184号住居跡北、185号住居跡北にそれぞれ溝があり互いに直交している。南西の13号方形周溝墓と平行するところから掘り上げていない方形周溝墓とした。

外周で8m×12m程の規模で溝幅1m。13号方形周溝墓の溝とほぼ並行する。

出土遺物（第165図）甕の下半。古墳時代のもので重複する184号住居跡の遺物であろう。

(335) 20号方形周溝墓 第161図 図版51-3

グリッドF-21に位置する。3号溝と北東端で重複する。

東に42度を向く長さ、7.4m、幅1.8mの溝1本のみを検出したが、13号方形周溝墓北西溝と平行し、溝の形態も類似していることから残りが調査区域外に続く方形周溝墓の南東溝とした。

(336) 21号方形周溝墓 第162図 図版51-3

グリッドF-22に位置する。北東で3号溝と重複する。

東に57度を向く、長さ4m以上、幅1.7mの溝1本のみを確認で、20号方形周溝墓と同様な理由で方形周溝墓とした。

(337) 15号方形周溝墓 第162図 図版49-4・5

グリッドKL-17>18に位置する。北東コーナーで280・283号住居跡と重複する。

北東から南西に外周で11.5m×13.1m、内側で9.3m×9.9m。北と南の2溝に分かれ南東と北西に2カ所ブリッジがある。

南東溝は東に64度を向き、長さ8.5m、幅1.1m。比較的強いカーブで、西に27度を向く南西溝に接続する。南西溝は長さ8.7m、幅1.4m。両者はほぼ直角に交わる。

北東溝は西に29度を向き、長さ8.7m、幅1.7m。間に283号住居跡があり接続は不鮮明だがゆったりとしたカーブで東に64度を向く北西溝に接続する。北西溝は長さ9.7m、幅1.2m。重複する小ピットが2カ所にある。両者は直角よりやや開く。

東西で溝が途切れる南北2溝の方形周溝墓で、南西に寄って主体部がある。主体部は2.4×2.3mの円形の浅い掘り込みの東寄りに0.6×1.0mの長方形の土坑がある。

出土遺物（第165図）主体部から1の高杯杯部が出土。2の底部は溝からの出土である。

(338) 16号方形周溝墓 第163図 図版50-1～5

グリッドP-16<17に位置する。1号溝、8号溝に削平される。

東に開くコの字状で、主体部が1基ある。

北東から南西に外周で7.5m×11.9m、内側で6.4m×9.2m。周溝は本来コの字状に続くと思われるが両コーナーで溝と重複し接続は分からない。南東溝は確認されていないが、中世の台地整形区画に向かい下がっているところで、確実に存在しないとは断言できない。

北溝は東に86度を向き、長さ5.2m以上で、幅は8号溝のために不明。

南溝は東に81度を向き、長さ5.2m、幅1.2m。

西溝は西に3度を向き、長さ約8.5m、幅1.0m。

主体部は2.3×3.8mの長方形で中央を1号溝で削平されている。

出土遺物（第165図）西溝中央から1の土器が出土している。

(339) 17号方形周溝墓 第163図 図版50-7

グリッドNO-17<18に位置する。南東に開くコの字状で、主体部が2基ある。

北西から南東に外周で14.0m×17.3m、内側で11.3m×14.0m。南東の周溝はない。

北東溝は西に34度を向き、長さ推定で7m以上、幅1.8m。

南西溝は西に38度を向き、長さ5m以上、幅1.8m。

北西溝は西に34度で、長さ推定13.5m、幅1.5m。

主体部は奥1.4×3.3m、前2.3×4.2mの隅円方形のものが2基検出された。

(340) 18号方形周溝墓 第163図 図版50-5・6

グリッドP-17<18に位置する。261号住居跡を囲むように2本の溝が検出されている。調査区域外に続く方形周溝墓とした。

南西溝は東に88度を向き、長さ9.6m、幅1.7m。

北西溝は西に6度を向き、長さは7.3m、幅1.8m。

出土遺物（第165図）壺頸部破片と、高杯が出土している。

(341) 19号方形周溝墓 第166図 図版50-8・51-1

グリッドS-14に位置する。6号溝に削平される。台遺跡C地点北東部にある2本の溝と組み合わせ大形の方形周溝墓となる。北西溝は東に48度を向き、長さ3.2m以上、幅3.3mを測る。

出土遺物（第165図）壺の底部が2点出土している。

23基の墳墓は、弥生時代中期、古墳時代前期、古墳時代後期、古代と4つの時期に分かれる。

弥生時代中期に属するものは、1～9・11～14・19～21号方形周溝墓の16基。古墳時代前期は15～18号方形周溝墓。古墳時代後期は1～3号墳。古代は10号方形周溝墓となる。

弥生時代中期の方形周溝墓16基は、1・4～6・8・11号方形周溝墓の6基、2・13・14・20・21号方形周溝墓の5基、3・7・9・12号方形周溝墓の4基、19号方形周溝墓の4つの群に分けられる。

1・4～6・8・11号方形周溝墓の6基からなるⅠ群は、B地点の南に寄って1・5号方形周溝墓の比較的大型の方形周溝墓を73m離れて並べ、5号の東に接するように4号、南に11号を配置し、さらに南に6・8号を東西に並べている。北東・南西溝は平均して西に57度±5度、南東・北西溝は東に32度±7.5度の範囲に収まる。

2・13・14・20・21号方形周溝墓の5基からなるⅡ群は、西から南東にかけて大形の13号・2号方形周溝墓を92m離れて並べ、13号の北東・北西溝に平行するように、14・20・21号方形周溝墓が造ら

れている。北東・南西溝は平均して西に $35.5\text{度}\pm 12.5\text{度}$ 、南東・北西溝は東に $54.75\text{度}\pm 12.75\text{度}$ の範囲に収まる。

3・7・9・12号方形周溝墓の4基からなるⅢ群は、前の二つの群の間に入るように、9号・7号方形周溝墓を90m離れて並べ、間に3号・12号方形周溝墓を9号方形周溝墓と並べて造っている。北・南溝は平均して西に $81\text{度}\pm 13\text{度}$ 、東・西溝は東に $6.5\text{度}\pm 13.5\text{度}$ の範囲に収まる。

19号方形周溝墓は、B地点東端で検出され、北西溝のみ調査された。溝の向きはⅡ群の範囲に収まる西に 43度 だが、位置関係からもⅡ群ではなくC地点にある方形周溝墓と組み合わせられる別の群であろう。いずれも大形の方形周溝墓を中心にそれと溝を並べるように、一部は溝を共有して造られている。

I・II・Ⅲの3群以外に、この台地上にはC地点を中心とする群とA地点北部からE地点にかけての一群がある。それぞれが南西の根田代遺跡、南の御林跡遺跡、台遺跡B地点からA地点にかけての弥生時代中期の集落の奥津城となっている。ただ、どの群がどの集落の墓域になるのかについては、各遺跡とも整理中だったりまだ整理が行われていないことから確認されてはいない。

古墳時代前期とした15～17号方形周溝墓も確実にそういえるのは15号方形周溝墓のみで、16号の時期判定の難しい土器と、18号の弥生時代中期の拓本からは時期を確定することができず、形態の違いと、16・18号方形周溝墓が南北に並びいずれも東に開くコの字形であること、18号と重複する17号方形周溝墓もコの字形であることから近い時期のものと考えている。台遺跡では、古墳時代前期の墳墓で溝が途切れ、主体部の残る方形周溝墓はB地点にあるこの3基のみで、E地点南部などには上部を削平された方墳が残されている。

古墳時代後期の方墳と考えられる1～3号墳は、いずれも墳丘、主体部は残されていない。台遺跡の古墳、特に方墳は、後述するB地点の1～3号溝からC・A地点まで続いて、東西南北を約216mの範囲で区画する古代溝で囲まれた範囲では検出されず、それぞれの南・北のすぐ外側からA・B・C地点併せて5基を調査している。いずれも遺物の出土が少なく時期を確定することは難しいが、その形態から古墳時代後期と考えてよいだろう。E地点で検出されたものは古墳中央の主体部以外に周溝中に古墳内側に掘り窪める有天井土壇が造られていた。1号墳北側で8世紀の区画溝が古墳を避けるように屈曲していることなどから溝が造られた時代にはまだ墳丘が存在していたことが考えられる。

これらの小形の方墳と台地北側にある西谷古墳群と呼ばれる墳丘の残る前方後円墳、円墳、方墳からなる古墳群との関係もまだ明らかになっていない。

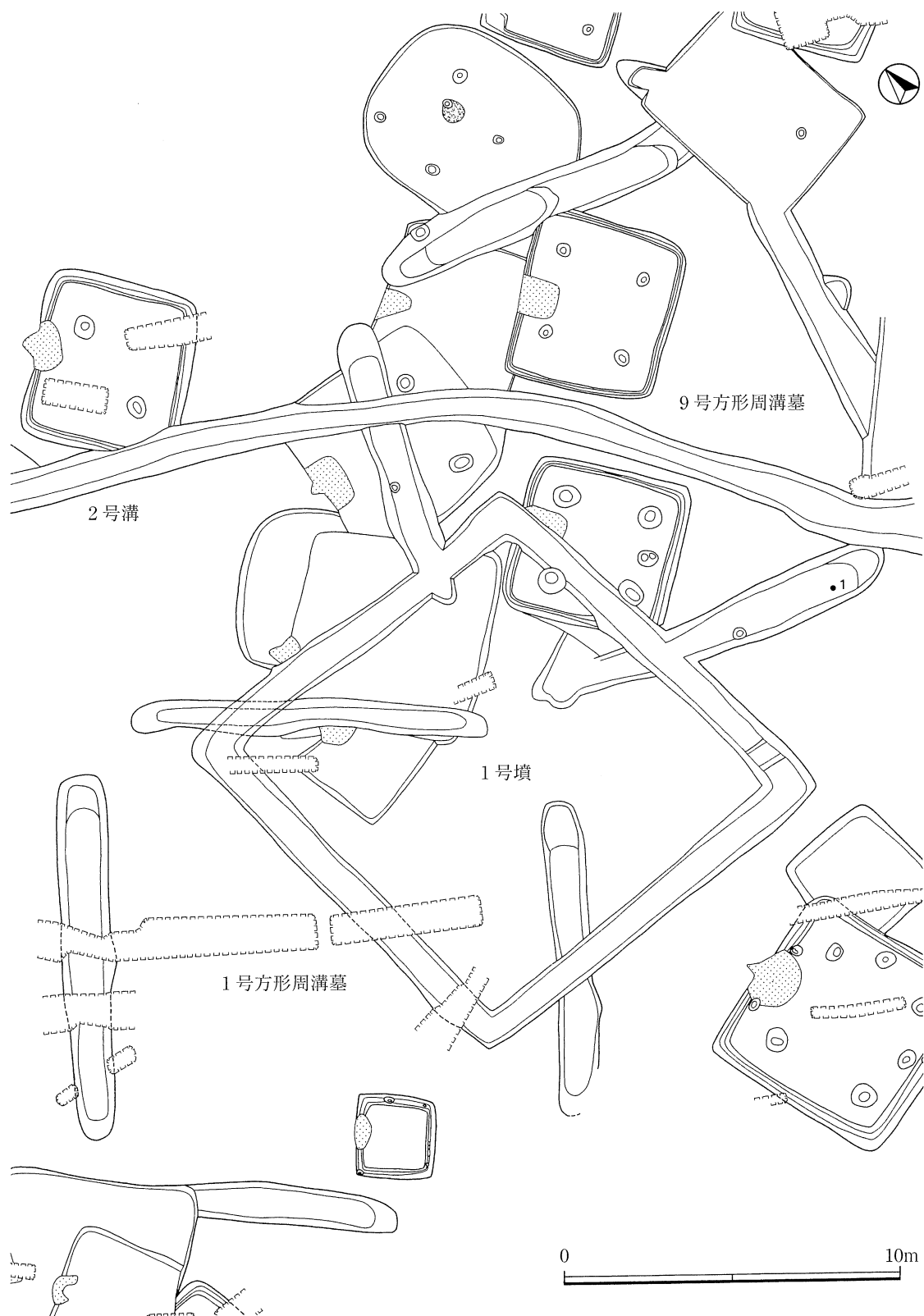
古代の10号方形周溝墓については、当時市内ではこのような遺構があることを調査員が知らず、芋穴と誤認して途中で調査を打ち切ってしまい、南西部が確認されていない。また土壇内に横穴があることはボーリング棒で確認したがこれも掘り上げていない。後年東に隣接する台遺跡C地点で横穴内に人骨を伴う方形区画墓が検出されそれと同様な遺構ではないかと気付いた。二重の周溝を持つ例は珍しく、残された範囲で図を載せるだけにとどまった。

表12 墳墓一覧表

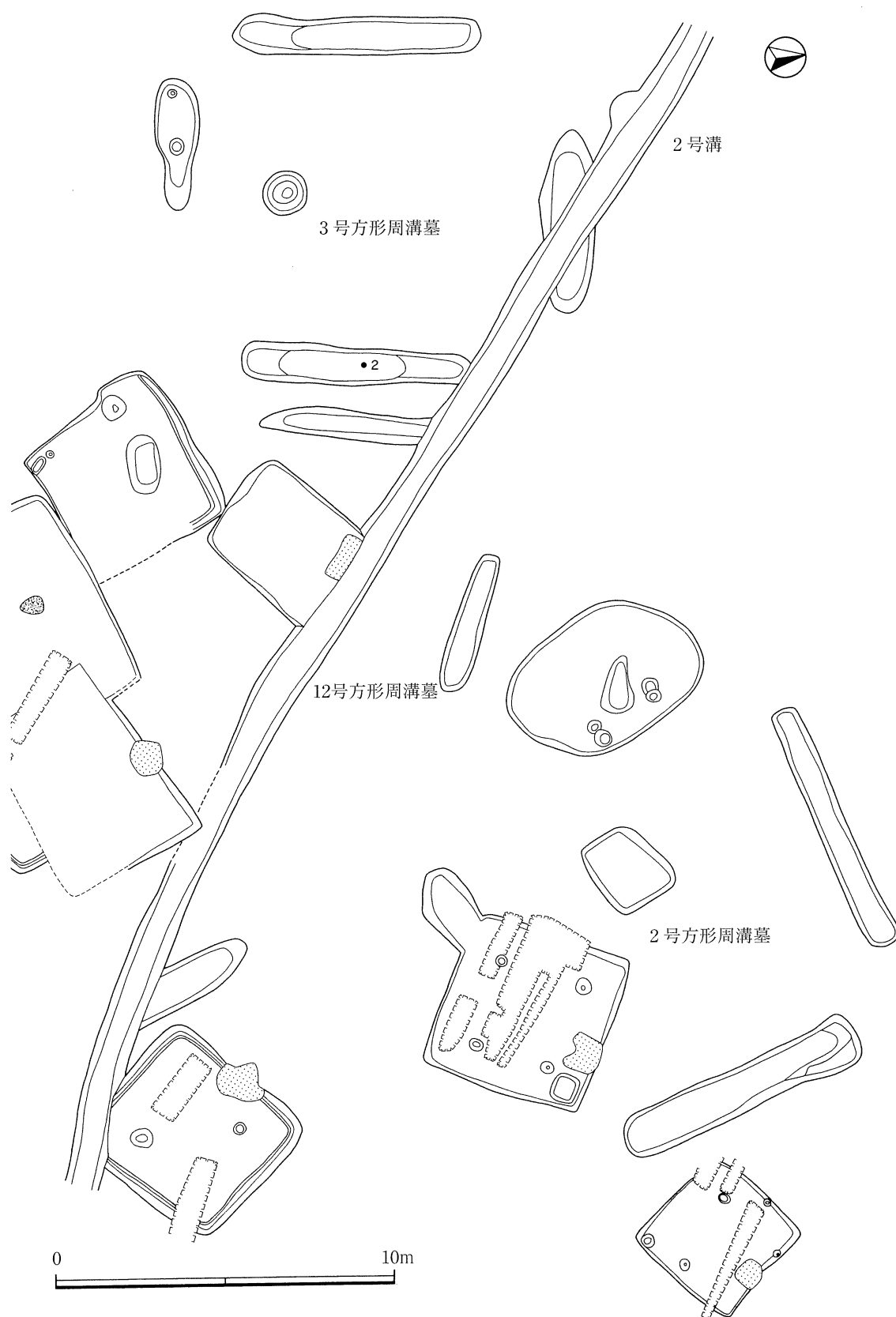
	番号	挿図	位置	時期	状態	外周/内周	北東溝	南東溝	南西溝	北西溝
318	1号方形周溝墓	157	JKL-11~13	弥生中期	019・021・073・074・104号住居跡、1号墳と重複、中央に大きな攪乱があり主体部不明	16.0×15.8/ 13.5×13.4m	56W10.6 ×0.9m	29E9.4× 1.4m	50W6.4+ ×1.3m	26E10.9 ×1.5m
321	2号方形周溝墓	158	IJK-15~16	弥生中期	025号住居跡と重複、西溝攪乱。主体部2.4×1.3m隅円方形	?×12.4/ ?×10.0m	23W7.5 ×1.4m	65E2.55+ ×1.5m	?	70E7.7 ×0.9m
322	3号方形周溝墓	158	GH-14<15	弥生中期	北で2号溝と重複、主体部径1.3m円形	13.0×10.9/ 10.0×8.7m	88W5.4 ×1.6m	3E6.8 ×1.2m	89W3.9 ×1.3m	2E7.3 ×1.2m
324	4号方形周溝墓	159	FG-14	弥生中期	東で194号住居跡、西で2号墳と重複、主体部無し	9.3×9.0/ 7.1×6.9m	54W6.0 ×1.2m	33E5.7 ×0.9m	58W5.5 ×1.0m	36E4+ ×1.2m
325	5号方形周溝墓	159	EF-14<15	弥生中期	南東で2号墳、194号住居跡、南西で189・190号住居跡と重複、主体部不明	14.1×13.2/ 11.1×9.6m	57W10.5 ×1.8m	43E8.5 ×1.6m	54W8.6 ×1.8m	36E8.6 ×1.6m
328	6号方形周溝墓	160	FG-11>12	弥生中期	北西で091号住居跡と重複、南東区域外、主体部1.3×0.9m隅円方形	10.5×11.0/ 8.5×9.1m	56W5.6 ×1.0m	31E4.8 ×0.9m	62W2.8+ ×0.9m	34E5.8 ×1.1m
329	7号方形周溝墓	160	EF-12<13	弥生中期	北東で097号住居跡、東で098号住居跡、南西で099号住居跡と重複、主体部不明	6.4m×7.8m	1W4+ ×0.8m	86E4.9 ×1.0m	7W1+ ×0.5m	87E2.8+ ×0.9m
330	8号方形周溝墓	160	EF-11<12	弥生中期	北で099号住居跡、西で100号住居跡と重複、主体部1.1×1.3m不整楕円形	7.2×8.0/ 5.8×6.9m	62W5.2 ×0.7m	24E3.6 ×0.7m	63W4.6 ×0.7m	25E3.9 ×0.8m
319	9号方形周溝墓	157	KL-12~14	弥生中期	003・009・010・011・014・018・019号住居跡、1号墳、2号溝と重複、主体部不明	15.6×15.4/ 12.2×12.2m	78W9.5+ ×0.9m	5E7.8+ 1.5m	77W11.0 ×1.6m	15E9.0 ×1.5m
332	11号方形周溝墓	160	DE-13>14	弥生中期	南東で193号住居跡と、南で10号方形周溝墓と重複、主体部1.3×1.1m円形	8.2×7.6/ 6.6×6.0m	58W5.8 ×1.0m	1+×0.6m	60W4.4 ×0.6m	32E5.7 ×1.0m
323	12号方形周溝墓	158	HI-14>15	弥生中期	2号溝、027号住居跡と重複、主体部不明	?×?/ ?×?m	68W4.3 ×1.0m			9E5.0+ ×0.8m
333	13号方形周溝墓	161	FG-20>21	弥生中期	西で3号溝と重複、南東溝南半分と南西溝区域外、主体部不明	14.4+×17.0/ 12+×12.9m	34W10.6 ×3.1m	51E5.6+ ×2.3m		56E8.6 ×1.9m
334	14号方形周溝墓	161	KL-17>18	弥生中期	東で184・185号住居跡と重複、完掘せず詳細は不明	?×?m	48W3.5 ×1.1m	51E1.6 ×1.1m		
337	15号方形周溝墓	162	KL-17>18	古墳前期	北で280・283号住居跡と重複、主体部2.4×2.3m円形に0.6×1.6m隅円方形	11.5×13.1/ 9.3×9.9m	29W8.7 ×1.7m	64E8.5 ×1.1m	27W8.7 ×1.4m	64E9.7 ×1.2m
338	16号方形周溝墓	163	P-16<17	古墳前期	1・8号溝と重複、主体部2.2×3.8m隅円方形	7.5×11.9/ 6.4×9.2m	86E5.2 ×?		81E5.2 ×1.2m	3W8.5 ×1.0m
339	17号方形周溝墓	163	NO-17<18	古墳前期	東で18号方形周溝墓、西で4号溝と重複、主体部奥1.4×3.3m、前2.3×4.2m隅円方形	14.0×17.3/ 11.3×14.0m	34W7+		38w5+ ×1.8m	34E13.5 ×1.5m
340	18号方形周溝墓	163	OP-17<18	古墳前期	北で261号住居跡、中央で7号溝と重複、主体部不明			88E9.6 ×1.7m	6W7.3 ×1.8m	
341	19号方形周溝墓	161	EF-21	弥生中期	東で3号溝と重複、南東溝のみ調査、他は区域外			48E3.2 ×3.3m		
335	20号方形周溝墓	166	S-14	弥生中期	北東で6号溝と重複、C地点で南西溝、南東溝を確認			42E3.6+ ×4.0m		
336	21号方形周溝墓	161	FG-22	弥生中期	東で3号溝と重複、南東溝北側のみ調査、他は区域外			57E4+ ×1.7m		
320	1号墳	157	JK-12~13	古墳時代	011・018・019・020・021号住居跡、1・9号方形周溝墓と重複、東溝南側に0.8mブリッジ。中央に攪乱があり主体部不明	13.0×12.8/ 10.6×10.6m	12W13.0 ×1.1m	86E12.8 ×1.2m	10W13.0 ×1.1m	85E12.2 ×1.2m
326	2号墳	159	EF-14<15	古墳時代	東で4号方形周溝墓、南西で5号方形周溝墓と重複、主体部不明	11.0×11.2/ 8.5×8.7m	72W10.7 ×1.5m	13E11.2 ×1.1m	69W11.3 ×1.1m	28E10.8 ×1.2m
327	3号墳	159	BC-13>14	古墳時代	北東区域外、主体部不明	?×8.6/ ?×6.6m	85W8.3 ×1.0m	4E5.4+ ×1.0m		
331	10号方形周溝墓	160	DE-12<13	古代	東099号住居跡、西101号住居跡、北で191・193号住居跡と重複、南東溝に1.4×2m縦穴、内側に横穴	8.2×6.2+/ 5.4×5.2+m	4.1×1.7m	6.6×1.7m	5.0×1.0m	

表13 墳墓出土土器観察表

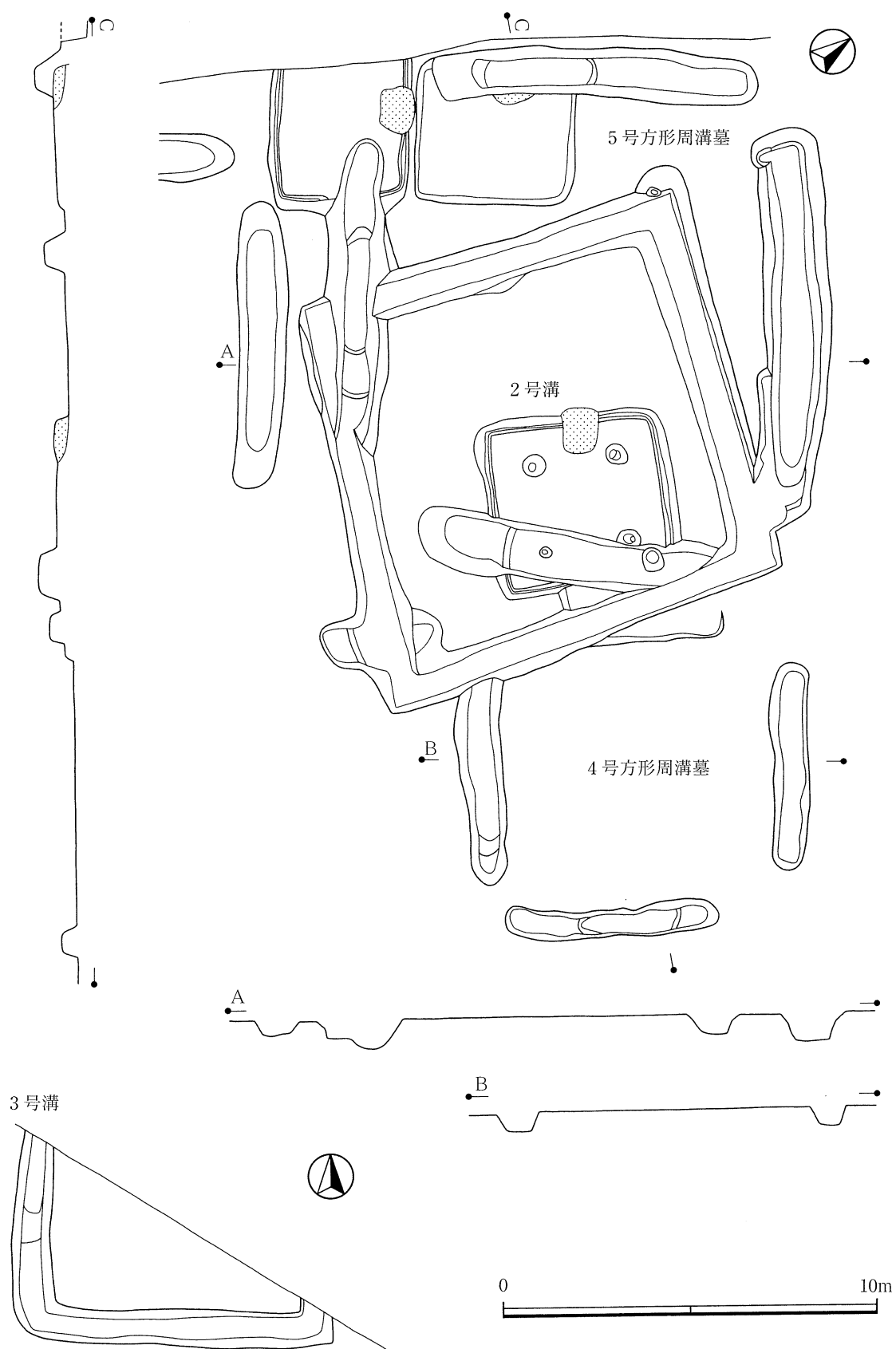
挿図	番号	遺構	器形	備考	高さ:口径:頸径:胴径:脚継:端底:厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
164	1	1号方形周溝墓	須恵蓋坏		41+: : : : 93 :2<6			
164	2	1号方形周溝墓	高杯	杯部のみ	42+: 152: : : : :4<6			
164	3	1号方形周溝墓	高杯	杯部のみ	44+: 132: : : : :5<7			
164	4	1号方形周溝墓	甕	胴以下欠	38 : 110: 84 : : : : :4<7	頸部焼成前穿孔		
164	1	2号方形周溝墓	壺	底部	34 : : : : : 58 :6<10			
164	1	3号方形周溝墓	甕	口縁から胴下部	134+: : : : : :	口縁小波状、胴上部に段		
164	2	3号方形周溝墓	壺	頸部以上欠	174+: : : :200 : : 58 :6<10	胴に斜めハケわずかに残る		
164	1	5号方形周溝墓	壺	頸部以上欠	95+: : : :116 : : 71 :7<12	頸部、胴上部ハの字状に沈	文様部以外赤彩、黒みを帯びる	砂粒小さく緻密
164	2	5号方形周溝墓	甕	拓本		線、縄文で埋める		
164	3	5号方形周溝墓	甕	拓本				
164	4	5号方形周溝墓	甕	拓本				
164	5	5号方形周溝墓	甕	拓本				
164	6	5号方形周溝墓	甕	拓本				
164	7	5号方形周溝墓	甕	拓本				
164	1	6号方形周溝墓	壺	頸部以上欠	376+: : 90 :296 : : 69 :7<9		赤褐色、各文様帯の間赤彩	
164	1	7号方形周溝墓	壺	頸部以上欠	263+: : : :220 : : 72 :6<13	頸部縦ハケ、胴部横ハケ、以下斜めヘラ、4本一組の沈線2本一組波状沈線5段、同じ工具で刺突、上波状2段	淡褐色、各所にスス付着黒変	
165	1	9号方形周溝墓 9号方形	壺	頸部以上欠 胴上部以	336+: : 71 :295 : : 70 :7<15	頸部縦ハケ後縦ヘラケズリ、	酸化炎でで赤橙色。外面赤彩残る	砂粒多くやや脆い
165	2	周溝墓 13号方形	壺	上欠	211+: : : :156 : : 68 :7<10	胴上部結節6本、3段		
165	1	周溝墓 13号方形	壺	上下欠	74+: : : :140 : : : :6<7	外斜めハケ、内ヘラケズリ		
165	2	周溝墓 14号方形	壺	上半欠	76+: : : :145 : : 66 :6<8	斜めハケ後横ナデ、下ハの字状6単位	胴部赤褐色、底部赤橙色	砂粒多くやや脆い
165	1	周溝墓 15号方形	甕		196+: : :208 : : : :86 :5<8	胴上部羽状縄文、以下横ヘラミガキ		
165	1	周溝墓 15号方形	高杯	杯部のみ	77+: 216 : : : :47 : : :7	縦ヘラケズリ	淡褐色	
165	2	周溝墓 16号方形	甕	底部	36+: : : : : 64 :6<8	細かい斜めヘラミガキ	暗褐色から黒色	
165	1	周溝墓 18号方形	壺	完形	105 : 74 : 94 :107 : : : 38 :6<10	縦ヘラケズリ	黄褐色、一部黒色	砂粒若干混、やや脆い
165	1	周溝墓 18号方形	壺	破片		横ヘラケズリ、底部平滑で光沢あり		
165	2	周溝墓 19号方形	高杯	完形	114 :160 : : : :57 : 94 :4<8	ハの字状沈線、内縄文	赤彩	
165	1	周溝墓 19号方形	壺	底部	46+: : : : : 56 :7<12	横ヘラミガキ	外黒褐色、内黄褐色	砂粒多量混、硬い
165	2	周溝墓	壺	底部	65+: : : : : 64 :6<12	外縦ヘラミガキ、内横ヘラ		
165	1	1号墳	甕	胴部以下欠	84+:150 :124 : : : : :4<6	ケズリ		
165	2	1号墳	坏	完形	76 :148 : : : : :丸底:5<7	横、斜めハケ		
165	1	2号墳	須恵長頸壺	胴部欠	86+: 76 : 42 : : : : :3<6	頸部以上ハケ、胴斜めヘラ		



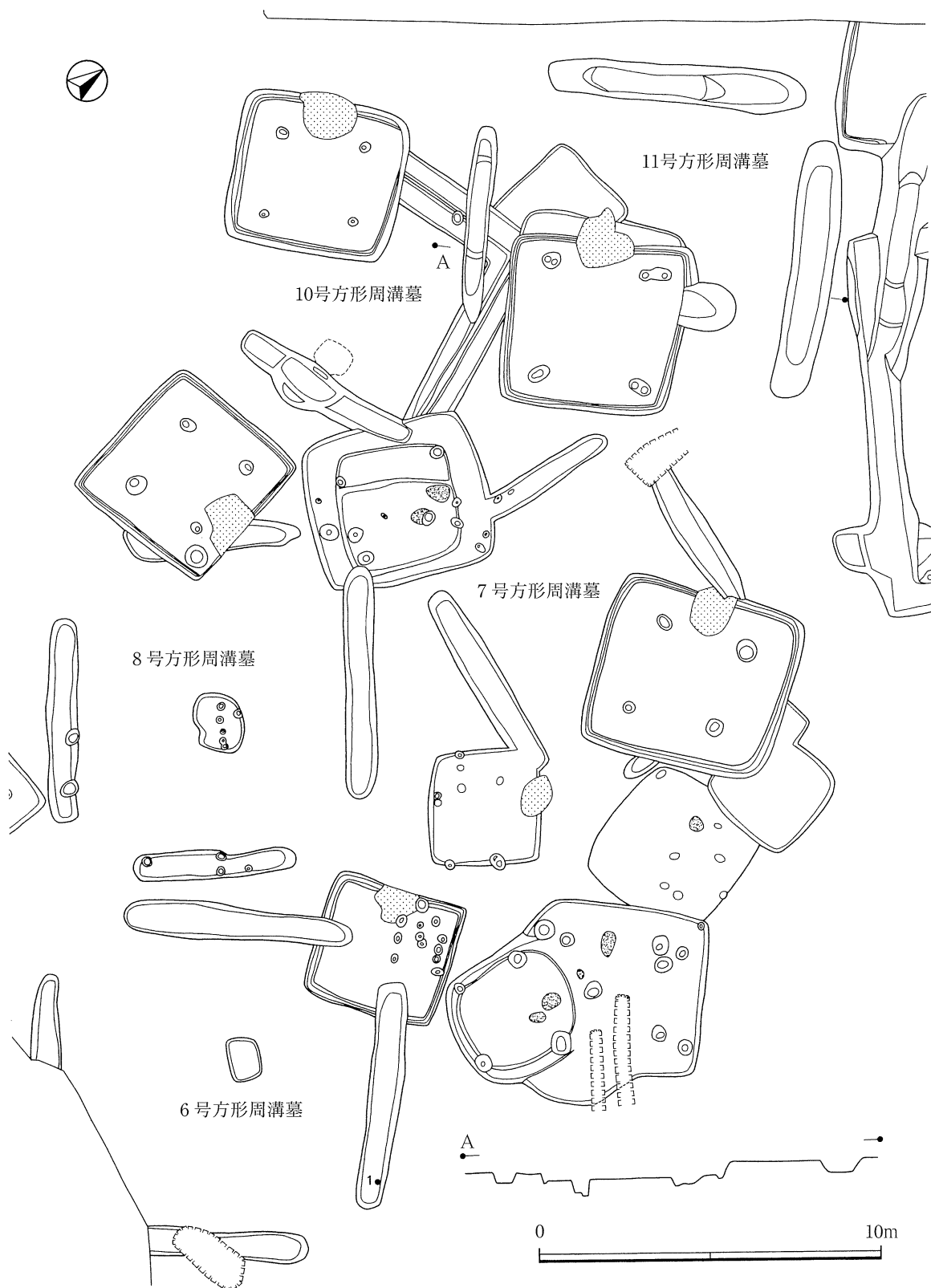
第157図 1・9号方形周溝墓・1号墳



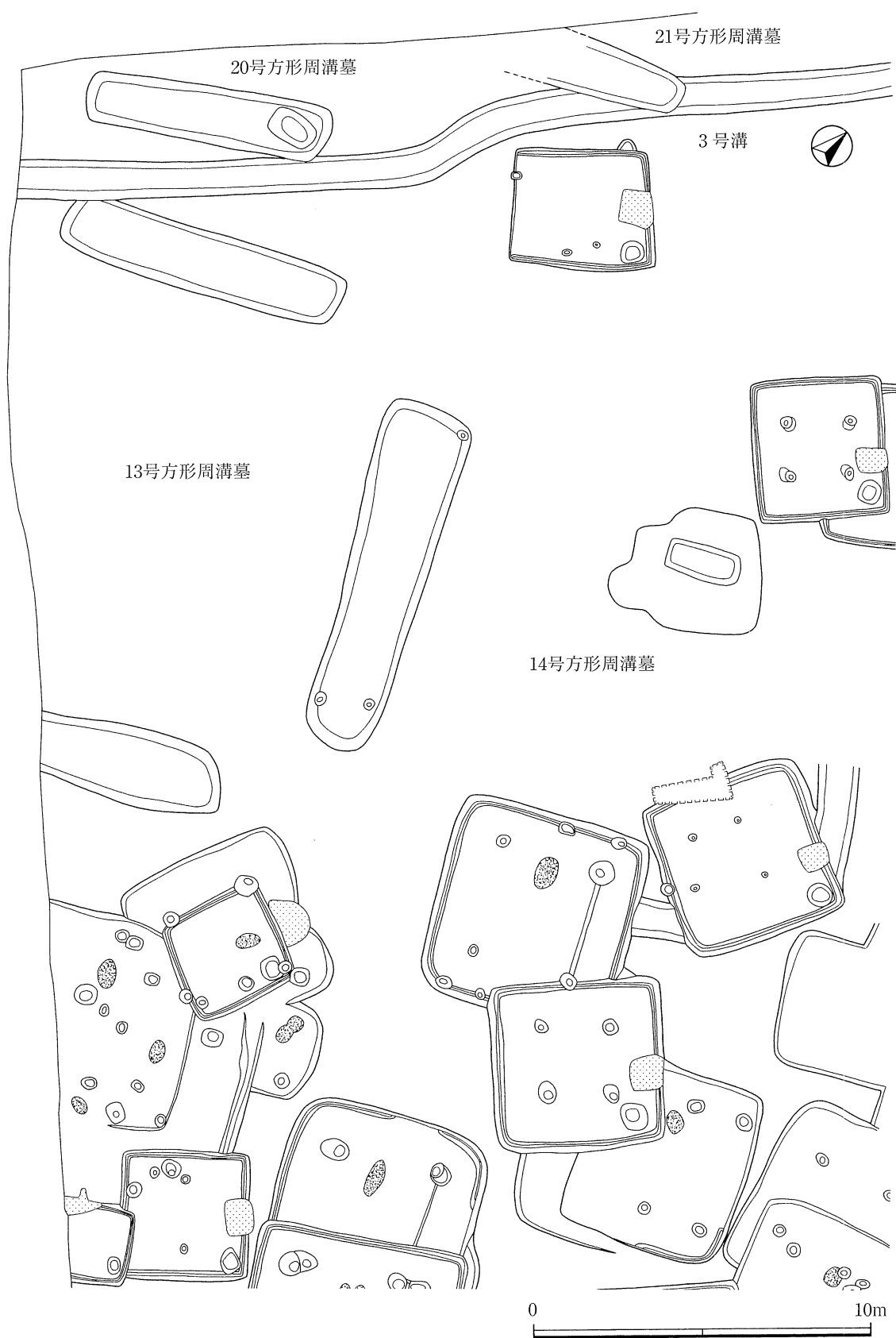
第158图 2·3·12号方形周溝墓



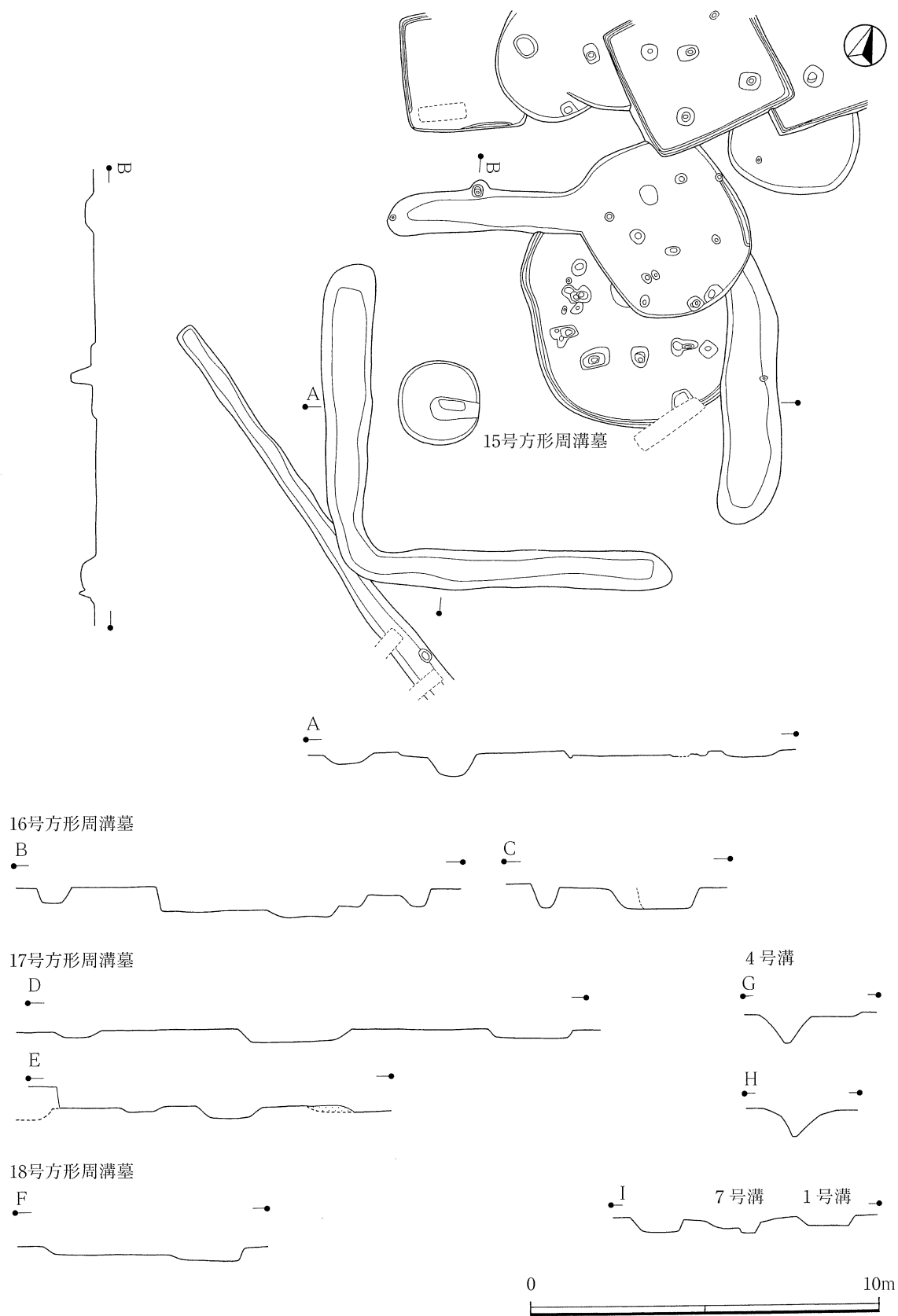
第159図 4・5号方形周溝墓・2・3号墳



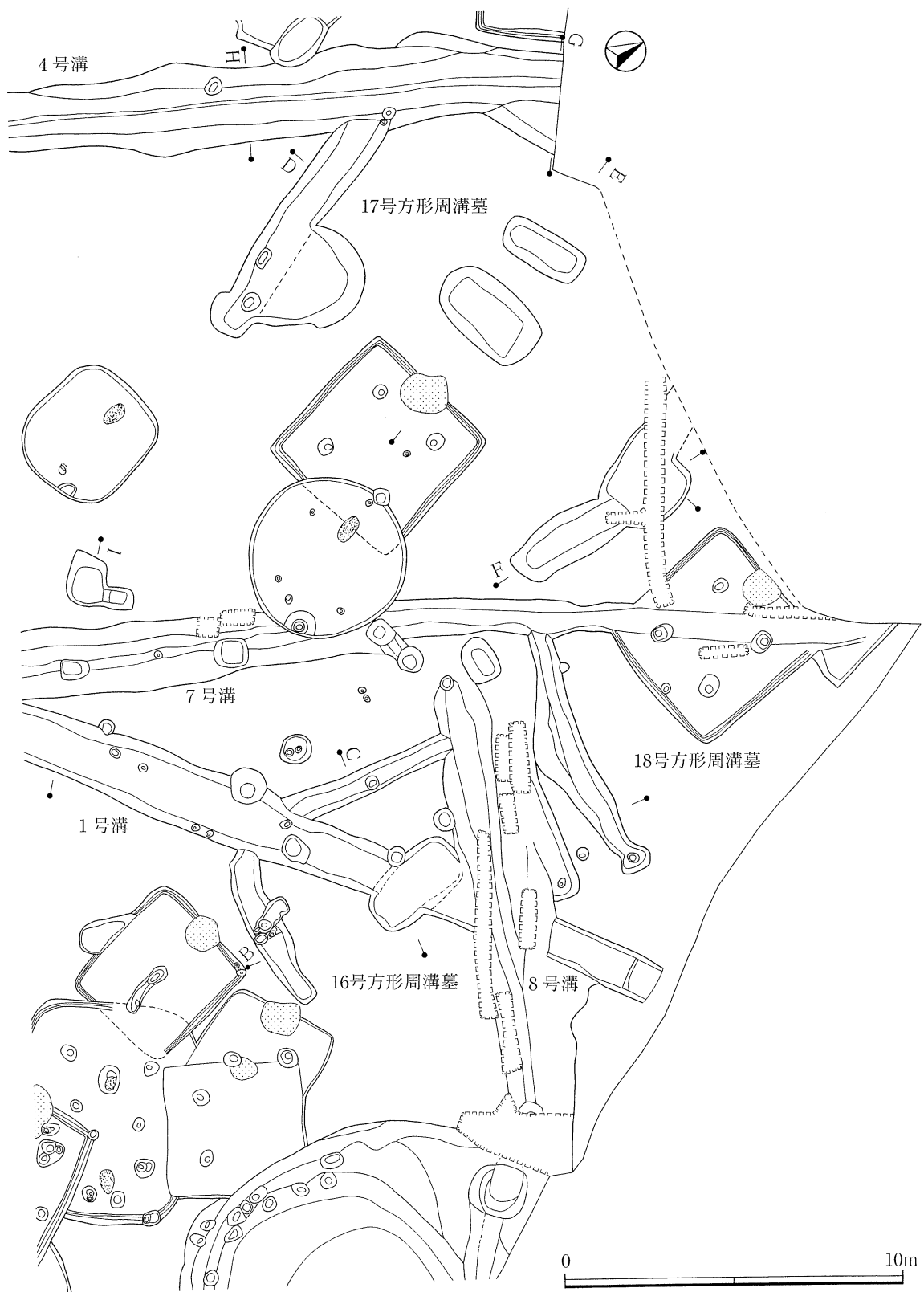
第160図 6・8・10・11号方形周溝墓



第161図 13・14・20・21号方形周溝墓

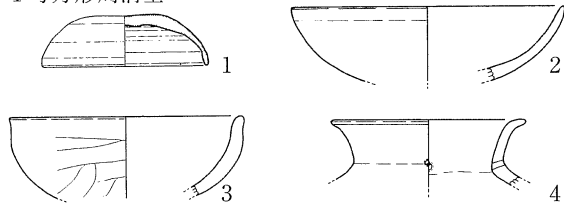


第162图 15号方形周溝墓

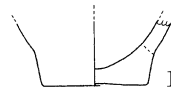


第163図 16~18号方形周溝墓

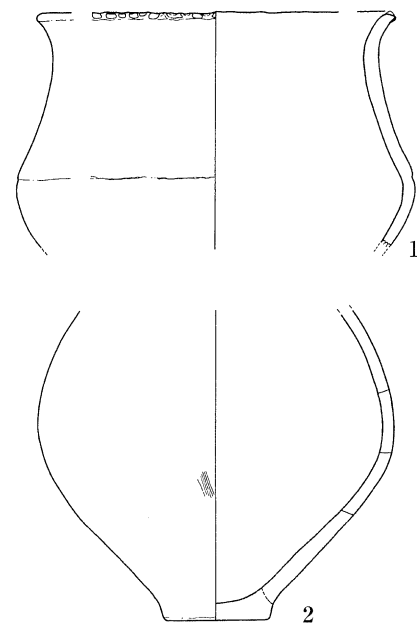
1号方形周溝墓



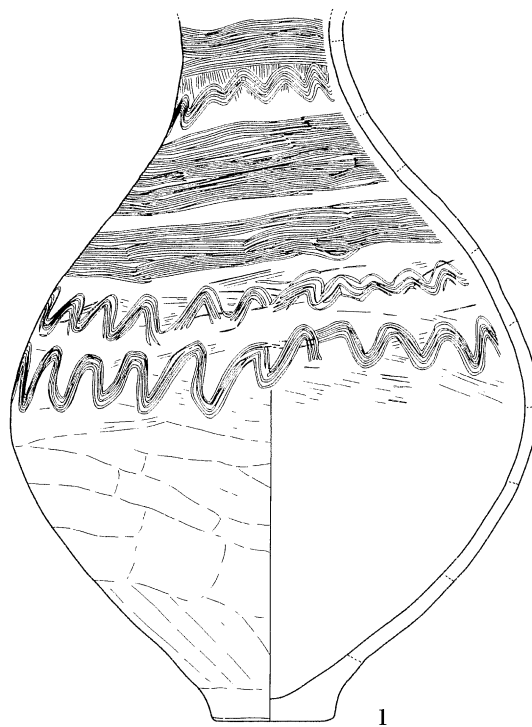
2号方形周溝墓



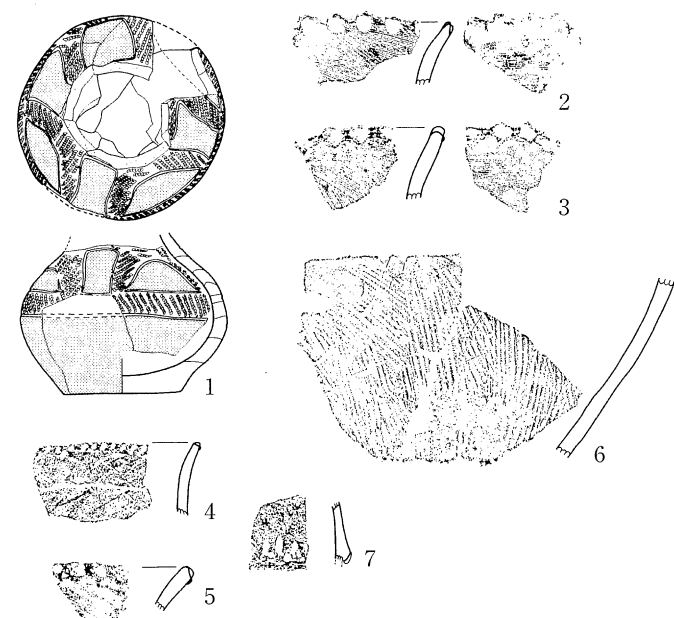
3号方形周溝墓



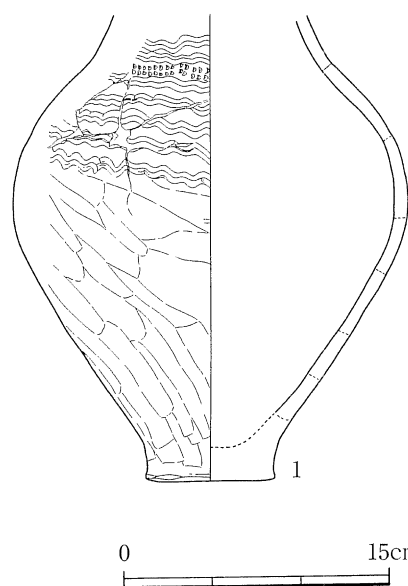
6号方形周溝墓



5号方形周溝墓



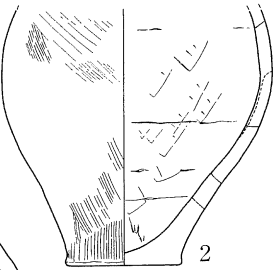
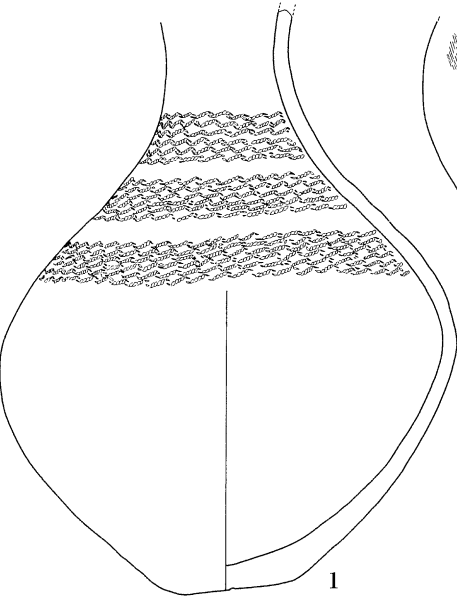
7号方形周溝墓



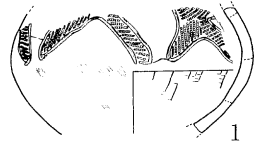
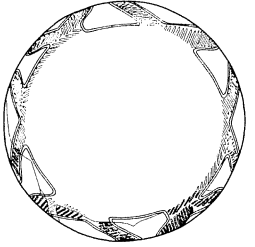
0 15cm

第164图 1~3·5~7号方形周溝墓出土土器

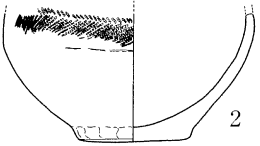
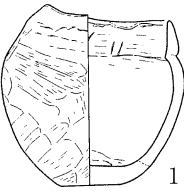
9号方形周溝墓



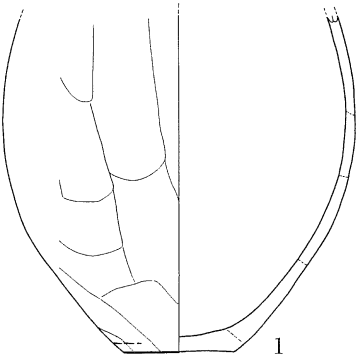
13号方形周溝墓



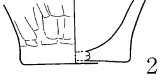
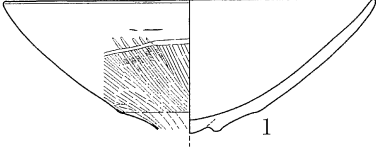
16号方形周溝墓



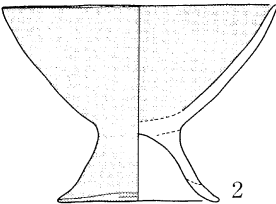
14号方形周溝墓



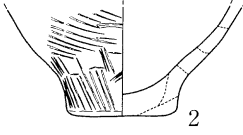
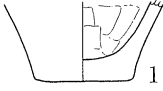
15号方形周溝墓



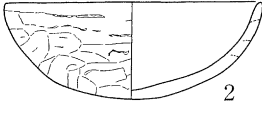
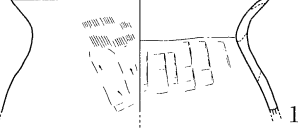
18号方形周溝墓



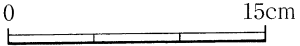
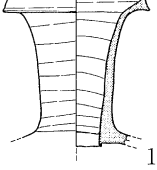
19号方形周溝墓



1号墳



2号墳



第165図 9・13~16・18・19号方形周溝墓、1・2号墳出土土器

2 中世遺構

調査区域の東端グリッドQ～T-14～17の範囲に中世の遺構が集中して検出された。東から最大2 m以上掘り込まれた摺り鉢状の遺構、台地整形区画が5基並び、その内部に3基、南側に2基の5基の地下式壙がある。台地整形区画の中には、長方形の土坑状のものや、斜めに横穴を掘るピットなどがあるが特に単独の遺構として調査していないようで、遺構番号は付けられていない。

a 台地整形区画

(342) 1号台地整形区画 第166図 図版53－2・4

グリッドST-14<15に位置する。

遺跡の最東端にある。南北6 m、東西7 mの範囲で検出され、北東側は道路により削平されている。中央部で地表面から1 m程の深さがある。南側に6号溝があるが西で二つに分岐し本遺構の縁に沿って曲がる部分があることから両者は一体のものと考えられる。北西寄りに土坑状の窪み、溝にピットがある他は特に内部に遺構は造られていない。

出土遺物は、本遺構の注記のある遺物はないが、前述したように6号溝と一体の遺構のためそちらを参照されたい。

(343) 2号台地整形区画 第166図 図版53－3・6

グリッドRS-14<15に位置する。

1号台地整形区画の北西に重複して並ぶ。南北7 m、東西8 mの範囲で検出され北東は道路に削平される。台地整形区画の中ではもっとも深く掘られており最深部で地表から2.1 mの深さがある。中央に3号地下式壙、4基の土坑、ピットがある。周囲に溝などで区画された痕跡はなく、北西側の様子から3号地下式壙を収める程度の平場を造っているだけのようだ。

出土遺物（第167図・第170図1） 常滑を中心とした中世陶器、カワラケと混入の古墳時代後期の土器。石臼の破片がある。石臼は茶臼の下臼である。

(344) 3号台地整形区画 第166図 図版57－1～4

グリッドQR-15>16に位置する。

径10 m程の遺構と考えられるが、2号台地整形区画が南東に、5号台地整形区画が北西にあるため重複で大きさは不明瞭である。中央部で1.3 mの深さがある。2号台地整形区画との間に3号地下式壙がある。摺り鉢状の斜面の途中に段があり地下式壙の北から段に溝が掘られている。段と内部に土坑、ピットがあるが用途などは分らない。

(345) 4号台地整形区画 第166図 図版57－5・6

グリッドQ-15<16に位置する。

3号台地整形区画の南にあり、241号住居跡の一部を削平している。他の台地整形区画に比べ浅く3号台地整形区画の縁辺の落ち込みと捉えてもいいのかもしれない。楕円形の土坑とピットがある。

出土遺物（第167図） 1は瀬戸・美濃系の瓶子、2は常滑の片口鉢である。

(346) 5号台地整形区画 第166図 図版57-7・8

グリッドQR-16>17に位置する。

4基並ぶ台地整形区画の北西端にある。直径11m、中央部で1m程の深さがある。南東で3号台地整形区画と重複するが両者の間は溝状にやや深くなっている。掘り込み斜面途中にピットが多く並ぶ以外内部にはピットなどはあまり無い。北側斜面に5号地下式墳が掘り込まれている。

出土遺物（第167図・第170図2・4） カワラケ2点と、石臼2点がある。石臼は茶臼の下臼である。

b 地下式墳

(347) 1号地下式墳 第168図 図版54-1～3

グリッドR-15に位置する。

3号台地整形区画の南端にあり出入口の縦坑部分が台地整形区画の平場にある。地下室は区画斜面の下にあったものと考えられるが天井は周囲の一部を除き崩落している。縦坑平面は円形で縦坑下から地下室まで0.4m程の間隔がある。小さなステップが1段あり0.6m降りて3.05×2mの長方形の地下室に降りる。地下室中央と南西コーナーに楕円形のピット、北西に長方形のピットがある。天井は周辺で1.1mほどの高さで内に傾斜し若干残っている。復元すると最大高1.6mのアーチ状になるものと思われる。

出土遺物（第168図） 1はカワラケ、2は常滑の片口鉢である。

(348) 2号地下式墳 第168図 図版54-6・7

グリッドQ-16に位置する。

3号台地整形区画南東に離れた平坦面に造られている。236号住居跡の中央から掘り込まれ、天井は236号住居跡の掘り込みのためロームが薄かったこともあり下に落下している。平面隅円方形の縦坑から、途中にステップ等を設けずに1.25m降りて地下室にいたる。地下室は縦坑に向かって横長の長方形になり、南西は区域外となる。2.8m以上×1.8mの規模で最大高1.4mほどのアーチ状の天井になる。

内部の堆積土層は、下層がロームを比較的多く含む黒色土で縦坑の開口部から内部に流入した土と天井の崩落土が混合したものである。中層は細かい黒色土の間層はあるもののロームブロックの堆積で天井が崩落した土である。上層は236B号住居跡の覆土とその上の土が落下したもので、2号地下式墳の旧番号の237号遺構の注記がある遺物は236B号住居跡に伴う可能性が高い。また、この遺構は調査中に水が湧き出し床面まで全面を調査することができなかった。

(349) 3号地下式墳 第168図 図版53-4～8

グリッドR-15に位置する。

2号台地整形区画の内部から掘り込まれている。隅円方形に1.2m掘り込まれた縦坑の斜面に細かいステップを掘り込み階段状の施設を造って地下室に降りる。階段最下段から地下室床面まで0.3mの段差がある。地下室は2.7×2.1mの横長の長方形で、天井は中央が陥没しているが周囲に残ってい

る。アーチ状で1.7m程の高さがあったものと思われる。地下室内部にピット等の施設はない。

出土遺物（第168図）瀬戸・美濃系の盤が出土している。

(350) 4号地下式壙 第168図 図版54-8～54-8

グリッドR-14に位置する。

1号地下式壙の南の平坦面に造られる。他の遺構との重複が無く。天井上のロームが厚かったため天井部は全て残っている。確認面で摺り鉢状に広がった縦坑から、横穴をくぐり地下室に降りる。縦坑はもっとも狭い部分で1.2×1.2mの方形で1.5mの深さがある。地下室への入口部は幅58cm、高さ50cm、奥行き66cmと人間一人がくぐるのがやつの大きさである。地下室側入口下の壁面には横穴が掘られており、昇降の際の足掛けの穴である。1.0m降りた地下室内は2.1×1.3mの横長の長方形で、天井は平坦で2.1mの高さがある。築造当初の工具痕が壁面・天井ともによく残っている。比較的刃幅の広い鋤状の工具で床面近くから天井に向けて、右上から振り下ろして整形するのが主で一部に左上から整形している部分もある。

(351) 5号地下式壙 第166図 図版57-8

グリッドQ-17に位置する。

8号溝末端が5号台地整形区画に降りる部分に縦坑があり天井の崩落した地下室が北西側にあることは確認したが道路による削平のすぐそばで掘り下げるのが危険な状態にあり内部は確認していない。

5基検出した地下式壙は、その立地が二つに分かれる。1・3・5号地下式壙に見られる台地整形区画内に造られたものと、2・4号地下式壙の台地平坦面に造られたものである。

1号地下式壙は、3号台地整形区画の中と説明はしたが、台地整形区画の地下式壙の南西の部分で別の弧を描いていることから、3号台地整形区画以前に小形の掘り込みがあり、その底から掘り込まれたことが考えられる。

3号地下式壙は、2号台地整形区画の項でも記述しているが、地下式壙を掘り込むために台地を円形に掘り下げていたことが窺われる。これは、現状では天井は残らないがオーバーハングした部分から考えると台地整形区画の底より下で天井が納まることから分かる。

5号地下式壙については地下室部分を調査していないので詳細は不明だが、台地整形区画の斜面を利用して掘り下げる手間を省き天井より上のローム層の厚さを確保している。台地整形区画より新しいものといえる。

2号地下式壙は現状では天井が崩落しているが、これは偶然住居跡のあったところに構築したためで、これと4号地下式壙は横長の地下室、縦坑が方形で南東を向くなど共通点が多い。

表14 地下式竈一覧表

番号	位置	竈形 形態	竈坑規模	入口	昇降 施設	段	段差	地下室 形態	主室 方位	地下室規模	奥壁	前壁	左壁	右壁	備 考	立地	削平
1号	S-15	円形柱状	1.1×1.25×1.6	0.4	掘り 込み	1段	0.6	長方形天 井アーチ	22W	3.05×2.0×1.6	2.6	3	1.8	1.8	地下室床面に ビット3箇所	窪地に 造る	なし 崩落
2号	Q-14	隅丸方形 柱状	1.1×1.0×1.2	0.4	なし	0	1.25	長方形天 井アーチ	113W	2.8×1.8×1.4	2.6	2.8	不明	1.8	南側区域外地 下室北東部未掘	平坦地 の造る	なし 崩落
3号	R-15	隅丸方形 階段状	1.0×1.15×1.2	なし	掘り 込み	7段	0.3	長方形天 井アーチ	22W	2.7×2.1×1.7	2.35	2.6	1.8	1.8	竈坑天井にか かる	窪地に 造る	なし 崩落
4号	R-14	方形ロー ト状	1.2×1.2×1.5	0.55	横穴	1段	1	長方形天 井平坦	99W	2.1×1.3×2.1	2.1	1.85	1.2	1.2	竈坑上掘鉢。 完存	平坦地 の造る	なし 完存
5号	Q-17	隅丸方形 ロート状	1.6×1.7	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	地下室未調査	窪地に 造る	不明

表15 中世遺構・溝出土土器等一覧表

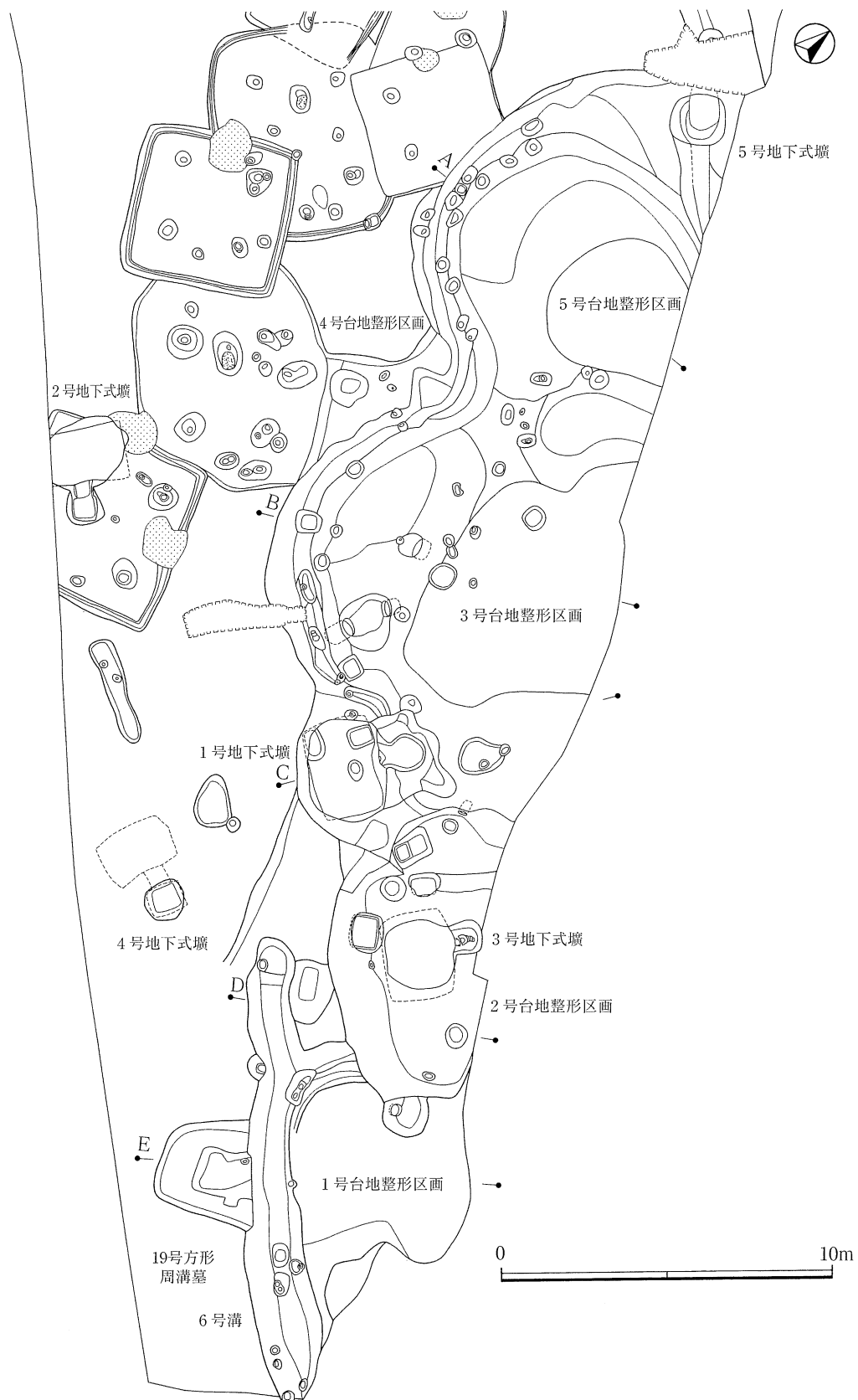
出土遺構	番号	種 別	時期・第171図番号	出土遺構	番号	種 別	時期・第171図番号
2号台地整形区画	1	片口鉢	6	2号溝	2	高杯	古墳時代後期
2号台地整形区画	2	刷鉢	22	3号溝	1	須恵広口壺	古墳時代後期
2号台地整形区画	3	盤	39	3号溝	2	高杯	古墳時代中期後葉
2号台地整形区画	4	壺	1	3号溝	3	高杯	古墳時代中期後葉
2号台地整形区画	5	掘鉢	23	3号溝	4	器台	古墳時代前期
2号台地整形区画	6	掘鉢	24	3号溝	5	埴	古墳時代前期
2号台地整形区画	7	掘鉢	21	3号溝	6	壺	古墳時代前期
2号台地整形区画	8	片口鉢	10	3号溝	7	壺	古墳時代前期
2号台地整形区画	9	須恵坏	古墳時代後期	4号溝	1	台付甕	古墳時代前期
2号台地整形区画	10	カワラケ	20	4号溝	2	壺	弥生時代中期
2号台地整形区画	11	カワラケ	中世	6号溝	1	内耳鍋	28
2号台地整形区画	12	カワラケ	中世	6号溝	2	内耳鍋	29
2号台地整形区画	13	カワラケ	中世	6号溝	3	片口鉢	5
2号台地整形区画	15	花瓶	32	6号溝	4	鉢	7
2号台地整形区画	14	高杯	古墳時代後期	6号溝	5	鉢	13
4号台地整形区画	1	瓶子	31	6号溝	6	鉢	12
4号台地整形区画	2	片口鉢	11	6号溝	7	鉢	中世
5号台地整形区画	1	カワラケ	19	6号溝	8	甕	4
5号台地整形区画	2	カワラケ	中世	6号溝	9	甕	3
1号地下式竈	1	カワラケ	中世	6号溝	10	内耳鍋	27
1号地下式竈	2	片口鉢	9	6号溝	11	須恵蓋坏	古墳時代後期
3号地下式竈	1	盤	38	6号溝	12	高杯	古墳時代後期
1号溝	1	須恵蓋坏	古墳時代後期	6号溝	13	縄文式土器	縄文
1号溝	2	坏	古代	7号溝	1	須恵坏	古墳時代後期
1号溝	3	坏	古代	8号溝	1	壺	古墳時代前期
1号溝	4	壺	弥生時代中期	11号溝	1	碗	古墳時代後期
2号溝	1	須恵蓋坏	古墳時代後期	12号溝	1	鉢	弥生時代後期

表16 石臼一覧表

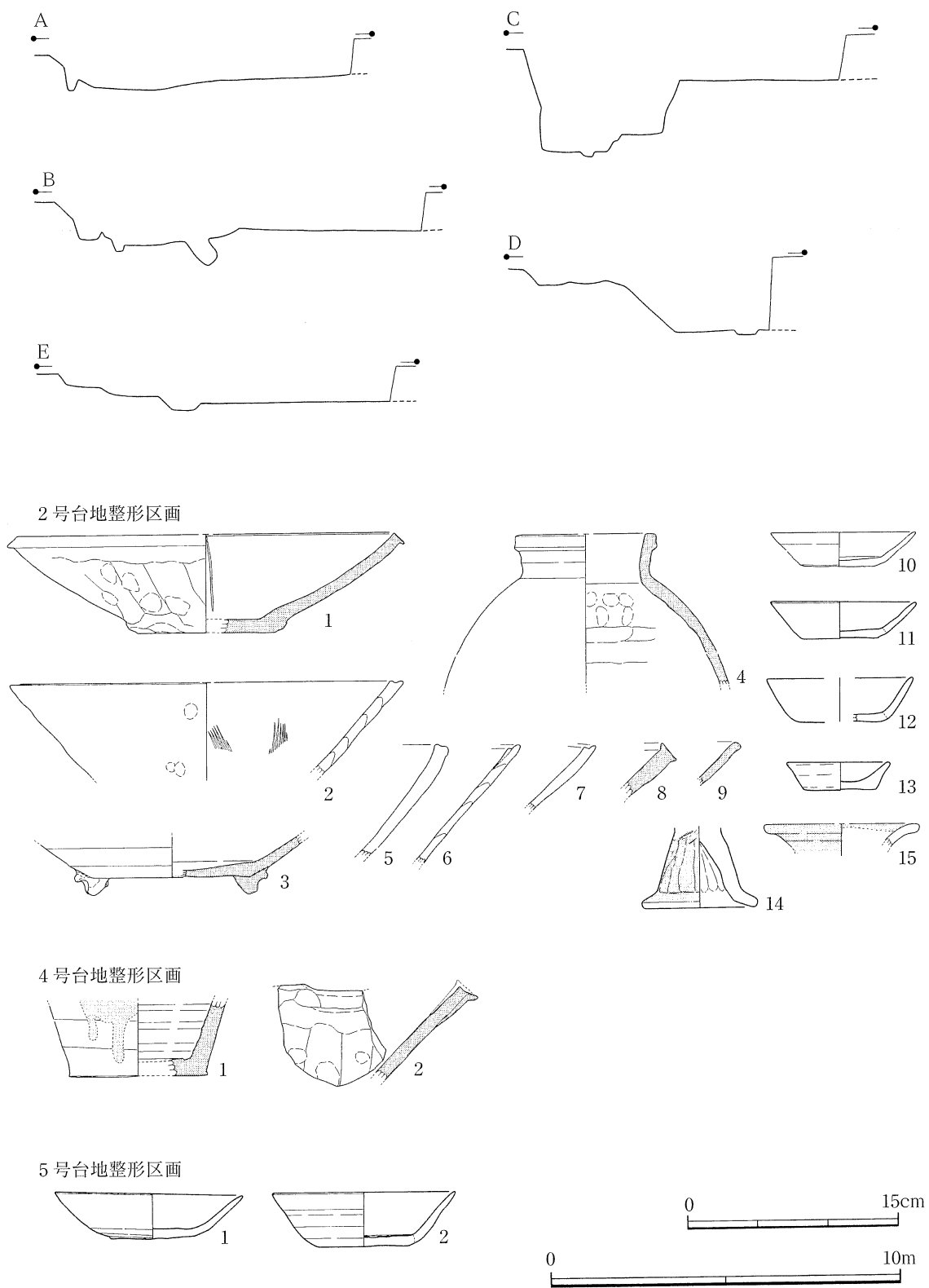
挿図	番号		形状・状態	縦	横	厚さ	重量
170	1	2号台地整形区画	茶臼下臼、つば、砥石に転用か	86	83	48	
170	2	5号台地整形区画	茶臼つば	105	53	42	206
170	4	5号台地整形区画	茶臼つば	81	45	44	154
170	3	不明	茶臼つば				464
170	5	表採	茶臼つば、部分的に火を受ける	84	48	42	171
170	6	表採	茶臼下臼、つば	69	47	34	92

表17 銭貨一覧表

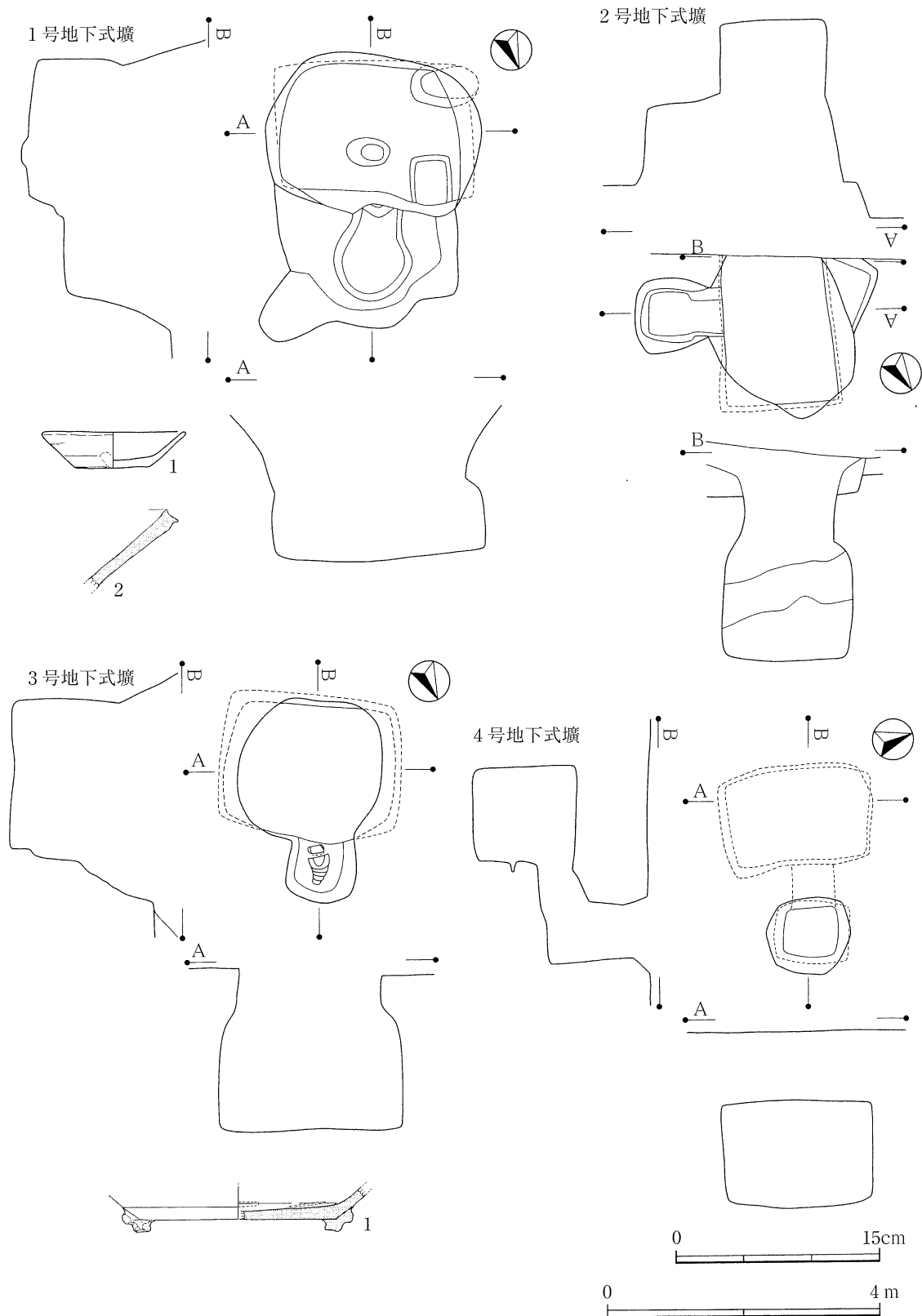
挿図	番号	種 別	初 鑄	外径縦	外径横	内径縦	内径横	厚さ	重量
170	1	至道元寶	995北宋	24.35	24.37	20.89	20.86	1.07~1.15	2.5
170	2	皇宗通寶	1038北宋	24.67	24.56	19.91	19.94	1.16~1.26	3.1
170	3	元豐通寶	1078北宋	24.33	24.1	18.96	18.93	1.12~1.17	2.6
170	4	元祐通寶	1086北宋	24.54	24.52	17.11	17.15	1.12~1.26	2.4
170	5	大觀通寶	1107北宋	24.07	24.19	21.51	21.18	1.01~1.27	2.4
170	6	永樂通寶	1408明	24.92	24.79	20.89	20.86	1.12~1.27	2.5
170	7	〇観通〇	1/3 破片。大観通寶						0.7



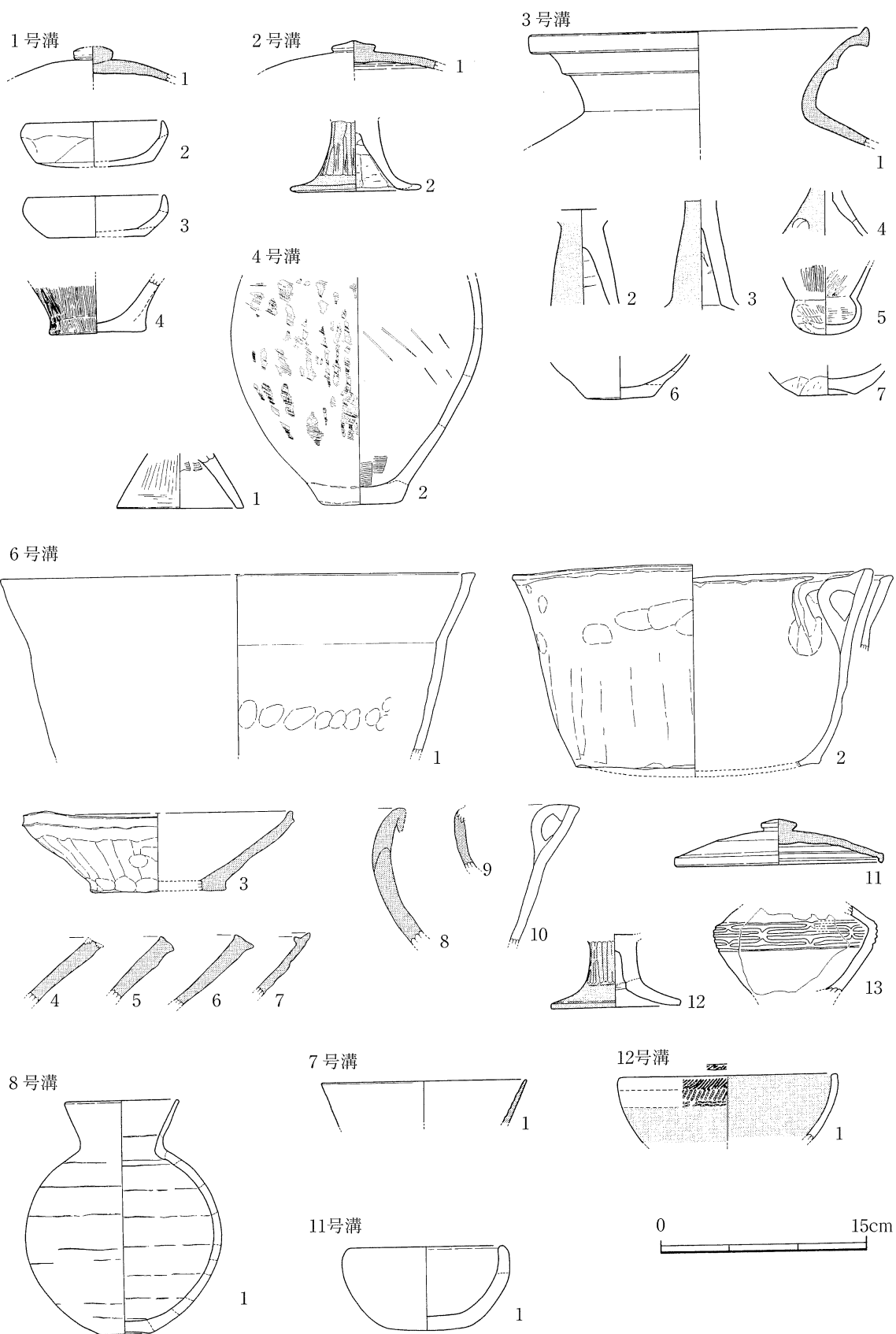
第166图 19号方形周溝墓、1~5号台地整形区画、1~5号地下式壙



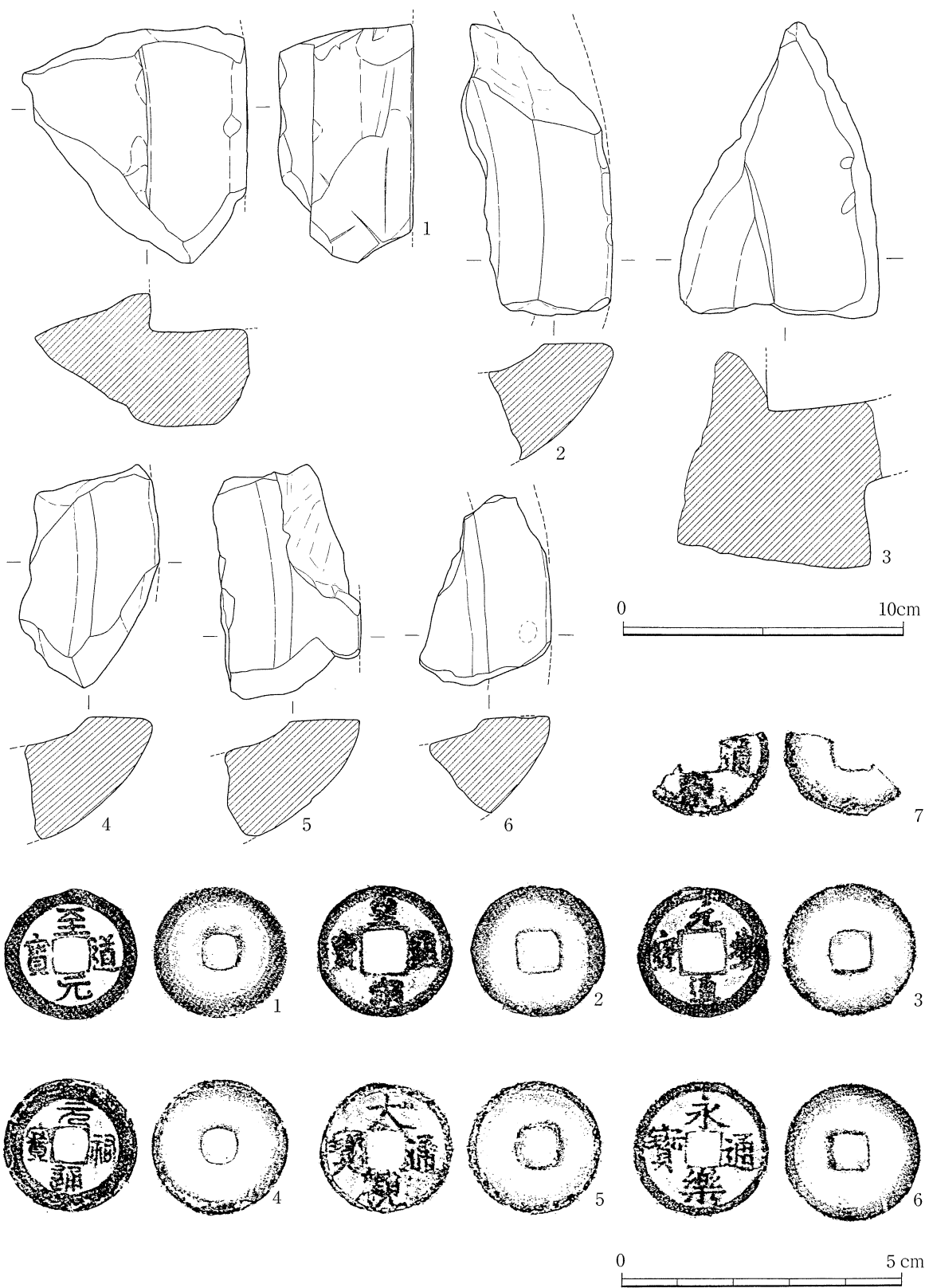
第167图 2·4·5号台地整形区画出土遺物



第168図 1～4号地下式壙、1・3号地下式壙出土遺物



第169図 溝出土遺物



第170図 石臼、銭貨

c 中世陶磁器類について

台遺跡B地点では、北東部の一角に中世の遺物が集中して出土している。古くは12世紀半ばの貿易陶磁器から15世紀末まで75点の破片が得られた。この内実測可能な39点について各遺構の項にも載せたが、第171図にまとめておく。

グラフ1に見るように器種については甕が最多で鉢がそれに次ぐ。産地は、グラフ2のように常滑が61%で在地のものや瀬戸・美濃産がこれに次ぐ。南伊勢系の罫釜、貿易陶磁の白磁がそれぞれ1点ずつ出土している。

1号地下式墳から9・12・16・25の4点が出土している。時期は、16の白磁が12世紀前葉の他は、15世紀前葉から後葉の遺物で、遺構の時期も15世紀後葉以後であろう。

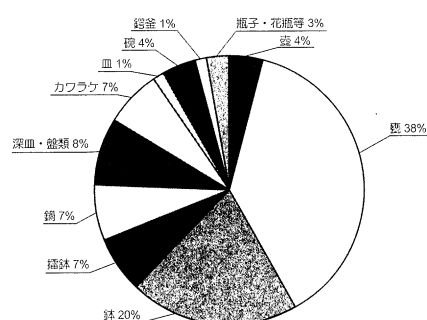
3号地下式墳から39の瀬戸・美濃系の盤が出土している。三脚になると思われる底部破片で時期は15世紀前葉である。

他の出土地点の分かる遺物は、1号台地整形区画を取り囲む6号溝と2・4・5号台地整形区画の出土で14世紀後半から15世紀末にかけての時期となる。

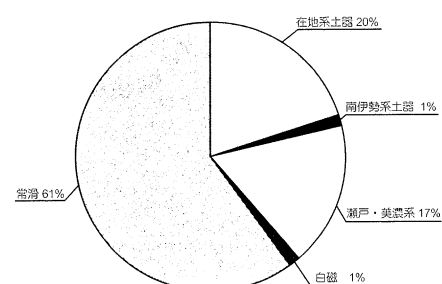
銭貨については出土状況の分かるものはない。7点は初鋳995年の至道元寶から1408年の永樂通寶までの時期差がある。

12世紀前葉の白磁、13世紀中～後葉の瀬戸・美濃系が台遺跡にみられる初期の中世遺物である。白磁は伝世していたと考えれば13世紀中葉がその時期であろう。14世紀に一時遺物の見られない時期があり、14世紀後葉に再開し、15世紀後葉にピークがある。この時期に目立つのは在地系土器が多くなることで15世紀末で遺物は見られなくなる。これは、台遺跡の他の地点とも共通する傾向でA・B地点に広がる地下式墳と台地整形区画を中心とした遺構群は14世紀後葉から構築されはじめ、15世紀後葉に最大となり16世紀には残らなかったことが分かる。

グラフ1 中世陶磁器種別組成 (75点)



グラフ2 中世陶磁器産地 (75点)

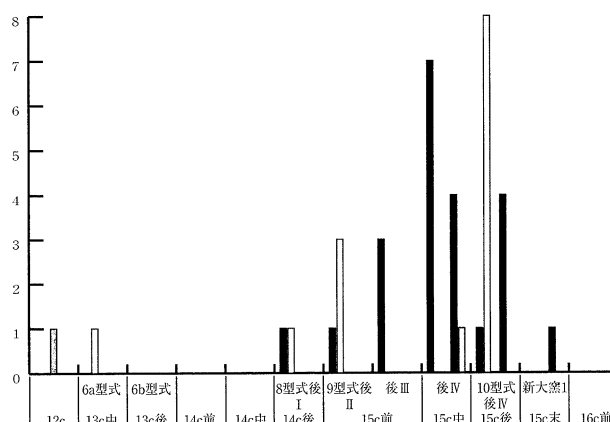


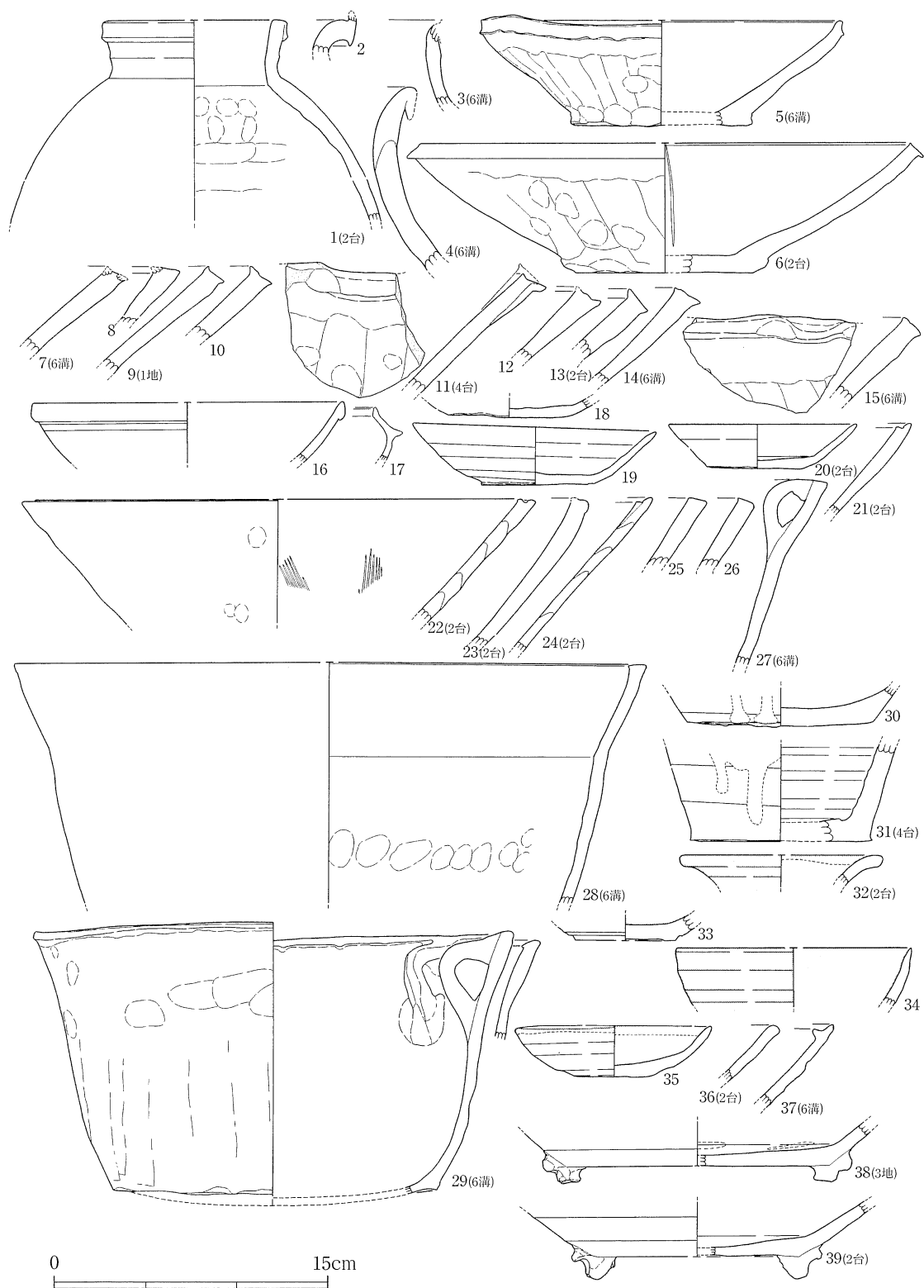
不実測中世遺物

産 地	器種	型 式	点数
瀬戸・美濃系陶器 3点	挿り鉢	後Ⅳ	1
	盤類	後Ⅲ	1
		後Ⅳ	1
常滑産 器 30点	甕	不明	26
	片口鉢Ⅱ	不明	4
在地土器 2点	カワラケ	後Ⅳ古並行	2

グラフ3 中世陶磁器時期別出土量 (39点)

■ 瀬戸・美濃系 □ 常滑 ▨ 白磁 ■ 在地系土器 □ 南伊勢系土器





第171図 台遺跡B地点出土の中世陶磁器

3 溝状遺構

遺跡内に幾つかの溝がある。時期は弥生時代中期から中世以後と時期が分かれ、用途も区画溝や道跡など幾つかに分かれる。

1～3号溝は互いに直角に交わり、台遺跡の他の地点にまで続くなど統一性がある。溝内から出土する遺物は、古墳時代後期の須恵器、土師器が主体で一部古墳時代前期の土器などが混じっている。B地点ではこれ以上の時期については不明だが、A地点北側の2号溝と平行する溝中央の溝底から、底面に「大目」の墨書のある市原産の須恵器高台付坏が出土している。上総国府の官位の目に大小が制定された後の遺物で、これらの溝の時期を特定することができる。

以下の各溝の項にあるように、交点、屈曲点の間隔が107m内外、約215mと1町を単位とした区画の溝である。

4号溝はV字形の断面で出土遺物から弥生時代中期の環濠と考えられる。長径は140mほどである。北はA地点まで延びているはずだが中世遺構で削平された部分にあたるようでは確認できていない。東はC地点の台地が一番狭まり南東の台地に続く部分で溝が途切れる。

中世以後に造られたと考えられるのは6号溝以後の溝で6号溝は、1号台地整形区画の南を区画する溝。7～14号溝は、C地点、A地点などにある溝と接続、平行し台地上に区画を造るように掘られている。

(352) 1号溝 第4図 図版51-4・5

グリッドL-12～Q-17に位置する。

調査区域の東側にあり、南西では2号溝に接続する。逆台形の断面で、幅は最大で2m近い部分もあるがほとんどは1.3mで、深さは直交する2号溝より一段浅く0.5m程である。一直線に伸び、全長67mにわたって検出した。方位は東に42度で北東に向け調査区域外に延びている。この溝は北東に200mほど離れた台遺跡A地点東側の溝に繋がり、A地点北東溝との交点と1号溝の交点の間隔は215.6mを測る。

(353) 2号溝 第4図 図版51-6・7

グリッドD-18～M-11に位置する。

調査区域の南側で南東から北西に横断するように検出されている。1号墳北西などで若干の屈曲はあるが、方位は西に46度で両端は範囲外に延び東側では台遺跡C地点東端近くまで延び直角に北東に曲がる。グリッドL-12で1号溝が北東に直角に派生するがここでは2号溝の方が深い。深さは20～1m近くと場所によって異なるが幅は1.2mほどで断面は逆台形で底面は平坦である。B地点範囲内で111m、C地点の北東への屈曲部まで200mを検出し、1号溝との交点から北東への屈曲点まで106.3mを測る。

(354) 3号溝 第4図 図版52-1・2

グリッドF-21～J-27に位置する。

調査区域の西側で南北に検出されている。両端は調査区域外に延びる。177・218号住居跡付近で屈

曲はあるが方位は東に43度前後で1号溝とほぼ並行する。北はA地点西端の溝に繋がる。南については未調査部分で2号溝と直角に繋がるものと考えられる。断面、深さなどを2号溝とほぼ同じで、全長74.4mを検出した。平行する1号溝との間隔は105～114mを測り、1号溝と3号溝の延長の屈曲点をつなぐA地点北東溝との間隔は106.9mを測る。

1～3号溝出土遺物（第154図）1号溝では002号住居跡南、2号溝は053号住居跡北、3号溝は172号住居跡北西、216号住居跡付近に比較的集中して出土している。それぞれの住居跡の遺物である可能性が強い。

(355) 4号溝 第4図 図版52－3

グリッドM－10～N－18に位置する。

調査区域内ではほぼ南北に83mが検出されたが両端は区域外に続き、C地点東側まで弧状に続いている。断面はV字状で068号住居跡との重複部分で深さ70、幅130cmの規模で、溝底は、幅20cmほど平坦になっている。

出土遺物（第154図）2が溝に伴う遺物である。

(356) 5号溝 第6図

グリッドA－12～A－14に位置する。

調査区域南西端にある。位置関係から3号溝の延長とも考えられるが幅・深さとも規模が小さく別のものとした。

(357) 6号溝 第166図 図版53－2

グリッドRT－14に位置する。

1号台地整形区画の南にあり調査区域外に南東に延びる。前述のように1号台地整形区画に付随するものであろう。

出土遺物（第169図）1～10までが本遺構に伴うもので、11・12は古墳時代後期、13は縄文時代晩期の遺物である。

(358) 7号溝 第163図 図版51－5

グリッドM－13～Q－17に位置する。

南はC地点に続く。C地点中央に同方向・同規模の溝があり2本が平行している。また間をつなぐように直交した溝があり2本の溝の間だけで終わっている。台地上を区画するための溝であろう。

出土遺物（第169図）須恵坯の破片である。

(359) 8号溝 第163図

PQ－17に位置する。

7号溝から直角に西に向かい5号台地整形区画内に降りる。

出土遺物（第169図）16号方形周溝墓北溝と重複しているため方形周溝墓に伴う遺物の可能性が強い。

い。

(360) 9号溝 第5図

グリッドK-17～M-16に位置する。

4号溝から284号住居跡南まで確認された。大部分が調査区域外に出る。浅く掘り窪め硬化面があることから道路の痕跡で上にある道の初期のものであろう。

(361) 10号溝 第7図 図版52-4

グリッドJ-18～L-21に位置する。

11号溝から続いて南下し285号住居跡の南で終わる。11号溝に比べ浅い。

7号溝と平行し形態も類似している。

(362) 11号溝 第4図 図版52-5・6

グリッドL-21～N-21に位置する。

西端で鋭角に北の12号溝に続く。東は調査区域外に延びる。

出土遺物（第169図）古墳時代の土器で、近隣の住居跡からの混入だろう。

(363) 12号溝 第4図 図版52-5・7・8

グリッドL-21～M-23に位置する。

11号溝から続き北は調査範囲外に延びる。

11・12号溝は接合部が浅くなり別に掘った溝がここで合流したようにも見えるが本来一体のものであろう。東についてはA地点にこれに続く溝は確認できないが、北はA地点西寄りの溝と同一のものでA地点北端まで続く。

出土遺物（第169図）弥生式土器で、近隣の住居跡からの混入であろう。

(364) 13号溝 第4図

グリッドM22～N-21に位置する。

西端で鋭角に曲がり14号溝に続く。東は調査区域外に延びる。

(365) 14号溝 第4図

グリッドM-22に位置する。

1 3号溝から続き北は調査範囲外に延びる。

13・14号溝も11・12号溝と同じく一体のものでA地点南西部にある南にコの字状になる溝に続く、南北に長い長方形の小さな区画を造る溝である。

4 遺構外の遺物

a 土器片錘

土器片錘は12点を図示した。住居跡からの出土が多いが混入品で遺構に伴うものではない。糸掛けが上下一対のものが多いが、左右にも糸掛けがあるものが1点出土している（第172図2）。

b 石鏃等

黒曜石やチャートで制作した石鏃が8点、石匙が1点ある。

1は、胴部にふくらみがあり脚の挟りが深い完形品。2・4・5は、比較的直線的で、挟りが大きいもので、2・4は左脚を欠損するもの。5は、左側半分以上を欠損する。3は、小型の完形品で三角形でやや粗製なもの。6は、先端部を欠損する小形で基部に挟りのあるもの。7は、完形品で三角形で小振りなもの。8は、完形品で三角形で先端が伸びるもの。

1～7は、黒曜石製で、8がチャート製である。

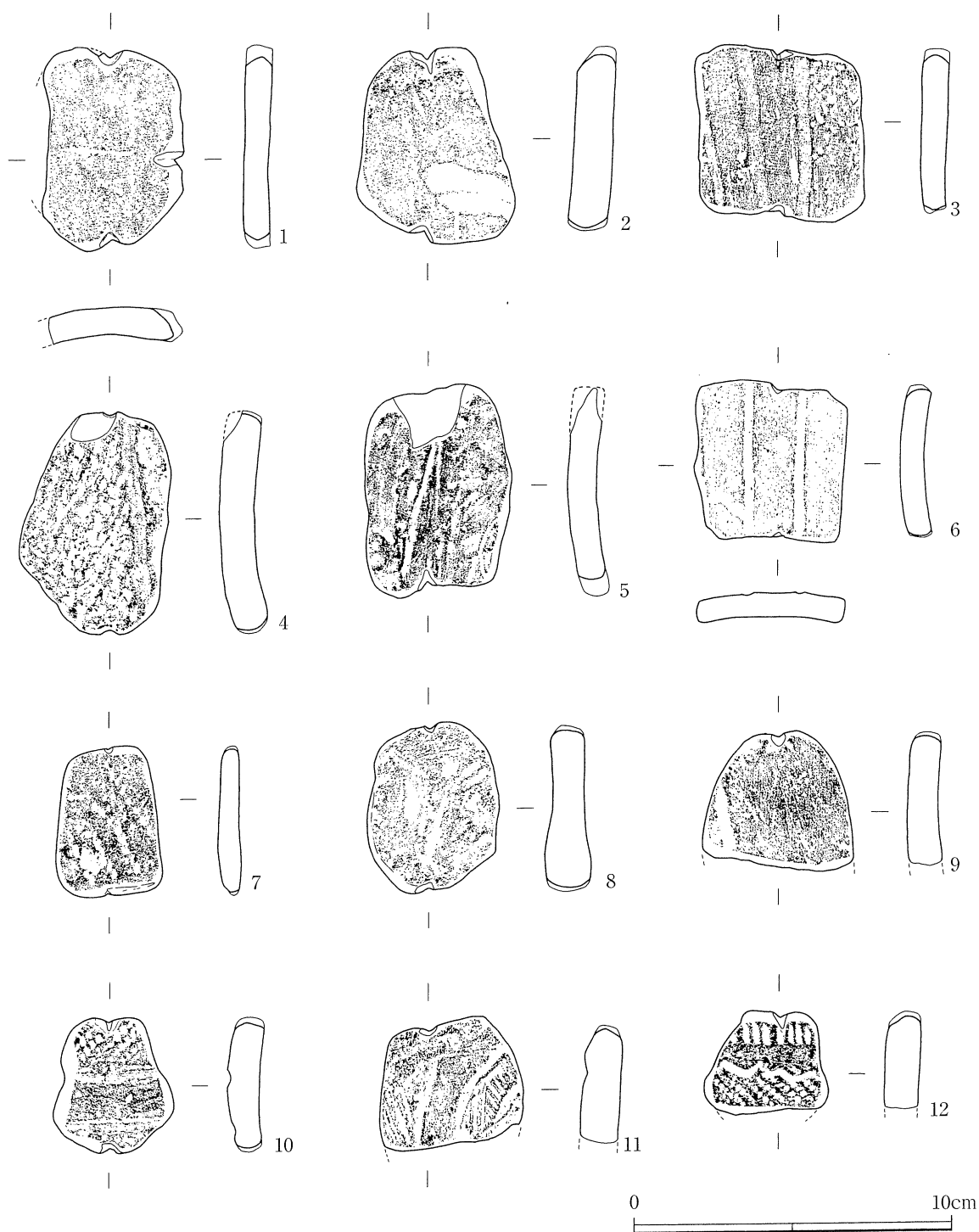
9は、中央に紐掛けがあり、左右に脚状に突出する石匙と思われるもので、右側を欠損する。チャート製である。

表18 土器片錘一覧表

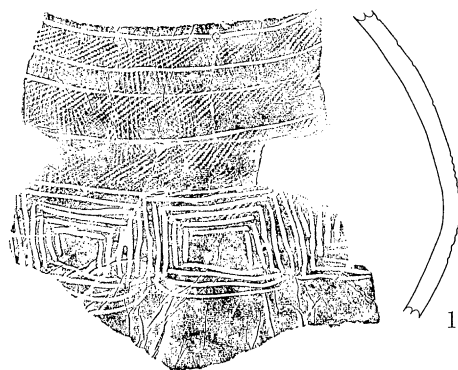
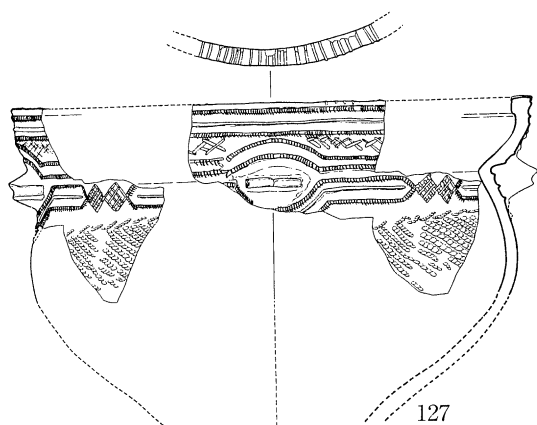
挿図	番号	注記番号	形状・状態	縦	横	厚	重量
172	1	表採	左欠、糸掛け4カ所中3カ所残	63	45	9	32
172	2	表採	完形、器表一部欠、糸掛け上下	62	51	12	41.8
172	3	027-6001	完形、口縁部破片・左口縁、糸掛け上下	55	52	8	34.5
172	4	表採	完形、上一部欠、糸掛け上下	72	47	11	46.6
172	5	172-北溝	上一部欠、糸掛け上下	67	47	9	37.5
172	6	表採	完形、糸掛け上下	51	48	8	27.2
172	7	007-6001	完形、糸掛け上下	47	33	7	15.1
172	8	191-4001	完形、糸掛け上下	55	42	15	30.6
172	9	187-6001	下欠、糸掛け上	44	48	10	25.2
172	10	306-6001	完形、糸掛け上下	43	39	11	16.8
172	11	155-6001	下欠、糸掛け上	42	46	12	25
172	12	不明	下欠、糸掛け上	33	60	12	16

表19 石鏃等一覧表

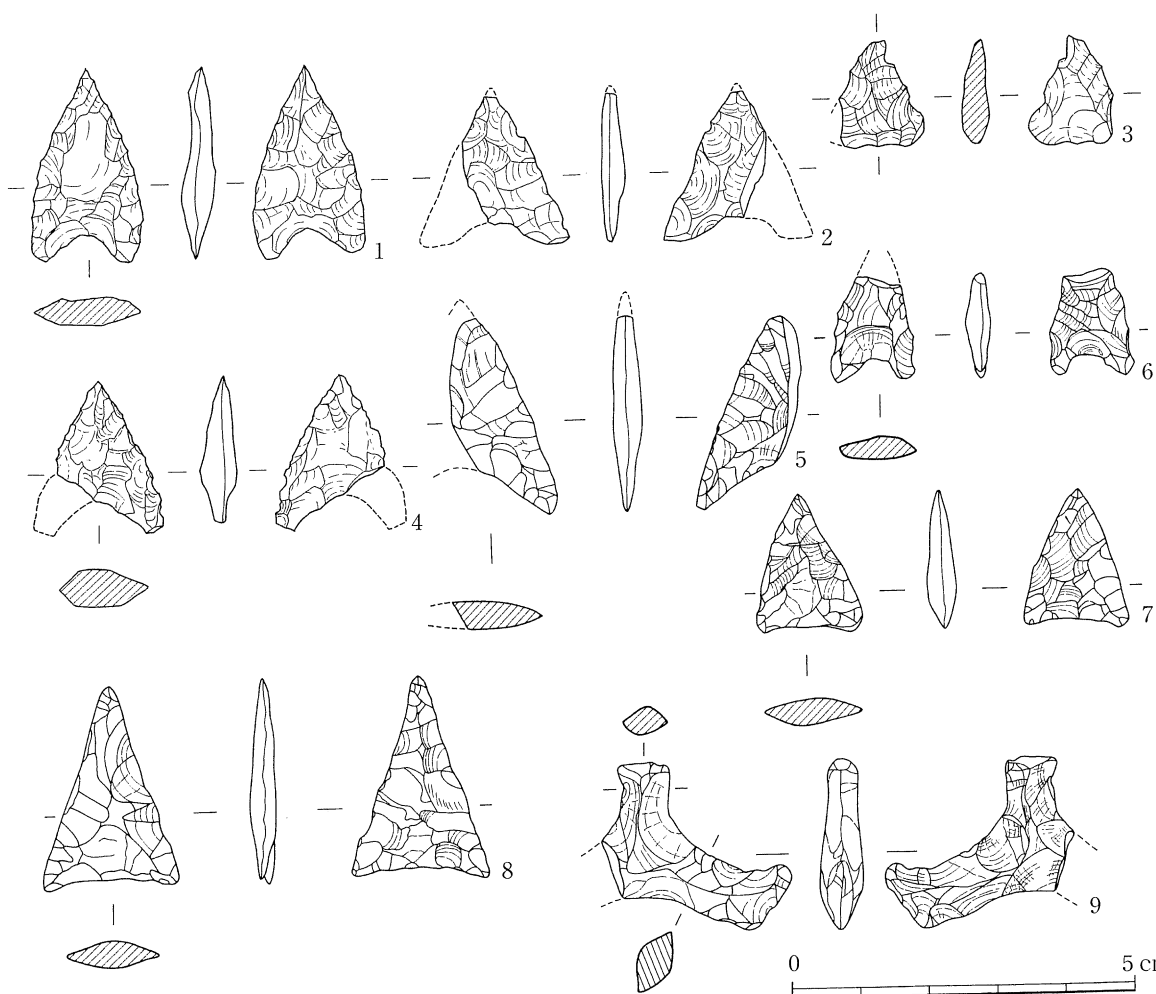
挿図	番号	注記番号	形状・状態	縦	横	厚
173	1	表採	石鏃、完形、黒曜石	29	16	5
173	2	表採	石鏃、左脚欠、黒曜石	22	16	4
173	3	表採	石鏃、小形粗製、黒曜石	16	13	4
173	4	表採	石鏃、左脚欠、黒曜石	23	16	5
173	5	表採	石鏃、右側のみ残、黒曜石	30	16	5
173	6	表採	石鏃、先端部欠、黒曜石	16	12	4
173	7	表採	黒曜石製石鏃、完形	21	16	4
173	8	表採	石鏃、完形、チャート	31	20	4
173	9	表採	石匙、左一部欠、チャート	25	28	7



第172図 土器片錘



0 15cm



第173図 表採土器、打製石鏃等

c 石器

遺構外出土と、遺構出土の注記番号があるが時期的に遺構に伴わない石器を62点図示した。大部分が縄文時代の石器で、一部に弥生時代のものなどが含まれている。

1は、磨製石斧で刃部を大きく欠損する。蛤刃と考えられ、側面などに制作時の擦痕が残る。2も磨製石斧ではほぼ完形である。表面上部に敲打による窪みがあり、刃部は敲打で潰れている。

3・4は扁平片刃の磨製石斧で弥生時代の遺物である。弥生時代の遺構は数多くあるが、2点とも出土地点が不明である。

5は、打製石斧（石鍬）で上部を欠損している。

6～25は、物を叩き潰すための道具を並べる。いわゆる敲石と呼ばれる石器である。

6は、下面を中心に敲打痕がある。7は、表裏に弱い敲打痕がある。8は、表面に強い敲打痕があり、中央が亀裂し窪んでいる。9・11は、大きめの自然礫の各所に敲打痕が残るもの。10は、小形の円礫の周囲を叩き、上下が砕けるほど強く敲いている。

12は、円礫の表裏に敲打痕があり、右側面は擦痕があり面ができている。

13は、大形の磨製石斧の再利用の可能性のある敲石で、下面に敲打痕が強く残るとともに、そのために裏が剥落している。

14は、円礫の表裏、周囲を敲くが、表面中央は窪むまで敲かれ、左側面は敲打により崩れている。

15～20、22～25は大小の楕円形の自然礫で、各所に敲打痕が残るもの。

21は、断面台形の大形の石の表面中心が特に敲打痕が多く台石として置いて使用した物であろう。

26～48は、物を磨り潰したり研磨する、磨石である。

26は、台状の石で表面を使用している。27は、断面台形の石の表裏面を研磨に使用している。

28～31は、大小の円礫の表面を使用している。

32は、扁平な楕円礫の周囲を面が付くまで研磨に使用している。

33～45、47・48は、大小の礫の各所を使用しているものだが、中には擦痕、使用による変色などが極わずかなものもある。

46は、右側面が研ぎ減らしたように面が付く磨石で、上下の端部は敲打痕がある。

49～57は、石器の中央で強く敲いたり、擦ったために窪みができ、いわゆる凹石である。

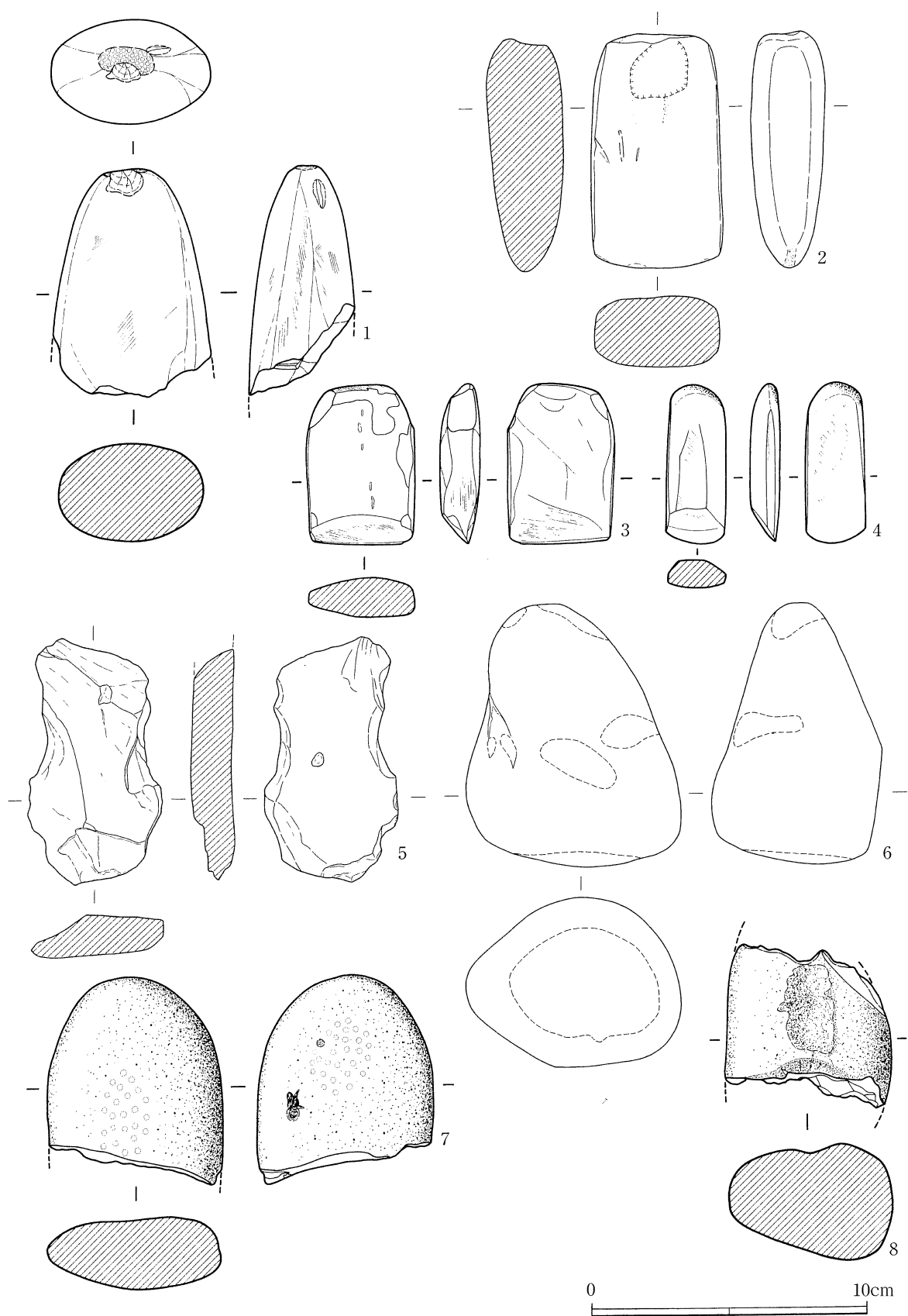
51・55は表面だけ、49・50・57は、表面に強く裏面にわずかに窪みのあるものである。53・54は表裏の窪みが深く、側面に一部敲打痕が残る。52・56は、表裏の窪みとともに、側面を全周にわたって敲いている。

58～60中央部が深く窪む大形品で、いわゆる石皿である。58は、1/4以下の破片で表裏に円錐形の小さな窪みが数カ所残っている。59は、扁平の円礫の中央が緩く窪む。60は、58に近い形態だが、表裏の窪みが不整形である。

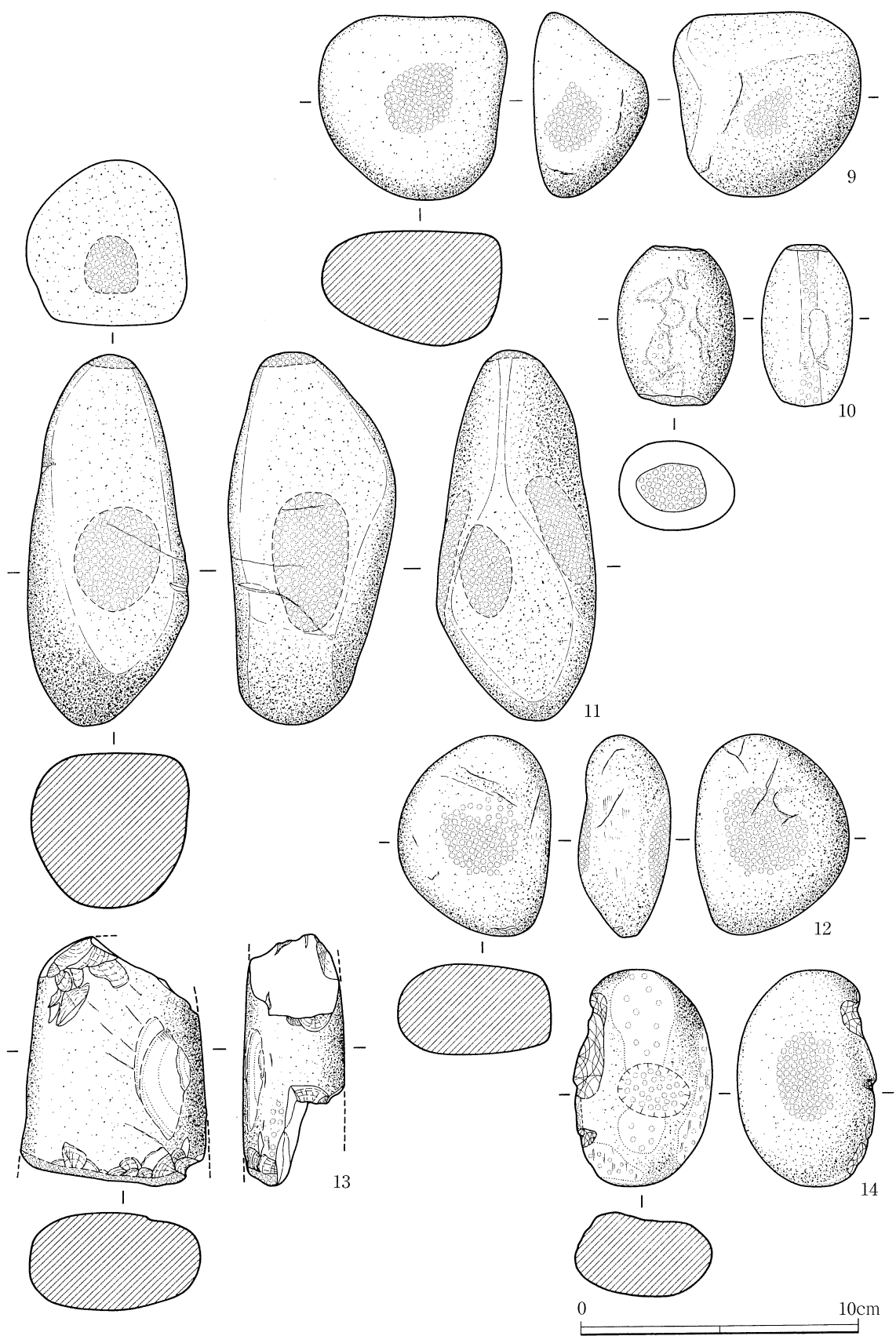
61・62は、砥石で凝灰岩製と思われる。裏面は当初の加工面のままか、剥落したか不明瞭である。表面に金属を研いだことで残る擦痕があり、古墳時代の砥石の可能性もある。62については、遺物が遺存しておらず、表面に研磨によると思われる溝状の痕跡があることから砥石としておく。

表20 石器一覧表

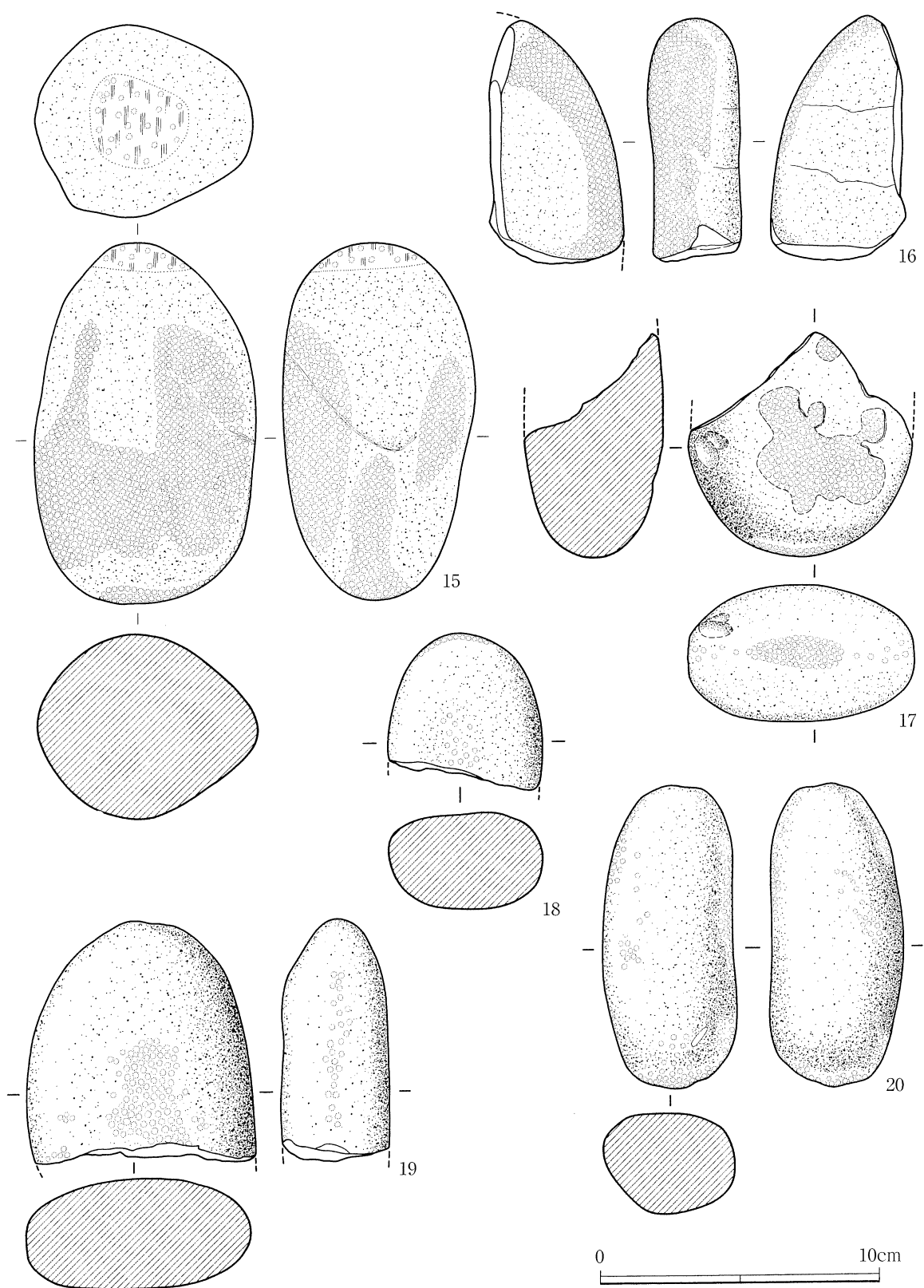
挿図	番号	注記番号	形状・状態	縦	横	厚さ	重量
174	1	046-2001	磨製石斧、基部敲打痕、刃部欠	83	60	37	239
174	2	231周辺	磨製石斧、刃部敲打で摩耗	86	49	27	212
174	3	不明	磨製石斧、弥生	58	39	15	遺物無し
174	4	不明	磨製石斧、弥生	57	22	11	遺物無し
174	5	不明	打製石斧	91	49	15	遺物無し
174	6	304-2001	敲石、下・頂部敲き顕著	96	78	63	520
174	7	不明	敲石、表裏中央敲く	76	63	26	遺物無し
174	8	不明	敲石、表敲きで窪む	59	60	43	遺物無し
175	9	不明	敲石、各面中央敲打痕	67	67	42	遺物無し
175	10	不明	敲石、上下敲打痕顕著、周囲も敲く	59	43	33	遺物無し
175	11	不明	敲石、各面中央敲打痕	137	58	61	遺物無し
175	12	不明	敲石、表裏中央敲打痕	74	55	34	遺物無し
175	13	表採	敲石、上下敲打による亀裂	93	67	37	294
175	14	不明	敲石、表裏中央敲打痕、左敲打による亀裂	79	51	31	遺物無し
176	15	不明	敲石、上下強い敲打痕、周囲も敲く	130	80	69	遺物無し
176	16	不明	敲石、側面敲打痕	86	49	33	遺物無し
176	17	不明	敲石、表強い敲打、下も敲く	82	82	50	遺物無し
176	18	不明	敲石、表中央敲打痕	56	56	35	遺物無し
176	19	不明	敲石、表裏中央敲打痕、側面も敲く	87	80	29	448
176	20	不明	敲石、下敲打痕、表も若干敲く	109	48	47	遺物無し
177	21	不明	敲石、中央突起部強い敲打	132	93	84	遺物無し
177	22	不明	敲石、表中央敲打痕	86	55	38	遺物無し
177	23	不明	敲石、下敲打痕、裏敲打により欠ける	101	65	32	遺物無し
177	24	不明	敲石、裏中央敲打痕	82	67	35	遺物無し
177	25	不明	敲石、表裏中央敲打痕	81	62	36	遺物無し
178	26	038-?	磨石、上下裏面欠ける、表磨る	114	111	54	1070
178	27	286-2001	磨石、上下欠、断面三角形の下面で磨る	73	21	31	72
178	28	表採	磨石、表裏中央光沢有り、擦痕状は石の節理	79	61	36	100
178	29	表採	磨石、表中央磨る	84	74	21	204
178	30	表採	磨石、表中央磨る	51	27	35	78
178	31	表採	磨石、上裏欠、表中央磨る	81	43	26	108
178	32	283-2001	磨石、周囲強く磨る	83	48	15	94
178	33	表採	磨石、上下裏欠、表磨る	42	68	28	134
179	34	表採	磨石、表磨る、中央光沢有り	86	49	39	228
179	35	表採	磨石、裏欠、表磨る	50	52	29	100
179	36	表採	磨石、右裏欠、表磨る	89	56	34	220
179	37	表採	磨石、表裏中央磨る	66	57	39	191
179	38	表採	磨石、破片、表右磨る	77	42	20	72
179	39	016-2001	磨石、上下欠、表磨る	70	47	45	188
179	40	表採	磨石、破片、表磨る	52	44	19	44
179	41	表採	磨石、下欠、表磨る	49	37	23	58
179	42	不明	磨石、下欠、部分的に擦痕残る	94	53	32	遺物無し
179	43	表採	磨石、下欠、表裏する	56	62	18	68
179	44	不明	磨石、破片、表磨る	56	47	43	遺物無し
179	45	不明	磨石、破片、右擦痕残る	47	53	35	遺物無し
180	46	不明	磨石、右側面磨り減る	95	54	19	遺物無し
180	47	不明	磨石、破片、表磨る	93	86	55	遺物無し
180	48	不明	磨石、円礫、若干磨る	88	67	38	遺物無し
180	49	不明	凹石、左欠、表敲き窪む、裏側面敲く	73	60	40	遺物無し
180	50	不明	凹石、左下欠、表裏敲き窪む	96	79	49	990
180	51	不明	凹石、欠損多い、表敲き窪む	98	67	51	遺物無し
181	52	不明	凹石、表裏中央敲き窪む、周囲敲く	70	69	37	262
181	53	不明	凹石、裏左欠、表中央敲き窪む	98	67	32	遺物無し
181	54	表採	凹石、上敲き欠ける、表裏中央敲き窪む	86	61	38	266
181	55	234-2001	凹石、下欠、表中央敲きやや窪む	93	88	50	570
181	56	215-2001	凹石、上下欠、表裏中央敲き深く窪む	89	86	39	440
181	57	不明	凹石、表中央敲き窪む、裏中央敲く	64	51	26	遺物無し
182	58	170-2001	石皿、1/4弱残る。表裏深く窪む。円錐状の窪み多い	158	141	62	1200
182	59	表採	石皿、1/2ほど残る。表窪む	121	113	44	780
183	60	表採	石皿、1/4ほど残る。中央窪む。小さな窪み多い	137	103	37	580
183	61	表採	砥石、古墳時代以後の砥石かもしれない。	160	85	47	520
183	62	不明	砥石、浅い溝状に磨られる	64	85	28	遺物無し



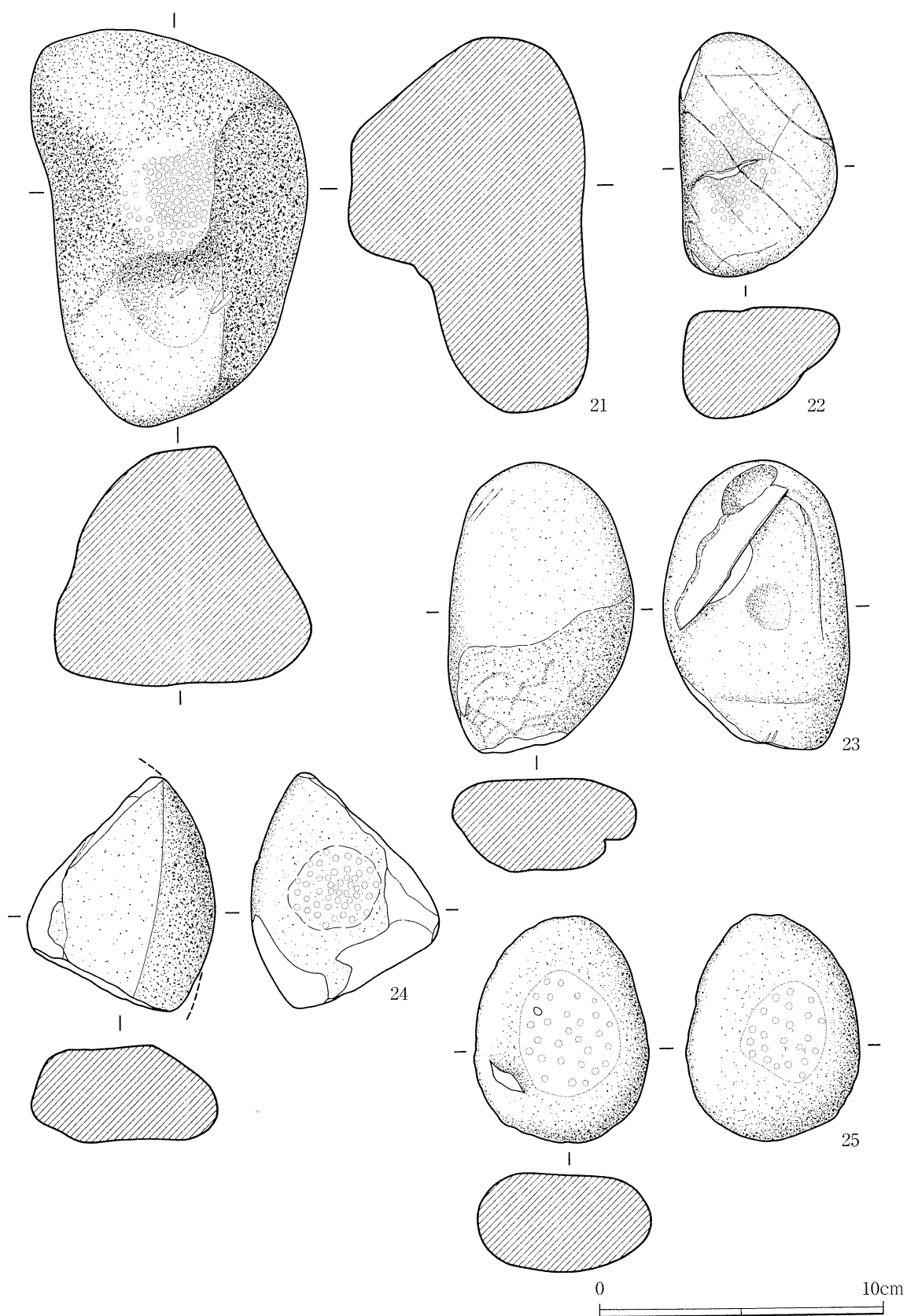
第174図 石器 (1)



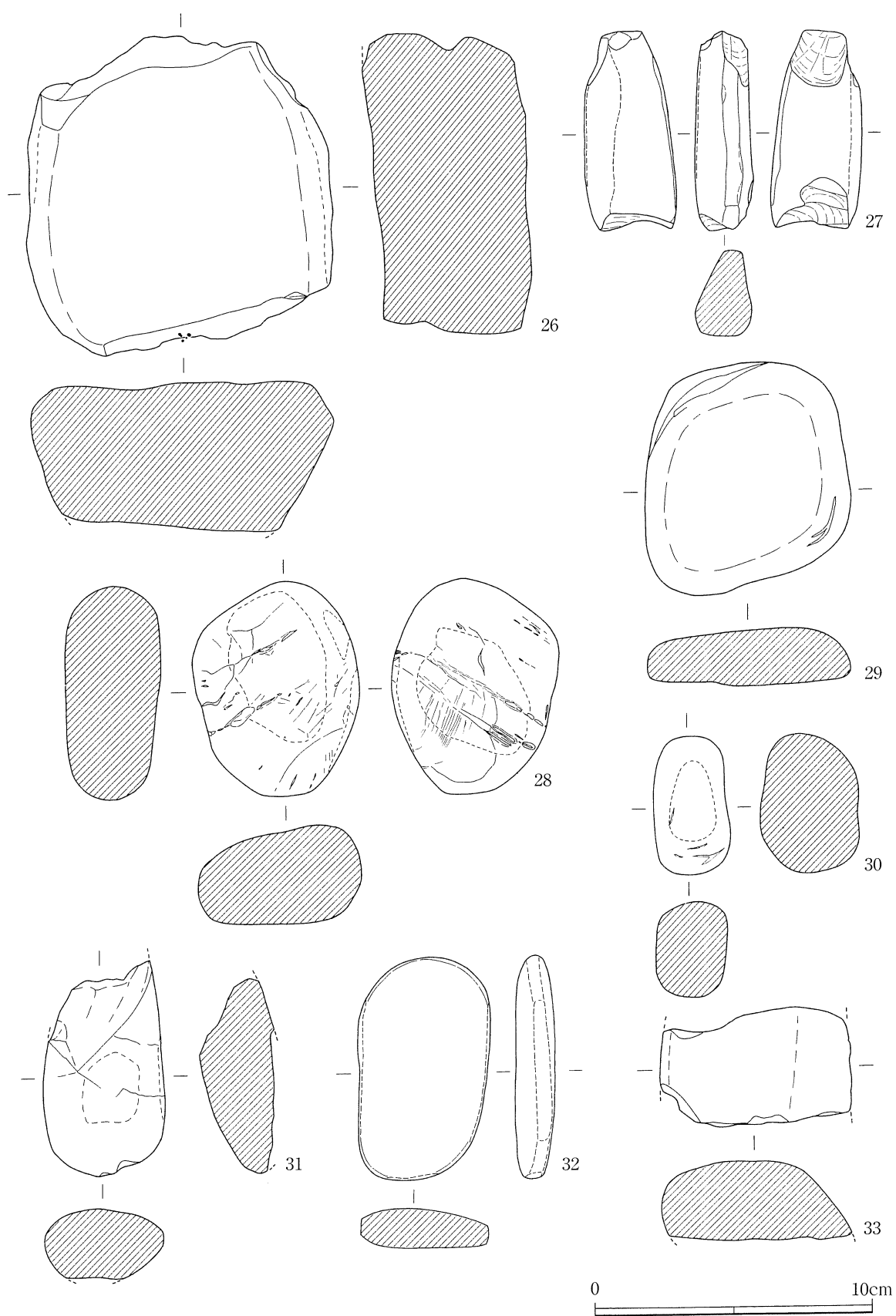
第175図 石器 (2)



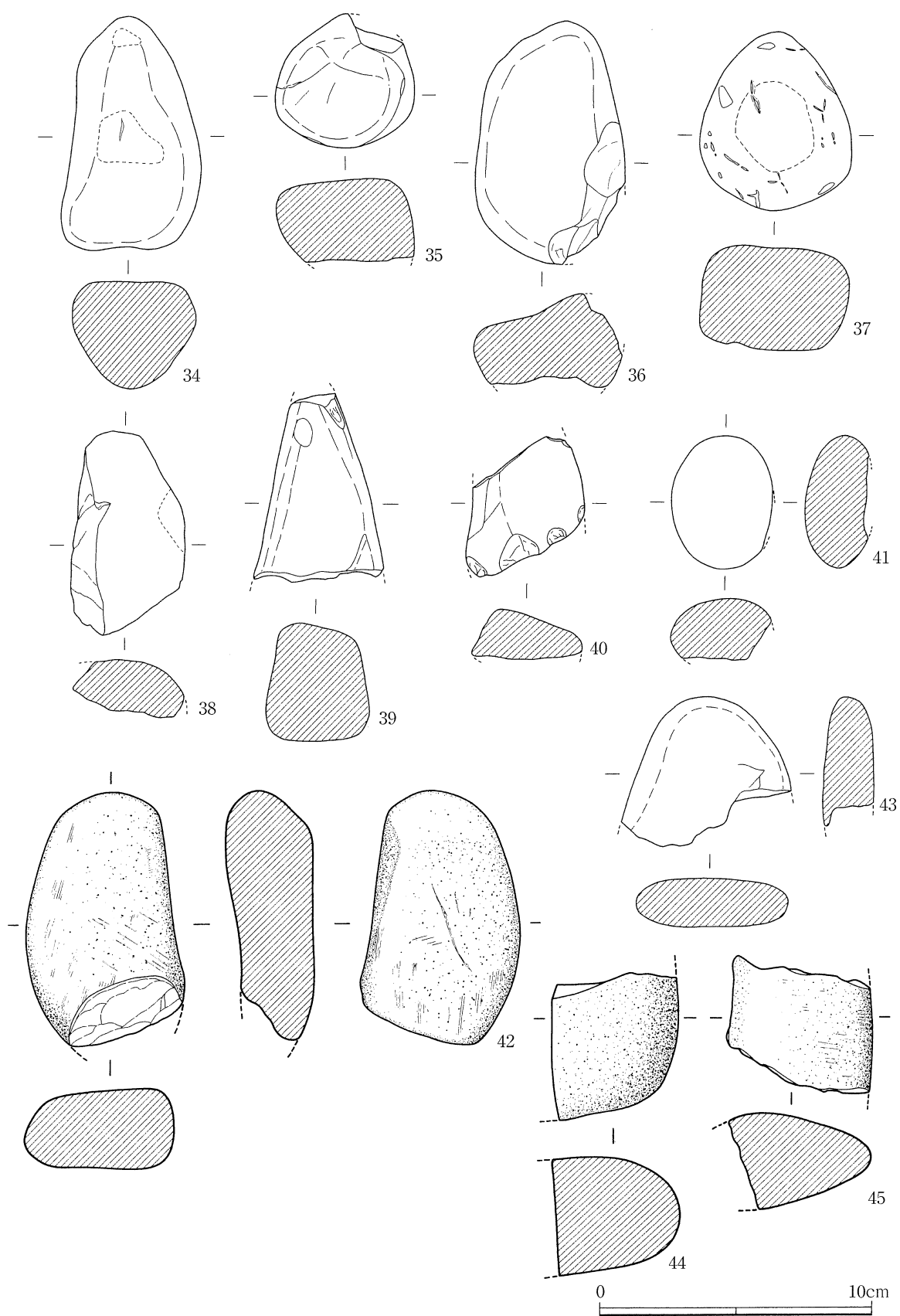
第176図 石器 (3)



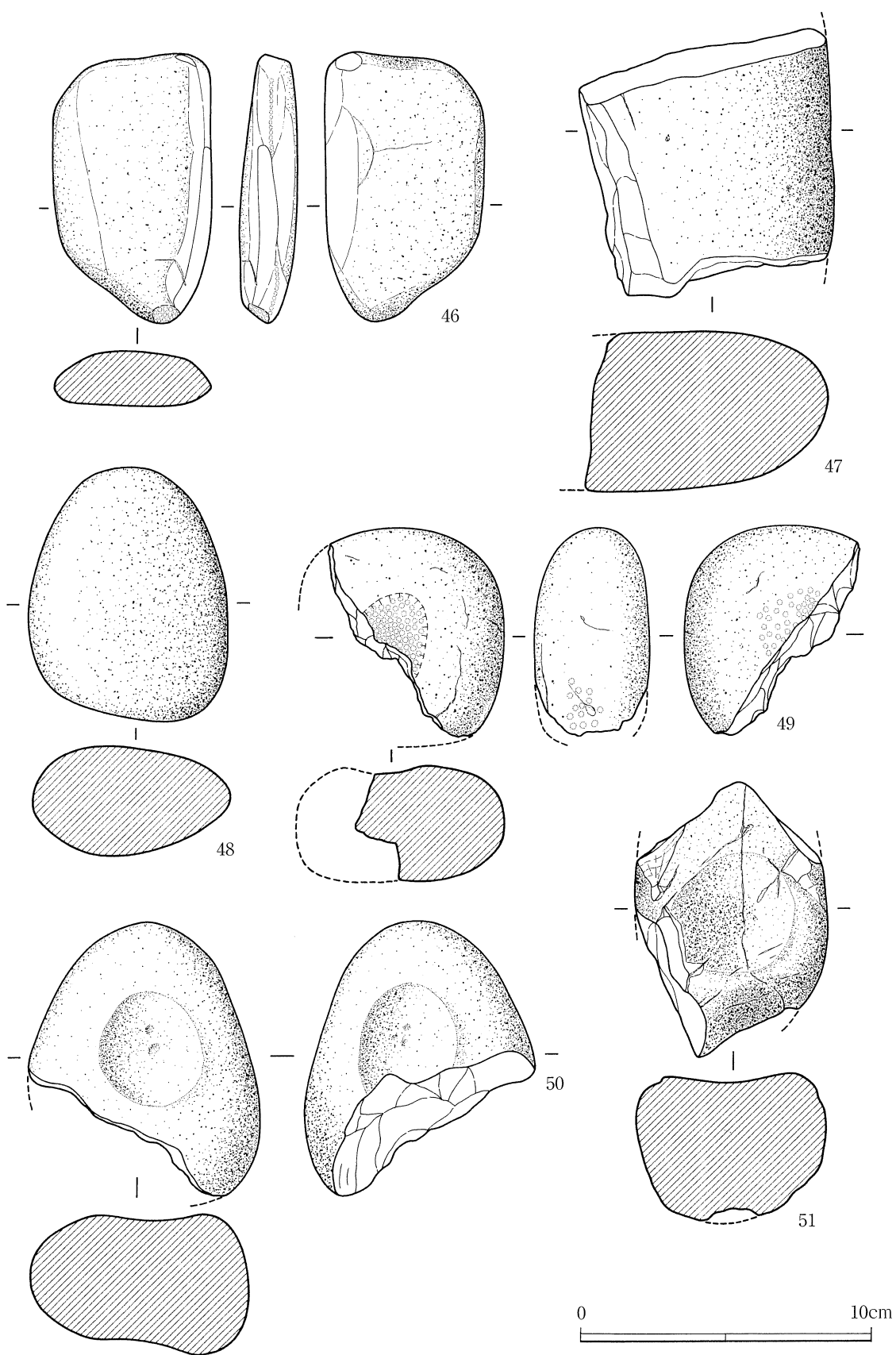
第177図 石器 (4)



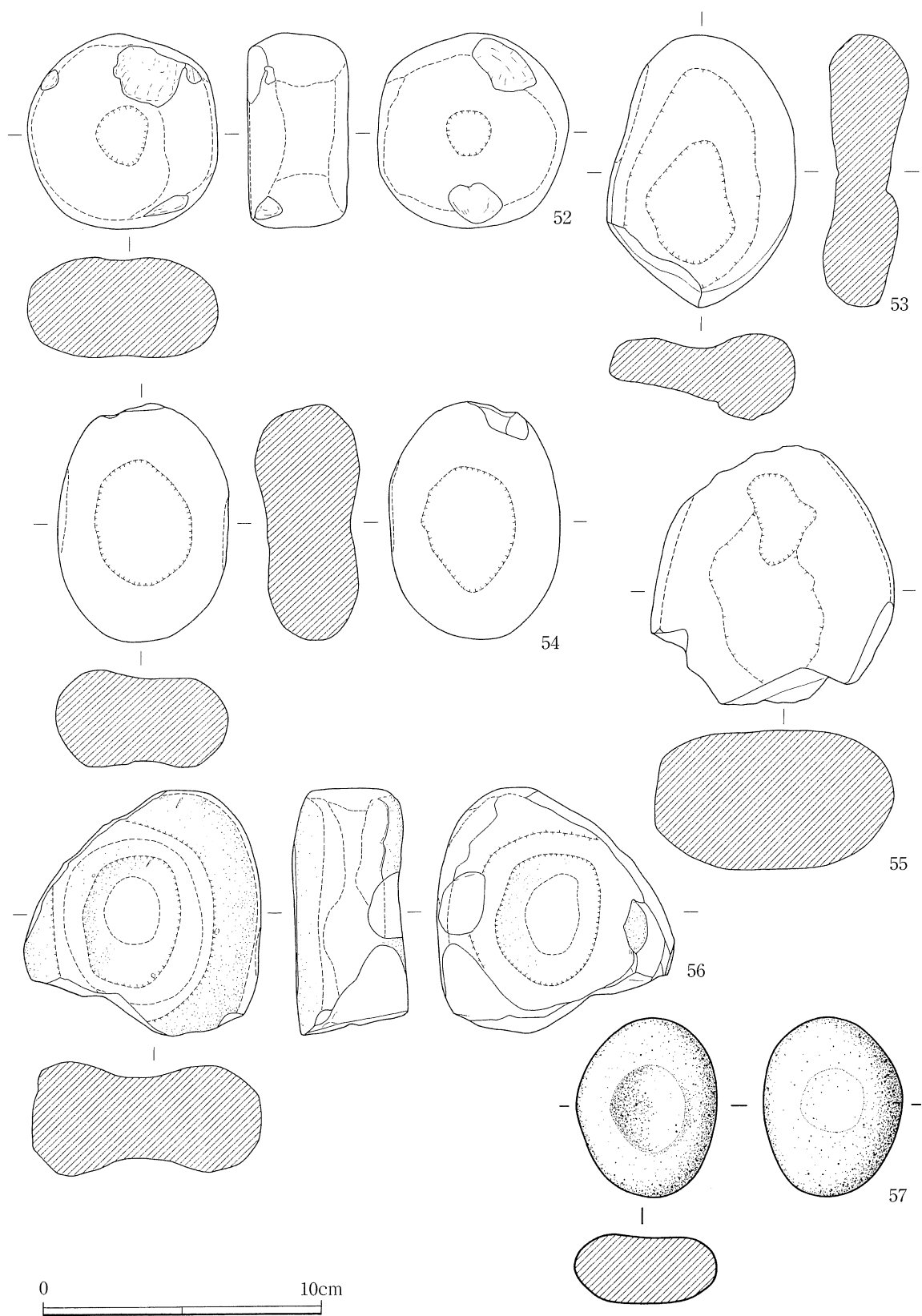
第178図 石器 (5)



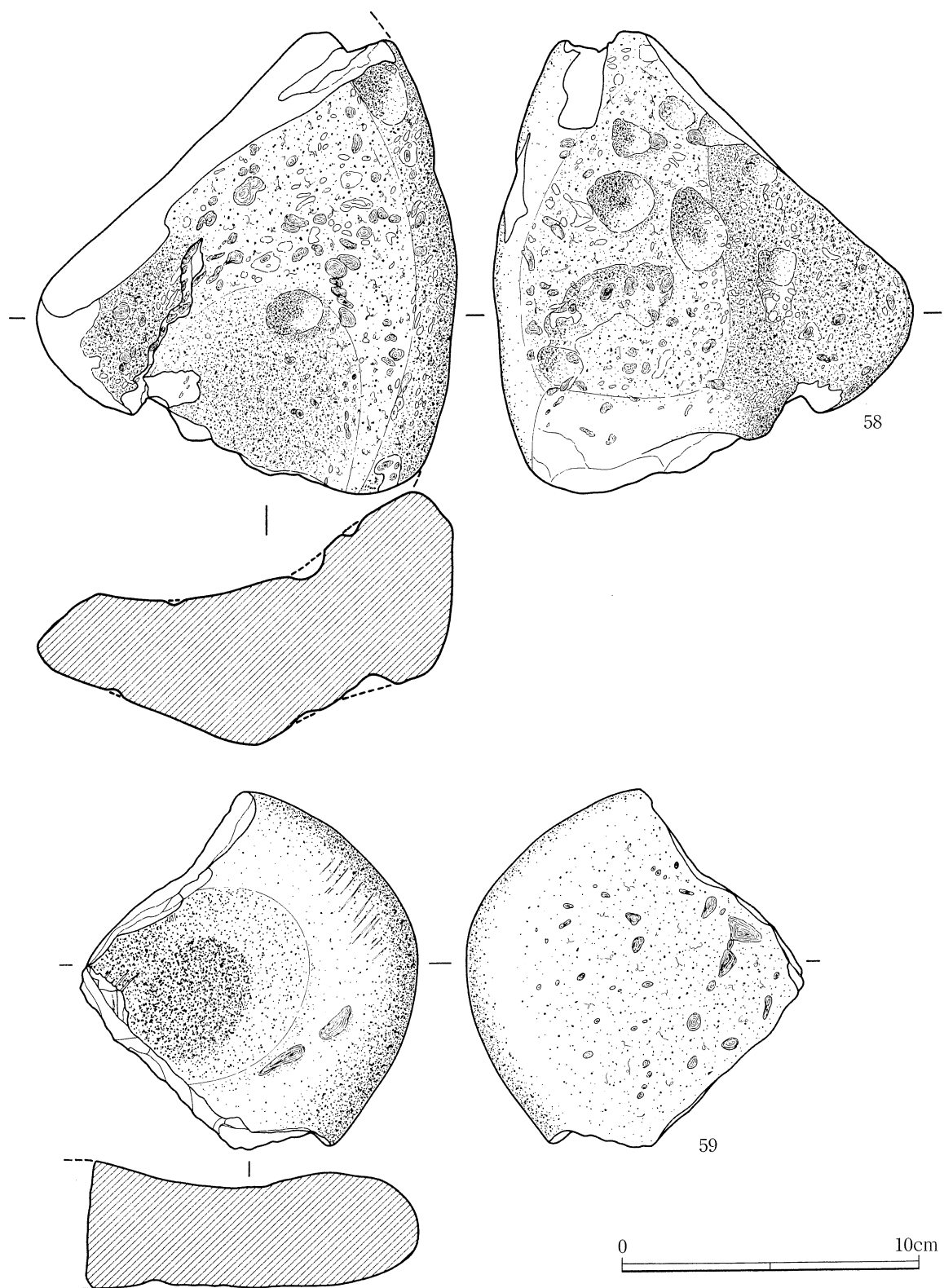
第179図 石器 (6)



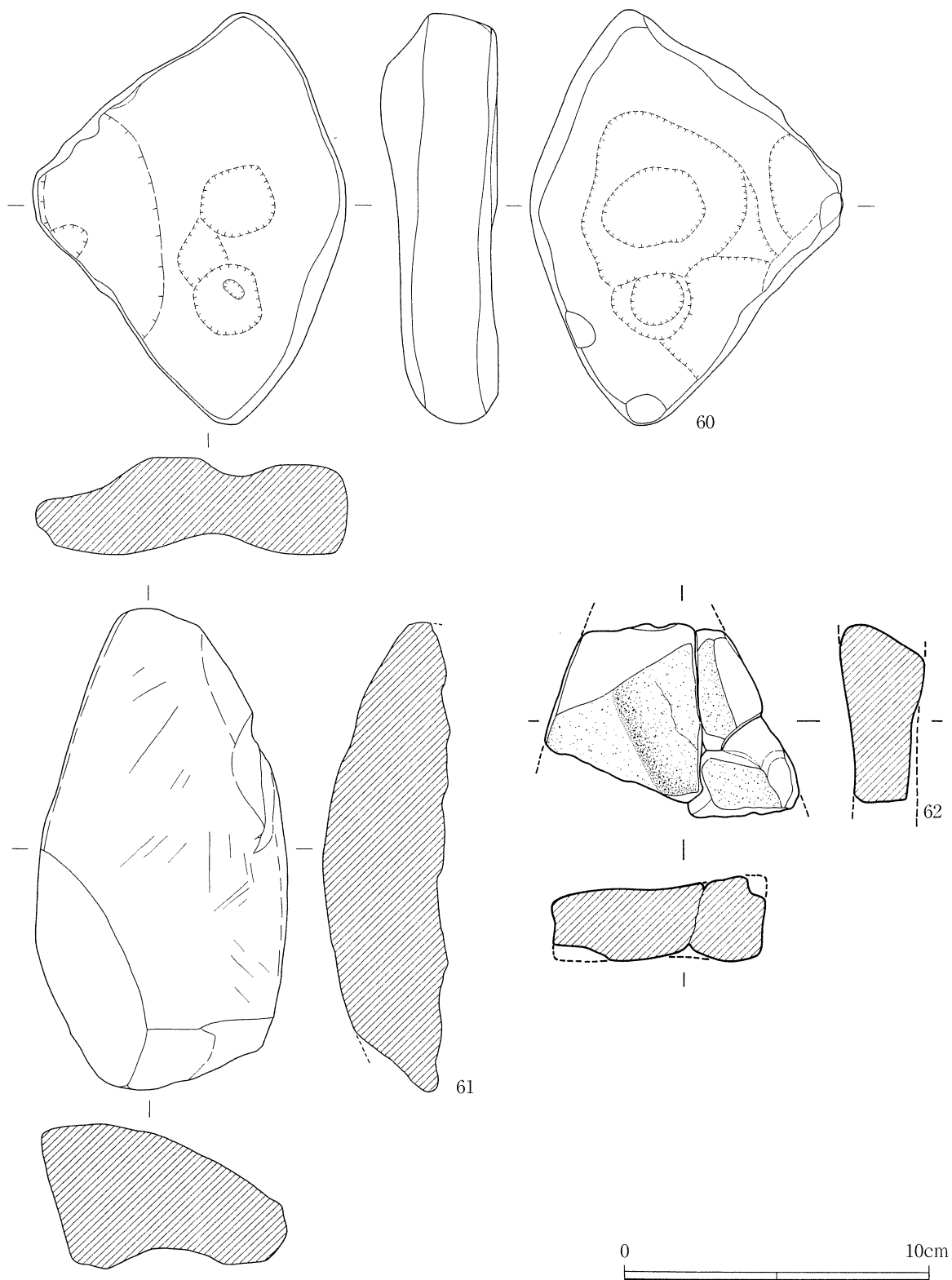
第180図 石器 (7)



第181図 石器 (8)



第182図 石器 (9)



第183図 石器 (10)

d 台遺跡出土の縄文時代の土器（第169、173、184～190図、図版92、102～105）

台遺跡B地点の調査では、弥生時代から古墳時代に至る多数の住居跡及び、中世に位置づけられる地下式墳など多くの遺構・遺物が検出されている。

これらに比べ、縄文時代として把握される住居跡などの遺構は検出されていないが、土器片等においては、数量的には多くないものの、169-13、173-127、184-1～190-126に掲げた縄文時代早期から晩期に至る各時期の土器片が出土している。

出土状態は、まとまって検出された例はなく、全て破片の状態で調査区内から散在的に発見されている。（第184～190図に付いては連番なので、挿図番号は省略している。）

以下、台遺跡B地点から出土した縄文時代の各時期の土器について、概要を述べることにする。

早期の土器は1点のみが出土している。1は、口縁部に無文帯を有し、無文帯と下部の文様部との間には口唇部と平行して一本の沈線を施し、文様部には縦走する撚糸文を施文することを特徴とするもので、花輪台式期に位置づけられるものであろう。

前期の土器は、184-2～60、173-127がある。2・3は、半裁竹管による平行沈線を直線または波状に施文したもので、所謂植房式と呼称される土器と類似するものである。

4～15は、諸磯a式期の範疇に属すると思われる一群の土器である。竹管により文様を構成するが、地文に縄文を充填し、その上に竹管による円形および弧状な平行沈線文を施文したもの8・9、弧状な平行沈線文のみを施文したもの12と、竹管による爪形文があるが、爪形文には、極めて幅の狭いもの4～6、11、および幅の広いものがある。

16～36は、諸磯b式期として把握されるであろう土器をまとめた。口縁部の形状には、17・19・28・31に見るように、内湾するもの、26・27などのように外反するものがあるが、いずれも深鉢形の形態を呈するようである。また、特異な例として25に挙げた内傾する口縁部が上部において極端に外反するものもある。文様は、地文に縄文を充填しその上に半裁竹管による平行沈線を直線的に横位・斜位に施文したもの16～22、これには口縁部に刻目を施したものがある16・19。

また、諸磯b式土器に特徴的な斜め方向に細かい刻目をつけた浮線文を貼付した土器27～33・36、および、折り返し口縁を有し、縄文のみを器面に充填したもの26・34などがある。

37は、細かい刺突状の連続した半裁竹管による文様を施文したもので、諸磯c式期に位置づけられるものであろう。38～40は、竹管によるソーメン状の文様を施文したもので、38・39には、一対の小さな円形玉が貼付される特色を有したもので、諸磯c式期に、40は、三角形に削り取られた文様が特徴的な十三菩提式期に属するものとして把握されるものと思われる。

41～51は、半裁竹管による爪形文を基本として文様を構成する土器で、浮島Ⅱ式期の範疇に属するものであろう。52～54は浮島Ⅲ式期に、55～58は興津式期に位置づけられるものである。また、59・60は浮島Ⅲ式期乃至は興津式期に属するものであろうが明確ではない。

前期末から中期初頭に位置づけられると思われる土器がある173-127。復元実測により図示してあるが、口唇部直径20cmほどの小型な土器で、口縁部に細かな刻目を有する細い浮線文を貼付するのが特徴的で、丁寧な作りの非常に綺麗な土器である。

中期の土器としては、61～83がある。61は、斜縄文と結節文とによる文様を施文したもので、下小野式土器として把握されるものと思われるが、台遺跡出土縄文時代の土器の中で、下小野式土器とし

て把握されるのは、本例のみであった。

62～83は、勝坂式期に属するものと思われるもので、沈線による文様を基調とし、刻目文を有するもの62・65、爪形文を加えたもの63などがある。66～67は、阿玉台式期と思われるもので、胎土中に雲母片を含入する。

78～83は、加曽利E式土器であり、78・79は、加曽利E式土器の最古形と思われる一群の土器である。

後期の土器としては、84～105がある。84は、沈線のみにより文様を構成する胴部破片で、若干の括れを有する。後期の初頭に位置づけられるものと思われる。85～87は堀之内2式の土器であるが、85・86は同一個体と思われる。

88～94は、加曽利B式土器の範疇として捉えられるが、93は称名寺式土器の可能性もある。

95～105には、所謂粗製土器と呼ばれている一群の土器を掲げた。これらの中には、堀之内式期97、堀之内式期～加曽利B式期95・96・98、加曽利BⅠ～Ⅱ式期として把握されるもの99～102、加曽利B式末～曾谷式期と思われるもの103・104、曾谷式～安行式期105などがある。

106以降には、晩期に位置づけられる土器をまとめて掲載した。106は、口唇直下に口唇と平行する2本の沈線を施し、沈線間に刺突を加えたもので、安行Ⅲ式の前半の土器として捉えられる。107～116は、大洞A・A'式期に位置づけられるもので、浮線文および沈線文による工字文が特徴的に施文されている。これらの中で、115は直線的な沈線による工字文風の文様を表現しているもので、晩期最末期の土器と思われる。また、小型な土器として169～13として掲げた土器がある。壺状の形態を有するもので、肩部にのみ浮線文を施している。

117は、刺突文と入組文との組み合わせによる文様を見せている。

また、118～126は、大洞系に伴うと思われる粗製土器であり、いずれも器面に撚糸文のみを施文したもので、形状的には、124～126に見るように口唇部に刻目を有する複合口縁になることが特徴的な土器である。

以上のように台遺跡から出土した縄文時代の土器について概要を述べた。時期的には、早期～晩期末と縄文時代全般にわたる各時期の土器が見られたことから、住居跡などの検出はなかったものの、当該遺跡の在る台地上に縄文時代を通じて集落が形成され生活が営まれていた可能性がある。

台遺跡出土の縄文時代の土器を概観すると、前期・中期の土器が多く見られたことが一つの特徴といえる。

国分寺台地区の区画整理事業に伴う発掘調査では、西広貝塚・祇園原貝塚・中台遺跡・天神台遺跡などの各遺跡から縄文時代の遺構・遺物が多く発見されているが、前期及び中期前半に位置づけられる遺構・遺物の出土例は少なく、特に、諸磯・勝坂・阿玉台系統の土器の出土例はほとんど見られなかったといっても過言ではない。また、大洞系統の特に大洞A・A'の土器は、西広貝塚での出土例があるものの国分寺台地の他遺跡での出土例は極めて希な状況である。

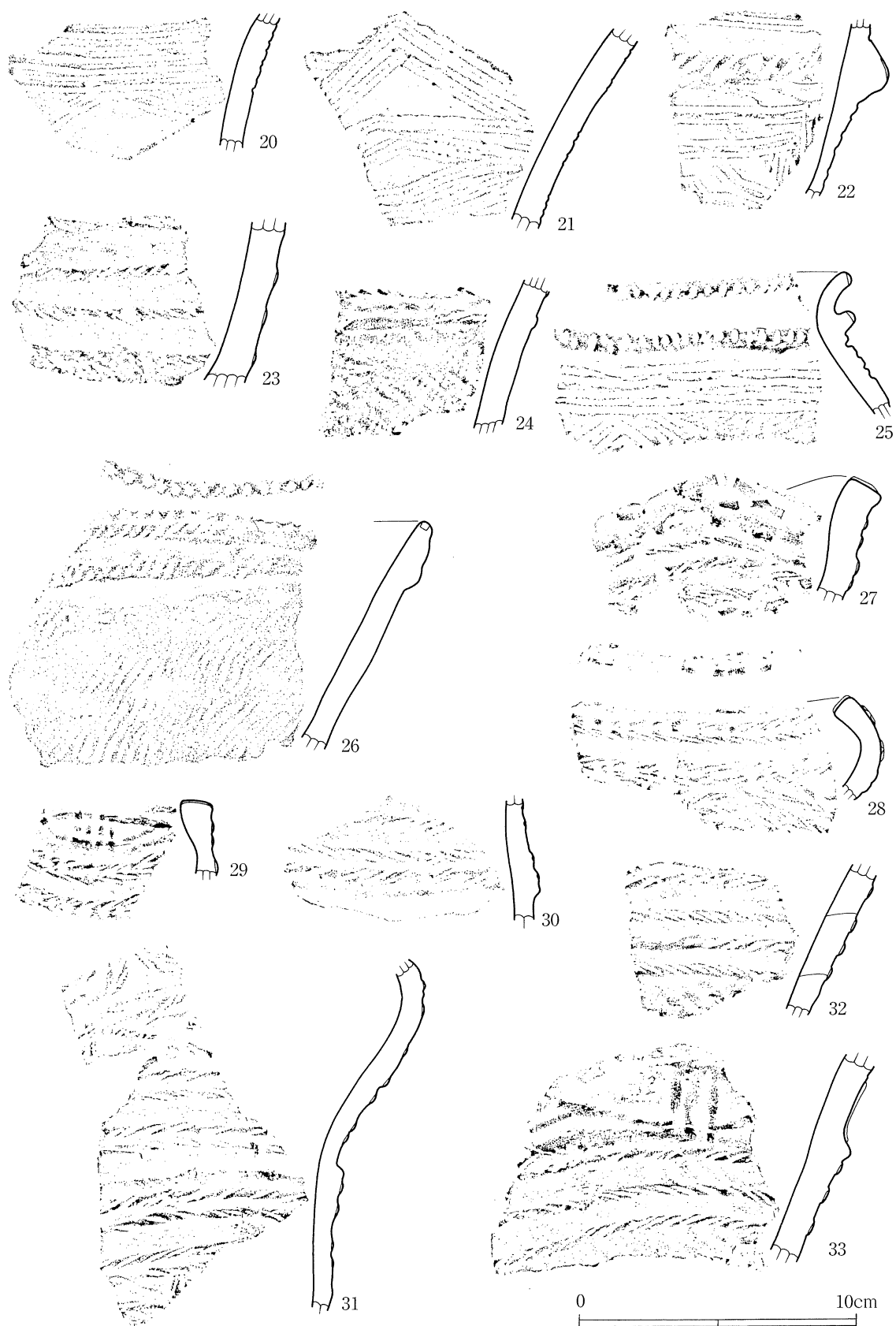
これらのことから、今回の台遺跡出土資料は、小さな土器片ではあるものの、国分寺台地の縄文時代前期・中期および晩期における貴重な資料として、これまで国分寺台地区の縄文時代の中で空白となっていた時期を満たすことができたものであり、他の縄文時代遺跡と合わせて国分寺台地区が縄文時代を通じて連綿として人々の生活の場として利用されていたことを知ることができたものである。

表21 縄文式土器一覽表

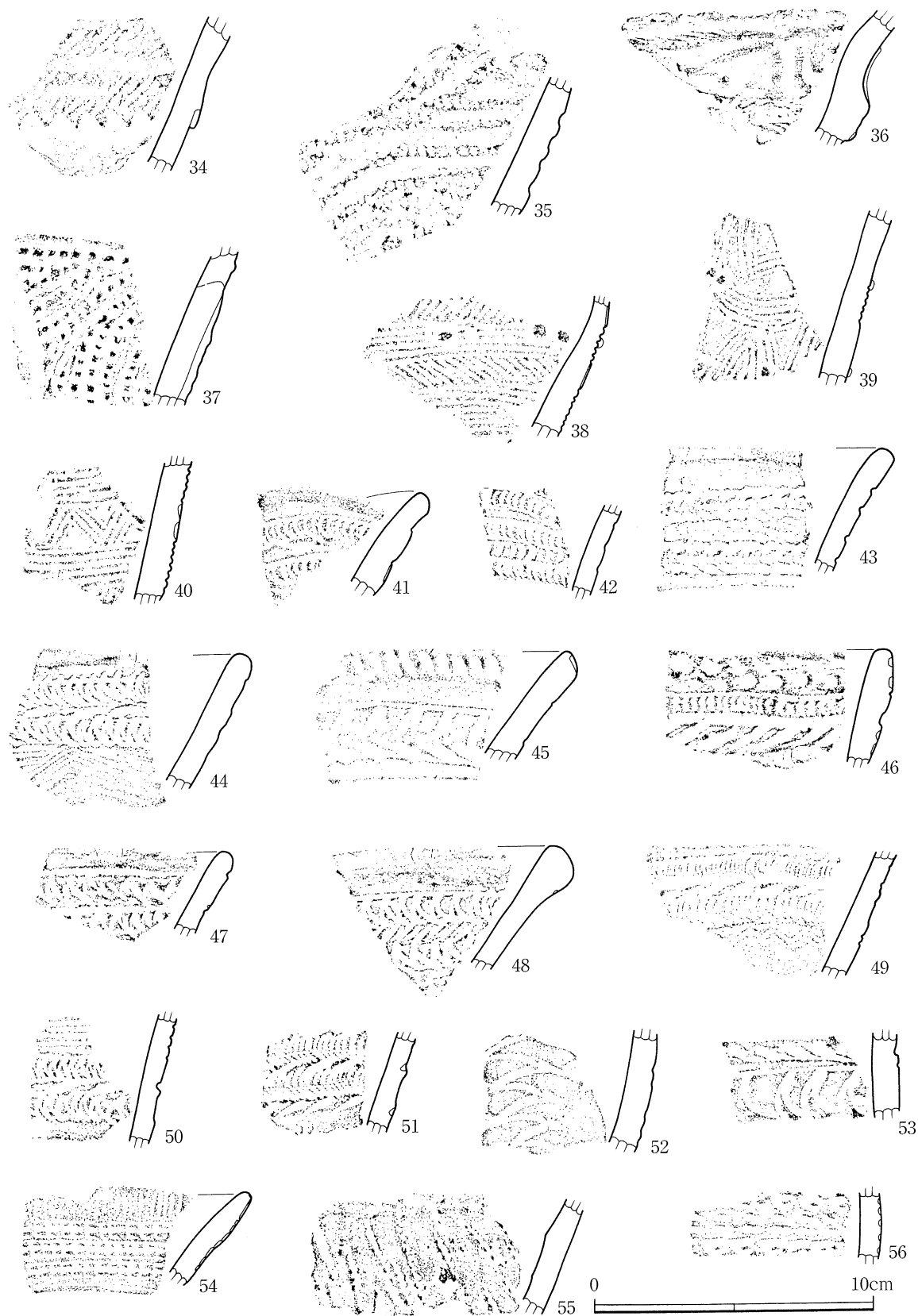
挿図	番号	時期	型式	挿図	番号	時期	型式
184	1	早期	花輪台式	187	65	中期	勝坂式
184	2	前期	植房式	187	66	中期	阿玉台式
184	3	前期	植房式	187	67	中期	阿玉台式
184	4	前期	諸磯a式	187	68	中期	阿玉台式
184	5	前期	諸磯a式	187	69	中期	阿玉台式
184	6	前期	諸磯a式	187	70	中期	阿玉台式
184	7	前期	諸磯a式	187	71	中期	阿玉台式
184	8	前期	諸磯a式	187	72	中期	阿玉台式
184	9	前期	諸磯a式	188	73	中期	阿玉台式
184	10	前期	諸磯a式	188	74	中期	阿玉台式
184	11	前期	諸磯a式	188	75	中期	阿玉台式
184	12	前期	諸磯a式	188	76	中期	阿玉台式
184	13	前期	諸磯a式	188	77	中期	阿玉台式
184	14	前期	諸磯a式	188	78	中期	加曽利E式
184	15	前期	諸磯a式	188	79	中期	加曽利E式
184	16	前期	諸磯b式	188	80	中期	加曽利E式
184	17	前期	諸磯b式	188	81	中期	加曽利E式
184	18	前期	諸磯b式	188	82	中期	加曽利E式
184	19	前期	諸磯b式	188	83	中期	加曽利E式
185	20	前期	諸磯b式	188	84	後期	後期初頭
185	21	前期	諸磯b式	188	85	後期	堀之内 2 式
185	22	前期	諸磯b式	188	86	後期	堀之内 2 式
185	23	前期	諸磯b式	188	87	後期	堀之内 2 式
185	24	前期	諸磯b式	189	88	後期	加曽利B式
185	25	前期	諸磯b式	189	89	後期	加曽利B式
185	26	前期	諸磯b式	189	90	後期	加曽利B式
185	27	前期	諸磯b式	189	91	後期	加曽利B式
185	28	前期	諸磯b式	189	92	後期	加曽利B式
185	29	前期	諸磯b式	189	93	後期	加曽利B式
185	30	前期	諸磯b式	189	94	後期	加曽利B式
185	31	前期	諸磯b式	189	95	後期	堀之内 2 式～加曽利B式、粗製土器
185	32	前期	諸磯b式	189	96	後期	堀之内 2 式～加曽利B式、粗製土器
185	33	前期	諸磯b式	189	97	後期	堀之内式、粗製土器
186	34	前期	諸磯b式	189	98	後期	堀之内 2 式～加曽利B式、粗製土器
186	35	前期	諸磯b式	189	99	後期	B I ～ II 式粗製土器
186	36	前期	諸磯b式	189	100	後期	B I ～ II 式粗製土器
186	37	前期	諸磯c式	189	101	後期	B I ～ II 式粗製土器
186	38	前期	諸磯c式	189	102	後期	B I ～ II 式粗製土器
186	39	前期	諸磯c式	189	103	後期	加曽利B式末～曾谷式、粗製土器
186	40	前期	十三菩提式	189	104	後期	加曽利B式末～曾谷式、粗製土器
186	41	前期	浮島 II 式	189	105	後期	曾谷式～安行式、粗製土器
186	42	前期	浮島 II 式	190	106	晩期	安行 III 式前半
186	43	前期	浮島 II 式	190	107	晩期	大洞A・A' 式
186	44	前期	浮島 II 式	190	108	晩期	大洞A・A' 式
186	45	前期	浮島 II 式	190	109	晩期	大洞A・A' 式
186	46	前期	浮島 II 式	190	110	晩期	大洞A・A' 式
186	47	前期	浮島 II 式	190	111	晩期	大洞A・A' 式
186	48	前期	浮島 II 式	190	112	晩期	大洞A・A' 式
186	49	前期	浮島 II 式	190	113	晩期	大洞A・A' 式
186	50	前期	浮島 II 式	190	114	晩期	大洞A・A' 式
186	51	前期	浮島 II 式	190	115	晩期	大洞A・A' 式、晩期最終末
186	52	前期	浮島 II 式	190	116	晩期	大洞A・A' 式
186	53	前期	浮島 II 式	190	117	晩期	
186	54	前期	浮島 II 式	190	118	晩期	大洞系に伴う粗製土器
186	55	前期	興津式	190	119	晩期	大洞系に伴う粗製土器
186	56	前期	興津式	190	120	晩期	大洞系に伴う粗製土器
187	57	前期	興津式	190	121	晩期	大洞系に伴う粗製土器
187	58	前期	興津式	190	122	晩期	大洞系に伴う粗製土器
187	59	前期	浮島 III 式乃至興津式	190	123	晩期	大洞系に伴う粗製土器
187	60	前期	諸磯b式	190	124	晩期	大洞系に伴う粗製土器
187	61	中期	下小野式	190	125	晩期	大洞系に伴う粗製土器
187	62	中期	勝坂式	190	126	晩期	大洞系に伴う粗製土器
187	63	中期	勝坂式	173	127	前期	前期末～中期初頭
187	64	中期	勝坂式	169	128	晩期	



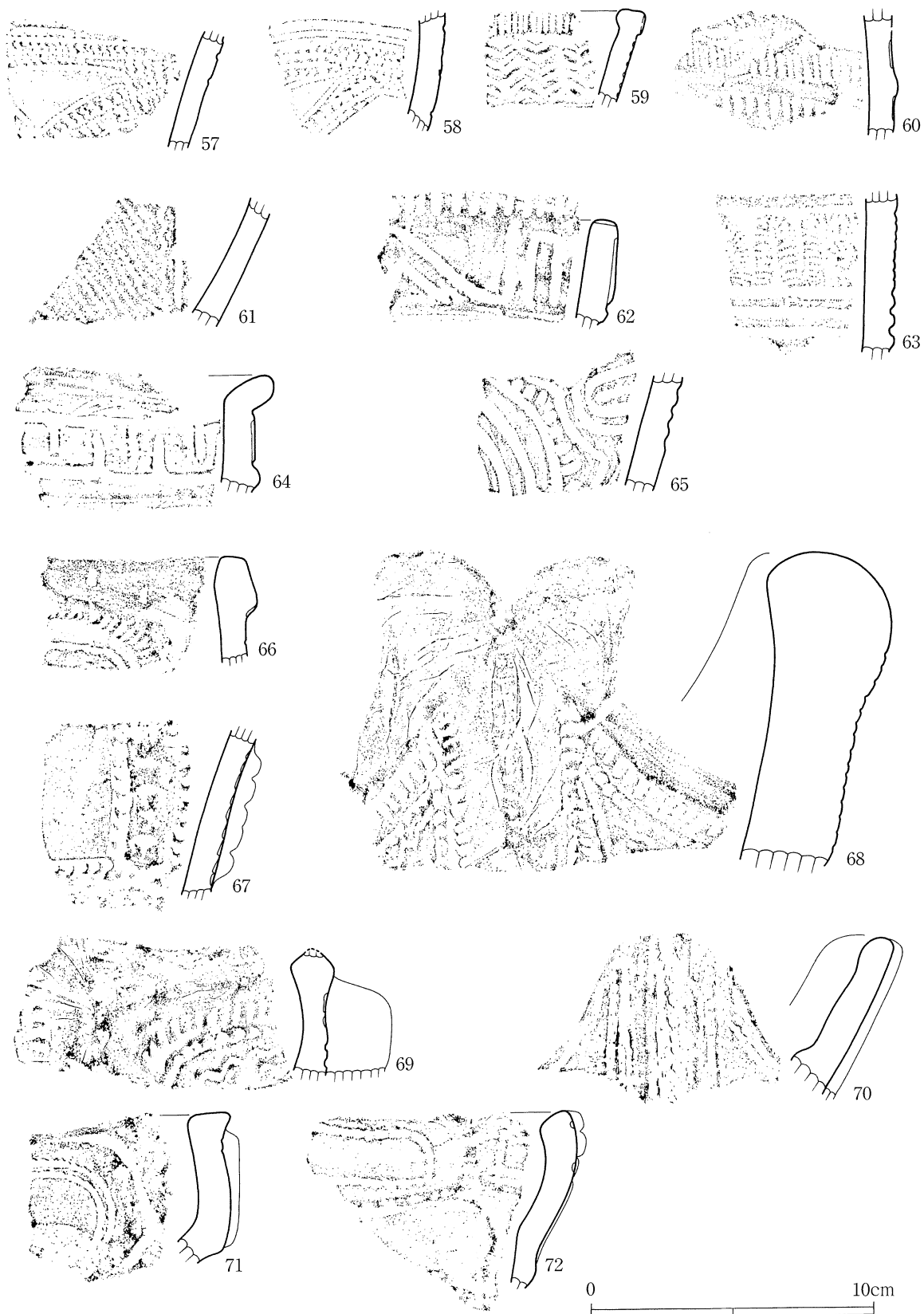
第184図 縄文式土器 (1)



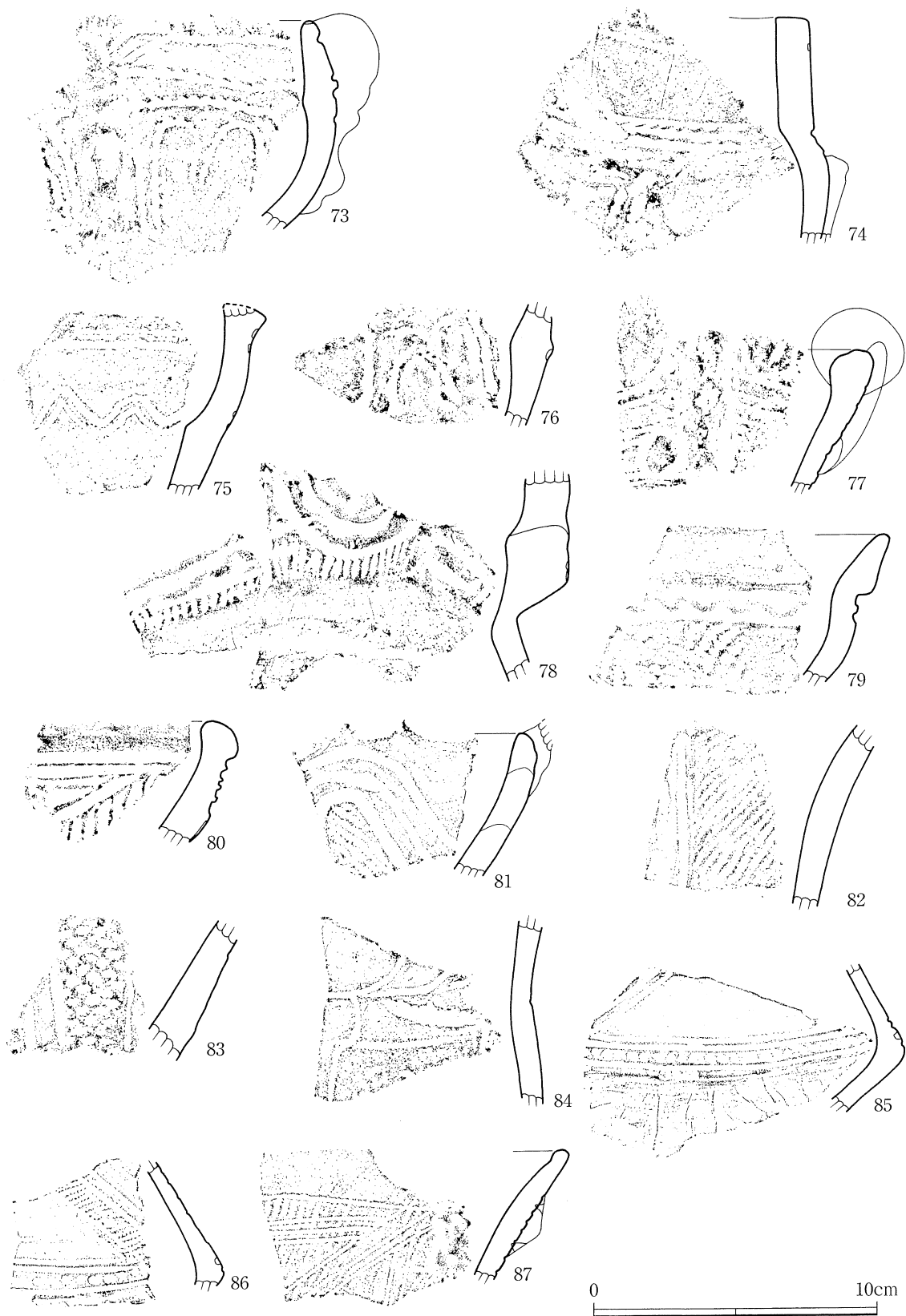
第185図 縄文式土器 (2)



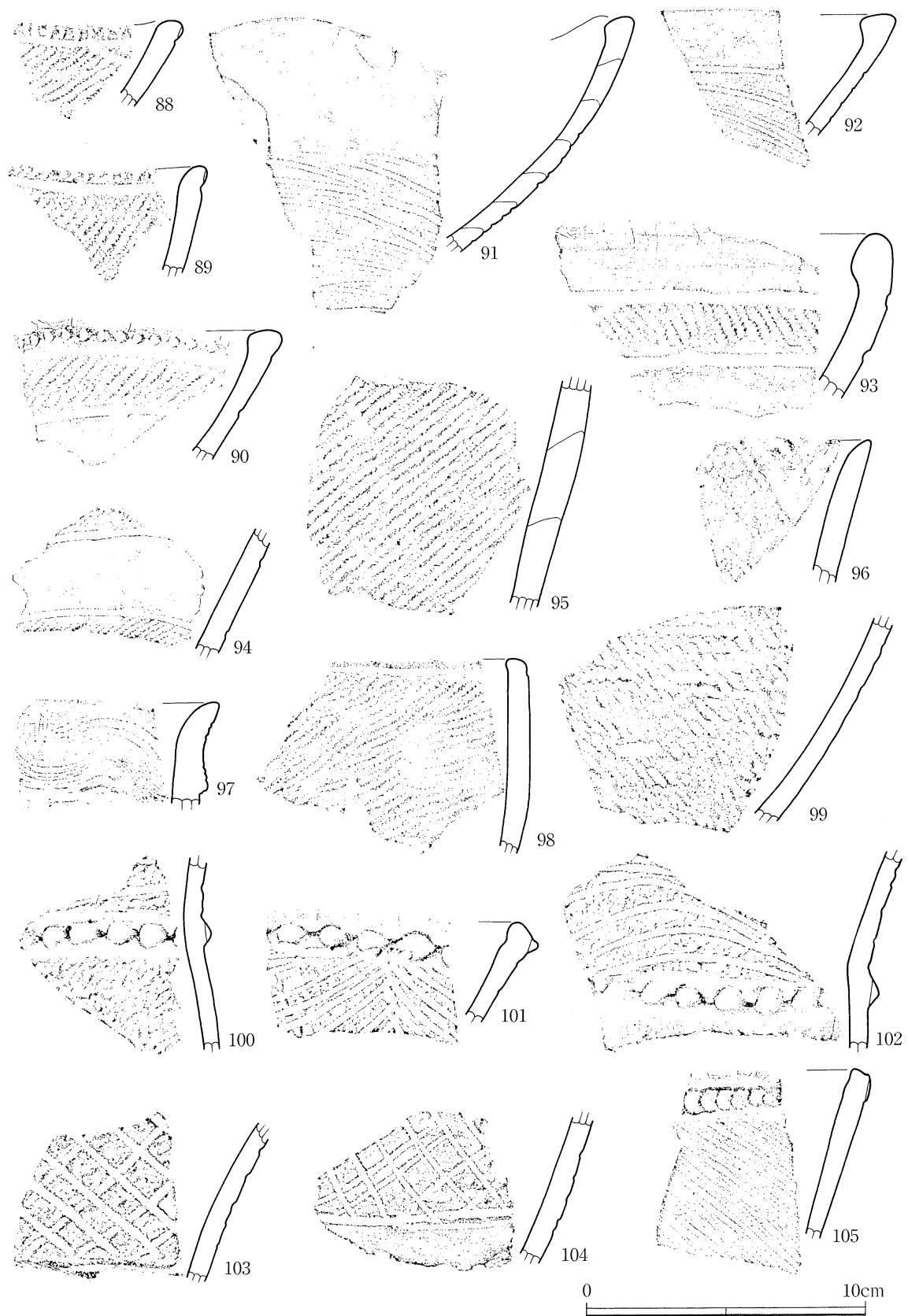
第186図 縄文式土器 (3)



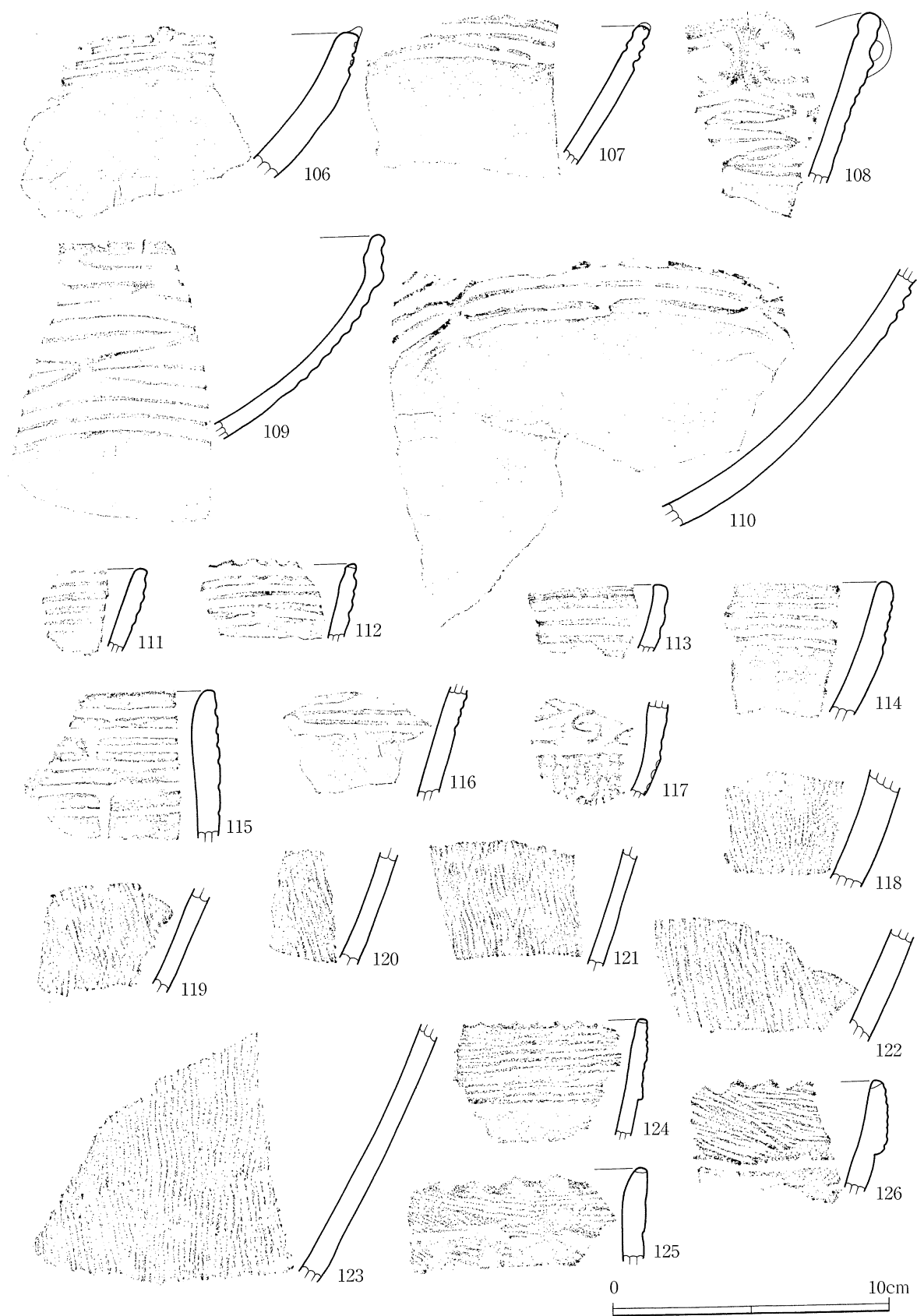
第187図 縄文式土器 (4)



第188図 縄文式土器 (5)



第189図 縄文式土器 (6)



第190図 縄文式土器 (7)

終 章

台遺跡B地点の調査について最後に遺跡の歴史的な流れを概観し終章とする。

旧石器時代は、B地点では確認のトレンチを入れていないが、遺構清掃やかまどの実測、古墳、方形周溝墓の壁、底など石器を発見しやすい場所でも破片の発見がなかった。

縄文時代は、出土土器の項にあるように、縄文時代早期から晩期最末期までの土器が検出されている。また土器片錘、石鏃、その他の石器も各所で検出されており、本来は集落が存在していたものと思われるが、B地点では縄文時代の遺構はいっさい発見されていない。台遺跡全体を通じてA・E地点の境界にある方墳の下層から検出された加曽利E式期の住居跡が唯一のものである。この住居跡は、中世の溝、方墳周溝、弥生時代の方形周溝墓と3時期の遺構に上部を削平されていたがその深さのために破壊を免れていた。

弥生時代中期は、C地点から続く環濠（4号溝）と住居跡、方形周溝墓が検出されている。環濠はC地点南東部から始まりB地点の東側を通りA地点に向かうと推定されるが中世遺構で広く削平され確認できない。またC地点で北に向かう部分で途切れている。そのため根田代遺跡のように全周するかは確認できていない。住居跡はB地点では、9軒だが東側のC地点に中心がある。またA地点でも数軒が検出されており、集落の範囲は環濠の外側20mほどまで続いている。方形周溝墓は16基検出され、C地点にもほぼ15基ほどの方形周溝墓がある。数基ずつが近接し溝の向きをそろえた群となっている。さらに北のA・E地点にかけても10数基の方形周溝墓群がある。

住居跡と方形周溝墓の前後関係は、実測図が全て掘り上がりの状態で作成されているために遺構からは不明だが、唯一重複している014号住居跡の掘り上がり写真・図とも方形周溝墓より新しい表現になっている。環濠は方形周溝墓とは重複せず、005号住居跡と重複している。図版1－5に重複の様子が撮影されているが、セクションベルトを残して調査されていることから新旧関係を把握して調査しているものとする住居跡より環濠の方が新しいことになる。集落が最大に広がった時点での住居の総数は30軒程度であろう。

南西に隣接する台地上の根田代遺跡にも環濠があり、南の御林跡遺跡に弥生時代中期の集落がある。台遺跡の三つの方形周溝墓群とこれら三つの集落は集落の移動・変遷を知るよい資料となるものと思われるがいずれも整理中であり、その成果を待ちたい。

弥生時代後期は、108軒の住居跡が検出された。海岸に面した台地縁辺と谷に向かう南側、南西の台地に続くブリッジ状に狭くなった部分で遺構が見られなくなり、台地平坦部全域に多数が分布している。しかし均一に並ぶわけではなく、弥生時代中期の方形周溝墓をよけて構築されている。居住者の連続性のためであろうか。また、遺構は北に続いておりE地点北端まで住居跡が分布している。北側でも住居跡は方形周溝墓をさけている。住居跡の総数は台地全域で200軒を超えているだろう。弥生時代後期の終わりまで拡大しつつ続いており、そのまま古墳時代前期に継続していく。この時期の墳墓については定かではない。全体図中に長方形の土壇が幾つか描かれており、弥生期の木棺土壇墓の可能性もあるが図に説明等は記載されておらず、土層断面なども作成されていない。墓域が集落と重ならないところに移動したことも考えられる。

古墳時代前期は、住居跡、方形周溝墓が検出されている。住居跡は、弥生時代後期とほぼ同様の分布を示しており、遺構数はほぼ43軒と半減している。台地全域では100軒を超える。墳墓は、数少なくなりB地点北東部、A地点北東部に数基認められるだけになる。

古墳時代中期になると一時集落の形成は途絶え、古墳時代中期後葉以後にまた遺構が作られるようになる。古墳時代中期後葉の住居跡は43軒で、古墳時代前期とほぼ同規模である。B地点南端から、E地点北端まで住居跡が続き全体で100軒を超えるものと思われる。E地点北端には一辺10mの大形の住居跡がある。これはカマド脇に数10点の高杯と坏を重ねて並べ須恵の甕とハソウが一緒に検出された。床面もほとんど踏み固められておらず、通常の住居というより集会所的な用途が考えられる。台地上全体が一つのムラとして意識されていたことが考えられる。これはこの時期の住居跡がほとんど重複することなく、カマドの附設される壁が北東壁で主軸方位が東に45度に集中することからも分かる。001・196号住居跡などのほとんど東を向く住居では、奥壁から1m程の炉に後から袖を設け壁外に出ない簡単な煙道を造ったようなカマドが検出されている。出現期のカマドであろう。

カマド内で同時に2点の甕が使用されていたことが分かる例が3例あった。165・218号住居跡では2点の甕がほぼ使用時の状態で残されており、190号住居跡では土製支脚が2基並んで設置されていた。いずれも袖中央での間隔が40cm前後で、カマドの使用に慣れて利便性を追求した結果であろう。土器や土製支脚からは分からないが、火床が片袖に寄っているものが多く、これも火床から遠い側に補助的に土器を掛けた可能性がある。

古墳時代後期になると住居跡は77軒と中期中葉の倍近い数になる。C地点、A地点にまで遺構は広がるがE地点までは達していない。これはA地点北からE地点にかけて、円墳9基、方墳3基、円墳に前方部を後から付けたような前方後円墳1基の13基からなる西谷古墳群が上に重なっているため、台地全体でも古墳時代中期後葉とさして変わらない遺構数と考えられる。ただ存続期間が長いことと古墳のために住居を造る場所が規制され遺構の重複が激しい。

1軒の住居でカマドが造り替えられている例が幾つか見られる。068・072・236号住居跡などである。この内072号住居跡は後期の遺構の拡張で、遺構内の柱穴とそれ以外のピットが全て同様の位置で外側に造り替えられている。236号住居跡は一見北東壁のカマドを北西壁に造り替えたようだが実は旧住居跡埋没後に別に住居を造ったものである。068号住居跡は遺構内の袖などを取り払い床も整地して北東壁のカマドを北西壁に造り替えたものでこの遺跡では唯一の例である。

カマドが北東壁と北西壁に附設された住居跡の主軸方位のピークがほぼ90度離れることは、村落内での家の方向にある程度の規制があったものと考えられる。068号住居跡の例はこのことを表しているものだろう。

古墳時代後期のカマドはシンプルなものもあるが、046・163号住居跡のように壁外に長く延びる煙道をもつ例や、009・101号住居跡のように袖の付け根のロームを掘り残すもの、004・236B号住居跡のようにカマド本体を半分壁外に造るものなどバリエーションが増えている。また古墳時代中期後葉のカマドは土製支脚の使用例が多いが古墳時代後期になると極端に減っている。これは、カマド構築が規格化しカマドに掛ける甕の直径に合わせた掛け口を造るようになったためで甕を2点残す例が古墳時代中期後葉に多いのもこのためかもしれない。

台遺跡上の集落は一部8世紀に及ぶがほとんど古墳時代後期で終焉を迎える。以後は、三本の溝が

100m余のほぼ1町の間隔で交差する、条里制を思わせるような区画溝が残されるだけとなる。A地点でのことになるがこの溝の底から市原産の「大目」墨書の須恵器が出土していることや、同様な溝がC地点から南の御林跡遺跡に谷を越えて続いていることも公的な企画性を思わせ、上総国府との関連を考えさせる資料である。

南西の根田代遺跡、南方の御林跡遺跡、根田遺跡、谷を挟んだ加茂遺跡A・B地点、近年調査された加茂遺跡D地点、南東の長平台遺跡まで、ほぼ同様の時期、遺構構成の遺跡が連なる。間の未調査部分も地形的に同様の遺跡の可能性が高く、広大な遺跡群となる。これらの、稲作に基づき自然発生的に出現した集落は、生活基盤となる水田の立地に従い谷奥から海岸平野へとその向く方向を若干変えながら続いてきた。それがこの時期で途絶えるのは、国分寺周囲の荒久遺跡、尼寺北側の坊作遺跡、稲荷台遺跡などの寺院・官衙周辺に公の力によりこれらの造営のために移動するのか、台地上を畑として使用する、今のように区画整理される前の江戸、明治時代の村落の位置に移動するのも興味深いことである。

一端途絶えた台地上は、中世にまた人々の手が入り遺構が多く残されているが、この時期は集落ではなく墓域としての使用になる。中世遺構の分布はA地点東側、C地点南東、E地点北部に集中しB地点ではA地点から続く遺構が幾つか検出された。円形に台地を掘り込み中央に平坦面を持つ台地整形区画と、その内部や近隣から検出された地下式墳である。墓域を構成するこれらの遺構はB地点より他の地点にその中心があり、また東の谷を隔てた加茂遺跡A・B地点にも存在する。

これらの中世遺構は、陶磁器から13世紀に始まりがあり、14世紀で一時途絶え14世紀の終わりから15世紀の末まで続く。特に15世紀は地下式墳、円形・長方形の土坑、火葬跡など総数200基を超えるような各種の遺構が、台地北端の古墳に囲まれた範囲を台地整形区画に見立てた部分、中央の東西40m、南北70mの台地整形区画を中心とした部分、C地点南の谷に向かう斜面部の3カ所を中心に構築されている。溝は、弥生の環濠、古代の区画溝を除いて中世から続いているものがほとんどと考えられる。B地点の溝は、台地全域を幾つかに分ける区画の溝の一部と考えられる。

調査した段階では地下式墳は余り知られておらず、地下倉などの説もあった。B地点調査の段階では調査者も地下式墳を実際に掘ったものはおらず遺物の取り上げ方にも不注意な点が多かったが、この頃時を同じにして各地で地下式墳の調査例が増え翌年度以降のA・E地点などの調査にこの時の経験が生きたと考えられる。

昭和50年秋に始まった台遺跡B地点の調査は、とりあえずこの報告書の刊行をもって一段落が付く。しかし今回の報告は台遺跡として調査した遺構の1/3程を紹介したに過ぎない。範囲も台地の南西部の一角で台地上全面に広がって、弥生時代中期から古墳時代後期の時期の異なる集落・墓域、中世の遺構群が確認されているが全体像は第3図に掲載した全体図でしか紹介されていない。この後、A・C・D・E地点の報告書が順次作成されることから、本書では分析的なことはあまり行っておらず事実記載のみで終わっている。30年近く前の調査で、調査方法、精度の点で今から見ると不正確な部分が多く物足りず不十分な点が多い。また部分的な成果がわずかに公開されたりしており期待を持って待っていた方も多いと考えられるが、それも十分に果たしていない。本章もこれまでの記述のまとめでしかないことをお詫びしておく。

表22 住居跡一覧表

表中の数字の単位はcm

記載順	遺構	挿図	図版	位置	時期	主軸×直交×深	縦横比	主軸方位	火処	左奥柱穴	右奥柱穴	右前柱穴	左前柱穴	出入口ピット	貯蔵穴	壁溝	備考
1	001	9	1-1・2	MN-13	古墳中期 後葉	603×593×26	102	東99	カマド・東壁	60	60	54	51	無し	右奥隅 65×56×56	無し	前よりにピット7基、カマド前1mに焼土
2	002	10	1-3・4	MN-14>15	古墳後期	584×507×46	115	西36	カマド・北西壁	57	51	42	66	無し	無し	全周	柱穴配置変形
3	003	11	1-5・6	LM-13<14	古墳後期	560×432×20	130	西7	無し	柱穴無し				深さ20	無し	無し	左奥隅130×120突出
4	004	11	1-7	M-13<14	古墳後期	457×430×48	106	西44	カマド・北西壁	20	64	36	71	不明	無し	全周	壁溝コーナーで広がる
5	005	13	1-8	M-14	弥生中期	540+×380+×10	102	西12	炉・88×45+土器片2枚	105	006住	4号溝	109	無し	不明	無し	東寄りピット2基
6	006	13	2-1	M-14>15	古墳後期	498×483×30	103	西24	カマド・北北西壁、 007住が東半分削平	27	007住	43	71	不明	不明	全周	
8	007	14	2-2	M-14<15	古墳後期	484×512×30	95	西39	カマド・北西壁	38	51	53	53	無し	無し	全周	
9	008	14	2-2	M-15	古墳前期	370+×370+×10	103	不明	北東域外	域外	域外	域外	71	不明	不明	無し	南西1/4程度検出
10	009	15	2-3	L-13	古墳後期	460×520×10	88	西33	カマド・北西壁	〇	〇	〇	〇	無し	無し	全周	
12	010	16	2-3	KL-13<14	古墳後期	470×410+×16		西33	カマド・北西壁	柱穴無し				不明	右奥隅50×35	無し	
11	011	15	2-4~6	KL-12<13	古墳後期	497×482×26	103	西35	カマド・北北西壁、1号 墳が中央削平	〇	〇	〇	〇	前壁から70	無し	全周	
7	012	13	2-7~8	L-14	古墳後期	412×412×31	100	西31	カマド・北北西壁	31	28	42	55	無し	左奥隅壁溝拡張 70×80×15	全周	
14	013	16	3-1~4	L-15	古墳前期	420×428×20	98	西22	炉・50+×40	015住	31	12	19	無し	右前隅 50×54×30	無し	左前柱右にピット2基
13	014	16	4-1	L-14	弥生中期	662×516×15	128	西15	炉・70×63	30	36	25	31	無し	無し	無し	柱穴配置不整、炉上に新ピット
15	015	16	3-4・5	L-15	古墳後期	386×373×20	103	西60	カマド・西北西壁	38	62	57	66	無し	無し	全周	
16	016	16	3-1・ 6~8	KL-15	古墳後期	517×522×24	99	西39	カマド・北西壁	75	59	55	56	前壁から80、 深さ28	無し	無し	
	016建替	-	-	-	-	-	-	-	-	67	-	-	-	-	-	-	016A住左奥柱穴の建替
17	017	19	4-2	K-14>15	古墳後期	515×500×30	103	西20	カマド・北北西壁、攪乱 される	70	73	74	74	無し	無し	無し	右前隅焼土
	017建替	-	-	-	-	-	-	-	-	55	-	-	58	-	-	-	017A住左側柱穴の建替
18	018	20	2-5	K-13	古墳後期	540×500×5	108	西83	カマド・北北西壁	9号方 形	2号溝	〇	〇	無し	不明	無し	
	018下層	-	-	-	-	?×?×5		不明	カマド・北北西壁	〇	017B 住	017B 住	017B 住	不明	不明	不明	新カマド前床下にカマド痕跡、 左奥柱穴検出
19	019	20	4-3	JK-12<13	古墳後期	583×620×?		西41	カマド・北西壁、方墳に 削平される	柱穴無し				無し	無し	無し	
20	020	20	4-3	JK-13	弥生中期	280+×420×15		西37	炉・削平	019住	019住	019住	019住	不明	不明	無し	
21	021	20	4-3	JK-12<13	古墳後期	310×320+×?		西11	カマド・北壁、019住に 北東を削平される	柱穴無し				無し	無し	無し	
22	022	21	4-4・5	II-13<14	古墳後期	448×600×28	75	西27	カマド・北北西壁	柱穴無し				無し	無し	無し	
23	023	21	4-4	I-13>14	古墳前期	632×650×15	97	西24	炉・68×50×7	柱穴無し				無し	無し	無し	
24	024	21	4-4	I-13>14	古墳後期	150+×350+×?		西30	カマド・削平	柱穴無し				前壁から76	不明	全周	
25	025	22	4-6~8	J-15	古墳中期	504×503×30	100	東26	カマド・北北東壁	73	41	40	70	無し	右奥隅 68×73×35	無し	
26	026	23	5-1~3	K-15>16	古墳中期 後葉	368×363×26	101	東53	カマド・北東壁	柱穴無し				無し	右前隅 41×40×50	無し	ピット4基、右やや奥貝層

記載順	遺構	坪図	図版	位置	時期	主軸×直交×深	縦横比	主軸方位	火処	左奥柱穴	右奥柱穴	右前柱穴	左前柱穴	出入口ピット	貯蔵穴	壁溝	備考
27	027	23	5-4	H1-14	古墳中期 後葉	500×450×5	111	東65	カマド・東北東壁	柱穴無し				無し	無し	左側で確認	左前隅粘土
28	028	23	5-5	I-14	古墳中期 後葉	400×333×22	120	東42	カマド・北東壁、2号溝に北東を削平される	柱穴無し				無し	無し	無し	
29	029	24	5-6	H-	弥生後期	357×366×30	98	西55	炉・70×46	柱穴無し				前壁から80、深さ22	前右寄り 35×60×13	無し	
30	030	24	5-7・8	H-15<16	古墳中期 後葉	590×473×38	125	東52	カマド・北東壁	柱穴無し				無し	無し	全周	カマド右コーナーを区画する土手状施設
31	031	24	5-7	H-16	古墳中期 後葉	496×460×15	東54	東54	カマド・北東壁、030住が削平	57	53	030住56		不明	不明	全周	
32	032	25	6-1・7-1・2	IJ-16<17	弥生後期	450×484×?	西34	西34	炉・82×51	○	○	○		無し	無し	右430確認	炉右奥焼土
33	033	26	7-3・5	H1-16<17	古墳中期 後葉	472×432×40	109	東51	カマド・北東壁、北東を削平される	35	45	85	35	無し	無し	全周	
34	034	26	7-4~7	I-16<17	古墳後期	508×523×33	97	西40	カマド・北西壁、北西で035住上に構築	15	24	5	12	無し	無し	全周	右前ピット2基
35	035	26	7-4・7	H1-17	古墳後期	545×528×33	103	西41	カマド・北西壁、北西で036住上に構築	47	55	43	52	無し	無し	全周	
41	036	29	7-4	H1-17>18	弥生後期	510×470×20	109	西49	炉・70+×62	柱穴無し				不明	前右 40×40×20	無し	炉前焼土、炉奥掘乱、貯蔵穴奥ピット1基
36	037	26	8-1	I-17	古墳前期	508×260+×20	西42	西42	不明	柱穴無し				不明	不明	無し	
44	038	30	8-2	JK-14	古墳後期	478×523×45	91	西35	カマド・北西壁	掘乱	○	掘乱	○	無し	無し	全周	
37	039	26	7-3・8	H1-16<17	古墳前期	714×530+×40		西40	炉・165×95(92×55)	59	55	033住40		不明	不明	無し	033住貼床下未調査
43	040	30	6-1・18-2	H1-18>19	古墳前期	880×900×33	98	西38	炉・域外	域外	66	域外	域外	不明	右前 75×60×27	左前一部確認	中央道路のため未調査、焼土2カ所、粘土1カ所
42	041	29	6-1	I-18	古墳後期	340+×300+×45	不明	不明	域外	柱穴不明				不明	調査域外	無し	
38	042	26	8-4・6~8	IJ-17	古墳中期 後葉	320+×370×25	東40	東40	カマド・北東壁、域外	柱穴無し				不明	右奥隅 ?×76	無し	カマド・貯蔵穴を含め北東未調査、粘土掘出
39	043	26	8-4・5	IJ-17	古墳中期 後葉	310+×480×35		東62	カマド・域外	域外	域外	不明	50	不明	不明	全周	
40	044	26	8-1	I-17	弥生後期	500×100+×20	不明	不明	削平	柱穴無し				不明	不明	無し	
45	045	31	6-2	H-	古墳後期	420×443×27	95	西20	カマド・北北西壁	○	○	○		無し	右奥隅 104×87×110	奥を除き確認	カマドベッド状遺構の上、右前、左前隅焼土2カ所
46	046	31	6-2・9-1	H-17<18	古墳後期	510×350+×32		西48	カマド・北西壁	40	30	30	45	無し	無し	全周	右奥コーナー造り替え、カマド周囲粘土、中央、前焼土2カ所
49	047	33	9-3~6	GH-17<18	古墳中期 後葉	550×546×50	101	東35	カマド・北東壁	62	60	60	62	右中央から80、深さ16	無し	全周	右前隅貝層
48	048	31	6-2・9-1	H-17	古墳前期	200+×200+×20	西44	西44	炉・削平	柱穴無し				不明	不明	無し	コーナーのみ、焼土2カ所
50	049	33	6-2・9-1	GH-17	弥生後期	755×632×50	119	西35	炉・83×47	72	71	76	74	前壁から88	前右より2基並列 32×33・26×24	全周	ピット9基散在
53	050	36	9-7	GH-16	古墳後期	677×670×30	101	西51	カマド・北西壁	柱穴無し				無し	無し	全周	右寄りにピット5基散在
54	051	36	9-7	G-16>17	古墳前期	400×470×23	85	西57	炉・3カ所	柱穴無し				不明	不明	東側で確認	焼土全体に散在、焼失住居
55	052	36	9-7	G-	弥生後期	400×200+×24		不明	炉・不明	柱穴無し				無し	無し	無し	
56	053	37	9-8	FG-16	古墳後期	533×552×30	97	西36	カマド・北西壁	33	13	48	47	無し	無し	無し	右壁中央焼土1カ所
57	054	6	14-1	FG-15	弥生後期	?×?×0		不明	炉	○	○	○		無し	前右寄り規模不明	無し	

記載順	遺構	挿図	図版	位置	時期	主軸×直交×深	縦横比	主軸方位	火処	左奥柱穴	右奥柱穴	左前柱穴	右前柱穴	出入口ピット	貯蔵穴	壁溝	備考
58	055	37	10-1	FG-17<18	古墳後期	550×475×5	116	西48	炉竈列・50×38・56×40	柱穴無し				無し	無し	全周	壁溝内ピット2基
59	056	38	10-2・3	F-18	古墳前期	530×420+×16		西49	炉・68×40	柱穴無し				無し	無し	無し	左奥焼土1カ所
60	057	38	10-2・3	F-18	古墳中期後葉	230+×440×20		東33	カマド・北北東壁、域外	域外	域外	不明	30	不明	不明	右側欠	右壁焼土1カ所、粘土検出
61	058	39	10-4～6	F-18	弥生後期	363×342×20	106	西42	炉・78×72	柱穴無し				左中央外傾10	左前隅36×38×16	無し	前左右焼土2カ所
64	059	40	11-7	EF-17>18	古墳前期	679×677×40	100	西48	炉・49×24	攪乱	40	57	○	前壁上深さ15	右前隅55×58×20	無し	
65	060	40	11-4～6	F-17	古墳中期後葉	462×622×60	74	東41	カマド・北東壁	59	68	60	64	無し	無し	全周	
66	061	40	11-7	F-17	弥生後期	360+×460×30		不明	炉・削平	柱穴無し				無し	無し	無し	
51	062	33	9-3	GH-17	弥生後期	392×320+×45		東53	炉・削平	柱穴無し				無し	無し	無し	
62	063	39	11-1・2	EF-17	弥生後期	480×448×35	107	西59	炉・77×55	31	41	37	39	無し	無し	全周	
63	064	39	11-2・3	E-17	古墳前期	600×572×16	105	西5	炉・60×46	不明	23	不明	25	不明	不明	全周	左寄りピット2基、壁柱穴4基
67	065	6	11-8	E-18	古墳前期	?×?×0		不明	炉・域外	柱穴無し				無し	無し	全周	
68	066	42	12-1・2	EF-18<19	古墳中期後葉	300+×483×58		東45	カマド・北東壁、域外	域外	域外	50	53	深さ10	不明	全周	粘土検出
69	067	6	11-8	D-17<18	弥生後期	?×?×?		不明	域外	柱穴無し				不明	不明	無し	
70	068A	43	12-3・4	M-10>11	古墳中期後葉	615×600×42	103	東42	カマド・北東壁痕跡のみ	39	49	44	59	無し	無し	全周	カマドを挟むように間仕切り溝
71	068B	43	12-3・4	M-10>11	古墳後期	600×615×42	—	西48	068A住カマドの北西壁への造り替え	59	39	49	44	無し	無し	全周	間仕切り溝埋める
72	069	43	12-4	LM-10<11	古墳前期	?×?×5		不明	削平	柱穴無し				不明	不明	無し	
73	070	43	12-4	L-10	弥生後期	370+×300+×9		不明	削平	柱穴不明				不明	不明	無し	台地斜面にかかり詳細不明
74	071	44	12-5・6	KL-10	古墳前期	350×335×20	104	西4	無し	柱穴無し				無し	無し	全周	
75	072A	44	12-7	K-11	古墳後期	508×502×45	101	西14	カマド・北北西壁	46	55	41	57	2本深さ14・8	無し	全周	前壁下、右壁下に出入口ピット
76	072B	44	12-5～8	K-11	古墳後期	588×590×45	100	西17	削平	68	70	72	60	2本深さ35・18	無し	全周	072A住の拡張
77	073	46	13-1	J-11>12	古墳後期	250×238×11	105	西49	カマド・北西壁	柱穴無し				無し	無し	全周	壁柱穴6基
78	074	46	13-2	I-11<12	古墳後期	606×658×23	92	西45	カマド・北西壁	柱穴無し				無し	無し	全周	前壁古焼土
79	075	46	13-2・3	I-11<12	古墳後期	380×453×35	84	西32	カマド・北西壁	柱穴無し				無し	無し	全周	
80	076	46	13-4・5	I-11	古墳後期	500+×596×15		西50	カマド・北西壁	柱穴無し				不明	左奥隅173×96×60	無し	前台地斜面で不明
81	077	46	13-4・5	I-11	古墳前期	737×743×20	99	西8	炉・83×48	47	不明	不明	63	076住	076住	全周	炉奥血状ピット3基、南西ピット1基
82	079	47	13-6・7	I-12<13	古墳後期	550×565×7	97	西34	カマド・北西壁	柱穴無し				無し	無し	無し	右壁手前焼土、カマド前ピット1基
83	080	48	13-8	H-13>14	古墳前期	390×430×34	91	西23	炉竈列73×49・60×52	不明	○	○	○	前中央	無し	全周	柱穴はいずれも血状
84	081	48	13-8	GH-13>14	古墳中期後葉	295×314×26	94	東50	カマド・北東壁	柱穴無し				無し	右奥隅70×70	無し	カマド左と右にピットがあるが柱穴かは不明
85	082	48	13-8	H-13	古墳前期	630×667×26	103	西55	炉・98×52	○	○	○	○	無し	無し	全周	右前柱穴脇に血状ピット1基
86	083	49	14-1	GH-12>13	古墳前期	585×578×20	101	西19	炉・84×24	○	○	○	○	無し	無し	無し	
	083下層	—	—	—	—	—	—	—	不明	—	○	○	—	—	—	—	拡張前、右側柱穴のみ検出
90	084	50	15-1	GH-13	古墳前期	677×658×?	103	西25	炉・80×54	○	○	○	○	前壁から50	前右寄り50×54	奥右欠	右奥ピット1基、奥壁右一段高くなる

記載順	遺構	挿図	図版	位置	時期	主軸×直交×深 比	縦横 比	主軸 方位	火処	左奥 柱穴	右奥 柱穴	右前 柱穴	左前 柱穴	出入口ピット	貯蔵穴	壁溝	備考
87	085	49	15-2・3	GH-12	古墳後期	594×576×45	103	西58	カマド・西北西壁	○	○	○	○	無し	無し	全周	中央、右壁際焼土2カ所
88	086	49	14-2	GH-11>12	古墳前期	480+×808×?		西13	炉・74×42	○	○	削平	削平	削平	削平	無し	左にピット3基、前台地斜面で詳細は不明
89	087	49	14-2	G-12	古墳前期	300+×340+×?		不明	削平	柱穴無し				不明	不明	無し	北西コーナーのみ、ピット1基
91	089	51	15-4	G-11	弥生後期	?×?×?		不明	炉・30×18	柱穴無し				無し	無し	無し	重複のため詳細は不明
92	090	51	15-4	FG-11	弥生後期	370+×373×?		東6	不明	柱穴不明				無し	不明	無し	柱穴は他の住居跡の柱穴や貯蔵穴の可能性あり
99	091	52	15-5・6	F-12	古墳後期	387×404×18	96	西39	カマド・北西壁	柱穴無し				不明	無し	全周	右側にピット散在、伴わない
93	092	51	15-4	G-11	古墳前期	504×540×?	93	西44	炉・74×42	○	○	○	○	無し	不明	無し	ピット6基の内壁際の大形のものは貯蔵穴の可能性あり
94	093	51	15-4	G-11	弥生後期	339×310×?	109	西1	炉縦列・50×30・60×45	柱穴無し				無し	無し	無し	
95	094	51	15-7	F-13	古墳前期	430×415×?	104	西15	炉・45×40	柱穴無し				無し	無し	無し	
96	095	51	15-7	F-13	古墳中期 後葉	310×300×?	103	東77	カマド・北東壁	柱穴無し				無し	無し	無し	浅く輪郭不鮮明、ピット散在、伴わない
97	096	51	15-7	F-13	古墳前期	?×?×?		不明	削平	柱穴不明				無し	無し	無し	奥壁からハの字状に広がる粘土がカマドの名残、右前焼土
98	097	51	15-8・16-1・2	F-13	古墳後期	527×575×25	92	西32	カマド・北北西壁	○	○	○	○	無し	無し	全周	コーナーのみ、詳細不明
100	098	52	16-3・4	F-12	古墳中期 後葉	332×343×17	97	東33	カマド・北北東壁	柱穴無し				無し	無し	無し	ピット散在、伴わない
101	099	52	14-2・16-5	E-11>12	古墳前期	532×472×10	113	東13	炉・56×50	○	○	○	○	無し	前右寄り55×50	無し	ピット6基散在、下層に197住がある
103	100	53	16-6	E-12	古墳中期 後葉	477×477×32	100	東70	カマド・東北東壁	28	23	55	42	無し	右奥隅67×60×46	カマド右一部欠	
104	101	54	16-7・8・17-1・2	D-13	古墳後期	463×502×29	92	西52	カマド・北西壁	54	42	48	35	無し	無し	右奥隅一部欠	
105	102	54	17-3~6	C-12	古墳後期	442×490×40	90	西71	カマド・西北西壁	55	45	60	58	無し	無し	カマド右一部欠	
107	103	55	17-7・8	B-12	古墳後期	569×570×35	100	西60	カマド・西北西壁	48	55	59	53	無し	無し	全周	
106	104	54	45-1	JK-11	古墳後期	385×380×28	101	西44	カマド・北西壁	柱穴無し				無し	無し	無し	右奥焼土
108	106	56	18-1・19-1	H-19	古墳中期 後葉	380×398×54	95	東45	カマド・北東壁	38		41		無し	右奥隅70×50×33	全周	横並びの二本柱
109	107	56	18-1	H-19	古墳後期	246×220+×45		西37	カマド・北西壁	柱穴無し				無し	右前隅58×40×10	無し	カマド左から区域外
110	108	56	18-1・19-2	GH-18>19	古墳前期	628×450+×40		西36	炉・83×54	域外	41	43	域外	16	58×48×27	無し	
	108拡張	-	-	-	-	700+×700+×40		西35	-	域外	26	24	域外	無し	30×34×48	無し	108A住の拡張
111	109	56	18-1・19-2	H-20	弥生後期	292×200+×38		西30	炉縦列・48×48・43×44	柱穴無し				無し	右前48×48×23	無し	
112	110	56	18-1・19-2	GH-20	古墳中期 後葉	490×525×30	93	東19	カマド・北北東壁	75	80	59	64	無し	右奥隅63×60×48	無し	
113	111	56	18-1・19-2	H-19>20	古墳前期	800+×600+×35		西18	炉・74×44	66	61	79	域外	無し	右前45×45×50		
115	112	58	19-3	IJ-19>20	古墳後期	500×477×52	105	西25	カマド・北北西壁	36	21	31	34	無し	無し	全周	
121	113	60	19-5	IJ-19>20	古墳前期	538×550×38	98	西22	炉・52×73	39	58	65	49	前壁から88、深さ22	無し	全周	炉右奥焼土
122	114	60	19-5	J-20	弥生後期	485+×500×42		西25	炉・58×42	36	40	42	35	前壁から80、深さ33	無し	無し	

記載順	遺構	挿図	図版	位置	時期	主軸×直交×深	縦横比	主軸方位	火処	左奥柱穴	右奥柱穴	右前柱穴	左前柱穴	出入口ピット	貯蔵穴	壁溝	備考
123	115	60	19-5	IJ-20	古墳中期 後葉	458×452×45	101	東42	カマド・北東壁	41	51	43	51	無し	右奥隅 50×50×80	全周	
124	116	60	19-5	J-20	古墳後期	412×430×37	96	西37	カマド・北西壁	柱穴無し				無し	無し	全周	
125	117	60	19-5	J-20	古墳前期	530+×585×34		西139	炉・92×48	74	65	63	76	無し	無し	全周	炉は116住カマド下で検出
127	118	63	19-6・7	J- 20<21	弥生後期	534×487×60	110	西45	炉・78×60	69	73	68	72	深さ13	前右 38×33×9	無し	
128	119	63	19-6・7	JK-21	弥生後期	520+×400+×41		西58	削平	67	65	66	64	深さ18	前右 38×30×22	無し	
129	120A	63	20-1	JK-21	弥生後期	740×662×48	112	西41	炉・115×42	43	76	56	62	深さ51	無し	南東のみ確認	炉左から右、柱穴内から外へ拡張
130	120B	63	20-1	JK-21	弥生後期	740×662×48	112	西33	炉・68×50	53	64	51	57	深さ51	無し	南東のみ確認	120A住の炉・柱穴の造り替え
131	121	63	20-1	JK-21	弥生後期	400+×150+×40		西18	削平	柱穴無し				無し	無し	無し	重複で詳細不明
132	122	63	20-1～5	J-21<22	古墳後期	521×492×46	106	西35	カマド・北西壁	81	71	81	74	無し	無し	全周	右奥焼土、左前貝層
133	123	63	20-1	K- 21<22	古墳後期	453×400+×34		西27	カマド・北北西壁	58	51	49	62	無し	無し	全周	右壁未調査、中央ピット1基
134	124	63	20-1	JK- 21<22	弥生後期	400+×400+×56		西46	炉・78×44	73	93	?	68	無し	無し	無し	奥から前に建替
	124建替	-	-	-	-	-	-	-	-	69	-	-	-	-	-	-	右奥柱穴の建替
136	125	65	21-1	JK-22	古墳後期	490×520×36	94	西29	カマド・北北西壁	63	64	62	63	無し	無し	全周	重複部分壁不明、輪郭のみ、ピット2基
137	126	65	21-1	J-22	弥生後期	400+×390×18		西22	炉・84×52	柱穴無し				無し	無し	無し	炉奥ピット1基
141	127	66	21-2	J- 19<20	弥生後期	353×346×52	102	西65	炉・56×40	柱穴無し				前中央高15、 台状に残	前右22×40× 15、周囲に土手	左半分	
142	128	66	21-2	J-20	古墳中期 後葉	555×553×42	100	東65	カマド・東北東壁	60	44	75	63	無し	右奥隅 76×82×40	全周	中央に焼土、木炭
143	129	67	21-3	K-23	弥生後期	575×515×35	112	西37	炉・80×60	89	100	45	60	前壁から50、 深さ27	前右 40×40×33	無し	
144	130	67	21-3	K-23	弥生後期	720×520+×34		西41	炉・82×63	31	44	24	57	前中央20から 70、深さ	前右 58×63×15	左から前で確認	
145	131	67	21-3	K-23	古墳後期	448×442×37	101	西35	カマド・北西壁	38	糺乱	63	53	不明	無し	全周	
146	133	69	21-4・5	IJ-22	古墳前期	520+×520+×30		西20	炉・92×48	72	78	72	78	無し	無し	右で一部確認	
148	134	69	21-4・5	J-22	弥生後期	430+×450×25		西22	炉・82×46	柱穴無し				無し	無し	無し	左前ピット深さ85
149	135	70	21-7・8	L- 23<24	弥生後期	360+×380×30		西11	炉・105×46	柱穴無し				無し	無し	無し	右前ピット深さ62
151					弥生後期	578×450+×39		西32	炉・87×60、土器片を埋める	65	76	55	71	不明	無し	全周	
152	136	70	21-7・8	KL- 23>24	弥生後期	835×666×36	125	西42	炉・100×56	62	47	35	47	前中央、深さ 24	不明	右前隅のみ	
154	137	71	21-7	K-24	古墳前期	564×514×36	110	西31	炉・80×30+	柱穴無し				無し	右前隅 76×68×44	無し	奥ピット1基
160	138	72	22-1	JK- 23<24	古墳前期	524×542×39	97	西22	炉・90×42	34	30	33	35	無し	前壁に接し右寄り 48×68×14	無し	
161	139	72	22-1	J-23	古墳後期	320×290+×36		西33	カマド・北北西壁	柱穴無し				無し	無し	全周	
165	140	73	22-2～4	J- 22<23	古墳後期	345×370×46	93	西26	カマド・北北西壁	柱穴無し				無し	無し	全周	周囲一段下がる、住居跡の可能性あり
166	141	73	22-5	J-23	古墳前期	418×425×25	98	西49	炉・120×70	64	59	68	71	無し	無し	無し	
126	142	60	22-6	IJ- 20>21	古墳前期	570×485×34	118	西27	炉・76×52	30	53	53	聴乱	不明	無し	無し	143住前2本の柱穴と貯蔵穴がある
169	143	75	22-6	I-21	古墳前期	390+×556×22		西16	炉・50×35	50	78	57	62	不明	右前 50×46、深さ18	無し	

記載順	遺構	挿図	図版	位置	時期	主軸×直交×深 比	主軸 方位	火処	左奥 柱穴	右奥 柱穴	右前 柱穴	左前 柱穴	出入口ピット	貯蔵穴	壁 溝	備 考
170	144A	75	22-6	IJ-21	古墳後期	460×450×42	西32	カマド・北北西壁	柱穴無し				無し	無し	全周	144A住と北西で重複。コナーのみ、炉不明
171	144B	75	22-6	IJ-21	不明	110+×150+	不明	不明	柱穴無し				不明	無し	無し	
177	145	76	22-7・ 23-1~3	I-22	古墳中期 後葉	450×423×55	東48	カマド・北東壁	30	70	27	58	無し	右奥隅 52×63×54	無し	
178	146	76	22-8	I-22	古墳前期	495+×410+×24	西27	削平	88	56	98	94	無し	無し	無し	焼土2カ所、左側の焼土内に炉がある
172	147	75	23-4	I-21	弥生後期	350+×350×31	西8	炬籠列・60×48・60×42	柱穴無し				無し	無し	無し	
182	148	79	23-5・6	I-23	弥生後期	595×440+×37	西40	炉・90×60	70	64	66	63	無し	前壁に接し右寄り 48×44×14	無し	
	148建替	-	-	-	-	-	-	-	69	-	-	63	-	-	-	148A住左側柱穴の建替
183	149	79	23-7・8・ 24-1・2	I-23	古墳後期	388×398×28	西25	カマド・北北西壁	柱穴無し				無し	無し	全周	ピット散在、伴わない
167	150	73	22-5	IJ-23	弥生後期	463×426×42	西30	炉・102×50	53	54	63	51	無し	前壁に接し右寄り 44×48×14	無し	
162	151	72	24-3	IJ-23	弥生後期	380×350×29	東139	炉・66×44	柱穴無し				無し	前壁に接し中央 25×40×15	無し	ピット多数散在、伴わない
163	152	72	24-3	J-23	弥生後期	303×230+×25	西25	炉・77×42	柱穴無し				無し	前壁に接し右寄り 28×34×10	無し	ピット多数散在、伴わない
155	153	71	24-4	K-24	弥生後期	556×490×47	西25	炉・95×55	59	63	68	77	無し	前右 61×52×42	無し	
185	154	80	24-5・6	J- 24<25	弥生後期	366×364×33	西38	炉・96×49	柱穴無し				無し	無し	無し	炉上に木炭、右焼土1カ所、左奥ピット1基
189	155	82	24-7	JK- 24<25	古墳前期	680×550×14	西41	炉・93×52	柱穴無し				無し	無し	無し	中央焼土1カ所、左奥粘土1カ所
190	156	82	24-7	K-25	弥生後期	478×476×30	西39	炉・68×46	41	43	34	45	無し	無し	無し	
191	157	82	24-8	JK-25	古墳前期	330+×480+×10	西40	削平	柱穴無し				無し	無し	無し	
116	158	58	25-1・3	I-19	古墳中期 後葉	525×500+×56	東40	カマド・北東壁、 112号住が割平	42	70	48	58	無し	右奥隅 55×67×70	無し	左右壁下焼土2カ所
117	159A	58	25-1・2	I- 19>20	古墳前期	626×629×40	西37	炉・66×38	85	55	56	88	無し	左前隅 65×65×43	全周	炉・柱穴とも右に拡張、左前コナー壁柱穴3基
118	159B	-	-	-	古墳前期	-	-	炉・68×43	-	100	76	-	-	-	-	159A住の炉・右側柱穴の造り替え
119	160	58	25-1・2	HI- 19<20	古墳前期	600+×604×38	西31	炉・112×46	92	90	62	82	不明	不明	奥中央・右前欠 ト、右側ベッド状遺構	右奥柱穴と重複して炉状のピット、右側ベッド状遺構
173	161	75	25-4・5	I-21	古墳前期	410+×410×25	東58		柱穴無し				無し	無し	無し	焼土4カ所、焼失住居
179	162	76	22-7	I-22	古墳前期	300+×460+×44	西16	炉・77×53	○	24	145住	145住	無し	145住	無し	
180	163	76	22-7	I-21<22	古墳後期	593×595×35	西39	炉・60+×46	59	91	82	66	無し	無し	西で確認	
184	164	79	23-5・6	I- 22>23	弥生後期	680×562×40	西19	カマド・北西壁 炉・70×57	49	54	50	55	前柱穴間、 深さ27	無し	無し	左焼土1カ所
	164建替	-	-	-	-	-	-	-	63	-	-	48	-	-	-	164A住左側柱穴の建替
186	165	80	27-1	IJ-24	古墳中期 後葉	650×658×25	東41	カマド・北東壁	80	76	68	75	右壁から55、 深さ39	右奥隅 80×80×68	無し	左前貝層1カ所、ピット2基
187	166	80	26-1	J-24	弥生後期	514×550×42	西31	炉・88×48	27	25	27	27	無し	無し	無し	右側ピット1基、土坑、167住柱穴あり
	166建替	-	-	-	-	-	-	-	-	25	-	-	-	-	-	166A住右奥柱穴の建替
188	167	80	24-6・ 26-1	JK- 24>25	古墳前期	563×520×23	西41	-	38	○	52	土坑	無し	右前隅 56×70×23	無し	右奥柱穴上焼土1カ所
192	168	82	24-8	JK-25	弥生後期	402×420×58	西43	炉・60+×10+ 炉・62×30	柱穴無し				無し	前壁右寄り 34×40×14	無し	

記載順	通構	挿図	図版	位置	時期	主軸×直交×深	縦横比	主軸方位	火処	左奥柱穴	右奥柱穴	左前柱穴	右前柱穴	出入口ピット	貯蔵穴	壁溝	備考
193	169	82	24-8	J-25	弥生後期	356×364×41	98	西32	炬・70×38	柱穴無し				無し	左前隅に接し 80×55×20	左280右145で 確認	
194	170	84	27-4	J-25>26	古墳前期	547×530×34	103	東18	炬・85×50	54	19	竊二本柱		無し	左前隅 48×45×61	左と前で確認	焼土2カ所
197	171	85	27-3・4	J-26	弥生後期	434×373×30	116	西44	削平	柱穴無し				無し	無し	無し	
198	172	85	27-3・4	J-26	古墳中期 後墓	440×462×35	95	東28	カマド・北北東壁	41	39	29		無し	右奥隅 45×45×38	全周	ピット2基
201	174	86	27-5	I-25	弥生後期	485×448×50	108	西36	炬・72+×48	柱穴無し				無し	前壁右寄り 27×34×11	無し	ピット2基
202	175	86	26-2	I-25	古墳前期	520×546×35	95	東25	炬・66×62	柱穴無し				無し	無し	無し	焼土5カ所、木炭、貝屑1カ所、 焼失住居
203	176	86	27-6	HI-24>25	弥生後期	494×472×40	105	西49	炬・98×48	62	59	56	63	前壁から30、 深さ11	前壁右寄り 38×38×31	無し	左奥柱穴両側にピット2基
204	177	86	27-5	I-24<25	古墳中期 後墓	442×428×44	103	東38	カマド・北東壁、痕跡	柱穴無し				無し	無し	全周	奥壁攪乱手前床面焼ける
205	178	88	27-7	HI-24	弥生後期	492×446×36	110	西30	炬並列・ 右68×44・左55×32	33	34	27	45	無し	前壁に接し右寄り 37×48×38	無し	炬の、新旧不明、柱穴配置ずれる
206	179A	88	26-2	H-23>24	弥生後期	560×420+×34		西47	炬・106×62	48	40	54	56	あり	前右寄り 59×68×13	無し	右奥隅にピット1基
207	179B	88	26-2	H-23>24	古墳前期	270+×280+×34		不明	不明	柱穴無し				無し	無し	無し	隅円方形、遺構内施設皆無
208	180	88	27-8	H-23	弥生後期	300+×300+×23		西52	炬・45×20	柱穴無し				無し	無し	無し	両側の重複と掘りすぎのため詳細は不明
210	181	89	28-1	H-22	古墳前期	482×484×32	100	西41	炬・84×50	柱穴無し				無し	無し	全周	奥壁や左粘土
211	182	89	28-1~4	G-22	古墳中期 後墓	393×423×40	93	東42	カマド・北東壁	60	56	59	69	無し	右奥壁 68×66×60	全周	左右壁下焼土2カ所
212	184	91	28-6	HI-21	古墳中期 後墓	494×500×30	99	東22	カマド・北北東壁	82	52	22	72	前壁上、 深さ13	右奥隅 70×70×20	全周	写真では正規の配置の柱穴あり
213	185	91	28-7	H-21>22	古墳前期	610×588×40	104	西31	炬・96×63	80	104	76	115	不明	不明	全周	炬奥、左焼土2カ所、壁柱穴4基、右柱穴間240間仕切り溝
214	186	91	28-7	HI-20	古墳中期 後墓	508×510×50	100	東46	カマド・北東壁	46	62	49	72	無し	右奥隅 88×82×69	全周	
215	187	91	28-8	I-21>22	古墳前期	549×496×33	111	西25	炬・70×60	17	12	37	50	無し	無し	前右隅	柱穴4本とも炬より右に寄る、 焼土、木炭4カ所、焼失住居
52	188	33	9-3	CH-17>18	古墳前期	420+×420+×27		西22	削平	柱穴不明				無し	右前隅42×58	無し	全面焼土、焼失住居
217	189	92	29-1・2	E-14<15	古墳後期	390×423×31	92	西40	カマド・北西壁	柱穴無し				無し	無し	無し	奥壁5号方形周溝墓上
218	190	92	29-1~4	E-14>15	古墳中期 後墓	378×400+×34		東52	カマド・北東壁	柱穴無し				無し	無し	全周	右壁5号方形周溝墓上
219	191	93	14-2	DE-13	古墳前期	290+×296×12		西10	無し	柱穴無し				無し	無し	無し	奥焼土1カ所
220	192	93	14-2	E-13	古墳後期	90+×490×17		西48	カマド・北西壁	柱穴不明				193住	193住	無し	カマド左焼土、大部分を193住に削平される
	193	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	
221	193立替	93	14-2	E-13	古墳後期	518×550×41	94	西50	カマド・北西壁	○	○	○	○	無し	無し	全周	193A住のカマド・柱穴の造り替える。外に拡張
222	194	94	29-5~8	F-14	古墳後期	487×513×30	95	西61	カマド・西北西壁	○	○	○	○	無し	右前隅 65×55×60	全周	前壁から張り出し部が存在する可能性あり

記載順	遺構	挿図	図版	位置	時期	主軸×直交×深	縦横比	主軸方位	火処	左奥柱穴	右奥柱穴	右前柱穴	左前柱穴	出入口ピット	貯蔵穴	壁溝	備考
223	195	95	17-7	I-12	古墳中期 後葉	330×220+×14		不明	カマド・北東壁	柱穴無し					右前隅60×60	無し	
224	196	96	14-2	E-11	古墳中期 後葉	572×500+×30	96	東84	カマド・東壁	44	域外	34	42	不明	域外	無し	
102	197	52	16-5	E- 11>12	古墳前期	350×363×?		東19	炉・60×45	柱穴無し				無し	前右50×42	無し	左ベツト状遺構、炉上にピット1基
225	198	6	15-7	F-13	弥生後期	?×?×0		不明		柱穴無し				無し	無し	無し	097住北東、炉のみ検出
47	199	6	6-2	H-18	不明	?×?×?		不明	削平	柱穴不明				無し	無し	無し	046住と重複、未調査
181	200	76	23-5・6	I-22	弥生後期	?×?×25		不明	不明	柱穴無し				無し	無し	無し	重複のため不明瞭
174	201	75	25-4	I-21	弥生後期	?×?×45		不明	削平	柱穴無し				無し	無し	無し	161住と147住に挟まれた部分のみ検出
120	202	58	25-1	I-19	弥生後期	300×230+×55		不明		柱穴無し				無し	無し	無し	重複のため詳細は不明
175	203	75	25-4	I-21	古墳前期	500+×560×39		西18	炉・88×50	柱穴無し				無し	前壁右寄り 35×50×18	無し	
176	204	75	25-4	IJ-21	弥生後期	474×390+×6		西27		柱穴無し				無し	無し	無し	
135	205	63	20-2	J-22	弥生後期	270+×170+×34		不明	炉縦列・85×58・62×38	柱穴無し				無し	無し	無し	北西コーナーのみ
138	206	65	21-1	K-22	弥生後期	440+×440+×28		不明	削平	柱穴無し				無し	前右	無し	
139	207	65	21-1	JK- 22	弥生後期	490+×490+×26		不明	削平	柱穴無し				無し	南東壁下、 深さ14	無し	
147	208	67	21-3	K-23	弥生後期	350+×370+×28		西39		43	132住	132住		無し	無し	無し	
156	209	71	21-7	KL-24	古墳中期 後葉	380+×495×39		東35	炉・76×64 域外	域外	域外	61	60	右壁際、 深さ69	不明	無し	北東区域外
157	210	71	21-7	K- 24<25	不明	400+×300+×31		不明	削平	柱穴不明				不明	不明	無し	重複と区域外のため詳細不明
199	211	85	27-3	J-26	弥生後期	320+×442×26		西45		柱穴無し				無し	無し	無し	
226	212	97	30-1・2	H-26	古墳前期	492×517×28	95	西34	炉・114×54	擾乱	擾乱	擾乱	43	無し	左前隅 43×46×65	無し	
227	213	97	30-1・2	HI-26	古墳前期	?×?×0		不明	炉・75×50	柱穴不明				無し	左前隅	無し	
209	214	88	30-3	H-23	弥生後期	354×338×66	105	西66	削平	柱穴無し				無し	前壁に接し右寄り 28×42×18	無し	
228	215	98	30-4	GH-24	古墳前期	580×580×30	100	西48	炉・53×37	41	51	65	65	前壁中央上、 深さ27	前壁右寄り38× 44×27	全周	焼土、木炭7カ所、焼失住居
229	216	98	30-5～8・ 31-5・6	G-23	古墳中期 後葉	396×393×33	99	東46	炉・70×42	45	56	55	40	無し	右奥隅 83×78×35	カマド右で切れ る	左右壁下焼土2カ所
230	217	98	30-5	GH-23	古墳前期	693×700×45	100	西40	カマド・北東壁	45	61	75	75	無し	右前隅 58×66×37	前で280穴	
232	218	100	31-1～4	FG-22	古墳中期 後葉	430×358×45		東42	炉・98×50	柱穴無し				深さ12	右奥隅 70×70×40	前を疎く	貯蔵穴内貝層、右壁焼土
231	219	99	31-7	I-24	弥生後期	396×396×40		西28	カマド・北東壁	柱穴無し				深さ22	前壁に接し右寄り 35×40×13	無し	ピット3基
195	220	84	31-8	IJ-25	古墳前期	570×580+×12		西49	炉並列・84×40・65×36	柱穴無し				無し	無し	無し	
196	221	84	27-4	J-26	弥生後期	380×300+×28		西6	炉・40×40	柱穴無し				無し	無し	無し	
158	222	71	21-7	K-24	弥生後期	420+×420+×28		西26	炉・63×46	75	64	63	68	不明	不明	無し	重複のため奥壁と柱穴のみ検出
200	224	85	27-3	J-25<26	弥生後期	340+×355×28		西32	削平	柱穴無し				無し	無し	無し	ピット1基
164	225	72	24-3	J-24	弥生後期	242×108+×20		西43	炉・82×50	柱穴無し				無し	無し	無し	
114	226	56	18-1・ 19-2	GH-20	古墳前期	330×327×42	101	東16	不明 炉・70×35	柱穴無し				無し	無し	無し	焼土2カ所
										柱穴無し				右中央から60、 深さ20	右奥隅 62×68×41	全周	

記載順	遺構	挿図	図版	位置	時期	主軸×直交×深	縦横比	主軸方位	火処	左奥柱穴 152住	右奥柱穴 153住	右前柱穴 47	左前柱穴 138住	出入口ピット	貯蔵穴	壁溝	備考
159	227	71	21-7・24-5	JK-24	弥生後期	427×300+×17		西43	炬・64×46	152住	153住	47	138住	無し	無し	無し	重複のため奥壁、炉、柱穴1本のみ検出
168	228	73	22-5	II-23>24	古墳前期	430+×300+×3		西55	炬・66×52	柱穴無し				不明	無し	無し	浅く奥壁と炉のみ検出、竈土2カ所
150	229	69	21-4・5	J-22	古墳前期	422×400+×30		西20	炬・86×44	柱穴無し				無し	右前隅 56×52×21	無し	竈土3カ所、焼失住居
216	230	91	28-8	I-20	古墳前期	250+×350+×5		不明		柱穴無し				無し	無し	無し	南西コーナーのみ検出
233	236A	101	32-1・2	Q-14<15	古墳中期 後葉	533×517×50	103	東65	割平 カマド・東北東壁	53	45	域外 地下式竈	地下式竈 20×26×5	無し	無し	全周	
234	236B	101	32-1	Q-15	古墳後期	280+×280+×50	118	西21	カマド・北西壁	地下式竈	26	22		無し	不明	無し	236A住と重複
235	241	101	32-3	G-15	弥生中期	670×570×25		西51	炬・135×82(52×40)	70	74	66	68	深さ40 22×34×40	前右寄り 22×34×40	無し	左から右に拡張
	241建替	-	-	-	-	-	-	-	-	-	65	59	-	深さ38 24×36×33	前右寄り 24×36×33	-	241A住の右側柱穴の建替
236	243	103	32-4	PQ-15>16	古墳後期	490×477×45	103	西35	カマド・北西壁	52	52	60	51	前中央、 深さ17	無し	全周	
237	244A	103	32-5	PQ-15>16	弥生中期	658×550×19	120	西56	炬・90×82(42×40)・ 18+×30	65	71	58	79	深さ54	49×43×23	全周	
	244A建替	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41	69	深さ53	52×45×23	-	244A住の手前柱穴の建替
238	244B	103	32-5	PQ-15>16	古墳前期	380+×370+×0		東116	炬・73×44	48	63	55	42	深さ54	右前 38×36×42	無し	244A住と重複
239	246	103	32-6	PQ-16	古墳後期	415×396×21	105	西64	カマド・西北西壁	39	無し	無し	47	無し	無し	無し	西本柱の配置だが右側がない
240	247	103	32-6	PQ-16	古墳後期	230+×358×20		西27	カマド・西北西壁	無し	53	無し	28	無し	無し	無し	四本柱の配置だが左奥と右前がない
241	248	103	32-7	P-16	古墳後期	423×373×25	113	西19	カマド・西北西壁	47	中央一本柱			深さ26	無し	全周	柱穴と出入口ピットが溝で繋がっている
242	254	104	32-8・33-1	O-17	弥生後期	482×465×51	104	西20	炬・82×44	9	14	19	18	深さ7	前壁に接しやや右寄り29×34×23	無し	貯蔵穴周辺土手状施設
243	255	104	32-8・33-1	O-17	古墳後期	477×477×22	100	西20	カマド・西北西壁	60	67	42	56	無し	無し	全周	中央右奥にピット
245	260	105	33-2	NO-16	弥生後期	372×342×21	109	西17	炬・76×46	柱穴無し				前壁から45、 深さ20	前壁に接し 36×56×11	無し	
244	261	104	33-3・4	P-18	古墳後期	483×482×15	100	西15	カマド・西北西壁	74	66	47	62	前壁に接しやや右、深さ17	無し	全周	
246	270	105	33-5～8・34-1～5	N-16>17	古墳中期 後葉	292×532×45	55	東145	カマド・南東壁	43	10	横二本柱		無し	無し	全周	補助柱穴3基、壁柱穴9基
247	271	105	34-6	M-16<17	弥生中期	570+×582×4		西3	炬・74×72(44×30)	70	80	77	79	深さ40	不明	無し	ピット多数散在、伴わない
248	273	105	34-7	LM-17	弥生中期	437×423×13	103	西23	炬縦列・	柱穴無し				不明	不明	無し	ピット9基散在、伴わない
249	274	106	35-1～4	M-17<18	古墳後期	535×507×28	106	西41	50×38・40+×36 カマド・北西壁	52	54	48	50	前壁から65、 深さ21	無し	全周	中央に柱穴深さ44、左右前隅にピット、前壁溝左壁柱穴
	274建替	-	-	-	-	-	-	-	-	51	68	48	44	-	-	-	柱穴の建替、外に拡張
250	275	107	35-5	MN-17<18	弥生後期	417×378×15	110	西3	-	柱穴無し				前壁から65、 深さ15	無し	無し	
251	276	107	35-6	N-18	古墳中期 後葉	285+×363×22		東33	カマド・北北東壁	柱穴無し				無し	域外	全周	

記載順	遺構	棟図	図版	位置	時期	主軸×直交×深 比	主軸 方位	火処	左奥 柱穴	右奥 柱穴	右前 柱穴	左前 柱穴	出入口ピット	貯蔵穴	壁溝	備考
252	277	107	35-6	MN-18	弥生後期	372×333×22	西27	炉・116×66(97×42)	柱穴無し				前壁から30、 深さ15	前壁やや右 20×27×10	無し	
253	278	108	35-7・8	M-18	弥生後期	362×328×40	西17	炉・74×38	柱穴無し				前壁から20、 深さ8	前壁寄り 38×39×10	左240・右110	ピット多数散在、伴わない
254	279	108	35-7・8	M-18	弥生後期	386×300+×40	東13	炉・102×74(84×43)	柱穴無し				前壁から50、 深さ27	前壁に接し右 32×50×14	無し	右側に貝層、ピット多数散在、 伴わない
255	280A	109	36-1	M-18	弥生中期	640+×460+×20	西64	炉・92×50	66	56	68	57	前壁に接し右寄 り55×45×24	前壁に接し右寄 り55×45×24	全周	
256	280B	109	36-1・2	M-18	弥生中期	520+×560+×15	西32	炉・88×56	59	3	58	55	深さ19	前壁に接し右 46×54×11	全周	280A住と重複
257	283	109	36-1	M-18	弥生後期	519×443×30	西53	炉・62×50	51	49	40	60	無し	前壁に接し、 わずかに右	右壁下220確認	
258	284	109	36-3~8	K-18	古墳中期 後葉	460×418×23	東56	カマド・北東壁	58	60	62	62	無し	60×33×5	全周	
259	285	109	37-2	JK-18	古墳後期	460+×456×27	西29		68	64	65	63	無し	80×75×62	全周	
260	286	109	37-3	J-18	古墳後期	532×518×27	西22	カマド・北北西壁	71	74	49	59	無し	無し	全周	
261	287	111	37-4	J-18	弥生後期	400+×410×15	東8	カマド・北北西壁	289住	289住	54	54	前壁から40、 深さ23	前壁に接し右 40×42×20	全周	
262	288	111	37-5	J-18	弥生後期	160+×200+×0	不明	炉・70×40	柱穴無し				無し	無し	無し	
263	289	111	37-4・ 38-1・2	JK- 18<19	古墳前期	600+×618×22	西26	炉・28×46 炉縦列・75×50・48×37	44	56	50	65	無し	右前隅42×34× 32・前右隅62× 58×40	全周	右前隅貯蔵穴内土器出土
264	290	112	38-3	J-19	弥生後期	312×332×43	西26	炉・82×45(66×25)	柱穴無し				無し	前右28×23×10	無し	炉右ピット1基
265	291	112	38-4	J-19	古墳後期	432×425×32	西81		41	42	43	59	不明	無し	全周	右前柱穴から間仕切り溝
266	292	112	38-4	J-19	古墳前期	540+×610×25	西6	カマド・西壁	80	76	75	82	不明	左前壁下	全周	小ピット1基
267	293	112	38-5	JK-19	弥生後期	428×330+×20	西28	炉・77×52	柱穴無し				無し	前壁中央に接す る35×54×27	無し	
268	295	113	38-6	K-19	古墳後期	350×352×16	西23	炉・94×64(66×34)	柱穴無し				無し	無し	奥全部・左160・ 前右120確認	
269	296	113	38-7	KL- 18>19	弥生後期	370×350+×23	西52	カマド・北北西壁	柱穴無し				無し	38×43×15 隅門方形	無し	
270	297	113	38-8	K-19	古墳前期	282×284×14	西22	炉・75×57(56×43)	柱穴無し				無し	無し	無し	
271	298	113	39-1	KL- 18<19	弥生後期	590×510+×25	西22	存在せず	67	53	70	63	不明	奥壁左55×65	無し	
272	299	113	39-2・3	L- 18<19	古墳後期	440×442×25	西47	炉・115×87(94×68)・ 56×40(23×24)	65	65	69	66	無し	無し	全周	
273	300	114	39-4・6	L- 18<19	弥生後期	270+×370×19	西9	カマド・北西壁	柱穴無し				無し	無し	無し	ピット1基
274	301	114	39-5・7・ 8・ 40-1・2	L-19 18<19	古墳中期 後葉	668×662×29	東67	カマド・東北東壁	53	54	61	50	張り出し部	張り出し内70× 80×35・住居内 55×75×32	全周	南壁中央140×115張り出し
275	302	114	40-3	L-19	古墳後期	190+×400×6	西37		柱穴無し				無し	無し	無し	
276	303	116	40-4	K-19	弥生後期	400×380+×13	西29	カマド・北西壁 炉・108×60(83×38)	柱穴無し				不明	右前壁下 50×45×20	無し	
277	304	116	40-5	K-19	弥生後期	480×370+×25	西34	炉・116×80(96×54)	56	46	64	攪乱	不明	前壁に接し右 45×37×16	無し	

記載順	遺構	挿図	図版	位置	時期	主軸×直交×深	縦横比	主軸方位	火処	左奥柱穴	右奥柱穴	左前柱穴	右前柱穴	出入口ピット	貯蔵穴	壁溝	備考
278	305	116	40-6	KL-19<20	古墳前期	382×383×20	100	西27	存在せず	柱穴無し	柱穴無し	柱穴無し	柱穴無し	無し	無し	無し	
279	306	116	40-3・5・7	KL-19>20	弥生後期	842×753×50	112	西17	炉・106×56	50	52	58	58	前壁から102、深さ18	前壁に接し、右40×60×16	左490・右700 検出	右壁際ピット2基、左奥ピット1基
280	307	116	40-5・7	L-20	弥生後期	370+×130+×30		西21	削平	柱穴無し	柱穴無し			不明	30×25+×20 円形	無し	大部分を306住が削平
281	308	117	40-8	K-20	弥生後期	300+×303×32		西5	炉・116×65(73×48)	柱穴無し	柱穴無し			前壁から50、深さ11外傾	前壁に接し右31×46×14	無し	
282	309	117	40-8	K-21	古墳前期	300+×324×28		西11	炉・125×72(90×46)	柱穴無し	柱穴無し			無し	右前壁際12×38×17・やや奥	無し	ピット4基
283	310	117	41-1・2	K-21	古墳前期	376×320+×17		西27		34	37	311住308住	不明	不明	不明	無し	重複で詳細不明
284	311	117	41-1~4	K-20<21	弥生後期	465×418×46	111	西38	炉・60×32 炉・102×84(73×48)	67	57	54	63	前壁から72、深さ23外傾	前壁に接し2基 連なる50×46×22・32×48×24	前128欠	
285	312	117	41-4・5	KL-21	弥生後期	377×360+×43		西40	炉・102×82(88×56)	柱穴無し	柱穴無し			前壁から50、深さ15外傾	前壁に接し右32×35×9	右160確認	
286	313	117	41-5・6	L-21	弥生後期	632×558×35	113	西30	炉・110×82+ (74×52+)	54	60	55	48	前壁から65、深さ26外傾	前壁に接し右45×36×19	無し	外に拡張
287	314	118	41-7	L-19>20	弥生後期	346×333×12	104	西12	— 炉・96×63(77×52)	38	23	27	38	—	—	—	313住柱穴の建替
288	315	118	41-7	LM-19>20	古墳前期	280×160+×9		西20	削平	柱穴無し	柱穴無し			無し	左前隅に接し30×26×21	無し	
289	316	118	41-8	M-19>20	弥生後期	426×390×15	109	西17	炉・57×47	柱穴無し	柱穴無し			前壁から55、深さ27外傾	前壁に接し、右30×32×22	無し	
290	317A	120	42-2	L-20	弥生後期	489×390×27	125	西29	炉・96×64(72×47)	75	58	54	45	前壁から60、深さ20	前右36×37×15	無し	
291	317B	120	42-2	L-20	古墳前期	300+×280+×18		西87	—	—	—	35	38	—	—	—	317A住、内側に補助柱穴か
292	318	120	42-3	LM-20<21	弥生後期	650×586×20	111	西23	炉・45×40	柱穴不明	柱穴不明			無し	前壁際32×48×18	無し	
293	319	120	42-4	M-20	弥生後期	320+×330+×20		西26	炉・138×74(84×42)	48	54	52	52	無し	無し	無し	
294	320	120	42-4	M-20	弥生後期	500+×540×17		西33	炉・94×64(62×38)	53	52	52	53	主軸上に深さ19	無し	無し	
295	321A	120	42-5	M-20>21	弥生後期	445×360+×9		西38	炉・143×75(130×52) 炉・84×53	70	62	61	63	無し	無し	無し	
296	321B	120	42-5	M-20>21	古墳前期	280+×280+×3		西117	—	51	54	65	35	—	—	—	321A住の柱穴の建替、外に拡張
298	322	121	43-2	LM-21	古墳中期 後葉	675×672×25	100	東39	炉・62×40	柱穴不明	柱穴不明			炉から120、深さ12	不明	無し	
299	323	121	43-3	LM-21	古墳後期	386×433×32	89	西34	カマド・北東壁 カマド・北西壁	60	55	11溝	63	不明	右奥隅68×82×73	全周	
										60	47	58	11溝	無し	無し	全周	

記載順	遺構	挿図	図版	位置	時期	主軸×直交×深	縦横比	主軸方位	火処	左奥柱穴	右奥柱穴	右前柱穴	左前柱穴	出入口ピット	貯蔵穴	壁溝	備考
300	324	122	43-4	M-21	古墳後期	618×607×50	102	西68	カマド・西北西壁	88	88	69	99	無し	カマド右 70×60×56	全周	
301	325	122	43-4	M-21	不明	150+×150+×15		不明	削平	柱穴無し				無し	無し	一部で確認	
304	327	124	43-5～8	M-21<22	古墳後期	533×516×30	103	西26	カマド・西北西壁	41				無し	カマド右脇 58×40×25	全周	遺構中央に柱穴一本
302	328	122	43-5・6	M-21>22	弥生後期	950+×570+×25		西5	炉・100×58	75	73	58	63	無し	右前44×62× 108・52×58× 60	全周	
303	330	122	44-1	M-21>22	弥生後期	380+×390+×22		西26	炉・85×48	60	75	61	53	無し	無し	無し	
307	331	125	44-2・3	LM-22	古墳前期	600+×628×15		西17	炉縦列・ 93+×48・50×36 炉・78×46	46	39	69	55	深さ28	前壁に接し 66×82×20	左前・右奥確認	
308	332	125	44-2・3	M-22	弥生後期	345+×190+×10		西42		柱穴無し				無し	前右 50×60×15	右で一部確認	
309	334	125	44-4	L-22	弥生後期	616×557×21	111	西29	炉・64×43	63	64	73	72	前壁から80、 深さ66	無し	無し	
140	335	65	44-5	KL-22	弥生後期	500×443×31	113	西6	炉・94×57	柱穴無し				無し	前右 34×44×29	無し	
305	336	124	43-6・ 44-4	M-21	弥生後期	580+×300+×12		西55	炉・54×30+	76	域外	域外	59	不明	不明	無し	
310	337	126	44-6・7	M-22	弥生後期	525×250+×32		西40	炉・110×25+	83	域外	域外	80	不明	不明	無し	
311	338	126	44-6	M-22>23	古墳前期	540+×320+×20		西25	域外	57	域外	域外	46	不明	不明	左のみ	
312	340	127	44-8	K-22<23	古墳前期	300+×250+×6		西28	炉・83×48	不明				無し	無し	無し	
313	341	127	44-8	KL-22>23	古墳後期	372×389×17	96	西27	カマド・北北西壁	29	46	攪乱	36	無し	無し	全周	
153	342	70	21-8	L-23	古墳後期	200+×200+×19		西41	カマド・北西壁	柱穴無し				無し	無し	遺構覆土中に造られ詳細不明	
314	343	127	44-4	L-23	弥生後期	350+×320+×0		西37	炉・56×52	48	攪乱	74	56	不明	不明	不明	
297	344	120	42-3	LM-20>21	古墳前期	376×358×30	105	西19	炉・100×85+ (75×52)	柱穴無し				前右30×32× 24・右前隅46× 42×36	奥左などで切れ る	左前ピット1基	
315	345	127	44-8	L-23	弥生後期	370+×340+×20		西38	炉・50+×40	柱穴無し				深さ28	不明	無し	
316	346	127	44-4	L-22<23	弥生後期	300+×300+×8		西52	炉・20+×40	柱穴無し				無し	無し	無し	
306	347	124	52-6	N-21	弥生後期	?×?×0		不明	炉・80×60	柱穴不明				不明	不明	不明	
317	348	127	44-4	L-23	弥生後期	?×?×0		不明	炉・95+×45+	柱穴不明				不明	不明	不明	

表中の数字の単位はcm

表23 カマド一覽表

遺構	掘削	奥行×幅×高	煙道幅×長さ	煙道形態	煙間	基礎の幅込み	支脚	火床	袖付根・袖長×幅	カマド構築	カマド内庫積
001	128	130×105×26	15×0	不出	36	奥から60、49×58楕円形。深さ9	無し	掘り込み奥、壁から65から26×20焼ける	直線115×32/130×38	掘込みから奥壁まで黒褐色土を斜めに積みその上にカマド構築。右袖倒立壁で補強	焼土・灰の多量に混じる黒褐色土で下を埋める・上に焼土
002	128	80×88×46	30×30	U字形	34	煙道から105×68のひょうたん形。深さ14	奥から22土製支脚、下部粘土	土製支脚間と思われが掘りすぎで不明	直線72×28/68×27	掘込みの縁に硬質黒色土を置きその上にカマド構築。煙道下に粘土を貼る	焼土炭化物粘土混・炭化物・焼粘土・天井の順に堆積
004	128	95×103×48	30×35	台形	40	90×40壁外に張り出す。全体で128×92楕円形。深さ16	無し	壁から8から、52×43焼ける	壁×30長方形に掘り込む、88×28/71×23	掘込みを黒褐色土ではぼり埋め戻しその上にカマド構築。天井は左側が多く残る	焼土・焼土粒混・焼土・灰多量・焼土多量・炭化物・天井の順に堆積
006						007号住居跡に削平され実測せず					
007	128	48×93×20	40×20	三角形、奥壁傾乱	47	73×80不整楕円形。深さ20	無し	掘り込みの前半分を掘りすぎて不明	直線47×20/38×23	掘込みを13ほど埋め戻しその上にカマド構築。天井は焼土上まで落ちる	炭化物・焼土・天井の順に堆積
009	128	110×83×20	42×20	台形	52	100×80楕円形。2段に掘り込む。深さ15	無し	掘込み下段を埋め46×51焼ける	左10ローム掘戻す91×24/93×28	壁溝を掘らず、袖の取り付け部分を残す。掘込みを埋め戻し上にカマド構築。天井前にやや崩れる。煙道下に粘土を厚く貼る	
010	128	65×80×16	24×25	U字形	40	52×51の円形。深さ11	奥から20左寄り土製支脚、倒れている	土製支脚前縁22焼ける	右5突出50×22/57×20	壁溝を掘らず右袖取り付け部を若干残す。掘込みを埋め戻し上にカマド構築。天井はほとんど残らない	
011						1号墳に削平され実測せず					
012	129	35×87×31	20×20	台形	48	50×150を25二段に掘り下げ埋め戻す。深さ9	無し	壁から6から48×36焼ける	左10斜めに壁を掘る50×20/46×18	壁溝115掘り残す。ロームブロック主体で埋め戻し上に粘土で袖を造る。煙道奥下に粘土を貼る。天井はほとんど残らない	焼土・炭化物・焼土・ローム焼土多量・灰・焼土の順に堆積
015	129	78×65×13	26×20	U字形	32	66×75+不整形に26下げロームブロック廻りの暗黄褐色土で半分埋め戻す	無し	壁から10から28×42焼ける	直線53×22/90×15	右袖を縦乱される。埋め戻しの上に粘土で袖を造る。天井は火床の上に落下している	
016	129	70×65×13	22×25	U字形	42	煙道と一体に70×43下げける。深さ7	無し	残らない	黒色土残る67×9/66×15	カマド下で壁溝73掘り残す。掘込みの縁に硬質黒色土を置き上にカマド構築。煙道下に粘土を貼る。天井は残らない	暗褐色・焼土多量・焼土紺・粘土多量の順に堆積
017											
018	129	65×105×9	36×30	三角形	40	15掘り下げ奥を斜めに埋め戻す。深さ6	無し	壁から21から17×12焼ける	黒色土残る66×21/43×25	奥から袖の粘土堆れる。奥にピット中に粘土	焼土多量・灰・焼土・粘土粒炭化物混の順に堆積
019											
021											
022	129	65×84×28	25×80	溝状	43	壁溝から縁け70×70を15掘り下げ半分埋め戻す	奥から10、高坏倒立	埋め戻しの上、中央部が焼ける	左18・右5斜めに粘土が壁外に張り出す47×17/66×24	埋め戻しの縁に黒色土を置き上に粘土で袖を造る。天井は火床の上と前に崩れる。左袖先端で補強	焼土・粘土・褐色土・天井の順に堆積
025	129	95×95×21	22×?	掘乱	52	奥から50、60×45。深さ5	奥から35やや右寄り、直径12・高さ6粘土塊残る	掘りすぎで不明	両袖付根壁から堆れ、黒色土残る87×20/90×23	壁溝カマド下で食い違う。薄く黒褐色土を敷いた上にカマドを造る。天井は残らない	支脚基部粘土・粘土炭化物混・焼土・の順に堆積
026	130	55×70×26	34×15	半円形	40	56×40楕円形に掘り込む。深さ2	無し	52×50の範囲に張、その下が焼ける	直線55×13/53×17	黒褐色土を薄く敷き土台にする。煙道上下粘土を貼る。天井下に落ちる	炭化物・焼土の順に堆積
027											
028	130	90×97×22	?×?	2溝で掘乱	?	一度掘り埋めた後、床と同じレベルまで埋める	無し	残らない	奥を削平される20+×25/60+×30	奥を2号溝で削平される。斜めに暗褐色土を置き上を固め小石の混じる粘土を外に灰・灰の混じる粘土を敷せる	炭化物・焼土の順に堆積
030	130	70×98×38	32×20	半円形	44	煙道の傾斜に合わせ89×87不整形。奥埋め戻す。深さ12	無し	残らない	右10掘り残す64×20/70×40	左奥039号住居土中に構築。カマド下壁溝掘り残す。天井右側で厚く残る。煙道下粘土厚く貼る	前炭化物・奥灰・炭化物・焼土の順に堆積
033	130	80×88×34	?×?	奥34住で掘乱	34	60×40浅く掘り埋め戻す。深さ5	無し	残らない	奥を035住に削平される50+×25/75+25	奥を034号住居跡に削平される。床に直に粘土を置く。天井残らない	焼土混・灰混の順に堆積
034	130	45×102×33	32×30	U字形	52	45×80楕円形に煙道から一体に掘り下げける。深さ15	無し	左袖縁煙道近くが焼ける	左壁外に6・右2張り出す50×35/50×20	暗褐色土で土台を造り袖を構築する。天井は左側にわずかに残る。煙道上下に粘土を貼る	焼土・焼土多量・炭化物・焼土・灰混の順に堆積

遺構	植図	奥行×幅×高	煙道幅×長さ	煙道形態	煙道	基礎の掘込み	支脚	火 床	袖付根・袖長×幅	カマド構築	カマド内堆積
035	130	75×83×33	26×20	台形	40	煙道から逆さし112×55楕円形に掘る。深さ4。粘土の下にピット、深さ21、奥から45粘土を敷く。厚さ5の2つ、深さ12	無し	壁から35から40×30の範囲焼ける	左右3粘土壁外に張り出す。壁際で幅広くなる79×30/80×32	貼り床の上に構築。袖は残りがよい。天井残らない	焼土混粘土・炭灰化物・炭灰物多量炭灰土混・前炭化物・焼土の順に堆積
038	130	80×128×45	32×35	U字形	50	38×51楕円形、60×43楕円形の2つ、深さ12	無し	不明	直線61×30/49×43	右側掘乱される。カマド下で71壁溝を掘り残す。煙道から斜めに埋め戻す。煙道奥粘土若干残る。天井厚く残る	灰多量炭灰物・灰・焼土ブロック混・炭・焼土の順に堆積
042		調査区域外で実測せず									
043		調査区域外で実測せず									
045	130	64×92×27	34×20	U字形	44	煙道から一体に82×70楕円形に掘り下げる。深さ15	奥から15転倒、土製支脚、無位置に近い	不明	左16・右10台形に壁を掘り込む68×22/57×21	粘土ブロックを筋力所に置き間を粘土混じりの土で埋め袖にする。天井は焼土の上に落下していている。煙道縁に粘土を貼る	奥灰・全面焼土・前炭化物・天井の順に堆積
046	131	70×88×32	32×85	溝状	48	67130掘込み支脚基礎を置いて埋め戻す。深さ18	奥から10左寄り、奥の下半分は粘土を入れて固定、奥の下まで埋め戻す	不明	右5壁を斜めに掘り込む55×22/57×25	掘込みを埋め戻した上にカマドを構築。粘土は周囲に広がっているが天井は残らない。煙道下はほぼ全面に粘土を貼る	炭灰物・炭灰物焼土・焼土灰の順に堆積
047	131	95×90×31	40×0	不出	52	床面をそのまま使う。4窪む	奥から40やや左寄り、土製支脚、粘土柱の上に高坏脚部を設けカマド内で焼き固める	土製支脚の前23×43の範囲焼ける	黒色土残る96×18/81×12	壁溝を黒褐色土で埋め土台を造り上に袖を構築。天井はやや落下する。袖は奥壁上端より低く終っている	炭灰物・天井崩落土の順に堆積
050	131	84×45×28	??×?	掘乱	?	範囲不明、深さ11	奥から40やや左寄り、灰混硬質粘土径25	不明	051住土中に一部構築不明85×20/掘乱	右半分を大きく掘乱される。袖、天井とも残りはよい	焼土粘土混暗褐色土・灰混炭灰物・焼土・天井の順に堆積
053	131	48×108×30	26×40	U字形	44	70×54ひょうたん形に掘る。奥から12粘土の基部の深さ10	奥から12粘土の基部のみ、粘土ブロック、上が焼ける	不明	左中心・右外黒色土48×48/60×29	左袖付け粗一部ローンを掘り残す。天井間に落ちちわずかに残る。煙道奥下粘土を貼る	支脚前炭灰物・焼土・奥灰・焼土・全面炭灰物・焼土の順に堆積
057		調査区域外で実測せず									
060	131	86×84×57	20×34	U字形	42	奥から33、55×52掘り建める。深さ7	無し	不明	左2・右7斜めに壁を掘り込む88×24/86×18	カマド下で壁溝を98掘り残す。粘土混じりの黒褐色土で土台を造りカマドを構築する。天井は前に崩れこくわずに残る。煙道下粘土を貼る	灰多量・部分的に焼土・灰粘土混・天井の順に堆積
066		調査区域外で実測せず									
068A		建て替えて破壊され実測せず									
068E	131	74×87×25	40×45	半円形	40	右壁溝から掘き下がる。深さ5	無し	不明	直線60×25/72×24	貼り床の上に袖を構築する。天井は外に流れていている	炭灰物・焼土多量・粘土多量・焼土多量の順に堆積
072A		建て替えて破壊され実測せず									
072B	132	103×117×45	52×38	三角形	52	旧カマド壁溝などを掘り埋め戻す。深さ13	カマド外で2点出土	不明	左20・右18斜めに掘り込む95×35/78×28	左袖を床面に直、右袖を貼り床土上に構築する。右袖側上部に掘乱がある。天井は前に流れていている。煙道下に粘土を貼る	下層に焼土・焼粘土多いが焼けていない
073	132	51×74×11	20×15	U字形	36	壁から28×42掘り下げ埋める。深さ9	無し	不明	直線35×19/51×14	壁溝を掘り残り袖を構築する。天井は残らない	焼土粘泥・炭灰物混・粘土混の順に堆積
074		残存状態が悪く実測せず									
075		残存状態が悪く実測せず									
076	132	92×108×15	??×??	77住で不明	23	掘り込みは無い	奥から17、粘土の混じる炭灰物の上に高坏坏部倒置	支脚の高杯の下から前にかけて径40の範囲焼ける	不明60×30/65×35	支脚として使用している高杯と袖が焼出されたが詳細は不明瞭である	炭灰物・焼土・粘土の順に堆積
079	132	60×116×8	40×16	半円形	70	左壁溝から44×88、20掘り下げ埋め戻す。深さ9	無し	不明	直線79×38/65×16	床面に直に粘土を置き袖を構築し、天井も床面まで落ちている	奥灰・炭灰物・粘土・前焼土の順に堆積
081	132	74×77×19	20×0	不出	35	浅く窪む。深さ6	奥から30やや左寄り、土製支脚、貼り床土に粘土柱を置きカマド内で焼き固める	不明	直線72×20/58×15	左袖はピット上に、右袖は床面に直に粘土を置く	支脚周辺焼土・炭灰物の順に堆積

遺構	棟図	奥行×幅×高	煙通幅×長さ	煙道形態・袖間	基礎の幅込み	支脚	火床	袖付根・袖長×幅	細り込みの縁に柱を置き袖を構築する。袖はよく残り、天井は下に落ちているが粘土は多く残る	カマド構築	カマド内堆積
085	132	105×98×38	24×40	U字型	33	楕円形に下げる。深さ8	楕円形に下げる。深さ8	楕円形に下げる。深さ8	楕円形に下げる。深さ8	楕円形に下げる。深さ8	楕円形に下げる。深さ8
091	132	70×93×10	46×25	弧状	46	壁道の幅り広げから浅く掘る。深さ3	壁道の幅り広げから浅く掘る。深さ3	壁道の幅り広げから浅く掘る。深さ3	壁道の幅り広げから浅く掘る。深さ3	壁道の幅り広げから浅く掘る。深さ3	壁道の幅り広げから浅く掘る。深さ3
085						残存状態が悪く実測せず					
097	133	82×118×25	30×25	台形	66	楕円形に下げる埋め戻す。深さ13	楕円形に下げる埋め戻す。深さ13	楕円形に下げる埋め戻す。深さ13	楕円形に下げる埋め戻す。深さ13	楕円形に下げる埋め戻す。深さ13	楕円形に下げる埋め戻す。深さ13
098	133	52×105×16	42×18	半円形	47	凹凸に掘り埋め埋め戻す。深さ10	凹凸に掘り埋め埋め戻す。深さ10	凹凸に掘り埋め埋め戻す。深さ10	凹凸に掘り埋め埋め戻す。深さ10	凹凸に掘り埋め埋め戻す。深さ10	凹凸に掘り埋め埋め戻す。深さ10
100	133	83×106×27	74×18	弧状	47	わずかに窪む。深さ6	わずかに窪む。深さ6	わずかに窪む。深さ6	わずかに窪む。深さ6	わずかに窪む。深さ6	わずかに窪む。深さ6
101	133	100×95×28	38×18	U字形	43	壁から離れた楕円。深さ4	壁から離れた楕円。深さ4	壁から離れた楕円。深さ4	壁から離れた楕円。深さ4	壁から離れた楕円。深さ4	壁から離れた楕円。深さ4
102	133	65×105×39	70×20×20×20	楕状・U字形	38	煙道下から楕円。深さ9	煙道下から楕円。深さ9	煙道下から楕円。深さ9	煙道下から楕円。深さ9	煙道下から楕円。深さ9	煙道下から楕円。深さ9
103	133	65×113×32	40×15×30×20	楕状・U字形	54	煙道下部から楕円。深さ11	煙道下部から楕円。深さ11	煙道下部から楕円。深さ11	煙道下部から楕円。深さ11	煙道下部から楕円。深さ11	煙道下部から楕円。深さ11
104	134	35×74×28	？×44	不整形	24	楕円形に下げる埋め戻す。深さ10	楕円形に下げる埋め戻す。深さ10	楕円形に下げる埋め戻す。深さ10	楕円形に下げる埋め戻す。深さ10	楕円形に下げる埋め戻す。深さ10	楕円形に下げる埋め戻す。深さ10
106	134	69×75×28	28×0	不出	30	袖の下まで掘り埋め埋め戻す。深さ5	袖の下まで掘り埋め埋め戻す。深さ5	袖の下まで掘り埋め埋め戻す。深さ5	袖の下まで掘り埋め埋め戻す。深さ5	袖の下まで掘り埋め埋め戻す。深さ5	袖の下まで掘り埋め埋め戻す。深さ5
107	134	39×75×5	24×20	U字形	42	浅い楕円。深さ5	浅い楕円。深さ5	浅い楕円。深さ5	浅い楕円。深さ5	浅い楕円。深さ5	浅い楕円。深さ5
110	134	82×82×23	28×0	不出	40	支脚基部の下の粘土を置いてから黒褐色土を敷く。深さ6	支脚基部の下の粘土を置いてから黒褐色土を敷く。深さ6	支脚基部の下の粘土を置いてから黒褐色土を敷く。深さ6	支脚基部の下の粘土を置いてから黒褐色土を敷く。深さ6	支脚基部の下の粘土を置いてから黒褐色土を敷く。深さ6	支脚基部の下の粘土を置いてから黒褐色土を敷く。深さ6
112	134	75×101×49	32×35	三角形	62	楕円形に下げる埋め戻す。深さ6	楕円形に下げる埋め戻す。深さ6	楕円形に下げる埋め戻す。深さ6	楕円形に下げる埋め戻す。深さ6	楕円形に下げる埋め戻す。深さ6	楕円形に下げる埋め戻す。深さ6
115	134	98×107×16	30×10	半円形	63	深さ8	深さ8	深さ8	深さ8	深さ8	深さ8
116	134	62×96×37	30×20	弧状	56	煙道と一体に下げる・粘土を敷く。深さ11	煙道と一体に下げる・粘土を敷く。深さ11	煙道と一体に下げる・粘土を敷く。深さ11	煙道と一体に下げる・粘土を敷く。深さ11	煙道と一体に下げる・粘土を敷く。深さ11	煙道と一体に下げる・粘土を敷く。深さ11
122	135	95×84×46	20×30	半円形	42	煙道二役目と一体埋め戻さない。深さ9	煙道二役目と一体埋め戻さない。深さ9	煙道二役目と一体埋め戻さない。深さ9	煙道二役目と一体埋め戻さない。深さ9	煙道二役目と一体埋め戻さない。深さ9	煙道二役目と一体埋め戻さない。深さ9
123	135	55×79×25	26×14	半円形	40	煙道と一体に浅く窪める。深さ6	煙道と一体に浅く窪める。深さ6	煙道と一体に浅く窪める。深さ6	煙道と一体に浅く窪める。深さ6	煙道と一体に浅く窪める。深さ6	煙道と一体に浅く窪める。深さ6
125	135	73×96×36	24×50	弧状	46	煙道手前から浅く掘り窪める。深さ8	煙道手前から浅く掘り窪める。深さ8	煙道手前から浅く掘り窪める。深さ8	煙道手前から浅く掘り窪める。深さ8	煙道手前から浅く掘り窪める。深さ8	煙道手前から浅く掘り窪める。深さ8
128	135	110×104×42	18×15	半円形	62	壁溝から浅く掘り窪める。深さ13	壁溝から浅く掘り窪める。深さ13	壁溝から浅く掘り窪める。深さ13	壁溝から浅く掘り窪める。深さ13	壁溝から浅く掘り窪める。深さ13	壁溝から浅く掘り窪める。深さ13
131	135	70×97×26	44×30	U字形	54	煙道と一体に浅く窪める。深さ6	煙道と一体に浅く窪める。深さ6	煙道と一体に浅く窪める。深さ6	煙道と一体に浅く窪める。深さ6	煙道と一体に浅く窪める。深さ6	煙道と一体に浅く窪める。深さ6

通称	掘削	坑内×幅×高	掘削幅×長さ	掘削形状	掘削	基礎の掘込み	支脚	火 床	袖付根・袖長×幅	カマド構築	カマド内堆積
139	135	50×86×17	32×33	凸字形	46	壁溝と共に埋める。深さ9	無し	不明	直線50×16/52×12	両袖高さが低く、天井は上に残る	炭化物・焼土多量・焼土粘土混天井の順に堆積
140	136	54×85×46	25×30	方形	52	煙道底から一体に浅く下げる。深さ5	頭から27天井の粘土より上、土製支脚	不明	直線58×37/49×25	両袖・天井はほぼ一体に残る	全面炭化物・灰焼土炭化物混・天井の順に堆積
144	136	70×90×26	30×50	U字形	48	浅く埋める。深さ1	無し	不明	奥行き25の台形に掘り込んだ後左右斜めに13°掘り込む	壁外に突出して本体を造る。天井の粘土は少な	炭化物・焼土・灰焼土混・天井の順に堆積
145	136	85×85×35	26×10	半円形	34	大きく掘込み埋め戻す。深さ8	奥から23左袖に付く、高土製支脚右前20×20の範囲焼ける	土製支脚右前20×20の範囲焼ける	黒色土残る	天井は下に落ちて厚く残る	支脚周囲から炭炭化物・前焼土の順に堆積
149	136	83×83×28	26×30	U字形	34	壁溝前浅く掘り埋める。深さ9	壊れた部設置無し	奥から33から32×22の範囲焼ける	直線75×25/83×22	天井は落ちて残る。煙道下から置くにかけて粘土を厚く敷く	火床炭炭化物・焼土・天井の順に堆積
158		112号住に大部分を削平され残部せず						不明			
163	136	68×120×20	26×130	溝状	68	浅く埋める。深さ10	無し	不明	カマド本体壁から25台形に掘り込む	天井厚く残る。煙道手前下に粘土を敷く。煙道内は焼土が充填している	灰焼土炭化物多量焼土・真焼土・暗褐色土・焼土・天井の順に堆積
165	136	100×90×32	30×30	U字形	30	カマドの幅で125掘り埋める。壁溝も削平。深さ7	奥から45左寄り、左袖に接し15×13・高さ3粘土塊、上に炭	不明	左右斜めに15壁を掘り込む	166号住居跡上に造られ、煙道先端など詳細は不明。天井の粘土は残らない	炭化物・焼土・灰・粘土混の順に堆積
172	136	84×113×19	??×?	奥区域外	50	浅く窪む。深さ4	奥から33中央、土製支脚、支えの粘土なし	不明	直線83×27/64×36	右袖から奥を掘られ。天井の粘土は残らない	焼土粒多量・焼土灰多量・右袖脇焼土の順に堆積
177		掘削で大部分を失い、実測せず									
182	137	83×76×35	18×10	弧状	40	浅く掘り全体に薄く埋め戻す。深さ2	奥から35中央、土製支脚の上に高坪が覗いていたものが奥に動く	奥から58掘り込みの緑色土35×36の範囲焼ける	直線82×19/80×20	181号住居跡上に煙道が造られる。天井はよく残る	全面炭化物・天井の順に堆積
184	137	75×79×15	32×0	不出	42	奥からの埋め土の上に支脚基部を置く。深さ4	奥から28左寄り、土製支脚基部残る、下に16×20・高さ5の粘土を敷く	土製支脚右前33×27の範囲焼ける	両袖付根壁から離れ、黒色土残る	上部を削平され支脚上部、天井は残らない	支脚周囲灰・黒褐色土・粘土灰混の順に堆積
186	137	86×90×28	18×18	U字形	38	奥から37・40×52。深さ5	奥から23左寄り、土製支脚、埋め戻しの土の上に設置	土製支脚前の掘り込み48×50の範囲焼ける	直線84×12/85×21	両袖付け根は壁に横穴を掘り粘土を埋める。天井は奥に残る	支脚前焼土・炭炭化物の順に堆積
189	137	90×120×31	14×10	半円形	50	33×55×13粘土で埋める。深さ18	無し	不明	左10斜めに壁を掘り込む	奥を5号方形周溝墓上に造る。下に厚く粘土を敷く	軟質粘土・灰多量硬質・炭化物・灰粘土焼土混・天井の順に堆積
190	137	70×102×34	38×45	三角形	42	浅い掘込み多い、上に貼り床。深さ5	奥から20・2基並列・間隔10、土製支脚・貼り床上に粘土柱を置きカマド内で焼き固める	2基並んだ土製支脚の前面46×54の範囲焼ける	82°×32/80×22	黒褐色土上にブロック状の粘土を置いて造る。天井は袖と一体に残る	支脚前焼土・炭炭化物の順に堆積
192	137	60×117×41	36×12	台形	50	なし。深さ3	無し	不明	右壁を5斜めに掘り込む	193号住居跡カマドに設置され両袖のみ残る	193号で手前が不明
193A	137	88×100×41	26×60	溝状	42	不明。深さ16	無し	不明	左23・右20壁を斜めに掘り込む	天井、煙道ともに粘土が厚く残る	
198B	137	88×?×30	30×30	半円形	?	楕円形に下げる。深さ16	無し	不明	左23・右20壁を斜めに掘り込む	天井粘土残る。煙道下に粘土を貼る	炭化物・灰・焼土・天井の順に堆積
194	137	88×78×29	16×10	三角形	40	煙道下部から楕円。深さ8	奥から33左寄り、粘土柱をビットに固定しカマド内で焼き固める	土製支脚の右前30×25の範囲焼ける	直線80×23/87×24	天井粘土残る。煙道下に粘土を貼る	支脚手前灰と炭炭化物・袖下炭炭化物・真焼土・粘土多量の順に堆積
195	138	40×100×14	6×15	半円形	50	煙道下部から楕円。深さ4	無し	掘り込みの深い部分35の範囲焼ける	直線39×20/40×25	天井粘土は残らない	
196	138	127×98×22	12×?	不出	42	わずかに窪む。深さ6	奥から67左寄り、32×17・高さ13の粘土塊上に灰を敷せる	土製支脚前がわずかに焼ける	直線125×27/107×28	天井の粘土は残らない	支脚前灰・上から真焼土

遺構	断面図	奥行×幅×高	煙道幅×長さ	煙道形態	補間	基礎の掘込み	支脚	火床	袖付根・袖柱×幅	カマド構築	カマド内堆積
216	138	67×93×27	18×6	弧状	37	特に掘り溜めていない。深さ2 特に掘り溜めていない。深さ2	奥から25、やや左、床に 直に粘土塊、筒状脚部を 上に載せる	残らない	粘土が左13・右7斜め に50×24/65×17	217号住居跡上に遭られ煙道は不明瞭。天井粘土 は残る	全面に炭化物・焼土灰・焼土の順に堆積
218	138	89×89×33	38×0	不出	46	貼り床をわずかに削る。深さ2	奥から30左寄り、焼粘土 16×18高さ9左袖に接す る、上に置	残らない	黒色土残る 85×22/87×21	壁溝を掘り残す。天井粘土は残らない	支脚周囲炭化物・焼土灰多量・右袖腐焼 土・灰の順に堆積
238A	138	90×115×31	43×22	台形	42	煙道と共に隅丸方形に掘り窪 める。深さ8	カマド外で4点出土	奥から20から20×36の 範囲残ける	右煙道奥まで18階土が 張り出す 80×23/83×27	右袖奥を視乱される。天井は下に落ちて残る 上に炭化物	両袖隔下から奥焼土・天井の附れた粘土の 上に炭化物
238B	138	42×70×41	20×45	台形	28	上下に粘土を貼る。焼土・ 灰・木炭。深さ14	無し	不明	左35・右45斜めに壁に 段を残し掘り込む 40+×20/54×20	両袖を壁外に延ばし天井と一体に造る。煙道下 に粘土を厚く敷く	焼土灰炭化物・奥炭化物・粘土ブロック混 天井の順に堆積
243	138	70×105×45	42×25	半円形	48	煙道から一体。深さ4	奥から20左寄りに、粘 土柱に筒状脚部を載せカ マド内で焼く	土製支脚右前48×37の 範囲残ける	左9・右12斜めに壁を 掘り込む 72×27/80×30	奥を244号住居跡上に造る。天井は下がるが粘土 はよく残る。煙道奥に粘土を貼る	炭化物・灰・焼土・焼土灰多量天井の順に 堆積
246		247号住居跡に削平され未調査									
247	139	63×110×21	38×20	半円形	46	奥から45、37×65現カマドよ り古いカマドの基礎部。深さ 12	奥から18右寄り、壁の下 半分に粘土の多い土を入 れて固定	土製支脚の左前30×27 の範囲残ける	東黒色土 55×24/62×26	壁溝は残る。天井の粘土は中央にわずかに残る	全面に焼土・灰多量・炭化物・粘土の順に 堆積
248	139	65×90×20	42×25	半円形	47	煙道から一体の楕円形・支脚 基礎のロームブロックを置い た後埋め戻す。深さ9	奥から18中央、ソフトロ ームの選じった粘土プロ ック径17	土製支脚の基礎の前径 27の範囲残ける	直線64×18/61×23	一部視乱されるが天井はよく残る。煙道に粘土 を敷く	支脚前焼土灰・炭化物・焼土ブロック多量 の順に堆積
255	139	80×112×13	36×22	台形	53	煙道から一体に掘り下げる。 深さ7	無し	奥から30から34×22の 範囲残ける	左14・右18斜めに壁を 掘り込む 64×30/50×27	天井の粘土はよく残る	全面炭化物・焼土・焼土灰・天井の順に堆 積
261	139	90×101×14	30×30	U字形	52	浅く掘り溜める。深さ10	奥から5・粘土ブロック 径16高さ5	奥から38の右袖寄り 20×28の範囲残ける	左7・右9斜めに壁を 掘り込む 90×29/73×26	天井はほとんど残らない	焼土・炭化物・灰・焼土の順に堆積
270	139	53×101×45	30×76	溝状	42	右袖際粘土・後は黒褐色土で 埋める。上に支脚。深さ8	奥から14中央、妻側立し て設置、焼土で固定、内 部上半分空洞	支脚前32×48の範囲焼 ける	天井は煙道部でよく残る。本体部は支脚周囲に 落ちてわずかに残る	支脚周囲焼土・上焼土と灰・煙道部焼土	
274A	139	85×84×0	？×？	不明	？	深さ11	無し	掘り込み中央部 26+×40が焼ける	火床と袖の一部を残し 削平される	火床と両袖の先端を残し新しいカマドに削平さ れる	焼土・炭化物残る
274B	139	85×120×25	45×35	弧状	54	古いカマドの火床を削平する。 深さ20	無し	不明	左15・右21斜めに壁を 掘り込む 73×35/50×32	左袖側を除き天井は厚く残る	灰焼土炭化物粘土粒・焼土・焼土粘土粒多 量・炭化物灰混・天井の順に堆積
284	139	90×100×23	32×15	弧状	36	浅く掘り溜める。深さ5	奥から30高床代用支脚、 高床側立して設置、下に 粘土	残らない	左右斜めに4掘り込む 84×28/93×30	壁溝が残る。天井は下に落ちて残る。煙道奥に 粘土を敷く	全面に炭化物・支脚左焼土
285		286号住居跡に削平され未調査									
286	140	62×105×23	26×50	長方形	50	煙道から一体に掘り下げる。 深さ10	無し	奥から35から27×17の 範囲残ける	左13・右18斜めに壁を 掘り込む 59×31/61×21	煙道は290号住居跡上に造る。天井は薄く残る。 煙道に粘土を敷く	火床・炭化物小・焼土焼粘土灰・焼土灰炭 化物・天井の順に堆積
291	140	80×98×30	30×17	半円形	46	浅い。深さ2	奥から15左、粘土柱を固 定してカマド内で焼き固 める	土製支脚前35×30の範 囲残ける	左3・右7粘土斜めに 壁外に張り出す 65×22/81×26	煙道を290号住居跡上に造る。天井は支脚上まで 落ちる	焼粘土混暗褐色土・灰混炭化物・焼土多・ 天井の順に堆積
295	140	70×90×15	44×52	U字形	44	煙道と同じ幅で一段下げる。 深さ10	無し	掘込みの中央部30×26 の範囲残ける	直線66×28/67×26	煙道先端に新しいピットがある。天井は右袖を 除き残る	火床・前炭化物・粘土焼土灰・天井の順に 堆積
299	140	50×96×25	45×20	弧状	42	浅く掘り溜める。深さ4	無し	不明	室外に20階内に粘土張 り出す46×30/53×25	奥を298号住居跡上に造り煙道先端は不明。両袖 内側と奥に連の破片を貼る	奥炭化物・灰焼土混・粘土ブロック灰・灰 焼土微粒・天井の順に堆積

遺構	緯度	奥行×幅×高	煙道断面×長さ	煙道形態	袖間	基礎の掘込み	支脚	火床	袖付根・袖長×幅	カマド構築	カマド内堆積
301	140	125×90×27	28×0	不出	30	奥から54、53×58、7掘り埋め戻す。深さ2	奥から61中央、下に粘土あり、土製支脚下を粘土で固定	土製支脚前25×20の範囲焼ける	直線112×28/121×27	天井は奥はほぼ元位置、手前は支脚の下まで落ちて残る	支脚前焼土・全面に灰・焼土の順に堆積
302	140	58×89×6	22×23	U字型	44	深く掘り中央にビット・埋め戻す。深さ11	無し	不明	直線50×19/58×22	煙道に至る部分にわずかに粘土を貼る。天井は右側にわずかに残る	焼土粘土混・灰焼土混・焼土ブロック多量の順に堆積
322	141	90×41×12	？×？	不出	？	奥から55.45×25+、掘り溜める。深さ12	無し	掘り込み手前の深い部分37×23+の範囲焼ける	直線86×22/323住に側平	右を323号住居跡に削平される。天井は左袖から焼けたローム・焼土・灰混の順に堆積	
323	141	95×123×21	34×30	台形	42	壁溝と共に埋める。深さ6	カマド外で1点出土	奥から35の径25の範囲焼ける	直線95×47/76×35	火床下に底部欠損の垂を埋める。天井は下に落ちて残る	灰床奥焼土。前炭化物・焼粘土・天井の順に堆積
324	141	104×95+×37	24×30	台形	50	壁下から竈門・埋め戻して粘土を貼る。深さ7	奥から61やや左寄り、粘土柱を固定してカマド内で焼き固める	不明	直線102×40/不明	右袖を粗乱される。煙道掘り込みは半円形だが下に粘土を貼り方形にしている。天井は厚く残る	硬質粘土・支脚・奥炭化物・焼土・天井の順に堆積
327	141	68×80×30	22×30	台形	42	煙道と一体に浅く溜める。深さ5	煙道直前、粘土ブロック径10高さ3	奥から23の右袖寄りの28×30の範囲焼ける	左7・右10センチ斜めに壁を掘り込む65×43/47×44	天井は奥に一部残る	灰床奥炭化物・焼土・粘土多量の順に堆積
341	141	69×118×10	24×50	長方形	30	袖の取り付け部を含め掘り溜める。深さ9	無し	奥から23で28×30と70で20×35の範囲焼ける	左12・右11台形に壁を掘り込む50×43/47×44	全体に削平されているが天井の粘土は全面に残る	焼土・灰混・炭化物・焼粘土・天井の順に堆積
342	141	69×100×18	38×20	弧状	40	浅く埋める。深さ3	奥から28、土製支脚基部、側立、右奥に坏	土製支脚前径18の範囲焼ける	不明67×26/55×32	天井の粘土は比較的残る。煙道に粘土を敷く。砂質暗灰色土・前炭化物・焼土・焼粘土・右袖上から右に粘土を貼り更く叩きつけている	砂質暗灰色土・前炭化物・焼土・焼粘土・天井の順に堆積

表24 住居跡出土土器観察表

番号	押図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・脚径・端底・厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
001-1	9	6001	坏	口縁一部欠、底部欠	48+ :136 : : :143 : : : 5<6	口縁輪ナデ、下横へラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	砂粒目立たず、やや軟質
001-2	9	6001	坏	完形	38 :150 : : : :46 :3<11	口縁輪ナデ、下横な斜めへラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	
001-3	9	6001	碗	完形、口縁一部のみ残	63 :136 : : :141 : : 丸底 4<5	口縁輪ナデ、下斜めへラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	砂粒やや多い、焼きしまりよく表面に小凹凸あり
001-4	9	6001	碗	底部欠	72+ :150 : : :160 : : 丸底 7<8	口縁輪ナデ、下横へラケズリ。内横ナデ	外下から1.8cmを除き内外赤彩	砂粒、褐色粒混入やや砂っぽい、軟質
001-5	9	?	須恵蓋坏	破片、端部4.5cm残	11+ : : : : : :170 5<8		内外黒灰色	外砂粒目立つ
001-6	9	?	須恵高台付坏	高台7cm残	47 :139 : : : : :103 4<7		内外淡灰色	砂粒少ない
001-7	9	?	須恵壺	底部1/3、胴下部1/4残	33+ : : : :126+ : : 52 :3<10	内わずかに自然釉	内外暗灰色	砂粒目立つ
001-8	9	1008	高坏	床面から+11cm。完形、口縁1/3残、脚一部欠、坏部上下の接合痕顕著	128 :168 : : :20 :131 5<14	坏輪ナデ、脚縁へラケズリ、下横ナデ。内脚縁へラケズリ	外黒斑。内赤彩、脚暗褐色	
001-9	9	1003	高坏	床面から+3.5cm。脚欠、1/4残	48+ :171 : : : : :3<8	輪ナデ。内剥落多い	内外赤彩。外黒斑	微石混
001-10	9	6001	高坏	坏欠、脚下粘土の盛り上がり	61+ : : : : :31 :123 9<12	縁へラケズリ、下横ナデ。内横へラケズリ	外赤彩	
001-11	9	1005	高坏	床面から+9.5cm。坏欠、脚完	50+ : : : : :35 :130 7<12	縁へラケズリ、下横ナデ。内横へラケズリ	外赤彩。内黄土色	
001-12	9	?	甕	完形、口縁、胴部一部欠、頸部輪縁み痕残	259 :156 :136 :240 : :70 5<13	口縁輪ナデ、脚縁、斜めへラケズリ。内横ナデ	内外暗褐色。外下黒褐色。内下明褐色	砂粒細かく良好、焼き縮まりよい
001-13	9	1007	甕	床面から+2.5cm。完形、口縁1/3、胴部1/2残	231 :200 :174 :234 : :54 5<9	口縁輪ナデ、脚へラケズリ、内外とも強い。内輪縁み痕残	内外白褐色、底部近く部分的に黒斑	小石若干目立つ、やや軟質
001-14	10	1003	甕	床面から+11cm。口縁一部欠、胴部から下欠	86+ :139 :110 :165+ : : :7	口縁輪ナデ、脚縁へラケズリ。内へラ先直残	外黄褐色、黒斑。内赤みのある黄褐色	砂粒細かい、やや軟質
001-15	10	1004	甕	床面から+8cm。頸部以下欠、1/6残、径推定	40+ :158 :136 :153+ : : :7<10	口縁輪ナデ、脚縁へラケズリ	外黄褐色、黒斑。内赤みのある黄褐色	
001-16	10	1005	甕	頸部以下欠、1/3残	60+ :162 :127 :189+ : : :8<9	口縁輪ナデ、脚縁へラケズリ	内外黒褐色、一部赤褐色から黄褐色	細かい砂粒多く比較的緻密
001-17	10	1001	甕	床面から+5.5cm。底部欠、破片残、傾き、径推定、頸部接合痕顕著	179+ :228 :200 :225 : : :7<12	口縁輪ナデ、脚へラケズリ。内外とも強い。内輪直み痕残	内外暗褐色。外下黒褐色。内下黄褐色	砂粒多い
001-18	10	?	甕	頸部以上欠、底部中央欠、器表剥落多い	244+ : : : :280 : : 82 6<22	斜めハケ後横へラケズリ。内上横ナデ、下斜めハケ	内外赤橙色。外下暗褐色。内下赤斑	砂粒多い
002-1	10	1001	須恵蓋坏	床面から+4cm。ツマミ欠、1/3残、口縁折り返し	35+ : : : : : :142 5<7	上部へラにより微石が移動している	内外青灰色から黄灰色	白微石をわずかに含む
002-2	10	6002	須恵蓋坏	つまみのみ径2.1cm	13+ : : : : :54+ : : :5<13		内外暗灰色から灰色。外自然釉黄灰色	
002-3	10	6002	須恵蓋坏	つまみのみ径2.4cm	14+ : : : : :54+ : : :5<14		内外暗灰色から暗青灰色。外自然釉黄灰色	
002-4	10	6001	須恵高台付坏	完形、断面厚耗、1/3残、底部1片前068-6001と接合	42 :142 : : : : :120 3<6		内外灰色から暗灰色	砂粒少ない
002-5	10	6002	坏	底部欠、破片	34+ :137 : : : : : :5	口縁輪ナデ、下横へラケズリ。内横ナデ	外黒褐色。内暗赤褐色	微砂少ない混
002-6	10	6001	坏	底部欠、口縁7cm残	28+ :125 : : : : : :5	口縁輪ナデ、下横へラケズリ。内横ナデ	内外明褐色。外暗褐色斑	褐色粒混、軟質
002-7	10	6001	甕	底部破片	32+ : : : :126+ : : 71 :4	横へラケズリ。内横へラナデ	外黒みの強い黄褐色。内暗褐色	微砂少ない混、軟質
002-8	10	6002	手捏	完形、巻き上げ痕跡あり	41 :67 : : : : :40 :22	手捏ね	外黄褐色、口縁白橙色。内赤みのある黄褐色	良
002-9	10	6002	高坏	坏部、脚端欠	60+ : : : : :32 58+ 5<13	縁へラケズリ。内横へラケズリ	外赤彩。内淡褐色	砂粒多い
002-10	10	6001	甕	頸部以下欠、口縁12cm残	56+ :216 :218 :222+ : : :11	輪ナデ。外へラ先の沈線あり	外暗褐色、部分的に黒褐色。内淡褐色	砂粒やや目立つ、焼き縮まりよい
002-11	10	6001	甕	頸部以下欠、口縁7cm残	45+ :148 :130 :132 : : :7<8	口縁輪ナデ、下横へラケズリ。内横ナデ	外暗赤褐色。内暗褐色、黒斑	砂粒やや多い、やや軟質
003-1	11	6002	須恵甕	完形、胴部破片少ない、口縁1/4割残	301 :189 :129 :204 : : 丸底 4<9		内外暗灰色	小石わずかに含む、焼きしまりよい
003-2	11	1002	須恵甕	床面から+9cm。口縁欠、脚以下欠、頸部1/3周	121+ :198 :120 :260+ : : :5<10	口縁下14本クシ2段波状、脚明き目縁ミカキ	内外暗灰色。外脚部。内口縁部自然釉黄灰色	砂粒、小石わずかに混、気泡含む

番号	挿図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・底径・厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
003-3	11	6002	甕	胴下半欠、2/5残	88+ : 107 : 136 : 180+ : : : 5・7	口縁横ナデ、胴横ヘラミガキ、一部剥落	外暗褐色。内明褐色	
003-4	11	1001	杯	床面から+9.5cm。完形、口唇下若干へこむ	51 : 170 : : : : 3・底 7・9	横ヘラケズリ。内横ヘラナデ	内外褐色	
003-5	11	6001	甕	底部欠、1/3残	56+ : 176 : : 186 : : : 4・6	横ヘラケズリ。内横ヘラナデ	内外褐色	砂粒目立たない
003-6	11	6001	杯	完形、口縁わずかに残、上げ底	82 : 144 : 146 : : : 36 : 5・9	縦を主にしたヘラミガキ	内外赤彩。内濃い	軸流含む、やや軟質
003-7	12	1003	甕	床面から+4 ~5.5cm。底部欠、火を受け部分的に脆い、8と同一個体	371+ : 216 : 158 : 332 : : : 8・9	斜めヘラケズリ後横ナデ	内外赤褐色。内頸部付近黒褐色	頸部5cm小石多い
003-8	12	6002	甕	7の底部、接台はしない	117 : : : 301+ : : 34 : 7・12	斜めヘラケズリ後横ナデ	内外赤褐色	頸部5cm小石多い
003-9	12	6002	甕	頸部以上欠、器形大きくゆがむ	302+ : : 133 : 336 : : 78 : 7・15	斜めヘラケズリ、胴中央横ヘラナデ。内横ハケ後下ヘラナデ	外赤褐色、胴黒斑。内暗褐色、上赤褐色、下黒斑	砂粒やや多い、やや軟質
003-10	12	6001	甕	胴下半欠、口縁1/3欠、頸部後合痕	100+ : 155 : 124 : 198+ : : : 7	口縁横ナデ	外赤褐色。内褐色、頸部以上黒色	
003-11	12	6002	甕	底部中央欠、口縁一部残、胴下部欠多い	141 : 105 : 90 : 161 : : 32 : 4・9	口縁部横ナデ。内胴下位接合痕	外暗黄褐色、部分的に黒色。内黒灰褐色	砂粒ややめだつ、やや硬い
003-12	12		甕	底部欠。内側頸部、胴中部接合痕顕著	231+ : 167 : 130 : 232 : : : 5・8	口縁横ナデ、上縁から斜めハケ、下斜めケズリ後ミガキ、軸端み真目立つ	外褐色、下半黒褐色から黒色。内淡褐色、黒斑	砂粒、白色粒目立つ
003-13	12	6002	甕	胴下部のみ	49+ : : : 184+ : : 58 : 4・9	縦なハケ。内ナデ	外赤褐色。内淡褐色、黒斑	砂粒、白色粒目立つ
004-1	12	6001	須恵蓋杯	1/9残、径推定	14+ : : : : : 171 : 3・6		内外暗黄褐色	焼き締まりあまり良くない
004-2	12	1002	杯	ポイントのみ。完形、口縁1/2強残	41 : 147 : : : : 80 : 5・9	上横ナデ、下横ヘラ後ミガキ、底ヘラ	内全面黒斑	細砂若干
004-3	12	1001	杯	ポイントのみ。完形、口縁一部欠	47 : 128 : : 132 : : 3・底 4・6	上横ナデ、中横ヘラケズリ、下横ヘラケズリ。内ミガキ後放射状暗文	外暗褐色。内赤褐色	砂粒、小石多い
004-4	12	6002	鉢	完形、最大1/4残、底部端部に割い	73 : 91 : : 102 : : 78 : 2・9	口縁横ナデ、ヘラケズリ	内外黄褐色。外一部黒斑	砂粒あまり含まず、やや硬い
005-1	14	1001	甕	ポイントのみ。上下欠、胴部を主とした破片多数、接合しないものが多い	264+ : : : 100+ : 236 : : : 5・9	円形割突、波状洗線3本1単位、直線洗線、縄文を組み合わせる	内外黒褐色から茶褐色	砂粒多くもろい。内器表割かれる
005-2	14	6001	甕	底部拓本		木の葉底	黒褐色	
005-3	14	6001	甕	胴部拓本		洗線、ハケ	黒褐色	
005-4	14	6001	甕	口縁部拓本		刻み	黒褐色	
005-5	14	6001	甕	口縁部拓本		押圧	黒褐色	
006-1	13	6002	須恵蓋杯	完形、1/2残、つまみ一部欠径2.2cm	30 : : : : : 100 : 3・7		内外灰色から暗灰色。外自然釉前灰色わずかにかかる	砂粒目立たず、堅緻
006-2	13	6001	須恵杯	2/3強残、底一部欠	30+ : : : : : 49 : 4・11		内外黒灰色、一部自然釉	砂粒少なく、硬い
006-3	13	6002	須恵杯	底部中央欠、1/6残、径推定	32+ : 115 : : : : : 4・6		内外灰色	白微石混、堅緻
006-4	13	6002	須恵杯	遺物現存せず。底部中央欠、1/5残、径推定	27 : 108 : : : : : 3・6		内外灰色から暗青灰色	白微石混、堅緻
006-5	13	1002	須恵踏台付杯	完形、1/2弱残	48 : 148 : : : : : 77 : 4・8		内外一部自然釉	砂粒含む、堅緻
006-6	13	6001	須恵ハソウ	上欠、1/2残、7世紀中葉	59+ : : : 144 : : 30 : 5・7	注口布圧痕、中部脚状痕、注口縁灰色自然釉	内外灰色から暗灰色。外一部自然釉	
006-7	13	6002	盥台	杯小破片、器表磨耗	27 : 113 : : : : : 6	口縁下横ナデ、以下横ヘラケズリ。内縦暗文	内外明褐色から暗褐色	砂粒、褐色粒多い、軟質
006-8	13	6002	杯	口径推定	39+ : 141 : : : : : 3・4	上ナデ、中横、下横ヘラケズリ	外黒みの強い黄褐色。内黒色	微砂混
006-9	13	6002	杯	完形、1/2弱残	31 : 100 : : : : 43 : 3・7	ざらざら。内ミガキ	内外黄褐色。外部分的に黒色	砂粒、やや軟質
006-10	13	1002	甕	口縁小破片、径推定	38+ : 121 : 146 : : : 4・6	口縁下横ナデ、胴横ヘラケズリ。内縦暗文	内外暗褐色	砂粒わずかに含む、わずかに軟質
006-11	13	6002	甕	底部、胴部の接合痕残	32+ : : : 35+ : : 32 : 9・12	縦ヘラミガキ	外黒褐色。内暗褐色	微砂、微石多い混
006-12	13	6001	甕	底部欠、口縁8cm残	46+ : 200 : : : : : 4・7	口縁横ナデ、以下横ヘラケズリ、口縁下4cm洗線。内ヘラミガキ	内外黒褐色。内暗褐色部分多い	砂粒目立たない
006-13	13	6002	甕	底部欠、1/8残、径推定	60+ : 208 : : : : : 4・6	上横ナデ、下斜めヘラケズリ。内横ヘラミガキ	外黄褐色、下黒斑。内暗褐色から黒色	微砂、微石を少ない含む
006-14	13	6002	横微杯	口縁小破片、径不明	36+ : : : : : 4・6	口縁横ナデ、以下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩。外最大径まで、以下赤褐色	砂粒わずかに含む、軟砂質

番号	埴図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・胴径・胴径・加線・底・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
006-15	13	6001	椀・飯杯	口縁小破片、径不明	25+ ; ; ; ; 3<7	口縁破ナデ、以下横へラケズリ。内横ナデ	内外赤彩。外最大径まで、以下赤褐色	砂粒わずかに含む、軟砂質
006-16	13	6002	高杯	上下欠、接合部	24+ 38+ ; ; 33 ; 7<14	縦へラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	砂粒多い、軟砂質
007-1	15	6001	須恵高台付杯	高台部1/3残	33+ ; ; 128+ ; 35 3<8		灰色から暗灰色	
007-2	15	6001	杯	口径推定	44+ 140 ; 146 ; ; 5<7	上横ナデ、下横へラケズリ	内外暗茶褐色	
007-3	15	6001	高杯	杯上部のみ、破片	34+ 165 ; ; ; 5<7	口唇破ナデ、横へラ	内外赤彩	微砂混、やや軟質
007-4	15	1005	碗	完形、口縁一部欠、口縁槽内	78 140 ; 142 ; 4<底 5<8	横へラケズリ後口縁横ナデ。内へラ先痕残	内外赤彩。外上から5cm、以下淡褐色、底部黒斑	砂粒若干混
007-5	15	6001	甕	胴下半欠、1/4残	92+ 188 161 216+ ; ; 6<9	口縁破ナデ、縦へラ	内外暗赤褐色、部分的にスス付着黒色	微砂をあまり含まずやや軟質
007-6	15	6001	甕	底部	30+ ; ; 144+ ; 103 3<8	底部近く輪轆み痕残	外暗赤褐色から黒褐色。内黒色	微砂若干混、軟質
007-7	15	6001	高杯	接合部	55+ ; ; 58+ 41 63+ 3<12	縦へラケズリ	外赤彩。内暗褐色	砂粒目立つ
007-8	15	6001	高杯	脚欠、口径推定、杯下部に段を持つ	49+ 157 ; ; ; 5<10	口唇破ナデ、横へラケズリ。内小淵部多い	内外赤彩。上部分的にスス付着黒斑	
008-1	14	6001	甕	胴上部以下欠、破片、径推定	59+ 186 160 204+ ; ; 3<8	横ナデ、胴縦へラケズリ	内外淡褐色。外口縁赤みを帯びる。内黒斑	砂粒目立つ
009-1	15	6001	杯	底部一部欠、最大1/3残	46 118 ; 120 ; 70 3<8	上横ナデ、以下横へラケズリ	内外明褐色。外口縁一部黒斑	小石わずかに含む、やや軟質
009-2	15	6001	甕	胴下半欠、口縁19cm残、破断面縁る	123+ 244 204 ; ; ; 7<9	上横ナデ、下斜めへラケズリ	内外明褐色。外黒斑	砂粒多い、やや軟質
010-1	17	6001	須恵杯	底部欠、1/9残、径推定	42+ 160 ; ; ; 3<7		内外灰色	
010-2	17	6001	杯	頸部欠、口縁7cm残	29+ 108 ; 112 ; 4<底 3<7	上横ナデ、以下横へラケズリ	内外淡褐色。外下黒みを帯びる	砂粒多い、わずかに軟質
010-3	17	6001	杯	底部欠、口縁7cm残	39+ 240 ; ; ; 7	上横ナデ、以下横へラケズリ	内外白褐色	砂粒、褐色粒含む
010-4	17	6001	甕	胴下半欠、口縁11cm残	52+ 224 178 ; ; ; 3<9	上横ナデ、以下縦へラケズリ	内外淡褐色	細砂混、軟質
010-5	17	6001	甕	胴下半欠、口縁8cm残	54+ 122 104 122+ ; ; 5<7	上横ナデ、以下縦へラケズリ	内外明褐色。外わずかにスス付着。内暗褐色	砂粒細かく良好、やや軟質
010-6	17	6002	甕	胴下半欠、器表煮れる、口縁5cm残	61+ 120 108 136+ ; ; 3<9	横ナデ	外明褐色。内暗褐色	砂粒多い
011-1	15	6001	須恵蓋杯	上下欠、1/8残、径推定	30+ ; ; ; 116+ 3<6		内外暗灰色	外砂粒目立つ
011-2	15	6001	須恵杯	最大3.5cm残	31+ 132 ; ; ; 3<7		内外暗青灰色	
011-3	15	6002	杯	ボイントのみ、完形、1/2部残	36 145 ; ; ; 4<底 5<9	上横ナデ、以下横へラケズリ	内外明褐色。外大部分黒斑。内一部黒斑	砂粒多い、軟質
011-4	15	6002	杯	底部欠、口縁1/3残	43+ 128 ; ; ; 4<底 5<7	上横ナデ、以下横へラケズリ	内外淡褐色。外部分的に黒斑	砂粒、褐色粒細かく、やや硬い
011-5	15	6002	甕	胴以上欠、底部1/4残	85+ ; ; 136+ ; 63 5<9	縦へラケズリ	内外黒褐色	砂粒多い
011-6	15	6002	高杯	杯・脚端欠、火を受け開裂やや荒れる	58+ ; ; ; 30 58+ 5<9	縦へラ後横へラナデ	外赤彩	微石混砂質
011-7	15	6002	甕	底部破片	37 ; ; 119+ ; 70 7<11	横へラ	外暗黄褐色。一部黒色。内暗赤褐色、一部スス付着黒色	砂粒をあまり含まない
012-1	14	6001	須恵杯	口縁部破片	34+ 132 ; ; ; 4<9		内外淡灰色	黒色砂粒含む
012-2	14	1001	鉢	床面から+6cm。完形、二つに割れる、口縁一部欠、木葉底	46 73 ; 90 ; 48 5<7	上横ナデ、以下横へラケズリ	内外淡褐色。全体にスス付着	砂粒わずかに含む
012-3	14	1002	杯	床面から+13cm。口縁破片、底部欠、口縁1/4部残	52+ 148 ; ; ; 7	上横ナデ、以下横へラケズリ	内外淡褐色。外口縁近く黒斑	砂粒やや混じる
012-4	14	6001	高杯	脚のみ、1/4残	45+ ; ; ; 71 102 5<11	縦へラケズリ	内外淡褐色	砂粒目立つ、やや軟質
012-5	14	1003	甕	床面から+3cm。底部破片	14+ ; ; ; 71 5<13	横へラケズリ	外黒褐色。内暗赤紫色	砂粒多い、やや硬い
013-1	17	1003	器台	床面から0cm。完形、中央部縁に孔	91 76 ; ; 27 48 7<13	杯破ナデ、胴縦ナデ	内外白黄褐色、部分的に黒色	
013-2	17	1004	器台	床面から+3cm。脚欠、接合部から胴縁れる	32+ 102 ; ; 24 ; 2<10	横ナデ後放射状にナデ	内外茶褐色、光沢あり	砂粒少ない、やや硬い
013-3	17	1006	甕	床面から+19cm。完形、口縁わずかに欠	211 178 142 235 ; 61 3<8	上斜めハケ後横ナデ、中斜めから縦ハケ。内口縁横ハケ、底部ハケ	外褐色、炭化物付着。内黒褐色、部分的に黒色	砂粒やや多く含む、焼きしまりしている

番号	採掘	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・底部・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
013-4	17	1002	甕	床面から-1cm。胴下半のみ	121+ : : 209 : 49 3<13	斜めハケ後継ヘラミガキ。内斜めハケ	外淡褐色、部分的に黒斑、上赤褐色。内褐色	砂土、焼成 砂粒少ない
013-5	17	1007	甕	床面から+15cm。完形、口縁、胴部欠あり、外頸部接合痕	197 :177 :143 211 : 51 3<6	口縁横ナデ、胴ヘラミガキ	内外褐色。外下黒色	微石混
013-6	17	1008	甕	床面から+12cm。底部中央一部欠。口縁1/2残。内面接合痕目立つ	190 :178 :150 212 : 59 2<7	口縁横ナデ、胴斜めヘラ	外黒褐色。内赤褐色	微石混
013-7	17	1009	甕	床面から+11cm。胴下半欠、1/2残	150+ :174 :144 202 : : 3<8	口縁横ナデ、胴斜めヘラ。内輪積み真4段	内外黒褐色。外部分的に暗褐色	砂粒目立つ、硬い
013-8	17	1001	壺	床面から+13cm。完形、口縁一部欠	171 :109 :70 :144 : 48 4<7	口縁横ナデ、下斜め	外赤褐色。内黄褐色、下黒斑	
013-9	17	1005	埴	床面から+3cm。完形、口縁部分的に欠	77 :120 :106 :107 : 35 3<10	上斜めヘラ、中継ヘラ、下斜めヘラ	内外赤褐色。外下褐色。内部分的に黒斑	
014-1	17	6001	甕	1/2強残、底面欠	204+ :157 : : : 50 5<10	縦ハケ、口縁端が指で押圧。内輪ハケ	外赤褐色、以下暗褐色、黒斑。内赤褐色	砂粒目立つ、硬い
014-2	17	1001	筒形	口縁破片	70+ :80 : : 70 : : 6	縦ハケ。内口縁横ハケ	内外淡褐色	砂粒、褐色粒目立たない、硬い
015-1	17	6001	須恵蓋坏	つまみのみ径3.2cm	21+ : : : 84+ : : 5<6		内外自然釉	
015-2	17	?	須恵蓋	胴部7.5cm残	89+ : : : :160 : : 3<8	外自然釉部分的に残る	灰白色、外一部淡黄灰色	
015-3	17	6001	坏	底部欠、口縁9cm残	56+ :182 : : : :丸底 7<9	横ヘラケズリ、擦痕目立つ	外淡褐色。内褐色下黒色から黒褐色	砂粒、黒色粒多い
015-4	17	6001	高坏	脚部欠、指って再利用、接合部全周、口縁3cm残、坏1/2残	70+ :139 : :142 :58 :65+ 6<10	口縁横ナデ、以下縦ヘラケズリ、胴内横ヘラケズリ	内外淡褐色。内脚黒みを帯びる	黒色粒わずかに混
015-5	17	6001	坏	底部欠、1/4残	52+ :168 : : : : 8<9	上横ナデ、下横ヘラケズリ	内外暗黄褐色から暗褐色	微石多い混、焼きしまり多い、
015-6	17	?	甕	底部破片	33+ : : : :130+ : : 64 7<9	縦なヘラケズリ	外赤みのある褐色、胴一部粘土付着。内暗黄褐色から暗褐色	砂粒多い
015-7	17	6001	甕	底部破片	78+ : : : 58+ : : 53 <12	凹凸目立つ	内外淡褐色	砂粒やや多い、硬い
015-8	17	6001	甕	底部破片	35+ : : : :122+ : : 71 <10	縦ヘラケズリ	外暗赤褐色。内暗褐色、黒斑	砂粒やや多い、硬い
016-1	18	6001	須恵坏	完形	37 :102 : :102 : 46 3<8	指紋痕跡	内外暗青灰色	
016-2	18	6001	坏	完形、1/2弱残	44 :134 : :140 : :丸底 6<8	上横ナデ、下横ヘラケズリ、荒れている内横ヘラミガキ、底放射状にヘラ先痕	外黒色。内淡褐色、口縁一部黒斑	細砂わずかに含む
016-3	18	1002	高坏	床面から+6cm。脚部、上下欠	64+ : : : : 62 48+ 5<11	縦ヘラケズリ	内外赤褐色	小石を含む、粉っぽい
016-4	18	6001	高坏	脚欠、胴との接合部ドーム状に残。坏部下位に段	52+ :173 : :109 :35 : 5<10	横ヘラナデ	内外赤彩	微砂混、砂質
016-5	18	1003	甕	床面から+16.3~21cm。胴下半欠、頸部1/2強残	205+ :204 :176 :204 : : 5<9	頸部横ナデ、胴縦ヘラケズリ、頸部輪積み真残	外暗赤褐色、黒斑。内暗褐色、一部赤褐色	砂粒多い、小石目立つ
016-6	18	6001	甕	胴下半欠、1/4残	84+ :169 :148 :174 : : 5<9	上横ナデ、中縦ヘラケズリ、下斜めヘラケズリ	外暗褐色。内暗茶褐色	微砂微石混
016-7	18	6001	甕	頸部以下欠	72+ :190 :160 :215+ : : 7<9	上横ナデ、胴斜めヘラケズリ、器表荒れる	内外明褐色、やや赤みを帯びる。内一部黒色	砂粒多い
016-8	18	1001	甕	床面から+6~17.9cm。胴下部欠	190+ :148 :140 :223 : : 6<8	斜めヘラケズリ、器表あれる	内外暗褐色から赤褐色	
016-9	18	1002	甕	床面から+6.3cm。頸部以下欠、1/4残、接合しない、破片2	87 :222 :176 :219+ : : 5<10	上横ナデ、下斜めヘラケズリ	外黄褐色。内暗褐色	微石をほとんど含まない、堅硬
016-10	18	6001	甕	逆刎現存せず。底部、1/3残	46+ : : : :128+ : : 56 6<8	横ヘラケズリ	外黒色。内暗褐色	微砂微石混
016-11	18	1003・6001	甕	床面から+16.3~21cm。胴下半のみ	72+ : : : :146 : : 70 6<9	縦ヘラケズリ	内外淡褐色。外一部黒斑	砂粒、小石多い、硬い
016-12	18	6001	甕	逆刎現存せず。頸部以下欠、1/4残、器表剥落	84+ :259 :233 :207 : : 7<12	口縁横ナデ、胴斜めヘラ	内外赤褐色	白微砂多い混、焼き締まりよく堅硬
016-13	18	1001	甕	床面から+6~17.9cm。胴下半欠、1/2残	190+ :250 :213 :207 : : 6<9	上横ナデ、中縦ヘラケズリ、下斜めヘラケズリ。内輪ナデ、下縦ヘラミガキ、器表一部剥落	外黄褐色、部分的に黒色、黒褐色。内暗赤褐色、部分的に黄褐色	微砂混

番号	拓図 注記	器形	現状・特徴・備考	高さ:口径・頭径・胴径・脚径・端径・厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
016-14	18 1003	甗	床面から+16.3~21cm。胴下半欠	150+ : : 204+ : 92 5<9	斜めヘラケズリ後上横ナデ。内横ヘラケズリ後斜めナデ、下横ナデ	内外暗赤褐色、黒斑	砂粒、小石多い
016-15	18 6001	甗	完形	272 338 300 : : 314 7<11	口縁下、頸部沈線、横ナデ、下縁から斜めヘラケズリ	内外明赤褐色部分的に黒斑、下暗褐色	砂粒目立つ、小石多い、やや脆い
017-1	19 6001	須恵蓋坏	遺物現存せず。完形、つまみ径3.2cm、縁折り返し	32 : : : 116 97 4<5		内外暗灰色、自然釉	微石混
017-2	19 焼土 層中	須恵蓋坏	2/3割残、TK209	40 50 : : : 413 3<7		端一部自然釉	
017-3	19 6001	坏	底部欠、1/2割残	47 124 : 126 : : 5<7	上横ナデ、下縁ナデ	内外黒色、一部淡褐色	砂粒目立たず、焼きしまりよい
017-4	19 6002	甗	底部欠	53+ 132 : : : : 7<9	横ヘラケズリ後横ナデ	内外淡褐色。外部分的に黒褐色	砂粒やや多い、やや軟質
017-5	19 6002	高坏	接合部破片	39+ : : 70+ 54 70+ 8<12	縦ヘラケズリ	内外淡褐色	砂粒目立たない、やや軟質
017-6	19 6002	甗	頸部以下欠、最大1/3残	45+ 50 51 : : 86 5<9	横ナデ	内外赤彩。外一部三角形に塗り忘れ。内上から1.5cmまで、以下淡褐色	砂粒やや目立つ、軟質
017-7	19 6002	甗	底部破片、2片接合	40+ : : 170+ : 86 8<14	ヘラケズリ、底部周囲磨耗	内外暗褐色。外一部黒斑	砂粒、小石多い、硬い
017-8	19 6001	須恵大甗	胴以上欠	325+ : : 502 : 34底 4<15	底部近くを残し全面タタキ。内横ナデ、下にヘラ痕残	内外暗灰色。外わずかに自然釉	微砂少量混
018-1	20 6001	坏	底部欠、口縁4cm残	27 136 : : : 5<8	上横ナデ、下横ヘラケズリ	内外赤みのある明褐色	砂粒やや多い、やや軟質
018-2	20 6001	甗	底部破片	16+ : : 80+ : 82 8<11	ヘラケズリ	内外淡褐色。外底部黒斑。内赤みを帯びる	砂粒目立つ、硬い
019-1	20 6001	須恵広口甗	口縁破片、口縁8cm残	40+ 194 114+ : : 6<10		内外暗灰色。外自然釉斑点状粗。内自然釉密	黒色砂粒混、軟質
019-2	20 6001	須恵長頸甗	頸部、上下欠	52+ : : 50 : : 5<9		暗灰色、自然釉斑点状粗	
019-3	20 6001	須恵坏	口縁6cm残	41+ 128 : : : 4<7	凹凸目立つ	内外暗灰色。内スス付着	
019-4	20 6001	須恵高台付坏	下半1/3割残	21+ : : 124+ : 82 4<8		灰色	黒色砂粒目立つ、堅微
019-5	20 6001	須恵長頸甗	底部	40+ : : 148+ : 94 7<12		内外暗灰色。内一部自然釉	
019-6	20 6001	高坏	口縁7.5cm残	39+ 136 : : : 3<7	口縁横ナデ、下横ヘラケズリ、口縁磨耗	内外暗褐色、口縁黒斑	
019-7	20 6001	甗	口縁8cm残	44+ 123 118 121 : : 8<9	口縁横ナデ、胴縦ヘラケズリ	内外明褐色	
019-8	20 6001	甗	胴下半欠、口縁1/2残	60+ 152 128 : : : 5<7	指頭で押圧、ハケ後横ナデ、波状口縁。内弱い横ナデ、下斜めハケ	内外淡褐色。外スス付着	砂粒多い、脆い
021-1	20 6001	須恵蓋坏	端部3.5cm残	35+ : : : : 134 5<6		内外黄灰色	
021-2	20 6001	甗	胴部11cm残	124+ : 206 252 : : 7<10	口縁横ナデ、胴縦ヘラケズリ	内外暗褐色。外黒斑	砂粒やや目立つ、軟質
022-1	21 6001	高坏	ポイントのみ。口縁10.5cm残	44+ 163 : : : 56 : 7<10	上横ナデ、下縁ヘラケズリ	内外明褐色。上黒斑。内やや赤みを帯びる	砂粒若干混、やや硬い
022-2	21 6001	高坏	ポイントのみ。脚端のみ、1と同一個体、接合せず	25+ : : : : 106 5<10	縦ヘラケズリ	内外明褐色。外黒斑。内やや赤みを帯びる	砂粒若干混、やや硬い
022-3	21 1001	甗	ポイントのみ。底部中央一部欠、口縁一部残、胴ほとんど残	112 150 117 142 : 77 5<10	口縁横ナデ、胴縦ヘラケズリ、底部近く横ヘラ	内外明褐色。外黒斑	
022-4	21 6001	甗	胴下半のみ	166+ : : 256+ : 94 8<12	横ヘラケズリ後横ナデ	内外赤褐色。部分的に濃淡あり	砂粒多い、硬い
022-5	21 6001	甗	底部破片、器表磨耗激しい、1/4割残	27 : : 130+ : 46 7<10	縦ヘラケズリ	内外褐色から黒褐色	砂粒、小石多い
022-6	21 6001	甗	ポイントのみ。胴部から下欠	138+ 256 205 : : : 5<9	上横ナデ、下縁ヘラケズリ	内外黄褐色。外口縁から胴にかけて黒色。内口縁スス付着	微石をわずかに含む、やや軟質
024-1	21 6001	須恵甗	口縁部5cm残	44+ 240 : : : : 5<11		内外暗灰色	
024-2	21 6001	須恵長頸甗	頸部破片、最大1/4残	44+ : 48 100+ : : 4<9		内灰色、自然釉斑点状黒緑色、外暗灰色、外自然釉厚い	
024-3	21 ?	高坏	脚のみ、胴端1カ所残	47 : : : 35 94 8<21	上縁ヘラケズリ、下横ナデ	外赤彩。内赤褐色	褐色粒やや目立つ、堅微
024-4	21 6001	甗	頸部以下欠、口縁18.5cm残	55+ 167 148 180+ : : 8<11	上横ナデ、胴縦ヘラケズリ	内外暗褐色。外スス付着	砂粒やや目立つ
024-5	21 6001	甗	完形、最大1/4残	192 140 127 211 : 57 3<12	頸部横ナデ、胴縦ヘラケズリ。内頸部から上横ハケ	内外暗褐色、下半黒色	砂粒やや多い、硬い

番号	地図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・脚底・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
024-6	21	6001	甕	下端8cm残	71+ : : :142+ : : 38 3<8	縦ヘラケズリ。内横ヘラナデ、輪痕み痕一部残	外黄褐色、一部黒斑。内暗褐色、下端スス付層	褐色粒混、砂粒細かい、やや硬い
024-7	21	6001	甕	胴以下欠	71+ 140 :127 :184+ : : 5<6	上横ナデ、下斜めヘラケズリ	外黒色。内黄褐色、下端黒灰色	微砂若干混、硬質
024-8	21	6001	坏	上のみ、口縁8.5cm残	31+ 186 : : : : : 3<7	斜めの荒い彫形後横ナデ後縦ヘラミガキ	内外淡褐色。外黒斑。内赤みを帯びる	砂粒やや目立つ
024-9	21	6001	器台	脚端欠、口縁8cm残、脚穿孔3、縦穿孔1	62+ 177 : : : 31 30+ 5<11	上ヘラケズリ後横ナデ、脚縁ヘラケズリ。内上ヘラミガキ、脚縁ヘラケズリ	内外赤彩、痕跡的	砂粒目立つ、硬い
025-1	22	6001	高坏	脚欠、1/4残	43+ 139 : : : : : 3<8	上横ナデ、下横ヘラケズリ	内外赤彩	微石をほとんど含まず良好
025-2	22	6002	高坏	脚欠、1/4残、口縁内に折れる、火を受け変色	44+ 144 : :142 : : 3<7	上横ナデ、下横ヘラケズリ	内外赤彩、全面黒変	微砂混
025-3	22	6001	高坏	脚部欠	51+ 152 : :152 40 : : 3<10	口縁緒上付着、中横ヘラケズリ、下縦ヘラケズリ	内外赤彩、外火を受け黒変	小石若干、褐色粒、微砂混
025-4	22	6001	高坏	逆物現存せず。脚欠、1/4残、口縁内に折れる	47 122 : :134 36 : : 3<6	上横ナデ、中横ヘラケズリ、下横ヘラナデ	内外赤彩	微砂若干混
025-5	22	1002	高坏	ボイントのみ。脚欠、2/3残、口縁内に折れる	46+ 105 : :117 27 : : 3<7	横ナデ	内外赤彩	微砂多く含む
025-6	22	1005	碗	床面から+3cm。完形、口縁1/3残	83 122 : :137 35 49 3<7	上横ナデ、中横ヘラケズリ、下横ヘラナデ	内外赤彩。外上から5.4cmまで。内上から3.5cmまで	
025-7	22	6002	高坏	逆物現存せず。接合部のみ、器表荒れる	41+ : : : 38+ 48 : : 3<17	縦ヘラケズリ	内外明褐色。内暗褐色	砂粒多い、硬い
025-8	22	6001	高坏	脚のみ、細欠	38+ : : : : : 29 34+ 3<12	縦ヘラケズリ、横ナデ。内横ヘラ	外赤彩	
025-9	22	1003・6001	甕	床面から+5cm。完形、口縁、胴部部分的に欠ける	265 190 :150 228 : : 5<8 3<8	上横ハケ、中縦ヘラ、下横ヘラケズリ。内横ナデ、輪痕み痕	外淡褐色、黒斑。内暗褐色	砂粒多い、硬い
025-10	22	6001・6002	甕	脚欠、欠多い	123+ 160 124 244+ : : 3<9	上横ナデ、中縦ヘラ、下斜めから横ヘラ	内外黄褐色から赤褐色	砂粒若干混、脆い
025-11	22	?	甕	ボイントのみ。底部欠	156+ 141 120 108 : : : 5<7	上横ナデ、下縦ヘラケズリ	内外赤褐色。内下褐色	白磁石混
025-12	22	?	甕	口縁部破片	111+ 256 226 238+ : : 3<11	上横ナデ、下縦ヘラケズリ不詳明。内横ナデ、胴横ヘラ	外赤褐色。内黄褐色、黒斑	微砂混、軟質
025-13	22	?	甕	頸部から下欠	71+ 226 188 242+ : : : 3<8	上横ナデ、下縦ヘラケズリ	内外赤みのある黄褐色。内赤みのある黄褐色	微砂混、やや軟質
025-14	22	1001	甕	床面から+1cm。底部破片	34+ : : :146+ : : 49 5<10	縦ヘラケズリ、下一部横ヘラケズリ	外淡赤褐色、わずかに黒斑。内赤紫色	砂粒、小石やや目立つ、堅緻
026-1	22	?	須恵高台付甕	上部欠	111+ : : :158 : : 78 3<12	底部内脚焼成時の気泡大きく残	外暗赤紫色。内暗灰色、中央脚厚い	砂粒多い
026-2	22	?	須恵高台付甕	底部1/3破片	11+ : : : : : 86 5<7		暗灰色。内灰色	
026-3	22	?	坏	底部欠、口縁6cm残	36+ 116 : :118 : : : 3<6	口縁横ナデ、以下横ヘラケズリ。内横ヘラミガキ、口縁摩耗	内外白褐色。内赤みがある	褐色粒若干含む、軟質
026-4	22	?	碗	底部欠、1/4残	42+ 81 : : 30 : : : 3<4	上横ナデ、下横ヘラケズリ	外明褐色、一部黒色。内赤褐色、下半黒褐色	微砂混
026-5	22	?	高坏	上下欠	48+ : : : : : 28 58+ 3<15	縦ヘラケズリ。内脚横ヘラケズリ	外赤彩。内淡褐色	砂粒混、わずかに軟質
026-6	22	6001	高坏	完形、口縁一部残	98 145 : : : 50 43 3<15	内外横ナデ、脚外縦ヘラケズリ。内横ヘラ	内外暗赤褐色。内黒斑	
026-7	22	?	埴	頸部以下欠、接合しない破片あり、口縁11.5cm残	66+ 142 82 : : : : 3<6	縦ヘラミガキ、器表凹凸目立つ。内横ヘラミガキ	内外赤彩	砂粒、小石、褐色粒多い、緻密
026-8	23	6001	甕	胴下半欠、口縁部1/4現存	173+ 223 204 283 : : : 5<11	上横ナデ、脚縁ヘラケズリ、口縁下5cm帯状に荒れる。内上横ナデ、下横ヘラケズリ後横ヘラミガキ。暗文状に残	内外黄褐色、胴中位黒斑	
026-9	23	?	甕	口縁欠、上底、最大1/3残	110+ : : 87 130 : : 52 5<9	斜めの荒いハケ、上横ナデ。内縦ヘラミガキ、下から5cm輪痕み痕残	内外褐色から暗褐色。内口縁近くスス付着	砂粒多い、硬い
026-10	23	6001	甕	胴部下半欠	211+ 204 176 283 : : : 5<9	上横ナデ、下縦ヘラケズリ	内外赤黄褐色。外一部黒色、口縁近く粘土付着	砂粒ややすくない、硬い
027-1	23	6001	甕	頸部以下欠、口縁10cm残、摩耗激しい	56+ 140 120 140+ : : : 5<12	横ナデ、斜めハケ、縦ヘラケズリ	内外暗褐色	

番号	種図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ:口径・頸径・胴径・脚径・底・厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
027-2	23	6001	甕	頸部以上欠、最大2/3残	253+ : : 274 : 82 7<9	斜めヘラケズリ。内縦ヘラケズリ後横ナデ	内外褐色。外大部分黒から黒褐色。内一部淡褐色	砂粒やや多い、硬い
027-3	23	6001	甕	胴下半欠、口縁から胴上半破片、口縁8cm残	170+ 200 216 224 : : 4<10	頸部以上横ナデ、胴縦ヘラケズリ。内上横ナデ、全体横ヘラミガキ、一部暗文状に残	内外褐色。全体に黒斑多い、口縁スス付着	砂粒目立たない、堅緻
028-1	24	6001	須恵甕	頸部から上欠	100+ : : 153 : 37 3<13		外暗灰色、上自然袖隠緑色から黄灰色。内灰色、底炭化物付着	
028-2	24	6001	手捏	遺物現存せず。完形、軸組み接合痕	44 51 : : : 45 5<10	指先による押さえ	内外赤みのある黄褐色。内全面スス付着	微砂少ない、やや脆い
028-3	24	6001	坏	底部欠、口縁4.5cm残	47 124 : 139 : : 5<9	上横ナデ、下横ヘラケズリ	外淡褐色、口縁暗褐色、下黒斑。内暗褐色	砂粒多い
028-4	24	6001	坏	底部中央欠	66 164 : 100 : : 4<8	上横ナデ、下横ヘラケズリ	外黄褐色。内暗赤紫色	微砂多い混、脆い、やや軟質
028-5	24	6001	高坏	接合部破片	33+ : : : 36 : :	縦ヘラケズリ	外赤彩。内暗褐色	砂粒やや目立つ、軟質
028-6	24	6001	台付鉢	鉢上半欠	51+ 104+ : : 55 30 4<16	縦ヘラケズリ、胴縦ヘラミガキ、台横ヘラケズリ	内外赤褐色。内やや淡い	褐色粒多い、砂粒混、やや軟質
028-7	24	6001	台付甕	接合部破片	42+ : : : 74+ 58 45+ 5<19	縦ヘラケズリ	内外赤褐色。内脚暗褐色から黒色	径7mm小石混、硬い
028-8	24	6001	甕	頸部から下欠	48+ 160 152 183+ : : 5<7	口縁横ナデ、胴部縦ヘラケズリ	内外赤みのある黄褐色	軟質
029-1	24	6001	甕	頸部のみ、下端摩耗	90+ 148+ 57 110+ : : 5<7	斜めヘラミガキ、沈線、羽状細文2段	外褐色。内赤彩上6cm、下暗赤褐色	砂粒多い、軟質
029-2	24	6001	甕	底部破片、1/4強残	34+ : : : 110+ : 30 7<12	縦ヘラケズリ後横ナデ	外褐色。内黒色	砂粒若干含む、焼き締まりよい
029-3	24	6001	高坏	坏、脚端欠	48+ 51+ : : : 36 39+ 5<11	縦ヘラケズリ、裾横ナデ	内外淡褐色	
029-4	24	6001	高坏	坏・脚端欠、器表剥落上ほど激しい	77 : : : 32 42+ 10<19	縦ヘラケズリ、裾横ナデ	外赤彩。内褐色	
030-1	25	6001	須恵蓋坏	上欠、1/9残、縁折り返し	30+ : : : : 140 4<6		内外灰褐色から灰白色。外一部自然袖	
030-2	25	1001	坏	ポイントのみ。完形、口縁細かく欠、器表荒れる	42 156 : : : 34底 5<8	外横ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	砂粒ややめだつ、焼きしまりよい
030-3	25	6001	坏	完形、3/4強残	43 120 : : : 34底 5<8	ヘラケズリ後横ナデ	内外暗褐色。外スス付着黒色。内やや光沢あり	砂粒若干含む、焼き締まりよい
030-4	25	6001	甕	胴以下欠、口縁15cm残	150+ 207 168 191 : : 5<10	口縁横ナデ、胴部縦ヘラケズリ。内横ヘラナデ、ヘラ先直	内外赤褐色。外上黒斑。内部分的に赤褐色	砂粒目立つ
030-5	25	6001	甕	口縁22cm残	83+ 202 188 204+ : : 5<10	胴部縦ヘラケズリ	内外暗褐色、部分的に赤褐色	微砂、微石多い混、小石を含む、緻密
030-6	25	6001	甕	胴上半欠	144+ : : : 140 : 64 5<12	縦ヘラケズリ、下端横ヘラケズリ	内外赤褐色、黒斑	小石多い、砂粒目立つ
030-7	25	6001	甕	底部破片	26+ : : : 42+ : 48 5<9	横、斜めヘラケズリ	外淡褐色。内赤褐色、黒斑	砂粒、小石多い、硬い
030-8	25	?	甕	ポイントのみ。底部破片、木炭炭	46+ : : : 189+ : 76 5<14	斜めヘラケズリ、上斜めハケ	外赤紫褐色、一部黒色線状。内赤褐色	砂粒、小石目立つ、硬い
031-1	25	6001	坏	ほぼ完形、底部中央欠、口縁6cm残	33+ 109 : 111 : : 3<9	横ナデ、胴部ヘラケズリ	外口唇暗褐色、以下スス付着黒色。内暗褐色	砂粒目立つ、やや軟質
031-2	25	6001	甕	口縁部破片、口縁8cm残	33+ 180 : : : : 5<11	横ナデ	内外赤褐色	砂粒目立つ、硬く脆い
031-3	25	1001	甕	底部	42+ : : : 202+ : 36 7<16	斜めヘラケズリ、器表荒れる	内外暗赤褐色、スス付着黒色	小石目立つ、硬い
032-1	25	6001	甕	頸部のみ	82+ : 78 105+ : : 5<9	ミガキ、縄文	外赤彩。内赤みのある黄褐色	微砂多い混、微石混、やや脆い
032-2	25	6001	須恵坏	完形、1/3残、縁折り返し	30 42 : : 114 : : 3<8		内外暗灰色	白微石、黒色粒若干混
032-3	25	6001	埴	実測時胴下位以下欠、現在頸部以上2/3現存	128+ 131 82 167 : : 3<5	口縁横ナデ、上縦ハケ後縦ヘラ。内口縁横ナデ、上縦ハケ後縦ヘラ、胴斜めハケ後横ヘラ	外赤褐色、一部黒色。内黄褐色、一部黒色	砂粒やや多い。硬い
033-1	25	6001	高坏	坏破片	51+ 136 : : : 39 : : 5<13	横ナデ、下横ヘラケズリ、縦ヘラケズリ	内外赤彩	褐色砂粒多い、やや軟質
033-2	25	6002	甕	頸部12cm残、無頸蓋に再利用	70+ : : 134 166 : : 5<10	斜めヘラケズリ。内横ナデ	内外褐色部分的にスス付着黒斑	砂粒細かい
033-3	25	6001	高坏	脚のみ、脚端8cm残	47+ : : : : 36 87 5<9	縦ヘラケズリ、横ナデ	外赤彩。内淡褐色	砂粒やや目立つ、軟質
033-4	25	6001	高坏	上下欠、接合部全周	47 39+ : : : 34 54+ 4<8	縦ヘラケズリ。内横ヘラミガキ、脚横ヘラケズリ	内外赤彩。内脚淡褐色	砂粒細かく良好

番号	縮図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・脚径・端底・厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
033-5	25	6001	高坏	接合部のみ	33+ 105+ : : 50 50 5<9	縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ、裾横ナデ	淡褐色	黒色砂粒多い、やや収質
033-6	25	6001	高坏	脚のみ、破片	33+ : : : : 100 4<8	縦ヘラナデ。内横ヘラケズリ	外赤彩。内褐色	
033-7	25	6001	甕	胴下半欠、火を受け脆い、口縁14cm残	71+ : 57 153+ : : 5<9	頸部以上横ナデ、胴縦ヘラケズリ、器表荒れる。内頸部以下横縞み痕3段残	外淡赤褐色から暗赤褐色。内黒褐色、一部淡褐色	砂粒目立つ
033-8	25	6001	甕	底部小破片、径推定	23+ : : 133+ : 36 3<9	ヘラミガキ、縦	外暗褐色。内褐色、黒斑	砂粒やや目立つ、やや収質
033-9	25	1001	甕	東コーナー出土。胴下半欠、胴全周、口縁2/3残	203+ 248 204 220 : : 5<12	上横ナデ、胴縦ヘラケズリ、下斜めヘラケズリ、横縞み痕4段	内外明褐色。外下赤みを帯びる、口縁スス付着黒変。内下薄い黒斑	砂粒目立つ
034-1	27	1001・1002	須恵大甕	床面から+3cm。南1002はポイントのみ。上下欠	355+ : : 305 : : 3<12	外叩き目斜め主、横縞状。内青褐色状	内外暗灰色。外自然釉一部流れる、灰緑色	
034-2	27	6002	須恵環	底部欠、1/8残、径推定	32+ 116 : : : : 3<5		内外灰色	よく磨ききれず微
034-3	27	6002	須恵高台付坏	遺物現存せず。底部破片	10+ : : : : 106 5<9		内外灰色	
034-4	27	6002	須恵高台付坏	完形	44 133 : : : 46 5<7		内外灰色から暗灰色	微砂をやや含む
034-5	27	6002	須恵ハソウ	胴部破片	70+ : 57 46 : : : 4<7	頸部と穿孔の高さに9cmに7本の沈線	外上自然釉。内頸部以上、底部自然釉	砂粒目立たず、硬い
034-6	27	6001	高坏	環のみ、口縁8cm残	44+ 162 : : : : 4<7	口唇横ナデ、以下横ヘラケズリ	内外赤彩	褐色粒、細砂混
034-7	27	6001	高坏	杯部破片、接合部から離れる	57 164 : : 40 : 4<13	底ヘラ先痕	内外赤褐色。内淡褐色、口縁黒斑	砂粒ややめだつ、硬い
034-8	27	6002	坏	底部欠、6cm残	32+ 146 : : : : 3<7	口縁横ナデ、以下横、斜め、縦ヘラケズリ	内外淡褐色。部分的に黒斑。内黒色	褐色粒混
034-9	27	6001	高坏	脚欠	32+ 160 : : : : 5<6	上横ナデ、下横ヘラケズリ	外黄褐色	
034-10	27	?	坏	遺物現存せず。034-11と接合か。底部欠	43+ 183 : : : : 4<8	横ヘラケズリ、口縁。内横ナデ	内外黄褐色	
034-11	27	6002	坏	完形、口縁14.5cm、底部完	42 184 : : : 35 5<10	口唇横ヘラミガキ、以下横ヘラケズリ。内横ヘラミガキ、縁刻	内外淡褐色。全面ミガキで暗褐色光沢	黒色粒わずかに混、やや収質
034-12	27	6002	甕	完形、口縁一部残、上げ底	25 216 : : : 148 4<12	ヘラミガキ、端から4cm丁度	内外黄褐色	砂粒少ない、やや収質
034-13	27	6001	甕	底部欠、口縁1/2残	49+ 128 : : : : 3<8	横ヘラミガキ、器表荒れる	内外黒色	砂粒目立たず。やや収質
034-14	27	6001	高坏	脚欠、口縁1/2部残、接合部から離れる	47 134 : : 32 : 4<12	横ヘラ。内ヘラ先痕	内外赤彩	砂粒やや多い、硬い
034-15	27	6001	高坏	環のみ、口縁5cm残	42+ 132 : : : : 4<8	横ナデ、横ヘラケズリ	内外赤彩、濃い	砂粒目立たない、硬い
034-16	27	6001	高坏	環のみ、最大で1/4残	43+ 146 : : 36 : 5<10	横ヘラケズリ。内横ヘラミガキ、ヘラ先版赤色強く残	内外赤彩。外かすれる	砂粒多い、硬い
034-17	27	6002	高坏	坏破片、上下欠	29+ 112+ : : 36 : 4<13	縦ヘラケズリ	内外赤彩	褐色粒、小石やや目立つ
034-18	27	6002	高坏	坏欠、1/4残、坏底面一部残	60+ : : : 49 49 4<18	縦ヘラケズリ、裾横ナデ	内外暗茶褐色、一部黒色	微砂をほとんど含まずやや収質
034-19	27	1006	高坏	ポイントのみ。坏部、胴端欠	72+ : : : 51 86+ 3<13	胴縦ヘラケズリ、裾横ナデ。内横ナデ、胴横ヘラケズリ、裾横ナデ	内外黄褐色。外部分的に黒変	微砂若干混、やや収質
034-20	27	6002	高坏	坏欠、坏底面一部残	44+ : : : 47 84 5<11	縦ヘラ	内外黄褐色	微砂若干混、やや収質
034-21	27	6001	高坏	坏欠、坏底面一部残	64+ : : : 36 103 4<27	横ヘラ、横ナデ	内外赤彩。内胴淡褐色	砂粒多い、2次火熱が脚上部亀裂はいる
034-22	27	6001	高坏	上下欠	55+ : : : 35 80+ 3<15	縦ヘラ、横ナデ	内外赤彩。内胴淡褐色	微砂混、やや収質
034-23	27	6002	高坏	上下欠	53+ : : : 33 78+ 3<13	縦ヘラ	外赤彩	
034-24	27	6001	器台	脚のみ、脚端5.5cm残、穿孔4	71+ : : : 38 109 4<8	縦ヘラミガキ、摩耗。内横ヘラミガキ、摩耗	淡褐色から黒褐色	砂粒やや目立つ、収質
034-25	27	6002	甕	頸部以下欠、口縁14.5cm残	47 242 192 202+ : : 4<8	横ナデ	内外暗褐色。外スス付着。内胴黒褐色	砂粒多い、小石混、脆い
034-26	27	6001・6002	甕	上半のみ、口縁19cm残	113+ 216 188 240+ : : 4<13	上横ナデ、胴縦ヘラケズリ	内外赤褐色から赤褐色。内下黒色	砂粒、小石非常に多い、硬い
034-27	27	1004	甕	床面から+8.8cm。胴下半欠、胴部1/3残、口縁3.5cm残	165+ 240 208 221 : : 3<12	上横ナデ、縦ヘラケズリ	内外明褐色。外黒斑	小石、砂粒多い
034-28	28	6001	甕	胴下半欠、口縁15.5cm残	133+ 206 180 210 : : 5<8	頸部以上横ナデ、胴部縦ヘラケズリ	内外淡褐色、部分的に暗褐色	長径7mm小石多数混、砂粒多い、堅緻

番号	坪図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ(口縁・頸後・胴径・脚底・厚さ) 70+ : 142 : 133 : 140 : ; 5<11	整形	色調・付着物	胎土・焼成
034-29	28	6002	甕	胴下半欠、最大2/3残		縦ヘラケズリ	内外暗褐色。外部分的にスス付着。内下明褐色	砂粒多い、脆い
034-30	28	1004	甕	ボイントのみ。底部、木葉底	25+ : ; : 110+ : ; 82 : 7<13	ヘラケズリ。内ヘラ先痕浅	外赤褐色。内黒色	砂粒多い、脆い
034-31	28	6001・6002	甕	胴下半のみ	25+ : ; : 102 : ; 72 : 5<11	上縦ヘラ、下斜めヘラ	外黄褐色。黒斑大きい。内暗褐色	砂粒目立たない、やや脆い
034-32	28	6002	甕	胴下半のみ	220+ : ; : 208 : ; 107 : 5<11	上頸い縦ヘラケズリ、下横ナデ、接合痕跡2段残。内横斜めヘラ整形、ヘラ先痕浅	外暗褐色。黒斑。内暗褐色から黒褐色	砂粒目立たない、やや脆い
034-33	28	1003・6002	甕	床面から+10cm。完形。底部欠多い	221 : 137 : 126 : 102 : ; 87 : 5<12	縦ヘラ、一部剥落	内外暗黄褐色。外黒斑若干	砂粒目立つ、やや脆い
035-1	28	6001	坏	完形、2片接合2/3強残。暗文あり	49 : 143 : ; : 14底 : 5<6	上ヘラミガキ、下横ヘラケズリ。内ヘラミガキ後暗文	外口緑黒色。下黄褐色。内黒褐色から黒色	微石若干混。軟砂質
035-2	28	6001	甕	完形、口縁1/4弱欠	79 : 157 : ; : 14底 : 5<8	口縁横ナデ、以下斜めハケ後横ヘラケズリ	外黒褐色。内暗褐色	砂粒若干目立つ、脆い
035-3	28	6001	鉢	上半のみ、口縁12cm残、2片接合	55+ : 174 : ; : 180 : ; 5<8	上横ヘラミガキ、下横ヘラケズリ。内横ヘラミガキ、下ヘラ先痕浅	外淡褐色。黒斑。内暗紫褐色	砂粒少ない、やや軟質
035-4	28	6001	甕	遺物現存せず。底部のみ	22+ : ; : ; : 57 : 5<8	縦ヘラケズリ。内亀裂多い	内外黒褐色	径1から3mm小石多い混
035-5	28	6001	甕	遺物現存せず。底部のみ	17 : ; : ; : 57 : 7<12	横ヘラ	内外黒褐色。一部暗褐色	微砂をわずかに含む
035-6	28	1001	甕	ボイントのみ。胴下部から下欠、口縁全周、下少ない	202+ : 187 : 165 : 181 : ; : 3<10	上横ナデ、下縦ヘラケズリ不鮮明	内外黄褐色。外一部赤黄褐色、黒色	砂粒やや多い、脆い
036-1	29	6001	坏	底部欠、口縁7cm残	41+ : 140 : ; : ; : 5<7	口縁横ナデ、以下縦ヘラケズリ。内ヘラミガキ厚剥離しい	外暗褐色。内赤みのある明褐色	褐色粒大きく多い
037-1	28	6001	須恵蓋坏	上下欠	27 : 173 : ; : ; : 3<6		内外灰色。自然粗若干	砂粒目立たない、軟質
037-2	28	6001	甕	上下欠、頸部11.5cm残	43+ : 42 : 139 : ; : 5<7	頸部横ナデ、胴横ヘラケズリ。内頸部横ヘラミガキ、横ナデ	内外赤彩。内頸部まで、以下暗褐色	砂粒、小石多い、やや軟質
038-1	31	6002	須恵高台付	完形、口縁わずかに欠	39+ : 102 : ; : 114 : 114 : 5<6		内外灰色	
038-2	31	6001	坏	底部中央欠、口縁1/2強残	46 : 150 : ; : ; 14底 : 5<7	横ヘラケズリ	外黄褐色。一部暗黄褐色。内暗赤褐色、一部黒褐色	微石若干混。細く軟砂質
038-3	31	6001	甕	底中央一部欠、口縁1/2強残。下欠多い	102 : 175 : 150 : 167 : ; 76 : 7<11	上横ナデ、中斜めヘラ、下横ヘラ	外赤褐色から黒褐色。一部スス付着黒色。内黄褐色。一部火を受け黒色	砂粒やや八尾迫い、やや内質
038-4	31	6001	甕	口縁1/3残、胴破片少ない	194+ : 212 : 219 : 269 : ; : 5<11	上横ナデ、下縦ヘラケズリ。内横ナデ、下斜めヘラ	内外黄褐色。外一部赤褐色から黒褐色	微石混
039-1	29	6001	器台	坏欠、穿孔3	70+ : ; : 51+ : 30 : 58 : 5<22	胴部穿孔3ヶ所、上縦ヘラミガキ、下横ヘラミガキ	内外赤彩。内胴淡褐色	細砂を若干含む
039-2	29	1001	炉器台	ボイントのみ。完形、胴部一部欠	125 : 104 : ; : 56 : 146 : 5<18	外ハケ後横ナデ。内輪微み痕残る	暗褐色	砂粒目立つ
040-1	30	6001	埴	頸部以上欠、1/4弱残、上底	30+ : ; 72 : 74 : ; 25 : 3<7	横ヘラケズリ後横ヘラミガキ、ヘラミガキ	内外赤彩	砂粒目立たない、やや軟質
040-2	30	6001	甕	上下欠	56+ : ; 43 : 109 : ; : 3<5	上縦から斜めハケ、下ハケ後横ヘラミガキ	内外暗赤褐色	
040-3	30	6001	器台	完形、一部欠、脚穿孔上下計6、中央縦	79+ : 85 : ; : 26 : 110 : 3<8	縦ハケ後斜めヘラ雑。内横ハケ、上横ヘラミガキ	内外褐色	砂粒多い、堅微
040-4	30	6001	甕	頸部以下欠、頸部10.5cm残	44+ : 204 : 168 : 175+ : ; : 5<10	横ナデ、胴縦ヘラケズリ	外赤褐色。口唇、胸スス付着。内暗褐色	褐色粒、小石、白砂混、やや軟質
040-5	30	6001	坏	完形、口縁わずかに欠	36 : 111 : ; : ; 57 : 4<6	横ヘラ。内縦ヘラミガキ、先欠ある	内外赤みのある黄褐色	微石多い混
040-6	30	6001	高坏	胴部1/4弱残	27 : ; : ; : 102 : 4<6	縦ヘラケズリ、縦横ナデ	淡褐色	砂粒目立つ
040-7	30	6001	甕	底部破片	27 : ; : 56+ : ; 50 : 3<7	横ヘラミガキ、斜めハケ	内外暗赤褐色	
040-8	30	6001	甕	底部破片、1/3残	28+ : ; : 146+ : ; 130 : 12<15	斜めヘラケズリ。内ヘラミガキ流い	外淡褐色から暗褐色。内赤褐色	砂粒多い、やや脆い
042-1	29	1002	甕	ボイントのみ。完形。口縁全周、胴一部欠、胴ゆがみがある	281 : 156 : 130 : 218 : ; 85 : 7<9	縦ヘラケズリ	内外褐色	微石多くざらつく
042-2	29	1006	甕	ボイントのみ。完形。口縁2/3残、胴欠多い	202 : 161 : 128 : 224 : ; 58 : 4<9	上横ナデ、中縦ヘラケズリ、底ヘラ整形。内横ナデ、胴ヘラ先痕若干残、底横ヘラ	内外赤褐色。外胴下半、口縁部黒色を帯びる。内頸部下黒斑	砂粒若干目立つ、脆い
042-3	29	1007	甕	ボイントのみ。胴下部から下欠、口縁一部欠、器表荒れる	209+ : 245 : 221 : 385 : ; : 7<9	頸部に輪痕み横目立つ。内頸部、胴、輪痕み横目立つ	内外赤褐色。外部分的に黒色	砂粒やや目立つ、やや軟質

番号	種類	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・端底・厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
042-4	29	1006	甕	床面から-1.2cm。頸部以下欠。頸部12cm残	65+ : 488 : 436 : 168+ : ; : 5<9	頸部以上横ナデ、胴斜めヘラケズリ、一部減。内横ヘラ、輪積み痕残	内外頸部以上赤褐色。胴淡褐色、黒斑。内一部スス付着	砂粒目立たない
042-5	29	1002	高杯	床面から+1.2cm。遺物現存せず。杯のみ、口唇摩耗	46+ : 430 : ; : 34 : ; 4<11	横ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	
042-6	29	1005	碗	床面から+13.8cm。完形。口唇わずかに欠	58 : 448 : ; 450 : ; 44底 : 4<9	上横ナデ、下横ヘラケズリ。内ヘラミガキ	内外赤彩。外上から4cmまで。内上から3.7cmまで	砂粒、褐色粒含む、やや硬い
042-7	29	1004	高杯	床面から+1.8cm。杯のみ、接合部から脚離れ、口唇ほとんど欠	48+ : 443 : ; : 36 : ; 4<9	口縁横ナデ、以下横ヘラケズリ。縦ヘラケズリ、輪積み痕残。内横ナデ、輪積み痕残	内外赤彩、火を受け一部黒変	砂粒多い
042-8	29	1001	碗	床面から+3.5cm。完形。口唇わずかに欠	75 : 447 : ; 449 : ; 44底 : 5<7	上横ナデ、中横ヘラケズリ、下ヘラミガキ	内外赤彩。外上から5.7cmまで	砂粒やや目立つ、やや軟質
043-1	28	6001	高杯	杯のみ、破片	40+ : 444 : ; : ; : 5<8	口縁横ナデ、以下横ヘラケズリ	内外赤褐色	砂粒目立たない
043-2	28	6001	高杯	上下欠	36+ : ; : 75+ : 39 : 49+ : 4<12	縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ	外赤彩。内暗褐色	砂粒目立たない
043-3	28	6001	甕	上下欠、胴部1/2強残	218+ : ; : 224 : ; : 5<8	縦ヘラケズリ、器表凹凸目立つ	内外暗赤褐色。外半分黒斑。内ト赤みを帯びる、上粘土付着	小石、砂目立つ
043-4	28	6001	甕	底部破片	40+ : ; : 466+ : ; 42 : 4<14	縦ヘラケズリ後横ナデ	外暗褐色。内暗灰色	砂粒やや目立つ、脆い
043-5	28	6001	甕	底部破片	21+ : ; : 410+ : ; 56 : 5<12	横ヘラケズリ	外暗褐色。内暗灰色	砂粒目立たない
043-6	28	6001	甕	胴下半のみ。内ネズミの彫形あり	71+ : ; : 472+ : ; 38 : 5<15	縦ヘラケズリ後横ナデ	内外暗灰色。内上赤褐色	砂粒やや目立つ、やや軟質
045-1	32	6001	甕	ボイントのみ。遺物現存せず。完形	272 : 481 : 466 : 227 : ; 30 : 4<9	上横ナデ、中縦ヘラケズリ、下横ヘラケズリ。内横ナデ、下斜めから横ヘラナデ	内外黄褐色、暗褐色から黒色の部分あり。内黒斑	砂粒多く粉っぽい
045-2	32	1002	鉢	ボイントのみ。口縁部わずかに欠ける。丸底に近い	81 : 421 : ; 438 : ; 48 : 5<8	口縁強い横ナデ、以下横ヘラケズリ、胴以下摩耗。内上から2/3強い横ナデ、ヘラミガキ、ヘラ先痕	外黒褐色、部分的に黒斑、赤褐色2カ所。内褐色、口縁半分黒褐色、口唇摩耗	砂粒少ない、やや軟質
046-1	32	6001	須恵器台付杯	底部、1/4残	15+ : ; : 402+ : ; 30 : 4<6	内外灰色	微砂混、堅緻	
046-2	32	6001	杯	完形。口縁2/3弱残	53 : 444 : ; : ; 44底 : 4<9	上横ナデ、下横ヘラケズリ、荒れている。内横ヘラミガキ	外黄褐色、黒斑。内淡赤褐色、黒斑	砂粒少なく粉っぽい
046-3	32	6001	高杯	杯のみ、口縁6.5cm残	36+ : 446 : ; 450 : ; : 8<9	上横ナデ、下横ヘラケズリ	外淡褐色、口縁スス付着黒色。内暗褐色、口縁黒斑	砂粒やや目立つ、やや軟質
046-4	32	6001	埴	頸部のみ、内湾し彫形になる	80+ : 463 : 493 : 469 : ; : 4<5	上横ヘラ、下横ヘラケズリ	内外淡赤褐色	細砂を含む
046-5	32	1002	高杯	脚欠、1/2残	43+ : 432 : ; : ; : 4<7	上横ナデ、下横ヘラケズリ。内ヘラミガキ滑らか	内外黄褐色	微石混、やや砂質
046-6	32	1010	杯	1/3残。器表剥落彫形不明瞭	53+ : 447 : ; : ; : 4<7	横ヘラケズリ。内横ナデ	外赤みのある黄褐色。内黒みのある黄褐色	微砂多く軟砂質
046-7	32	6001	高杯	杯のみ、口縁4cm残。最大1/4残	41+ : 428 : ; : ; : 3<6	上横ナデ、下横ヘラケズリ、断面三角の溝状擦痕3条残	外暗紫褐色。内黒色	砂粒細かく良好、硬い
046-8	32	6001	鉢	底部欠、口縁5cm残	40+ : 446 : ; : ; : 4<7	口縁横ナデ、胴縦ヘラケズリ	内外暗褐色から黒褐色	砂粒少ない
046-9	32	6001	甕	遺物現存せず。底部のみ	16+ : ; : ; : ; : 72 : 4<16	斜めヘラケズリ	内外暗灰褐色から黒色	微石多い混、堅緻
046-10	32	6001	台付甕	接合部破片	27 : ; : ; 48+ : 361 : 48+ : 7<9	縦ヘラケズリ	外暗褐色。内赤褐色	砂粒混
046-11	32	6001	器台	上下欠、穿孔1カ所残	40+ : 324 : ; : 28 : 54+ : 4<9	縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ	淡褐色から明褐色	白色小石、砂粒多い、硬い
046-12	32	1007	甕	ボイントのみ。完形。口縁一部欠。下欠多い	112 : 443 : 438 : 442 : ; 53 : 5<10	上横ナデ、中縦ヘラケズリ、下横ヘラケズリ	内外暗褐色から黒褐色	
046-13	32	6001	甕	遺物現存せず。底部、1/3残	23+ : ; : ; : ; : 422 : 5<12	縦ヘラケズリ	内外赤褐色	微砂混
046-14	32	6001・6002	甕	遺物現存せず。胴下半欠	268+ : 210 : 494 : 290 : ; : 4<11	頸部以上横ナデ	内外淡褐色。外胴黒斑。内部分的に黒褐色	
046-15	32	1003・6001	甕	046-19/21接合か。胴上半欠、胴最大27cm残	208+ : ; : 276 : ; 425 : 5<11	縦ヘラケズリ主体、胴下位輪積み痕付近横ヘラケズリ。内横ナデ、一部斜めナデ、輪積み痕残、頸部輪積み痕	内外淡褐色。外胴中位大きな黒斑。内一部赤褐色、黒褐色	砂粒やや目立つ、やや軟質
046-16	32	6001	甕	胴以下欠、口縁1/2強残ゆかみ大きい	97 : 450 : 430 : 472 : ; : 8<10	上横ナデ、中縦ヘラケズリ、下斜めヘラケズリ。内横ナデ、胴横ヘラ	内外赤褐色、口縁赤黄褐色、一部スス付着黒色	砂、微石若干混、やや軟質
046-17	32	6001	甕	胴下半欠、口縁9.5cm残	56+ : 458 : 444 : 464+ : ; : 5<8	横ナデ、胴縦ヘラケズリ	内外明褐色、弱い黒斑	砂粒やや多い、硬い
046-18	32	6001	甕	胴以下半欠、口縁1/2強残	452+ : 450 : 430 : 472 : ; : 4<11	上横ナデ、中縦ヘラケズリ、下斜めヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラミガキ、輪積み痕残	内外黄褐色。外部分的に赤褐色、一部スス付着。内部分的に淡褐色	砂粒目立つ

番号	標図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・脚底・厚さ 103+ : 143 : 133 : 149 : ; 4<11	整形 上縦ヘラケズリ。内横ナデ、脚横ヘラ	色調・付着物 内外黄褐色。外半分ほど黒色。内口縁一部黒色	胎上・焼成 微砂わずかに混、やや軟質
046-19	32	6001	甕	遺物現存せず。046-21と接合して046-15へ。胴下半欠、1/2残	40+ : ; : 132+ : ; 72 : 3<12	横ヘラケズリ。内横ナデ	内外淡褐色。外大部分スス付着黒色	砂粒やや多い
046-20	32	6001	甕	底部破片、3片接合	133+ : 142+ : 134 : 172 : ; 5<9	上横ナデ、中縦ヘラケズリ、下斜めヘラケズリ。内横ナデ、脚横ヘラ	内外黄褐色。外半分ほど黒色	
046-21	32	1001	甕	遺物現存せず。046-19と接合して046-15へ。上下半欠	68+ : ; : 170+ : ; 110 : 3<9	斜めヘラケズリ。内縦ヘラミガキ、下縦ヘラケズリ	内外赤みのある明褐色。内粘土付着	黒色粒わずかに混、やや軟質
046-22	32	1005	甕	胴上半欠	85+ : ; : 208+ : ; 118 : 3<10	縦ヘラケズリ、下端横ヘラケズリ。内横ヘラミガキ、下ヘラケズリ	内外淡褐色から暗褐色。内赤みを帯びる	砂粒混、やや軟質
046-23	32	6001	甕	胴上半欠	32 : 133 : ; 127 : ; 76 : 4<3	横ナデ	淡黄褐色	砂粒混、比較的硬い
047-1	33	1007	横短環	床面から+6cm。完形。口縁1/2残	76 : 143 : ; 145 : ; 34底 : 5<3	横ナデ	内外赤彩。外上から5cmまで	
047-2	33	1005	甕	床面から+4cm。完形	41+ : 112 : ; 32 : ; 3<3	口縁横ナデ、以下縦ヘラミガキ	内外赤彩	器表に小石多い
047-3	33	1017	高環	床面から+6.5~10.5cm。所のみ、接合部から脚離れる、口縁欠多い、亀裂目立つ	47 : 121 : ; 23 : ; 5<9	ヘラ整形後全体をナデる。内環ナデ、ヘラ先痕	内外赤彩	砂粒やや多く含む、焼きしまりよい
047-4	33	?	高環	脚欠、接合部から脚離れる	39+ : 142 : ; 38 : ; 3<9	ヘラ整形後全体をナデる	内外赤彩	
047-5	33	かみし	高環	かみし前出土、欠多い、接合部から離れる	40+ : 153 : ; : ; 5<6	ヘラ整形後全体をナデる	内外赤彩、暗褐色斑	
047-6	33	?	高環	脚欠、1/5残	60+ : 133 : ; 34 : ; 4<7	上ナデ、下縦ヘラケズリ。内環ナデ、ヘラ先痕	内外淡黄褐色	
047-7	34	1019	高環	床面から+10.5~21.5cm。脚欠、口縁1/3脚残、接合部から脚離れる	87 : 148 : ; 36 : ; 3<3	上横ナデ、中横ヘラケズリ、下縦ヘラケズリ。内環ナデ、ヘラ先痕、脚横ヘラケズリ	内外赤彩。内脚暗褐色	
047-8	34	1003	高環	床面から+3cm。口縁1/4残、脚上のみ残	38+ : ; : 33 : 35 : 3<13	縦ヘラケズリ、中央部は火を受け剥落。内横ヘラケズリ、横ナデ	外赤彩。内暗褐色、黒斑	砂粒目立たない、硬い
047-9	34	?	高環	脚のみ、脚端1cm残	49+ : ; : 29 : 98 : 3<15	縦ヘラケズリ、縮横ナデ。内横ヘラケズリ、縮横ナデ	外赤彩。部分内にかすめる。内赤褐色、中央黒斑	砂粒、褐色粒わずかに混、やや軟質
047-10	34	1012	高環	床面から+6cm。脚のみ、脚端1/4残	45+ : ; : 32 : 90 : 3<12	縦ヘラケズリ、縮横ナデ。内横ヘラケズリ	外赤彩。脚下に及ぶ。内赤褐色	黒色粒、砂粒やや目立つ、硬い
047-11	34	?	高環	脚のみ	67 : 122+ : ; 38 : 95 : 3<12	脚縦ヘラケズリ、縮横ナデ。内横ナデ、脚横ヘラケズリ、縮横ナデ	内外赤彩、脚端を除く	
047-12	34	1001	高環	床面から+7.5cm。环上欠	57 : 73+ : ; 41 : 97 : 3<14	脚縦ヘラケズリ、縮横ナデ。内横ナデ、脚横ヘラケズリ、縮横ナデ	内外赤彩。内脚端まで	
047-13	34	6001	高環	环上欠	82+ : 112+ : ; 38 : 98 : 5<15	上ナデ、下縦ヘラケズリ。脚縦ヘラケズリ、縮横ナデ	内外赤彩。内脚褐色	
047-14	34	1009	高環	床面から+2.5cm。环上欠、脚端一部残	100 : 136 : ; 32 : 90 : 4<9	ナデ、ヘラ先痕、脚横ヘラケズリ、縮横ナデ	内外赤彩。内脚端まで。脚内淡褐色	
047-15	34	1001	高環	床面から+7.5cm。完形、ほとんど無傷	106 : 131 : ; 33 : 95 : 4<25	ナデ、ヘラ先痕、脚横ヘラケズリ、縮横ナデ	脚縦ヘラケズリ、縮横ナデ。内横ナデ、脚横ヘラケズリ、縮横ナデ	
047-16	34	1013	高環	床面から+6.5cm。完形、口縁1/2脚残	99 : 152 : ; 32 : 101 : 5<14	脚縦ヘラケズリ、縮横ナデ。内横ナデ、脚横ヘラケズリ、縮横ナデ	内外赤彩。内脚淡褐色	
047-17	34	1010	高環	床面から+4.5cm。遺物現存せず。完形	94 : 139 : ; 35 : 92 : 5<15	上ナデ、下縦ヘラケズリ、脚縦ヘラケズリ、縮横ナデ	内外赤彩。内脚端まで、脚内淡褐色	
047-18	34	1004	高環	床面から+4cm。完形、口縁わずかに欠		ナデ、脚横ヘラケズリ、縮横ナデ	内外赤彩。内脚淡褐色	

番号	挿図・注記	器形	現状・特徴・備考	高さ:口徑:頸徑:胴徑:底徑:厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
047-19	34 6001	高坏	完形、口縁1/3欠、胴端一部のみ残	83 :49 : : : 42 39 4<19	上ナデ、下縁ヘラケズリ、脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ、裾横ナデ	内外赤彩。内脚縁褐色	
047-20	34 1018	高坏	床面から+5.5~11.5cm。完形、口縁1/2残、脚端1/2強残	101 :54 : : : 31 :100 5<8	上ナデ、下縁ヘラケズリ、脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ、ヘラ先直、脚端ヘラケズリ、裾横ナデ	内外赤彩。内脚縁褐色	
047-21	34 1002	高坏	床面から+8cm。完形、口縁一部欠、口縁楕円	98 :40 : : : 40 37 5<12	上ナデ、下縁ヘラケズリ、脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ、ヘラ先直、脚端ヘラケズリ、裾横ナデ	内外赤彩。内上から1.3cmまで	
047-22	34 ?	高坏	完形、口縁一部欠	105 :40 : : : 40 39 8<16	ヘラ整形後全体をナデる。内环ナデ、ヘラ先直、脚端ヘラケズリ、裾横ナデ	赤彩	
047-23	34 1008	高坏	床面から+3.5cm。完形、口縁1/4強残、脚完	99 :139 : : : 38 33 4<12	上ナデ、下縁ヘラケズリ、脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ、ヘラ先直、脚端ヘラケズリ、裾横ナデ	暗赤褐色	
047-24	34 1006	高坏	床面から+4cm。完形、口唇欠多い	87 :143 : : : 32 39 5<15	上ナデ、下縁ヘラケズリ、脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ、ナデ、脚端ヘラケズリ、裾横ナデ	暗赤褐色	
047-25	34 6001	台付壺	台のみ、1/2残	44+ : : : : 51 36 7<11	縁ヘラケズリ。内環ナデ、亀裂多い	内外淡褐色。内赤みを帯びる。裾粘上付着	小石、砂粒多い、灰質
047-26	34 1008	高坏	床面から+3.5cm。口縁1/2残、杯下位段あり	167 :249 : : : 58 :170 5<15	ヘラ整形後全体をナデる。内环ナデ、ヘラ先直、脚端ヘラケズリ、裾横ナデ	内外赤彩。内上から4cmまで	
047-27	34 1014	埴	床面から+4.5cm。頸部以上欠、脚完	91+ : : : : 158 : 4&底 5<6	上横ヘラミガキ、中横ヘラケズリ、下横ヘラミガキ	外赤彩、下1.2cm黒色	
047-28	34 1020	壺	床面から+18.5cm。頸部以下欠、2/3残	71+ :32 :160 201+ : : 5<10	上横ナデ、下縁ヘラケズリ	内外暗灰褐色。外スス付着黒斑	貝
047-29	34 1021	壺	床面から+10cm。口唇、底部欠、胴全周	141+ :142 :131 :175 : : 5<8	頸部横ハケ、全体にナデ。内頸部輪積み痕段で残	内外赤褐色から赤褐色	
047-30	34 1011	埴	床面から+3cm。胴下位以下欠。口縁一部欠	176+ :141 :126 :198 : : 5<9	上横ナデ、下縁めヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラケズリ、下横ヘラナデ	内外黒褐色から赤褐色	
047-31	34 1020	壺	床面から+18.5cm。胴中部から下欠、頸部全周、胴1片のみ	155+ :159 :128 221 : : 4<7	上横ナデ、下2段の斜めヘラケズリ。内横ナデ、脚端ヘラ	暗褐色	
047-32	34 6001	埴	胴下半のみ、上底、底部残、脚残り少ない	139+ : : : 278+ : : 51 5<9	ヘラケズリ後ヘラミガキ	内外暗褐色、黒斑、一部赤褐色	砂粒多い、硬い
047-33	35 6001	埴	口縁全周、下欠多い、底部わずかに上底	229 :172 :151 223 : 32 7<11	頸部以上横ナデ下段で残、稜線1/4周、粘土紐接合痕残、脚縁めヘラケズリ、下横ナデ、器表剥落。内頸部粘土紐巻き上げ痕	外褐色から赤褐色、中黒色、下暗褐色。内赤褐色から暗褐色	砂粒やや多い、小石やや立つ
047-34	35 6001	埴	完形、口縁、脚わずかに欠	254 :160 :133 217 : 30 3<8	上横、中斜め、下縁ヘラケズリ、弱い。内横ナデ、脚端ヘラ	外黄褐色から褐色。内暗褐色	
047-35	35 1016	手捏	ポイントのみ。完形、口縁1/2残	32 :65 : : 37 : 54 8<13	横ヘラケズリ	内外黄褐色	
047-36	35 1015	手捏	ポイントのみ。完形	26 :46 : : 47 : 19 8<10	横ヘラ若干	内外黄褐色	
047-37	35 6001	器台	杯のみ、1/4残、脚との接合痕残	36+ :32 : : : 42 : <13	口縁横ヘラミガキ、以下横、縁ヘラミガキ。内横ハケ後脚ヘラミガキ	外褐色から暗褐色。内暗褐色から黒褐色	砂粒目立たない、硬い
047-38	35 600?	壺	頸部のみ、火を受け風化、脆い	112+ :138+ 76 88+ : : 3<8	沈線、荒い結節	内外赤彩。内頸部まで、以下褐色	砂粒多い
047-39	35 6001	壺	頸部から下欠	98+ :116 :65 :133+ : : 5<8	口唇縄文、頸部結節3段、胴上部結節2段、ヘラミガキ	赤彩上から3.3cmから下	微石多い混
048-1	31 6001	器台	杯のみ、ほぼ全周、縦穿孔楕円形	28+ :76 : : : 26 : <9	斜めヘラミガキ	外淡赤褐色。内赤褐色、部分的に黒褐色、淡褐色	砂粒多い、黒色粒、小石微量混、硬い
049-1	35 6001	鉢	上半のみ、最大1/4弱残	57 :174 : : : : 4<6	羽状縄文3段沈線、横ヘラミガキ	内外褐色、下黒斑	砂粒目立つ、やや脆い
049-2	35 6001	壺	口縁小破片	17 : : : : : <8	ボタノ状貼付2個	淡褐色内外	砂粒多い、脆い
049-3	35 6001	壺	胴下半欠、口縁23cm残	97 :268 210 252+ : : 4<8	横ナデ、口縁小波状、頸部縄で押圧	外淡褐色、部分的にスス付着。内暗褐色から黒色	砂粒目立つ、焼き締まり感
049-4	35 6001	壺	底部破片	46+ : : : 222+ : 38 8<12	ミガキ。内小亀裂多い	外赤彩。内暗褐色、部分的に黒褐色	砂粒、小石多い、脆い
050-1	36 6001	須恵坏	完形、2/3残、縁折り返し	30 :87 : : 106 : 4&底 4<7		外灰白色から黄灰色。内暗灰色	
050-2	36 6001	坏	完形、器表大部分摩耗、口縁一部欠	41 :58 : : 105 : 4&底 4<7	上横ナデ、脚端ヘラケズリ。内横ヘラケズリ後脚ヘラミガキ	内外暗褐色	褐色粒、砂粒目立つ、灰質
049-3	36 6001	坏	遺物現存せず。底欠、1/4残	35+ :128 : : 130 : : 4<5	上横ナデ、下横ヘラミガキ	内外黄褐色、口縁部分的にスス付着黒色	

番号	種類	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ:口径・頸径・胴径・脚径・端底・厚さ	彫形	色調・付着物	胎土・焼成
050-4	36	6001	坏	遺物現存せず。完形	44 :130 : : :131 : : :4底 5<7	上横ナデ、下横ヘラミガキ	内外黒褐色から黒色	砂粒混やや軟質
050-5	36	6001	坏	底部中央欠、口縁6cm残	33+ :170 : : :176 : : :4<6	ヘラケズリ後ヘラナデ	内外濃黒灰色。外一部暗灰色	砂粒目立たない、わずかに軟質
050-6	36	6001	高坏	上下欠	50+ :122+ : : :56 :34+ 5<14	环横ヘラケズリ、胴縁ヘラケズリ。内环横ヘラミガキ、胴横ヘラケズリ	内外暗褐色。外一部淡褐色。内一部黒色	黒色粒目立つ
050-7	36	6001	高坏	坏欠、坏底一部残	43+ : : : :40 :30 3<10	上横ヘラケズリ、裾横ナデ	内外赤彩。内部分的にかすれる	微砂多い混
050-8	36	6001	高坏	坏欠、坏底一部残	70+ : : : :56 :105 7<14	上横ヘラケズリ、裾横ナデ。内胴横ヘラケズリ、裾横ナデ	内外黄褐色による赤化	
050-9	36	6001	高坏	口縁1/2欠、口唇欠多い、胴を擦って台付跡にしている	69+ :157 : : :53 : : :3<16	縦なヘラケズリ	内外黄褐色。外黒斑	
050-10	36	6001	手捏	底部、接合部から隠れる	21+ : : : :48+ : : :36 4<9	手捏ね	内外淡赤褐色	
050-11	36	6001	甕	胴下半欠、口縁17cm残、器表全体に摩耗	69+ :288 :254 271+ : : :7<9	頸部以上横ナデ、胴縁ヘラケズリ	内外明褐色	砂粒やや多い、軟質
051-1	36	6001	甕	胴下半欠、口縁8cm残	40+ :158 :140 :177 : : :3<8	横ナデ、胴斜めヘラケズリ	内外明褐色。外スス付着黒色。内一部暗褐色	砂粒細かく良好
051-2	36	6001	高坏	坏欠	40+ : : : :34 :104+ 3<12	上横ヘラケズリ、裾横ナデ	赤彩	砂粒をほとんど含まない
051-3	36	6001	甕	胴下半欠	100+ :340 : : : :7<9	上横ナデ、粘土組接合直残、胴縁ヘラケズリ。内一部縦ヘラケズリ後横ヘラミガキ、ヘラ痕跡残	外黒褐色、部分的に黒斑。内明褐色	小石目立つ、わずかに軟質
051-4	36	6001	甕	胴下半欠	79+ :172 :142 :175+ : : :5<8	頸部以上横ナデ、端縁直残、胴縁ヘラケズリ。内横ヘラケズリ後横ナデ、ヘラ先直残	内外赤褐色	砂粒、小石多く移動直残、硬い
051-5	36	6001	鉢	完形、口縁1/2強残	46 :37 : : : :52 4<9	縦ハケ。内斜めヘラ	内外明褐色	
052-1	37	6001	甕	口縁6割、胴下半一部欠	220 :179 :155 :225 : : :50 5<8	口縁縁ハケ後横ナデ、胴縁めハケ後胴中位横ヘラケズリ、下斜めミガキ。内口縁縁ハケ、胴横ヘラナデ	内外明褐色。外淡い黒斑数カ所。内黒斑1カ所	砂粒やや目立つ、脆い
052-2	37	6001	甕	口縁拵本		細文、刻み		
053-1	37	6002	坏	完形、底部1/2強、口縁2cm残	40 :110 : : : :50 5<8	横ヘラケズリ、器表磨耗剥落。内横ヘラミガキ	外淡褐色から黒灰色。内灰褐色から黒色	砂粒細かく良好、やや軟質
053-2	37	6002	手捏	底部破片、上欠、本蓋底	12+ : : : :32+ : : :34 5<9	横ヘラケズリ。内横ナデ	内外淡褐色	砂粒少ない、やや軟質
053-3	37	6002	甕	底部破片	62+ : : : :130+ : : :40 :1<18	横ヘラケズリ。内横ナデ	内外暗灰褐色	砂粒やや目立つ、やや軟質
053-4	37	6002	甕	底部破片、本蓋底	30+ : : : :148+ : : :36 5<20	横ヘラケズリ、下横ヘラケズリ。内横ヘラナデ	内外赤褐色	小石、砂多い、硬い
053-5	37	?	高坏	脚、上下欠	74+ :34+ : : :54 72+ 3<16	环横ヘラケズリ、胴縁ヘラケズリ。内环横ヘラミガキ、胴横ヘラケズリ	外赤褐色。内淡褐色	砂粒多い、軟質
053-6	37	6002	高坏	脚のみ、胴端6cm残	58+ : : : : :52 42+ 3<10	縦ヘラケズリ、裾横ナデ。内横ヘラケズリ	内外淡赤褐色	砂粒やや目立つ、軟質
055-1	37	6001	甕	頸部以下欠、口縁7.5cm残	48+ :198 :160 :186+ : : :4<7	横ナデ	内外暗灰褐色。外濃い	砂粒目立つ、脆い
055-2	37	6001	甕	胴上部から上欠	152+ : : : :222 : : :50 4<7	上横ヘラケズリ、下横ヘラケズリ	内外暗褐色。外一部黒褐色	
055-3	38	6001	蓋	縁欠、つまみ径2.1cm	18+ : : : : :104+ 3<5	横ナデ	内外赤彩	
055-4	38	6001	高坏	脚欠、口縁わずかに残	50+ :132 : : : :4<6	上ナデ、中横ヘラケズリ、下横ヘラケズリ、器表剥落多く不明瞭。内横ナデ、下斜めヘラ	内外赤彩	微砂混、やや軟質、焼き締まり悪い
055-5	38	6001	高坏	坏下部から下欠	30+ :145 : : : : :3<8	上横ヘラケズリ、下横ヘラケズリ	内外赤彩	微砂若干混、やや軟砂質
055-6	38	6001	高坏	口縁部破片	38+ :125 : : : :146 : : :4<6	横ナデ		
055-7	38	6001	高坏	坏のみ、器表磨れ剥落目立つ	34+ : : : : : : :4<5	口唇横ナデ、以下ヘラケズリ目立たない	内外赤彩	
055-8	38	6001	高坏	坏下部以下欠、1/4残	32+ :146 : : : : :4<5	上ナデ、中横ヘラケズリ、下横ヘラケズリ	内外赤彩	小石若干混
055-9	38	6001	高坏	坏のみ、器表磨れ剥落目立つ、口縁8.5cm残	52+ :136 : : : :36 : : :5<7	口唇横ナデ、以下横ヘラケズリ、縦ヘラケズリ	内外赤彩	褐色粒目立つ、やや軟質
055-10	38	6001	高坏	坏上、脚部欠	51+ :139+ : : : :40 : : :4<8	上斜めヘラケズリ、胴縁ヘラケズリ	内外赤彩	微砂混
055-11	38	6001	高坏	実測時完形、現状胴端欠	103 :136 : : : :40 91 5<21	上横ナデ、下横ヘラケズリ、胴縁ヘラケズリ。内环横ヘラミガキ、ヘラ先痕、胴縁ヘラケズリ	赤彩、胴内黒色	
055-12	38	6001	手捏	完形	20 :20 : : : : :38 3<7	手捏ね		
055-13	38	6001	甕	頸部以下欠、口縁9cm残	50+ :160 :136 :138+ : : :5<8	口唇横ナデ、以下わずかにヘラケズリ残。内横ナデ	内外淡褐色	黒色砂粒多い、硬い

番号	押国	注記	器形	現状・特賞・備考	高さ・口径・頸径・胴径・端底・厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
055-14	38	6001	甕	底部破片	25+ : : : 322+ : : 50 5<13	斜めハケ後斜めヘラケズリ。内斜めハケ	外灰褐色、黒斑。内暗赤褐色から黒色	砂粒多い、硬い
055-15	38	6001	甕	底部破片	23+ : : : 310+ : : 52 5<10	縦ヘラケズリ。内横ヘラナデ	内外黒褐色	砂粒多い、硬い
055-16	38	6001	甕	底部のみ	32+ : : : 302+ : : 22 3<10	斜めヘラケズリ。内横ヘラナデ	外暗褐色から黒色。内暗赤褐色	砂粒多い、硬い
056-1	38	?	甕	上下欠	231+ : : : 241 : : 4<8	上横、斜めハケ、下斜めヘラミガキ。内上横ハケ、下横ヘラナデ	外黒色、下黒褐色。内上褐色、下黒褐色	砂粒多い、硬く、脆い
056-2	38	?	甕	胴下半欠、胴部1/4、口縁5cm残	80+ : 384 : 160 : 228 : : 4<6	口縁横ナデ、胴斜めナデ。内横ヘラケズリ	外黒色から黒褐色。口縁スズ付着。内淡褐色	砂粒多い、硬い
056-3	38	6001	甕	胴下半欠	30+ : 312 : : 332 : : 4<6	縦なヘラケズリ、器表凹凸激しい。内縦ヘラナデ	内外黒色から暗褐色	やや軟質
056-4	38	?	甕	胴下半のみ、ゆがみが大きい	70+ : : : 376+ : : 50 5<12	火を受け器表剥落。内斜めヘラケズリ	外暗褐色から黒色 スズ付着黒色。内褐色から暗褐色	砂粒多い、硬い
056-5	38	6001	甕	底部	49+ : 203 : 160 : 228+ : : 4<7	上横ナデ、下横ヘラ	外赤みのある淡褐色。内濃い灰褐色	砂粒多い、硬い
056-6	38	?	甕	完形、口縁、胴部分的に欠	209 : 355 : 141 : 194 : : 58 5<14	頸部以上斜めハケ後横ナデ、胴縦ハケ、下斜めナデ、底部近く横ヘラケズリ。内横ナデ、輪轆み痕	内外淡赤褐色。外胴下位薄い黒斑	小石多い
057-1	38	6002	須恵盃	上欠、端5.5cm残	24+ : : : : : 3<6		暗灰色	胎土細かく、脆い
057-2	38	6001	模範杯	下欠、1/5残	32+ : 351 : : 343 : : 4<6	上横ナデ、下横ヘラケズリ	内外赤彩、部分的にスズ付着黒斑	微砂少ない
057-3	38	6001	杯のみ	口縁10.5cm残	22+ : 328 : : : 30 : : 3<9	口唇横ナデ、以下横ヘラケズリ	内外赤彩	砂粒目立たない、硬い
057-4	38	6001	高杯	杯のみ、口縁6cm残	39+ : 338 : : : 34 : : 3	横ナデ、横ヘラケズリ、縦ヘラケズリ。内横ヘラミガキ	内外赤彩。内濃い	砂粒少ない、硬い
057-5	38	6001	高杯	杯1片のみ、胴径がでる程度	39+ : : : 50 32 32 3<12	縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ、横ナデ	内外赤彩。内脚淡褐色	
057-6	38	6001	高杯	脚端1/4残	48+ : : : : 34 : 36 : 7<12	縦ヘラケズリ、裾横ナデ。内横ヘラケズリ、裾横ナデ	赤彩、脚下に及ぶ	
057-7	38	6001	高杯	杯上欠	53+ : : : : 70 : 39 : 43 3<10	縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ、横ナデ	内外赤彩。内脚淡褐色	褐色粒、砂粒目立つ、やや脆い
057-8	38	6002	杯	底部欠、口縁2/3周残	47 : 32 : : : : : 5<3	横、斜めハケ後横ミガキ。内横ヘラミガキ	外橙褐色、一部黒斑。内赤褐色	小石、砂若干目立つ、硬い
057-9	38	6002	甕	底部破片、わずかに上底、器表荒れ不明瞭	21+ : : : : 312+ : : 34 7<15		内外淡褐色。内暗赤褐色	小石やや目立つ、硬い
057-10	38	6001	甕	口縁部破片	57 : 360 : 356 : 374+ : : 5<12	口縁横ナデ、胴部横ヘラケズリ、輪轆み痕若干残。内頸部編織み痕、下粘土紐痕、上横ナデ、下横ヘラケズリ	内外淡褐色、下暗褐色。外スズによる黒斑紋カ所	砂粒やや目立つ
057-11	38	6001	甕	底部破片	50+ : : : : 348+ : : 35 5<14	横ヘラケズリ、上1.5cmほど器表剥落。内ヘラミガキ	内外暗褐色。外一部暗赤褐色。内一部淡褐色	砂粒やや多い
058-1	39	?	甕	ボイントのみ。胴上部から上欠	121+ : : : : 331 : : 50 3<10	横ナデ。内輪轆み痕、斜め縦痕	外黒色塗彩。内黄褐色、部分内に赤色から黒色	
058-2	39	?	甕	ボイントのみ。胴部以上欠、器表摩耗	143+ : : : : 220 : : 33 5<7	胴中位輪轆み痕。内下縦擦痕	内外黄褐色、一部赤みを帯びる	砂、微石の混入激しい
058-3	39	?	甕	ボイントのみ。上下欠、亀裂多い	109+ : 388+ : 350 : 380 : : 4<6	頸部に5段輪轆み痕跡を残す、弱いハケ	内外橙褐色	
058-4	39	?	甕	ボイントのみ。底部穿孔、口縁1片のみ、木葉底	211 : 202 : 361 : 230 : : 3<12	小波状口縁、頸部に段、横ナデ。内輪轆み痕	内外黄褐色。外胴下半黒色を帯びる	微石の混入激しい
059-1	40	6001	杯	口縁破片、口縁5cm残	27+ : 316 : : 320 : : 4<5	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ヘラミガキ	内外淡褐色、黒斑	砂粒目立つ、硬い
059-2	40	6001	高杯	杯のみ、破片	41+ : : : : : 4<6	器表やや荒れる	内外赤彩	砂粒多い、脆い
059-3	40	6001	器台	接合部のみ、穿孔3カ所	22+ : : : : 35+ : 34 : 46+ 3<9	ヘラミガキ縦	内外赤彩。内脚淡褐色	砂粒やや多い、やや軟質
059-4	40	6001	高杯	杯上・胴端欠、器表荒れる	60+ : : : : 36+ : 31 : 32+ 3<10	縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ	内外赤彩	小石多い
059-5	40	6001	高杯	胴、上部粘土接合痕菊花状に残、罐目37x42横円	71+ : : : : 47 : 40+ : 38 4<11	縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ、裾横ナデ	淡褐色	やや砂質
059-6	40	6001	甕	下半欠、口縁8cm残、腕成後穿孔3	62+ : 265 : : 228 : : 3<10	上横ナデ、以下縦	内外淡褐色、わずかに黒斑	砂粒少ない、やや軟質
059-7	41	6001	甕	頸部以下欠、口縁10cm残	40+ : 384 : 350 : 366+ : : 5<8	頸部以上横ナデ、胴横ヘラ。内頸部接合痕	外黒褐色から黒色。内淡褐色から暗褐色	小石やや目立つ、硬い
059-8	41	6001	甕	頸部以下欠、口縁7cm残	39+ : 342 : 330 : 334+ : : 3<11	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ヘラナデ	内外暗褐色から黒褐色	砂粒目立つ、脆い
059-9	41	6001	甕	胴下半のみ、上底	32+ : : : : 315+ : : 32 3<11	横ヘラケズリ。内ヘラミガキ縦、ヘラ先直線	内外褐色、部分的に黒褐色。スズ付着黒色部分多い	小石混、砂粒目立つ、硬い
059-10	41	6001	甕	底部破片、底部1/3胴残、上底	25+ : : : : 70+ : : 32 7<12	縦ヘラケズリ。内横ナデ	内外淡褐色。内一部黒みを帯びる	砂粒目立つ、軟質

番号	採国	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・胴底・踵底・厚さ	彫形	色調・付着物	胎土・焼成
059-11	41	6001	壺	口縁拓本		粘土紐、刻み		
059-12	41	6001	壺	口縁拓本		粘土紐、刻み		
059-13	41	6001	壺	胴部拓本		2段彫形、刻み		
060-1	41	1001・ 6001	須恵瓶	完形、口縁、胴上部一部欠	147 40 43 139 ; 4底 4<10		外上一部自然釉。内口縁一部自然釉	
060-2	41	6001	甕	口縁部破片	75+ 204 195 267+ ; 3<8	櫛ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、櫛ヘラ	内外黄褐色	微砂混、やや軟質
060-3	41	1009	甕	胴下半欠、器表剥落、荒れる	100+ 222 192 212 ; 3<7	上横ナデ、胴縦ヘラケズリ	外赤褐色から暗褐色。内暗褐色から黒褐色	砂、小石多い、やや脆い
060-4	41	1013	甕	胴下半欠、口縁155mm残	97+ 240 216 250 ; 5<8	上横ナデ、胴縦から斜めヘラケズリ。内上横ナデ、胴縦ヘラミガキ	内外淡褐色、下暗褐色、ススによる黒斑数カ所	砂、小石多い
060-5	41	6001	甕	胴下半欠、口縁100mm残	64+ 110 101 138+ ; 3<9	櫛ナデ、ヘラケズリ	内外淡褐色から暗褐色	砂粒少ない、やや軟質
060-6	41	1004・ 6001	甕	頸部以上欠	343+ ; 374 ; 136 3<20	縦ヘラケズリ。内縦ヘラケズリ、部分的に器表剥落	内外暗赤褐色。外上大きな黒斑。内下暗灰褐色	褐色粒目立つ、黒色粒わずかに混
060-7	41	1011・ 1013	甕	胴下半欠、口縁1/2強残、カマド内出土	102+ 229 195 182 ; 3<9	口縁部分的に粘土付着、上横ナデ、中縦ヘラケズリ、下縦ヘラケズリ。内横ナデ、胴横ヘラ	内外黄褐色、一部赤みを帯びる。外胴一部黒変	微石多い、やや脆い
060-8	41	?	甕	頸部のみ	92+ 138+ 48 102+ ; 8	縦ヘラミガキ、沈線、縄文3段	内外赤彩。内頸部まで、以下褐色	
061-1	41	6001	高杯	胴欠、口縁部分的に欠	68+ 215 ; 36 ; 3<8	縦ヘラミガキ	口縁から2.6cm赤彩。内赤彩	砂粒目立つ
061-2	41	6001	壺	胴部破片、再利用品か、上擦っている	33+ ; 300 ; 9	櫛ヘラミガキ	赤彩	砂粒少ない、硬い
061-3	41	6001	器台	胴上部のみ	51+ ; 50 77+ 3<13	縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ後横ナデ	暗褐色から黒褐色	砂粒少ない、硬い
061-4	41	6001	甕	胴下半欠、口縁1/4欠、頸部全周	65+ 118 110 127 ; 3<8	斜めハケ、口縁横ナデ	外暗褐色、胴大部分スス付着黒色。内暗赤褐色。部分的に黒斑	砂粒多い、硬い
061-5	41	6001	甕	胴下半のみ、上底	74+ ; 156+ ; 34 5<9	縦主体ヘラケズリ後ヘラミガキ。内斜めハケ	内外赤彩。外火を受け黒変。内痕跡的	砂粒多い、硬い
061-6	42	6001	甕	胴下半欠、頸部1/2、口縁4.5cm残	140+ 216 186 206 ; 3<7	斜めヘラケズリ、ナデ、輪痕み痕6段、口唇縄でA波状。内横ナデ、小竜裂多い	外暗褐色から黒色。内淡褐色、部分的に暗褐色。胴上部スス付着	砂粒多く焼き締まり悪い、軟質
061-7	42	6001	甕	上下欠、胴部で最大1/3強。頸部以上1/4弱残	115+ 212+ 190 220 ; 5<8	斜めヘラケズリ、ナデ、輪痕み痕5段以上	外暗褐色から黒色。内淡褐色、部分的に暗褐色。胴上部スス付着	砂粒多い、軟質
061-8	42	6001	甕	胴中部以下欠、口縁一部欠、頸部全周	99+ 186 150 240+ ; 3<6	斜めハケ。内口縁斜めハケ後横ナデ	外赤褐色から黒褐色。内赤褐色	
061-9	42	6001	甕	胴下部破片	35+ ; 214+ ; 3<8	斜めハケ後部分的に横ヘラミガキ	外暗褐色から黒色。内淡赤褐色	砂粒目立つ、硬い
061-10	42	6001	模範坏	底部欠、最大4cm残	37+ 128 ; 120 ; 3<7	上横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ後横ミガキ	内外淡褐色	砂粒目立たない、わずかに軟質
061-11	42	6001	高坏	口縁破片、口縁6cm残	41+ 116 ; 37 ; 3<12	櫛ナデ、横ヘラケズリ、縦ヘラケズリ	内外赤彩、濃い	砂粒目立つ、硬い
061-12	42	6001	甕	頸部以下欠、口縁9.5cm残	44+ 220 190 204+ ; 3<12	櫛ナデ	外スス吸着黒色。内淡褐色、口縁近く黒斑	砂粒多い、硬い
061-13	42	6001	甕	頸部以下欠、口縁5.5cm残	32+ 158 136 183+ ; 3<7	櫛ナデ	内外黒褐色から黒色、スス付着	砂粒やや多い、硬い
062-1	35	1001	須恵蓋坏	ボイントのみ。完形、つまむ径3.5cm	35 ; 183 3<8		黄灰色、部分的に暗灰色	微石多い
062-2	35	1002・ 6001	甕	胴破片、最大1/2弱残	197 ; 208+ ; 3<9	縦ヘラケズリ。内胴接合痕段で残、段横ヘラケズリ、上下ヘラナデ	褐色粒、砂粒需差に目立つ、硬い	
064-1	39	6001	台付鉢	065-?と接合	85 106 ; 41 59 3<8	縦ハケ後斜めヘラ彫形、凹凸が激しい。内ヘラミガキ、平滑	外赤みのある黄褐色、台部黒斑。内やや赤みのある黄褐色、台部黒斑	白色細砂、径2mmほどの小石を多く含む
065-1	42	?	甕	胴下部から下欠、口縁1/2弱残	177 220 188 214 ; 3<7	上横ナデ、下縦ヘラケズリ	外黄褐色、部分的にスス付着黒色。内赤褐色	微石を多く含む、堅微
065-2	42	6001	鉢	底部欠、2/5残	138+ 214 202 205 ; 5<7	上横ナデ、下縦ヘラケズリ、縦の痕痕多く目立つ	内外赤彩。外全面スス付着黒変。内帯状にスス付着こく片	
065-3	42	6001	甕	完形、口縁1/2弱残	47 82 ; 28 3<5	櫛ヘラ、上に輪痕み痕跡が沈線になって残	内外淡褐色。外わずかに黒斑	
065-4	42	?	甕	底部破片	30+ ; 118+ ; 71 3<12	斜めヘラケズリ、厚耗激しい、底部周辺特に厚耗。内中央亀裂激しい	外黄褐色から暗褐色、黒斑。内暗褐色から黒灰色	砂粒多い、硬い

番号	插图	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・脚径・底・厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
066-1	42	6001	高坏	脚欠	45+ :148 ; ; ; : 3<8	上横ナデ、中横ヘラケズリ、下縦ヘラケズリ。内横ヘラ、ヘラ先縦残	内外赤彩。外黒斑。内やや薄い	貝、緻密
066-2	42	6001	高坏	坏部欠	52+ ; ; ; : 37 :32 :4<14	上縦ヘラケズリ、下横ナデ。内横ヘラケズリ、下横ナデ	外赤彩。内赤褐色	細砂を若干含む
067-1	42	6001	鉢	完形、口縁部分的に欠、胴部少ない、穿孔2個一対のみ現存、口唇下、胴部上段	120 :154 ; :175 ; :57 :5<14	底部近く縦ヘラケズリ。内ヘラミガキ	黄褐色	
067-2	42	6001	器台	接合部小破片	25+ ; ; ; : 30 :55+ :4<6	斜めヘラケズリ。内斜めハケ	暗褐色	砂粒目立たない
068-1	43	6001	須恵蓋坏	ボイントのみ。完形、ソマミ付き、1/3強残	33 ; ; ; : :161 :3<7		内外灰色から灰白色	砂粒多い、やや軟質
068-2	43	6001	高坏	杯部	36+ :132 ; ; ; : :3<5	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩。内上から1.4cmまで明褐色	
068-3	43	6002	高坏	脚のみ、下端8cm残	52+ ; ; ; : 50 :114 :7<8	上縦ヘラケズリ、下横ナデ	明褐色	砂粒、褐色粒混。軟質
068-4	43	6001	器台	上下欠、小破片	44+ ; ; ; : :46+ :30 :30+ :4<11	縦ヘラケズリ	外赤彩。内暗褐色	砂粒多い、硬い
068-5	43	?	坏	底部欠、1/3残	41+ :127 ; ; ; : :3<6	横ヘラケズリ後ヘラミガキ	内外明褐色。外底部近く黒色	褐色粒混、微砂若干混、やや軟質
068-6	43	6002	甌	胴部以上欠、底部1/3残	42+ ; ; : :128+ ; :37 :5<14	ヘラケズリ、摩耗している。内ヘラミガキ難、ヘラ先直多い	外淡赤褐色。内暗褐色	砂粒若干混、やや軟質
068-7	43	6001	甌	胴下部のみ、2/3残	102+ ; ; : :210+ ; :106 :6<8	縦ヘラケズリ後下半横ヘラケズリ。内横ヘラミガキ	内外淡褐色から暗褐色。内ヘラミガキ部分やや光沢あり	砂粒多い、やや脆い
068-8	43	6001	甌	胴上半欠、1/4残	130+ ; ; : :210+ ; :50 :8<10	縦ヘラケズリ細かい、底部近く横ヘラケズリ	外淡褐色、上スス付難褐色。内やや赤みのある淡褐色、ヘラミガキ部分は光沢あり	砂粒目立つ、軟質
068-9	43	6001	甌	口縁部破片	81+ :312 :258 ; ; : :7<10	上横ナデ、胴縦ヘラケズリ	外淡褐色から紫褐色。内明褐色、胴暗褐色	砂粒混
068-10	43	6001・6002	甌	逆物現存せず。完形	293 :278 :236 :232 ; :100 :7<9	上横ナデ、下縦ヘラケズリ。内横ヘラ後縦ヘラミガキ、下横ヘラケズリ	内外黄褐色。外1/3ほど黒斑	横石若干混
068-11	43	6001	甌	底部	76+ ; ; : :208+ ; :32 :6<12	横ヘラ	外暗褐色、部分的に黒褐色、黒色。内黄褐色から赤褐色	細砂若干混
069-1	43	6001	高坏	068-6001と接合。口縁欠、初跡?2ヶ所	75+ :129+ ; ; : 36 :94 :7<16	上横、下縦、胴縦ヘラケズリ、裾横ナデ。内杯ヘラミガキ、脚横ヘラケズリ、裾横ナデ	内外赤彩。内脚内を除く	微石混、粒がやや粗い
071-1	45	?	須恵蓋坏	上欠、端4.6cm残	21+ ; ; : :107 ; :30 :4<5		淡灰色	やや軟質
071-2	45	6002	坏	底部欠	51+ :137 ; ; ; : :5<7	上横ナデ、横ヘラケズリ。内ヘラミガキ	外暗褐色から黒色。内黄褐色	横石若干混
071-3	45	6002	甌	下半欠、口縁10cm残	46+ :160 ; ; ; : :8<9	横ナデ。内横ヘラミガキ	内外淡褐色。外スス若干付難。内スス多い	砂粒目立たない、やや軟質
071-4	45	6002	甌	口縁破片	20+ :166 ; ; ; : :10	二重口縁、握り糸、横ヘラミガキ。内横ヘラミガキ	内外赤彩	砂粒、小石目立つ、やや軟質
071-5	45	6002	甌	底部、1/4残	25+ ; ; : :150+ ; :110 :8<21	斜めヘラケズリ	淡灰褐色	砂粒目立たない、硬い
072-1	45	6002	須恵蓋坏	上欠、1/6残	26+ ; ; : ; :59 :3<4		内外青灰色	白微石を比較的多く含む
072-2	45	6002	坏	完形、口縁1/2強残	39 :80 ; :54 ; :丸底 :5<7	横ナデ、横ヘラケズリ。内斜めヘラ、放射状	内外やや赤みを帯びた暗褐色。外下黒斑	
072-3	45	6001	坏	完形、口縁1/2弱残	38 :112 ; :109 ; :丸底 :4<6	上横ナデ、横ヘラケズリ。内横ヘラケズリ後横ミガキ	内外黄褐色	
072-4	45	6001	甌	胴上半欠、1/4残	46+ :129 :118 :127 ; ; : 6<7	上横ナデ、横ヘラケズリ。内横ナデ、胴横ヘラケズリ	外赤みのある黄褐色、一部黒色。内黒みを帯びる黄褐色	微砂混、脆い
072-5	45	6002	高坏	脚欠、1/3残	56+ :182 ; ; : :72 ; :<15	横ヘラミガキ、器表剥落多い	内外赤彩	
072-6	45	6002	高坏	完形、口縁2片、脚完	87 :138 ; ; : 51 :99 :4<17	上横、下縦、胴縦ヘラケズリ、裾横ナデ。内杯ヘラミガキ、脚横ヘラケズリ、裾横ナデ	内外黄褐色	砂粒少ない、堅緻
072-7	45	6001	高坏	脚上部のみ	38+ ; ; : :38 :50 :6<12	縦ヘラケズリ。内縦ヘラケズリ後横ナデ	外赤彩。内淡褐色	砂粒少ない、硬い
072-8	45	6002	甌	底部	29+ ; ; : :85 ; :49 :1<7	ナデ	内外赤褐色	横石混
072-9	45	6002	甌	上半のみ、口縁12cm残、最大1/4残	79+ :232 ; ; ; : :6<7	口縁下に波線。上横ナデ、以下縦ヘラケズリ後横ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラミガキ、一部ヘラ先直残	内外淡褐色、外赤みを帯びる	砂粒細かく良好、硬い

番号	伸図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ:口底・頸底・胴底・脚底・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
072-10	45	6002	甕	頸部以下欠、口縁9cm残	47+ :282 :202 :216+ : : 3<8	横ナデ、横ヘラケズリ	内外淡褐色。外胴黒みを帯びる。内一部黒褐色	砂粒細かく良好、硬い
072-11	45	6002	甕	底部破片、底部全周、胴一部分のみ	65+ : : : :234+ : : 88 3<9	縦ヘラケズリ。内横ナデ	外暗褐色。上スス付着部分多く黒色。内淡褐色。一部暗褐色	砂粒やや目立つ、小石わずかに混、硬い
074-1	45	6001	坏	底部欠、口縁9cm残	35+ :122 : : : : <11	ヘラケズリ、口縁摩耗。内ヘラミガキ縦、摩耗激しい	内外淡褐色	褐色粒、砂混
074-2	45	?	坏	完形、口縁3/4強残	45 :124 : :126 : : 3<8	横ヘラケズリ。内器表剥落	内外灰化物付着	
074-3	45	6001	坏	遺物現存せず。完形	35 :113 : :116 : : 3<6	横ヘラミガキ、外下器表が窪める	内外淡褐色。外一部黒斑	
074-4	45	6001	埴	下半のみ、1/2強残	29+ : : : :78 : : 3<6	斜めハケ。内ヘラ整形、ヘラ先痕残	外淡褐色。黒斑。内黒色	小石、砂目立つ
074-5	45	6001	高坏	完形、口縁7cm、接合部全周、脚端1/3強残	90 :160 : : : 61 :110 :5<10	坏上、脚上横ナデ、中縦ヘラケズリ。内横ヘラミガキ、脚横ヘラケズリ	内外淡褐色。外黒斑、スス付着。内灰やや赤みが強い、脚縁褐色	砂粒、褐色粒混
074-6	45	6001	高坏	脚のみ、脚端摩耗、接合部全周	30+ : : : :85 :82 :90 7<11	縦ヘラケズリ	淡褐色	砂粒、褐色粒混、やや軟質
074-7	45	6001	甕	上半のみ破片	131+ :336 :282 : : : 7<9	横ナデ、脚縦ヘラケズリ。内横ヘラミガキ、横ヘラケズリ	内外淡褐色。黒斑	褐色粒、砂混、脆い
074-8	45	6001	甕	上半のみ、口縁12cm残	194+ :384 :324 : : : 7<10	横ナデ、脚縦ヘラケズリ。内横ヘラミガキ、軸横み縦若干残	内外淡褐色。暗褐色、赤褐色部分的に散在	砂粒やや多い、脆い
074-9	45	6001	甕	上半のみ破片、内外周耗激しい	154+ :338 :264 : : : 7<9	横ナデ、脚縦ヘラケズリ。内横ヘラミガキ、横ヘラケズリ	内外赤褐色。内赤み強い	
075-1	47	6001	須恵坏	底部欠、1/6残	37+ :149 : : : : 3<4		外暗青灰色。内淡黄灰色	黒色細粒、微石、小気泡
075-2	47	6001	須恵高台付坏	口縁欠、1/6残	35+ : : : :164 : :127 3<4		内外淡黄灰色	白微石混、焼き縮まり悪い
075-3	47	6001	坏	底部欠、口縁6cm残	31+ :136 : : : : <7	横ヘラケズリ後横ナデ。内横ヘラミガキ、器表摩耗激しい	外赤褐色、下黒色。内褐色	砂粒細かく良好、軟質
075-4	47	6001	甕	底部、1/3残	21+ : : : :106 : :28 3<9	縦ヘラケズリ。内ヘラミガキ	外褐色、下黒色。内暗灰色、一部黒色	
075-5	47	6001	甕	底部のみ	28+ : : : :104 : :64 3<8	縦ヘラケズリ。内横ナデ	外暗褐色から黒褐色、スス付着。内暗赤褐色	砂粒目立つ
075-6	47	?	器台	接合部のみ	25+ : : : : : 30 44 5<11	縦ヘラケズリ。内横ヘラ整形	内外赤彩。内脚暗褐色	砂粒目立たない
075-7	47	6001	高坏	接合部のみ	43+ : : : : : 341 60 7<12	縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ	淡褐色	褐色粒混、軟質
075-8	47	1001	甕	ポイントのみ。遺物現存せず。底部一部欠、カマド内で支脚として使用、木炭底	87 :123 :116 :121 : : 57 8<11	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ヘラミガキ	内外赤褐色	微石混、軟砂質
075-9	47	1001	甕	ポイントのみ。完形、口縁部分的に欠、木炭底	150 :170 :161 :182 : : 75 8<11	縦ヘラケズリ、底近く斜めヘラケズリ。内横ヘラミガキ	内外暗赤褐色。外胴スス付着。内胴黒みを帯びる	
076-1	47	6001	須恵坏	底部欠	32+ :168 : : : : 5<6		内外灰褐色	微砂、雲母混
076-2	47	?	須恵高台付坏	完形、1/4残	45 :162 : : : : :103 3<6	高台上ヘラケズリ、あとは口クロ		
076-3	47	1001	高坏	ポイントのみ。完形、口縁部摩耗全周、脚2片のみ	90 :162 : : : :154 :55 :104 3<9	横ナデ、横ヘラケズリ、縦ヘラケズリ、横ナデ。内横ヘラミガキ、脚横ヘラケズリ	淡褐色。一部暗褐色	砂粒やや目立つ
076-4	47	6001	埴	底部欠、1/3残	61+ :123 : : : : 5<7	横ナデ、縦ヘラミガキ、横ヘラケズリ。内横ナデ後斜めヘラミガキ、斜めハケ、横ハケナデ	内外暗黄褐色。外部分的に黒色、赤褐色	微石、小石若干混、硬い
076-5	47	6001	甕	脚部折本		2段整形、刻み		
077-1	47	6001	須恵蓋坏	下欠、つまみ径3.2cm	23+ : : : :109+ : : 5<7		内外暗灰色	微石少ない
077-2	47	6001	器台	胴上部のみ	38+ : : : :124 :34 :60+ 5<10	縦ヘラケズリ、細かい。内横ヘラ整形	外赤彩。内暗灰色	砂粒若干混、堅緻
077-3	47	6001	甕	胴以下欠、口縁5cm残	34+ :188 :160 :170+ : : 5<9	ヘラケズリ後上横ナデ。内横ヘラミガキ、斜め暗文	内外暗褐色。一部黒斑	砂粒細かく良好、堅緻
079-1	47	6001	甕	下半、底部1/3残	89+ : : : :220 : : 84 5<13	斜めヘラケズリ	内外暗褐色。外上赤褐色	砂粒やや目立つ、やや硬質
079-2	47	6001	甕	頸部以下欠、器表摩耗、口縁8.5cm残	38+ :130 :106 : : : 3<9	縦ハケ後横ナデ	内外暗褐色。外一部黒褐色	
079-3	47	6001	高坏	脚のみ、1/2残	55+ : : : : : 58 :105 3<17	縦ヘラケズリ、横ナデ	内外黄褐色。内赤みを帯びる	微石をわずかに含む
080-1	47	6001・6002	甕	遺物現存せず。胴下半欠	101+ :151 :122 :158 : : 3<6	横ナデ、弱い横ハケ、横ミガキ。内斜めヘラ	外赤褐色。内暗褐色から暗赤褐色	微砂混
080-2	47	?	鉢	完形、口縁1/3強残	89 :101 :45 :97 : : 43 5<11	縦ヘラケズリ、横ナデ	内外暗赤褐色から暗褐色。外一部黒斑	
080-3	47	6002	甕	頸部以下欠、破片	46+ :74 :59 :81+ : : 3<7	浅淵4条、縦ヘラ。内横ハケ	内外黄褐色。外一部赤褐色	小石混
080-4	47	6002	埴	頸部欠	41 : : : 70 :78 : : 22 3<6	縦ヘラミガキ。内横ヘラミガキ	内外赤彩	小石多く凹凸目立つ

番号	棟号	注記	形状	現状・特徴・備考	高さ・口徑・頸徑・脚徑・脚端・底・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
081-1	48	6001	甕	口縁部のみ、2片接合、口縁15.5cm残	38+ :154 :126 : : : 346	頸部ハケ、全体に横ナデ	外暗褐色から黒褐色、内茶褐色	堅緻
081-2	48	6001	埴	頸部以下欠、2/3残	31+ :126 :81 : : : 43	ヘラミミガキ	内外赤彩	微石若干混
081-3	48	6001	高杯	口縁のみ	32+ :179 : : : : 345	横ナデ、縦ヘラナデ。内横ナデ、斜めミガキ	外黄褐色。内赤彩	小石混
081-4	48	6001	甕	胴下半欠、口縁3/4、胴部1/2残	181+ :200 :174 :282 : : 346	口縁横ナデ、胴横ハケ。内下横ナデ	内外赤褐色。外口縁、胴中位ス付黒黒色	砂粒やや大きく目立つ、脆い
081-5	48	6001	甕	完形、口縁、胴部わずかに欠、底部若干上げ底	212 :185 :148 :222 : : 51 340	横ナデ、斜めハケ。内横ナデ、横ハケ、ヘラ形状	内外赤褐色。外上部の3cmを除き炭化物付着。内下黒灰色	小石が多く器表に凹凸が目立つ
081-6	48	6001	甕	底部、1/3破片	65+ : : : 36+ : : 32 348	斜めヘラケズリ。内斜めハケ	内淡褐色。内暗褐色	堅緻
081-7	48	6002	台付鉢	完形、口縁わずかに欠	59 :88 : : : 35 343	横ヘラケズリ、横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ハケ、横ヘラケズリ	内外赤褐色。外一部黒褐色	
081-8	48	6001	甕	底部	24+ : : : 82+ : : 341 340	横ヘラケズリ	内外暗褐色	微石混、堅緻
081-9	48	6001	甕	底部	33+ : : : 121+ : : 348 340	横ナデ	外暗褐色。内暗赤褐色	微砂、微石混、堅緻
082-1	48	6001	甕	完形、口縁1/2弱残	136 :119 :106 :136 : : 343 543	縦ハケ、斜めハケ、斜めヘラ。内斜めハケ、横ハケ、横ヘラ	内外暗褐色。外脚黒褐色	
082-2	48	6002	杯	底部中央欠	51 :116 : : 120 : : 376 543	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、下割ミガキ	内外淡褐色。外やや赤みを帯びる	砂粒多い。やや脆い
082-3	48	6001	碗	口縁破片	45+ :120 : : : : 374+ 546	縦ヘラミガキ。内横ナデ、ミガキ	内外暗褐色	砂粒少ない
082-4	48	6001	器台	脚欠、口縁一部欠、接合部から欠、ドーム状に残	34+ :82 : : : 30 : : 343	横ナデ、横ヘラ、縦ヘラケズリ	内外赤彩	
082-5	48	6001	器台	脚のみ	39+ : : : : : 120 343	縦ヘラケズリ。内横ヘラ	内外淡褐色	
082-6	48	6001	器台	脚端欠、口縁わずかに欠、中央縦穿孔、脚穿孔3	72+ :72 : : : 29 367+ 3418	上横ヘラケズリ、脚縦ヘラケズリ。内ヘラミガキ	内外赤褐色。外部分的に黒みを帯びる	
083-1	49	6001	須恵蓋杯	上欠、1/4残	39+ : : : : : 37 347		外青灰色から黄灰色。内暗黄褐色	白微石多い混
083-2	49	6001	器台	下半欠、口縁11%残	31+ :164 : : : : 345	ヘラミガキ、下ヘラケズリ	内外赤彩、濃い	砂粒、小石多い。硬い
083-3	49	6001	器台	杯欠、1/2残、脚穿孔3	38+ : : : : 341 :113 345	縦ヘラケズリ。内杯ヘラミガキ、脚ヘラ形状縦	暗黄褐色	微石若干混
084-1	50	6001	高杯	口縁破片、口縁17%残	42+ :138 : : : : 346	横ナデ、横ヘラケズリ、口唇下端微み痕。内横ナデ、横ミガキ	内外淡褐色。外スス点在。内下黒斑	褐色粒目立つ
084-2	50	6001	高杯	脚破片、脚端16%残	22+ : : : : 52+ :102 346	縦ヘラミガキ。内横ヘラナデ	外赤彩。内赤褐色	砂粒目立つ
084-3	50	6001	高杯	接合部全周、穿孔1個残	44+ : : : : 34 :72+ 3413	杯部横ヘラケズリ、脚縦ヘラケズリ。内杯ヘラナデ、亀裂、脚横ヘラケズリ	内外黄褐色	褐色粒砂粒やや多い、硬い
084-4	50	6002	器台	接合部、脚穿孔3/3	42+ : : : : 30 :52+ 341	縦ヘラケズリ。内斜めヘラミガキ	内外赤彩、脚内も	砂粒目立たない。硬い
084-5	50	6002	器台	脚のみ、脚端10%残、裾厚耗	28+ : : : : 80+ :200 547	横ヘラミガキ	内外淡赤褐色	砂粒目立つ、軟質
084-6	50	6001	埴	口縁破片、口縁19%残	21+ :134 : : : : 344	縦ヘラミガキ。内縦ヘラミガキ暗文状	内外赤彩内口唇のみ、以下黒色	砂粒小石目立つ、硬い
084-7	50	6002	埴	頸部以下欠、口縁9%残	39+ :148 : : : 348 : 347	縦ヘラミガキ。内斜めヘラミガキ	内外赤彩	砂粒目立たない。硬い
084-8	50	6001	埴	底部破片、上底、2/3残	23+ : : : : 36+ : : 31 541	斜めから横ヘラケズリ。内ヘラミガキ、ヘラ先横残	外赤彩、黒斑。内淡褐色	小石目立つ。硬い
084-9	50	6001	甕	頸部以下欠、口縁28%残	51+ :96 :72 : : : 345	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ、ヘラ先横残	内外淡褐色、口縁スス付着	黒色砂粒若干混、やや軟質
084-10	50	6002	甕	底部破片、胴一部を除き接合部から剥離	19+ : : : : 42+ : : 30 540	縦ヘラケズリ。内横ナデ	内外淡赤褐色	砂粒目立たない。硬い
084-11	50	6001	甕	底部破片、上底	35+ : : : : 110+ : : 30 540	斜めヘラケズリ後横ヘラミガキ縦	外赤彩、濃い。内暗褐色	白色砂粒、小石多い、やや軟質
084-12	50	6002	甕	底部破片、底部50%残	42+ : : : : 128+ : : 53 3415	縦ヘラケズリ。内ヘラナデ、ヘラ先横残	外淡褐色、半分黒褐色。内赤褐色	砂粒移動痕多い、硬い
084-13	50	?	甕	頸部から下欠、頸部全周	43+ :119 :37 :112+ : : 343	横ナデ	外黄褐色、一部暗褐色、スス付着。内赤みのある黄褐色、胴スス付着	細砂若干混、緻密
084-14	50	?	甕	底部破片、木炭底	16+ : : : : 84+ : : 36 341	ヘラケズリ。内ヘラナデ凹凸しい	外淡褐色、スス付着黒変。内赤褐色	砂粒やや多い。硬い
084-15	50	6002	甕	底部破片	25+ : : : : 110+ : : 38 544	縦ヘラケズリ。内横ナデ	内外淡褐色。内黒斑	砂粒やや多い。硬い
084-16	50	6002	甕	胴部破片、1/2弱残	135+ : : : : 189+ :212 : : 130+ 546	上斜めハケ、下横ヘラケズリ。内横ヘラケズリ後ややミガキ	内外茶褐色、下大部分スス付着黒色	砂粒若干混、硬い

番号	挿図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・底・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
085-1	49	6001	高坏	口縁破片、口縁13.5cm残	38+ 212 : : : 3<5	縁から斜めハケ後縦ヘラミガキ。内横ヘラミガキ	内外赤彩。内濃い	砂粒やや目立つ、やや脆い
085-2	49	6001	埴	底部	50+ : : : 164+ : 3<10	ミガキ。内ヘラ整形	内外赤彩。外下0.7cm黄褐色	微石混
085-3	49	6001	甕	底部破片、火を受け脆い	37+ : : : 144+ : 30 3<16	横ヘラナデ。内ヘラ先痕残	外暗褐色、大部分スス付着黒色。内灰褐色部分的に黒褐色	砂粒少ない
085-4	49	6001	甕	底部破片、1/3弱残	27+ : : : 134+ : 75 5<12	ヘラミガキ。内ヘラナデ	外赤みのある暗褐色。内黒色	砂粒少ない。硬い
085-5	49	6001	甕	上下欠、胴全周、底部接合部から離れる	161+ : : 210+ 252 : 60+ 5<10	下横ヘラケズリ、上斜めヘラ後横ナデ。内横ヘラナデ、下半ヘラ先痕残	内外淡赤褐色。外底部近く暗赤褐色	砂粒多い、しまり悪い
085-6	49	6001	甕	胴以下欠、口縁1/4弱残	129+ 108 144 206 : : 5<9	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラナデ	内外赤みのある黄褐色、部分的に黒色	細砂混、やや軟質
085-7	49	6001	高坏	坏部、脚端欠	61+ : : : 28 78+ 45	横ヘラケズリ	内外赤彩	微石若干混、やや軟質
085-8	49	6001	台付甕	胴上半欠、脚端部擦耗	37+ : : : 52 50 3<8	縦ヘラ	内外赤褐色。内上黒褐色	
089-1	50	6001	壺	胴部破片	46+ : : : 108 : : 5<7	器蓋やや荒れる	内外暗褐色	
091-1	52	6001	埴	完形	64 120 96 95 : 43 3<7	縦ヘラミガキ、下器表剥落が激しい。内縦ヘラミガキ、輪横み痕残	内外赤彩	微砂多く砂質
091-2	52	6001	高坏	口縁破片、口縁16%残	53+ 184 : : : 99+ 3<6	斜めハケ後横ミガキ弱い、器表荒れる。内横ヘラナデ	外明褐色、下黒みを帯びる。内赤褐色	砂粒小石やや多い、やや脆い
091-3	52	6001	甕	下小破片、下端16%残	124+ : : : 130+ : 110 3<11	縦ヘラケズリ、下5cm斜めヘラケズリ。内斜めヘラナデ、下端横ヘラケズリ	外黒褐色、部分的に黒斑。内暗褐色、下黒斑	砂粒多い、わずかに軟質
091-4	52	6001	甕	頸部以下欠、口縁11%残	61+ 190 170 180+ : : 7<12	上横ナデ、胴斜めヘラケズリ。内上横ナデ、胴横ヘラケズリ	内外淡褐色。口縁部分的に黒斑	砂粒やや目立つ
091-5	52	6001	壺	口縁破片、口縁15%残	36+ 172 112+ : : : 5<7	縦ナデ、口唇横ナデ	内外明褐色	砂粒やや目立つ
091-6	52	6001	甕	胴以下半欠、頸部全周	98+ 170 146 207 : : 3<6	斜めハケ後横ナデ、胴斜めハケ、帯状擦り消し2段	内外暗褐色から黒褐色。外一部スス付着黒斑	
092-1	50	6001	坏	口縁破片、口縁10%残	40+ 152 : 160 : : 5<6	上横ナデ、口縁下沈線一順、下縦ヘラケズリ。内縦ヘラミガキ	内外淡褐色	砂粒目立つ、硬い
092-2	50	6001	甕	胴上半欠、底部3/4、胴1/4強残	94+ : : : 170 : 54 5<11	縦ヘラ後上横ヘラミガキ、下横ヘラケズリ。内横ヘラナデ	外暗赤褐色、下黒褐色。内暗褐色	砂粒混、硬い
092-3	50	6001	甕	胴下半欠、1/3残、穿孔	68+ : : : 37+ : 70 7<10	縦ヘラ	外暗赤褐色。内赤褐色	微石多い混、脆い
092-4	50	6001	甕	遺物現存せず。底部欠、1/3残	188+ 141 133 224 : : 3<9	横ナデ、横縦ハケ後横ヘラ、横ヘラ。内横ナデ、横ヘラ、ヘラ先痕残	内外黒褐色、部分的にスス付着	
092-5	50	6001	甕	頸部以下欠、頸部17%残	96+ 192 174 238+ : : 3<8	口縁横ナデ、頸部縦ヘラケズリ、胴横ヘラケズリ。内横ナデ、胴横ヘラケズリ後横ナデ	外黒色から黒褐色。内淡褐色、口縁黒斑	砂粒目立つ、硬い
093-1	50	6001	甕	遺物現存せず。胴部から上欠	107 : : : 162+ : 88 3<7	縦ヘラケズリ	外底まで全面にスス付着。内暗褐色下黒黄褐色	微石混、やや脆い
093-2	50	6001	甕台	少破片	18+ : : : : 84 3<7	縦ヘラケズリ。内横ナデ	外赤彩。内暗褐色	軟質
093-3	50	6001	壺	底部破片、1/4弱残	10+ : : : : 56 5<8	縦ヘラケズリ。内横ナデ	外赤褐色。内灰褐色	砂粒多い、硬い
096-1	50	6001	坏	口縁15%残	35+ 116 : 120 : 30+ 3<6	横ナデ、横ヘラケズリ	内外赤彩	やや軟質
096-2	50	6001	高坏	胴下半欠、最大17%残、口唇擦耗	46+ 120 : : : 56 : 3<10	ヘラケズリ、器表擦耗で不明瞭	外淡赤褐色。内赤彩	砂粒目立たない、やや軟質
096-3	50	6001	高坏	口縁破片、口縁10%残	35+ 120 : : : : 5<6	上横ナデ、下横ヘラケズリ	内外赤彩	砂粒少ない、硬い
096-4	50	6001	高坏	脚のみ、脚端15%残	18+ : : : : 118 3<11	横ナデ。内縦ナデ、上横ヘラケズリ	外赤彩。内淡赤褐色	砂粒混、やや軟質
096-5	50	6001	甕	底部1/2弱残	28+ : : : 154+ : 78 3<13	縦ヘラケズリ、周囲擦耗	内外暗褐色	砂粒多い、堅緻
097-1	51	6001	坏	小破片	38+ 146 : : : : 3<7	上横ナデ、下斜めヘラケズリ	外暗褐色。内淡褐色、やや光沢あり	砂粒混、硬い
097-2	51	6001	埴	底部破片	18+ : : : 122+ : 3<12	ヘラケズリ。内ヘラミガキ、器表荒れる	外赤褐色、大部分黒斑。内赤彩	褐色粒砂粒多い、やや軟質
097-3	51	6002	高坏	坏部、脚端欠	40+ : : : : 30 70+ 3<10	縦ヘラケズリ、縦横ナデ、初縦ヘラケズリ	外赤彩。内黒みのある黄褐色	微砂多い混
097-4	51	6002	高坏	坏部、脚端欠	75+ : : : : 39 74+ 5<15	ミガキ。内ヘラケズリ	外赤彩。内黄褐色	砂質

番号	棟図	注記	形状	現状・特徴・備考	高さ・口徑・頭徑・胴徑・脚徑・底・厚さ	笠形	色調・付着物	胎土・焼成
097-5	51	6002	甕	底部破片、底部1/3残	35+ : : : 130+ : : 72 : 5<13	斜めヘラケズリ。内横ナデ	外赤みのある暗褐色。内赤褐色	胎土、焼成
097-6	51	100?	甕	底部破片、上底、底部2/3残	33+ : : : 128+ : : 36 : 5<14	斜めヘラケズリ。内横ナデ、凹凸あり	外暗灰褐色、スズ付着。内赤みのある明褐色	砂粒多い、やや硬い
097-7	51	1001	甕	ボイントのみ。底部	64+ : : : 133+ : : 36 : 5<14	横ヘラケズリ。内横ヘラ	内外淡赤褐色。外黒斑あり	砂粒細かい
097-8	51	1001	甕	ボイントのみ。完形、長胴、口縁・胴部分的に欠	304 : 209 : 159 : 187 : : 361 : 5<7	横ナデ、縦ヘラケズリ、縦ヘラケズリ後縁ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ	内外黒褐色。外上暗赤褐色から赤褐色	微石多い混
097-9	51	1001	甕	ボイントのみ。底部欠、長胴、口縁・胴部分的に欠	317+ : 213 : 164 : 199 : : 380 : 5<8	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、斜めヘラ	外暗赤褐色。内黒褐色	微石多い混
098-1	52	6001	坏	完形、1/4残	33 : 154 : : : : 丸底 : 4<9	横ナデ、横ヘラケズリ	外暗赤褐色、口縁部分的に黒色。内黒褐色、口縁部分的に赤色	
098-2	52	6001	甕	胴下半欠、口縁26%、最大36%残	51+ : 220 : 172 : 180+ : : : 3<7	頭部以上横ナデ、胴縁ヘラケズリ。内横ナデ	外暗赤褐色、口縁わずかに粘土付着。内暗赤褐色、黒斑多い	砂粒目立つ、硬い
098-3	52	6001	甕	底部破片、1/4弱残	41+ : : : : 36+ : : 30 : 5<14	横ヘラミガキ。内横ナデ	外赤彩。内暗灰褐色	小石目立つ、脆い
099-1	52	6001	甕	067-6001と接合	48+ : : : 128+ : : 53 : 7<13	縦ヘラケズリ、底部近く横ヘラケズリ。内横ヘラナデ、ヘラ先痕残	内外赤褐色	砂粒少ない、やや軟質
099-2	52	6001	甕	胴部破片、胴部18%残	38+ : 110 : 106 : 114 : : : 4<5	上横ナデ、胴縁ヘラケズリ。内横ヘラミガキ	外赤みのある明褐色。内赤彩	砂粒細かく多い、硬く脆い
099-3	52	6001	甕	小破片、最大幅5cm、下層197住の遺物	43+ : 150 : 112 : : : : 5<6	口唇端文、頸部結頸、縦ヘラミガキ。内横ヘラミガキ	外縦紋部以外赤彩。内暗褐色から黒褐色	砂粒少ない、やや軟質
100-1	53	6001	須恵蓋坏	つまみ欠、2/3強残	40+ : : : : : 122 : 3<8		外自然釉多い、黒灰色	黒色微砂若干混。非常に硬い
100-2	53	6001	高杯	杯部、口縁17cm残	45+ : 154 : : : : : 4<5	上横ナデ、下横ヘラケズリ	外赤彩。内暗褐色	砂粒多い軟質
100-3	53	6001	甕	完形、口縁1/2弱残	59 : 157 : : : : : 丸底 : 4<7	上横ナデ、下部表流れ凹凸になり彫形不明。内ヘラミガキ	内外赤彩。外上から3cmまで	
100-4	53	6001	高杯	坏下部以下欠、1/4残	43+ : 123 : : 136 : : : 4<6	横ナデ、横ヘラケズリ	内外赤彩	微石をほとんど含まない、やや軟質
100-5	53	6001	高杯	坏下部以下欠、1/3残	46+ : 159 : : 165 : : : 5<9	横ナデ、横ヘラケズリ	内外赤彩。外黒みを帯びる	微砂混
100-6	53	6001	高杯	坏上部以下欠、1/4残	43+ : 164 : : : : : 5<7	横ナデ、横ヘラケズリ	内外赤彩	微石混、小石若干混
100-7	53	6001	高杯	脚欠、1/4残	48+ : 152 : : : 33 : : 5<8	横ナデ、縦ヘラケズリ	内外赤みのある黄褐色	白微砂若干混。紋が強い
100-8	53	6001	坏	底部欠、1/3残	44+ : 136 : : 139 : : 丸底 : 4<9	横ナデ、横ヘラケズリ	内外赤褐色、黒色部多い	微砂混
100-9	53	6001	坏	完形、口縁3/4強残	41 : 153 : : : : : 5<7	横ナデ、横ヘラ、底一方方向ヘラ	内外口縁近く黒色むらあり	
100-10	53	6002	甕	底部欠、1/4残	25+ : 181 : : : : : 5<5	斜めヘラケズリ。内ヘラミガキ	内外赤みのある黄褐色	微砂多く、旋き跡まりよい
100-11	53	6001	高杯	胴部破片、1/2強残	50+ : : : : 34 : : 7<7	縦ヘラケズリ	外赤彩	砂粒多く硬い
100-12	53	6001	甕	底部破片	16+ : : : : 106+ : : 54 : 5<11	斜めヘラケズリ。内横ナデ	外赤褐色。内暗灰色	砂粒多い
100-13	53	6002	甕	遺物現存せず。頸部以下欠、1/3残	65+ : 180 : 150 : 180 : : : 5<12	横ナデ、縦ヘラケズリ	内外赤みのある黄褐色	微石混、やや軟質
100-14	53	6001	甕	胴以下欠、1/4残	81+ : 182 : 149 : 192 : : : 7<11	横ナデ、縦ヘラケズリ、下ヘラミガキ。内横ナデ、斜めヘラ	内外赤みのある黄褐色。外一部黒色。内黒みを帯びる	
100-15	53	6001	甕	胴部から下欠、口縁1/2弱残	99+ : 159 : 194 : 231 : : : 5<12	器表流れ彫形不明瞭。内上横ヘラケズリ、以下横ヘラナデ、口縁小さな割欠あり	内外赤褐色から黒褐色	微石多い混
100-16	53	6001	甕	胴下半欠、口縁1/3残	191+ : 170 : 131 : 220 : : : 7<10	斜めヘラケズリ	内外赤褐色から黒褐色	砂粒多く旋きしまりよい
100-17	53	6001・6002	甕	下半欠、口縁20cm残	175+ : 200 : 164 : 220 : : : 7<13	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ	内外暗赤褐色。内赤み強い	小石、砂粒目立つ
101-1	54	6002	須恵甕	頸部以下欠	139+ : 278 : 205 : : : : 5<10		内外自然釉	
101-2	54	6002	須恵長頸甕	頸部以下欠、口縁1/2強残	89+ : 97 : 55 : : : : 4<11		内外灰色、一部自然釉	
101-3	54	6001	坏	完形、口縁2.5cm残	48 : 142 : : 146 : : : 丸底 : 5<10	上横ナデ、横ヘラケズリ	外淡褐色。内黒色	砂粒褐色粒混
101-4	54	1001・6002	甕	底部中欠欠、1/2弱残	63+ : 48 : : 112 : : : 丸底 : 7<11	上横ナデ、胴縁ヘラケズリ。内横ヘラナデ、輪縁み痕、ヘラ先痕残	内外淡褐色。外口縁黒斑	砂粒、褐色粒多い、やや軟質

番号	插图	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・底径・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
101-5	54	6001	高坏	脚端1/4強残	57+ : : : 38 :底 3<12	縦ヘラケズリ、裾横ナデ。内横ヘラケズリ、裾横ナデ	外赤彩、黒斑。内黒斑	
101-6	54	6002	高坏	脚端1/4強残、上全周	47+ : : : 30 :104 3<13	縦ヘラケズリ、裾横ナデ。内横ヘラケズリ、裾横ナデ	外赤彩。内淡褐色。4カ所赤彩散る	
101-7	54	6002	高坏	坏のみ、最大42%残	44+ :38 : : 52+ : 5<12	上横ナデ、下横ヘラケズリ、口縁磨耗。内横ナデ	内外赤彩	砂粒目立たない、硬い
101-8	54	6002	高坏	口縁破片、口縁15%残	27+ :134 : :138 : 100+ 5<6	上横ナデ、下横ヘラケズリ、器表磨耗。内横ナデ	内外赤彩	砂粒多い、脆い
101-9	54	6001	甕	口縁破片、器表磨耗	9+ : : 72+ : 58 9	ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤褐色、黒斑。内黒色	
101-10	54	6002	甕	底部破片、1/4強残	35+ : : : :350+ : 50 5<9	斜めヘラケズリ	内外淡褐色	砂粒やや目立つ
102-1	54	6001	坏	完形、口縁13.5cm残	35 :150 : : : 48 2<7	横ナデ、横ヘラケズリ	内外黄褐色。内格子状暗文	軟質
102-2	54	?	甕	胴部破片、90%残	188+ : : : :180 : : 5<6	縦ヘラケズリ	内外暗褐色	砂粒やや目立つ
103-1	55	6001	器台	接合部破片、1片	34+ : : : 38 72+ 5<18	縦ヘラケズリ。内横ナデ、脚器表剥落	褐色	大粒の褐色粒含む、硬い
103-2	55	6001	甕	底部、1/2残	61+ : : : :113+ : 78 5<13	縦ヘラケズリ	外暗赤褐色から黒色。内灰褐色	
104-1	54	6001	甕	胴部	111+ : : : :170+ : : 5<9	縦ヘラケズリ	外暗赤褐色。内黒みの強い黄褐色	小石若干混
104-2	54	6001	甕	胴下半欠、7片接合、口縁51%、胴22%残	71+ :194 :102 :192+ : : 5<7	口縁波状にゆがむ、部分的に玉縁状	部分的に粘土付着	器表に砂粒目立つ、良好
106-1	55	6001	高杯	杯部のみ、口縁8.5cm残	55+ :193 : : : : 5<6	縦ヘラミガキ	内外赤彩	砂粒少ない、やや軟質
106-2	55	6001	鉢	ポイントのみ。底部欠、3/4残	111+ :220 :203 : : : 3<11	口縁厚い槽から斜めハケ、押圧、下縁めハケ。内横ハケ、下横ヘラ	外暗褐色から黒褐色。内黄褐色	微石若干混
107-1	55	6001	須恵高台付坏	上欠、1/5残	24+ : : : :131+ : 95 4<7		外暗灰色。内黄灰色	白微石混、気泡若干混
107-2	55	6001	模範坏	遺物現存せず。完形、1/3残	60 :116 : :118 : :底 3<7	横ナデ、ヘラケズリ	内外赤褐色	微石若干混
107-3	55	6001	模範坏	下部欠、口縁5.5cm残、110-6003と接合	35+ :146 : :138 : : 4<6	横ナデ、横ヘラケズリ	内外淡黄褐色	軟質
107-4	55	6001	高杯	接合部	27+ : : : : 24 : : :	外縦ヘラケズリ。内横ナデ	内外黄褐色	砂粒少ない
107-5	55	6001	高坏	坏欠、脚端2カ所残	48+ : : : : 23 98 5<15	縦ヘラケズリ、亀裂多い。内横ヘラケズリ	外赤彩。内黄褐色	微塵、褐色粒混、やや軟質
107-6	55	6001	甕	頸部以下欠、12片接合、口縁29%、最大33%残	123+ :122 :120 :137 : 90+ 5<10	上横ナデ、胴上縦ヘラケズリ、下斜めヘラケズリ	外暗灰褐色、部分的に黒斑。内暗褐色、やや紫を帯びる	砂粒やや目立つ、やや軟質
108-1	55	6001	坏	遺物現存せず。底部欠、1/2残	32+ :125 : : : :底 4<7	剥落。内横ヘラミガキ	内外暗褐色	微砂混、軟砂質
108-2	55	6001	坏	完形、口縁1/4弱残	49 :153 : :155 : :底 5<8	横ナデ、横ヘラケズリ。内ヘラミガキ	内外赤彩。外下スス付清黒変	
108-3	55	6001	甕	底部欠、口縁6cm、胴部10cm残	113+ :203 :180 :191 : : 5<8	横ナデ、外器表あれる	外淡褐色。内暗褐色スス付着	
108-4	55	6001	高坏	脚欠後擦って再利用、3片接合、最大50%残	47+ :139 : : : 32 : 3<9	口縁はほぼ全面厚耗、上横ナデ、下横、縦ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	砂粒多い、軟質
108-5	55	6001	甕	口縁拓本		粘土細、刻み		
109-1	57	1001	甕	ポイントのみ。胴部以上、底部欠	148+ : : : :216 : : : 4<6	上並行沈線網状調文で埋める、他は横ヘラミガキ	外赤彩下の沈線から7.5cm下まで	
109-2	57	6001	甕	胴下部以下欠、口縁部分的に残	154+ :218 :195 :228 : : 5<6	口縁折り返し小波状、斜め擦痕。内輪磨み痕残	内外明褐色から灰灰褐色	微石多い混
109-3	57	1001・1002	甕	ポイントのみ。胴上半欠、底1/4、胴下半1/2弱残	143+ : : : :222 : 68 5<8	横ナデ。内横ヘラミガキ	内外淡褐色。外下黒斑	砂粒やや目立つ、軟質で脆い
110-1	57	6002	坏	脚端欠、1片、最大19%残	49+ :140 : : :146 : : 4<6	上横ナデ、以下横ヘラケズリ	内外赤彩。外スス付着	砂粒目立つ、硬い
110-2	57	6001	坏	胴下半欠、3片接合、21%残	42+ :124 : : :132 : : 3<8	最大径部粘土細接合痕残、上横ナデ、下横ヘラケズリ。内結土細着若干、横ナデ	内外赤彩	砂粒混、良好
110-3	57	6001	高坏	脚欠、1/3残、108-6001と接合	39+ :132 : : : : 4<5	横ナデ、横ヘラケズリ	内外赤彩	微石少ない、やや軟質
110-4	57	6003	模範坏	遺物現存せず。1/8残	30+ :146 : :131 : : 4<5	横ナデ、横ヘラケズリ	内外赤褐色。内一部分スス付着	微石少ない、やや軟質
110-5	57	6001	模範坏	遺物現存せず。底部欠、1/6残	35+ :128 : :114 : : 4<5	横ナデ、ヘラケズリ	内外赤褐色	微石若干混、やや軟質
110-6	57	6002	甕	底部欠、1/3残	26+ :194 : : : : 3<5	斜めヘラケズリ。内ヘラミガキ	内外暗赤褐色。内黒色部あり	
110-7	57	6001	坏	底部中央欠、1/2残	35 :130 : :137 : 69 4<6	口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ヘラミガキ、ナデヘラミガキ、横ヘラミガキ	内外黄褐色、部分的に黒斑。外赤みがある	微石をわずかに含むよく精製されている
110-8	57	6001	高坏	完形、口縁1/2強残、脚端1/3欠、器表磨耗	91 :133 : : : 38 97 4<5	横ナデ、横ヘラケズリ、脚縁ヘラケズリ。内横ヘラケズリ	内外赤彩	

番号	押図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ:口徑:頸徑:胴徑:底・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
110-9	57	6001	高坏	坏穴	47+ : : : 41 59 <12	縦ヘラケズリ、裾横ナデ。内横ヘラケズリ	内外赤褐色、部分的にスス付着黒変	胎土、焼成 白微砂少ない、軟質
110-10	57	6001	高坏	坏穴	46+ : : : 42 53 8<13	縦ヘラケズリ、横ナデ。内脚横ヘラケズリ	外赤彩。内黄褐色	褐色粒多い、軟質
110-11	57	6001	高坏	坏穴	61+ : : : 35 58 5<12	縦ヘラケズリ、横ナデ。内脚横ヘラケズリ	内外赤彩。内脚暗褐色	
110-12	57	6001	高坏	坏穴	46+ : : : 41 56 4<13	縦ヘラケズリ、横ナデ。内脚横ヘラケズリ	外赤彩。内赤褐色、一部黒斑	褐色粒混、微石若干混
110-13	57	6001	甕	火を受け器表剥落、5片と9片接合せず、2/3残	105+ 158 140 220+ : : 5<8	口縁小波状厚耗、頸部横、斜めヘラミガキ、他は横ナデ	内外暗褐色、部分的に黒斑	砂粒多い
110-14	57	6001	甕	下半穴、輪破み痕、3片接合、最大34%残	127 138 118 168 : : 5<9	上横ナデ、頸部下横ヘラケズリ残	頸部淡褐色、口唇・胴黒変	砂粒混、良好
111-1	57	6001	埴	頸部以下欠、口縁1片27%残、亀裂多い	88+ 126 100 : : : 3<5	縦ヘラミガキ、横ヘラミガキ、小石多く器表凹凸目立つ	内外赤彩。内口縁近く火を受け消える	小石多い、硬い
111-2	57	6001	埴	底部破片、1片	26+ : : : 38+ : 26 3<6	横ナデ	外赤彩。内淡褐色	砂粒混、硬い
111-3	57	6001	高坏	片のみ、4片接合、口縁33%残	41+ 132 : : 32 : 3<9	上横ナデ、以下横ヘラケズリ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、器表厚耗	内外赤彩	砂粒目立たず、やや軟質
111-4	57	6001	台付甕	接合部のみ、1片	35+ : : : 58 : 6<14	横ヘラケズリ。内上横ナデ、台斜めヘラケズリ	内外暗褐色	砂粒多い、硬い
111-5	57	6001	高坏	脚破片1片	51+ : : : 38 50+ 5<15	縦ヘラケズリ、裾横ナデ。内横ヘラケズリ、裾横ナデ	赤彩	砂粒多い、硬い
111-6	57	6001	甕	底部破片、1片	32+ : : : 50 7<18	縦ハケ後横ナデ。内横ハケ、ヘラ先真鍮	外淡褐色。内暗褐色、部分的にスス付着	小石若干、砂粒混、やや硬い
111-7	57	6001	甕	1片、1/4残	31+ : : : 120+ : 70 5<12	斜めヘラケズリ。内横ナデ	暗褐色	
112-1	59	6001	横腹坏	底部欠	44+ 132 : : : 3<6	横ナデ	内外赤彩	
112-2	59	6001	高坏	脚穴、口縁一部のみ	76+ 122 : : 126 35 40+ 6<8	上横ナデ、下横ヘラケズリ後丁寧なナデ、脚横ヘラケズリ、部分的に器表剥落。内横ヘラナデ、脚横ヘラケズリ	内赤彩	砂粒目立たない
112-3	59	6001	甕	遺物残存せず。胴以下欠	70+ 170 148 200+ : : 7<9	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ、ヘラ整形	外赤みのある黄褐色、部分的に黒色。内赤褐色	微石若干混、やや軟砂質
112-4	59	6001	高坏	坏破片、火を受け脆い、最大25%残	36+ 128 : : : 51+ : 5<8	上横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ヘラナデ	外明褐色、下半黒斑。内黄褐色	砂粒多い
112-5	59	6001	甕	底部破片	15+ : : : 72+ : 54 8<12	ヘラミガキ。内厚耗	外淡褐色。内厚耗	砂粒多い、やや軟質
112-6	59	6001	甕	遺物残存せず。胴以下欠、頸部破	105+ 222 171 196+ : : 4<7	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ナデ、斜めヘラケズリ	内外黒褐色、口縁近く赤褐色から黄褐色	
112-7	59	6001	甕	胴下位以下欠、カマド周辺出土	253+ 253 205 212 : : 6<10	横ナデ、縦ヘラ。内横ナデ、横ヘラケズリ	外赤褐色、黒斑多い、口縁粘土付着。内暗褐色、黒斑多い、スス付着	微石混
112-8	59	6001	甕	取っ手		ヘラケズリ	淡黄褐色、外一部黒斑	小石目立つやや軟質
112-9	59	6001	甕	取っ手		ヘラケズリ	淡黄褐色、外一部黒斑	小石目立つやや軟質
114-1	61	6001	坏	口縁破片、口縁21%残	37+ 146 : : : : 3<6	上横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ、口縁下0.6cm波線	外淡赤褐色、下暗赤褐色。内暗褐色	砂粒細かい、硬い
114-2	61	6001	坏	1/4残	44 141 : : : 46 4<14	ヘラケズリ。内ヘラミガキ	外暗赤褐色。内黄褐色から黒褐色	軟質
114-3	61	6001	台付鉢	片のみ、3/4惣残	31+ : : : 61 59 6<15	縦ヘラケズリ。内上横ナデ、脚ヘラ整形稚	内外淡褐色	砂粒多い、やや軟質
114-4	61	6001	器台	口縁一部のみ、最大25%残	19+ 82 : : : : 4<7	上横ヘラミガキ、下横ヘラケズリ。内横ヘラミガキ	内外赤彩	砂粒少ない、緻密
114-5	61	6001	甕	口縁	45+ 100 83 102+ : : 4<5	横ヘラナデ、ヘラ先真鍮	内外黒褐色	
114-6	61	6001	甕	遺物残存せず。底部欠、火を受け脆い、1/3残	100+ 122 104 113 : : 3<6	横ナデ、斜め横ヘラケズリ	内外黄褐色。外一部黒色	微石混
114-7	61	6001	甕	下半穴	92+ 198 182 196 : : 5<8	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ	内外明褐色	
114-8	61	6003	甕	完形、口縁、胴わずかに欠、底部上げ底	197 176 158 212 : : 47 3<9	横ナデ、斜めヘラケズリ、斜めヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ	内外外明褐色。外口縁、胴中位スス付着黒みを帯びる	
114-9	61	6001	甕	口縁破片、口縁12%残	48+ 192 154 : : : 4<7	輪破み真鍮、口縁小波状、ヘラナデ	内外淡褐色	砂粒少ない、硬い
114-10	61	6002	甕	口縁13%残	33+ 214 164 194+ : : 4<7	口縁小波状、輪破み痕、頸部縄文原形で押す	内外黄褐色	
114-11	61	6001	甕	底部欠、口縁1片のみ、火を受け脆い	189+ 242 204 222 : : 6<8	口唇斜め、頸部輪破、下列み	内外外黄褐色。外部分的にスス付着、黒色。内部分的に黒み、赤みを帯びる	黒褐色粒混、やや軟質

番号	棟図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ：口径・頸径・胴径・脚径・底・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
114-12	61	6001	甕	上下欠、最大29%残	82+ :16+ :152 :178 : : 5<7	上横ナデ、胴斜めハケ後横ナデ、輪積み痕残	暗褐色	砂粒内外ともに目立つ、軟質
114-13	61	6001・6002	甕	完形、口縁1片のみ、火を受け脆い	197 :210 :165 :214 : : 488 5<13	口唇刻み、頸部7段輪積み彫形せずに残す	外黒褐色から黒色、胴スス付着黒変。内黄褐色、一部黒みを帯びる	白、黒褐色粒混、軟質
114-14	61	6001	甕	完形、口縁、胴部分的に欠、底部欠	193 :209 :159 :224 : : 76 5<7	胴赤、沈線、刻み、縦ヘラミガキ、横ヘラミガキ	内外黄褐色、外下スス付着黒色。内底暗褐色	微石岩干混
114-15	61	6001	甕	胴部破片	114+ : : : : 248 : : 5<7	横ナデ	外暗赤褐色、スス付着。内黄褐色	白、黒褐色粒混、軟質
114-16	61	6001	台付鉢	完形、坏と脚接合せず	157 :220 : : 230 58 :108 5<9	横ヘラミガキ、脚縦ヘラケズリ	黄褐色	やや軟質
115-1	61	6001	須恵高台付杯	底部のみ	15+ : : : : : 58 5<8	横ヘラミガキ、内横ヘラミガキ	外、底部灰色、上やや暗灰色	
115-2	61	6001	杯	完形、口縁1/4破残	46 :131 : : : : 32 5<10	縦ヘラケズリ。内横ヘラミガキ	内外赤彩、スス付着黒色部分多い	不良
115-3	61	6001	器台	接合部全周、脚部穿孔3	33+ : : : : 40 34+ :5<15	縦ヘラケズリ、先端ハケ状	暗褐色	砂粒、小石多い、軟質脆い
115-4	61	6001	高杯	脚欠、116住カマ下	64+ :142 : : : 36 : : 3<8	ヘラ後ミガキ	内外赤彩	
115-5	61	?	高杯	遺物現存せず。脚欠、1/3残	51+ :138 : : : 29 : : 5<8	縦ヘラミガキ、亀裂多い	内外暗褐色、外一部赤褐色。内一部黄褐色	砂多い混
115-6	61	貯蔵穴	高杯	ポイントのみ。完形、口唇細かく欠	96 :144 : : : 38 89 5<8	縦ヘラケズリ、横ナデ。内脚縦ヘラケズリ	内外赤彩。内脚黒も赤彩	
115-7	61	6001	甕	胴下半欠、7片接合、最大11cm残	130+ :116 : : : 128 : : 5<9	上横ナデ下縦ヘラケズリ、上3段輪積み痕。内上横ナデ、下斜めヘラ彫形ヘラ先痕残、輪積み凹みに残	内外淡褐色。外大部分黒混、スス付着目立つ	砂粒目立たず軟質
115-8	62	6001	埴	底部欠、口縁1/2、117住の遺物か	95+ :132 88 :108 : : : 3<5	平滑でなく凹凸が目立つ	内外赤彩。内上から5.8cmまで、黒斑多い	砂粒を含む
115-9	62	6001	埴	1片、口縁2cm、最大21%残	92+ :118 :71 : : : : 3<8	縦ヘラナデ。内上縦ヘラナデ、胴横ナデ	内外赤彩。内大部分黒変	
115-10	62	6001	甕	胴下半欠、12片接合、口縁17cm残	152+ :172 :136 :228+ : : : 5<9	頸部以上横ナデ胴斜め、下縦ヘラケズリ。内縦ヘラケズリ、ヘラ先痕若干残	灰褐色、下部スス付着部分的に黒変	砂粒目立つやや軟質
116-1	62	6001	須恵蓋環	上下欠、1/6残	24+ : : : : : :155 3<6		外灰白色。内淡青灰色	白微石混、緻密
116-2	62	6001	須恵高台付杯	底部中央欠、1/6残	33+ :153 : : : : :120 3<4		外淡青灰色。内淡黄灰色	微砂少ない混
116-3	62	6001	高杯	上下欠、1/4残	40+ :143 : : : 40 : : 3<13	横ナデ	外赤彩。内淡褐色	軟質
116-4	62	6001	高杯	脚、1/3残	63+ : : : : : :116 5<9	縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ	外淡褐色。内淡赤褐色	やや軟質
116-5	62	6001	甕	胴下半欠、口縁1片のみ、胴1/3残	184+ :219 :190 :248 : : : 6<11	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ、輪積み痕残	内外褐色。外ほぼ全面スス付着	小石径8mm胴部内外に目立つ
116-6	62	6001	甕	完形、口縁欠多い	252 :147 :129 :213 : : 64 5<9	横ナデ、大きなヘラケズリ。内横ナデ	外赤褐色、一部黒色。内黄褐色	
116-7	62	6001	甕	胴以下欠、1/4残	133+ :236 :182 : : : : 3<12	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ	外黒色、一部黄褐色。内暗赤褐色、一部黒色	小石混入少ない、やや軟質
118-1	62	1001	甕	ポイントのみ。胴部以上残、火を受け脆い、口縁全周変色、7片接合	85+ :185 :109 :111 : : : 5<8	胴部横沈線4条、頸部横ナデ、胴部ヘラ彫形。内頸部以上横ナデ	施文部以外内外赤彩	
119-1	62	1001	台付甕	ポイントのみ。台のみ	85+ : : : : : 61 :125 5<9	上ホロボロで不明、下斜めハケ。内上ヘラ、下横ハケ	内外黄土色	
120-1	64	6001	甕	底部破片	17+ : : : 34+ : : 33 3<8	縦ヘラナデ。内ヘラナデ	外黒色。内淡褐色から暗褐色	砂粒多い、脆い
120-2	64	6001	高杯	接合部破片	26+ : : : : 36 52+ :3<13	坏横ナデ、脚横ナデ、胴横ナデ	内外赤彩	砂粒少ない、硬い
120-3	64	6001	甕	底部破片、火を受け器表荒れる	41+ : : : 34+ : : 46 3<10	横ヘラミガキ、底部周囲摩耗。内横ヘラミガキ	外黒褐色。内暗褐色	砂粒、褐色粒、小石多い
120-4	64	1001	鉢	床面から+5.5cm。完形、口縁一部のみ	74 :122 : : : : 50 5<8	斜めヘラケズリ。内目立つ	内外赤褐色	
121-1	64	6001	甕	胴部拓本		縄文		
122-1	64	6002	須恵蓋環	つまみ径3.1cm	20+ : : : 38+ : : : 3<7		外灰色。内黄灰色	
122-2	64	6002	須恵環	下欠、1/6残	24+ : : : :127 : : : 3<5		内外暗灰色から灰色	脆い
122-3	64	6002	須恵高台付杯	163-6001、203-6001と接合、2/3残、6m離れる	11 :150 : : : :116 3<7	底部1/3スス付着		
122-4	64	6001	杯	完形、口縁1片のみ	40 :114 : : : : :4底 3<7	横ナデ	内外暗褐色から黒褐色	砂粒少ない
122-5	64	6001	高杯	坏部欠	80+ : : : : 58 :108 :<20	脚縦ヘラケズリ、横横ナデ。内横ナデ、脚縦ヘラケズリ、横横ナデ	外淡赤褐色。内黄褐色	

番号	插图	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口徑・頸徑・胴徑・底・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
122-6	64	6001	高坏	坏部、脚端欠	83+ : : : 30 39 547	脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内横ナデ。脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ	外淡赤褐色。内黄褐色	
122-7	64	6001	台付鉢	接合部のみ	60+ : : : 35 39+ 69	ヘラミガキ	外赤彩、痕跡的。内黄褐色	微石多く混
122-8	64	6001	高坏	上下欠、1/2残	40+ : : : 33 36+ <10	斜めヘラケズリ。内ヘラナデ	内外灰褐色	砂粒をあまり含まない
122-9	64	6001	高坏	坏のみ	84+ 207 : : : 54 : 749	縦ヘラミガキ	内外赤彩	
122-10	64	6001	高坏	上下欠、1/2残	50+ 307+ : : : 33 : 339	縦ヘラミガキ	内外暗褐色	微石多く混、小石若干混
122-11	64	1001	甕	ボイントのみ。胴以下欠、口縁一部欠	89+ 314 363 220+ : : : 3<10	器表やや荒れる、輪縁のみ残	内外暗褐色、一部黒斑。内黄褐色	
122-12	64	6001	甕	遺物残存せず。頸部以下欠、1/3残	47+ 218 380 380+ : : : <7	器表やや荒れる、輪縁のみ残	内外暗褐色	内外暗褐色
122-13	64	1001	甕	ボイントのみ。完形、口縁、胴わずかに欠	164 360 342 363 : 32 6<10	横ナデ、縦ヘラケズリ、下斜めヘラケズリ。内横ヘラミガキ	外黒色、一部赤褐色。内黄褐色	
122-14	64	1001	甕	ボイントのみ。完形、長胴、口縁、胴わずかに欠	321 202 372 395 : 57 5<11	横ナデ縦に線が入る、縦ヘラケズリ、下3cm斜めヘラケズリ。内横ナデ、ヘラ整形	内外黄褐色、胴下位スス付着、以下赤色。内口縁下一部黒色、胴下位黒色	
122-15	64	6001	甕	胴下半欠、1/5残	39+ 300 35 316+ : : 9<12	横ナデ。内横ナデ、頸部横ヘラ		
122-16	64	6001	甕	口縁14%残	27+ 32 38 30+ : : 6<10	横ナデ		
122-17	64	6001	甕	胴以下欠、1/3残	51+ 365 329 333+ : : 3<6	凹凸目立つ。内捺痕	内外暗赤褐色。内一部暗褐色	小石多く混、微密
122-18	64	6001	甕	底部、1/4残	31+ : : : 340+ : 33 4<8	器表摩耗	外黄褐色。内暗褐色。底部黒褐色	細砂若干混
122-19	64	6001	甕	底部破片	13+ 340+ : : : 30 3<7	底ヘラケズリ。内ヘラミガキ	外赤みのある淡褐色。黒斑。内淡赤褐色、一部スス付着黒斑	砂粒目立つ、堅微
122-20	64	1001	甕	ボイントのみ。底部	27+ : : : 338+ : 302 9<18	斜めヘラケズリ。内凹凸目立つ	外暗赤褐色から暗褐色。内暗黄褐色から黄褐色	
122-21	64	6001	甕	底部、1/2残	26+ : : : 300+ : 30 9<18	ヘラケズリ		微石若干混。内外小孔多い
123-1	62	6001	甕	完形、口縁、胴部分的に欠、上げ底	80 318 317 : : : 37 3<11	胴中位縦ハケ、他は横ナデ	内外暗黄褐色。外黒斑	
123-2	62	6001	甕	底部	17+ : : : 32 : 35 6<9	ヘラケズリ	外黄褐色。内黒褐色	微石混入少ない、やや微質
123-3	62	6001	甕	底部	24+ : : : 39 : 32 5<7	縦ヘラケズリ。内ヘラミガキ	外黒褐色。内暗赤褐色	微石若干混
123-4	62	6001	甕	折り返し口縁	32+ 310+ : : : : 5<7	折り返し部押圧、以下縦ヘラミガキ	内外淡黄褐色	
123-5	62	6001	甕	胴以下欠、1/4残、補修孔1	110+ 258 221 : : : 5<10	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、タテヘラ先痕	内外黒灰色。外一部黄褐色。内一部赤褐色	微砂わずかに混、微砂質
123-6	62	6001	甕	完形、1/4残	140 393 384 : : : 35 7<9	横ナデ、縦ヘラケズリ、器表部分的に剥落	内外黒色。外下黄褐色。内下暗赤褐色	
123-7	62	6001	甕	完形、口縁1/4弱残	125 370 353 361 : 71 6<9	横ナデ、縦ヘラケズリ、傾斜めヘラケズリ。内横ナデ、傾斜めヘラケズリ	内外淡褐色から暗褐色。外口縁、胴下部黒斑多い	
123-8	62	6001	甕	胴下部以下欠、1/6残	84+ 351 338 343 : : 3<9	横ナデ、縦ヘラケズリ、斜めヘラケズリ。内横ナデ	外黒褐色、一部黒黄褐色。内赤黄褐色、口縁黒から黒褐色	微砂少量混、微質
124-1	64	6001	甕	上下欠、頸部全周	92+ 308+ 34 337+ : : 6<8	結節。細文3段、結節。内横ヘラ	内外黄褐色	
124-2	64	6001	甕	遺物残存せず。底部のみ	26+ : : : : 76 7<12	縦ヘラ、亀裂多い	外暗赤褐色、底黄褐色。内暗褐色、部分的に黄褐色	微石多く混、やや微質
124-3	64	6001	台付甕	口縁一部、胴下半から胴全周、全体に火を受け脆い	167+ 344 325 364 33 38+ 4<7	頸部円形剥落、横ナデ、ミガキ、脚縁ヘラケズリ。内横ナデ、小亀裂あり	内外淡褐色。外部分的にスス付着黒斑	砂粒、小石やや目立つ
125-1	65	6001	須恵蓋坏	上欠、1/3残	20+ : : : : 302 3<6	自然釉。内全体に摩耗している	内外灰色。外一部暗灰色、自然釉	微石若干混、堅微
125-2	65	6001	須恵蓋台付坏	底部、3/5残	11+ : : : : 36 4<5		外灰色。内青灰色	微石やや多い、堅微
125-3	65	6001	坏	底部中央欠、口縁1/2強残	46+ 359 : : : : 36 3<7	ハケ後横ナデ、横ヘラ。内横ナデ	内外黄褐色。外口縁黒色	
125-4	65	6001	坏	完形、口唇内側に沈線	30 335 : : : : 3&底 5<6	斜めヘラケズリ。内ミガキ	外暗赤褐色。内暗褐色	微石若干混
125-5	65	6001・6002	甕	上下欠、胴はば全周	213+ 347 322 : : : 6<9	横ナデ、縦から斜めヘラケズリ、一部横ヘラケズリ。内横ナデ、横から斜めヘラケズリ	内外明褐色から暗褐色。外黒斑多い	
125-6	65	6001	甕	完形、2/3弱残	58 339 : 341 : 3&底 3<9	横ヘラケズリ。内ヘラミガキ	内外黄褐色。外部分的に黒色。内部分的に赤みのある黄褐色	

番号	押図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・脚径・底・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
125-7	65	6002	高杯	坏欠	40+ : : : 35 30 <12	縁ヘラ、横ナデ。内縁ヘラ、横ナデ	外赤彩。内黄褐色	褐色。少量黒、軟質
127-1	66	6001	壺	口縁折本		細文、刻み		
127-2	66	6001	壺	胴部折本		沈線、細文。施文部以外赤彩		
128-1	66	1001・6001	高杯	ポイントのみ。脚端欠、代用支脚粘土付着、坏1/2器表剥離	125 :161 : : 31 :114+ <15	丁寧な横ナデ、脚縁ヘラケズリ・縦横ナデ。内丁字な横ナデ、脚縁ヘラケズリ・横ナデ	内外赤彩。内脚内を除く	砂粒目立たない、やや軟質
128-2	66	6001	甕	底部欠、口縁1/3残	105+ 205 :152 246 : : 5<7	口縁小波状、粘土紐8段、下布または縄で押圧	内外黄褐色。外部分的に暗褐色から黒色	砂粒やや多い、やや軟質
128-3	66	6001	甕	上半のみ、胴部30cm残	105+ 247 206 240+ : : 3<9	口縁小波状、粘土紐2段、下布または縄で押圧	内外黄褐色。外部分的に暗褐色から黒色	2次火熱を受け脆い
128-4	66	6001	甕	底部破片	28+ : : : : 84 5<6	縁めヘラケズリ。内横ナデ	黄褐色	砂粒多量混、やや軟質
128-5	66	6001	壺	胴部破片	55+ 35+ 36 :104+ : : 5<10	横ナデ。内横ナデ、輪痕み痕残	内外赤彩。内頸部まで、以下黄褐色	砂粒目立つ、硬い
128-6	66	6001	器台	脚のみ、接合部全周	32+ 70+ : : : 30 35+ 3<12	縁ハケ。内横ハケ、台縁ヘラケズリ	暗褐色	砂粒多い、硬い
129-1	68	6001	壺	元形、口縁1片のみ、胴一部欠	161 30 58 :140 : 52 3<10	横ヘラミガキ、横から斜めヘラミガキ、縦ヘラミガキ。内横ヘラミガキ、横から斜めヘラ	内外赤彩。内上から2.8cmまで	
129-2	68	1001・6001	壺	ポイントのみ。胴部以上欠、木炭底	180+ : : : 238 : 70 3<13	斜めヘラミガキ、縦ヘラミガキ。内横ヘラ	赤彩	
129-3	68	6001	甕	胴下半欠、1/4残	97+ 221 :186 212 : : 5<8	口縁部押圧、胴部弱い段。内横ヘラ	内外暗黄褐色。部分的にスス付着黒色	微砂混
129-4	68	6001	壺	口縁部、底部欠	87+ : : 36 75 : : 4<7	縁ヘラミガキ頭着、下器表荒れて小亀裂多い。内輪痕み痕残	外赤褐色。内黄褐色。黒斑	微石わずかに混
129-5	68	6001	甕	遺物現存せず。底部のみ	27+ : : : : 57 3<8	縁めヘラケズリ、下横ヘラケズリ、器表剥離。内亀裂多い	外暗褐色。底黄褐色。内くらい黄褐色	褐色粒混
129-6	68	6001	甕	底部、1/2残	21+ : : : : 78 3<12	縁ヘラケズリ	内外赤褐色。内やや黒みがある	白微砂混、軟砂質
130-1	67	6001	甕	8片接合、口縁3cm、胴部38%残、粘土紐5段	80+ 214 :174 :184+ : : 5<8	輪痕み痕5段、指先での押さえ痕頭着、口唇小波状。内頸部裏片ハケ状痕頭、横ナデ	内外黄褐色。外部分的に暗褐色から黒色	
131-1	66	6001	須恵蓋坏	上欠、1/3残	25+ : : : : :171 3<7		外青灰色から暗灰色。内暗灰色から灰色	白微砂混、緻密
131-2	66	6001	須恵高台付坏	底部欠、1/3残	39 :150 : : : 85 3<5		外淡青灰色・内黄灰色	微石、気泡若干
131-3	66	6001	高杯	胴部欠	40+ :141 : : : : 4<7	横ナデ、横ヘラケズリ。内ヘラミガキ	外黄灰色、口縁黒色。内暗赤褐色	
131-4	66	6001	高杯	破片	34+ :184 : : : : 3<12	横ナデ、斜めヘラケズリ。内ヘラミガキ	外黄褐色から黒褐色。内暗褐色	微砂少なくやや軟質
131-5	66	6001	甕	上半欠、3片接合、底部全周	50+ : : : :178+ : 58 5<8	縁ヘラケズリ後横ナデ。内横ヘラナデ	暗褐色。部分的に黒斑	小石砂粒多い、硬い
131-6	66	6002	甕	底部、亀裂多い	24+ : : : :120+ : 77 :11<14	縁めヘラケズリ	内外黒褐色。内一部赤褐色	微石混
131-7	66	6001	甕	元形、口縁、胴わずかに欠、底部上げ底	91 71 56 34 : : 32 3<3	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ナデ、横から斜めヘラケズリ	内外赤褐色。黒斑。内黒褐色	砂粒多い、堅緻
131-8	66	6001	甕	底部欠、口縁、胴部分的に欠、二重口縁	129+ :106 82 :132 : : 3<5	縁ハケ後横ヘラケズリ後口縁貼付。内横ハケ後縁ヘラ、下斜めハケ、輪痕み痕頭着	内外暗赤褐色。外脚黒斑	
132-1	68	6001	鉢	6片接合、口縁1/4、底部90%残	72 :112 : : : 52 3<11	粘土紐積み上げの際の亀裂底部近くで目立つ	外淡褐色。部分的に薄い黒斑。内赤彩	小石、砂粒やや目立つ、硬い
132-2	68	6001	高杯	遺物現存せず。坏のみ	54+ :118 : : : : 3<6	横ナデ	内外赤彩	
132-3	68	6001	器台	坏欠、坏部縦穿孔、胴部穿孔3	76+ : : : : 34 :116 <15	縁ヘラミガキ。内斜めヘラ。斜めハケ	内外暗黄褐色	粉っぽい
132-4	68	6001	器台	胴部穿孔3、坏部穿孔3、口縁擦耗	75 30 : : : :36 :116 5<10	横面からヘラケズリ、外から穿孔後縁細いヘラケズリ。内横面からヘラケズリ、胴部ヘラケズリ	内外赤彩。内脚黄褐色	
132-5	68	1003	埴	胴部以上欠	30+ : : : : 32 : 34 2<7	横ヘラケズリ。内横ヘラミガキ	内外褐色。外半分黒斑	
132-6	68	?	甕	遺物現存せず。胴以下欠	66+ 82 72 :121 : : 4<8	口縁縁ハケ、胴縁、斜めハケ。内脚縁ハケヘラケズリ	内外黄土色。一部黒色	
132-7	68	6001	甕	胴下半欠、口縁19%、胴部62%、胴部37%残	134+ :193 :176 205 : : 5<6	胴部上横ナデ後斜めハケ、胴縁斜めハケ。内横ナデ	淡褐色。部分的にスス付着	砂粒目立たない、硬い
132-8	68	6001	甕	底部全周、上最大15cm残	130+ : : : :158 : 54 3<11	縁めハケ、底小石目立つ。内横ナデ	内外淡褐色。上スス付着黒色	砂粒多い、硬い
132-9	68	6001	甕	胴以下欠、胴全周、胴部内側厚くなる	105+ :100 82 :132 : : 3<7	横ナデ、一部横ヘラ、斜めヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ、斜めヘラ	内外赤みのある暗黄褐色	
132-10	68	1002	甕	胴以下欠、胴部全周	104+ :141 :112 :147 : : 3<6	口縁部1/4周割突多致、横ナデ、縁ヘラ。内横ナデ、横から斜めヘラケズリ	外黄褐色。黒斑。内赤みのある黄褐色	

番号	相図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ:口徑:頸徑:胴徑:脚徑:底:厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
132-11	68	6001	甕	口縁破片、口縁44%、頸部56%残	140+ :170 :152 :220 : : 5<7	頸部以上横ナデ、胴斜めヘラ整形。内頸部以上横ナデ、胴横ヘラ整形	内外暗灰褐色。外胴スス付着黒色	胎土、焼成 砂粒細かい、硬い
132-12	68	6001	甕	胴下半欠	122+ :102 :138 :180 : : 5<7	頸部横ハケ後上横ナデ、胴横ナデ、輪轡み痕残 斜めハケ後横ナデ、内横ハケ後ナデ	外黒褐色。内暗褐色	砂粒目立つ、硬い
132-13	68	6001	甕	完形、口縁1片のみ、胴全周、器形ゆかむ	123 :104 :83 :130 : : 43 3<7	横ナデ、縦ハケ後下横ヘラケズリ。内横ハケ後ナデ	内外暗灰褐色。外胴スス付着	砂粒若干混
132-14	68	6001	台付甕	完形、口縁脚胴ともわずかに欠	133 :105 :98 :116 :30 :59 3<7	横ハケ後細い横ナデ。内ヘラミガキ	外淡褐色、口縁黒斑。内暗褐色	微石混
132-15	68	6001	甕	完形、口縁、胴一部欠	112 :50 :76 :103 : : 3<底 3<7	横ナデ、縦ハケ後横ヘラナデ。内横ナデ	内外底近く黒色	
133-1	69	6001	甕	遺物現存せず。胴部から下欠	181+ :153 :78 :278 : : 7<9	縄文、結節、沈線で上半施紋、他はミガキ	内外赤彩施紋部以外。内上から3cmまで赤彩、以下黄褐色	
134-1	69	1001	甕	ボイントのみ。胴以下欠、頸部以上全周	90+ :201 :173 :235+ : : 4<7	胴縦ヘラケズリ、口縁から内横ナデ	内外暗褐色から黒褐色。外胴部2/3周黒色。内一部暗赤褐色	
134-2	69	1002	甕	ボイントのみ。完形、胴一部欠	183 :178 :146 :207 : : 61 5<7	横ナデ、横ハケ後斜めヘラケズリ。内横ハケ後上半細い横ナデ	内外黒褐色	
134-3	69	1001	甕	ボイントのみ。頸部以上細かく割れて欠	147+ : : : 189 : : 49 4<8	横ヘラ。内ヘラミガキ	外暗褐色、上黒褐色。一帯黒斑。内暗赤褐色、炭化物付着	
136-1	70	6001	鉢	口縁破片、1片、口縁14%残	61+ :228 : : : : 3<5	横ナデ	内外暗黄褐色	砂粒多い、硬い
136-2	70	6001	壺	底部のみ	22+ : : : : : 73 8<13	ヘラミガキ	外赤褐色。内黒色	微石多く混
136-3	70	6001	壺	胴部拓本		縄文、結節。施文部以外赤彩		
136-4	70	1001・6001	壺	ボイントのみ。胴部拓本		縄文、結節。施文部以外赤彩		
136-5	70	1001	壺	ボイントのみ。胴部拓本		縄文、結節。施文部以外赤彩		
137-1	72	6002	支脚	完形、数形、口縁わずかに欠	76 :92 : : : 56 :96 <8	環縦ハケ、胴斜めハケ。内側から斜めハケ	内外暗褐色	
137-2	72	6001	器台	完形、胴部穿孔3、坏部穿孔、口縁1/2盤残	78 :74 : : : 25 :107 <8	縦ヘラ。内横ヘラ	内外赤彩	
137-3	72	6002	台付甕	台のみ	45+ : : : : 51 :90 6<8	斜めヘラ整形細い、縦横ナデ	内外赤みのある黄褐色	微石わずかに混、やや砂質
137-4	72	6001	甕	頸部以下欠、二重口縁	52+ :142 :103 :146+ : : 4<6	口縁指で押さえる、横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ	外暗褐色。内黒褐色	微石若干混
137-5	72	6001	甕	底部破片	40+ : : : : : 70 6<8	斜め荒いハケ。内ナデ	外黒褐色、スス付着。底赤褐色	
138-1	72	6001	高坏	脚欠	64+ :157 : : : 58 : 6<11	横ナデ、縦ヘラケズリ。内ヘラミガキ、胴横ヘラ	内外赤みのある黄褐色。内一部スス付着黒褐色	微石混、軟砂質
138-2	72	6001	器台	上下欠、胴穿孔3	44+ : : : : 37 :71+ 7<15	縦ヘラミガキ	黄褐色	軟砂質
140-1	73	6001	須臾高台付坏	完形、底部完、口縁1片のみ	40 :144 : : : : 97 3<6	底部内面に亀裂	外暗灰色、底淡青灰色。内淡黄灰色	微石混
140-2	73	6001	須臾高台付坏	遺物現存せず。底部、1/6残	13+ : : : : 134 : : 114 :		内外灰白色	黒色微石干混
140-3	73	6001	坏	完形、口縁3/4弱残	36 :150 : : : : 66 4<6	横ヘラミガキ。内ミガキ、暗文	内外赤みを帯びた黄褐色	
140-4	73	6001	坏	完形、口縁欠多い	49 :138 : : : : 4<底 5<7	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラミガキ平滑	内外黄褐色。外黒斑多い	微石若干混
140-5	73	6001	甕	頸部以下欠、二重口縁、口縁下ほぼ全周	76+ :153 :137 :127+ : : 4<7	縦ハケ後縦ヘラケズリ。内横ヘラミガキ	内外淡赤褐色	
140-6	73	?	甕	遺物現存せず。胴上半のみ	60+ :158 :139 : : : 3<5	縦ヘラケズリ	内外暗褐色	
140-7	73	6002	甕	底部	35+ : : : : 146+ : : 108 8<13	底一方向ヘラ	内外黒色。外部分的に暗赤褐色。内炭化物付着	微砂多い、微石若干混
140-8	73	6001	甕	底部	35+ : : : : 161+ : : 84 7<9	斜めヘラケズリ。内ヘラナデ	外赤褐色、粘土付着。内黄褐色	小石砂多い混
140-9	73	6001	台付甕	台のみ	35+ : : : : 52 :89 6<11	縦ヘラケズリ、横ナデ	外赤褐色。内黒色	細砂多い混
140-10	73	6001	甕	完形、口縁1/4強残、頸部に段	89 :111 :108 :111 : : 40 4<7	横ミガキ、縦ハナ後ミガキ。内捺痕	内外赤褐色	微砂少ない混、やや軟質
141-1	73	6001	台付甕	台のみ	44+ : : : : : 53 :80 6<11	縦ヘラケズリ。内ヘラミガキ、胴横ヘラ	内外赤褐色から黄褐色	
142-1	62	6001	柑	完形、上け底、火を受け幅広い、10片接合、口縁1片、底部完	70 :96 :78 :84 : : 30 3<7	縦ヘラミガキ。内横ヘラケズリ、下横ハケ	胴内を除き赤彩か赤みが強い	小石砂多い

番号	插图	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・胴底・厚さ	変形	色調・付随物	胎土・焼成
142-2	62	6001	甕	底部	21+ : : : 118+ : : 78 5<12	縦ヘラケズリ、下縦ヘラケズリ。内底割多い	内外暗褐色、部分的にスス付着	胎土、焼成
144-1	74	6001	須恵高台付坏	底部のみ、高台部5.5cm残	20+ : : : 132 : : 108 5<7		外スス付着。内灰白色	微石少ない混、脆い
144-2	74	6001	甕	遺物現存せず。完形	65 : 142 : : 143 : : 3&底 5<9	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ヘラミガキ	内外赤褐色、部分的に黄褐色	やや軟質
144-3	74	6001	坏	完形、口縁1/2以上欠	40 : 149 : : : 94 5<8	横ナデ、横ヘラケズリ。内ミガキ	内外赤褐色から黄褐色。内暗文上下かすれる	微砂わずかに混、軟砂質
144-4	74	6001	坏	底部中央欠、1/4残	39 : 153 : : : 145 3<7	横ナデ、横ヘラケズリ。内横擦痕多数	内外赤褐色から黄褐色	微砂混、軟質
144-5	74	1001	甕	床面から+19cm。完形、口縁1/2強残	205 : 215 : 187 236 : 80 5<10	横ナデ、縦ヘラケズリ、斜めヘラケズリ、横ヘラケズリ。内横ナデ、ヘラ整形	内外赤みのある黄褐色。外黒斑	
145-1	77	1005	高坏	ポイントのみ。完形、口縁細かく欠	61 : 128 : : : 30 45 3<8	上ナデ、下縦ヘラケズリ、順縦ヘラケズリ、縦横ナデ。内坏ナデ、ヘラ先痕、脚横ヘラケズリ、縦横ナデ	内外赤彩	
145-2	77	1001	高坏	床面から+7.5cm。完形、口縁1/2強残、坏半分赤彩消え脆い、19片接合、坏15・胴4	95 : 140 : : : 31 43 5<8	胴タテヘラケズリ、縦線刻痕一部端まで、縦横ナデ。内坏	内外赤彩。内胴横も赤彩	縦痕か楕円形の穴目立つ、焼成良
145-3	77	6001	手捏	遺物現存せず。完形	21 : 72 : : : 44 5<7	横ナデ、ヘラ先痕、中央竜型、脚横ヘラケズリ、縦横ナデ	内外暗赤褐色。内下赤褐色	微石をあまり含まない、堅
145-4	77	6002	手捏	完形、1/4残	43 : 82 : : : 59 3<12	手捏ね	外灰褐色。内黄褐色	微
145-5	77	6001	甕	底部破片	20+ : : : : 33 5<8	斜めヘラケズリ。内横ナデ		砂質、脆く表裏に剥落多い
145-6	77	6001	甕	胴以下欠、口縁全周	145+ : 155 : 105 : 216 : : 7<9	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラナデ	内外褐色、黒点多い。外スス付着	
145-7	77	6001	甕	上欠、欠多い	188+ : : : 212 : : 56 5<9	斜めヘラケズリ。内横ヘラ、輪痕み痕残	内外暗褐色。外黒斑	
145-8	77	6001	甕	完形、口縁1/2強残	175 : 148 : 135 : 170 : : 64 5<10	横ナデ、縦ヘラケズリ、横ヘラケズリ。内横ナデ	外黒褐色。内黄褐色、黒斑	
145-9	77	1002	甕	床面から+6cm。完形、口縁、胴部分的に欠	203 : 150 : 137 : 189 : : 58 3<10	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ	内外暗褐色から黒褐色	
145-10	77	1003	甕	床面から+5cm。完形、口縁、胴わずかに欠	229 : 228 : 206 : 218 : : 75 3<8	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ、ヘラ整形	内外黄褐色。外一部黒褐色	
145-11	77	1001	甕	ポイントのみ。完形、口縁、胴わずかに欠	306 : 263 : 216 : 224 : : 82 5<9	横ナデ、縦ヘラケズリ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、縦ヘラケズリ	内外黄褐色。外上から28cm 1/2 黒色。内上から13.5cm スス付着黒色	
146-1	77	6001	須恵蓋坏	下欠、つまみ径3.2cm	21+ : : : : 89+ : : 5<8		外暗灰色、自然釉。内明灰色	
146-2	77	6001	須恵蓋	口縁	22+ : 144 : : : : 3<9	器形不明瞭。内口クロ銀頭蓋	暗灰色	
146-3	77	6001	器台	坏欠、1/3残	31+ : : : : 26 40 3<5	縦ハケ	内外黄褐色。外一部赤褐色	
146-4	77	6001	器台	上下欠、破片残、脚穿孔3	45+ : : : : 39 87+ 3<15	弱い縦ヘラケズリ		
146-5	77	6001	器台	坏欠、脚穿孔上下各3、計6	65+ : : : : 29 131 3<12	縦ヘラケズリ。内横ハケ	内外赤褐色	
146-6	77	6001	高杯	遺物現存せず。上下欠	23+ : : : : 90 : 3<9	脚縁ヘラケズリ	内外黄褐色	
146-7	77	6001	埴	底部破片	20+ : : : : 35 : 32 3<	横ミガキ	内外赤彩。外底面まで	
146-8	77	6001	埴	胴欠、1/6残	31+ : 125 : 98 : : : 2<4	縦ハケ後ミガキ	内外暗黄褐色	
146-9	77	6001	埴	頸部以上欠	46+ : : : : 87 : 30 3<6	ヘラミガキ	外赤彩。内黄褐色	
146-10	77	6001	鉢	底部欠、1/4残	85 : 203 : : : : 51 3<12	横ナデ、縦ヘラケズリ、斜めから横ヘラミガキ。内横ナデ	内外黄褐色。内底黒褐色	
146-11	77	6001	甕	底部、胴部金厨器で擦った痕跡3条	72+ : : : : 212+ : : 64 5<14	斜めハケ、斜めヘラケズリ。内横ハケ後横ヘラミガキ	内外暗褐色。外黒点多い	
146-12	77	6001	甕	底部	40+ : : : : 177+ : : 68 5<9	斜めヘラケズリ。内ヘラ整形、一部ハケ	内外暗褐色。外底赤褐色	小石混
146-13	77	6001	甕	胴以下欠、口縁全周、胴1/3残	130+ : 160 : 136 : 169 : : 3<6	縦ハケ、横ハケ、斜めハケ。内口縁御ハケ後ナデ	内外暗黄褐色。外一部黄褐色。内一部赤褐色	微石若干混、堅緻
146-14	77	6001	甕	胴以下欠、口縁1/2強残ゆがみ大きい	172+ : 199 : 168 : 240 : : 5<7	上縦ハケ、胴中位横ハケ、下斜めハケ。内頸部以上斜めハケ	内外黄褐色から暗褐色。外下スス付着。内口緑黒色	
147-1	75	6001	甕	底部	45+ : : : : 163+ : : 82 9<17	斜めヘラケズリ。内ヘラナデ	内外黄褐色。外黒みを帯びる。内器表剥落	褐色粒混、砂多い混、やや軟砂質
148-1	78	6001	甕	口縁破片、1片、18%残	27+ : 182 : 115+ : : : 7<14	二重口縁、棒状貼付2本一組6単位、3単位5本現存	赤彩、二重口縁から下	砂粒混、良好
148-2	78	6001・6002	鉢	底部中央欠、火を受け脆い、14片接合、胴最大で1/2弱残	83 : 202 : : : : 92 9<11	口縁横ナデ上ヨヘミ、下斜めヘラミガキ、底部近く横ヘラケズリ。内斜めヘラミガキ、上から3.5cm ネスミの箇所	内外赤彩。外底部と直上以外。内下スス付着	砂粒目立たない、焼成良好
149-1	78	6001	横破坏	口縁破片、1片、口縁16%残	31+ : 132 : : : : 3&底 3<6	上横ナデ、下縦ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	砂粒細かい

番号	範囲	注記	器形	現状・特撰・備考	高さ:口徑:頸径:脚径:脚端:底:厚さ	発形	色調・付着物	胎土・焼成
149-2	78 6001		坏	完形、火を受け脆い、7片接合、口縁35%残	46 :350 : : : : 丸底 4<7	上横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	口縁赤褐色、胴暗赤褐色	胎土、焼成
149-3	78 6001		甕	底部	23+ : : : : 39+ : : 42 :4<12	縦ヘラケズリ		微砂、微石混
149-4	78 6001		手捏	底部	18+ : : : : 32+ : : 28 :4<6	手捏ね	内外暗褐色。外一部暗黄褐色。内一部黒色	微石若干混
149-5	78 1001		甕	床面から+6cm。底部欠	300+ :213 :175 :185 : : 5<10	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ、下ヘラ先直残	内外黄褐色。外上黒斑。内頸部以下スス付着	
149-6	78 1001・6001		甕	床面から+6cm。底部欠	245+ :213 :174 :190 : : 5<9	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、ヘラ整形	内外黄褐色。外胴粘土付層後火を受ける。内下スス付着	
149-7	78 1001・6001		甕	床面から+6cm。胴以下欠、カマド跡・内出土、小破片多いが接合せず	149+ :215 :173 :212 : : 5<7	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、頸部横ヘラケズリ、胴ヘラ整形	内外暗褐色。外一部黒褐色。内部分的に暗褐色、黒色	微砂、微石混、やや砂質
150-1	74 6001		甕	胴のみ、最大1/3残	180+ : : : : 310 : : 5<7	上斜めハケ後縦ヘラミガキ、下横ハケ後縦ヘラミガキ。内横ヘラ整形、下斜めハケ	内外黄褐色、部分的に暗褐色、黒色	
150-2	74 6001		甕	胴部のみ	143+ : : : : 224 : : 4<7	胴上位に結節と細文、他は横ヘラミガキ。内斜めヘラ整形	赤彩施紋部以外	
150-3	74 6001		甕	頸部以下欠、2片接合、口縁32%残	42+ :179 :153 :164+ : : 5<10	上斜めハケ後横ナデ、胴ハケ、ナデ。内上横から斜めハケ、頸部以下横ナデ	外赤褐色、一部黒斑。内暗褐色、口縁部分的に黒みを帯びる、胴一部黒斑	砂粒やや多い、硬い
150-4	74 6001		甕	頸部以下欠	41+ :164 :138 :158+ : : 5<7	横ナデ		
150-5	74 6001		台付甕	台のみ	46+ : : : : 50 :74 :4<12	縦ハケ後横ナデ		
155-1	82 1001		高坏	床面から+8cm。坏、火を受け脆い、8片接合、最大11.5cm45%残	51+ :188 : : : : 32+ : : 3<9	縦ヘラミガキ。内横ヘラミガキ、器表剥落	外赤彩。内黄褐色	砂粒多い
155-2	82 6001		高坏	胴のみ、2片接合、2/3弱残	50+ : : : : : :130 :5<7	縦ヘラミガキ。内横ナデ	内外黄褐色	砂粒多い、やや硬い
155-3	82 6001		埴	完形、口縁1/4弱残	85 :173 :141 : : : :37 :4<10	斜めミガキ、下横ミガキ	内外赤彩	
155-4	82 6001		甕	口縁、10cm残	55+ :190 :86+ : : : :4<7	縦ヘラミガキ。内横ヘラミガキ	内外淡褐色	砂粒目立つ、やや軟質
156-1	83 6001		甕	胴部上半欠	166+ : : : : 262 : : 38 :7<17	結節と細文以下ヘラミガキ。内横ヘラ整形	赤彩施紋部以外	
156-2	83 6001		甕	口縁のみ、17cm残、接合しない破片2	48+ :247 :162+ : : : :4<11	棒状貼付(本1組、ボタン状貼付2個1組、3単位。内横ヘラミガキ	内外赤彩施紋部以外	砂粒目立つ、焼成良、火を受ける
156-3	83 1001		甕	床面から0cm。頸部上下欠、火を受け脆い、頸部83%残	106+ :136+ :110 :134+ : : : :4<9	縦ヘラミガキ、結節、細文、ボタン貼付11カ所確認。内上3/4縦ヘラミガキ、下ヘラナデ	赤褐色	砂粒内面ヘラナデ部で目立つ
158-1	59 6001		坏	口縁破片、器表摩耗、口縁20%残	45+ :162 : : : : : :4<8	口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	淡褐色	やや軟質
158-2	59 6001		坏	完形	57 :158 : : : : : :丸底 4<11	横ナデ、ヘラケズリ	外赤彩上から2.7cm、以下黄褐色。内赤彩上から2cm、以下黄褐色	褐色粒混、砂が多い、やや脆い
158-3	59 6001		器台	脚破片、脚端28%残	51+ : : : : 38+ :38 :74 :5<7	斜め荒いハケ、上横ヘラケズリ。内横ヘラミガキ、上器表荒れる	内外淡褐色。外一部黒斑。内スス付着黒色	砂粒目立たない、硬い
158-4	59 6001		手捏	底部	19+ : : : : 54+ : : 39 :3<5	手捏ね	内外暗黄褐色	微石をあまり含まず
158-5	59 6001		甕	底部全周、9片接合、底部完	60+ : : : : 156+ : : 30 :7<11	斜めヘラ後横ナデ、器表摩耗	外暗赤褐色。内淡褐色	小石砂粒目立つ、脆い
158-6	59 6001		甕	1片、底部44%残	58+ : : : : 170+ : : 42 :5<8	縦ヘラケズリ、底部近く横ヘラケズリ。内横ナデ、一部横ヘラケズリ	外暗赤褐色。内淡褐色	
158-7	59 6001		甕	底部、1/3破片	70+ : : : : 162 : : 38 :5<8	外横ヘラケズリ器表摩耗。内横ヘラケズリ後横ナデ、下端横ヘラケズリ	橙褐色	砂粒多い
158-8	59 6001		甕	口縁部、3片接合、最大で33%残、口縁2.5cm残	24+ :174 : : : : : :4	折り返し口縁、細文、鋭い刻み。内横ヘラミガキ	施文部以外内外赤彩	砂粒小石多い、脆い
158-9	59 6001		甕	底部欠、口縁、胴一部欠	216+ :244 :221 :262 : : : :4<7	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、縦から斜めヘラ整形	内外暗赤褐色。外黒斑	細砂、粘土粗粒混
159-1	59 6001		高坏	坏破片	59+ :127 :125 :156 : : : :5<9	横ナデ、横ヘラケズリ	内外赤彩	砂粒多い、脆い
159-2	59 6001		埴	完形、口縁わずかに欠、底部わずかに上げ底	105 :115 :103 :122 : : 30 :5<11	上横ヘラ整形、胴上横ヘラケズリ、下ヘラミガキ。内ヘラミガキ	内口縁赤彩	
159-3	59 6001		甕	口縁部破片、頸部以下欠	80+ :130 :124 :157 : : : :5<9	横ナデ、横ヘラケズリ	内外暗褐色、一部黒色	白微砂混

番号	押図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・底・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
160-1	59	6001	高杯	杯部破片、口縁5cm残	36+ :162 : : : : 3<5	内外横ナデ	外赤彩	胎土、焼成 砂粒多く脆い
160-2	59	6001	甕	遺物現存せず。底部破片	25+ : : : : : 66 3<14	縦ヘラケズリ		
160-3	59	6001	器台	脚部、焼成前穿孔2個一組残。端7.3cm残	36+ : : : : : 78 :160 3<6	縦ヘラミガキ、沈線1条	端褐色、外赤彩	堅緻
160-4	59	6001	台付甕	台のみ、端5.5cm残	41+ : : : : : 64 :100 3<6	縦ヘラケズリ蓋表ややあれる	波褐色、部分内にスス付着	砂粒混、やや脆い
160-5	59	6001	甕	底部破片	23+ : : : : : 44 3<6	焼成前穿孔現存3	黒褐色から黒色	
161-1	74	6001	甕	遺物現存せず。胴のみ、胴下位に段	216+ : : : : : 281 : : 36<9	斜めヘラミガキ。内横ハケ、斜めヘラ整形	内外暗褐色、黒斑、下褐色	
161-2	74	1001	高杯	床面から0cm。胴下欠、杯1カ所欠、脚部穿孔3、外から焼成前	96+ :174 : : : 36 50+ :<10	縦ヘラケズリ。内口縁1.8cm横ハケ後全面縦ヘラミガキ、剥落多い	内外黄土色。外一筋スス付着黒色。内底黒色、脚赤褐色	極細砂若干混
161-3	74	6001	高杯	脚部短欠、口縁1/3欠	103+ :144 : : : 33 43+ :<10	横ナデ、縦ヘラケズリ2段、胴縁ヘラケズリ。内杯横ナデ、胴縁ヘラケズリ	内外赤彩。内側淡褐色	
162-1	78	6001	杯	完形、口縁2/3弱残	40 :144 : : : :146 : :146 5<6	横ナデ、横ヘラケズリ。内口縁ヘラ残る	内外黄褐色。外口縁黒斑	微石混
163-1	78	6001	須恵蓋杯	上欠、1/6残	26+ : : : : :160 : :158 3<7		内外尾暗灰色。外黄灰色自然釉	微石若干混
163-2	78	6001	須恵蓋杯	上欠、1/6残	26+ : : : : :178 : :173 3<6	灰緑色自然釉	外黄灰色。内淡黄灰色	微砂わずかに混、気泡混
163-3	78	6001	須恵蓋杯	遺物現存せず。完形、1/2残、つまみ径2.8cm	32 : : : : :160 : :156 3<7		内外黄灰色	
163-4	78	6001	須恵蓋杯	203-6001と接合。完形、端一筋欠、つまみ径3.2cm	41 : : : : :166 : :170 3<10		内外暗灰色	
163-5	78	6001	須恵高台付杯	底部欠、1/6残	38 :171 : : : :125 :121 3<6		外淡青灰色。内黄灰色	
163-6	78	6001	須恵高台付杯	203-6001と接合。底部欠、1/4残	23+ :151 : : : : :101 :<6		内外暗灰色。外一筋細く自然釉	白色、黒色微粒混
163-7	78	6001	須恵杯	底部欠	34+ :114 : : : : : :<6		内外灰色	
163-8	78	6001	須恵広口壺	胴下半欠、口縁摩耗	78+ 59 90 :165 : : : :3<7	上横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外淡緑色。自然釉。外厚い。内口縁に釉	砂粒目立たない、やや軟質
163-9	78	6001	杯	3片接合。口縁36%残	37+ :158 : : : : : :5<6	横ナデ、横ヘラケズリケズリ。内ヘラミガキ	内外淡褐色、部分的に黒斑	
163-10	78	6001	杯	完形、火を受け変色。口縁2/3弱残	40 :149 : : : : :70 :<9	横ナデ、横ヘラケズリケズリ。内ヘラナデ	内外赤色。外底一部黒色	微石混
163-11	78	6001	杯	完形、口縁2/3弱残	40 :114 : : : : :33 :<6	横ナデ、横ヘラケズリケズリ。内ヘラナデ	内外下半黒変部あり	
163-12	78	6002	鉢	完形、口縁1/2	49 :109 : : : : :53 3<6	横ハケ、斜めハケ。内横ハケ	内外暗褐色。外一部黒斑	
163-13	78	6002	甕	口縁部欠、胴完	30+ : : :39 37 : : :146 5<8	胴縁ヘラケズリ	内外赤彩。外下から0.5cm黄褐色	
163-14	78	6002	甕	底部以下欠、口縁3/4強残	157+ :167 :140 :202 : : :3<5	縦、斜めハケ後縦なヘラミガキ。内口縁斜めハケ	外黒褐色。内暗褐色	
163-15	78	6001	甕	162-6001と接合。底部欠、最大2/3残	216+ 216 :157 :188 : : :3<9	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、下横ヘラ	外赤褐色、一部黒色。内暗褐色	砂粒目立つ、硬い
164-1	79	6001	器台	脚のみ、穿孔2個一組3カ所	38+ : : : : :39 54+ :22	ヘラケズリ、やや光沢あり。内ヘラナデ	内外淡褐色。内スス付着	
164-2	79	1001	甕	脚部2片接合、最大径部分で13cm36%残	49+ : : :56+ :114 : : :104+ : :	甕表摩耗、細文3段、沈線横ヘラミガキ。内横ナデ	外赤彩、上波褐色、脚スス付着黒色。内波褐色、大部分スス付着黒色	
164-3	79	1001	甕	6片接合	44+ :250 :166+ : : : :3<16	俵状貼付3本一組1カ所のみ残、俵1本、区画溝2本。内横ヘラミガキ	内外赤彩施紋部以外	
165-1	81	6001	高杯	口縁部破片	46+ :152 : : :37 : : :<8	横ナデ、横ヘラケズリ、縦ヘラケズリ。内横ヘラ整形	内外赤彩。内裏磨的	
165-2	81	1003	杯	床面から+18cm。完形、口縁わずかに欠	36 :155 : : : : :146 3<7	ヘラ整形	内外赤彩	
165-3	81	6001	埴	口縁部破片、底部わずかに上げ底	51 :128 :88 : : : :18 3<7	横ヘラミガキ、斜めヘラミガキ。内脚斜めヘラミガキ平滑	内外赤彩	細砂混
165-4	81	6001	甕	底部	35+ : : : : : :40 3<7	横ヘラケズリ	内外赤彩	
165-5	81	6001	甕	頸部以下欠、1/3残	48+ :205 :127 : : : : :<7	ミガキ、口縁下細く刻み。内ミガキ	内外赤彩	
165-6	81	6001	甕	175-6001と接合。頸部以下欠、1/3残、二重口縁	48+ :150 93 : : : : :3<7	口縁横ナデ、斜めハケ。内横ハケ後横ナデ、斜めから横ハケ	内外赤彩赤褐色	微石混、堅緻
165-7	81	6001	埴	頸部以下欠、1/3残	63+ :109 56 : : : : : :<7	ヘラミガキ。内ハケ後ミガキ	内外赤彩	微石混
165-8	81	6001	器台	完形、口縁2/3弱残。脚部穿孔3、外から焼成前、杯上から焼成前	75 84 : : :34 :124 :<8	縦ヘラケズリ穿孔後	内外赤彩	細砂わずかに含む
165-9	81	6001	高杯	接合部のみ	17+ :55+ : : :29 : : :7<9	横ヘラナデ	内外赤彩	

番号	押国	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・底・厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
165-10	81	6001	甕	底部破片	20+ : : : : 46 : :	縦ヘラケズリ。内横ナデ		
165-11	81	1001	甕	床面から+18cm。完形、口縁1/2強残、胴全周	277 :379 :144 :217 : : 63 :5<9	横ナデ、横ヘラケズリ、縦ヘラケズリ。内輪痕多直残	内外黄褐色。外頸部以下暗褐色	
165-12	81	1002	甕	ポイントのみ。完形、口縁、胴欠多い	261 :173 :144 :212 : : 73 :6<9	縦ヘラケズリ。内輪痕み直残	内外黄褐色	
165-13	81	6001	甕	頸部以下欠、1/6残	42+ :39 :147 :162+ : : 4<6	横ナデ、縦ハケ	内外黄褐色から暗褐色	
165-14	81	6001	甕	胴下半欠、口縁3/4弱残	146+ :156 :149 :237 : : 6<9	横ナデ、縦をまとしたヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラケズリ	内外黄褐色から赤褐色、黒斑	良
165-15	81	1003	甕	ポイントのみ。完形、口縁1/2、胴一部欠	232 :151 :136 :225 : : 74 :6<8	口縁横ナデ、胴斜めヘラケズリ。内下ヘラ先直残	内外黒斑、赤斑	細砂、石英混
165-16	81	1003	甕	ポイントのみ。完形、口縁わずかに欠	265 :215 :197 :197 : : 61 :6<8	横ナデ、部分的に縦ヘラ整形後斜めヘラケズリ。内横ナデ、ヘラミガキ	外黄褐色、黒斑。内上褐色、下灰褐色	
166-1	80	6001	甕	火を受け荒れる、4片接合、口縁31%残	40+ :174 :140 : : : 5<9	横ナデ、輪痕み直顯著。内横ナデ	内外黄褐色	砂粒小石目立つ
166-2	80	6001	高坏	坏ほぼ完形、口縁一部欠、10片接合	56+ :130 : : : 36 : 4<9	口唇摩耗、横ナデ。内口唇摩耗、横ナデ	内外赤彩。内口縁から3.5cmまで	砂粒小石目立つ
167-1	81	6001	甕	胴下半欠、口縁20%残	69+ :230 :206 :282+ : : 5<9	斜めハケ後横ナデ、胴下半縦ヘラケズリ。内斜めから横ハケ後横ナデ、輪痕み痕口縁下に残	外暗灰褐色、一部黒色。内口縁暗褐色、黒黒色	砂粒目立たない、硬い
167-2	81	6001	高坏	胴部欠	47+ :142 : : : 30 : :<12	横ナデ、横ヘラケズリ、縦ヘラケズリ	内外赤彩。内上から2.2cmまで	微砂混
167-3	81	1001	甕	床面から+1.5cm。完形、口縁一部欠	190 :167 :142 :213 : : 61 :6<7	ハケ後横ナデ、縦、斜めハケ後斜めヘラケズリ。内横ハケ、斜めヘラ整形	内外暗褐色。外下スス付黒斑多い	
168-1	83	6001	甕	頸部以上欠、亀裂多い	164+ : : : 228 : : 76 :4<12	横ナデ、輪痕み直残	内外黄褐色。外上わずかにスス付着	砂粒多い
168-2	83	6001	台付鉢	底部欠	122+ :180 :168 :175 :48 : : 3<6	横ナデ	内外黄褐色	微砂混、脆い
169-1	83	6001	高坏	上下欠、坏下に段	22+ :46+ : : : 38 : :<11	縦ヘラミガキ。内横ヘラミガキ	内外赤彩。内黒みを帯びる	微砂混
169-2	83	6001	高坏	坏下半、4片接合、3/4残	20+ :40+ : : : 36 : 8<10	縦ヘラケズリ後縦ヘラミガキ、ヘラ先直残。内横ヘラミガキ	内外赤彩	砂粒多い、良好
169-3	83	6001	高坏	脚欠、口縁1/4弱残	52+ :146 : : : 30 : :<11	横ナデ、縦ヘラミガキ。内横ヘラミガキ	内外赤彩	
169-4	83	6001	高坏	口縁5.5cm残	36+ :126 :111 : : : 3<4	ヘラミガキ	内外赤彩	
169-5	83	6001	埴	口縁5.5cm残	46+ :138 : : : : 8<8	ヘラミガキ。内横ハケ	内外赤彩	
169-6	83	6001	坏	遺物現存せず。底部欠	31+ :127 : : : 137 : : 4<6	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ヘラミガキ	内外暗赤紫色	
169-7	83	6001	埴	頸部以上欠、胴一部欠、底部わずかに上げ底	108+ : : : 72 :136 : : 28 :3<7	ヘラミガキ	外赤彩、底部から0.3cmを除く	砂粒多い
170-1	83	6001	高坏	脚欠、脚接合部から離れる	49+ :115 : : : 29 : :<8	縦ヘラミガキ。内斜めヘラミガキ	内外黄褐色、部分的に火を受け黒色から赤色を帯びる	
170-2	83	6001	高坏	脚部破片、1片、最大15%残	63+ :194 : : : : 4<5	縦ヘラミガキ。内脚横ナデ	内外赤彩	砂粒多く外表面に目立つ、硬い
170-3	83	6001	高坏	脚のみ	79+ : : : : 25 :109 :5<12	脚縦ヘラケズリ後横ナデ、下横ナデ。内脚横ヘラケズリ一回転、下ハケ後ナデ	外赤彩、脚上部火を受け消える、スス付着黒色部多い。内赤褐色、上薄い、下黒みを帯びる	砂粒やや多い、硬い
170-4	83	1001	高坏	ポイントのみ。遺物現存せず。脚のみ	77+ : : : : 26 :128 :<12	縦ヘラケズリ後ナデ	外赤彩	
170-5	83	6001	埴	頸部以下欠、口縁1/3弱残	94+ :136 :71 : : : 4<9	横ミガキ、縦ハケ後縦ミガキ。内斜めハケ	内外赤褐色。外高柄に粒黒斑	微石わずかに混、脆い
170-6	83	6001	埴	口縁から頸部破片、火を受け変色	70+ :126 :36 : : : 4<7	横ヘラミガキ。内横ナデ、ハケ後ヘラ整形後横ヘラミガキ	内外赤彩、下赤褐色から黒色	細砂混
170-7	83	6001	埴	完形、頸部全周	80 :145 :100 :105 : : 4<8	横ナデ、横ヘラケズリ後横ヘラミガキ。内上ヘラミガキ、下ヘラケズリ	内外赤彩。内上から4cmまで	微砂少なく軟質
170-8	83	1003・6001	埴	ポイントのみ。完形、口縁1片、頸部全周、底部赤彩	68 :140 :113 :119 : : 26 :3<5	横ヘラミガキ	内外赤彩	
170-9	83	6001	甕	頸部以下欠、口縁3/4強残。有段口縁	69+ :165 : : : : 5<10	斜めハケ後横ナデ、縦ハケ。内斜めから横ハケ、頸部指先で絞る	黒斑あり	
170-10	83	6001	甕	頸部以下欠、4/5残	31+ :159 :129 : : : 4<8	横ナデ、縦ハケ。内横ナデ、縦ハケ	内外赤みのある黄褐色	砂粒多い、軟質

番号	押図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ:口径:頸後:胴後:胴底:厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
170-11	83	6001	手捏	口縁欠	29+ :32 : : : : 45 :	手捏ねのままで、粘土泥質亀裂で残。内へラナデ、上へラ先頭残	内外淡褐色、上黒変	
171-1	84	6002	埴	上下欠、火を受け脆い、最大で35%残	99+ :140+ :88 :122 : : :106+ :3<6	器表磨耗。内上斜めヘラミガキ、胴斜めヘラケズリ	外桃色、内赤彩、胴灰白色	
172-1	84	6001	高杯	遺物現存せず。接合部のみ	18+ : : : : : 35 : : :	縦へラナデ	内外赤彩	
172-2	84	6001	高杯	遺物現存せず。杯のみ	30 :103 : : : : : :	縦へラミガキ	内外赤彩	
172-3	84	1001・6001	高杯	ポイントのみ。杯のみ、3片接合、口縁26%残	45+ :126 :120 : : : : 3<6	上横ナデ、以下横へラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	砂粒やや目立つ、良好
172-4	84	6001	甕	胴下半欠、口縁3/4強残 胴部分的に欠	179+ :155 :131 :169 : : : 5<7	横ナデ、縦へラケズリ器表が荒れ不鮮明。内横ナデ、横へラケズリ	内外赤褐色。外一部黒色	
172-5	84	1002	甕	ポイントのみ。胴下半欠、口縁1/2残	172+ :182 :146 :207 : : : 5<8	横ナデ、斜めヘラケズリ、器表が荒れ不鮮明。内横ナデ、横へラケズリ	黄褐色	砂粒やや多い
172-6	84	6001	甕	胴上半欠、底部わずかに上げ底	148+ : : : : 227 : : 48 :5<10	ヘラミガキ。内へラナデ	内外器表剥落激しい	
172-8	84	6001	甕	胴以下欠、最大1/2弱残	105+ :215 :184 :239+ : : : 4<7	口縁小波状、頸部に段、条痕。内横へラナデ	外暗褐色から黒褐色。内黄土色	
174-1	86	6001	甕	遺物現存せず。上下欠	242+ :117+ :120 :237 : : : 7<12	縦帯、縦文、沈線、頸部、胴上部に施紋。内横へラナデ	外赤彩施設部以外。内黄褐色	微石多く混、軟質
174-2	86	6001	甕	口縁欠、頸部ほぼ全周、頸部に段	122+ :104+ :105 :127 : : 63 :5<9	羽状渦文、刻み、横へラケズリ、縦へラケズリ。内横へラ形状	内外黄褐色。外部分的に暗褐色から黒色	
174-3	86	6001	甕	底部破片、穿孔	56+ : : : : 127 : : 37 :5<9	縦へラ形状。内横へラ形状	内外暗赤褐色	
174-4	86	6001	甕	頸部以下欠、1/5残	33+ :119 :51 : : : : 4<5	縦へラケズリ	外黄褐色。内赤彩	
174-5	86	6001	甕	頸部以下欠。口縁頸部全周	48+ :36 :62 : : : : 4<6	斜めハケ後横ナデ。内斜めから横ハケ後横ナデ	内外黄褐色。外口縁近く黒褐色	微砂混
174-6	86	6001	器台	頸部のみ、1/6残	17+ : : : : : :132 :<5	ヘラミガキ。内横ハケ	外赤彩。内赤褐色	砂、微石混、緻密
175-1	87	6001	器台	脚欠、環縁穿孔、1/2残	32+ :61 : : : : 25 :30+ :<8	横ナデ。内横ヘラミガキ雄	内外黄土色から暗褐色	
175-2	87	6001	器台	接合部のみ、脚穿孔3、環縁穿孔	30+ : : : : : 29 :51+ :<7	横へラミガキ。内環横ヘラミガキ、脚横ナデ	内外赤彩。内暗褐色	細砂若干混
175-3	87	6002	器台	上欠、胴端わずかに欠、環縁穿孔	30+ : : : : : 26 :79+ :<11	横へラミガキ。内環横ヘラミガキ、脚横ナデ	内外赤彩。外穿孔部を除く	
175-4	87	6002	器台	環欠、脚穿孔3、環縁穿孔	56+ : : : : : 35 :118 :<6	ハケ後縦ミガキ。内横へラケズリ、横ハケ	内外赤彩	
175-5	87	6001	器台	完形、口縁わずかに欠、脚穿孔3、環縁穿孔	70 :56 : : : : 33 :112 :3<	縦へラミガキ。内環横ヘラミガキ、脚横ハケ	内外赤彩。内環口縁から1.5cmまで	
175-6	87	6001	器台	完形、口縁2カ所欠、脚穿孔3	79 :69 : : : : 27 :107 :4<	上ナデ、下縦へラケズリ、脚横ヘラケズリ、裾横ナデ。内環ナデ、ヘラ先組、脚横へラケズリ、裾横ナデ	内外赤褐色。外胴端黒みを帯びる	
175-7	87	6002	埴	胴以下欠、口縁1片、頸部1/2以上残	180+ :215 :138 :210 : : : 4<6	上縦へラミガキ。頸部横ヘラミガキ、脚横ヘラミガキ。内上縦へラミガキ	内外赤彩 一部黒斑。内脚横褐色	細砂微量混、緻密
175-8	87	6002	埴	頸部以上欠、胴完、底部わずかに上げ底	117+ :80+ :72 :112 : : :36 :4<7	脚横へラケズリ後ミガキ。内へラミガキ、胴上横ハケ	内外赤彩。内脚横褐色	細砂多い混
175-9	87	6002	埴	底部破片、底部上げ底	42+ : : : : 125 : : 30 :4<10	上へラミガキ、下縦へラミガキ頭蓋。内上ハケ、下へラ整形	外赤彩、黒斑。内黄褐色	細砂若干混
175-10	87	6001	埴	底部中央欠、1/3残	50 :110 :76 : : : :5& 3<5	ヘラミガキ、平滑	内外赤彩	細砂若干混
175-11	87	6001	埴	完形、1/5残、底部わずかに上げ底	61 :137 :110 :112 : : :16 :2<4	斜めハケ後横ヘラミガキ、脚横ヘラミガキ。内へラミガキ	内外赤彩。外底黒斑	白微石若干混
175-12	87	6002	埴	完形、1/3残、底部わずかに上げ底	61 :139 :86 :88 : : 32 :4<6	ヘラミガキ、凹凸目立つ	内外赤彩	細砂多い、微石混
175-13	87	6001	甕	頸部以下欠、頸部全周	48+ :148 :127 :152+ : : : 5<8	縦ハケ後横ナデ、斜めから横ハケ。内横ハケ後ナデ	内外黒褐色、部分的に黒色	堅緻
175-14	87	6001	甕	頸部以下欠、1/5残、二重口縁	52+ :149 :83 :87+ : : : 5<7	横後斜めハケ、口縁貼付横ハケ。内横斜めハケ後上横ナデ	内外暗赤褐色	砂粒目立つ、硬い
175-15	87	6001	甕	頸部以下欠、3片接合、口縁31%残	48+ :162 :137 :176+ : : : 4<6	斜めハケ後横ナデ、胴は光沢がある、輪痕み痕1段残。内横ヘラミガキ、上器表剥落	赤褐色、部分的に黒みを帯びる	
175-16	87	6002	甕	上下欠、1/2残	65+ :120+ :102 :185+ : : : 4<7	上横へラナデ、脚横へラナデ。内上ハケ後へラナデ、脚横ハケ	内外暗赤褐色。外黒斑	微砂多い混、堅緻
175-17	87	6002	甕	頸部以下欠、1/4残	46+ :180 :147 :161+ : : : 5<7	器表磨耗。内横ナデ	外黒褐色。内暗黄褐色	

番号	種別	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口徑・頸徑・胴徑・脚徑・底・厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
175-18	87	6001	甕	胴以下欠、1/4頸残	88+ :80 :160 :228+ : : 5<8	口縁微ハケ、頸部以下斜めヘラケズリ、頸部上へラ先痕。内口縁微ハケ、以下横ヘラ整形	内外赤みのある黄褐色。スス吸着黒化	微砂目立つ、径2mm程度の小石目立つ
175-19	87	6001	甕	逆物現存せず。胴以下欠、1/3残	103+ :174 :151 :246+ : : 3<8	縦ハケ後横ナデ、斜めから横ハケ。内横ハケ後ナデ	赤褐色	
175-20	87	6001	甕	胴下半欠、1/4残	50+ :148 :129 :154+ : : 3<6	斜めヘラ整形	外黒色、一部黄褐色。内暗黒褐色	細砂、微石多く混
175-21	87	6001	甕	底部、わずかに上げ底	30+ : : : :123+ : : 3<4 5<10	斜めヘラ整形	外暗褐色から黒褐色。内黄褐色	微石多く混
175-22	87	6001	甕	底部、わずかに上げ底	15+ : : : :76+ : : 5<8 6<8	縦ヘラケズリ	外赤褐色。内黄褐色	
176-1	87	6001	高坏	胴部欠、口縁全周	50+ :177 : : : 51 : : 3<7	縦ヘラ整形。内縦から斜めヘラ整形	内外赤彩	
176-2	87	6001	高坏	胴欠、口縁2カ所欠	76+ :208 : : : 56 : : 3<9	横ナデ、縦ヘラミガキ	内外赤彩	
176-3	87	6001	高坏	胴欠、口縁2カ所欠	92+ :214 : : : 43 : : 3<8	横ナデ、縦ヘラミガキ	内外赤彩	細砂若干混
176-4	87	6001	高坏	胴欠、口縁1片残	85+ :203 : : : 41 : : 3<8	横ナデ、縦ヘラミガキ	内外赤彩	白微石若干混
176-5	87	6001	高坏	坏欠、胴穿孔2個一組3組6、3/4残	87+ :57+ : : : 37 :122 :<10	坏ヘラケズリ、縦ヘラミガキ、横ナデ。内横ナデ	外赤彩。内黄褐色	微石、褐色粒多く混
176-6	87	6001	甕	胴下半欠、1/3残	50+ :102 :93 :116+ : : 3<5	荒れて整形不明。内横ヘラ整形	内外黄褐色	
176-7	87	6001	甕	底部	38+ : : : :130+ : : 54 :3<7	ヘラミガキ	内外赤彩	白微石多い混、脆い
176-8	87	6001	甕	底部全周、2片接合、胴最大7cm	60+ : : : :220+ : : 34 :5<12	上横ヘラケズリ、底部近く斜めヘラケズリ。内横ナデ、小亀裂あり	内外暗褐色。外頸部褐色。一部黒斑	砂粒、土器片粒目立つ
176-9	87	6001	甕	完形、口縁、胴部分的に欠	226 :182 :167 :204 : : 54 5<10	上条痕様の横ハケ、胴上横ヘラケズリ、下縦ヘラケズリ。内横ヘラ整形	外暗褐色。内やや黒みのある褐色	
176-10	87	6001	甕	上下欠、胴部ほぼほ全周、一部欠、他は破片接合	168+ :74+ :53 :118 : : 3<8	縦ヘラミガキ。内頸部以上横ヘラミガキ、胴横ナデ、輪破み痕	赤彩	砂粒やや多い、やや散質
176-11	87	6001	甕	胴下半、最大21cm32%残、17片接合、亀裂多い	172+ :202+ : : :240 : :100 3<8	縦ヘラミガキ、上横ヘラミガキ。内ヘラミガキ	外赤彩、横筋跡、明褐色、一部暗灰褐色、黒斑。内明褐色。一部暗灰褐色	砂粒やや目立つ、焼き締まり悪い
176-12	87	6001	甕	底部わずかに上げ底	38+ : : : :147 : : 52 3<11	ヘラケズリ。内ヘラミガキ、平滑	外赤みのある黄褐色。内黒褐色	細砂多い、硬い
177-1	88	6001	埴	小破片、口縁5.5cm、12%残	52+ :144 :130+ : : : 3<5	横ヘラミガキ。内横ヘラミガキ	内外赤彩	小石、砂ややめだつ
177-2	88	6001	甕	胴下半欠、口縁22cm36%残、3片接合	80+ :194 :139 :183+ : : 3<9	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、下横ヘラ	内外淡褐色、一部黒変、一部粘土付着	
177-3	88	6001	甕	底部	46+ : : : : : 3<8 >12	縦ヘラケズリ		
177-4	88	6001	異形器台	坏下部で6.5cm27%残1片	34+ :106+ :89 :116 :30 : : 3<7	斜めヘラミガキ、下縦ヘラケズリ。内斜めヘラミガキ荒く凹凸目立つ	内外赤彩	
178-1	89	6001	甕	底部破片、底部2/3破片1、胴破片3	56+ : : : :188+ : : 56 5<8	口縁横ナデ、横ヘラケズリ、下縦ヘラケズリ。内口縁横ナデ	内外赤彩。外底部近くを除く	砂粒小石多い、良好
179-1	89	6001	器台	胴穿孔3、火を受け脆い、下2/3残、10片接合	30+ : : : : : 32 :126 3<17	上縦ヘラケズリ細かい、下横ヘラミガキ。内下横ヘラケズリ、縦ハケ、胴上部棒状に造る	外赤彩。内暗褐色、下明褐色	砂粒細かく良好
179-2	89	6001	器台	片内面わずかに残、1片、脚端70%残	70+ : : : : : 34 :126 3<14	縦ヘラミガキ、穿孔周辺ヘラ整形。内横ヘラナデ	外赤彩、孔内まで。内淡褐色、一部黒斑、赤彩散力所散る	砂粒多い、硬い
179-3	89	6001	器台	胴部破片、穿孔3/4、3片接合、端19cm56%残	43+ : : : : : 52+ :109 3<9	縦ヘラミガキ。内横ハケ、輪破み1段目一部残	外赤彩。内淡褐色、部分的に黒斑	砂粒多い
179-4	89	6001	器台	上下欠、穿孔4	35+ : : : : : 48+ :40 :54+ 3<10	縦ヘラミガキ。内横ヘラミガキ	内外赤彩。内脚暗褐色	砂粒多い、緻密
179-5	89	6001	甕	底部ほぼ全周、上幅7cmほど、4片接合	46+ : : : : :120+ : : 46 3<9	斜めヘラケズリ。内横ナデ	内外赤みのある淡褐色、部分的に黒斑	小石多い、硬い
180-1	89	6001	器台	上欠、上半全周、端5.5cm1片、縦に穿孔	65+ : : : : : 44+ :34 :121 3<14	縦ヘラミガキ。内脚荒い横ハケ、裾やや細かいハケ不規則に	外褐色、上スス付着黒色。内淡褐色、部分的に黒斑	砂粒目立つ、硬い
181-1	89	6001	甕	頸部以上欠	162+ : : : : : 204 : : 53 3<11	斜めヘラケズリ	内外赤褐色。外一部黒斑、赤みを帯びるところあり	
181-2	89	6001	無頸甕	完形、口縁2カ所欠	68 :80 :79 :90 : : 24 3<6	横ヘラケズリ後上下横ナデ。内横ヘラ整形	内外赤褐色。胴上部分内に黒みを帯びる。口縁内黒斑	
181-3	89	6001	埴	底部わずかに上げ底	48 :88 :75 : : : 28 3<8	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、斜めヘラケズリ	内外暗赤褐色	微石多い混

番号	神図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ:口径・頸径・胴径・脚径・底径・厚さ	形状	色調・付随物	胎土・焼成
181-4	89	6001	甕	遺物現存せず。頸部以下欠	32+ 32 51 56+ : : 3<4	上斜めヘラケズリ、下不明	内外暗赤褐色	
182-1	90	1001	高坏	床面から28cm。完形口縁わずかに欠	95 138 : : 38 100 5<8	上横、下縦、脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内环ヘラミガキ、脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ	内外赤彩、脚縁も赤彩	
182-2	90	6001	高坏	坏欠、器表若干剥落	30+ : : : 37 99 7<	縦ヘラケズリ、裾横ナデ。内横ヘラケズリ、横ナデ	内外赤彩	微石混入少ない、やや軟質
182-3	90	6001	高坏	坏欠	32+ : : : 35 99 5<	縦ヘラケズリ、裾横ナデ。内横ヘラケズリ、横ナデ	外赤彩。内赤褐色	微石若干混、軟質
182-4	90	6001	高坏	坏欠	72+ : : : 57 112 5<7	縦ヘラケズリ、裾横ナデ。内横ヘラケズリ、横ナデ	内外暗赤褐色。外スス付着黒色	微石若干混
182-5	90	6001	手捏	破片、径不明	71+ : : : : 5<8	編織み痕	暗褐色	
182-6	90	6001	壺	完形、口縁11cm残、脚欠多い、底部全周	71 89 81 90 : 25 3<7	斜めハケ後口縁横ナデ、下縦ヘラケズリ。内脚横ナデ	褐色から淡褐色、部分的に黒斑	砂粒やや大きく目立つ、脆い
182-7	90	1001	甕	床面から28cm。完形、口縁わずかに欠	206 172 150 : : 65 6<9	ハケ後横ナデ、縦ヘラケズリ、下斜めヘラケズリ	内外黄褐色、口縁黒色	微石混、焼き締まりよい
182-8	90	6002	甕	胴下半欠、口縁1/2強残	171+ 169 141 254 : : 5<9	横ナデ、縦から斜めヘラケズリ	内外黄褐色。外口縁暗褐色、胴中位スス付着黒斑多い	
182-9	90	6002	甕	頸部以下欠	42+ 166 158 132+ : : 4<6	口唇下沈線、頸部ヘラ先痕	内外黄褐色から赤黄褐色、部分的に黒色	
182-10	90	6001	甕	頸部以下欠	54+ 191 157 178+ : : 5<11	横ナデ。内横ナデ、脚縁ヘラケズリ	内外赤褐色、部分的に黒斑	微石若干混、やや軟質
182-11	90	1002	甕	床面から32cm。完形、口縁全周、胴下半わずかに欠、傾く	283 165 134 217 : 40 5<10	横ナデ、縦ヘラケズリ。内ヘラナデ	内外黒褐色。外スス付着黒色。内口縁黄褐色	
184-1	90	6002	模範坏	完形、口縁1/2強残	68 156 : 154 : 3&底 4<8	横ナデ、ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	
184-2	90	6002	高坏	完形、口縁2/3弱残、脚壳	90 138 : : 29 40 7<20	内横ナデ、脚縁ヘラケズリ	内外赤彩	
184-3	90	6001	高坏	完形、口縁、脚端一部欠	86 147 : : 34 96 5<17	横ナデ、横ヘラケズリ、脚縁ヘラケズリ下横ヘラケズリ、横ナデ。内横ヘラケズリ、横ナデ	内外赤彩。内脚幅も	
185-1	90	6001	甕	口縁破片、1片、最大28%残	30+ 140 126 : : 70+ 3<5	横ナデ、下横ヘラケズリ、口縁下に幅狭み痕。内横ナデ、ヘラ先痕	外赤褐色。内赤彩	砂粒移動目立つ、硬い
185-2	90	6001	甕	胴下半欠、頸部2/3弱残	101+ 104 79 132 : : 4<7	斜めハケ後横ナデ、斜めハケ、内横ハケ、横ミガキ	外赤褐色。内黒灰色	
185-3	90	6002	甕	胴上半、13片接合、口縁60%、頸部77%残	82+ 148 112 210+ : : 3<7	頸部以上斜めハケ後横ナデ、脚部斜め、横ハケ。内頸部以上横ハケ、脚横ナデ	内外暗褐色。外胴スス付着黒色	砂粒混、良好
185-4	90	6002	甕	頸部以下欠、2片接合30%残	40+ 140 126 148+ : : 5<6	頸部縦ヘラケズリ、他横ヘラケズリ。内横ヘラケズリ	内外暗褐色。外部分的にスス付着	砂粒目立つ、硬い
185-5	90	6001	甕	6片接合、底部から2.7cm全周、以上1/2残	40+ : : 102 : 26 3<8	底部上底、斜めヘラケズリ。内脚ナデ	内外淡褐色	小石、砂目立つ、軟質
185-6	90	6001・6002	甕	完形、火を受け脆い、32片接合、頸部49%残、上底	171 194 170 226 : 30 4<10	横ナデ、底部近く横ヘラケズリ。内横ナデ	内外暗褐色。外スス付着黒色	
185-7	90	6001	器台	脚のみ、1片、脚端34%残	39+ : : : 32+ 110 4<8	細かい縦ヘラケズリ。内脚ハケ後縦ヘラミガキ、頸部輪状み痕から器表剥落。内横ハケ後横ナデ、底部ハケ残る	赤彩	砂粒やや目立つ、やや軟質
186-1	90	6001	高坏	坏のみ、口縁3/4強残	40+ 137 : : 32 : 4<10	横ナデ、横ヘラケズリ、縦ヘラケズリ後縦整形、下縦接痕。内横ナデ	内外赤彩	
186-2	90	6001	高坏	完形、口縁2片のみ	100 156 : : 39 45 5<15	横、縦ケラケズリ、横ナデ	内外赤彩。内脚以外	砂粒目立たない
186-3	90	6001	高坏	坏欠、脚端一部欠	53+ : : : 33 88 5<12	縦ヘラケズリ、横ナデ。内横ヘラケズリ、横ナデ	内外赤彩・内脚黄褐色	細砂少量混
186-4	90	6001	高坏	上下欠	37+ : : : 50 72 5<10	ヘラミガキ	内外赤褐色	ボロボロでくずれやすい
186-5	90	6001	甕	口縁部、頸部全周	41+ 172 140 : : 5<12	横ナデ。内頸部下に段	内外暗褐色。外口縁下黒色。内頸部スス付着黒色濃い	
186-6	90	6001	甕	口縁部、口縁1/3欠	30+ 160 133 : : : 7<9	横ナデ。内脚部斜めヘラケズリ、輪状み痕	内外暗褐色	
186-7	90	6001	甕	底部欠、1/2弱残	102+ 101 102 136 : : 5<7	横ナデ、横ヘラケズリ、下荒れる。内横ナデ、ヘラ整形痕	内外赤彩。外上から9.5cm。内内頸部以上	
187-1	92	6001	鉢	完形、口縁2/3強残	59 111 106 : : 30 3<8	上斜めハケ後ヘラミガキ	内外赤彩。外上から5.6cm。内上から4.4cm	
187-2	92	6001	高坏	脚欠、口縁2/3残	49+ 113 : : 38 : 2<6	斜めハケ後ミガキ	内外黄褐色、一部黒斑	微石多い混

番号	挿図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・底・厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
187-3	92	1001	埴	ボヤントのみ。胴部以上欠、胴完	65+ : 84 : 39 : 28 : 2-5	縦ハケ後ナデ、下ケズリ。内頸部下ハケ、胴ナデミ後ナデ	内外赤彩	白細砂岩干混
187-4	92	6001	高杯	胴欠、1/2残	46+ : 63 : : 40 : <11	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	微石少ない、やや軟質
187-5	92	6001	高杯	胴のみ、胴端摩耗わずかに残る	54+ : 51+ : : 37 : 83 : 6-15	縦ヘラケズリ、横横ナデ。内内横ナデ、胴横ヘラケズリ、裾横ナデ	外赤彩。内暗褐色	砂粒やや目立つ
187-6	92	6001	高杯	遺物現存せず。胴のみ、1/3強残	41+ : 61 : : 28 : <11	縦ヘラケズリ、横横ナデ。内内横ナデ、胴横ヘラケズリ、裾横ナデ	赤彩	砂粒少ない、やや軟質
187-7	92	6001	縄紋杯	底部中央欠、口縁1/3残	55+ : 139 : : 134 : 3底 : <8	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ナデ	内外暗赤褐色	微石混入少ない、堅微
187-8	92	6001	甕	底部破片	22+ : : : : 78 : 5-9	縦ヘラケズリ。内横から斜めハケ	内外暗褐色	
187-9	92	6001	甕	胴以下欠	124+ : 188 : 165 : 208+ : : 5-6	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ整形	外赤みのある黄褐色。内黒褐色、部分的に黒色	微石、褐色粒混。微砂多い混、やや脆い
187-10	92	6001	甕	胴以下欠	35+ : 213 : 189 : 207+ : : 6-11	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ整形	内外黒色から黒褐色	砂粒混、小石わずかに混
188-1	35	6001	甕	胴部欠、火を受け脆い、口縁で35%残	132+ : 189 : 122 : 140+ : : 5-9	二重口縁縄文、頸部沈滞羽状縄文。内横ヘラミガキ	内外赤彩。外施文部以外。内上から9.2cmまで、下黄褐色	
188-2	35	6001	甕	口縁部、1/2強残	78+ : 184 : 39 : : : <7	縄文、沈滞、羽状縄文、斜めヘラミガキ。内横ヘラ	内外赤彩。外上から2cm。内上から5.5cmまで	
188-3	35	6001	甕	口縁部、3/4強残	61+ : 209 : 173 : 186 : : 5-7	波状口縁、輪積み6段残	外暗褐色から淡茶褐色、部分的にスス付着。内褐色から暗褐色	微砂混
188-4	35	6001	甕	底部	57+ : : : 158+ : : 32 : 5-11	縦ヘラ整形。内横ヘラ整形	内外赤みのある黄褐色	微石若干混。脆い
188-5	35	6001	甕	底部、わずかに上げ底	49+ : : : 168+ : : 71 : 6-9	縦ヘラミガキ。内横ヘラミガキ	内外赤彩。外底部黒変	砂を含む、脆い
188-6	35	6001	甕	胴下半のみ	100+ : : : 294+ : : 82 : 6-12	もうろく整形不明瞭	外暗褐色部分的に黒変。内淡褐色	小石多く焼きしまり悪い
189-1	92	6001	杯	底部中央欠	39 : 124 : : : : 3底 : <8	横ヘラミガキ、横ヘラケズリ。内横ヘラミガキ	外黄褐色から黒褐色、スス付着黒色。内暗赤褐色、口縁黒色	微砂をわずかに含む比較的硬質
189-2	92	6001	甕	胴部以上欠	89+ : : : 140+ : : 77 : 4<10	斜め、縦ヘラケズリ。内横ナデ	内外暗赤褐色から暗褐色	微石多く混、砂質、脆い
189-3	92	6001	甕	底部、わずかに上げ底	25+ : : : 30+ : : 35 : 4<8	整形不明	外黄褐色。内赤みのある黄褐色。一部黒色	褐色粒混、やや脆い
189-4	92	6001	甕	胴下半欠、最大1/4残	179+ : 152 : 130 : 141 : : 7-9	横ナデ、縦ヘラケズリ、火を受け器表荒れる。内横ナデ、横ヘラケズリ、小亀裂	外暗褐色、スス付着黒色。内黒褐色	微砂を比較的多く含む、やや砂質
190-1	92	6002	須恵壺	胴部破片、幅11cm残	83+ : : : 176 : : : 5<8		黒から黄褐色、自然微斑点状	
190-2	92	6001	杯	底部欠、1/4残	26 : 110 : : : : 3底 : <7	剥落激しく整形不明瞭、横ミガキと思われる。内横ヘラミガキ	外暗赤紫色から黒褐色。内赤紫色から黒色	微砂わずかに含む、軟質
190-3	92	6002	杯	底部欠、1/3残	42+ : 128 : : : : 3底 : <7	器表荒れる。内横ヘラミガキ	外暗赤褐色、下暗褐色。内黒褐色	
190-4	92	6001	杯	1/5残	32 : 104 : : : : 3底 : <5	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラミガキ平滑	内外黄褐色。外部分的に赤褐色から黒色	微石若干含む
190-5	92	6001	碗	完形、口縁1/3弱残。巻き上げ痕跡	66 : 120 : : : : 56 : <13	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ、光沢あり	内外灰化物付着、黒斑	
190-6	92	6001	高杯	口縁2片、胴上半のみ残	94+ : 188 : : : 51 : 67+ : <10	ヘラミガキ、横ヘラケズリ、胴縦ヘラケズリ。内杯ミガキ、胴横ヘラケズリ	内外暗黄褐色。杯下部一部黒みを帯びる	焼き締まり良い
190-7	92	6001	高杯	杯欠、1/3残	38+ : : : : 39 : 37 : <14	縦ヘラケズリ、輪積み縦内外に残	内外暗黄褐色	砂をほとんど含まない
190-8	92	6002	盤台	胴以下欠、口縁亀裂あり	35+ : : : : 31 : 110 : <14	縦ヘラミガキ。内縦横ハケ	内外赤彩。内脚褐色	
190-9	92	6001	甕	胴以下欠	150+ : 201 : 176 : 249 : : 5-10	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ヘラミガキ	外黄褐色から黒色。内赤褐色	
190-10	92	6001	甕	口縁部、口縁1/2弱残、胴2片	72+ : 236 : 218 : 278+ : : 6<10	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ整形	内外淡赤褐色。外一部黒色	
190-11	93	6001	甕	胴以下欠	130+ : 172 : 142 : 167+ : : 4<8	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ整形	内外赤褐色から暗褐色	
190-12	93	6001	甕	頸部以下欠、2/9残、器表内外小さな凹凸目立つ	75+ : 182 : 153 : 172+ : : 4<5	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ整形、器表摩耗不明瞭	内外暗褐色	微石多い混
190-13	93	6001	甕	胴部以上欠	65+ : : : 138+ : : 57 : 5<8	縦ヘラケズリ、横ヘラケズリ。内横ヘラ整形	内外赤褐色、部分的に黒斑。内粘土付着	砂、小石多い混
190-14	93	6001	甕	底部、胴2片	104+ : : : 159 : : 31 : 4<8	縦ヘラケズリ、斜めヘラケズリ	内外赤褐色から黒褐色。内底黒斑	

番号	標図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・胴径・胴縁・端底・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
190-15	93	1001	甕	ポイントのみ。完形、胴一部欠	229 : 247 : 217 : 75 : 34<9	楕ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラケズリ。小亀裂、一部縦ヘラケズリ	外赤褐色。上1/3スズ付黒褐色、下黒炭。内黄褐色	
191-1	93	6004	器台	完形、口縁わずか。胴端一部欠、環縁穿孔	66 : 73 : 31 : 109 : 38	片楕ヘラケズリ、接合部縦ヘラケズリ、胴縁ヘラケズリ、横ナデ。内環横ヘラナデ、胴横ハケ	外赤みのある黄褐色。胴一部赤褐色。内黄褐色。胴一部赤褐色	微石比較的多く含む、堅緻
191-2	93	6001	甕	胴中位以下欠、口縁全周、	151+ : 166 : 133 : 283+ : 5<11	楕ナデ、縦い縦ヘラケズリ	内外赤褐色。外一部黒色	
193-1	93	6002	甕	口縁	82+ : 184 : 139 : 206+ : 3<10	楕ナデ、横ヘラケズリ	内外赤褐色。内黄褐色	微石少量混、やや軟質
193-2	93	6005	甕	遺物現存せず。胴以下欠	129+ : 173 : 143 : 210+ : 5<11	楕ナデ、斜めヘラケズリ	内外赤褐色。外一部赤褐色。内一部黒色	微石多く混、脆い
193-3	93	6002	須恵環	完形	45 : 123 : 30 : 34<8		内外灰白色	微砂混、小石若干混
193-4	93	6001	環	完形、口縁1/2強残	33+ : 56 : 32 : 34<6	ほぼ丸底、横ヘラケズリ。内横ナデ	外暗褐色。内褐色。一部黒炭	砂粒やや目立つ、軟質
193-5	93	6006	横轆環	底部欠、口縁4cm	25+ : 104 : 116 : 34<5	楕ナデ、斜めヘラケズリ	内外赤彩	砂粒やや多い
193-6	93	6002・6003・6004	環	底部欠、口縁3/4強残、口縁細かく欠	53 : 143 : 34底 34<8	楕ナデ、横ヘラケズリ。内横ヘラミガキ	外暗黄褐色。口縁赤褐色。内やや暗い黄褐色。部分的にスズ付黒褐色	砂粒若干混
193-7	93	6001・6003	甕	底部欠	80+ : 150 : 153 : 7<9	楕ナデ、横ヘラケズリ。内横ナデ、上斜めヘラケズリ、以下横ヘラケズリ	内外赤褐色。外下黒色。内下暗灰色	砂粒、石英、長石粒多い
193-8	93	6005	高杯	遺物現存せず。胴欠	45+ : 162 : 32 : 34<7	楕ナデ	内外赤彩黄褐色。外胴部以下暗褐色	
193-9	93	6003・6004・6005	高杯	遺物現存せず。上下欠。器表剥落多い	65+ : 157 : 54 : 34<10	横ヘラケズリ、斜めヘラケズリ。内ヘラナデ	内外黄褐色。外口縁黒色。内部分的に黒褐色	
193-10	93	1005・6006	高杯	胴以下欠、1/3残。内外接合部磨頭著	76+ : 100+ : 37 : 80+ : 34<15	縦ヘラケズリ、横横ナデ。内横ヘラ、横ナデ	内外赤彩	微砂多く混、軟砂質
193-11	93	6005・6006	器台	環欠、1/3残、胴穿孔数不明、環縁穿孔	57+ : 74 : 21 : 55+ : 34<8	横ヘラケズリ縦、胴縦ヘラケズリ不明。内環放射状縦ヘラミガキ、胴横ヘラケズリ	内外黄褐色から赤褐色	微石多い、堅緻
193-12	93	6005	甕	底部	22+ : 50+ : 42 : 34<12	横ヘラケズリ。内横ナデ	外淡褐色。一部黒炭。内淡褐色	小石目立つ、硬い
193-13	93	6003	甕	遺物現存せず。底部	27+ : 80+ : 52 : 54<8	斜めヘラケズリ。内横ナデ		
194-1	94	G5-3,32	須恵蓋環	上欠、1/3残	30+ : 153 : 34<7		内外黄灰色。外激い	
194-2	94	6002	高杯	杯上半のみ	42+ : 132 : 54<7	楕ナデ	内外赤彩	砂粒多く粉っぽい
194-3	94	?	高杯	胴部欠、口縁2/3弱残	56+ : 137 : 35 : 34<12	楕ナデ、横ヘラケズリ、縦ヘラケズリ、内横ヘラケズリ	内外赤彩	
194-4	94	1012・1019	高杯	ポイントのみ。完形	99 : 137 : 40 : 88 : 34<8	楕ナデ、横ヘラケズリ、胴縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ	内外赤彩。内口縁から4cmまで、以下黄褐色	
194-5	94	1005	高杯	ポイントのみ。完形、口縁1/3弱残、脚完	100 : 155 : 40 : 81 : 34<11	杯ヘラケズリ総ヘラナデ、胴縦ヘラケズリ、横ナデ。内環横ヘラミガキ、ヘラ先軋、胴横ヘラケズリ、横ナデ	内外赤彩。内脚黄褐色	
194-6	94	1011	高杯	ポイントのみ。完形、口縁わずかに欠	83 : 151 : 25 : 99 : 34<8	楕ナデ、横ヘラケズリ、胴縦ヘラケズリ	内外酸化炭焼成のため赤色	
194-7	94	1012	高杯	ポイントのみ。完形、口縁わずかに欠	86 : 136 : 35 : 90 : 34<9	横ヘラケズリ、縦ヘラケズリ。内横ヘラナデ、脚巻上げ	内外赤彩。内脚赤褐色	細砂
194-8	94	1009	高杯	ポイントのみ。完形、口縁、胴端わずかに欠、口縁大きくゆがむ	92 : 149 : 34 : 100 : 34<9	楕ナデ、横ヘラケズリ、縦ヘラケズリ、胴縦ヘラケズリ、横ナデ。内環ヘラミガキ、胴横ヘラ、横ナデ	内外赤彩。内胴器も赤彩	
194-9	94	6002	横轆環	完形、口縁1/2強残	45 : 111 : 128 : 34底 34<9	楕ナデ、横ヘラミガキ。内横ナデ	内外赤彩。外上から4cmまで、以下黄褐色	雲母若干
194-10	94	1013	横轆環	ポイントのみ。完形、口縁1/2強残	54 : 126 : 130 : 34底 34<6	口縁ヘラミガキ、胴横ヘラケズリ。内ヘラミガキ	内外赤褐色	
194-11	94	1006	環	ポイントのみ。完形、口唇細かく欠、内胴スズミの凹形	59 : 146 : 150 : 34底 34<14	横ヘラケズリ後ミガキ。内横ヘラ凹形	内外赤彩	
194-12	94	1001	甕	ポイントのみ。完形、口縁2カ所欠	73 : 126 : 138 : 34底 34<9	横ナデ、横ヘラケズリ	外赤褐色。内暗赤褐色	

番号	押図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ:口徑:頸徑:胴徑:脚底:厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
194-13	94	1009	埴	ポイントのみ。頸部以上欠、胴一部欠、増破損後鉢として再利用	74+ :128 : : 170 : : 丸底 7<9	横ヘラケズリ。内ヘラ先端残る	外赤彩	胎土少ない、焼きしまり多い
194-14	94	1015	埴	ポイントのみ。完形、胴欠多い、丸底に近い	97+ : : 36 :157 : : 丸底 5<8	縦ヘラケズリ、横ヘラケズリ、縦ヘラケズリ。内頸部下指先で押圧、下ヘラ先	外赤彩、下0.5cmを除く。内黄褐色	砂、微石多い
194-15	94	6001	甕	底部	34+ : : : 57+ : : 61 : 4<15	縦ヘラミガキ、底平滑。内器表剥落	外赤褐色、口縁、胴ともに黒斑多い。内赤褐色、胴黄褐色	微石多い
194-16	94	1002	甕	ポイントのみ。胴下半欠、口縁一部欠、胴上半全周	164+ :122 :114 :163 : : 4<7	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ整形	外赤褐色、口縁、胴一部黒斑。内暗黄褐色	
194-17	94	1014	甕	ポイントのみ。完形、口縁から胴上部1/4強欠	168 :124 :108 :149 : : 30 5<8	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、ヘラ整形	外暗褐色。口縁、胴一部黒斑。内暗黄褐色	
194-18	94	1007・6001・6002	甕	胴下半以下欠口縁わずかに欠、頸部から胴上部全周	220+ :176 :136 :293 : : 5<8	頸部横ナデ、胴斜めヘラケズリ。内胴部分的に横ヘラケズリ	内外赤褐色。外胴一部黒斑。内口縁黒斑	
194-19	94	1016	甕	ポイントのみ。胴下半以下欠、口縁一部欠、胴部全周	123+ :178 :153 :163 :221 : : 6<10	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ、輪根み痕残	外淡褐色から暗褐色、口縁、胴上部スス付着黒色。内暗黄褐色	
194-20	95	6001・6002	甕	胴下半以下欠口縁わずかに欠、頸部から胴上部全周	129+ :153 :136 :194 : : 6<7	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ整形	外黄褐色、スス付着黒斑。内暗褐色	
194-21	95	1017	甕	ポイントのみ。完形、ほぼ完	270 :145 :129 :218 : : 33 4<8	植物繊維状漆痕。縦から斜めヘラケズリ。内横ヘラ整形	内外黄褐色。外下大きな黒斑	砂粒
194-22	95	1010・1014	甕	ポイントのみ。完形、胴下部わずかに欠	285+ :140 :121 :210 : : 33 5<10	横ナデ、斜めから縦ヘラケズリ。内横ナデ、ヘラ整形	外赤褐色から暗褐色、黒斑。内赤褐色	
194-23	95	1018	甕	ポイントのみ。完形、口縁40%残、胴全周	261 :185 :152 :212 : : 70 4<10	横ナデ、斜めヘラケズリ、輪根み痕跡残	外赤みのある黄褐色、一部黒色。内黄褐色、黒みを帯びる	砂、微砂多い
194-24	95	1004	甕	ポイントのみ。完形、口縁2/3弱残	288 :249 :217 :270 : : 39 5<7	横ナデ、縦ヘラケズリ。内輪根み痕残	内外黄褐色。外部分的に黒色	
194-25	95	1003・1010・1018	甕	ポイントのみ。完形、下部欠多い	221 :239 :211 : : 49 7<9	縦ハケ後ヘラナデ。内斜めハケ後横ヘラミガキ	内外スス付着黒色	細砂若干、硬い
194-26	95	6002	甕	完形、口縁2/3弱残	244 :247 :226 :230 : : 35 5<8	横ナデ、縦ヘラケズリ、横ヘラケズリ後縦ヘラケズリ。内横ナデ、縦ヘラ整形	内外黒色、一部赤褐色	砂粒、褐色粒
196-1	96	6003	甕	底部欠、1/3残	64+ :122 : : 142 : : 4<6	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラミガキ	内外赤彩	微砂
196-2	96	6001・6003	甕	完形、口縁1/3残	35 :158 : : : 丸底 6<10	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラミガキ	内外赤彩。外上から4.5cmまで	微砂、微石
196-3	96	6002	高坏	脚欠	48+ :173 : : 35 : : 5<7	横ナデ	内外赤彩	細砂若干、やや微砂質
196-4	96	1001	高坏	床面から+3cm。脚端欠、口縁一部欠	91+ :172 : : 38 :58+ :<10	強い横ナデ	内外赤彩上から3.5cmまで、以下黄灰色。内上から2.4cmまで、以下赤褐色	砂粒多い
196-5	96	6002	高坏	脚端のみ40%残、火を受け収縮、6片接合	19+ : : : : 50+ :134 6<9	強い横ナデ、器表摩耗。内横ナデ、特に摩耗	内外淡褐色	砂粒目立つ
196-6	96	6002	甕	胴中位以下欠、15片接合、88%残、火を受け変色	80+ :189 :142 :182+ : : 5<9	上横ナデ、胴縦ヘラケズリ。内横ナデ、輪根み痕残	内外赤褐色	白色小石目立つ
196-7	96	6005	甕	胴中位以上欠、火を受け脆い、23片接合	187+ : : 190+ :196 : : 丸底 6<12	斜めヘラケズリ、胴中位部で詰わえたような痕跡。内器表流れ不明瞭	外暗褐色、半分スス付着黒斑。内赤褐色、上スス付着黒色	砂粒小石多い
196-8	96	6002	甕	完形、口縁1/3残、胴欠多い	243 :156 :126 :214 : : 丸底 6<10	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ、ヘラ整形、下へ接合痕残	内外暗褐色。外上赤褐色。内胴部黒色、下赤褐色	
196-9	96	6001・6004	甕	頸部以下欠、1/3残	127+ :156 :135 :212 : : 6<8	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ナデ、ヘラ整形	内外黄褐色から赤褐色。外スス付着黒色	微砂多い、小石、脆い

番号	邦図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・胴径・胴底・底・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
196-10	96	6003・6004	甕	胴上位以下欠	100+ :181 :152 :246+ ; : 3<13	横ナデ、横ヘラケズリ、頸部接合痕残	内外赤褐色	砂、微石多い、堅緻
196-11	96	6001	甕	完形、口縁1/2弱残、胴全周	229 :185 :160 :205 ; : 4<12	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ナデ、ナデヘラミガキ	外黄褐色、口縁赤褐色、スス付着黒色、赤褐色。底黄褐色	砂粒多い、堅緻
196-12	96	6003	甕	胴下半以下欠、最大1/3残	189+ :174 :142 :220 ; : 3<10	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラケズリ	内外赤褐色、部分的に黒斑	微砂、小石
196-13	96	6002	甕	遺物現存せず。胴下半以下欠	142+ :161 :153 :207+ ; : 7<10	横ナデ、斜めヘラケズリ	外赤みのある黄褐色、口縁赤褐色、胴黒斑。内部分的に黒色、黒褐色	砂粒
198-1	87	6001	須恵甕	口縁部全周	185+ ; : : 240 ; : 4<11	内外に叩き目		
200-1	79	6001	甕	口縁部全周	64+ :175 :84 :104+ ; : 4<7	横ヘラミガキ、頸部上横後縦ヘラミガキ。内横ナデ、斜めナデ、頸部以下横ヘラケズリ	外赤彩口縁から頸部まで大きな黒斑。内暗黄褐色	砂粒やや目立つ
200-2	79	6001	甕	器表荒れる、4片接合、口縁35%残	75+ :229 :132 ; : : 5<6	口縁部以下横ヘラケズリ	外赤彩二重口縁を除く。内剥落多い、部分的に赤彩残	砂粒目立たず強い
201-1	76	6001	甕	頸部以下欠、3片接合、口縁21%残	66+ :224 :140 ; : : 7<8	横ヘラミガキ、口唇細文。内口縁近く横ハケ、下横ナデ	内外暗黄褐色	
201-2	76	6001	甕	底部	29+ ; : : :175+ ; : 32 3<12	横ヘラケズリ。内横ナデ	内外黒褐色から黒色。外一部暗褐色	
201-3	76	6001	甕	遺物現存せず。頸部以下欠、口縁全周、胴上のみ	62+ :176 :162 :213+ ; : 3<8	口縁縦ハケ後横ナデ、胴ハケ。内横ナデ、胴横ハケ	内外黒褐色から黒色。外一部暗褐色	
201-4	76	6001	甕	底部破片	24+ ; : : : : 40 5<6	内外ナデ	淡褐色	砂粒多い強い
201-5	76	6001	甕	遺物現存せず。201-4と同一個体か、底部破片	24+ :39+ ; : : : 42 3<7	手捏ね		
201-6	76	6001	甕	口縁部拓本		波状口縁		
201-7	76	6001	甕	口縁部拓本		波状口縁		
201-8	76	6001	甕	口縁部拓本		波状口縁		
202-1	59	6001	無頸甕	胴下半欠、1/6残	88+ :146 ; : 219 ; : : 4<8	折り返し口縁細文2段、ミガキ。内口縁細文、ミガキ	外黄褐色。内暗褐色	微石若干、強い
202-2	59	6001	甕	3片接合、口縁2cm欠	39 :45 ; : 48 ; : 33 3<5	手捏ね、部分的に横ヘラケズリ。内胴内横ナデ、横・斜めヘラミガキ	外白みのある褐色。内褐色、粘土付着	砂粒少ない
203-1	75	6001	器台	胴のみ、1/6残、脚穿孔2個現存	60+ ; : : : 47 :134 :5<8	横ヘラケズリ	外赤彩。内暗黄褐色	やや強い
203-2	75	6001	器台	坏上、脚端欠、脚穿孔2個現存	91+ :144+ ; : : 36 :100+ 3<8	横ヘラケズリ	内外赤彩。内脚を除く	
204-1	76	6001	甕	頸部拓本		波線、撫り糸		
204-2	76	6001	甕	頸部拓本		波線、羽状波線		
204-3	76	6001	甕	頸部拓本		粘土紐		
206-1	66	6001	甕	口縁部全周、巻き上げ、折り返し口縁	80+ :125 :56 :32+ ; : : 3<6	横ヘラミガキ。内横ヘラミガキ	外暗褐色、部分的に黒みを帯びる。内暗黄褐色	細砂、小石多い
206-2	66	6001	甕	口縁部全周、折り返し口縁	89+ :156 :92 :122+ ; : : 3<8	折り返し口縁下刻み、ヘラミガキ、結節。内ミガキ	内外赤彩。外飾紋部以外。内上から6.5cmまで	
207-1	64	6001	須恵坏	遺物現存せず。口縁部破片	24+ :91 ; : : : : 3<4		内外灰色。外一部自然釉	白微石若干
207-2	64	6001	器台	脚欠、1/3残	22+ :37 ; : : : : 5<6	横ナデ、縦ヘラケズリ。内ヘラミガキ	外暗褐色。内黒褐色	
208-1	67	6001	甕	口縁部のみ	23+ :175 ; : : : : 3<7	横ヘラミガキ	内外暗黄褐色	
208-2	67	6001	器台	脚欠、環線穿孔	20+ :70 ; : : 25 ; : 3<8	横ナデ、縦ヘラミガキ。内ヘラミガキ	内外赤彩	細砂、小石（径1～2.5mm）若干
209-1	72	6001	甕	胴下半欠、8片接合、口縁52%残	113+ :170 :136 :220+ ; : : 4<7	横ヘラケズリ後横ナデ火を受け器表荒れる。内横ナデ、輪轡み痕残	外淡褐色。内赤褐色、黒斑目立つ	器表に砂粒浮く、やや強い
209-2	72	6001	甕	胴以下欠、口縁5/6残	60+ :149 :116 :153+ ; : : 7<9	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ波形	内外口縁赤褐色、胴赤みのある黄土色	極微砂若干
209-3	72	6001	甕	胴以下欠、口縁、頸部ほぼ全周	86+ :197 :160 :282+ ; : : 3<8	横ナデ、ヘラケズリ不明瞭。内横ナデ、横ヘラ波形	内外暗黄褐色、やや赤みを帯びる	

番号	棟図	注記	形状	現状・特徴・備考	高さ・口徑・頸徑・胴徑・端底・厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
209-4	72	6001	甕	胴下半欠、口縁4/5残	32+ 310 307 317+ : : 3<10	横ナデ、ヘラケズリ不明瞭。内横ナデ、ヘラケズリ不明瞭	外黒褐色、部分的に赤褐色、黒色。内黄褐色	胎土、焼成
209-5	72	6001	高杯	胴上半のみ、胴穴あり	56+ : : : : 36	器表摩耗	内外暗黄褐色	微石やや多い
209-6	72	6001	高杯	坏欠、胴完	52+ : : : : 36 48 3<11	縦ヘラケズリ、横ナデ。内横ヘラケズリ、横ナデ	外赤彩。内黄褐色	細砂やや多い
211-1	85	6001	須恵広口壺	口縁部	76+ 210 : : : : 3<10	波状ハケ2段		
211-2	85	6001	須恵高台付壺	破片	55+ : : : : 34 3<12	波状ハケ2段	内外暗灰色。外高台自然釉	
211-3	85	一括	高杯	坏のみ、胴接合部から胴脱、口縁2カ所欠	62+ 354 : : : : 35 : 3<7	上斜めハケ後ナデ、下横ヘラケズリ。内横ハケ後ナデ	内外黄褐色から赤褐色。外暗褐色斑あり	微石多い
211-4	85	6001	甕	口縁のみ、1/6残	20+ 352 : : : : 3<7	折り返し口縁細文。内ヘラミガキ	外赤褐色から黒褐色。内赤彩	やや気泡が多い、脆い
212-1	97	1001	碗	ボイントのみ。完形、口縁3カ所欠	55 320 : : : : 30 5<10	口縁斜めハケ後横ヘラケズリ、以下ヘラケズリ。内ヘラミガキ	内外赤彩	細砂多い
212-2	97	6001	埴	底部欠、1/2残	50+ 311 : : : : 3<6	斜めハケ後ミガキ。内横ナデ、ヘラミガキ	内外部分的に赤褐色、黄褐色、黒褐色	微石多い
212-3	97	6001	埴	底部中央欠、1/2残	44+ 326 53 : : : : 3<7	ヘラミガキ	内外赤彩	細砂
212-4	97	6001	埴	底部中央欠、1/3残	46+ 338 305 307 : : 3<4	横ヘラミガキ	内外赤彩	貝
212-5	97	6001	甕	底部欠、口縁、胴一部欠	144+ 383 362 374 : : 5<7	小波状口縁、頸部に段	外暗褐色、1/2スス付着黒色。内黄褐色から暗褐色	
212-6	97	6001	高杯	坏のみ、坏下半全周、3片接合、胴欠	38+ 380+ : : : : 28 : 3<10	弱い縦ヘラミガキ。内縦ヘラミガキ	内外赤彩	砂粒目立つ、硬い
212-7	97	6001	甕	胴以下欠、1/4残	56+ 386 370 387 : : 3<5	口唇8個口形側突、横ナデ、縦ヘラ整形。内横ナデ、横ヘラケズリ	内外黄褐色。外一部黒斑	普通
212-8	97	6001	甕	口縁部破片	37+ 340 322 340+ : : 3<5	横ナデ、縦ハケ後ヘラミガキ。内横ナデ	内外暗黄褐色から黒褐色	普通
212-9	97	6003	甕	遺物現存せず。口縁のみ、1/4残、器表の凹点目立つ	27+ 316 57 : : : : 3<6	弱いハケ後横ナデ		
212-10	97	1001	埴	ボイントのみ。完形、ほぼ完存、上げ底	165 327 30 358 : : 48 3<8	ヘラミガキ。内ヘラミガキ、下ヘラ整形	内外赤彩。内胴黄褐色	
213-1	97	6001	甕	胴下半欠、1/4残、輪痕み痕目立つ	108+ 363 351 372 : : 3<6	上斜めハケ、下ナデ。内口縁斜めハケ、下ナデ	内外暗褐色から赤褐色、外スス付着黒色	
213-2	97	6001	甕	胴以下欠、1/3残	61+ 341 302 398+ : : 5<7	頸部横ヘラナデ、口縁・胴斜めハケ後横ヘラミガキ。内口縁横ヘラミガキ、胴横ハケ、以下横ヘラ整形	内外赤彩。内頸部まで、以下黄褐色	微石若干
214-1	89	6001	台付鉢	鉢欠、1/2残	50+ 38+ : : : : 53 58 3<8	縦ヘラケズリ	外暗褐色から暗褐色。内暗黄褐色、一部スス付着黒色	
214-2	89	6001	甕	胴以下欠、口縁一部欠、火を受け変色	87+ 374 347 363 : : 3<6	波状口縁、5段輪痕み下段残、指紋残。内横ヘラ整形、輪痕み痕残	内外黒色を帯びる	砂多い、焼き締まりよい
214-3	89	6001	甕	底部	30+ : : : : 312+ : : 58 3<10	横ヘラナデ	内外暗黄褐色	
214-4	89	6001	甕	底部破片、2片接合、底61%残	38+ : : : : 84+ : : 369 3<10	ナデ。内胴内側に折り返す	内外暗褐色。外スス付着黒色	砂粒やや多い、硬い
215-1	98	6001	高杯	口縁破片、4片接合、最大23%残	51+ 382 : : : : 303+ 5<6	横ナデ	内外赤彩	砂粒少、良好
215-2	98	6001	高杯	上半欠、2/3残	37+ 308+ : : : : 39 30+ 3<10	坏下部横、他は縦ヘラミガキ。内放射状ヘラミガキ	内外赤彩	砂粒少、良好
215-3	98	6001	甕	頸部で29%残	76+ 328+ 394 312+ : : 3<7	縦ヘラミガキ、沈線、4段縄文。内横ヘラミガキ	内外赤彩。外施紋部以外。内上から0.8cmまで	
215-4	98	6001	甕	底部破片、1片	15+ : : : : 50+ : : 38 3<7	横ナデ	内外赤彩	砂粒やや多い
215-5	98	6001	甕	底部破片、3片接合、82%残	20+ : : : : 38+ : : 32 4<14	縦ヘラケズリ。内横ナデ	外赤褐色。内暗褐色、黒斑	砂粒目立たない、やや軟質
215-6	98	6001	甕	底部破片、4片接合、最大24%残	51+ 382 : : : : 303+ 5<6	縦ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	砂粒少ない
216-1	99	6001	須恵蓋坏	完形、1/4欠、つまみ径3cm	36 : : : : : : 354 4<6		内外暗灰色から灰白色	極小さい微石若干、気泡あり
216-2	99	1005	坏	床面から+5cm。完形、口縁3/4弱残	00 326 : : 315 : : 3&底 5<8	横ナデ、横ヘラケズリ	内外赤彩。外上から5.2cmまで	
216-3	99	1006	坏	床面から+3.5cm。完形、口唇一部欠	52 341 : : 344 : : 3&底 5<9	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラケズリ	内外赤彩。外上から4.7cmまで、以下赤褐色	
216-4	99	6001	高杯	胴下半欠、2片接合、口縁4cm、胴縦目20%残	65+ 348 : : : : 38 3<9	上横ナデ、以下横ヘラケズリ、火を受け器表荒れる。内横ナデ	内外赤彩	砂粒細かく少ない、良好

番号	邦図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ:口縁:頸高:胴高:底:厚さ	変形	色調・付属物	胎土・焼成
216-5	99	6001	高坏	脚部欠	32+ : 143 : : : 37 : 5<12	楕ナデ、楕ヘラケズリ、縦ヘラケズリ。内器表荒れ不明瞭	赤彩	胎土、焼成
216-6	99	6001	高坏	完形、口縁1片、脚端1カ所残	99 : 151 : : : 40 : 107 : 3<7	楕ナデ、楕ヘラケズリ、縦ヘラケズリ、脚縁ヘラケズリ、横ナデ。内横ナデ、脚縁ヘラケズリ、楕ナデ	内外赤彩	褐色粒多い
216-7	99	1008	高坏	床面から+6cm。完形、口縁1/4剥残、脚端一部欠	99 : 138 : : : 41 : 105 : 4<8	楕ナデ、楕ヘラケズリ、縦ヘラケズリ、脚縁ヘラケズリ、横ナデ。内脚縁ヘラケズリ、横ナデ	内外赤彩。内脚縁も赤彩	
216-8	99	6001	高杯	脚部	58+ : : : : 46 : 113 : 4<12	縦ヘラケズリ、縦横ナデ	内外赤彩。内脚を除く	
216-9	99	1010	高坏	床面から-5cm。脚上部まで残、口唇1カ所欠	70+ : 147 : : : 42 : 4<7	楕ナデ、楕ヘラケズリ、脚上楕ナデ。内楕ナデ、下半荒れる	内外赤彩	
216-10	99	1003	甕	床面から-4cm。完形、口縁2カ所、胴わずかに欠、木炭底	262 : 166 : 144 : 224 : : 55 : 5<11	口縁楕ナデ、縦から斜めヘラケズリ。内楕ナデ、横から斜めヘラケズリ	内外下半暗褐色、底近く付着物多い	
216-11	99	1009	甕	床面から-1.2cm。胴以下欠、口唇部分的に欠、頸部以下全周	158+ : 168 : 136 : 223 : : 4<9	ナデ、頸部接合痕跡残、楕ヘラケズリ。内ナデ、頸部接合痕跡残、楕ヘラケズリ	内外黄褐色方赤みを帯びた黄褐色。外下黒斑	
216-12	99	1002	甕	床面から+12cm。完形、口縁、胴欠多い	283 : 174 : 148 : 237 : : 57 : 4<8	口縁楕ナデ、斜めヘラケズリ。内楕ナデ、脚上楕ナデ。内口縁ヘラ先痕残、脚上ナデ、下ヘラ整形	内外黒褐色から暗赤褐色	細砂、褐色粒
216-13	99	1002・6001	甕	床面から+12cm。完形、口縁1カ所。胴部分的に欠器形ゆがむ	257 : 169 : 136 : 223 : : 63 : 5<9	口縁から6cm楕ナデ、斜めヘラケズリ。内楕ナデ、横ヘラ整形	内外赤褐色から白褐色。口縁内外一部スス付着。胴下部火を受け黒変	
216-14	99	6001	甕	完形、口縁、胴わずかに欠	143 : 248 : 200 : 213 : : 70 : 4<9	楕ナデ、斜めヘラケズリ。内楕ナデ、脚上楕ヘラケズリ	内外暗黄褐色。外一部黒斑	
217-1	98	6001	埴	逆物現存せず。底部欠、1/3残	57+ : 101 : 90 : 49 : : 3<5	上楕ナデ、胴ヘラミガキ。内ヘラミガキ、上から1.6cm接合痕残	外赤彩。内暗赤褐色	普通
217-2	98	6001	器台	坏欠、1/4残、脚穿孔数不明	44+ : : : : : 109 : 4<9	縦ヘラミガキ、下楕ヘラミガキ。内楕ヘラ整形	赤みのある黄褐色	
217-3	98	1001	鉢	完形、口縁3/4強残、大きく傾く	43 : 69 : : : : 30 : 3<5	口縁楕ナデ、以下縦ハケ後ナデ。内楕ハケ後ナデ	内外暗黄褐色。外底部近く黒斑	
218-1	100	6001	高坏	完形、口縁1/4弱残、脚端1/2弱残	95 : 138 : : : 39 : 49 : 4<10	上ナデ、下楕ヘラケズリ、脚縁ヘラケズリ、縦楕ナデ。内坏ナデ、ヘラ先痕、脚縁ヘラケズリ、縦楕ナデ	内外赤彩	
218-2	100	6001	高坏	逆物現存せず。脚部欠、剥落激しい	50+ : 133 : : : 35 : : 4<11	縦ヘラケズリ。内ヘラミガキ	暗黄褐色	細砂、褐色粒
218-3	100	6001	高坏	坏上、脚上欠	58+ : 130+ : : : 39 : 56+ : 3<7	坏楕ヘラケズリ、縦ヘラケズリ、脚縁ヘラケズリ。内坏ヘラミガキ、脚縁ヘラケズリ	内赤彩	
218-4	100	6001	高坏	上下欠	48+ : 101+ : : : 35 : 57+ : 4<8	坏楕ヘラケズリ、縦ヘラケズリ、脚縁ヘラケズリ。内坏ヘラミガキ、脚縁ヘラケズリ	黄褐色	
218-5	100	6001	埴	頸部以上、底部中央欠	84+ : : : : 153 : : 4<6	楕ヘラケズリ後ミガキ。内楕ヘラ整形、接合痕残	外赤彩	
218-6	100	6001	埴	頸部以上欠	88+ : : 46 : 153 : : 4<6 : 3<5	頸部縦ヘラケズリ、脚楕ヘラケズリ。内楕ヘラ整形、接合痕残	外赤彩、下1cmを除く	細砂
218-7	100	6001	甕	口縁破片、口縁全周	64+ : 146 : 48 : 102+ : : : 7<9	斜めヘラケズリ。内縦ヘラミガキ強い	内外赤褐色。外一部黒斑	砂粒少ない、やや軟質
218-8	100	1003	甕	床面から+2.5cm。182-6001・6002と接合、完形、口縁1片、胴上残り少ない	249 : 183 : 148 : 212 : : 50 : 5<10	楕ナデ、縦ヘラケズリ、斜めヘラケズリ。内楕ナデ、輪轂み痕目立つ	内外黄褐色。下灰褐色	
218-9	100	1002	甕	床面から+2.5cm。胴下半のみ、肝臓穴内貝層下	110+ : : : : 325+ : : 82 : 7<10	縦ヘラケズリ、小亀裂多い。内楕ヘラ整形、接合痕残	外黄褐色、黒斑。内赤みのある黄褐色	礫石多い
218-10	100	1003・1004	甕	ポイントのみ。胴下半欠、8片接合、口縁37%残	108+ : 162 : 127 : 198+ : : : 3<6	頸部楕ナデ、輪轂み痕残、脚縁ヘラケズリ。内楕ナデ	外暗褐色、わずかにスス付着。内暗黄褐色	砂粒目立つ
218-11	100	1004	甕	床面から+0.5cm。完形、ほぼ完存	247 : 166 : 143 : 208 : : 45 : 4<10	楕ナデ、楕ヘラケズリ。内楕ナデ、楕ヘラケズリ、輪轂み痕残	内外黄褐色。外脚スス付着黒色。内口縁一部黒色	
218-12	100	1003・1004	甕	ポイントのみ。完形、口縁欠多い、上げ底	240 : 179 : 140 : 222 : : 61 : 4<10	楕ナデ、脚上斜め、中横、下斜めから縦、底楕ヘラケズリ。内楕ナデ、楕ヘラ整形	外暗褐色から黒褐色、上下赤褐色。内暗黄褐色	

番号	押図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・胴径・脚径・端底・厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
218-13	100	1001	甎	床面から2cm。完形、口縁1カ所、胴わずかに欠、胴部巻き上げ痕に残	239 : 213 : 222 : 239 : 50 : 6<9	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、ナデヘラ整形、下縁ヘラ整形	内外黄褐色。外黒斑	
220-1	83	6001	高坏	胴部破片、胴端1/2弱残	20+ : : : 52+ :122 :3<6	横ヘラミガキ。内横ナデ	外赤彩。内淡褐色。一部黒斑	砂粒少ない、硬い
224-1	85	6001	高坏	胴のみ胴18%残	34+ : : : 48+ :114 :3<7	縦ヘラミガキ、口縁横ナデ。内縦ヘラミガキ、口縁横ナデ	内外赤彩	砂粒目立つ、軟質
224-2	85	6001・6003	甎	口縁部破片、2/3周残	35+ :158 :130 :144+ : : 3<9	斜めハケ後横ナデ、口縁下沈線状、胴斜めヘラケズリ。内荒い横から斜めハケ、口縁下沈線状	内外赤褐色。外胴一部黒斑	砂粒目立つ、硬い
224-3	85	6001	甎	底部破片、1/3残	23+ : : : :122+ : : 74 :6<9	ヘラケズリ後縦横ヘラミガキ。内横ヘラミガキ	内外明褐色から暗褐色	砂粒、小石多い、やや硬い
228-1	74	1001	甎	ボイントのみ。胴部破片、上下欠、2/3残	181+ : : 80 :310 : : 5<9	斜め横ハケ後横ナデ。内ヘラ先真	内外暗赤褐色。部分的に黒みを帯びる	砂粒やや目立つ硬い
228-2	74	?	高坏	坏のみ、火を受け脆い、口縁2/3残	53+ :180 : : : : 3<6	縦ヘラミガキ、下ヘラケズリ、不明瞭。内横ヘラミガキ、器表摩耗	内外赤彩。外口唇黒変	砂粒やや多い
229-1	69	6001	甎	胴部以下欠、12片接合、最大82%残	30+ :160 :132 :136+ : : 3<8	斜ハケ後上半内横ナデ。内横ハケ後上半弱い横ナデ	内外赤褐色。内口唇ス付薄黒色	砂粒多い、硬い
229-2	69	6001	甎	完形、亀裂多い、21片接合、3/4残	52 :128 : : : : 30 :3<6	横ナデ。内横ハケ	口縁褐色、以下黒褐色、黒色	脆い
236-1	102	6001	須恵蓋坏	上欠	27+ : : : : :155 :3<6	上回底ヘラケズリ	内外灰白色	砂粒やや多い、小石若干
236-2	102	6001	須恵蓋坏	上欠、1/4残	19+ : : : : :162 :3<7	自然釉厚い	暗灰色	微砂、小石、堅緻
236-3	102	6003	坏	底部破片、底部程度に薄い	31 :197 : : : :147 :2<6	上横ヘラミガキ、下横ヘラケズリ。内横ヘラミガキ	内外淡赤褐色	砂粒わずかに目立つ
236-4	102	6003	坏	完形、1/2残	42 :163 : : : :110 :3<6	内横ヘラミガキ。内横ヘラミガキ、一部倍子、底部溝巻き	内外赤褐色	微砂若干、脆い
236-5	102	1002・6002	坏	床面から+7cm。完形、口縁部分的に欠	35 :130 : : : : 3&底 6<7	横ナデ、横、縦ヘラケズリ、脚細かい縦ヘラケズリ、横ナデ。内ヘラミガキ	外暗褐色から黄褐色。内暗褐色	微砂若干、軟質
236-6	102	1004	坏	床面から+4cm。底部欠、1/4残	39+ :127 : : : : 3&底 6<6	横ナデ、横ヘラケズリ、脚細かい縦ヘラケズリ、横。内ヘラミガキナデ	内外赤みのある黄褐色	微石若干、微砂、やや脆い
236-7	102	6003	模倣坏	底部欠、最大胴5.7cm残	35+ :116 : :130 : : 3&底 4<7	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ整形	淡褐色下黒変	
236-8	102	1001	甎	床面から+8cm。胴以下欠	55+ :31 :124 :141 : : 8<10	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ整形	外赤褐色、口縁黒色、内黄褐色、胴黒みのある黄褐色	微砂若干、やや軟質
236-9	102	1001	甎	床面から+8cm。胴以下欠、1/4残	76+ :137 :127 :150+ : : 5<10	横ナデ、縦から斜めヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ整形	外赤褐色、部分的に黒色、黄褐色。内黄褐色	微砂若干、軟質
236-10	102		甎	床面から+12cm。胴以下欠	113+ :239 :189 :212+ : : 7<12	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ整形	内外黒褐色、口縁赤褐色、胴部分的に黒色	
236-11	102	6101・6001	甎	カマド内出土。胴上半、脆い、口縁摩耗、1/3残	131+ :232 :169 :193 : : 8<12	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ整形	外黄褐色、一部粘土付着。内暗灰色	微砂、小石非常に多く含む、軟砂質
236-12	102	1005・1006・6003	甎	床面から+4cm。下半のみ	178+ : : : 224+ : : 74 :8<12	縦ヘラケズリ、底部近く横ヘラケズリ	内外暗褐色。外黒斑	
241-1	101	6001	甎	底部のみ	34+ : : : 72+ : : 52 :3<18	外縦ヘラケズリ。内横ナデ	内外暗赤褐色	微砂、やや砂質
241-2	101	6001	甎	底部のみ	32+ : : : 70+ : : 49 :4<24	外縦ヘラケズリ、裾横ナデ。内横ヘラケズリ	内外赤褐色	微砂わずかに含む
241-3	101	6001	甎	胴部折本		沈線による区画。内部縄文		
241-4	101	6001	甎	底部全周、胴上欠多い	134+ : : : 320 : :100 :7<15	斜めヘラミガキ、器表3/4残れる	内外黄褐色。部分的に黒褐色	摩耗激しく脆い
243-1	102	6002	高坏	完形、口縁欠多い、胴はほぼ完	100 :149 : : : 32 :92 :<9	外坏上ナデ、下縦ヘラケズリ、脚縦ヘラケズリ、裾横ナデ。内坏ナデ、脚横ヘラケズリ、裾ナデ	内外赤彩。外脆い。内脚黄褐色	微石少ない、焼き締まり多い、堅緻
243-2	102	6111	高坏	カマド内出土。坏、脚端欠、下を粘土で支える支脚として使用	72+ : : : : 38 :114 :5<10	外脚縦ヘラケズリ、裾横ナデ。内横ヘラケズリ、裾横ナデ	内外黄褐色。外粘土付着。内黒斑	
243-3	102	6001	器台	胴部破片、焼成前穿孔3	41+ : : : : 24 : : :	外縦ハケ後暗き。内横ナデ	外赤彩	小石やや目立つ硬い
243-4	102	6001・6003	甎	底部、底穿孔	50+ : : : :102+ : : 64 :6<18	内外縦ヘラミガキ	外暗赤褐色。内黄褐色、黒斑	微石、堅緻
243-5	102	4001	手捏	底部のみ	20+ : : : : : 22 : : :	内外ミガキ	淡褐色	

番号	押図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・底径・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
243-6	102	6001	甕	胴下半欠、頸部16cm残	171+ 206 178 245 ; ; 7<9	外口縁横ナデ、胴部横ヘラケズリ。内横ナデ	内外暗黄褐色黒斑	砂粒多い
243-7	102	1001	甕	床面から+4cm。胴以下欠、口縁、胴部分的に欠	188+ 226 201 276 ; ; 4<9	外口縁横ナデ、胴横から斜めヘラケズリ。内横ナデ	内外黄褐色。外黒斑	
244-1	102	1001	甕	床面から+6cm。頸部以下欠、頸部全周	85+ 35 58 37+ ; ; 7<9	外口縁横ハケ、頸部縦ハケ。内口縁横ナデ、口縁下横ハケ、下ナデ	内外黄褐色、部分的に赤みのある黄褐色。黒褐色	微砂多い
244-2	102	6001	甕	底部	95+ ; ; 144+ ; 50 7<11	外横ハケ。内ヘラナデ	内外黒黄褐色から黒褐色。内一部黒色	
244-3	102	6001・6002	甕	底部、1/3残	63+ ; ; 156+ ; 59 5<14	外斜めハケ後ヘラミガキ。内ヘラミガキ	内外暗黄褐色から黒色	微砂
244-4	102	6002	甕	遺物現存せず。底部、1/2残	51+ ; ; 121+ ; 78 5<3	外横ハケ後ナデ。内斜めハケ後ナデ	外赤褐色。内黒褐色	微砂多い、やや脆い
244-5	102	6002	甕	底部のみ	16+ ; ; ; ; 20 ;	内外ヘラミガキ	赤彩	
244-6	102	6001	高杯	1片、上粘土玉で接合した痕残	75+ ; ; ; ; 34 38+ ;	外脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内横ヘラケズリ	赤彩	
247-1	103	1001	須恵蓋環	床面から+12cm。1/4残	36 ; ; ; ; 30 3<7	口縁自然輪若干	内外暗灰色。外口縁自然輪若干	微砂若干、堅緻
247-2	103	1001	須恵環	床面から+12cm。底部欠、1/6残	39+ 106 ; ; 128 ; ; 3<6		内外暗灰色	白微砂若干
247-3	103	6101・6103・6104・6001	甕	ポイントのみ。胴下半欠、頸部全周、上下欠多い	180+ 255 206 281 ; ; 5<9	外口縁横ナデ、脚縁ヘラケズリ。内横ナデ、頸部輪痕み痕残	内外黄褐色。外脚粘土付着、口縁一部スス着	
247-4	103	6101・6102・6104	甕	ポイントのみ。胴以下欠、頸部全周、上下欠多い	183+ 250 260 ; ; 5<9	外口唇下沈線、口縁横ナデ、脚縁ヘラケズリ。内横ナデ、頸部横ヘラケズリ	外暗赤褐色、口縁黒色。内黄褐色、部分的にスス、粘土付着	
254-1	104	6001	甕	口縁部、5cm残	31+ 228 ; ; ; ; 5<7	ボタン状貼付2個一組	内外赤彩	砂粒多いやや軟質
254-2	104	6001	甕	底部、1/2破片	13+ ; ; ; ; 72 7<10	ヘラミガキ。内横ナデ	暗褐色	砂粒やや目立つ軟質
260-1	105	1001	台付鉢	床面から+5cm。完形。口縁1/4部残、脚端1/4部残	114 151 ; ; 53 85 4<6	外口唇、折り返し口縁に縄文、脚との接合部の突帯、裾、折り返し口縁下端に刻み。内外縦ヘラミガキ	内外赤彩。外施設部以外。内上半、脚赤褐色	
261-1	104	6001	高杯	口縁部、5cm残	30+ 206 ; ; ; ; 4<6	内外縦ヘラミガキ	内外赤彩	
261-2	104	6001	甕	胴部以下欠	91+ 228 184 ; ; 5<7	外口縁横ナデ、脚縁ヘラケズリ。内横ナデ		
261-3	104	6001	甕	底部破片	37+ ; ; ; ; 104 10<15	外ヘラケズリ。内横ナデ	内炭化物付着	
270-1	106	6001	高杯	遺物現存せず。杯のみ、1/4残	34+ 120 ; 119 ; 34底 5<5	口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外橙褐色	微砂少量、褐色粘若干、やや軟質
270-2	106	6001	高杯	脚のみ、火を受け変色	46+ ; ; ; ; 37 37+ ;	外縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ	内外赤みのある橙褐色	
270-3	106	6001	甕	輪痕み痕残、3片接合、口縁26%、頸部44%残	83+ 208 194 220+ ; ; 3<10	外口縁横ナデ、脚縁ヘラケズリ。内横ナデ、粘土接合痕あり	内外暗赤紫色から黒色	砂粒細かい、硬い
270-4	106	6001	甕	胴以下欠	40+ 130 119 127+ ; ; 5<10	外口縁横ナデ、脚縁ヘラケズリ。内横ナデ	内外暗褐色。外一部スス付着黒色	
270-5	106	6001	甕	底部	46+ ; ; 138+ ; 36 7<10	外縦ヘラケズリ。内横ヘラナデ	外暗褐色、一部スス付着黒色。内明褐色	微砂若干、やや軟質
270-6	106	1001	甕	ポイントのみ。カマド内国立支脚、口縁から6cmまで粘土砂混土で固定、口縁、胴わずかに欠	169 136 132 166 ; 64 7<10	外口縁横ナデ、脚縁ヘラケズリ。内横ナデ。カマド内で器表が荒れる、輪痕み痕残	外頸部赤橙色、脚暗黄褐色、底赤橙色。上から6cm粘土付着	微石非常に多い
271-1	106	6001	甕	口縁部破片	98+ 256 ; ; ; ;	外口唇刻み、以下縦ハケ。内横ハケ後横ナデ	内外暗黄褐色	
271-2	106	6001	甕	口縁部拓本		刻み		
271-3	106	6001	甕	口縁部拓本		刻み		
271-4	106	6001	甕	口縁部拓本		波状押圧		
271-5	106	6001	甕	胴部拓本		波状流線		
271-6	106	6001	甕	胴部拓本		縄文、流線		
271-7	106	6001	甕	胴部拓本		縄文、流線		

遺号	棟図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ:口徑:頸徑:胴徑:底・厚さ	形状・沈線	色調・付着物	胎土・焼成
271-8	106	6001	壺	胴部指本		調文		
273-1	105	6001	壺	底部2片接合、43%残	33+ : : : 30+ : : 30 7-9	外斜めヘラケズリ。内横ナデ	内外赤褐色。内底黒みを帯びる	白色砂粒目立つ。脆い
274-1	106	6001	高杯	杯以下欠、1/4残	34+ :16 : : : : 45	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外黄褐色。外火を受け黒変	微砂
274-2	106	6002	杯	木蓋底、3/4強残	43 :12 : : : 32 7<10	外横ヘラケズリ不詳明。内横ナデ	内外黄褐色から赤黄褐色、口縁暗褐色。内口縁黒色	
274-3	106	6002	杯	底部欠	40+ :16 : : : : 底 4<5	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外黄褐色	微砂ほとんど含まず、やや軟質
274-4	106	6002	高杯	胴のみ、胴端一部欠	36+ : : : : 37 34 <7	外胴縦ヘラケズリ、縦横ナデ	赤彩	
274-5	106	1001	台付皿	台のみ、火を受け変色	54+ : : : 75+ 66 :107 <9	外胴縦ヘラケズリ、台斜めヘラケズリ。内胴横ナデ、胴ヘラケズリ	内外黒変	微砂、微石多い、小石径7mm、脆い
274-6	106	6002	台付皿	底部破片、2片接合	41+ : : : 82+ 82 36 5<	外縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ	内外淡褐色	砂粒目立つ。普通
274-7	106	6001	須恵壺	口縁部のみ	46+ 220 :165 : : : 4<6	斑点状に釉がはかる	内外暗灰色から黒灰色	堅緻
274-8	106	6001	須恵長頸壺	口縁4.7cm残	16+ :106 : : : : 3<9	自然釉がはかる	灰色	
274-9	106	6001	甕	底部破片、1片	20+ : : : 50+ : : 76 7<10	外斜めヘラケズリ。内横ナデ	外赤褐色。内灰化物付着黒色	砂粒小石目立つ、硬い
274-10	106	6002	甕	胴部以上欠	112+ : : : 226+ : : 53 6<9	外斜めヘラケズリ。内横ナデ、ヘラ先痕残	内外赤褐色。外部分的に黒色	
275-1	107	6001	甕	口縁13cm残	102+ 216 202 : : : : 5<8	光沢小波状、頸部段、刻み、胴斜めハケ。内横ナデ	外ススにより黒色。内黒褐色	脆い
276-1	107	6001	高杯	杯下半以下欠、1/5残	34+ :158 : : : : 4<6	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩。外全面スス付着黒変	
276-2	107	6001	高杯	杯部上部のみ	43+ :124 : : : 3<5	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩。外下スス付着黒変	
276-3	107	6001	杯	完形、口縁一部欠	35 :15 : : : 98 4<8	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外黄褐色。外一部黒色	微石
276-4	107	6001	横腹杯	底部欠	34+ :51 : : : 4<7	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	微砂ほとんど含まず、焼き跡より悪い
276-5	107	1001	横腹杯	ボイントのみ。胴上半欠、1片、最大20%残	30+ :124+ : : : 127 : : 底 4<8	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	砂粒少、良好
276-6	107	6002	横腹杯	完形、口縁11/2強残	50 :121 : : : 114 : : 底 3<6	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩。外上から2.4cmまで	
276-7	107	6002	高杯	脚部欠	50+ :135 : : : 30 : : 4<10	外胴縦ヘラケズリ、胴縦ヘラケズリ。内環横ナデ、脚横ヘラケズリ	内外赤彩	微砂若干、堅緻
276-8	107	6002	高杯	杯大部分欠、脚端一部残	57+ :106+ : : : 41 92 8<10	脚横ヘラケズリ、縦横ナデ	内外淡赤褐色。外脚灰色	微石若干、堅緻
276-9	107	6001・6002	高杯	胴のみ、脚端一部欠	56+ 54+ : : : 36 94 8<12	外胴縦ヘラケズリ、縦横ナデ	赤彩	
276-10	107	6002	高杯	脚破片、1片、脚端粘土部接合部から欠	50+ : : : : 36 77+ :	外胴縦ヘラケズリ、縦横ナデ	赤彩	砂粒少、褐色粒多い、硬い
276-11	107	6001	高杯	脚のみ	52+ : : : : 40 92 8<13	外胴縦ヘラケズリ、縦横ナデ	外赤彩。内黄褐色	
276-12	107	6001	高杯	杯欠	54+ :40+ : : : 37 95 5<10	外胴縦ヘラケズリ、縦横ナデ	外赤彩。内赤褐色	微石
276-13	107	6001	高杯	脚のみ、杯一部残る	45+ :42+ : : : 36 92 8<11	外胴縦ヘラケズリ、縦横ナデ	外赤彩。内黄褐色	微砂、褐色粒
276-14	107	6001	高杯	杯欠	51+ : : : : 38 93 :	外胴縦ヘラケズリ、縦横ナデ	外赤彩。内黄褐色	
276-15	107	6001	高杯	脚のみ、脚端38%残	47+ : : : : 35 93 8<12	外胴縦ヘラケズリ、縦横ナデ	外赤彩。内褐色	砂粒少、褐色粒多い、硬い
276-16	107	6001	高杯	脚のみ、杯一部残る	54+ :40+ : : : 36 :105 <13	外胴縦ヘラケズリ、縦横ナデ	赤彩	微石少ない、やや硬い
276-17	107	6002	高杯	杯欠	52+ : : : : 38 96 8<9	外胴縦ヘラケズリ、縦横ナデ	内外赤彩。内脚黄褐色	微砂少なく粉っぽい
276-18	107	6001	高杯	杯欠、2/5残、脚三角形切り取り、復元で3単位	40+ : : : : 95 <7	外胴縦ヘラケズリ、縦横ナデ	内外赤彩。内部分的	
276-19	107	6001	甕	底部破片、4片接合、25%残	62+ : : : :140+ : : 34 7<12	外胴縦ヘラケズリ、底部近く縦ヘラケズリ。内横ナデ	外褐色。内暗褐色。下黒みを帯びる	砂粒多い、やや軟質
276-20	107	1001	埴	ボイントのみ。	86+ : : 93 :157 : : 底 7<9	外胴部縦ヘラケズリ、胴中横ヘラケズリ、下縦ヘラケズリ。内頸部縦横あり、下ヘラ先痕	内外赤彩。外底0.5cmを除く。内部分的	
276-21	107	1001	埴	1片、口縁4cm、最大25%残	49+ 96 98 : : : : 4<6	外縦ヘラケズリ後上横ナデ。内横ナデ	内外赤彩	
277-1	107	6001	台付皿	台のみ1片、33%残	55+ : : : : 72 :110 7<9	外縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ	内外淡褐色	小石目立つ、砂粒少

番号	地図・注記	器形	現状・特徴・備考	高さ:口径・頸径・胴径・脚径・端底・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
277-2	107 6001	台付鉢	接台部はほぼ全周	46+ : 52+ : 50+ : 44 : 48+ : 5<11	外接台部突帯刻み、上縁ヘラミガキ、下隅り悪い。内ヘラミガキ残り悪い	内外赤彩。外突帯以外。内上半	胎土、焼成 砂粒多く脆い
278-1	108 1002・6001	壺	ポイントのみ。頸部接合せず図上復元、摩耗激しい、口縁1/3欠残	138+ : 220 : 130+ : 48+ : 5<11	外折り返し口縁縄文、棒状3出付本一組、ボタン状貼付2個一組、口縁縄文、頸部結節、細文。内縁ヘラミガキ、割落多い	内外赤彩。外細紋部以外。内上から12cmまで	砂粒、小石多く脆い
278-2	108 6001	壺	頸部以下欠、口縁1/2残	91+ : 224 : 112 : 48+ : 5<8	外口縁縄文、下隅で押圧、縁ヘラミガキ。内縁ヘラミガキ	内外赤彩。内上から6cmまで、下黄褐色、部分的にスス付着黒色	微石、軟質、脆い
278-3	108 6001	壺	火を受け変色、6片接合、口縁34%残	49+ : 150 : 72+ : 48+ : 5<8	外縁ナデ後縁ヘラミガキ。内斜めヘラミガキ	内外赤彩	
278-4	108 6001	壺	頸部以下欠、1/4残	77+ : 152 : 79 : 48+ : 4<7	外折り返し口縁、縄文、鋭い刻み、縁ヘラミガキ、頸部結節と縄文。内縁ヘラミガキ	内外赤褐色	微石若干、やや脆い
278-5	108 1003・6001	甕	床面から、1cm。底部欠	180+ : 220 : 175 : 202 : 48+ : 5<8	外口縁押圧小波状、頸部段押圧。内縁ヘラミガキ	内外赤みのある黄褐色、下半部分的に暗褐色から黒色	微石若干、軟砂質、脆い
278-6	108 1002	鉢	床面から0cm。底部破片	36+ : 108 : 65 : 48+ : 5<11	外縁ヘラミガキ。内縁ヘラミガキ	内外赤彩	砂粒、小石多い、脆い
278-7	108 6001	台付鉢	台のみ、1/4残	48+ : 165 : 74 : 48+ : 5<8	外斜めハケ後縁ヘラミガキ。内縁ハケ後縁ナデ	内外黄褐色	砂粒
278-8	108 6001	甕	底部	65+ : 194 : 79 : 48+ : 5<10	外斜めヘラミガキ。内縁ナデ	外赤みのある黄褐色。内黄褐色	微石あまり無い
278-9	108 6001	甕	底部はほぼ完。胴部1/2残	136+ : 292 : 118 : 48+ : 5<17	外鋭い斜めヘラミガキ、下斜めヘラケズリ。内縁ナデ	内外暗褐色。外一部黒褐色	砂粒多く軟質
280-1	108 1001	壺	床面から0～+3cm。胴部、1/2弱残	145+ : 292 : 48+ : 5<9	部分的に縄文、斜めハケ、上半樹子状法線	内外黒褐色から暗褐色	
280-2	108 1003	台付甕	床面から+6cm。台のみ、1/2残、器表剥落多い	68+ : 120+ : 57 : 48+ : 5<9		内外暗褐色から赤褐色	砂粒
280-3	108 6002	壺	底部のみ	48+ : 165+ : 88 : 48+ : 5<10	外縁ヘラミガキ。内縁ヘラミガキ	外暗褐色、底黒灰色。内赤褐色	微石多い、脆い
280-4	108 1001	壺	逆物現存せず。床面から0～+3cm。上欠	108+ : 204 : 60 : 48+ : 5<12	外斜めハケ。内ほとんど剥落	内外赤みのある黄褐色	
283-1	108 1002	甕	床面から+5～7cm。完形、口縁、口縁、脚欠多い	206 : 189 : 168 : 197 : 48+ : 5<11	波状口縁、幅約7段	外暗褐色、一部暗赤褐色。内暗赤褐色、底スス付着黒色	
283-2	108 6001	甕	上下欠、胴部23cm残	159+ : 226 : 239 : 48+ : 5<10	軸約4段残	淡黄褐色から暗褐色	砂粒多い、非常に脆い
283-3	108 6001	壺	口縁4.5cm残	27+ : 52 : 43 : 48+ : 4<6	外縁ヘラミガキ。内縁破み痕残	内外暗黄褐色	黒白砂粒目立つ、脆い
283-4	108 6001	壺	胴部	39+ : 50 : 40 : 48+ : 3<5	頸部縄文、ボタン状貼付、脚上郡縄文鎖状法線、縄文、赤彩。内縁ナデ	内外黄褐色。外一部赤彩	黒白砂粒目立つ、脆い
283-5	108 6001	甕	底部破片	27+ : 48 : 48 : 48+ : 5<12	穿孔2個	暗赤褐色	小石多い
284-1	110 1001	杯	ポイントのみ。完形、口唇細かい欠多い	49 : 144 : 48 : 48+ : 5<7	外口縁横ナデ、下縁ヘラケズリ。内縁ナデ	外赤彩口縁から4.3cmまで	褐色粒多い、微石若干
284-2	110 6001	高杯	杯のみ、口縁3/4強残	53+ : 136 : 138 : 36 : 48+ : 5<7	外口縁横ナデ、中縁ヘラケズリ、下縁ヘラケズリ。内縁ナデ	内外赤彩。外部分的に擦れる	褐色粒多、やや軟質
284-3	110 6001	高杯	杯のみ、口縁1/2弱残	45+ : 135 : 37 : 48+ : 4<8	外口縁横ナデ、中縁ヘラケズリ。内縁ナデ	赤彩	
284-4	110 1005・6001	高杯	ポイントのみ。杯のみ、完	39+ : 139 : 33 : 48+ : 5<11	外口縁横ナデ、中縁ヘラケズリ、下縁ヘラケズリ。内縁ナデ	内外赤彩	微石をわずかに含む、やや軟質
284-5	110 6001	高杯	杯のみ、口縁1/3残	49+ : 154 : 41 : 48+ : 5<8	外口縁横ナデ、中縁ヘラケズリ。内縁ナデ	外赤彩。内黒色、口縁赤褐色	白微砂
284-6	110 6001	高杯	杯のみ、口縁1/2強残	53+ : 143 : 40 : 48+ : 3<8	外口縁横ナデ、中縁ヘラケズリ。内縁ナデ	内外赤彩。内脚黄褐色	
284-7	110 6001	高杯	脚欠、1/3残	45+ : 154 : 36 : 48+ : 4<9	外口縁横ナデ、中縁ヘラケズリ、下縁ヘラケズリ。内縁ナデ	外暗赤褐色、口縁スス付着黒色。内暗褐色、一部黒色	微砂少ない、軟質
284-8	110 6001	高杯	杯一部、脚端欠	75+ : 121+ : 46 : 48+ : 5<8	外杯下縁ヘラケズリ、脚端ヘラケズリ、裾横ナデ、脚端ナデ	内外赤彩。内脚黒褐色	微砂少ない
284-9	110 6001	高杯	脚のみ、脚端15%残	79+ : 121+ : 34 : 48+ : 4<5	外杯下縁ヘラケズリ、脚端ヘラケズリ、裾横ナデ、脚端ナデ	内外赤彩。内脚黄褐色、一部黒斑	微砂若干

番号	棟号	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・脚径・底・厚さ	形状	色調・付着物	底土・底成
284-10	110	1003	高坏	ポイントのみ。完形、口縁一部欠	102 : 43 ; ; 42 : 33 : 4<10	外坏口縁横ナデ、中横ヘラケズリ、下縦ヘラケズリ、脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内坏横ナデ、脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ	内外赤彩。内上から1.2cm	
284-11	110	1002	高坏	ポイントのみ。完形、口縁、脚端部分的に欠	103 : 439 ; ; 39 : 31 : 5<13	外坏口縁横ナデ、中横ヘラケズリ、下縦ヘラケズリ、脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内坏横ナデ、脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ	内外赤彩。内脚黄褐色	褐色粒、細砂、軟質
284-12	110	1004	高坏	ポイントのみ。完形、口縁2カ所、脚大きく欠	88 : 46 ; ; 39 : 405 : 4<10	外坏口縁横ナデ、中横ヘラケズリ、下縦ヘラケズリ、脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内坏横ナデ、脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ	内外赤彩。内脚赤褐色	微石
284-13	110	1005	高坏	ポイントのみ。完形、口縁、脚端大きく欠	104 : 46 ; ; 39 : 32 : 5<9	外坏口縁横ナデ、中横ヘラケズリ、下縦ヘラケズリ、脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内坏横ナデ、脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ	内外赤彩。内脚赤褐色	
284-14	110	6001	甕	頸部以下欠、1/5 残	52+ : 490 : 458 ; ; ; ;	外横ナデ。内横ナデ幅植み痕	外黄褐色。内暗黄褐色、一部黒色	微石
284-15	110	?	甕	逆物現存せず。底部	45+ : ; ; ; ; 34 ;	外縦ヘラケズリ。内横ナデ		
284-16	110	1002・6001	鉢	ポイントのみ。完形、口縁2/3 残	35 : 463 ; ; ; 34 : 5<9	外口縁横ヘラケズリ、下斜めヘラケズリ。内横ナデ、接合痕、凹凸目立つ	内外黄褐色。外1/3ほど黒色艶くなっている	微石、堅緻
285-1	110	6001	高坏	坏のみ、1片、16% 残	33+ : 464 ; ; ; 56+ ; ; 7<9	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	外淡緑褐色。内淡褐色	砂粒やや目立つ、軟質
285-2	110	6001	器台	脚部	24+ : ; ; ; 29 ; ;	外縦ヘラミガキ。内横ナデ	黄褐色	
285-3	110	6001	高坏	脚のみ、4片接合、端部20%、最大47% 残	56+ : 46+ ; ; ; 42 : 36 : 6<12	外脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ	暗茶褐色	黄褐色
286-1	110	6001・6002	坏	完形、口縁1/3 弱残	49 : 427 ; ; ; 34底 : 4<8	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外黄褐色。外口縁スス付部黒色	微砂若干、やや軟質
286-2	110	6001	碗	1/5 残	52+ : 452 ; ; ; 42 : 102 : 5<11	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外褐色、口縁部分的に黒変	砂粒あまり含まない
286-3	110	6001	台付甕	台のみ、端欠多い	60+ : ; ; 50+ : 59 : 410 : 4<8	外台縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内横ナデ	内外黒みのある黄褐色。内部分的に黒色、褐色	微砂、軟質
286-4	110	6001	高坏	脚破片、最大42% 残	46+ : ; ; ; 42 : 102 : 5<11	外脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ	外赤彩。内淡褐色、一部黒斑	砂粒混
286-5	110	6001・6002	甕	完形、口縁1/2 強残、脚欠多い	117 : 434 : 418 : 425 ; ; 38 : 7<10	外口縁横ナデ、脚縁ヘラケズリ、下斜めヘラケズリ。内横ヘラケズリ	内外黒褐色。外化粧土をかぶせる	
286-6	110	6002	甕	胴以下欠	104+ : 483 : 462 : 200+ ; ; ; 7<9	外口縁横ナデ、脚縁ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラ先痕	内外黄褐色。外黒斑	微砂、軟砂質
287-1	110	6001	壺	口縁部拓本		縄文、刻み		
289-1	110	6001	埴	胴部破片、2片接合、22% 残	50+ : 432 : 386 : 59+ ; ; ; 4<6	外口縁横ナデ、下斜めヘラ。内横ナデ	内外赤彩	小石多く凹凸あり、硬い
289-2	110	1002	埴	ポイントのみ。貯蔵穴内出土。口縁3/4 強残、底部欠、火を受け器表荒れる	112+ : 427 : 389 : 426 ; ; ; 3<6	外口縁縦ヘラミガキ、脚斜めから横ヘラミガキ。内口縁横ナデ、脚縁ヘラケズリ	内外赤彩。外黒斑多い。内脚黄褐色	微石比較的多
289-3	110	1001	甕	ポイントのみ。貯蔵穴内出土。完形、口縁部分的に欠	177 : 447 : 410 : 479 ; ; 35 : 4<9	口縁ハケ後横ナデ、上斜めハケ後横ヘラミガキ、下斜めヘラケズリ	内外赤褐色。外一部黒色	微石多い
289-4	110	6001	壺	胴部拓本		縄文、沈線		
289-5	110	6001	壺	胴部拓本		沈線		
289-6	110	6001	壺	胴部拓本		結節、状文、刻み		
290-1	112	6001	埴	口縁部破片	77+ : 463 : 382 ; ; ; 3<7	内外口縁横ナデ、下立てヘラミガキ	内外赤彩	微石ほとんど含まず、軟質
291-1	112	6001	高坏	坏以下欠	41+ : 446 ; ; ; ; 5<6	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	砂粒多い、硬い
291-2	112	6005	坏	口縁破片、3片接合口縁32% 残	40+ : 430 ; ; ; ; 48+ : 4<7	外口縁横ナデ、下斜めヘラケズリ、口縁下0.8cm幅植み痕。内横ナデ	内外赤彩。内黒い	
291-3	112	6001	高坏	坏下部破片、2片接合、80% 残	26+ : 38+ ; ; ; 40 ; ; 5<10	外横ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	砂粒目立たない、軟質

番号	抑図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ:口径:頸径:胴径:脚径:底:厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
291-4	112	6001	高坏	完形、口縁わずかに残、脚端欠多い	95 :138 : : : 37 :80 :4<8	外環口縁横ナデ、下横へラケズリ、胴縁へラケズリ、器横ナデ、内環横ナデ、脚横へラケズリ、裾横ナデ	外赤彩。内白褐色	微砂、褐色粒、軟質
291-5	112	1001	高坏	脚のみ	51+ : : : : 40 :90 :<6	外縁へラケズリ、裾横ナデ、内脚横へラケズリ、裾横ナデ	内外赤彩。内脚黄褐色	褐色粒径1から6mm、砂質粘土
291-6	112	6001	碗	破片残	45+ :123 : : : 3<6	口唇から口縁下2cm網状燃糸、施文部以外内外横へラミガキ	外黄褐色。内暗黄褐色	
291-7	112	6001	碗	胴下半欠、8片接台口縁36%、最大55%残	61+ :290 :214 :218+ : : : 4<9	外口縁横ナデ、胴縁へラケズリ。内横ナデ、器表あれる	内外淡褐色。外黒斑2カ所	砂粒多い、軟質
291-8	112	6001	甕	底部	39+ : : : : :149+ : : : 54 :4<11	外縁へラケズリ。内横ナデ	内外黄褐色。外黒みを帯びる	
291-9	112	6001	甕	10片接台、底部ほぼ全周	51+ : : : : :150+ : : : 72 :4<8	外縁へラケズリ。内横ナデ	内外赤褐色。スス付着、一部粘土付着	
291-10	112	6001	甕	遺物現存せず。底部	54+ : : : : :174+ : : : 78 :4<6	外縁へラケズリ。内横ナデ	内外赤褐色から黒褐色。外やや黒みを帯びる	
291-11	112	6001	甕	底部のみ	19+ : : : : :100+ : : : 54 :4<9	外斜めへラケズリ。内横ナデ	内外黄褐色。内赤みを帯びる	微石若干
291-12	112	6001	甕	底部破片、1片、28%残	25+ : : : : :160+ : : : 42 :4<11	外斜めへラケズリ。内横ナデ	酸化変により赤く発色	砂粒大きく多い、硬い
291-13	112	6001	甕	2片接台、31%残	54+ : : : : :158+ : : : 64 :4<12	外斜めへラケズリ。内横ナデ	内外赤褐色。外粘土付着。内底黒みを帯びる	白色砂粒目立つ、硬い
292-1	113	6001	埴	口縁	39+ :108 :63+ : : : : 3<4	外縁へラミガキ。内斜めへラミガキ	内外赤彩。内脚黄褐色	砂粒多い、やや軟質
292-2	113	6001	埴	頸部以下欠、1/3残	40+ :108 :78 :80+ : : : 3<5	内外横ナデ	内外黄褐色。一部黒褐色	
292-3	113	6001	碗	口縁破片、8片接台、口縁21%残	46+ :192 : : : : :146+ :4<5	内外横ナデ	内外赤彩	砂粒少ない
292-4	113	6001	埴	口縁破片、2片接台、32%残	40+ :110 :66 : : : : 3<5	外縁へラミガキ。内横ナデ、口縁内側に後縁	内外赤彩	砂粒多い、硬い
292-5	113	6001	埴	胴3片、口縁1片接台、口縁15%残	63 :108 :80 :80 : : : 3<7	外口縁下横ナデ、頸部まで斜めへラミガキ、胴横ナデ。内横ナデ	内外淡褐色。内一部黒斑	砂粒細かく硬い
292-6	113	6001	埴	頸部破片、2片接台、頸部14%、底部1/2強残	37+ : : : 86 :90 : : : 3<9	内外頸部以上横ハケ、胴横ナデ	内外赤彩	砂粒多い、硬い
292-7	113	6001	器台	遺物現存せず。292-8と同一個体か。脚のみ	26+ : : : : : :124 :3<6	外横ナデ、部分的に横へラミガキ状。内裾横ハケ	外赤褐色。内黄褐色	砂粒多い、硬い
292-8	113	6001	器台	脚のみ、2片接台、脚端55%残	26+ : : : : : 46+ :122 :3<7	外横ナデ、部分的に横へラミガキ状。内裾横ハケ	赤彩、暗紫色	砂粒目立たず、硬い
292-9	113	6001	器台	坏欠、2/5接台、他と合わせ2/3残、脚穿孔	32+ : : : : : :118 :5<7	外縁へラミガキ。内脚い縦へラミガキ	外赤みのある黄褐色、部分的に暗黄褐色。内黄褐色、部分的に赤みを帯びる	微砂少ない
292-10	113	6001	甕	頸部以上欠、胴下欠多い	214+ :123+ :102 :223 : : : 68 :5<9	器表磨耗。内輪着み痕残	外黄褐色。内赤褐色	小石多い、やや硬い
295-1	113	6001	甕	頸部から胴部	135+ : : : 204 :314 : : : :	外頸部横ナデ、胴縁へラケズリ。内横へラナデ、頸部へラ先痕残	内外暗黄褐色	
295-2	113	6001	甕	胴上部のみ、破片	116+ :194 :160 :188 : : : :	外口縁横ナデ、胴縁へラケズリ。内横ナデ	内外赤褐色。外大部分スス付着黒変	
296-1	113	6001	甕	口縁10.5cm残	20+ :228 : : : : : 4<6	口唇小波状、輪着み3段残	波褐色一部黒斑	砂粒目立たない
296-2	113	6001	模範坏	口縁破片、1片、最大16%残	33+ :126 : : : : :110 : : : 4&底 :	外口縁横ナデ、胴斜めへラケズリ。内横ナデ	内外褐色	砂粒目立たない、硬い
297-1	113	1001	器台	ポイントのみ。脚のみ、脚穿孔4	46+ : : : : : 28 :128 :4<7	外縁へラミガキ。内へラナデ	内外赤彩。内環口縁から1.5cmまで	砂粒少ない、硬い、軟い
297-2	113	1002	無頸盃	ポイントのみ。完形、口縁1/3残、亀裂多い	72 :85 : : : 89 : : : 34 :4<7	内外横へラケズリ後横ナデ	内外赤褐色、下黒斑。内赤みのある黄褐色	微石若干、脆い
298-1	113	6001	台付鉢	上下欠	39+ : : : : : 47 :57+ :<7	粘土紐貼付刻み、横へラミガキ	内外赤褐色	微石、やや脆い
298-1	114	6002	須恵高台付坏	底部、1/2破片	27+ : : : : :125 : : : :100 :3<5	粘土紐貼付刻み、横へラミガキ	やや暗灰色	緻密
299-2	114	6003	坏	口縁1/2残	56 :126 : : : : : 4&底 :<8	外横へラケズリ後上半横から斜めへラミガキ。内横へラミガキ	内外赤褐色。口縁一部黒斑	砂粒、小石多い、やや軟質
299-3	114	6001	器台	上下欠、1/3残、脚穿孔3	57+ :45+ : : : 35 :70+ :4<11	外縁へラケズリ。内ナデ	暗褐色から暗赤褐色	微石
299-4	114	6001	甕	底部破片、1片、35%残	31+ : : : : :138+ : : : :104 :4<13	外縁へラケズリ。内ナデ	内外暗褐色。内一部黒斑	砂粒目立たない、やや軟質
299-5	114	6001	甕	底部	34+ : : : : : : : 56 : :	斜めへラケズリ、うち横ナデ		
299-6	114	6001	甕	口縁のみ、1/4残	32+ :216 : : : : : :<9	口唇縄文、粘土紐貼付3本一組、2本残、割付の縦線あり、縁へラミガキ	内外赤褐色	微石多、軟砂質、脆い
299-7	114	6001	甕	完形、下欠多い、頸部、胴下部に焼成前穿孔	266 :270 :229 :224 : : : :114 : :	外口縁横ナデ、胴縁へラケズリ。内横ナデ	内外淡赤褐色。外大部分黒斑	

番号	押国	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・脚径・端底・厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
300-1	115	1001	鉢	床面から+8cm。完形、最大1/4残、底部わずかに上げ底	114 :186 : : :193 : : 39 : 3<12	口唇縄文、口縁下3段縄文、2段結節。施文部以外内外ヘラミガキ	内外赤彩。外上径1cmの円形赤彩1/4周に4個、下黄褐色	微石多い
300-2	115	6001	甕	口縁6.5cm残	38+ :185 :153 : : : : 3<8	折り返し口縁、口縁下刻み	内外暗黄褐色	砂粒多い
301-1	115	6001	須恵高台付杯	底部のみ、器表磨耗	16+ : : : :108 : : 36 : 4<9		内外灰色から灰白色	砂粒多い
301-2	115	6002	杯	底部欠、口縁4.5cm残	38+ :113 : : :116 : : 3丸底 5	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ、器表磨耗。内横ヘラミガキ、口縁磨耗	内外淡茶褐色。外底部黒斑	砂粒混、やや軟質
301-3	115	6001	高杯	杯のみ、火を受け脆い、口縁1/3残	38+ :138 : : : : : 3<7	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩。外測落多い	砂粒多い
301-4	115	6002	高杯	杯のみ、最大28%残	35+ :128 : : :70+ : : 5<6	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	砂粒多い、土器片粒混、やや軟質
301-5	115	6002	碗	底部欠、口縁6cm残	48+ :143 :136 :138 : : : 3<6	口縁外におれる、横ナデ、頸部下接台の段、体部横ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩	砂粒、小石混
301-6	115	6002	横散杯	底部欠、7.5cm残	44+ :120 : : :126 : : 3丸底 3<7	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ、輪痕み痕残。内横ナデ	内外赤彩	3mmほどの小石混、砂粒目立つ
301-7	115	6002	横散杯	底部欠、5cm残	42+ :100 : : :130 : : : 3<8	上横ナデ、以下横ヘラケズリ	内外赤彩。外上から2cmまで、以下赤褐色	砂粒少ない、やや軟質
301-8	115	6002	碗	底部欠、6.5cm残	30+ :120 : : :136 : : : 4<7	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外淡褐色から黒褐色	砂粒少ない
301-9	115	6001	埴	上下欠、頸部4.5cm残	30+ :100+ 36 :72 : : : 4<6	外横ヘラミガキ、胴に輪痕み痕わずかに残。内横ナデ、頸部下接台痕残	内外赤彩	砂粒混
301-10	115	6002	壺	口縁破片、1片、11%残	61+ :186 : : :112+ : : : 4<6	内外横ナデ	内外赤彩	砂粒混、やや軟質
301-11	115	6001	甕	頸部以下欠、7.5cm残	62+ 248 :212 :224+ : : : 5<7	波状口縁、横ナデ	内外褐色、黒斑	
301-12	115	1003・6002	甕	床面から+15cm。底部破片、4片接合、下半全周	58+ : : : :182+ : : 5<9	外縦ヘラケズリ。内横ナデ	外波灰褐色、一部粘土付着。内暗褐色、部分的に黒斑	砂粒目立つ、硬い
301-13	115	6002	高杯	脚残、杯部一部残	64+ 301+ : : : :38 :102 :5<15	外脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ	内外赤彩。内脚黒変	砂粒、褐色粒多い、硬い
301-14	115	1001	高杯	床面から+10cm。脚のみ	57+ : : : : : 31 :36 :8<12	外脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ	外赤彩。内淡褐色	砂粒、褐色粒混
301-15	115	6002	高杯	脚残、杯部一部残	63+ 70+ : : : :38 :35 :4<10	外脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ	内外赤彩。内脚明褐色	褐色粒多い、やや軟質
301-16	115	6002	高杯	脚端欠、杯部一部残	63+ 38+ : : : :34 :30 :8<10	外脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ	外赤彩、痕跡的。内脚内以外赤彩黒斑	砂粒、小石混、やや軟質
301-17	115	1002	高杯	床面から+9cm。脚のみ	58+ : : : : : 31 :34 :8<13	外脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ	外赤彩。内淡褐色	砂粒混、褐色粒大きい
301-18	115	6002	高杯	脚のみ	51+ : : : : : 42 :36 :4<11	外脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ	外赤彩。内赤褐色、1/2黒斑	砂粒少ない
302-1	115	6001	杯	丸底、5片接合、口縁25%残	45 :140 : : : : : 4<7	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外赤彩、痕跡的	小石砂粒土器片粒多い、軟質
302-2	115	6001	碗	底部欠	46+ :104 :100 :105 : : : :	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ		
302-3	115	6001	碗	底部欠、4片接合、口縁29%残、丸底	72+ :120 : : :149 : : 3<5	外口縁横ナデ、下横ヘラケズリ。内横ナデ	内外暗褐色。外部分的に黒斑。内光沢あり	砂粒若干混、硬い
302-4	115	6001	高杯	脚のみ、端部で22%残	39+ : : : : : 54 :108 : :	外脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ。内脚縁ヘラケズリ、裾横ナデ	内外波褐色	砂粒若干混、硬い
302-5	115	6001	甕	口縁部破片	126+ 226 : : : : : : :	外口縁横ナデ、脚縁ヘラケズリ。内横ナデ	淡褐色外黒斑	やや軟質
303-1	116	6001	鉢	完形、底部完、器表亀裂多い、口縁2.5cm残	60 :129 : : : : : 51 :5<8	口唇、口縁縄文、施文部以外横ヘラミガキ	内外赤彩。外二重口縁から下	砂粒多い、軟質
304-1	116	6001	甕	1片口縁15%、最大22%残	41+ :118 :73+ : : : : 3<6	口縁縄文、折り返し下刻み、施文部以外横ヘラミガキ	内外赤彩	
304-2	116	6001	甕	底部	24+ : : : : : : 32 : :	ヘラナデ		
306-1	115	一括	壺	上下欠	238+ :135+ :102 :294 : : : 5<8	頸部、胴上部に端頭、羽状縄文、編織状縄文の間に縄文、他は横ヘラミガキ	外赤彩施紋部以外。内黄褐色	やや軟質
306-2	115	6001	壺	口縁部拓本		縄文、刻み		
306-3	115	6001	壺	口縁部拓本		縄文、刻み		
306-4	115	6001	鉢	口縁部拓本		縄文		
306-5	115	6001	鉢	口縁部拓本		縄文		
306-6	115	6001	甕	口縁部拓本		刻み		

番号	插图	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・底・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
306-7	115	6001	甕	口縁部拓本		刻み		
308-1	117	6001	台付鉢	ポイントのみ。接合部破片	35+ : : : : 44 : : 3<14	外上縁ヘラミガキ	内外赤彩。内脚を除く	砂粒大きく多い、脆い
308-2	117	6001	甕	底部破片	18+ : : : : 112 : : 82 3<10	外縁ハケ、中央小亀裂あり	スス付青黒褐色	砂粒目立たず硬い
308-3	117	6001	甕	ポイントのみ。胴部11.5cm残	101+ : : : : 192 214 : : 3<8	胴部に段、楕円形の押圧	淡褐色下部黒斑	
311-1	118	6001	甕	口縁破片、口縁4.5cm15%残、2片接合	28+ 54 : : : : 78+ 3<4	外口縁横ハケ、胴横ナデ	内外赤褐色、一部黒色	砂粒細かい、硬い
311-2	118	6001	甕	口縁破片、口縁5cm14%残	28+ 110 : : : : 86+ 3<4	外口縁横ハケ、胴横ナデ	内外赤褐色、一部黒色	砂粒細かい、硬い
311-3	118	6001	甕	底部欠、2片、1/3残	48+ 132 : : : : 140+ 5<8	外斜めヘラミガキ	内外黒褐色、赤褐色	砂粒目立たず、軟質
311-4	118	6001	鉢	口縁7.5cm12%残	45+ 200 172+ : : : : :	同一方向の縄文3段、以下縦ヘラミガキ	外赤彩施紋部以外。内淡褐色	胎土緻密、焼成良
311-5	118	6001	鉢	口縁4.5cm7%残	54+ 138 : : : : 180+ : : :	同一方向の縄文3段、以下縦ヘラミガキ	外赤彩施紋部以外、淡褐色	胎土緻密、焼成良
311-6	118	6001	鉢	口縁10.5cm15%残	52+ 220 : : : : 160+ : : :	縄文羽状3段、ヘラミガキ	外赤彩。内淡褐色、部分的に赤彩	
311-7	118	6001	鉢	口縁9cm14%残	78+ 210 : : : : 132+ : : :	縄文羽状3段、ヘラミガキ	外赤彩。内淡褐色、部分的に赤彩	
311-8	118	1001	甕	底部破片、木炭底、上底、小亀裂多い	20+ : : : : 120+ : 90 3<13	外縁ハケ。内斜めハケ	外赤褐色から黒褐色。内頸部褐色、粘土付着	小石、粗な目立つ、硬く脆い
311-9	118	6001	甕	底部破片	20+ : : : : 70+ : : 36 3<11	外縁ヘラミガキ。小亀裂多い	赤彩	砂粒目立つ、硬い
311-10	118	6001	高坏	脚1/4残、透かし入り	34+ : : : : 108+ 136 5<8	外縁ヘラミガキ、胴横ナデ	外赤彩。内淡褐色	砂粒多い、やや硬い
311-11	118	6001	高坏	脚、接合部ではずれる、片部2.5cm残	46+ 61+ : : : : 45 56+ 3<16	縄目の刻みほぼ全周、ヘラミガキ	内外赤彩	砂粒多い、やや硬い
311-12	118	6001	高坏	脚部破片、脚1/4残	48+ : : : : 36+ 32 5<11	縁ヘラミガキ、胴横ナデ	外赤彩。内淡褐色	砂粒多い、脆い
311-13	118	6001	甕	胴部拓本		施文部以外赤彩		
312-1	118	6001	鉢	ポイントのみ。完形。底部中央欠、火を受け脆い、口縁1/2残	97 218 : : : : 38 3<11	折り返し口縁縄文、下刻み、上縁ヘラミガキ、縦ヘラミガキ	内外赤みのある黄褐色。外下暗褐色	砂粒若干、軟質
312-2	118	6001	甕	底部欠、胴全周	142+ 167 190 : : : : :	内縁ヘラミガキ	内外黄褐色	砂粒目立つ、軟質
312-3	118	6001	甕	底部破片	30+ : : : : 124+ : 56 :	胴部摩耗、整形不明		
313-1	117	6001	甕	口縁部拓本		折り返し口縁		
313-2	117	6001	甕	底部拓本		ハケ		
314-1	119	1002	甕	床面から+3cm。口縁破片、口縁22%、頸部1/2強残	96+ 193 33 38+ : : 5<8	折り返し口縁縄文と刻み、頸部に結節と縄文、施紋部以外縦ヘラミガキ	内外赤彩。外施紋部以外。内上から5.8cmまで、下黄褐色	砂粒多い、脆い
314-2	119	1001	鉢	床面から+3cm。完形。口縁少ない、底部完	102 119 : : 136 : 57 3<9	口唇縄文、口縁下羽状縄文。縄で刻み、斜めヘラミガキ	内外赤彩。外施紋部以外、下黒みを帯びる、底黄褐色	微石
314-3	119	6001	甕	胴部破片、最大14cm残	92+ : : 160 210 : : 3<6	軸径み4段残、指痕残る	淡褐色	小石多く亀裂あり
314-4	119	6001	鉢	口縁、小破片、1片口縁10%、最大16%残	58+ 210 : : : : 138+ 5<7	口縁下結節3段後横ヘラミガキ	内外赤彩	砂粒多い、軟質
316-1	118	6001	甕	口縁部拓本		ボタン添付、全面摩耗		
316-2	118	6001	甕	口縁部拓本		刺突とハケ		
316-3	118	6001	甕	胴部拓本		縄文、刻み		
316-4	118	6001	甕	胴部拓本		刻み		
316-5	118	6001	甕	胴部拓本		刻み		
316-6	118	6001	甕	胴部拓本		縄文、刻み		
317-1	119	1002	甕	床面から+1〜4cm。頸部ほぼ全周	71+ : 93 : : : : 5<7	頸部に結節と縄文、ボタン状貼付2個一組4カ所残	外赤彩施紋部以外。内黄褐色	
317-2	119	6001	甕	頸部ほぼ全周	62+ : 92 : : : : :	頸部に結節と縄文、ボタン状貼付2個個数不明	外赤彩施紋部以外。内黄褐色	
318-1	119	6001	甕	口縁破片、6片接合、33cm53%残	28+ 197 117+ : : : : 3<7	二重口縁、ボタン状貼付2本一組、3カ所現存	内外赤彩。外施紋部以外。内上から6.7cmまで	砂粒多くやや脆い
318-2	119	1002・6003	甕	床面から0cm。頸部以下欠、7片接合、口縁27cm45%残	56+ 190 98+ : : : : 3<3	二重口縁、棒状貼付1カ所3本一組残。内粘土を張り付け補強、横ヘラミガキ、亀裂	施文部以外赤彩。内黄褐色	小石砂粒目立つ、脆い
318-3	119	1002	甕	遺物現存せず。床面から0cm。上下欠	117+ 70+ 56 240+ : : 3<7	結節、沈線、ボタン状貼付、山形沈線、羽状縄文	施文部以外赤彩。内黄褐色	微砂、軟質

番号	抽図	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ：口径・頸径・胴径・脚径・地・厚さ	形状	色調・付着物	胎土・焼成
318-4	119 6003	甕		胴上半、7片接合、口縁部で47%、頸部55%残	100+ 220 :174 202+ : : 3<9	口唇小波状、粘土紐8段、能き足しの痕跡著。内横ナデ	外黒色。内炭褐色	砂粒器表に目立つ、脆い
318-5	119 6001・6005	埴		頸部以下欠、9片接合、口縁52%残	93+ 198 :154 : : 53+ 3<5	縦ヘラミガキ、胴上整形不十分で粘土紐痕著	内外赤彩。内脚を除く	砂粒やや目立つ、堅緻
318-6	119 6002・6004	甕		胴下半欠、8片接合、口縁36%、最大35%残	103+ 200 :174 236+ : : 3<6	頸部上斜めハケ後横ナデ、胴斜めハケ、内頸部上斜めハケ、胴横ナデ、ヘラ先痕残	外褐色、一部黒斑。内暗褐色、口縁一部黒斑	砂粒目立たず、堅緻
318-7	119 1001	鉢		床面から+3cm。9片接合、口縁1カ所欠、57cm83%残	97 214 : 226 : 226 : 270 27<10	結節、下9段結節、横ヘラミガキ、底剥落が激しい。内中心剥落目立つ	内外赤彩。外施紋部以外、底黒色。内上から4cmまで、以下黒色	黄石多
318-8	119 6002	埴		口縁52%、頸部30%残、4片接合	104+ 126 56 :126 : : 3<8	縦ヘラミガキ、器表剥落多い。内横ヘラミガキ	内外赤彩。内脚を除く	やや軟質
318-9	119 6005	甕		底部わずかに上げ底	67 73 62 :73 : 27 3<7	縦ハケ後斜めミガキ。内口縁ミガキ、胴横ヘラ	内外赤彩。外下半スス付着黒色。内脚黄褐色	黄石少ない、軟質
318-10	119 6001・6004	甕		底部欠	190+ 158 :137 :196 : : 3<6	荒い斜めハケ、胴上部斜めヘラケズリ、下横ヘラケズリ。内口縁横ナデ、横ハケ後ヘナデ	内外黒色。外口縁黄褐色、胴一部暗褐色	
319-1	119 6001	甕		203-6001、204?と接合。口縁部	65+ 232 : : : : 3<9	3片接合、1片のみ口縁下の刻み残る	内外赤彩	
321-1	121 6001	鉢		口縁一部欠、以下全周、29片接合	61+ 186 : : : 30+ 3<5	口唇細文、羽状細文、刻み、縦ヘラミガキ。内横ヘラミガキ、ほとんど剥落	内外赤彩。外刻み部分から下、上黄褐色	微石
321-2	121 1004	甕		ポイントのみ。口縁2カ所欠、頸部全周、胴以下欠	123+ 233 :191 221+ : : 3<7	波状口縁、胴上位刻み	外暗褐色から黒褐色、全体にスス付着黒色。内暗赤褐色	微石
321-3	121 6001	甕		下半のみ、底部完、胴部2片のみ	104+ : : 220 : 276 3<13	横ヘラケズリ。内横ナデ	淡褐色から暗褐色、外スス付着黒斑	
322-1	121 6001	高杯		3片接合、口縁11cm25%残	53+ 138 : : 36 : 5<8	縦ヘラケズリ。内胴横ヘラ、胴部粘土紐痕段で残、口縁横ナデ	内外赤彩	
322-2	121 6001	埴		頸部以上	73+ 114 63 : : : 3<7	外縦ヘラケズリ。内ヘラミガキ	内外赤彩	軟質
322-3	121 6001	埴		底部破片	51+ : : 148 : 34底 : 3<7	外赤彩	外赤彩。内黄褐色	軟質
322-4	121 1001	甕		ポイントのみ。胴下半欠、火を受け部分的に脆い	189+ 178 :147 229 : : 3<10	横ナデ、斜めヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラナデ	内外暗黄褐色、胴スス付着黒色	微石多い、全体に堅緻
323-1	121 6001	須恵高台付杯		口縁部破片、口縁5cm残	32+ 130 : : : : 3<6		外暗灰色。内灰色	
323-2	121 6001	高杯		3片接合、口縁13cm残	27+ 142 : : : : 3<6	横ヘラミガキ、口縁下沈線1周	横ヘラミガキ	やや軟質
323-3	121 6001	甕		上半のみ	80+ 170 : : : : 3<11	口縁横ナデ、胴縦ヘラケズリ。内横ヘラミガキ	淡褐色、各所に黒褐色	砂粒細かい
324-1	123 1002	須恵蓋杯		ポイントのみ。完形、口縁1/4残	42 113 : 116 : : 3<7		内外青灰色。外大部分自然黒淡灰緑色から黒灰色	砂粒長径5mm比較的多い
324-2	123 6001	須恵杯		335-6002と接合	32+ 116 : 120 : 34底 3<4		内外暗灰色。外部分的に黒色	砂粒少ない
324-3	123 6001	須恵高台付杯		底部、1/2破片、下厚耗が激しい	27+ : : : : 34 3<12	高台下欠ける	黒灰色	
324-4	123 1006	模範杯		ポイントのみ。完形、口唇若干欠	54 131 : 151 : 34底 3<8	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ヘラナデ	内外赤彩	
324-5	123 1001・6001	模範杯		ポイントのみ。底部中央欠、口縁10.5cm残	53+ 122 : 128 : 34底 3<5	横ナデ、ヘラケズリ	内外赤褐色	小石砂粒目立つ
324-6	123 6001	模範杯		下半欠、器表摩耗、2片接合、口縁27%残	38+ 110 : 58 : : 3<5	横ナデ	内外赤褐色	砂粒混、軟質
324-7	123 6001	高杯		器物現存せず。杯のみ、1/3残、粘土紐痕残	54+ 142 : : : : 3<7	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ヘラナデ	内外赤彩	微砂少ない、砂質、脆い
324-8	123 1001	高杯		ポイントのみ。完形	94 142 : : 34 30 3<6	横ナデ、横ヘラケズリ、脚縦ヘラケズリ、横ナデ。内横ナデ	内外赤彩。内脚も	微石少ない、軟砂質
324-9	123 1007	高杯		ポイントのみ。杯欠	50+ : : : 37 101 3<6	縦ヘラケズリ、横ナデ。内横ヘラケズリ、横ナデ	外赤彩。内黄褐色	褐色粒混、軟砂質
324-10	123 6001	高杯		1片、胴部11カ所のみ	59+ : : : 35 33+ 3<15	縦ヘラケズリ、横横ナデ、胴上部火を受け亀裂入る。内横ヘラケズリ	外赤彩。内暗褐色	
324-11	123 1003	高杯		ポイントのみ。杯欠	50+ : : : 30 34 3<7	縦ヘラケズリ、横ナデ。内横ヘラケズリ、横ナデ	外赤彩。内黄褐色、一部黒斑	微砂若干混、やや軟砂質
324-12	123 6001	高杯		杯欠	41+ : : : 34 36 3<12	横ヘラケズリ	外赤彩混い、火を受け部分的に消えスで黒色。内明褐色、大部分スで黒変	

番号	插图	注記	器形	現状・特徴・備考	高さ・口径・頸径・胴径・端底・厚さ	登形	色調・付着物	胎土・焼成
324-13	123	6001	甕	2片接合、口縁31%残	62+ :176 :140 :176+ : : 3<9	上横ナデ、胴斜めヘラケズリ。内横ナデ、ヘラ先痕、輪積み 痕、口縁腹く剥離	暗褐色	
324-14	123	1008	甕	ポイントのみ。胴以下欠、口縁、頸部全周	80+ :139 :125 :172 : : 5<7	横ナデ、横ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラナデ	内外黄褐色	褐色粒混、やや軟質
324-15	123	6001	甕	口縁破片、口縁3片接合、23%残	31+ :150 :113 : : : 5<6	横ナデ	内外黄褐色	砂粒混、やや硬い
324-16	123	6001	甕	口縁1片、26%残、火を受け変色	38+ :108 :84 :108+ : : 5<8	横ナデ	赤色	砂粒やや目立つ、硬い
324-17	123	6001	台付鉢	遺物現存せず。接合部破片	36+ : : : : : 76	縦ヘラミガキ	脚内、施文部を除き赤彩	
324-18	123	6001	甕	完形、口縁2カ所欠、胴下部欠多い	187 :130 :121 :175 : 42 5<7	口縁横ナデ、胴は縦ヘラケズリと思われるが不明瞭	内外黄褐色。外胸火を受け赤変、スス付着黒色。内部分的に暗褐色	
324-19	123	1005	甕	ポイントのみ。胴以下欠、口縁、頸部全周	131+ :190 :145 :245+ : : 5<10	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラナデ	内外暗黄褐色。外胸赤褐色。内部分的に黒褐色から黒色	微砂少ない混
324-20	123	1001	甕	ポイントのみ。口縁全周、胴一部欠	242 :236 :193 :251 : 57 7<13	横ナデ、縦ヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラナデ	内外黄褐色。外胸スス付着黒色、下暗褐色。内口縁一部黒色	微砂、小石若干混
324-21	123	1005	甕	ポイントのみ。完形、口縁欠多い、胴一部欠	282 :164 :131 :218 : 56 5<7	横ナデ、胴上2/3横ヘラケズリ、下斜めヘラケズリ。内横ナデ、横ヘラナデ	外黄褐色、下半スス付着黒色、全面粘土付着。内暗褐色から暗赤褐色	
327-1	123	6002	須恵高台付杯	底部のみ、1/2弱残	16+ : : : : : 103 3<6	高台とれる	灰色	砂粒やや多く硬い
327-2	123	6001	須恵壺	胴部のみ、5.5cm残	26+ : : : : : 98 : : 3<7	縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ、裾横ナデ	暗灰色	
327-3	123	6001	高杯	脚部	24+ : : : : : 102 : : 3<7	縦ヘラケズリ。内横ヘラケズリ、裾横ナデ	内外暗黄褐色	軟質
327-4	123	6002	盆	完形、口縁わずか	28 :136 :124 :142 : : 150 5<8	ヘラミガキ	内外赤褐色	やや軟質
327-5	123	6002	甕	底部欠、4片接合、口縁1/2弱	122+ :136 :124 :142 : : 3<11	横ナデ、横ヘラケズリ	内外暗褐色、外黒斑	砂粒多い
330-1	122	6003	器台	胴欠、口縁ほぼ全周	22+ :78 : : : : 24 : : 3<6	ヘラケズリ。内横ヘラミガキ	内外赤彩	
330-2	122	6001	甕	底部上げ底	105 :113 :83 :105 : 30 3<6	口縁縦ヘラ後横ナデ、胴上縦ヘラケズリ、下斜めヘラケズリ。内口縁横ナデ、環縦ヘラミガキ、器横ヘラ整形	外黄褐色、下黒色、内赤みのある黄褐色	微石多い混
330-3	122	6001	甕	底部上げ底	82 :99 :80 :96 : 28 2<4	口縁横ナデ、胴横ヘラケズリ後ナデ。内腹食され斑点状に剥落	内外黄褐色。外部分的に暗褐色から黒色	
331-1	124	6001	鉢	底部欠、1/3残	73+ :195 : : : : 3<10	上縄文2段、沈澱、横ヘラミガキ、口縁厚粒微しい。内横ヘラミガキ、器表剥落多い	内外赤彩。外施紋部以外	
331-2	124	6001	甕	壺円1/2強残、底部上げ底	86 :124 : : :134 : : 31 3<8	斜めハケ、口縁横ナデ。内横ヘラナデ、下割落微しい	外暗赤褐色、口縁黒色。内赤彩、剥離的	
331-3	124	6001	高杯	脚のみ、実測部完	69+ :45+ : : : 41 :101 5<5	縦ヘラケズリ	外暗赤褐色、上黒斑、上粘土付着。内赤褐色、部分的に暗褐色	砂粒わずかに目立つ
331-4	124	1001	甕	ポイントのみ。頸部以下欠、口縁全周、亀裂多い	57+ :92 :57 :43+ : : 3<6	縦ヘラケズリ、口縁横ナデ。内縦ヘラミガキ、微しい	内外赤褐色、部分的に黒斑	小石多い、硬い
331-5	124	6001	甕	火を受け脆い、1片、口縁25%残	37+ :86 :78 :84 : : 3<6	頸部以上2/3器表剥落、横ヘラミガキ。内横ヘラミガキ	内外赤彩	
331-6	124	6001	甕	底部上げ底	92 :87 :77 :91 : : 30 3<6	口縁横ハケ、胴縦ハケ後横ヘラケズリ。内ナデ	外赤みのある黄褐色、一部黄褐色。内黄褐色	微石やや多い
331-7	124	6001	甕	二重口縁、1/3残	42+ :180 : : : : 5<9	折返し口縁横ヘラミガキ、下縦ヘラケズリ後横ヘラミガキ。内横ヘラミガキ	内外淡褐色、部分的に黒斑	砂粒少ない、やや軟質
331-8	124	6001	甕	頸部破片、1片、頸部18%残	53+ :142 :132 :180+ : : 3<6	頸部斜めハケ後横ナデ、胴横ハケ後横ナデ。内上横ナデ、胴上横ハケ、下横ナデ、輪積み痕残る	内外淡褐色。外スス付着黒斑	砂粒少、硬い
331-9	124	6001	甕	底部破片、3片接合	57+ : : : :182+ : : 74 7<21	斜めハケ、器表剥落目立つ。内ヘラミガキ	内外淡褐色。外スス付着黒斑	砂粒、小石多い
334-1	125	6001	鉢	13片接合、口縁31.5cm残	89+ :224 : : : : 49 5<11	口縁下に沈澱、口唇から沈澱まで縄文	施文部以外内外赤彩	器表小亀裂、軟質
334-2	125	6001	台付鉢	完形、胴三角形切り抜き焼成前3	144 :161 : : :164 :45 42 3<6	口縁縄文、結節、ヘラミガキ、胴端粘土紐付け刻み。内環ヘラミガキ、脚ナデ	内外赤彩。外施紋部以外、脚部黒みを帯びる、赤褐色。内赤彩上だけ、脚黒褐色	
334-3	125	1004	甕	ポイントのみ。頸部、全周	118+ :130+ :81 :146+ : : 5<7	縦ヘラミガキ、3本一組の結節3段。内横ヘラミガキ、ほとんど剥落	外暗褐色。内赤褐色	微砂若干、軟質

番号	挿図	注記	器形	現状・修復・備考	高さ:口徑:頸徑:胴徑:脚底:厚さ	整形	色調・付着物	胎土・焼成
334-4	125	1002	壺	ボイントのみ。頸部以上欠、4片接合	126+ 64+ 72 137 58 5<9	網状燃り糸4段、下へラミガキ	内外暗褐色。外一部暗赤褐色から黒色。内スス付着	砂粒細かい、硬い
334-5	125	6001	壺	14片接合、底部近く全周	110+ 284 70 4<12	横ナデ	内外暗黄褐色	白砂粒多い、脆い
334-6	125	6001	甕	10片接合、胴部41cm残	149+ 220 176 222 5<7	口縁小波状、頸部段に刻み	内外黄褐色。外二次火熱による黒斑	脆い
334-7	125	6001	甕	16片接合、口縁11cm、胴部34cm残	139+ 234 190 202 5<7	口縁小波状、頸部強い段	内外暗黄褐色	砂粒やや目立ち焼きしまり悪い
334-8	126	6001	甕	底部欠、亀裂多い	193+ 259 205 229 5<6	波状口縁、粘土紐6段、指紋多数残	内外黄褐色	微石多く混、焼き縮まり悪い
334-9	126	6001	甕	完形、口縁一部欠	212 220 197 221 70 7<10	横へう整形、波状口縁、頸部段。内横へう整形、輪載み痕残	内外黄褐色。外二次火熱による黒斑	微石、小石多く混、硬いが脆い
335-1	66	6001	器台	胴部2片接合、端部25%残、穿孔脚3カ所現存	70+ 27 112 3<12	へラミガキ、焼成後外から窪み、2カ所残。内横ナデ	内外赤彩。内腐わずかに	砂粒やや目立つ、普通
337-1	126	1001	壺	床面から0cm。完形、口縁、胴一部欠	388 282 227 418 104		内外暗黄褐色空咳褐色。外胴中位以下スス付着帯状に黒色	
338-1	126	1001	甕	床面から0cm。胴部以下欠、8片接合1/3残	84+ 154 116 186 4<7	外斜めハケ、口縁内横ハケ、胴内横ナデ	外胴暗赤褐色、黒斑、口縁赤褐色。内赤褐色	
338-2	126	1001	壺	ボイントのみ。胴部以下欠、現存部完	103+ 117 90 216+ 5<7	横から縦ハケ、胴横ハケ後縁へラミガキ。内ハケ、頸部接合張り出す	内外赤みのある黄褐色。内やや黒い	
340-1	127	6001	壺	遺物現存せず。頸部以上欠	66+ 122 59 3<12	斜めへラミガキ縦。内横へう整形、底亀裂多い	内外赤彩。内痕跡的、黒斑	微石多く混、堅緻
341-1	127	6002	甕	13片接合、胴部16cm残	163+ 309 5<11	口縁横ナデ、胴縦へラケズリ、器表摩耗	褐色から赤褐色	脆い
342-1	70	6002	須恵広口壺	口縁7.5cm残、自然釉	34+ 216 4<7	口唇自然釉	暗灰色	大粒の砂目立つ脆い
342-2	70	?	鉢	底部完存、折り返し口縁、6.5cm残	88 188 164 5<12	ミガキ後赤彩か、2次火熱で暗黒あれる。内横ナデ後斜めへラミガキ	内外黄褐色	砂粒多く焼きしまり悪い
342-3	70	6002	甕	7片接合、口縁22cm残	84+ 294 5<8	口縁横ナデ、胴斜めへラケズリ	外極褐色から明褐色。内赤褐色	脆い
342-4	70	6001	坏		46+ 120 128 5<11	横へラケズリ、口縁。内横ナデ	内外暗褐色	
342-5	70	6002	壺	頸部以上欠最大1/3残	68+ 121 46 3<12	外横へラミガキ、上結節。内横ナデ	外赤彩	脆い
343-1	127	6001	甕	底部、1/3破片	41+ 180 80 5<10	外縁へラミガキ、下横へラケズリ。内へう先痕残	内外暗黄褐色	小石やや目立つ脆い
344-1	119	1001	高坏	ボイントのみ。完形、口縁一部欠	87 142 30 34 3<6	口縁横ナデ、坏斜めハケ後斜めへラミガキ、胴縦へラミガキ	内外黄褐色から黒色	

表25 中世陶磁器等観察表

No.	出土遺物	産地	器種	時期	口径	最大径	底径	器高	外面の特徴	内面の特徴	依存度	焼成	色調 器面／断面	胎土
1	2号台地整形区画	常滑	壺	10型式・15c後葉	(88)				体部横方向ナテ、頸部横ナテ、若干テリ	体部横方向ナテ・頸部横ナテ	1/4以下	良好	5YR5/6明赤褐/2.5Y4/1黄灰	白色粒多
2	不明	常滑	甕	6a型式・13c中葉					口縁帯下方に未発達	横方向ナテ	1/4以下	不良	10YR10/1褐灰	やや粗白色粒多
3	6号溝	常滑	甕	6b型式以降・13c末～					下方に延びた口縁帯の痕跡あり	横方向ナテ	1/4以下	良	7.5YR3/2黒褐/7.5YR4/1褐灰	小礫・白色粒
4	6号溝	常滑	甕	10型式・15c後葉					横ナテ、口縁帯は上方に突出しない	横方向ナテ	1/4以下	良好	2.5YR3/3暗赤褐/10YR6/1褐灰	白色粒多
5	6号溝	常滑	片口鉢Ⅱ類	65型式・13c末	(191)		(98)	60	縦方向ヘラケズリ、口縁付近テリ	横ナテ・テリ、よく使い込む	1/4以下	良好	2.5YR3/4暗赤褐/7.5YR4/1褐灰	白色粒多
6	2号台地整形区画	常滑	片口鉢Ⅰ類	8型式・14c後葉	(266)		(96)	71	縦方向ヘラケズリ	横ナテ、よく使い込む	1/4以下	良好	2.5YR4/4にぶい赤褐/5B G5/1青灰	白色粒・長石粒
7	6号溝	常滑	片口鉢Ⅰ類	9型式・15c前葉			(281)		縦方向ヘラケズリ後横方向ナテ	摩耗、よく使い込む	1/4以下	不良	5YR5/6明赤褐/10YR5/3にぶい黄褐	小礫・長石流多
8	1号地下式竈	常滑	片口鉢Ⅰ類	9型式・15c前葉					横ナテ、片口部広い	横ナテ	1/4以下	良	5YR4/6赤褐/5B4/1暗青灰	白色粒・長石粒
9	1号地下式竈	常滑	片口鉢Ⅰ類	9型式・15c前葉					縦方向ヘラケズリ	横ナテ、よく使い込む	1/4以下	良	5YR5/6にぶい赤褐/2.5YR6/8橙	少礫・白色粒多
10	不明	常滑	片口鉢Ⅰ類	10型式・15c後葉					縦方向ヘラケズリ後横方向ナテ、口縁付近重ね焼きのテリ	横ナテ、よく使い込む	1/4以下	良	2.5YR3/4暗赤褐/7.5YR4/1褐灰	ハミス粒
11	4号台地整形区画	常滑	片口鉢Ⅰ類	10型式・15c後葉					縦方向ヘラケズリ、片口部広い	横方向ナテ	1/4以下	良	7.5YR4/2灰褐/5YR5/1にぶい赤褐	白色粒多
12	1号地下式竈	常滑	片口鉢Ⅰ類	10型式・15c後葉					縦方向ヘラケズリ、口縁重ね焼きのテリ	横ナテ	1/4以下	良好	2.5YR4/3にぶい赤褐/7.5YR5/1褐灰	白色粒多
13	2号台地整形区画	常滑	片口鉢Ⅰ類	10型式・15c後葉					縦方向ヘラケズリ	横ナテ	1/4以下	良	5YR5/6にぶい赤褐/10YR6/2褐灰	白色粒
14	6号溝	常滑	片口鉢Ⅰ類	10型式・15c後葉					縦方向ヘラケズリ	横ナテ	1/4以下	良	7.5YR3/2黒褐/7.5YR5/1褐灰	ハミス・白色粒
15	6号溝	常滑	片口鉢Ⅰ類	10型式・15c後葉					横ナテ、片口部ほとんど突出しない	横ナテ、使い込む	1/4以下	粗悪	10YR16/4にぶい黄褐/10YR6/3にぶい黄褐	白色粒・長石粒多
16	1号地下式竈	白磁	皿	Ⅳ類・12c前葉	(167)	(171)			回転ヘラケズリ	横ナテ	1/4以下	良好	胎土白・釉5Y8/1灰白	密・硬質
17	不明	南伊勢系土器	鈚釜	15c中葉					表面風化	表面風化	1/4以下	良好	2.5Y8/2灰白	密
18	5号台地整形区画	在地土器	カワラケ	後Ⅳ古並行・15c中葉			67		底部クロクロ左回転糸切り痕無調整	見込横方向ナテ	1/3	良好	7.5YR7/6橙	密・ハミス・酸化鉄粒 少
19	5号台地整形区画	在地土器	カワラケ	後Ⅳ古並行・15c中葉	131	133	61	34	回転ヘラケズリ・底部クロクロ左回転糸切り痕無調整	見込横方向ナテ	3/4以上	良好	10YR7/4にぶい黄褐	ハミス・酸化鉄・砂粒
20	2号台地整形区画	在地土器	カワラケ	後Ⅳ新並行・15c後葉	(101)	(102)	52	24	底部クロクロ左回転糸切り痕無調整	見込横方向ナテ	3/4	良好	7.5YR7/6橙	密・砂粒・酸化鉄粒少
21	2号台地整形区画	在地土器	甕鉢	後Ⅳ新並行・15c後葉					横方向ナテ	横方向ナテ	1/4以下	良	2.5Y5/2暗灰黄/2.5Y7/4浅黄	粗・小礫
22	2号台地整形区画	在地土器	甕鉢	後Ⅳ新並行・15c後葉	(260)	(280)			横方向ナテ	横ナテ、よく使い込む	1/4以下	良好	2.5Y5/1黄灰	粗・小礫
23	2号台地整形区画	在地土器	甕鉢	後Ⅳ新並行・15c後葉					口縁付近横方向ナテ	横方向ナテ	1/4以下	良好	10YR4/1褐灰/7.5YR4/6褐	密・ハミス・酸化鉄粒 少
24	2号台地整形区画	在地土器	甕鉢	大窯1並行・14c末					横方向ナテ	横方向ナテ	1/4以下	良	2.5Y4/1褐灰/2.5Y7/6明黄褐	粗・小礫
25	1号地下式竈	在地土器	内耳鍋	15c					横方向ナテ	横方向ナテ	1/4以下	良	10YR6/6明黄褐/10YR5/4にぶい黄褐	やや粗・ハミス多・小礫少
26	5号台地整形区画	在地土器	内耳鍋	15c					横方向ナテ	横方向ナテ	1/4以下	良	10YR6/6明黄褐/10YR5/6黄褐	粗・ハミス・小礫
27	6号溝	在地土器	内耳鍋	15c					横方向ナテ	横方向ナテ、内耳貼り付け、擦痕無し	1/4以下	良	10YR5/1褐灰/10YR4/4褐	粗・ハミス・小礫
28	6号溝	在地土器	内耳鍋	No.26と同一面体か	(358)	(374)			口縁付近横方向ナテ	横方向ナテ	1/4以下	良	2.5Y6/2灰黄・10YR6/6明黄褐	粗・ハミス・小礫
29	6号溝	在地土器	内耳鍋	15c	249	262	175	(154)	下部縦方向ヘラケズリ後横方向ナテ、体部・頸部境に指頭押圧ナテ	横方向ナテ、内耳貼り付け(推定3カ所)、若干擦レ	1/2	良好	10Y6/2褐灰/2.5Y7/2灰黄	粗・ハミス・砂粒

No.	出土遺構	産地	器種	時期	口径	最大径	底径	器高	外面の特徵	内面の特徴	依存度	焼成	色調 器面/断面	胎土
30	不明	瀬戸・美濃系	口広有耳壺	後Ⅳ・15c中葉～末		101			回転ヘラケズリ・底部ヘラ切り・胎土目痕3カ所・体部の鉄軸垂下	横ナデ	1/4以下	良好	胎土10YR 6/4 にふい黄褐・10YR 7/2 にふい黄褐・10YR 2/1 黒	胎土 密で焼き締まる・長石粒少
31	4号台地影形区画	瀬戸・美濃系	瓶子	後Ⅲ～Ⅳ古・15c前葉～中葉		99			回転ヘラケズリ・体部の鉄軸垂下・底部クロコ左回転糸切り無調整	特殊工具による横押圧ナデ	1/4以下	良好	胎土10YR 8/3 浅黄橙・釉10YR 6/2 オリーブ (光沢あり)	焼き締まる・黒色微細粒
32	2号台地影形区画	瀬戸・美濃系	花瓶	後Ⅳ・15c中葉～末	(105)				横ナデ・鉄軸施軸	横ナデ・口縁部のみ施軸	1/4以下	良好	胎土2.5Y 8/2 灰白・釉7.5Y 5/3 灰オリーブ (光沢あり)	やや粗・白色粒少
33	5号台地影形区画	瀬戸・美濃系	平碗	被熱・後Ⅳ古・15c中葉		(128)	(55)		削り出し高台	灰釉施軸	1/4以下	良好	胎土10YR 7/2 にふい黄橙・釉7.5Y 7/3 浅黄	長石粒少
34	026号住居跡	瀬戸・美濃系	天目茶碗	後Ⅱ・14c末～15c初頭	(127)	108		28	鉄軸施軸	鉄軸施軸	1/4以下	良好	胎土2.5Y 8/3 淡黄・釉7.5YR 3/3 暗褐	やや粗
35	不明	瀬戸・美濃系	緑釉皿	灯明皿に応用・後Ⅳ新・15c後葉	106		49		口縁灰釉施軸・薬付着	口縁灰釉施軸・よく使い込む・薬付着	1/4以下	良好	胎土10YR 8/2 灰白・釉10Y 4/2 オリーブ 灰	やや粗・白色粒
36	2号台地影形区画	瀬戸・美濃系	直縁大皿	後Ⅲ～Ⅳ古・15c前葉～中葉					横ナデ・鉄軸施軸	横ナデ・灰釉施軸	1/4以下	良好	胎土2.5Y 8/4 淡黄・釉2.5Y 7/3 浅黄	やや粗
37	6号溝	瀬戸・美濃系	御目付大皿	後Ⅲ・15c前葉					工具で押圧ナデ・鉄軸施軸	口縁下に突帯貼り付け・横ナデ・鉄軸施軸	1/4以下	良好	胎土2.5Y 7/1 灰白・釉5Y 6/3 オリーブ 黄	焼き締まる
38	3号地下式塀	瀬戸・美濃系	燈類	後Ⅰ～Ⅱ・14c後葉～15c初頭		(145)			回転ヘラケズリ・脚貼り付け	胎土目痕・見込灰釉刷毛塗り	1/4以下	良好	胎土10YR 8/3 浅黄橙・釉2.5Y 8/3 淡黄	密
39	2号台地影形区画	瀬戸・美濃系	燈類	後Ⅲ・15c前葉		(114)			回転ヘラケズリ・脚貼り付け	見込灰釉刷毛塗り	1/4以下	良好	胎土10YR 8/4 浅黄橙・釉2.5Y 8/3 淡黄	密

報告書抄録

ふりがな	いちはらしだいいせきびーちてん
書名	市原市台遺跡B地点
副書名	
巻次	
シリーズ名	市原市国分寺台遺跡調査報告
シリーズ番号	
編著者名	半田堅三
編集機関	財団法人市原市文化財センター
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 TEL0436 (41) 7300
発行年月日	2003年11月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
だいいせきびーちてん 台遺跡B地点	ちばけんいちはらし ねださんちょうめ 千葉県市原市 根田三丁目	12219		35° 30' 5"	140° 6' 40"	19750901 ～ 19760831	12,600m ³	土地区画 整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
台遺跡B地点	集落 墳墓	弥生時代中期	竪穴住居跡 9軒 方形周溝墓 6基 環濠 1条	縄文式土器（早期～晩期） 弥生式土器（中期～後期）	弥生時代中期から古墳時代後期にかけて三角形の台地上全域に広がる700軒を超える大集落の南西部の調査で、東に続く弥生時代中期の環濠、北に広がる中世の遺構群の一部を検出した。 古墳時代の集落は後の上総国分寺を支える基盤となったであろう。 環濠集落と方形周溝墓の関係を知る良好な資料でもある。
		弥生時代後期	竪穴住居跡 108軒	土師器・須恵器（前期～後期）	
		古墳時代前期	竪穴住居跡 43軒 方形周溝墓 3基	中世陶磁器	
		古墳時代中期後葉	竪穴住居跡 43軒	石器（縄文・弥生磨製石斧）	
		古墳時代後期	竪穴住居跡 77軒	石製品（紡錘車・砥石・滑石製模造品など）	
		古代	方墳 3基 区画溝 3条	土製品（土製支脚・管状土錘・丸玉など）	
		中世	台地整形区画 5カ所 地下式墳 5基 溝 10条	鉄製品（鍬・鎌など）	
			竪穴住居跡 4基		
		時期不詳			

上総国分寺台遺跡調査報告Ⅹ
市原市台遺跡B地点（本文編）

平成15年11月12日 印刷

平成15年11月28日 発行

編 集 財団法人 市原市文化財センター

〒200-0011 千葉県市原市能満1489番地

発 行 千葉県市原市教育委員会

〒200-0011 千葉県市原市国分寺台中央1丁目1番地1

印 刷 株式会社エリート印刷 千葉支社

〒286-0045 千葉県成田市並木町44-20